

# 科目一覽

【発行日：2021/4/1】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

【K5111】	日本文学 [池田 雄一] 春学期授業/Spring	1
【K5151】	世界の文学A [橋本 到] 春学期授業/Spring	2
【K5152】	世界の文学B [橋本 到] 秋学期授業/Fall	3
【K5153】	倫理学A [松本 力] 春学期授業/Spring	4
【K5154】	倫理学B [松本 力] 秋学期授業/Fall	5
【K5155】	倫理学A [齋藤 範] 春学期授業/Spring	6
【K5156】	倫理学B [齋藤 範] 秋学期授業/Fall	7
【K5114】	芸術 [坂口 周輔] 春学期授業/Spring	8
【K5115】	芸術 [坂口 周輔] 秋学期授業/Fall	9
【K5157】	文章表現A [池田 雄一] 春学期授業/Spring	10
【K5158】	文章表現B [池田 雄一] 秋学期授業/Fall	11
【K5159】	言語学A [飯野 厚] 春学期授業/Spring	12
【K5160】	言語学B [飯野 厚] 秋学期授業/Fall	12
【K5167】	哲学A [長谷川 悦宏] 春学期授業/Spring	13
【K5168】	哲学B [長谷川 悦宏] 秋学期授業/Fall	13
【K5165】	哲学A [西川 純子] 春学期授業/Spring	14
【K5166】	哲学B [西川 純子] 秋学期授業/Fall	15
【K5169】	論理学A [町田 一] 春学期授業/Spring	16
【K5170】	論理学B [町田 一] 秋学期授業/Fall	16
【K5171】	論理学A [町田 一] 春学期授業/Spring	17
【K5172】	論理学B [町田 一] 秋学期授業/Fall	17
【K5173】	民俗学A [西村 敏也] 春学期授業/Spring	18
【K5174】	民俗学B [西村 敏也] 秋学期授業/Fall	19
【K5175】	民俗学A [西村 敏也] 春学期授業/Spring	20
【K5176】	民俗学B [西村 敏也] 秋学期授業/Fall	21
【K5181】	Japanese Culture A [李 址遠] 春学期授業/Spring	22
【K5182】	Japanese Culture B [李 址遠] 秋学期授業/Fall	22
【K5251】	政治学A [富永 靖敬] 春学期授業/Spring	23
【K5252】	政治学B [富永 靖敬] 秋学期授業/Fall	24
【K5253】	地理学A [朴 宗玄] 春学期授業/Spring	25
【K5254】	地理学B [朴 宗玄] 秋学期授業/Fall	26
【K5257】	文化人類学A [横田 浩一] 春学期授業/Spring	27
【K5258】	文化人類学B [横田 浩一] 秋学期授業/Fall	28
【K5259】	日本史A [古澤 直人] 春学期授業/Spring	29
【K5260】	日本史B [古澤 直人] 秋学期授業/Fall	30
【K5261】	世界史A [太田 啓子] 春学期授業/Spring	31
【K5262】	世界史B [太田 啓子] 秋学期授業/Fall	32
【K5263】	法学A [菅 富美枝] 春学期授業/Spring	33
【K5264】	法学B [菅 富美枝] 秋学期授業/Fall	34
【K5265】	法学A [菅 富美枝] 春学期授業/Spring	35
【K5266】	法学B [菅 富美枝] 秋学期授業/Fall	36
【K5267】	社会学A [松下 峻也] 春学期授業/Spring	37
【K5268】	社会学B [松下 峻也] 秋学期授業/Fall	38
【K5269】	社会学A [松下 峻也] 春学期授業/Spring	39
【K5270】	社会学B [松下 峻也] 秋学期授業/Fall	40
【K5271】	心理学A [松野 響] 春学期授業/Spring	41
【K5272】	心理学B [松野 響] 秋学期授業/Fall	42
【K5273】	心理学A [松野 響] 春学期授業/Spring	43
【K5274】	心理学B [松野 響] 秋学期授業/Fall	44
【K5351】	数学A [佐柄 信純] 春学期授業/Spring	45
【K5352】	数学B [佐柄 信純] 秋学期授業/Fall	46
【K5353】	物理学A [藤田 貢崇] 春学期授業/Spring	47
【K5354】	物理学B [藤田 貢崇] 秋学期授業/Fall	48

【K5355】	物理学A [藤田 貢崇] 春学期授業/Spring	49
【K5356】	物理学B [藤田 貢崇] 秋学期授業/Fall	50
【K5357】	地学A [山川 信之] 春学期授業/Spring	51
【K5358】	地学B [山川 信之] 秋学期授業/Fall	52
【K5359】	化学A [山崎 友紀] 春学期授業/Spring	53
【K5360】	化学B [山崎 友紀] 秋学期授業/Fall	54
【K5361】	生物学A [岡部 雅史] 春学期授業/Spring	55
【K5362】	生物学B [岡部 雅史] 秋学期授業/Fall	56
【K5363】	科学史A [河野 俊哉] 春学期授業/Spring	57
【K5364】	科学史B [河野 俊哉] 秋学期授業/Fall	57
【K5582】	自然科学特講 [藤田 貢崇、松野 響] 春学期授業/Spring	58
【K5365】	Basic Science for Global Environment A [山崎 友紀] 春学期授業/Spring	59
【K5366】	Basic Science for Global Environment B [山崎 友紀] 秋学期授業/Fall	60
【K5587】	English Communication IA [MARILYN H OBOGNE] 春学期授業/Spring	61
【K5588】	English Communication IB [MARILYN H OBOGNE] 秋学期授業/Fall	62
【K5583】	English Communication IA [中塚 芽依] 春学期授業/Spring	63
【K5584】	English Communication IB [中塚 芽依] 秋学期授業/Fall	64
【K5585】	English Communication IA [MARK OSELAND] 春学期授業/Spring	65
【K5586】	English Communication IB [MARK OSELAND] 秋学期授業/Fall	66
【K5589】	English Communication I A [Kregg Johnston] 春学期授業/Spring	67
【K5590】	English Communication I B [Kregg Johnston] 秋学期授業/Fall	68
【K5593】	English Communication IIA [MARK OSELAND] 春学期授業/Spring	70
【K5594】	English Communication IIB [MARK OSELAND] 秋学期授業/Fall	71
【K5591】	English Communication IIA [リチャード エバノフ] 春学期授業/Spring	72
【K5592】	English Communication IIB [リチャード エバノフ] 秋学期授業/Fall	73
【K5595】	English Communication IIIA [リチャード エバノフ] 春学期授業/Spring	74
【K5596】	English Communication IIIB [リチャード エバノフ] 秋学期授業/Fall	75
【K5597】	ドイツ語コミュニケーション IA [北岡 幸代] 春学期授業/Spring	76
【K5598】	ドイツ語コミュニケーション IB [北岡 幸代] 秋学期授業/Fall	77
【K5599】	ドイツ語コミュニケーション IIA [栗田 くり菜] 春学期授業/Spring	77
【K5600】	ドイツ語コミュニケーション IIB [栗田 くり菜] 秋学期授業/Fall	78
【K5601】	フランス語コミュニケーション A [余語 毅憲] 春学期授業/Spring	79
【K5602】	フランス語コミュニケーション B [余語 毅憲] 秋学期授業/Fall	80
【K5603】	資格をめざすフランス語 A [小室 廉太] 春学期授業/Spring	80
【K5604】	資格をめざすフランス語 B [小室 廉太] 秋学期授業/Fall	81
【K5609】	スペイン語コミュニケーション IA [マリア ドローレス] 春学期授業/Spring	82
【K5610】	スペイン語コミュニケーション IB [マリア ドローレス] 秋学期授業/Fall	83
【K5611】	スペイン語コミュニケーション IIA [YENG A J FERNANDO] 春学期授業/Spring	84
【K5612】	スペイン語コミュニケーション IIB [YENG A J FERNANDO] 秋学期授業/Fall	85
【K5605】	中国語コミュニケーション IA [将邑 劍平] 春学期授業/Spring	86
【K5606】	中国語コミュニケーション IB [将邑 劍平] 秋学期授業/Fall	87
【K5607】	中国語コミュニケーション IIA [張 欣] 春学期授業/Spring	88
【K5608】	中国語コミュニケーション IIB [張 欣] 秋学期授業/Fall	89
【K5613】	総合講座Ⅰ [藤田 貢崇、KALENGA N JOHN、富永 靖敬] 春学期授業/Spring	90
【K5614】	総合講座Ⅱ [藤田 貢崇、山崎 友紀] 秋学期授業/Fall	91
【K6601】	経済学入門A [菅原 琢磨] 春学期授業/Spring	92
【K6602】	経済学入門B [菅原 琢磨] 秋学期授業/Fall	93
【K6605】	経済学入門A [酒井 正] 春学期授業/Spring	94
【K6606】	経済学入門B [酒井 正] 秋学期授業/Fall	95
【K6603】	経済学入門A [菊地 和也] 春学期授業/Spring	96
【K6604】	経済学入門B [菊地 和也] 秋学期授業/Fall	96
【K6607】	社会経済学基礎A [大友 敏明] 春学期授業/Spring	97
【K6608】	社会経済学基礎B [大友 敏明] 秋学期授業/Fall	98
【K6609】	社会経済学基礎A [大友 敏明] 春学期授業/Spring	99
【K6610】	社会経済学基礎B [大友 敏明] 秋学期授業/Fall	100
【K6611】	社会経済学基礎A [原 伸子] 春学期授業/Spring	101
【K6612】	社会経済学基礎B [原 伸子] 秋学期授業/Fall	102

【K6613】	社会経済学基礎 A [原 伸子] 春学期授業/Spring	103
【K6614】	社会経済学基礎 B [原 伸子] 秋学期授業/Fall	104
【K6615】	現代経済学基礎 A [檜野 智子] 春学期授業/Spring	105
【K6616】	現代経済学基礎 B [檜野 智子] 秋学期授業/Fall	105
【K6617】	現代経済学基礎 A [平瀬 友樹] 春学期授業/Spring	106
【K6618】	現代経済学基礎 B [平瀬 友樹] 秋学期授業/Fall	107
【K6621】	経済史 A [牧野 文夫] 春学期授業/Spring	108
【K6622】	経済史 B [牧野 文夫] 秋学期授業/Fall	109
【K6623】	経済史 A [長原 豊] 春学期授業/Spring	110
【K6624】	経済史 B [長原 豊] 秋学期授業/Fall	112
【K6625】	統計学 A [菅 幹雄] 春学期授業/Spring	113
【K6626】	統計学 B [阿部 俊弘] 秋学期授業/Fall	114
【K6627】	統計学 A [菅 幹雄] 春学期授業/Spring	115
【K6628】	統計学 B [阿部 俊弘] 秋学期授業/Fall	116
【K6629】	コンピューター入門 A [新村 隆英] 春学期授業/Spring	117
【K6630】	コンピューター入門 B [新村 隆英] 秋学期授業/Fall	118
【K6631】	コンピューター入門 A [齊藤 典明] 春学期授業/Spring	119
【K6632】	コンピューター入門 B [齊藤 典明] 秋学期授業/Fall	120
【K6633】	コンピューター入門 A [齊藤 典明] 春学期授業/Spring	121
【K6634】	コンピューター入門 B [齊藤 典明] 秋学期授業/Fall	122
【K6635】	コンピューター入門 A [安藤 富貴子] 春学期授業/Spring	123
【K6636】	コンピューター入門 B [安藤 富貴子] 秋学期授業/Fall	124
【K6637】	コンピューター入門 A [安藤 富貴子] 春学期授業/Spring	125
【K6638】	コンピューター入門 B [安藤 富貴子] 秋学期授業/Fall	126
【K6639】	コンピューター入門 A [安藤 富貴子] 春学期授業/Spring	127
【K6640】	コンピューター入門 B [安藤 富貴子] 秋学期授業/Fall	128
【K6641】	コンピューター入門 A [安藤 富貴子] 春学期授業/Spring	129
【K6642】	コンピューター入門 B [安藤 富貴子] 秋学期授業/Fall	130
【K6643】	コンピューター入門 A [安藤 富貴子] 春学期授業/Spring	131
【K6644】	コンピューター入門 B [安藤 富貴子] 秋学期授業/Fall	132
【K6645】	コンピューター入門 A [近藤 佐保子] 春学期授業/Spring	133
【K6646】	コンピューター入門 B [近藤 佐保子] 秋学期授業/Fall	134
【K6647】	コンピューター入門 A [近藤 佐保子] 春学期授業/Spring	135
【K6648】	コンピューター入門 B [近藤 佐保子] 秋学期授業/Fall	136
【K6649】	コンピューター入門 A [近藤 佐保子] 春学期授業/Spring	137
【K6650】	コンピューター入門 B [近藤 佐保子] 秋学期授業/Fall	138
【K6651】	コンピューター入門 A [小沢 和浩] 春学期授業/Spring	139
【K6652】	コンピューター入門 B [小沢 和浩] 秋学期授業/Fall	140
【K6653】	コンピューター入門 A [宮脇 典彦] 春学期授業/Spring	141
【K6654】	コンピューター入門 B [宮脇 典彦] 秋学期授業/Fall	142
【K6655】	コンピューター入門 A [坂部 創一] 春学期授業/Spring	143
【K6656】	コンピューター入門 B [坂部 創一] 秋学期授業/Fall	144
【K6657】	コンピューター入門 A [坂部 創一] 春学期授業/Spring	145
【K6658】	コンピューター入門 B [坂部 創一] 秋学期授業/Fall	146
【K6659】	コンピューター入門 A [堀 亜砂実] 春学期授業/Spring	147
【K6660】	コンピューター入門 B [堀 亜砂実] 秋学期授業/Fall	148
【K6661】	コンピューター入門 A [堀 亜砂実] 春学期授業/Spring	149
【K6662】	コンピューター入門 B [堀 亜砂実] 秋学期授業/Fall	150
【K6663】	コンピューター入門 A [新村 隆英] 春学期授業/Spring	151
【K6664】	コンピューター入門 B [新村 隆英] 秋学期授業/Fall	152
【K6665】	コンピューター入門 A [新村 隆英] 春学期授業/Spring	153
【K6666】	コンピューター入門 B [新村 隆英] 秋学期授業/Fall	154
【K6671】	ビジネス数学入門 A [明城 聡] 春学期授業/Spring	155
【K6672】	ビジネス数学入門 B [明城 聡] 秋学期授業/Fall	156
【K6673】	英語で学ぶ経済学入門 A [八木橋 毅司] 春学期授業/Spring	157
【K6674】	英語で学ぶ経済学入門 B [八木橋 毅司] 秋学期授業/Fall	158
【K6675】	英語で学ぶ経済学入門 A [武智 一貴] 春学期授業/Spring	159

【K6676】	英語で学ぶ経済学入門 B [武智 一貴] 秋学期授業/Fall	160
【K6677】	データで知る世界経済 A [馬場 敏幸] 春学期授業/Spring	161
【K6678】	データで知る世界経済 B [馬場 敏幸] 秋学期授業/Fall	162
【K6679】	Japan and the Global Economy A [倪 彬] 春学期授業/Spring	163
【K6680】	Japan and the Global Economy B [倪 彬] 秋学期授業/Fall	164
【K6681】	Practical Economics A [JESS DIAMO N D] 春学期授業/Spring	165
【K6682】	Practical Economics B [JESS DIAMO N D] 秋学期授業/Fall	166
【K6683】	企業と経済・基礎 A [河村 真] 春学期授業/Spring	167
【K6684】	企業と経済・基礎 B [鈴木 豊] 秋学期授業/Fall	168
【K6687】	簿記 I A [岸 牧人] 春学期授業/Spring	169
【K6688】	簿記 I B [岸 牧人] 秋学期授業/Fall	170
【K6685】	簿記 I A [石田 惣平] 春学期授業/Spring	171
【K6686】	簿記 I B [石田 惣平] 秋学期授業/Fall	172
【K6691】	簿記 I A [梅津 亮子] 春学期授業/Spring	173
【K6692】	簿記 I B [梅津 亮子] 秋学期授業/Fall	174
【K6689】	簿記 I A [田中 優希] 春学期授業/Spring	174
【K6690】	簿記 I B [田中 優希] 秋学期授業/Fall	175
【K6693】	企業経営入門 A [川邊 安彦] 春学期授業/Spring	176
【K6694】	企業経営入門 B [川邊 安彦] 秋学期授業/Fall	177
【K6102】	企業と経済・応用 A [鈴木 豊] 春学期授業/Spring	178
【K6103】	企業と経済・応用 B [河村 真] 秋学期授業/Fall	179
【K6046】	社会経済学応用 A [原 伸子] 春学期授業/Spring	180
【K6048】	社会経済学応用 B [原 伸子] 秋学期授業/Fall	181
【K6047】	社会経済学応用 A [原 伸子] 春学期授業/Spring	182
【K6049】	社会経済学応用 B [原 伸子] 秋学期授業/Fall	183
【K6343】	マクロ経済学 A [森田 裕史] 春学期授業/Spring	184
【K6344】	マクロ経済学 B [森田 裕史] 秋学期授業/Fall	185
【K6337】	マクロ経済学 A [檜野 智子] 春学期授業/Spring	186
【K6338】	マクロ経済学 B [檜野 智子] 秋学期授業/Fall	187
【K6339】	ミクロ経済学 A [篠原 隆介] 春学期授業/Spring	188
【K6340】	ミクロ経済学 B [篠原 隆介] 秋学期授業/Fall	189
【K6345】	ミクロ経済学 A [平井 俊行] 春学期授業/Spring	190
【K6346】	ミクロ経済学 B [平井 俊行] 秋学期授業/Fall	191
【K6062】	財政学 A [小林 克也] 春学期授業/Spring	191
【K6064】	財政学 B [小林 克也] 秋学期授業/Fall	192
【K6063】	財政学 A [天利 浩] 春学期授業/Spring	193
【K6065】	財政学 B [天利 浩] 秋学期授業/Fall	194
【K6066】	金融論 A [武田 浩一] 春学期授業/Spring	195
【K6068】	金融論 B [武田 浩一] 秋学期授業/Fall	196
【K6067】	金融論 A [鈴木 誠] 春学期授業/Spring	197
【K6069】	金融論 B [高橋 秀朋] 秋学期授業/Fall	198
【K6058】	国際経済論 A [武智 一貴] 春学期授業/Spring	199
【K6060】	国際経済論 B [武智 一貴] 秋学期授業/Fall	200
【K6059】	国際経済論 A [田村 晶子] 春学期授業/Spring	201
【K6061】	国際経済論 B [田村 晶子] 秋学期授業/Fall	202
【K6154】	環境経済論 A [松波 淳也] 春学期授業/Spring	202
【K6156】	環境経済論 B [松波 淳也] 秋学期授業/Fall	203
【K6155】	環境経済論 A [松波 淳也] 春学期授業/Spring	204
【K6157】	環境経済論 B [松波 淳也] 秋学期授業/Fall	205
【K6054】	日本経済論 A [小黒 一正] 春学期授業/Spring	206
【K6056】	日本経済論 B [小黒 一正] 秋学期授業/Fall	207
【K6055】	日本経済論 A [牧野 文夫] 春学期授業/Spring	208
【K6057】	日本経済論 B [牧野 文夫] 秋学期授業/Fall	209
【K6072】	ビジネスプログラミング入門 A [坂本 憲昭] 春学期授業/Spring	210
【K6080】	ビジネスプログラミング入門 B [坂本 憲昭] 秋学期授業/Fall	211
【K6073】	ビジネスプログラミング入門 A [坂本 憲昭] 春学期授業/Spring	212
【K6081】	ビジネスプログラミング入門 B [坂本 憲昭] 秋学期授業/Fall	213

【K6074】	ビジネスプログラミング入門A [高橋 朋一]	春学期授業/Spring	214
【K6082】	ビジネスプログラミング入門B [高橋 朋一]	秋学期授業/Fall	215
【K6075】	ビジネスプログラミング入門A [高橋 朋一]	春学期授業/Spring	216
【K6083】	ビジネスプログラミング入門B [高橋 朋一]	秋学期授業/Fall	217
【K6076】	ビジネスプログラミング入門A [金子 聡]	春学期授業/Spring	218
【K6084】	ビジネスプログラミング入門B [金子 聡]	秋学期授業/Fall	219
【K6077】	ビジネスプログラミング入門A [金子 聡]	春学期授業/Spring	220
【K6085】	ビジネスプログラミング入門B [金子 聡]	秋学期授業/Fall	221
【K6078】	ビジネスプログラミング入門A [金子 聡]	春学期授業/Spring	222
【K6086】	ビジネスプログラミング入門B [金子 聡]	秋学期授業/Fall	223
【K6079】	ビジネスプログラミング入門A [金子 聡]	春学期授業/Spring	224
【K6087】	ビジネスプログラミング入門B [金子 聡]	秋学期授業/Fall	225
【K6150】	国際関係論A [富永 靖敬]	春学期授業/Spring	226
【K6151】	国際関係論B [富永 靖敬]	秋学期授業/Fall	227
【K6152】	経済人類学A [河野 正治]	春学期授業/Spring	228
【K6153】	経済人類学B [河野 正治]	秋学期授業/Fall	229
【K6733】	Academic Research Seminar A [飯野 厚]	春学期授業/Spring	230
【K6734】	Academic Research Seminar B [飯野 厚]	秋学期授業/Fall	231
【K6739】	Academic Research Seminar A [山崎 達朗]	春学期授業/Spring	232
【K6740】	Academic Research Seminar B [山崎 達朗]	秋学期授業/Fall	233
【K6735】	Academic Research Seminar A [寺内 正典]	春学期授業/Spring	233
【K6736】	Academic Research Seminar B [寺内 正典]	秋学期授業/Fall	234
【K6180】	ドイツ語セミナーA [新田 誠吾]	春学期授業/Spring	235
【K6181】	ドイツ語セミナーB [新田 誠吾]	秋学期授業/Fall	236
【K6183】	フランス語セミナーA [橋本 到]	春学期授業/Spring	237
【K6182】	フランス語セミナーB [橋本 到]	秋学期授業/Fall	238
【K6184】	ロシア語セミナーA [佐藤 裕子]	春学期授業/Spring	239
【K6185】	ロシア語セミナーB [佐藤 裕子]	秋学期授業/Fall	240
【K6186】	中国語セミナーA [石 碩]	春学期授業/Spring	241
【K6187】	中国語セミナーB [石 碩]	秋学期授業/Fall	242
【K6188】	スペイン語セミナーA [芝田 幸一郎]	春学期授業/Spring	243
【K6189】	スペイン語セミナーB [芝田 幸一郎]	秋学期授業/Fall	243
【K6235】	労働経済論A [酒井 正]	春学期授業/Spring	244
【K6236】	労働経済論B [酒井 正]	秋学期授業/Fall	245
【K6229】	経済政策論A [濱秋 純哉]	春学期授業/Spring	246
【K6230】	経済政策論B [濱秋 純哉]	秋学期授業/Fall	246
【K6221】	公共経済論A [篠原 隆介]	春学期授業/Spring	247
【K6222】	公共経済論B [篠原 隆介]	秋学期授業/Fall	248
【K6747】	DemographyA [菅 幹雄]	春学期授業/Spring	249
【K6748】	DemographyB [菅 幹雄]	秋学期授業/Fall	250
【K6148】	開発経済論A [池上 宗信]	春学期授業/Spring	251
【K6149】	開発経済論B [池上 宗信]	秋学期授業/Fall	252
【K6203】	開発経済入門A [池上 宗信]	春学期授業/Spring	253
【K6204】	開発経済入門B [池上 宗信]	秋学期授業/Fall	254
【K6219】	経済学史A [平瀬 友樹]	春学期授業/Spring	255
【K6220】	経済学史B [平瀬 友樹]	秋学期授業/Fall	256
【K6160】	経済地理A [近藤 章夫]	春学期授業/Spring	257
【K6161】	経済地理B [近藤 章夫]	秋学期授業/Fall	258
【K6070】	経済の数理A [佐柄 信純]	春学期授業/Spring	259
【K6071】	経済の数理B [佐柄 信純]	秋学期授業/Fall	260
【K6205】	データ解析入門A [宮脇 典彦]	春学期授業/Spring	261
【K6206】	データ解析入門B [宮脇 典彦]	秋学期授業/Fall	261
【K6162】	アメリカ経済論A [下斗米 秀之]	春学期授業/Spring	262
【K6163】	アメリカ経済論B [下斗米 秀之]	秋学期授業/Fall	263
【K6164】	ヨーロッパ経済論A [伊東 林蔵]	春学期授業/Spring	264
【K6165】	ヨーロッパ経済論B [伊東 林蔵]	秋学期授業/Fall	265
【K6166】	現代アジア経済論A [馬場 敏幸]	春学期授業/Spring	266

【K6167】	現代アジア経済論B [馬場 敏幸] 秋学期授業/Fall	267
【K6168】	中国経済論A [馬 欣欣] 春学期授業/Spring	268
【K6169】	中国経済論B [馬 欣欣] 秋学期授業/Fall	269
【K6312】	世界の文化と思想A [新田 誠吾] 春学期授業/Spring	270
【K6313】	世界の文化と思想B [新田 誠吾] 秋学期授業/Fall	271
【K6209】	環境科学A [岡部 雅史] 春学期授業/Spring	272
【K6210】	環境科学B [岡部 雅史] 秋学期授業/Fall	273
【K6108】	現代ファイナンス入門A [湯前 祥二] 春学期授業/Spring	274
【K6109】	現代ファイナンス入門B [湯前 祥二] 秋学期授業/Fall	275
【K6697】	Business Communication I A [GLENN FERN] 春学期授業/Spring	276
【K6698】	Business Communication I B [GLENN FERN] 秋学期授業/Fall	277
【K6695】	Business Communication I A [GLENN FERN] 春学期授業/Spring	279
【K6696】	Business Communication I B [GLENN FERN] 秋学期授業/Fall	281
【K6764】	Business Communication IA [リチャード エバノフ] 春学期授業/Spring	283
【K6765】	Business Communication IB [リチャード エバノフ] 秋学期授業/Fall	284
【K6122】	経済データ分析A [明城 聡] 春学期授業/Spring	285
【K6123】	経済データ分析B [明城 聡] 秋学期授業/Fall	286
【K6124】	経済地理 [近藤 章夫] 春学期授業/Spring	287
【K6125】	産業集積論 [近藤 章夫] 秋学期授業/Fall	288
【K6751】	会計学入門A [石田 惣平] 春学期授業/Spring	289
【K6752】	会計学入門B [石田 惣平] 秋学期授業/Fall	290
【K6749】	原価計算A [梅津 亮子] 春学期授業/Spring	291
【K6750】	原価計算B [梅津 亮子] 秋学期授業/Fall	291
【K6128】	コーポレートガバナンス論A [胥 鵬] 春学期授業/Spring	292
【K6129】	コーポレートガバナンス論B [胥 鵬] 秋学期授業/Fall	293
【K6140】	企業実務研究A [武田 浩一] 春学期授業/Spring	294
【K6141】	企業実務研究B [武田 浩一] 秋学期授業/Fall	295
【K6341】	現代経済学応用A [八木橋 毅司] 春学期授業/Spring	296
【K6342】	現代経済学応用B [八木橋 毅司] 秋学期授業/Fall	297
【K6225】	日本経済史A [長原 豊] 春学期授業/Spring	298
【K6226】	日本経済史B [長原 豊] 秋学期授業/Fall	300
【K6227】	社会経済思想史A [後藤 浩子] 春学期授業/Spring	301
【K6228】	社会経済思想史B [後藤 浩子] 秋学期授業/Fall	302
【K6231】	農業経済論A [西澤 栄一郎] 春学期授業/Spring	303
【K6232】	農業経済論B [西澤 栄一郎] 秋学期授業/Fall	304
【K6233】	社会政策論A [菅原 琢磨] 春学期授業/Spring	304
【K6234】	社会政策論B [菅原 琢磨] 秋学期授業/Fall	305
【K6243】	社会保障論A [小黑 一正] 春学期授業/Spring	306
【K6244】	社会保障論B [小黑 一正] 秋学期授業/Fall	307
【K6237】	金融各論I A [高橋 秀朋] 秋学期授業/Fall	308
【K6238】	金融各論I B [高橋 秀朋] 秋学期授業/Fall	309
【K6200】	政治過程論 [岡崎 加奈子] 秋学期授業/Fall	310
【K6201】	国際政治論 [曹 海石] 秋学期授業/Fall	311
【K6194】	経済統計論A [菅 幹雄] 春学期授業/Spring	312
【K6195】	経済統計論B [菅 幹雄] 秋学期授業/Fall	313
【K6239】	情報経済論A [鈴木 豊] 春学期授業/Spring	314
【K6240】	情報経済論B [鈴木 豊] 秋学期授業/Fall	315
【K6741】	世界経済史A [杉浦 未樹] 春学期授業/Spring	316
【K6742】	世界経済史B [杉浦 未樹] 秋学期授業/Fall	317
【K6241】	地方財政論A [小林 克也] 春学期授業/Spring	318
【K6242】	地方財政論B [小林 克也] 秋学期授業/Fall	319
【K6245】	産業組織論A [河村 真] 春学期授業/Spring	320
【K6246】	産業組織論B [河村 真] 秋学期授業/Fall	321
【K6247】	金融各論II A [武田 浩一] 春学期授業/Spring	322
【K6144】	金融ビジネス論A [武田 浩一] 春学期授業/Spring	323
【K6249】	金融各論II B [武田 浩一] 秋学期授業/Fall	324
【K6146】	金融ビジネス論B [武田 浩一] 秋学期授業/Fall	325

【K6251】	企業金融論A [胥 鵬] 春学期授業/Spring	326
【K6252】	企業金融論B [胥 鵬] 秋学期授業/Fall	327
【K6268】	国際金融論A [ブー トウン カイ] 春学期授業/Spring	328
【K6269】	国際金融論B [ブー トウン カイ] 秋学期授業/Fall	329
【K6094】	計量経済学A [宮崎 憲治] 春学期授業/Spring	330
【K6095】	計量経済学B [宮崎 憲治] 秋学期授業/Fall	331
【K6253】	数理統計学A [宮脇 典彦] 春学期授業/Spring	332
【K6254】	数理統計学B [宮脇 典彦] 秋学期授業/Fall	333
【K6703】	コンピューター科学A [小沢 和浩] 春学期授業/Spring	333
【K6704】	コンピューター科学B [小沢 和浩] 秋学期授業/Fall	334
【K6190】	現代社会と情報A [坂本 憲昭] 春学期授業/Spring	335
【K6191】	現代社会と情報B [菅 幹雄] 秋学期授業/Fall	336
【K6727】	Business Research Seminar A [中谷 安男] 春学期授業/Spring	337
【K6728】	Business Research Seminar B [中谷 安男] 秋学期授業/Fall	338
【K6202】	日本思想史 [古澤 直人] 春学期授業/Spring	339
【K6214】	日本文化史 [古澤 直人] 秋学期授業/Fall	340
【K6196】	日本文化論 [池田 雄一] 秋学期授業/Fall	341
【K6314】	地球環境論A [山崎 友紀] 春学期授業/Spring	342
【K6315】	地球環境論B [山崎 友紀] 秋学期授業/Fall	343
【K6223】	環境政策論A [西澤 栄一郎] 春学期授業/Spring	344
【K6224】	環境政策論B [西澤 栄一郎] 秋学期授業/Fall	345
【K6757】	スポーツ経済論 [杉本 龍勇] 春学期授業/Spring	345
【K6743】	国際投資論A [経済未決定] 春学期授業/Spring	346
【K6744】	国際投資論B [経済未決定] 秋学期授業/Fall	347
【K6326】	国際貿易論A [武智 一貴] 春学期授業/Spring	347
【K6327】	国際貿易論B [武智 一貴] 秋学期授業/Fall	348
【K6270】	企業経済論A [砂田 充] 春学期授業/Spring	349
【K6271】	企業経済論B [砂田 充] 秋学期授業/Fall	350
【K6721】	Principles of Economics A [JESS DIAMO N D] 春学期授業/Spring	351
【K6722】	Principles of Economics B [JESS DIAMO N D] 秋学期授業/Fall	352
【K6723】	International Economics A [倪 彬] 春学期授業/Spring	353
【K6724】	International Economics B [倪 彬] 秋学期授業/Fall	354
【K6725】	Area Studies A [馬 欣欣] 春学期授業/Spring	355
【K6726】	Area Studies B [馬 欣欣] 秋学期授業/Fall	356
【K6731】	地域経済論A [川邊 安彦] 春学期授業/Spring	357
【K6732】	地域経済論B [川邊 安彦] 秋学期授業/Fall	358
【K6729】	簿記ⅡA [岸 牧人] 春学期授業/Spring	359
【K6730】	簿記ⅡB [岸 牧人] 秋学期授業/Fall	360
【K6770】	Japan and ASEAN Economy A [MANISH SHARMA] 春学期授業/Spring	361
【K6771】	Japan and ASEAN Economy B [MANISH SHARMA] 秋学期授業/Fall	362
【K6772】	Japanese Business and Economy A [MANISH SHARMA] 春学期授業/Spring	363
【K6773】	Japanese Business and Economy B [MANISH SHARMA] 秋学期授業/Fall	365
【K6745】	財務諸表論A [石田 惣平] 春学期授業/Spring	366
【K6746】	財務諸表論B [石田 惣平] 秋学期授業/Fall	367
【K6755】	管理会計A [梅津 亮子] 春学期授業/Spring	368
【K6756】	管理会計B [梅津 亮子] 秋学期授業/Fall	369
【K6699】	Business Communication ⅡA [YONGUE JULIA SALLE] 春学期授業/Spring	369
【K6700】	Business Communication ⅡB [YONGUE JULIA SALLE] 秋学期授業/Fall	371
【K6332】	監査論A [岸 牧人] 春学期授業/Spring	372
【K6333】	監査論B [岸 牧人] 秋学期授業/Fall	373
【K6130】	リスク・マネジメントA [湯前 祥二] 春学期授業/Spring	374
【K6131】	リスク・マネジメントB [湯前 祥二] 秋学期授業/Fall	375
【K6132】	企業経営史A [飯塚 陽介] 春学期授業/Spring	376
【K6133】	企業経営史B [飯塚 陽介] 秋学期授業/Fall	377
【K6142】	国際会計制度A [田中 優希] 春学期授業/Spring	378
【K6143】	国際会計制度B [田中 優希] 秋学期授業/Fall	379
【K6136】	企業経営論A [川邊 安彦] 春学期授業/Spring	380

【K6137】	企業経営論B [川邊 安彦] 秋学期授業/Fall	381
【K6719】	経営学 A [砂田 充] 春学期授業/Spring	382
【K6720】	経営学 B [砂田 充] 秋学期授業/Fall	383
【K6572】	寄付講座 わが国金融の現状と課題 [寄付講座担当教員] 秋学期授業/Fall	384
【K6575】	特別講義 (ビジネス日本語 A) [李 址遠] 春学期授業/Spring	385
【K6576】	特別講義 (ビジネス日本語 B) [李 址遠] 秋学期授業/Fall	386
【K6501】	特別講義 (寄付講座 証券市場論) [大和証券 (株)] 春学期授業/Spring	386
【K6705】	日本国憲法 A [川鍋 健] 春学期授業/Spring	387
【K6706】	日本国憲法 B [川鍋 健] 秋学期授業/Fall	388
【K6707】	民法一部 A [菅 富美枝] 春学期授業/Spring	389
【K6708】	民法一部 B [菅 富美枝] 秋学期授業/Fall	390
【K6709】	民法二部 A [菅 富美枝] 春学期授業/Spring	391
【K6710】	民法二部 B [菅 富美枝] 秋学期授業/Fall	392
【K6711】	商法一部 A [笹久保 徹] 春学期授業/Spring	393
【K6712】	商法一部 B [笹久保 徹] 秋学期授業/Fall	394
【K6713】	商法二部 A [笹久保 徹] 春学期授業/Spring	394
【K6714】	商法二部 B [笹久保 徹] 秋学期授業/Fall	395
【K6715】	経済法 A [山田 務] 春学期授業/Spring	395
【K6716】	経済法 B [山田 務] 秋学期授業/Fall	396
【K6717】	労働法 A [藤木 貴史] 春学期授業/Spring	397
【K6718】	労働法 B [藤木 貴史] 秋学期授業/Fall	398
【K6347】	財政学 A (市ヶ谷開講) [島澤 諭] 春学期授業/Spring	399
【K6348】	財政学 B (市ヶ谷開講) [島澤 諭] 春学期授業/Spring	400
【K6349】	経済政策論 A (市ヶ谷開講) [濱秋 純哉] 春学期授業/Spring	401
【K6350】	経済政策論 B (市ヶ谷開講) [濱秋 純哉] 秋学期授業/Fall	402
【K6351】	国際経済論 A (市ヶ谷開講) [田村 晶子] 春学期授業/Spring	402
【K6352】	国際経済論 B (市ヶ谷開講) [田村 晶子] 秋学期授業/Fall	403
【K5163】	現代史 A [経済未決定] 春学期授業/Spring	403
【K5164】	現代史 B [経済未決定] 秋学期授業/Fall	404
【K5581】	多摩地域形成論 [経済未決定] 秋学期授業/Fall	405
【K8501】	キャリアデザイン論 [大八木 智一] 春学期授業/Spring	406
【K8502】	キャリアデザイン論 [大八木 智一] 春学期授業/Spring	407
【K5161】	現代社会と宗教 A [経済未決定] 春学期授業/Spring	408
【K6758】	ドイツ語中級 A [経済未決定] 春学期授業/Spring	409
【K6759】	ドイツ語中級 B [経済未決定] 秋学期授業/Fall	410
【K6760】	ドイツ語上級 I A [経済未決定] 春学期授業/Spring	410
【K6761】	ドイツ語上級 I B [経済未決定] 秋学期授業/Fall	411
【K6762】	ドイツ語上級 II A [経済未決定] 春学期授業/Spring	411
【K6763】	ドイツ語上級 II B [経済未決定] 秋学期授業/Fall	412
【K6776】	特別講義 (ビジネス日本語) [村上 佳恵] 春学期授業/Spring	412
【K6777】	特別講義 (ビジネス日本語) [村上 佳恵] 秋学期授業/Fall	413

LIT100CA
<b>日本文学</b>
池田 雄一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では「文豪による怪奇小説」をあつかう。

夏目漱石、谷崎潤一郎、太宰治といった、いわゆる文豪は、多くの怪奇小説を書いている。この授業では、そうした作品から、現役の小説家によるものまで、様々なタイプの怪奇小説をとりあげる予定である。

近代文学は、ともすれば道徳的に読まれましたり、「近代的自我」というような芸術本来のあり方からは不本意な観点から読まれることがある。怪奇小説を扱うことによって、まずはそのような読み方から自由になることをめざす。

また怪奇小説は、読者を怖がらせるという目的が明確なので、そのためのプロット構成もまた明確である。プロットという概念を学ぶためにも、怪奇小説は適切なのである。

さらには、恐怖という感情が快感に転ずるのは何故かという哲学的問題にも、議論を広げることができる。

以上のことを踏まえて、授業を行う予定である。

参加者には、毎回のミニレポートの提出、都合3回の本レポートの提出、3つの本レポートをまとめた最終課題の提出が課されている。また作品についてのミニ発表も毎回こなしてもらおう。決して楽な授業ではないので、参加者はそれなりの覚悟をもって登録してもらいたい。

\*作品によっては、グロテスクな表現、暴力描写などがあります。

### 【到達目標】

最終的に、すぐれたレポートを書くことが本授業の目的である。小説の読解には、唯一の正解となる読みは存在しない。したがって、レポートでは正しい内容が書かれているかではなく、レポートそのものの説得力が問われることになる。そのためのツールとして文学理論、美学用語などを、授業では紹介する予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

1) 授業前に、作品をあらかじめ読んだうえで、それを一言で表すキーワードならびにその理由を書いたミニレポートを提出してもらおう。これができることが、授業参加の条件である。

2) 授業では、事前に提出したミニレポートについて教室内もしくはグループ内でプレゼンしてもらおう。

3) 最後に教員による作品についてのミニ講義をおこなう。講義の後に参加者からの質問、コメントを受けとり、次週の授業で応答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の手順、成績判定の基準等の説明
第2回	作品研究	宮沢賢治「毒もみの好きな署長さん」
第3回	作品研究	星新一「不満」
第4回	作品研究	小泉八雲「茶碗の中」
第5回	レポートの検証	グループワーク：グループ内で最も良いと思われるレポートを発表する
第6回	作品研究	村山槐多「悪魔の舌」
第7回	作品研究	夏目漱石「夢十夜」

第8回	作品研究	芥川龍之介「首が落ちた話」
第9回	レポートの検証	グループワーク：グループ内で最も良いと思われるレポートを発表する
第10回	作品研究	江戸川乱歩「人間椅子」
第11回	作品研究	谷崎潤一郎「人面疽」
第12回	作品研究	太宰治「魚眼記」
第13回	作品研究	村田沙耶香「素敵な素材」
第14回	レポートの検証とまとめ	グループワーク：グループ内で最も良いと思われるレポートを発表する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業の前に作品を読んでおくことが、参加の条件となる。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

青空文庫で読めるものは、各自ダウンロードして読んでください。それ以外のものは、ファイルを授業支援システムにアップします。

### 【参考書】

『日本の近代文学』中村光夫、岩波新書  
購入する必要はないが、読んでおく授業の補充になる。

### 【成績評価の方法と基準】

#### 【単位取得に必要なノルマ】

- ・毎回のミニレポートの提出（出さない欠席あつかい）
- ・都合3回のレポート提出（1回でも出さないアウト）
- ・最終課題の提出（3つのレポートをまとめて、イントロをつけたもの）

#### 【成績評価の判断材料】

- ・最終課題（100%）

### 【学生の意見等からの気づき】

オンラインの授業では、チャット機能を使うと質問することのハードルがさがるので、ぜひご活用ください。

### 【学生が準備すべき機器他】

対面授業の場合でも、パソコンを持参することが望ましいが、スマートフォンでも可とする。ただし道具にかんする言い訳は認めない。

### 【Outline and objectives】

In this lesson, we will deal with "Bunny novels".

So-called literary writers such as Natsume Soseki, Tanizaki Junichiro and Dazai Osamu have written many mysterious novels. In this class, we will deal with various types of mysterious novels, from those works to those by active novelists.

Modern literature is often read morally or from an unwilling point of view from the original way of art such as "modern ego". By dealing with mysterious novels, we first aim to be free from such readings.

In addition, since the mysterious novel has a clear purpose of scaring the reader, the plot configuration for that purpose is also clear. A mysterious novel is appropriate for learning the concept of plotting.

Furthermore, we can extend our discussion to the philosophical issue of why fear turns into pleasure.

Based on the above, we plan to hold classes.

Participants are required to submit a mini-report each time, submit this report three times, and submit a final assignment summarizing the three reports. It is not an easy class, so participants are encouraged to register with reasonable care.

\* Depending on the work, there are grotesque expressions and violence.

LIT100CA
<b>世界の文学 A</b>
<b>橋本 到</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

中世から 18 世紀にかけてのいくつかの重要なフランス文学作品について、その周辺の事象などとともに作品がどのように読まれるか知る。作品が投げかける人間や社会をどのように描き、歴史と結びつき、何を問題として投げかけ、それに対してどのような答えをだそうとしたと考えられるか、作品の読解を通じて、作品世界の様々な奥行きを理解する。

**【到達目標】**

作品に描かれる人物像、そのドラマ、描かれた、社会・歴史・文学以外の文化との関連などを感じ取り、文字に接する場合、多様なアプローチがあることを知り、かつ、自らの思索を深められるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

基本的に講義形式だが、適宜、レポートを求めるほか、理解度を確認するための小テストを行なう。文学史上核になる作品等を中心に、やや詳しく扱い、解釈を提示し、また、映像もあれば適宜使用する予定。

・授業内で行った小テストは、講評や解説も行う。

・レポートについては優れたものを紹介する

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	フランス文学（おもに小説）全般について	ガイダンス、文学の定義、文学とその周辺
第 2 回	フランス中世の文学	社会背景、武勲詩、宮廷風恋愛物語
第 3 回	フランス・ルネサンス期から 17 世紀の文学	ラブレーの小説（パロディーの源流）、17 世紀
第 4 回	フランス 17 世紀の小説-1	ラファイエット夫人の小説（心の精緻な描写）
第 5 回	フランス 17 世紀の小説-2	映像資料
第 6 回	フランス 17 世紀を舞台にした文学	ロスタンの戯曲と 17 世紀、シラノ・ド・ベルジュラック
第 7 回	フランス 18 世紀の小説-1	社会背景と理性の時代、物語の読解：マノン・レスコーの物語（1）心理描写の欠如
第 8 回	フランス 18 世紀の小説-2	『マノン・レスコー』の読解（2）なぜ、マノンは魅力的なのか
第 9 回	フランス 18 世紀の小説-3	物語の読解：ルソーの人物像、『新エロイズ』の読解
第 10 回	フランス 18 世紀の小説-4	デイドロ、人物像と作品紹介
第 11 回	フランス 18 世紀の小説-5	ラクロ『危険な関係』の紹介ならびに読解（貴族社会の終焉）
第 12 回	フランス 18 世紀の小説-6	映像資料
第 13 回	予備-1	未消化の内容について消化するか、もしくは映像資料などを見る。

**第 14 回 予備-2**

未消化の内容について消化するか、もしくは映像資料などを見る。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各回の受講後、前回の資料に再度目を通す。フランス文学の作品（翻訳）を、学期中に最低 1～3 冊を目安として読み、これらを併せて時間的には週あたり 4 時間かける。

**【テキスト（教科書）】**

なし。資料を配布する。

**【参考書】**

加藤民雄「フランス文学（名作と主人公）」自由国民社、篠沢秀夫「フランス文学案内」朝日出版社、東京都立大学フランス文学研究室編「フランスを知る」法政大学出版局、植田祐次編「フランス女性の世紀」世界思想社、植田祐次編「十八世紀文学フランス文学を学ぶ人のために」世界思想社、鹿島茂「悪党が行く」

**【成績評価の方法と基準】**

レポート（2回）35 %

小テスト（適宜、ほぼ毎回）65 %

**【学生の意見等からの気づき】**

初年度講義につき、記載すべき事項なし。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業に必要な資料は、授業の形態が、対面・オンラインのいずれであっても、授業支援システムに授業時間の定時までにアップロードするので、各自ダウンロードしてください。新型コロナウイルス感染拡大のため対面での授業が行なえないと想定し、各回の授業は、Zoom によるリアルタイムでの配信を中心に行なう予定にしている。そのため、受講に必要な端末（タブレット、パソコン、通信環境）を用意すること。また、小テストは google クラウドームを利用する予定だが、これらの利用については、授業支援システム Hoppii の掲示を通じて補足的に連絡を行なう場合があるので、掲示を確実に確認できるように通信環境など各自用意してください。

**【その他の重要事項】**

対面で授業が行なえた場合：授業中の私語、途中退出を禁じます。

**【Outline and objectives】**

In this course, you will discover some important French literary works from the Middle Ages to the 18th century, and how they are read along with the events of the time in which they were written. This course aims to understand, through reading, the different depths of the presented world, of descriptions of humans and of society as a whole, the relationship between history and the work, the problems that they project.

LIT100CA
<b>世界の文学 B</b>
<b>橋本 到</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

18世紀、そしておもに19世紀前半、ロマン主義のいくつかの重要なフランス文学作品について、その周辺の事象などとともに作品がどのように読まれるか知る。作品が投げかける人間や社会をどのように描き、歴史と結びつき、何を問題として投げかけ、それに対してどのような答えをだそうとしたと考えられるか、作品の読解を通じて、作品世界の様々な奥行きを理解する。

### 【到達目標】

作品に描かれる人物像、そのドラマ、描かれた、社会・歴史・文学以外の文化との関連などを感じ取り、文字に接する場合、多様なアプローチがあることを知り、かつ、自らの思索を深められるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式だが、適宜、レポートを求めほか、理解度を確認するための小テストを行なう。文学史上核になる作品等を中心に、やや詳しく扱い、解釈を提示し、また、映像もあれば適宜使用する予定。

- ・授業内で行った小テストは、講評や解説も行う。
- ・レポートについては優れたものを紹介する

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	フランス文学（おもに小説）全般について	ガイダンス、文学の定義、文学とその周辺。春学期（「世界の文学」A）の振り返り。サドの生涯
第2回	フランス18世紀の小説（リベルタン小説）-1	サドの作品の評価、違犯性の少ない作品、違犯性の高い作品-1『ソドム百二十日』
第3回	フランス18世紀の小説（リベルタン小説）-2	サド：違犯性の高い作品-2『ジュリエットの物語』
第4回	フランス18世紀の小説（リベルタン小説）-3	サド文学の思想-啓蒙哲学との関係、社会と個の問題
第5回	フランス19世紀ロマン主義の小説-1：幻想小説	ロマン主義の時代（貨幣、書物の流通）、ゴシック小説の流行、ノディエの幻想小説『トリルビー』
第6回	フランス19世紀ロマン主義の小説-2：狂気を描いた小説	ネルヴァルの小説『オーレリア』、狂気が語るもの
第7回	フランス19世紀ロマン主義の小説-3：歴史小説	歴史小説における政治性と群衆、ユゴー『ノートル・ダム・ド・パリ』
第8回	フランス19世紀ロマン主義の小説-4：映像による理解	映像資料視聴
第9回	フランス19世紀ロマン主義の小説-5：レアリスム小説-1	バルザックと『ゴリオ爺さん』
第10回	フランス19世紀ロマン主義の小説-6：レアリスム小説-2	『ゴリオ爺さん』読解-1

第11回 フランス19世紀ロマ 『ゴリオ爺さん』読解-1-2

ン主義の小説-7：レ

アリズム小説-3

第12回 フランス19世紀ロマ 映像資料視聴

ン主義の小説-8：映

像による理解

第13回 フランス19世紀ロマ バルザックの愚かな人の描き方

ン主義の小説-9：レ

アリズム小説

第14回 フランス19世紀ロマ スタンダールと『赤と黒』

ン主義の小説-10：ヒ

ロイズムと挫折の例

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の受講後、前回の資料に再度目を通す。フランス文学の作品（翻訳）を、学期中に最低1～3冊を目安として読み、これらを併せて時間的には週あたり4時間かける。

### 【テキスト（教科書）】

なし。資料配付する。

### 【参考書】

加藤民雄「フランス文学（名作と主人公）」自由国民社、篠沢秀夫「フランス文学案内」朝日出版社、東京都立大学フランス文学研究室編「フランスを知る」法政大学出版局、植田祐次編「フランス女性の世紀」世界思想社、植田祐次編「十八世紀文学フランス文学を学ぶ人のために」世界思想社、鹿島茂「悪党が行く」など

### 【成績評価の方法と基準】

レポート（2回）35%

小テスト（適宜、ほぼ毎回）65%

### 【学生の意見等からの気づき】

初年度講義につき、記載すべき事項なし。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業に必要な資料は、授業の形態が、対面・オンラインのいずれであっても、授業支援システムに授業時間の定時までにアップロードするので、各自ダウンロードしてください。新型コロナウイルス感染拡大のため対面での授業が行なえないと想定し、各回の授業は、Zoomによるリアルタイムでの配信を中心に行なう予定にしている。そのため、受講に必要な端末（タブレット、パソコン、通信環境）を用意すること。また、小テストはgoogle クラウドームを利用する予定だが、これらの利用については授業支援システム Hoppii の掲示を通じて補足的に連絡を行なう場合があるので、掲示を確実に確認できるように通信環境など各自用意してください。

### 【その他の重要事項】

対面で授業が行なえた場合：授業中の私語、途中退出を禁じます。

### 【Outline and objectives】

In this course, you will discover some important French literary works from the end of the 18th century to the Romantic era, and how they are read along with the events of the time in which they were written. This course aims to understand, through reading, the different depths of the presented world, of descriptions of humans and of society as a whole, the relationship between history and the work, the problems that they project.

PHL100CA
<b>倫理学 A</b>
<b>松本 力</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

倫理学の基本的な考え方である功利主義と義務論を、それらの難点をも含めて学ぶことが目的です。また、功利主義や義務論に代わるさまざまな考え方（自由至上主義、ロールズの『正義論』、目的論的思考など）を参考にしながら、功利主義や義務論にどのような問題点があるのかも説明できるようになってください。

**【到達目標】**

倫理学における様々な考え方を理解し、説明できるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

配布資料を、解説の資料を参考にしながら読み進める。また、毎回の授業では、Hoppii 上の「課題」に答えることで、授業内容の理解度を確認してもらいます。授業内容に関して質問がある場合も、「課題」の答えの中に（答えとは分けながら）書き込むこと。質問への回答は、質問者に個別に答えることはせずに、Hoppii 上の「お知らせ」で示します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	倫理学とはどのような学問か？	授業の案内と概要
2	功利主義	最大多数の最大幸福、快樂計算について。
3	功利主義の問題点	個人の人権を無視。幸福の多様性。
4	義務論	カントの義務論（自由、自律、定言命法）について。
5	義務論の問題点	義務を守るだけで幸福になれるのか？
6	臓器移植の問題	臓器移植に対するさまざまな考えのなかに、功利主義と義務論を読み取る。
7	自由至上主義	社会と個人の関係について、無制限の自由が認められるかどうかを考える。
8	ロールズ『正義論』	社会的平等の実現可能性について。
9	目的論的思考	功利主義と義務論に代わるアリストテレスの目的論的思考を理解する。
10	プラトン『ゴルギアス』	プラトンの『ゴルギアス』から、目的論的思考についての理解を深める。
11	市場と道徳	徴兵制、代理母といった問題について考える。
12	忠誠のジレンマ	過去の戦争に対する責任の問題、道徳的中立性について考える。
13	正義と共通善	サンデルの正義についての考えを理解する。
14	試験・まとめと解説	授業内容の理解度を確認する。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

配布資料を読み込んでおくことが準備になります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

配付資料をもちいるため、教科書は使用しない。

**【参考書】**

マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（鬼澤忍訳、ハヤカワ文庫、2011 年。）

**【成績評価の方法と基準】**

毎回の「課題」（30 %）と筆記試験（70 %）。筆記試験も「課題」によって行います。

**【学生の意見等からの気づき】**

基本的には授業内容をどれだけ正確に理解できるかだけが求められます。細かな言葉遣いに注意しながら、読み進めてください。

**【Outline and objectives】**

The aim of this course is to help students acquire an understanding of utilitarianism, deontology, and other ethical opinions.

PHL100CA
倫理学 B
松本 力
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学 A で学んだ内容をもとに、シンガーやフランクルによって提示された倫理的な生き方に対して、学生は、自分がどのような立場を取るかを考え、表現できるようになる。

### 【到達目標】

倫理的に生きるとはどのようなことなのかを公正に判断し、自らの言葉で適切に表現できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

### 【授業の進め方と方法】

配布資料を、解説の資料を参考にしながら読み進める。また、毎回の授業では、Hoppii 上の「課題」に答えることで、授業内容の理解度を確認してもらいます。授業内容に関して質問がある場合も、「課題」の答えの中に（答えとは分けながら）書き込むこと。質問への回答は、質問者に個別に答えることはせずに、Hoppii 上の「お知らせ」で示します。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	シンガー『私たちはどう生きるべきか』	シンガーの問題意識について。
2	究極の選択	私益優先の生き方か倫理優先の生き方か。
3	共同体の喪失	「万人の万人に対する戦争」。
4	世界を使い果たす	アダム・スミス対ジャン＝ジャック・ルソー。
5	日本人の生き方	集団のために生きることは可能か？
6	お返し戦術	憎しみ合う者同士の協力。
7	倫理的に生きる	英雄的行為だけが倫理的に生きることはない。
8	倫理の本質	他者におよぼす影響を無視して自分自身の利益だけを気にかけるのは倫理的ではない。
9	ある目的のために生きる	私たちの人生は、自分で自由に意味を与えることができるものなのか？
10	よい生き方	宇宙の視点をとる。
11	フランクル『それでも人生にイエスと言う』	生きる意味と価値。
12	人生を意味あるものにする	生きていることに責任を担う。
13	どんな状況でも人生にイエスと言う	苦悩に耐え抜くことにも意味がある。
14	試験・まとめと解説	シンガー、フランクルの両者の倫理が、どれほど理解されているかを確認する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を読み込んでおくことが準備になります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

配付資料をもちいるため、教科書は使用しない。

### 【参考書】

ピーター・シンガー『私たちはどう生きるべきか』（山内友三郎監訳、ちくま学芸文庫、2013 年。）

V・E・フランクル『それでも人生にイエスと言う』（山田邦男・松田美佳訳、春秋社、2016 年。）

### 【成績評価の方法と基準】

毎回の「課題」（30 %）と筆記試験（70 %）。筆記試験も「課題」によって行います。

### 【学生の意見等からの気づき】

基本的には授業内容をどれだけ正確に理解できるかだけが求められます。細かな言葉遣いに注意しながら、資料を読み進めてください。

### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the ethical opinions of Peter Singer and Viktor Emil Frankl.

PHL100CA
<b>倫理学 A</b>
齋藤 範
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「自己と他者の関わり」を中心的なテーマとし、倫理学の基礎となる考え方や現代の倫理をめぐる諸問題について学びます。

#### 【到達目標】

倫理学の知識を体系的に習得するとともに、現代社会における倫理的な問題について自ら主体的に考察し、自分の考えを具体的に述べるができるようになることを、本授業の目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

授業形態は講義で、音声収録を行った mp4 ファイルの教材を Google Classroom にて視聴する「オンデマンド配信型」で実施します。Google Classroom への案内や入室に必要な「クラスコード」は、Hoppii のお知らせにて告知します。また、前回の授業で受講生から出た質問や考察や感想をいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。授業では、いわゆる規範倫理学の検討を通して、現代社会を生きる私たちの倫理問題を講義します。具体的には、主要学説を正確に理解するように講義すると同時に、それらを現実の諸問題と突き合わせ、受講生自身に倫理的思考の実践を促します。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

##### 春学期

回	テーマ	内容
1	倫理学とは何か	倫理とモラルとマナーをめぐって
2	倫理学の基礎	課題と方法について
3	規範と根拠①	ケーススタディの実践
4	規範と根拠②	ケーススタディの分析
5	利己主義について	エゴイズムとは何か
6	利他主義について	利他的であるとはどういうことか
7	功利主義①	ベンサムと J.S. ミルについて
8	功利主義②	その可能性と問題点について
9	義務論①	カントの倫理学について
10	義務論②	カントとそれ以降の倫理学
11	正義論①	公正な分配とは
12	正義論②	自由と平等をめぐって
13	他者論	自己と他者をめぐって
14	応用倫理とまとめ	世界と環境と生命をめぐって

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとったノートを、内容を思い返しながらか整理し、併せて疑問点や自分の考えや感想も記録します。また、授業で紹介する参考文献などを必要に応じて参照し、理解を深めます。さらに、現代社会において具体的にどのような倫理問題がどのようなかたちで議論されているか、新聞等のメディアを通じて情報を収集し、考察します。これらの授業時間外学習には 4 時間ほど要します。

#### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しませんが、必要に応じてプリントを配布します。

#### 【参考書】

参考書は特に指定しませんが、授業で扱う資料や参考文献については講義のなかで適宜紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

成績は、毎回実施する小テスト（40%）と、中間ないし学期末に予定している試験またはレポート（60%）にて総合的に評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業で取り上げる具体的なテーマには、人によってはかなり重く思われる問題（例えば犯罪や差別や貧困をめぐる諸問題）も含まれます。その点を十分考慮したうえで履修するようにしてください。

#### 【学生が準備すべき機器他】

授業はオンライン（オンデマンド）による Google Classroom での実施となるため、PC とインターネット環境が必要です。

#### 【Outline and objectives】

In this lecture, students acquire basic knowledge about ethics and learn ethics concerning various problems of modern society.

PHL100CA
<b>倫理学 B</b>
齋藤 範
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「生命と医療」を中心的なテーマとし、倫理的思考や背景となる事実問題について学びます。

#### 【到達目標】

生命倫理学と関連分野の知識を体系的に習得するとともに、現代社会における倫理的な問題について自ら主体的に考察し、自分の考えを具体的に述べるができるようになることを、本授業の目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

授業形態は講義で、音声収録を行った mp4 ファイルの教材を Google Classroom にて視聴する「オンデマンド配信型」で実施します。Google Classroom への案内や入室に必要な「クラスコード」は、Hoppii のお知らせにて告知します。また、前回の授業で受講生から出た質問や考察や感想をいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。授業では、まず生命倫理の基礎を概観し、そのうえで具体的な問題（脳死と臓器移植、安楽死、遺伝子操作、人工妊娠中絶など）を取り上げます。また、障害学、死生学、法学、哲学、現代思想といった関連分野にも触れ、そのつど問いを示しながら、人間と環境と生命をめぐる倫理をひろく学び、複雑なことからの中にあっても主体的に自らのパースペクティブを見出すことができるよう促します。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

##### 秋学期

回	テーマ	内容
1	生命倫理学の背景①	インフォームド・コンセント
2	生命倫理学の背景②	生と死の線引き問題
3	脳死と臓器移植①	定義と判断
4	脳死と臓器移植②	現状と問題
5	難病告知	生と死の現場
6	安楽死問題①	定義と判断
7	安楽死問題②	現状と問題
8	遺伝子をめぐる問題①	遺伝子診断・遺伝子治療
9	遺伝子をめぐる問題②	さまざまな技術と優生思想
10	人工妊娠中絶①	定義と判断
11	人工妊娠中絶②	現状と問題
12	人工妊娠中絶③	人格と生命
13	倫理学と障害学	個人と社会
14	生命倫理とまとめ	生命をめぐる現代社会の倫理の展望

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとったノートを、内容を思い返ししながら整理し、併せて疑問点や自分の考えや感想も記録します。また、授業で紹介する参考文献などを必要に応じて参照し、理解を深めます。さらに、現代社会において具体的にどのような倫理問題がどのようなかたちで議論されているか、新聞等のメディアを通じて情報を収集し、考察します。これらの授業時間外学習には 4 時間ほど要します。

#### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しませんが、必要に応じてプリントを配布します。

#### 【参考書】

参考書は特に指定しませんが、授業で扱う資料や参考文献については講義のなかで適宜紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

成績は、毎回実施する小テスト（40%）と、中間ないし学期末に予定している試験またはレポート（60%）にて総合的に評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業で取り上げる具体的なテーマには、人によってはかなり重く思われる問題（例えば病気や生殖や生死をめぐる諸問題）も含まれます。その点を十分考慮したうえで履修するようにしてください。

#### 【学生が準備すべき機器他】

授業はオンライン（オンデマンド）による Google Classroom での実施となるため、PC とインターネット環境が必要です。

#### 【Outline and objectives】

In this lecture, students acquire basic knowledge about ethics and learn ethics concerning various problems of modern society.

ART100CB
<b>芸術</b>
<b>坂口 周輔</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

普段接することの少ない芸術（アート）を身近なものとし、芸術が決して浮世離れたものではなく、むしろ社会と密接に関わっていることを見ていくことが本授業の目的となります。西洋美術を中心に様々な芸術作品を見ていくことによって、芸術に対する感性を養っていきましょう。そして「芸術とは何か」を一緒に考えていきましょう。

**【到達目標】**

「ルネサンス」「ルーヴル」って何だっけ？「マネ」と「モネ」がごっちゃ…といったような恥ずかしい目にあわないよう芸術に関する基本的な教養を身につけていきます。さらに、芸術作品をめぐる印象や解釈を言葉にしていくための論理的能力を高めていくことも目指します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

基本 Zoom で授業を行います。毎回いくつかの芸術作品を画像で紹介しながら講義をしていきます。できるだけみなさんの発言を求めています。

毎回学習支援システムやリアクションペーパーなどで質問を受け付け、次の回にフィードバックしていきます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	芸術と美	ヴィーナスの表象。
2	ギリシャ神話と芸術	パリスの審判と芸術。
3	芸術の発生	原始美術。ラスコーの壁画など。
4	芸術と何か？	原始美術をめぐるゴンブリッチとバタイユの見解。
5	大聖堂を訪ねる	ゴシック芸術とは何か。ゴシック芸術とキリスト教の関係。
6	ルネサンスの時代における芸術	ルネサンスとはどのような時代か。ネオプラトニズムとは。
7	ルネサンスの時代における芸術（2）	ボッティチェッリの〈春〉を見る。
8	光と闇の芸術	バロック芸術について。カラヴァッジョからレンブラントへ。
9	近代の始まり	英雄・国家と結びついた芸術：新古典主義。
10	モデルニテとしての芸術	新古典主義からロマン派へ。マネは何において革新的なのか。
11	印象派の誕生	ルノワールやモネといった印象派はなぜ日本人に人気があるのか？
12	20 世紀の芸術	デュシャン、ウォーホルなどの作品を見る。
13	現代アートとわれわれ	現在生きるアーティストの作品とは？ 21 世紀と芸術の関係。
14	まとめ	授業で学んだことを確認する。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

いろいろな時代の芸術作品を見ていくことになるので、混乱しないように授業後のおさらいを欠かさないようにしましょう。また芸術に興味を持つことが大事です。画集をめくったり、美術館に行ったりして、できるだけ芸術作品に接しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用しません。

**【参考書】**

適宜指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（20％）と学期末レポート（80％）で総合的に評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

情報量が多いときは、授業のスピードをゆるめ、学生がしっかりと理解できる時間を設けたいと思います。

**【Outline and objectives】**

The purpose of this course is to get familiar with art and to see how art and society intertwine.

I offer you to cultivate your sensitivity to art by looking at various art works mainly of Western art. Let's think about "what is art?" together.

ART100CB
<b>芸術</b>
<b>坂口 周輔</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

普段接することの少ない芸術（アート）を身近なものとし、芸術が決して浮世離れしたものではなく、むしろ社会と密接に関わっていることを見ていくことが本授業の目的となります。西洋美術を中心に様々な芸術作品を見ていくことによって、芸術に対する感性を養っていきましょう。そして「芸術とは何か」を一緒に考えていきましょう。

### 【到達目標】

「ルネサンス」「ルーヴル」って何だっけ？「マネ」と「モネ」がごっちゃ…といったような恥ずかしい目にあわないよう芸術に関する基本的な教養を身につけていきます。さらに、芸術作品に対する印象や解釈を論理的に考えられる思考能力を高めていくことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

毎回いくつかの芸術作品をスクリーン上で紹介しながら講義をするというのが基本的な授業形式になります。コロナウィルスの影響で遠隔になる場合は、Zoomで授業を行います。

毎回学習支援システムやリアクションペーパーなどで質問を受け付け、次の回にフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	芸術と美	ヴィーナスの表象。
2	ギリシャ神話と芸術	パリスの審判と芸術。
3	芸術の発生	原始美術。ラスコーの壁画など。
4	芸術論を読む	原始美術をめぐるゴンブリッチとバタイユの見解。
5	大聖堂を訪ねる	ゴシック芸術とは何か。ゴシック芸術とキリスト教の関係。
6	ルネサンスの時代における芸術	ルネサンスとはどのような時代か。ネオプラトニズムとは。
7	ルネサンスの時代における芸術（2）	ボッティチェッリの〈春〉を見る。
8	光と闇の芸術	バロック芸術について。カラヴァッジョからレンブラントへ。
9	近代の始まり	英雄・国家と結びついた芸術：新古典主義。
10	モデルニテとしての芸術	新古典主義からロマン派へ。マネは何において革新的なのか。
11	印象派の誕生	ルノワールやモネといった印象派はなぜ日本人に人気があるのか？
12	20世紀の芸術	デュシャン、ニューマン、ウォーホルなどの作品を見る。
13	現代アートとわれわれ	現在生きるアーティストの作品とは？ 21世紀と芸術の関係。
14	あいちトリエンナーレ「表現の不自由展・その後」を考える	芸術と表現の自由の関係について。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

いろいろな時代の芸術作品を見ていくことになるので、混乱しないように授業後のおさらいを欠かさないようにしましょう。また芸術に興味を持つことが大事です。画集をめくったり、美術館に行ったりして、できるだけ芸術作品に接しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

### 【参考書】

適宜指示します。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）と学期末レポート（70％）で総合的に評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

情報量が多いときは、授業のスピードをゆるめ、学生がしっかりと理解できる時間を設けたいと思います。

### 【Outline and objectives】

The purpose of this course is to get familiar with art and to see how art and society intertwine.

I offer you to cultivate your sensitivity to art by looking at various art works mainly of Western art. Let's think about "what is art?" together.

LIN100CA
<b>文章表現 A</b>
池田 雄一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、基本的な教養の獲得、および日本語の文章の訓練をすることによって、専門科目に向けての基礎体力をつけることを目的とする。

多くの文章表現系の授業では、文章の「内容」と「形式」を区別したうえで、正しい日本語の「形式」を教えるという方針がとられている。正しい日本語の文法、正しい論理構造、正しい語彙の使い方等を、教師が一方的に伝えるというタイプの授業である。

しかし考えてみれば、読者に伝えるべき「内容」をぬきにして、適切な文章の「形式」を語ることはできない。同じことであるが、書き手の「メッセージ」を度外視して、文章のスタイルを決めることは不可能である。つまり、書き手が読者に伝えたいことがなければ、文章表現という言葉は「絵に描いた餅」に終わってしまうのである。

具体的な授業の流れは次のとおりとする。まず、1) まず事前に指定のテキストを読んだうえで、その概要を説明できるよう、かんたんなスライドを準備しておく。次に、2) 授業時に、そのスライドを用いて、グループごとにミニ発表をする。そして3) グループの代表者を決めて、クラス内で発表してもらう。さらには4) 発表をもとにミニレポートを執筆する。それに加えて、5) 都合3回の本レポートも書いてもらう。テキストは、メディア論、哲学、文芸評論、そして経済学と多岐にわたるジャンルから選んである。こうした演習と、教養にかんする講義によって授業を組み立てる予定である。

授業であつかうテキストは、かんたんには読み解けないものを選んである。また参加者は、毎回の課題提出と、グループ内もしくは教室でのプレゼンが課せられる。したがって楽に単位はとれない。向学心ある者の参加をのぞむ。

#### 【到達目標】

あらゆる学問の基礎となる教養の獲得、ならびに内容に応じたアウトプットの能力を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

授業は講義とグループワークを組み合わせで行う。おもな手順は以下のとおりである

- 1) まず事前に指定のテキストを読んだうえで、その概要を説明できるよう、かんたんなスライドを準備しておく
- 2) 授業時に、そのスライドを用いて、グループごとにミニ発表をする
- 3) グループの代表者を決めて、クラス内で発表してもらう
- 4) 発表をもとにミニレポートを執筆する。わからないことがあるようなら質問を書いてもらう
- 5) 次回の前半で、復習をかねたミニ講義をうける

※人数によって手順を変え場合があります

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業手順の説明。および参加者との打ち合わせ。
第2回	マクラーハン「壁のない教室」	講義とグループワーク 講義「文章の基礎1」／グループワーク「壁のない教室」
第3回	バルト「火星人」	講義とグループワーク 講義「メディア論と教育」／グループワーク「火星人」
第4回	ウィトゲンシュタイン「倫理学講話」	講義とグループワーク 講義「現代社会における神話」／グループワーク「倫理学講話」
第5回	レポートの検討	講義とグループワーク 講義「哲学の基礎」／グループワーク：グループ内で最も良いと思われるレポートを発表する
第6回	花田清輝「極大・極小」 『復興期の精神』より	講義とグループワーク 講義「文章の基礎2」／グループワーク「極大・極小」
第7回	柄谷行人『世界共和国へ』	講義とグループワーク 講義「ガリバー旅行記」について／グループワーク『世界共和国へ』

第8回	阿部謹也『ヨーロッパ中世の宇宙観』	講義とグループワーク 講義「歴史と経済1」／グループワーク『ヨーロッパ中世の宇宙観』
第9回	レポートの検討	講義とグループワーク 講義「歴史と経済2」／グループワーク：グループ内で最も良いと思われるレポートを発表する
第10回	大澤真幸『不可能生の時代』	講義とグループワーク 講義「文章の基礎3」／グループワーク『不可能生の時代』
第11回	アーレント『人間の条件』 「序文」	講義とグループワーク 講義「リスク社会とは」／グループワーク『人間の条件』「序文」
第12回	ベンヤミン「複製技術時代の芸術」	講義とグループワーク 講義「自由とは何か」／グループワーク「複製技術時代の芸術」
第13回	河野真太郎『戦う姫、働く少女』	講義とグループワーク 講義「芸術と宗教」／グループワーク：戦う姫、働く少女
第14回	レポートの検討	グループ内で最も良いと思われるレポートを発表する

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加者には、事前に課題となるテキストを読んで、それについてのミニレポートを授業前に提出してもらう。レポートの提出によって出席とみなすので、そのつもりで望んでもらいたい。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

なし。必要なものは授業中に配布する。

#### 【参考書】

杉原厚吉『理科系のための英文作法』中公新書  
買う必要はないが、経済学部の学生にもおすすめの良書である。

#### 【成績評価の方法と基準】

##### 【単位取得に必要なノルマ】

- ・日々のミニレポート（出さないと欠席あつかい）
- ・都合3回のレポート提出（1回でも出さないとアウト）
- ・最終課題の提出（3つのレポートをまとめて、イントロをつけたもの）

##### 【成績評価の判断材料】

- ・最終課題（100%）

#### 【学生の意見等からの気づき】

オンラインの授業では、チャット機能を使うと質問することのハードルがさがるので、ぜひ活用ください。

#### 【学生が準備すべき機器他】

対面授業の場合でも、パソコンを持参することが望ましいが、スマートフォンでも可とする。ただし道具にかんする言い訳は認めない。

#### 【その他の重要事項】

受講希望者数が300人を超えた場合、「文章表現」講義の性格上、抽選あるいは選考を実施する場合もあり。詳細が決まり次第、掲示板で連絡。

#### 【Outline and objectives】

The purpose of this lesson is to acquire basic education and to train Japanese sentences so that students can gain basic physical strength for specialized subjects.

In many text expression classes, the policy is to teach the correct Japanese "form" after distinguishing the "content" and "form" of the sentence. This is a type of lesson in which the teacher unilaterally conveys correct Japanese grammar, correct logical structure, and correct vocabulary usage.

But if you think about it, you can't say the proper form of text without the "content" that you want to tell your readers. Similarly, it is not possible to determine the style of a sentence by ignoring the writer's "message". In other words, if the writer has nothing to tell the reader, the word sentence will end up as a "Mochi drawn on the picture."

Classes will be held based on this concept. Specifically, the participants practice the practice of inputting a textbook used as a material for the writer's message and reciprocating the output of the participants. The texts are selected from a wide variety of genres: media, philosophy, literary criticism, and economics. The class will be composed of these exercises and lectures on education.

Participants are required to submit assignments each time and present in groups or in the classroom. Therefore, the unit cannot be easily obtained. We hope for those who are eager to study.

LIN100CA
<b>文章表現 B</b>
池田 雄一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期の授業の成果をふまえて、後期では、1) テキストを選ぶ能力、2) テキストを読む能力、3) レポートを書く能力、4) 他の学生の書いたレポートを読む能力を獲得することを目的とする。これらの能力は専攻する学問を学ぶにあたって必須のものである。「文章表現A」を履修していることが望ましいが、そうでなくても不足分を熱意でカバーする学生を拒むつもりはない。

本授業は講義とグループワークを組み合わせて進める予定である。具体的な授業の流れは次のとおりとする。まず、1) 教員が指定した3つのテーマにかんしての本や論文などのテキストを学生自身に選んでもらう。次に、2) 選んだテキストについてグループ内で情報交換をしたうえで、3) テキストについての比較的長いレポートを書いてもらう。さらに4) そのレポートについても、グループ内で検討したうえで、代表となるレポートを、グループごとに発表してもらう。この流れを3回にわたり行う。

参加者は長めのレポートを最低でも3回は書いてもらう。一度でも提出しないと単位はだせないでそのつもりで望んでほしい。その他に、参加者には、毎回の課題提出と、グループ内もしくは教室でのプレゼンが課せられる。前期とおなじく向学心ある者の参加をのぞむ。

### 【到達目標】

あらゆる学問の基礎となる教養の獲得、ならびに内容に応じたアウトプットの能力を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

### 【授業の進め方と方法】

- 1) 教員が指定した3つのテーマにかんしての本や論文などのテキストを学生自身に選んでもらう。
  - 2) 選んだテキストについてグループ内で情報交換
  - 3) テキストについての比較的長いレポートを執筆
  - 4) そのレポートについて、グループ内で検討したうえで、代表となるレポートを、グループごとに発表
- 授業のスケジュールは学生からのフィードバックにもとづいて、修正を入れていく予定である  
詳細はガイダンス時に説明する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業手順の説明。および参加者との打ち合わせ。
第2回	講義	ナショナルリズム
第3回	グループワーク	参加者が選んだ本についての情報交換
第4回	レポートの執筆	執筆にかんしての注意事項を確認しながら、実際に、やや長めの文章を執筆してみる。
第5回	レポートの検討	グループごとに各人の書いたレポートを読んだうえで、代表者をひとり決定し、発表する
第6回	講義	美学／芸術
第7回	グループワーク	参加者が選んだ本についての情報交換

第8回	レポートの執筆	執筆にかんしての注意事項を確認しながら、実際に、やや長めの文章を執筆してみる。
第9回	レポートの検討	グループごとに各人の書いたレポートを読んだうえで、代表者をひとり決定し、発表する
第10回	講義	来るべき経済
第11回	グループワーク	参加者が選んだ本についての情報交換
第12回	レポートの執筆	執筆にかんしての注意事項を確認しながら、実際に、やや長めの文章を執筆してみる。
第13回	レポートの検討	グループごとに各人の書いたレポートを読んだうえで、代表者をひとり決定し、発表する
第14回	まとめ	総復習、質疑応答など

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で、1) テキストの選定、2) テキストの読解、3) レポートの執筆、のどれかをやってもらう。  
くわしくはガイダンス時に説明する。  
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは学生自身が選ぶ。くわしくはガイダンス時に説明する。

### 【参考書】

杉原厚吉『理科系のための英文作法』中公新書

### 【成績評価の方法と基準】

【単位習得に必須となる課題】

- ・都合3回のレポート提出
- ・最終課題

【成績評価の対象となる課題】

- ・最終課題（100%）

### 【学生の意見等からの気づき】

オンラインの授業では、チャット機能を使うと質問することのハードルがさがるので、ぜひご活用ください。

### 【学生が準備すべき機器他】

対面授業の場合でも、パソコンを持参することが望ましいが、スマートフォンでも可とする。ただし道具にかんする言い訳は認めない。

### 【その他の重要事項】

受講希望者数が300人を超えた場合、「文章表現」講義の性格上、抽選あるいは選考を実施する場合もあり。詳細が決まり次第、掲示板で連絡。

### 【Outline and objectives】

Based on the results of the first semester, in the second semester you will acquire 1) the ability to select textbooks, 2) the ability to read textbooks, 3) the ability to write reports, and 4) the ability to read reports written by other students. Aim. These abilities are essential for studying the major you study. It is desirable to have completed "Sentence Expression A", but otherwise I will not refuse students who cover the shortfall with enthusiasm.

This class will be combined with lectures and group work. The specific flow of the lesson is as follows. First, 1) Ask students to select books, papers, and other texts on three themes designated by the teacher. Next, 2) exchange information within the group about the selected text, and 3) ask them to write a relatively long report on the text. 4) The report will be reviewed in the group and a representative report will be announced for each group. This flow is performed three times.

Participants are required to write a longer report at least three times. If you do not submit it at least once, you will not be able to earn credits, so please expect it. In addition, participants are required to submit assignments each time and present in a group or classroom. We hope for those who have the same intention to study as in the first semester.

LIN100CA
<b>言語学 A</b>
<b>飯野 厚</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

言語の使用、習得、仕組みから言語について理解を深め、より精緻なコミュニケーション行動に反映させる。

**【到達目標】**

- (1) ことばをめぐる世界の状況、ことばのはたらき、習得、役割、研究による知見などを理解し、基本用語や概念が説明できる。
- (2) 言語学研究の基本用語とその概念が説明できる。
- (3) 上記の言語研究の知見を応用して、ことばのとらえ方、用い方が柔軟になる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義式で説明するが詰め込みとならないよう、できるだけ多くの具体例を挙げて理解を促す。

予習による設問の解答やことばの例を挙げるためのペアワークやグループワークを取り入れ、アクティブに学習できるようにする。  
履修者数によっては学生のプレゼンテーションも取り入れる（授業内に口頭でフィードバックを行う）。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
1	言語学とは	ことばの定義・研究分野
2	世界のことば	語族・類型
3	ことばの多様性	方言・変種
4	ことばとこころ	言語習得・脳・思考
5	バイリンガリズム	共有基底能力説
6	ことばの意味と運用	協調の原理・関連性理論
7	ことばとコミュニケーション	丁寧さの理論・情報のなわばり理論
8	ことばによらないコミュニケーション	非言語コミュニケーション、異文化理解
9	発話のメカニズム	スピーチ産出モデル、対話モデル
10	発音のしくみ	音声学・音韻論
11	語のしくみ	形態論
12	文のしくみ	統語論
13	意味とことば	意味論、メタファーの世界
14	ことばと意味	ことばの解釈

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

教材は毎回事前に熟読する。読んだ痕跡を残すよう指示するので（重要語ハイライト、質問、問の解答など）、確実に実行し授業支援システムの課題に授業開始前に提出する（毎回計 4 時間）

**【テキスト（教科書）】**

『現代の言語学』石黒昭博ほか【金星堂】

これに加えて、プリント教材を Hoppi の教材を通じて配布するので、各自印刷して学習すること

**【参考書】**

『はじめて学ぶ言語学』大津由紀雄（編著）

『よくわかる言語学』窪園晴夫【編著】

**【成績評価の方法と基準】**

●課題と授業内外の活動参加度（50%）授業支援システムの課題機能を使い学習記録を提出

●学期末試験（50%）基本用語と理論の理解を確認するテスト

**【学生の意見等からの気づき】**

パワーポイントをわかりやすく呈示する。

**【その他の重要事項】**

人数制限：仮登録 100 人に達した時点で受講者の受け入れを終了とする。

**【Outline and objectives】**

The students can deepen their understanding about a language. By learning about its general mechanism, acquisition process, use in local and global societies, and usage in communication, they can apply the knowledge to their language use in communication.

LIN100CA
<b>言語学 B</b>
<b>飯野 厚</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

言語の使用、習得、仕組みから言語について理解を深め、より精緻なコミュニケーション行動に反映させる。

**【到達目標】**

- (1) 認知言語学の基本的な理論や概念を説明できる。
- (2) 上記の言語研究の知見を応用して、ことばのとらえ方、用い方が柔軟になれる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義式で説明するが詰め込みとならないよう、できるだけ多くの具体例を挙げて理解を促す。

予習による設問の解答やことばの例を挙げるためのペアワークやグループワークを取り入れ、アクティブに学習できるようにする。

履修者数によっては学生のプレゼンテーションも取り入れる（授業内に口頭でフィードバックを行う）。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	認知言語学とは	ことばの中の様々な疑問
2	意味とことば	従来の意味論との異なり イメージ・文脈・とらえ方
3	認知と語順	感覚イメージの組み上げによる語順
4	比喩（メタファー）	時は金なり・人生・恋愛・論争・上 下・擬人
5	イメージ・スキーマとカテゴリー	容器・経路・物質 etc プロトタイプ理論
6	換喩（メトニミー）	ホワイトハウス、永田町、ダウニング 街 10 番地
7	格文法	フレーム意味論
8	構文文法	「～すればするほど」「～ひとつできない」
9	図と地	ルビンの盃・フォースダイナミクス・ 虚構の移動
10	プロファイルとベース	とらえ方・ピリヤードボールモデル
11	認知文法	プロトタイプとスキーマ
12	メンタルスペース	融合理論
13	構文	way 構文・結果構文・使役移動構文
14	認知言語学の理論のまとめ	用語の整理

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

教材は毎回事前に熟読する。読んだ痕跡を残すよう指示するので（重要語ハイライト、質問、問の解答など）、確実に実行し授業支援システムの課題に授業開始前に提出する（毎回計 4 時間）

**【テキスト（教科書）】**

『認知言語学の大冒険』鍋島弘治朗（開拓社）¥3,400 + 税。

**【参考書】**

『認知言語学の基礎』川上誓作（編著）、研究社

『認知文法のエッセンス』ジョン・R・テイラー・瀬戸賢一、大修館

『認知構文論』山梨正明、大修館

**【成績評価の方法と基準】**

●課題と授業内外の活動参加度（50%）授業支援システムの課題機能を使い学習記録提出

●学期末試験（50%）基本用語と理論の理解を確認するテスト

**【学生の意見等からの気づき】**

パワーポイントをわかりやすく呈示する。

**【その他の重要事項】**

人数制限：仮登録 100 人に達した時点で受講者の受け入れを終了とする。

**【Outline and objectives】**

The students can deepen their understanding about a language. By learning about its general mechanism, acquisition process, use in local and global societies, and usage in communication, they can apply the knowledge to their language use in communication.

PHL100CA
哲学 A
長谷川 悦宏
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

現代の英米哲学の主流をなす分析哲学、功利主義、プラグマティズムについて考察します。

**【到達目標】**

古典経験論が持つ重要性及び現代英米哲学の意義について、客観的な根拠をもって自身の見解を述べるができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

授業はテキストに沿って講義形式で行う。期末試験とは別に途中、中間試験を行う。また前半・後半各二回、小レポートを課す。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	現代市民社会論と経験論
2	ロック哲学における認識論	認識論と所有の関係
3	ロック哲学における自然法	自然法と労働所有論
4	バークリー、ヒューム	古典経験論の展開
5	ベンサム思想	快樂計算と功利主義の敵対者たち
6	ミルの功利主義	グローバル経験論・他者危害原理・質的功利主義
7	前半のまとめ及び中間試験	前半の総括及び試験
8	言語論的転回	ウィーン学団から日常言語学派まで
9	ウイトゲンシュタイン	語りえないもの・言語ゲーム・規則のパラドックス
10	現代の功利主義	功利主義の展開及び現実への適用
11	プラグマティズムから正義論へ	アメリカにおける哲学の展開
12	帰納の謎	観察と帰納にまつわる問題
13	自然主義	科学と哲学の現代における関係
14	講評・解説と期末試験	講評・解説と後半の試験

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

予習としては、テキストを事前に読み、関心の持った点をまとめておく。復習としては、講義後、関心の持った問題について、関連文献を読み、理解を深める。本授業の予習復習時間はともに各 1・5 時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

一之瀬正樹『英米哲学史講義』（筑摩書房、2016、本体価格 1200 円+税）

**【参考書】**

授業で適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

古典及び現代英米思想の意義を論理的に述べられることが評価される。授業期間中の中間試験（50％）と期末試験（50％）によって評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業内容は広範な領域に渡ることになるかと思われませんが、全体の構図がわかるような解説を目指します。

**【Outline and objectives】**

The present day-thought of English area philosophy is considered about analytic philosophy, utilitarianism and pragmatism.

PHL100CA
哲学 B
長谷川 悦宏
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

正義論、自然主義、心の哲学をめぐる諸問題を考察する。

**【到達目標】**

現代の哲学における中心テーマの内の、正義論、自然主義、心の哲学に関して、客観的な論拠に基づいて自身の見解を述べるができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

授業はテキストに沿って講義形式で行う。期末試験とは別に途中、中間試験を行う。また前半・後半各二回、小レポートを課す。最終授業で 13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容の説明、ロールズの『正義論』
2	ノージック、サンデル	ロールズ『正義論』の批判
3	ハーバーマス、セン	コミュニケーション論、潜在能力アプローチ
4	サール	言語行為論、語用論
5	ローティ、クワイン	ネオ・プラグマティズム
6	ウィーン学団、ポパー	統一科学の構想、反証主義
7	前半のまとめ及び中間試験	前半の総括及び試験
8	オースティン、セラーズ	穏健な自然主義
9	ウイトゲンシュタイン、デイヴィッドソン	原因と理由の区別
10	ウィルソン、デネット	生物学による統合
11	ラッセル、ライル、チューリング	心の哲学のはじまり
12	スマート、バトナム	タイプ同一説、トークン同一説、機能主義
13	チャーチランド、チャーマーズ	消去的唯物論、物理主義批判
14	講評・解説と期末試験	講評・解説と後半の試験

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

予習としては、テキストを事前に読み、関心の持った点をまとめておく。復習としては、講義後、関心の持った問題について、関連文献を読み、理解を深める。本授業の予習復習時間はともに各 1・5 時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

仲正昌樹『現代哲学の最前線』（NHK 出版、2020、本体 900 円+税）

**【参考書】**

授業で適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

正義論、自然主義、心の哲学がもつ現代における意義を論理的に述べられることが評価される。授業期間中の中間試験（50％）と期末試験（50％）によって評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

現代思想は複雑ですが、基本的な枠組の解説に努めます。

**【Outline and objectives】**

A Theory of Justice, Naturalism and philosophy of mind are considered.

PHL100CA
哲学A
西川 純子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業では、西欧の代表的な哲学者の思想を「自由」という概念を中心に紹介します。私たちに馴染みがある「自由」について西欧の哲学者がどのように論じているかを知ることで、幅広い視野と柔軟な思考力を培い、「自由」について自らの見解を持ち、さらにそれをわかりやすく表現できるようになることを目指します。

**【到達目標】**

受講生が西欧の代表的な哲学者が「自由」について語っていた内容を説明できる。それらを参考にして、自分でも「自由」について考え、それを分かりやすく表現できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

各哲学者のテキストを読む前に、理解を深めるために時代背景とその哲学者の思想について紹介します。その後、テキストを精読して解説を行います。動画配信を中心としたオンデマンド授業になります。質問はメールで受け付けます。課題の提出は学習支援システムを利用します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	自由をめぐる諸問題について	自由という概念が多くの問題を提起したことを説明する。
2	古代ギリシャにおける自由(1)	アリストテレス『命題論』第9章
3	古代ギリシャにおける自由(2)	プラトン『国家』第8篇と第10篇 アリストテレス『ニコマコス倫理学』第3篇
4	人間は自由か？	自由意志論争について
5	神の自由と人間の自由	デカルト『省察』第四省察
6	自由と決定論	スピノザ『スピノザからシュレーラ一への書簡』
7	自由と障害	ホッブス『リヴァイアサン』第2部第21章
8	自由は人間に固有か(1)	ヴォルテール『哲学辞典』「自由」の項目
9	自由は人間に固有か(2)	ルソー『人間不平等起源論』
10	積極的自由と消極的自由(1)	バーリン『自由論』
11	積極的自由と消極的自由(2)	ルソー『社会契約論』
12	積極的自由と消極的自由(3)	ホッブス『リヴァイアサン』第2部第21章
13	自由という刑	サルトル『実存主義とは何か』
14	まとめ	学生からの質問に答え、リアクションペーパーの紹介などを行う。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

受講生は「学習支援システム」にアップロードされた哲学者のテキストを予習として読んでから、授業に臨むこと。

本講義の予習・復習時間は、各1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

使用しない。授業で使用するテキストは「学習支援システム」にアップロードします。

**【参考書】**

プラトン『国家』(上)(下)(藤沢令夫訳) 岩波文庫  
 プラトン『パイドン 魂について』(納富信留訳) 光文社古典新訳文庫  
 アリストテレスアリストテレス『ニコマコス倫理学』(上)(下)(渡辺邦夫・立花幸司訳) 光文社古典新訳文庫  
 アリストテレス『命題論』(早瀬篤訳)、『アリストテレス全集』第1巻、岩波書店  
 金子晴勇『宗教改革の精神 ルターとエラスムス』(講談社学術文庫)  
 デカルト『方法序説』(山田弘明訳) ちくま学芸文庫  
 デカルト『省察』(山田弘明訳) ちくま学芸文庫  
 ホッブス『リヴァイアサン』1~4 (水田洋訳) 岩波文庫  
 ヴォルテール『哲学辞典』(高橋安光訳) 法政大学出版局  
 ルソー『人間不平等起源論』(中山元訳) 光文社古典新訳文庫  
 ルソー『社会契約論』(作田啓一訳) 白水Uブックス  
 バーリン「二つの自由概念」(生松敬三訳)『自由論』所収(みすず書房)  
 サルトル『実存主義とは何か』

**【成績評価の方法と基準】**

レポート(50%)とリアクションペーパー(50%)で評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生のリアクションペーパーの一部を紹介したり、質問に回答する時間をもっと増やす。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業は哲学者が自由について論じているテキストをもとに進めます。授業支援システムを利用して、テキストをアップロードします。パソコン、タブレット、スマートフォンといった電子機器を用意していることが望ましいです。

**【その他の重要事項】**

授業の内容に関する質問は [junko.nishikawa.54@hosei.ac.jp](mailto:junko.nishikawa.54@hosei.ac.jp) まで。

**【Outline and objectives】**

This course will introduce you to the philosophical concept such as liberty and freedom on which principal western philosophers had been working and elaborating. One of the aims of this course is to show you how these concepts work in the historical texts. At the end of this course, you should be able to express your own views based on these philosophical concepts.

PHL100CA
哲学B
西川 純子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西欧の哲学者の「国」、「共同体」、「政府」に関する思想を紹介し、私たちに馴染みがあるこれらについて西欧の哲学者がどのように論じているかを知ること、幅広い視野と柔軟な思考力を培い、自らの見解を持ち、さらにそれをわかりやすく表現できるようになることを目指します。

### 【到達目標】

受講生が西欧の代表的な哲学者が国、共同体、政府について語っていた内容を説明できる。それらを参考にして、自らの考えを深めて、それを分かりやすく表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

### 【授業の進め方と方法】

各哲学者のテキストを読む前に、理解を深めるために時代背景とその哲学者の思想について紹介します。その後、テキストを精読して解説を行います。動画配信を中心としたオンデマンド授業になります。質問はメール（junko.nishikawa.54@hosei.ac.jp）で受け付けます。課題の提出は学習支援システムを利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の説明と質疑応答
2	古代ギリシアにおける国家(1)	プラトン『国家』第4章
3	古代ギリシアにおける国家(2)	アリストテレス『政治学』第1篇
4	古代ギリシアにおける国家(3)	プラトンとアリストテレスの政体論
5	国家の起源について(1)	ホッブス『リヴァイアサン』第2部第17章
6	国家の起源について(2)	スピノザ『政治・神学論』第20章
7	国家の起源について(3)	ロック『市民政府論』第9章
8	国家の起源について(4)	ルソー『社会契約論』第1篇第6章と第7章
9	国家の起源について(5)	エンゲルス『家族・私有財産・国家の起源』
10	ここまでの振り返り	質疑応答に答えて、「社会契約」説をまとめる。
11	国家とは何か(2)	シュミット『政治的なるものの概念』
12	国家とは何か(3)	フリードリヒ・ハイエク『法と立法と自由』(3)
13	国家とは何か(4)	ローバート・ノージック『アナキー・国家・ユートピア 国家の正当性とその限界』第10章
14	質疑応答とまとめ	学生からの質問に答え、これまでのリアクションペーパーにコメントを行う。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は「学習支援システム」にアップロードされた哲学者のテキストを予習として読んでから、授業に臨むこと。

本講義の予習・復習時間は、各1時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

使用しない。授業で使用するテキストは「学習支援システム」にアップロードします。

### 【参考書】

プラトン『国家』(上)(下)(藤沢令夫訳) 岩波文庫  
アリストテレス『政治学』(山本光雄訳) 岩波文庫  
ホッブス『リヴァイアサン』1~4 (水田洋訳) 岩波文庫  
スピノザ『神学・政治論』(吉田量彦訳) 光文社古典新訳文庫  
ロック『市民政府論』(角田安正訳) 光文社古典新訳文庫  
ルソー『社会契約論』(作田啓一訳) 白水Uブックス  
エンゲルス『家族・私有財産・国家の起源』(戸原四郎訳) 岩波文庫  
カール・シュミット『政治的なるものの概念』(田中浩・原田武雄訳)、未来社  
フリードリヒ・ハイエク『法と立法と自由 3』(渡辺茂訳)、春秋社  
ローバート・ノージック『アナキー・国家・ユートピア 国家の正当性とその限界』(嶋津格訳) 木鐸社

### 【成績評価の方法と基準】

授業のリアクションペーパー (50%) と学期末レポート (50%)。

### 【学生の意見等からの気づき】

一方通行の授業となりがちだったので、学生のリアクションペーパーを紹介しました。また、有意義な質問が寄せられたさいには掲示板を利用してディスカッションをオンライン上で行う予定です。

### 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム Hoppii を利用して、テキストをアップロードします。課題の提出も学習支援システム Hoppii を利用する予定です。パソコン、タブレット、スマートフォンといった電子機器を用意していることが望ましいです。

### 【その他の重要事項】

質問等は西川までメールで聞いてください (junko.nishikawa.54@hosei.ac.jp)

### 【Outline and objectives】

This course will introduce you to the philosophical concept such as nation and government on which principal western philosophers had been working and elaborating. One of the aims of this course is to show you how these concepts work in the historical texts. At the end of this course, you should be able to express your own views based on these philosophical concepts.

PHL100CA
<b>論理学 A</b>
町田 一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「演繹」と言われる論理的思考の技法を身につける。伝統的論理学における名辞の用法や命題の種類について学び、そのうえで、三段論法を用いて演繹的に妥当な推理が行えることを目標とする。

**【到達目標】**

日常言語（日本語）を用いて演繹的に妥当な推論を、推論規則にしたがって構成することができる。演繹的に妥当な推論とそうでない推論を見分けられるようになるので、基本的な論理的思考力を身につけることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義による解説と問題演習をあわせて授業をすすめる。また、質問や疑問、不明なところはリアクションペーパーに書いてもらう。その内容については次の授業でコメントし、双方向型授業を心がける。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
1	論理的思考とは何か	「論理的に考える」とはどういうことなのか具体例を通して考察する
2	伝統的論理学とは何か	アリストテレスの「オルガノン」について解説する
3	名辞とは何か	名辞（Term）の内包と外延について学ぶ
4	定義とは何か	定義項と被定義項、実在的定義と名目的定義の区別、および循環定義について学ぶ
5	命題とは何か	命題の分類：定言命題・仮言命題・連言命題・選言命題について学ぶ
6	命題の真と偽とは何か	トートロジーと矛盾について学ぶ
7	演繹とは何か	前提と結論のつながりを見つめる
8	論証とは何か	論証図を作成し、演繹的に妥当な推論の構造を学ぶ
9	三段論法とは何か	定言三段論法の基本構造について学び、その演繹的妥当性を理解する
10	さまざまな三段論法 I	仮言三段論法の基本構造について学び、その演繹的妥当性を理解する
11	さまざまな三段論法 II	ディレンマの基本構造について学び、その問題点について批評する
12	さまざまな三段論法 III	省略三段論法の基本構造について学び、その問題点について批評する
13	さまざまな三段論法 IV	実践的三段論法の基本構造について学び、その問題点について批評する
14	期末試験：まとめと解説	これまでの授業内容全範囲の理解度をはかる試験を行う

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

準備学習に 1 時間、復習に 2 時間を要する。授業において提示された課題ないし練習問題を自分で解いてみる事が望まれる。

**【テキスト（教科書）】**

使用しない。

**【参考書】**

とくに指定しない。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験（100 %）

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更のため記載できない。

**【学生が準備すべき機器他】**

とくになし。

**【その他の重要事項】**

春学期・秋学期相互に関連した内容であるため、あわせて受講することが望ましい。

**【Outline and objectives】**

Learn the principle of deduction of the logic (concept, definition, logical low, etc.)

PHL100CA
<b>論理学 B</b>
町田 一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「帰納」と言われる論理的思考の技法を身につける。あらゆる科学的考察の基礎となる帰納的推論の構造を理解し、演繹的推論との違いを理解することを目標とする。

**【到達目標】**

日常言語（日本語）を用いて、枚挙的推理をはじめとしたさまざまな帰納的推論の基本構造が理解できる。妥当な帰納的推論とそうでない誤謬推理や詭弁を識別して応用的な論理的思考力を身につけることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義による解説と問題演習をあわせて授業をすすめる。また、質問や疑問、不明なところはリアクションペーパーに書いてもらう。その内容については次の授業でコメントし、双方向型授業を心がける。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】****秋学期**

回	テーマ	内容
1	帰納とは何か	演繹と帰納の違いについて理解する
2	帰納的推論の歴史的發展	フランシス・ベーコンの帰納法と経験科学について解説する
3	帰納的一般化と統計的一般化とは何か	帰納的推論と統計的推論の違いについて理解する
4	さまざまな帰納的推論 I	枚挙的帰納推理の基本構造とその問題点について学ぶ
5	さまざまな帰納的推論 II	J.S. ミルの一致法と差異法の基本構造とその問題点について学ぶ
6	さまざまな帰納的推論 III	一致差異併用法の基本構造とその問題点について学ぶ
7	さまざまな帰納的推論 IV	共変法と剰余法の基本構造とその問題点について学ぶ
8	さまざまな帰納的推論 V	因果的推論の基本構造とその問題点について学ぶ
9	さまざまな帰納的推論 VI	類比推論の基本構造とその問題点について学ぶ
10	帰納的推論と様相論理 I	反事実条件命題と「可能世界」の用法について理解する
11	帰納的推論と様相論理 II	必然命題と偶然命題の区別を理解する
12	虚偽論 I	正しいように見えるが論理的には誤っている推論について学び、例題を批評する
13	虚偽論 II	「詭弁」とは何かを学び、例題を批評する
14	試験・まとめと解説	これまでの授業内容全範囲の理解度をはかる試験を行う

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

準備学習に 1 時間、復習に 2 時間を要する。授業において提示された課題ないし練習問題を自分で解いてみる事が望まれる。

**【テキスト（教科書）】**

使用しない。

**【参考書】**

とくに指定しない。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験（100 %）

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更のため記載できない。

**【学生が準備すべき機器他】**

とくになし。

**【その他の重要事項】**

春学期・秋学期相互に関連した内容であるため、あわせて受講することが望ましい。

**【Outline and objectives】**

Learn the principle of the thought of induction (basic inference form, etc.)

PHL100CA
<b>論理学 A</b>
町田 一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「演繹」と言われる論理的思考の技法を身につける。伝統的論理学における名辞の用法や命題の種類について学び、そのうえで、三段論法を用いて演繹的に妥当な推理が行えることを目標とする。

**【到達目標】**

日常言語（日本語）を用いて演繹的に妥当な推論を、推論規則にしたがって構成することができる。演繹的に妥当な推論とそうでない推論を見分けられるようになるので、基本的な論理的思考力を身につけることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義による解説と問題演習をあわせて授業をすすめる。また、質問や疑問、不明なところはリアクションペーパーに書いてもらう。その内容については次の授業でコメントし、双方向型授業を心がける。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
1	論理的思考とは何か	「論理的に考える」とはどういうことなのか具体例を通して考察する
2	伝統的論理学とは何か	アリストテレスの「オルガノン」について解説する
3	名辞とは何か	名辞（Term）の内包と外延について学ぶ
4	定義とは何か	定義項と被定義項、実在的定義と名目的定義の区別、および循環定義について学ぶ
5	命題とは何か	命題の分類：定言命題・仮言命題・連言命題・選言命題について学ぶ
6	命題の真と偽とは何か	トートロジーと矛盾について学ぶ
7	演繹とは何か	前提と結論のつながりを見分ける
8	論証とは何か	論証図を作成し、演繹的に妥当な推論の構造を学ぶ
9	三段論法とは何か	定言三段論法の基本構造について学び、その演繹的妥当性を理解する
10	さまざまな三段論法 I	仮言三段論法の基本構造について学び、その演繹的妥当性を理解する
11	さまざまな三段論法 II	ディレンマの基本構造について学び、その問題点について批評する
12	さまざまな三段論法 III	省略三段論法の基本構造について学び、その問題点について批評する
13	さまざまな三段論法 IV	実践的三段論法の基本構造について学び、その問題点について批評する
14	期末試験：まとめと解説	これまでの授業内容全範囲の理解度をはかる試験を行う

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

準備学習に 1 時間、復習に 2 時間を要する。授業において提示された課題ないし練習問題を自分で解いてみるのが望まれる。

**【テキスト（教科書）】**

使用しない。

**【参考書】**

とくに指定しない。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験（100 %）

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更のため記載できない。

**【学生が準備すべき機器他】**

とくになし。

**【その他の重要事項】**

春学期・秋学期相互に関連した内容であるため、あわせて受講することが望ましい。

**【Outline and objectives】**

Learn the principle of the thought of the logic (concept, definition, logic low, etc.)

PHL100CA
<b>論理学 B</b>
町田 一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「帰納」と言われる論理的思考の技法を身につける。あらゆる科学的考察の基礎となる帰納的推論の構造を理解し、演繹的推論との違いを理解することを目標とする。

**【到達目標】**

日常言語（日本語）を用いて、枚挙的推理をはじめとしたさまざまな帰納的推論の基本構造が理解できる。妥当な帰納的推論とそうでない誤謬推理や詭弁を識別して応用的な論理的思考力を身につけることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義による解説と問題演習をあわせて授業をすすめる。また、質問や疑問、不明なところはリアクションペーパーに書いてもらう。その内容については次の授業でコメントし、双方向型授業を心がける。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】****秋学期**

回	テーマ	内容
1	帰納とは何か	演繹と帰納の概念的区別を理解する
2	帰納的推論の歴史的発展	フランシス・ベーコンの帰納法と経験科学について解説する
3	帰納的一般化と統計的一般化とは何か	帰納的推論と統計的推論の違いについて理解する
4	さまざまな帰納的推論 I	枚挙的帰納推理の基本構造とその問題点について学ぶ
5	さまざまな帰納的推論 II	J.S. ミルの一致法と差異法の基本構造とその問題点について学ぶ
6	さまざまな帰納的推論 III	一致差異併用法の基本構造とその問題点について学ぶ
7	さまざまな帰納的推論 IV	共変法と剰余法の基本構造とその問題点について学ぶ
8	さまざまな帰納的推論 V	因果的推論の基本構造とその問題点について学ぶ
9	さまざまな帰納的推論 VI	類比推論の基本構造とその問題点について学ぶ
10	帰納的推論と様相論理 I	反事実条件命題と「可能世界」の用法について理解する
11	帰納的推論と様相論理 II	必然命題と偶然命題の区別を理解する
12	虚偽論 I	正しいように見えるが論理的には誤っている推論について学び、例題を批評する
13	虚偽論 II	「詭弁」とは何かを学び、例題を批評する
14	試験・まとめと解説	これまでの授業内容全範囲の理解度をはかる試験を行う

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

準備学習に 1 時間、復習に 2 時間を要する。授業において提示された課題ないし練習問題を自分で解いてみるのが望まれる。

**【テキスト（教科書）】**

使用しない。

**【参考書】**

とくに指定しない。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験（100%）

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更のため記載できない。

**【学生が準備すべき機器他】**

とくになし。

**【その他の重要事項】**

春学期・秋学期相互に関連した内容であるため、あわせて受講することが望ましい。

**【Outline and objectives】**

Learn the principle of the thought of induction (basic inference form, etc.)

CUA100CA
<b>民俗学 A</b>
<b>西村 敏也</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

私たちは、古くから続く現象の中で、価値あると判断したものを伝統・文化と考え、次世代に守り伝えていこうとする習性を持つ。ただし、私たちは、伝統・文化というと、多くは国家・民族などの大きな単位の社会集団が共有する、いわゆるハイカルチャーをイメージしている場合が多い。例えば、歌舞伎、能、落語などの芸能や寿司などの日本食の類いである。しかし、私たちは、これらとは異なる生活に密着した文化、すなわち民俗文化も、やはり価値あるものと考え、語りやしぐさといった伝達方法を中心に次世代に伝承してきた。それは、具体的には、家族や一族、村などといった小さな単位の社会集団が伝承母体となり保持してきた衣食住、冠婚葬祭、生業などの民俗文化である。ただ、近代以後、特に高度経済成長以後、国の政策やメディアの影響で民俗文化は、画一化し、衰退してきていることも事実である。本講義では様々な民俗文化に関し、伝承母体、種類、生成・伝播・変容・消滅などを切り口とし、解説していきたい。同時に、その学びを以て、日本、日本文化、日本歴史についても考えたいと思う。民俗学Aでは、民俗全般を取り扱う。

**【到達目標】**

民俗学の概要、その用語の理解と習得。生活・民俗文化への関心を持つ。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

毎週、Hoppii 上に、パワーポイント、解説、関連資料等を配信する。学習成果を確認するため、毎回リアクションペーパーを提出してもらう。リアクションペーパーから、皆で共有すべき問題点を発見し、授業にフィードバックしていく。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義内容・進め方の紹介
2	民俗・民俗文化の展開	民俗学概説
3	民俗学の歴史－柳田国男とその批判継承－ 1	民俗学史 1
4	民俗学の歴史－柳田国男とその批判継承－	民俗学史 2
5	家・家族、一族とすまいの民俗	「家」制度の仕組み、家屋
6	食の民俗	伝統色と郷土料理
7	村と都市の民俗の比較 1	村の組織・暮らしの作法
8	村と都市の民俗の比較 2	町の組織・暮らしの作法
9	婚姻の民俗 1	伝統的社会の婚姻儀礼の視聴覚資料視聴
10	婚姻の民俗 2	伝統的社会の婚姻儀礼
11	出産・生育の民俗 1	伝統的社会の出産・生育儀礼の視聴覚資料視聴
12	出産・生育の民俗 2	伝統的社会の出産・生育儀礼
13	生業の民俗	農村・山村・海村の生業
14	まとめ	総論

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

参考図書を利用して予習すること。その他、民俗学に関する書籍を、適宜読んでみる。日頃から、生活・民俗文化と考えられる事象を観察してみる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは指定しない。毎回プリントを、Hoppii において配信する。

**【参考書】**

谷口貢・松崎憲三編著『民俗学講義』（八千代出版）2000 円＋税  
宮本架姿雄・谷口貢編著『日本の民俗信仰』（八千代出版）2300 円＋税  
福田アジオ他編『図説 日本民俗学』（吉川弘文館）2600 円＋税  
福田アジオ他編『図解案内 日本の民俗』（吉川弘文館）3300 円＋税  
市川秀之他編『はじめて学ぶ民俗学』（ミネルヴァ書房）2800 円＋税  
宮田登『民俗学への招待』（筑摩書房）800 円＋税

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（出席状況・リアクションペーパー）50%、レポート 50%

**【学生の意見等からの気づき】**

質問に出来る限り対応し、わかりやすい授業になるよう心がけたい。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

質問は、Hoppii の「授業内掲示板」で受け付ける。  
民俗学Bと併せて履修することが望ましい。

**【Outline and objectives】**

Folklore are the Bunka when the family, a clan and a social group of the small unit of the village stuck to handing and a life of maintained food, clothing and shelter, ceremonial occasion and bread-and-butter job. After it achieves economic growth in particular after the modern times, it's standardized or folklore are being lost by a national policy and influence of media. It's being explained about folklore from the various angles in this lecture. I'd like also to think of Japan about Japanese culture and Japanese history by leading with folklore at the same time.

CUA100CA
<b>民俗学 B</b>
<b>西村 敏也</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは、古くから続く現象の中で、価値あると判断したものを伝統・文化と考え、次世代に守り伝えていこうとする習性を持つ。ただし、私たちは、伝統・文化というと、多くは国家・民族などの大きな単位の社会集団が共有する、いわゆるハイカルチャーをイメージしている場合が多い。例えば、歌舞伎、能、落語などの芸能や寿司などの日本食の類いである。しかし、私たちは、これらとは異なる生活に密着した文化、すなわち民俗文化も、やはり価値あるものと考え、語りやしぐさといった伝達方法を中心に次世代に伝承してきた。それは、具体的には、家族や一族、村などといった小さな単位の社会集団が伝承母体となり保持してきた衣食住、冠婚葬祭、生業などの民俗文化である。ただ、近代以後、特に高度経済成長以後、国の政策やメディアの影響で民俗文化は、画一化し、衰退してきていることも事実である。本講義では様々な民俗文化に関し、伝承母体、種類、生成・伝播・変容・消滅などを切り口とし、解説していきたい。同時に、その学びを以て、日本、日本文化、日本歴史についても考えたいと思う。民俗学Bでは、主に民俗宗教をテーマに取り扱う。

### 【到達目標】

民俗学の概要、その用語の理解と習得。生活・民俗文化への関心を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

毎週、Hoppii 上に、パワーポイント、解説、関連資料等を配信する。学習成果を確認するため、毎回リアクションペーパーを提出してもらう。リアクションペーパーから、皆で共有すべき問題点を発見し、授業にフィードバックしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

### 【授業計画】

#### 春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義内容・進め方の紹介
2	先祖祭祀と葬送儀礼 1	葬送儀礼の視聴覚資料視聴
3	先祖祭祀と葬送儀礼 2	先祖祭祀と葬送儀礼概説
4	年中行事	暦と儀礼
5	村の民俗宗教 1	仏教民俗
6	村の民俗宗教 2	カミ信仰
7	祭りの民俗 1	村落
8	祭りの民俗 2	都市
9	巡礼・参詣 1	巡礼・参詣概説
10	巡礼・参詣 2	伊勢
11	巡礼・参詣 3	四国八十八ヶ所
12	巡礼・参詣 4	観音霊場
13	巡礼・参詣 5	山岳宗教
14	まとめ	総論

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考図書を利用して予習すること。その他、民俗学に関する書籍を、適宜読んでみる。日頃から、生活・民俗文化と考えられる事象を観察してやること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。毎回プリントを Hoppii において配布する。

### 【参考書】

谷口貢・松崎憲三編著『民俗学講義』（八千代出版）2000 円＋税  
宮本袈裟雄・谷口貢編著『日本の民俗信仰』（八千代出版）2300 円＋税  
福田アジオ他編『図説 日本民俗学』（吉川弘文館）2600 円＋税  
福田アジオ他編『図解案内 日本の民俗』（吉川弘文館）3300 円＋税  
市川秀之他編『はじめて学ぶ民俗学』（ミネルヴァ書房）2800 円＋税  
宮田登『民俗学への招待』（筑摩書房）800 円＋税

### 【成績評価の方法と基準】

平常点（出席状況・リアクションペーパー）50%、レポート 50%

### 【学生の意見等からの気づき】

質問に出来る限り対応し、わかりやすい授業になるよう心がけたい。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【その他の重要事項】

質問は、Hoppii の「授業内掲示板」で受け付ける。  
民俗学Aと併せて履修することが望ましい。

### 【Outline and objectives】

Folklore are the Bunka when the family, a clan and a social group of the small unit of the village stuck to handing and a life of maintained food, clothing and shelter, ceremonial occasion and bread-and-butter job. After it achieves economic growth in particular after the modern times, it's standardized or folklore are being lost by a national policy and influence of media. It's being explained about folklore from the various angles in this lecture. I'd like also to think of Japan about Japanese culture and Japanese history by leading with folklore at the same time.

CUA100CA
<b>民俗学 A</b>
<b>西村 敏也</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

私たちは、古くから続く現象の中で、価値あると判断したものを伝統・文化と考え、次世代に守り伝えていこうとする習性を持つ。ただし、私たちは、伝統・文化というと、多くは国家・民族などの大きな単位の社会集団が共有する、いわゆるハイカルチャーをイメージしている場合が多い。例えば、歌舞伎、能、落語などの芸能や寿司などの日本食の類いである。しかし、私たちは、これらとは異なる生活に密着した文化、すなわち民俗文化も、やはり価値あるものと考え、語りやしぐさといった伝達方法を中心に次世代に伝承してきた。それは、具体的には、家族や一族、村などといった小さな単位の社会集団が伝承母体となり保持してきた衣食住、冠婚葬祭、生業などの民俗文化である。ただ、近代以後、特に高度経済成長以後、国の政策やメディアの影響で民俗文化は、画一化し、衰退してきていることも事実である。本講義では様々な民俗文化に関し、伝承母体、種類、生成・伝播・変容・消滅などを切り口とし、解説していきたい。同時に、その学びを以て、日本、日本文化、日本歴史についても考えたいと思う。民俗学Aでは、民俗全般を取り扱う。

**【到達目標】**

民俗学の概要、その用語の理解と習得。生活・民俗文化への関心を持つ。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

毎週、Hoppii 上に、パワーポイント、解説、関連資料等を配信する。学習成果を確認するため、毎回リアクションペーパーを提出してもらう。リアクションペーパーから、皆で共有すべき問題点を発見し、授業にフィードバックしていく。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義内容・進め方の紹介
2	民俗・民俗文化の展開	民俗学概説
3	民俗学の歴史－柳田国男とその批判継承－ 1	民俗学史 1
4	民俗学の歴史－柳田国男とその批判継承－	民俗学史 2
5	家・家族、一族とすまいの民俗	「家」制度の仕組み、家屋
6	食の民俗	伝統色と郷土料理
7	村と都市の民俗の比較 1	村の組織・暮らしの作法
8	村と都市の民俗の比較 2	町の組織・暮らしの作法
9	婚姻の民俗 1	伝統的社会の婚姻儀礼の視聴覚資料視聴
10	婚姻の民俗 2	伝統的社会の婚姻儀礼
11	出産・生育の民俗 1	伝統的社会の出産・生育儀礼の視聴覚資料視聴
12	出産・生育の民俗 2	伝統的社会の出産・生育儀礼
13	生業の民俗	農村・山村・海村の生業
14	まとめ	総論

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

参考図書を利用して予習すること。その他、民俗学に関する書籍を、適宜読んでみる。日頃から、生活・民俗文化と考えられる事象を観察してみる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは指定しない。毎回プリントを Hoppii において配布する。

**【参考書】**

谷口貢・松崎憲三編著『民俗学講義』（八千代出版）2000 円＋税  
宮本架姿雄・谷口貢編著『日本の民俗信仰』（八千代出版）2300 円＋税  
福田アジオ他編『図説 日本民俗学』（吉川弘文館）2600 円＋税  
福田アジオ他編『図解案内 日本の民俗』（吉川弘文館）3300 円＋税  
市川秀之他編『はじめて学ぶ民俗学』（ミネルヴァ書房）2800 円＋税  
宮田登『民俗学への招待』（筑摩書房）800 円＋税

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（出席状況・リアクションペーパー）50%、レポート 50%

**【学生の意見等からの気づき】**

質問に出来る限り対応し、わかりやすい授業になるよう心がけたい。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

質問は、Hoppii の「授業内掲示板」で受け付ける。

民俗学Bと併せて履修することが望ましい。

**【Outline and objectives】**

Folklore are the Bunka when the family, a clan and a social group of the small unit of the village stuck to handing and a life of maintained food, clothing and shelter, ceremonial occasion and bread-and-butter job. After it achieves economic growth in particular after the modern times, it's standardized or folklore are being lost by a national policy and influence of media. It's being explained about folklore from the various angles in this lecture. I'd like also to think of Japan about Japanese culture and Japanese history by leading with folklore at the same time.

CUA100CA
<b>民俗学 B</b>
<b>西村 敏也</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは、古くから続く現象の中で、価値あると判断したものを伝統・文化と考え、次世代に守り伝えていこうとする習性を持つ。ただし、私たちは、伝統・文化というと、多くは国家・民族などの大きな単位の社会集団が共有する、いわゆるハイカルチャーをイメージしている場合が多い。例えば、歌舞伎、能、落語などの芸能や寿司などの日本食の類いである。しかし、私たちは、これらとは異なる生活に密着した文化、すなわち民俗文化も、やはり価値あるものと考え、語りやしぐさといった伝達方法を中心に次世代に伝承してきた。それは、具体的には、家族や一族、村などといった小さな単位の社会集団が伝承母体となり保持してきた衣食住、冠婚葬祭、生業などの民俗文化である。ただ、近代以後、特に高度経済成長以後、国の政策やメディアの影響で民俗文化は、画一化し、衰退してきていることも事実である。本講義では様々な民俗文化に関し、伝承母体、種類、生成・伝播・変容・消滅などを切り口とし、解説していきたい。同時に、その学びを以て、日本、日本文化、日本歴史についても考えたいと思う。民俗学Bでは、主に民俗宗教をテーマに取り扱う。

#### 【到達目標】

民俗学の概要、その用語の理解と習得。生活・民俗文化への関心を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

毎週、Hoppii 上に、パワーポイント、解説、関連資料等を配信する。学習成果を確認するため、毎回リアクションペーパーを提出してもらう。リアクションペーパーから、皆で共有すべき問題点を発見し、授業にフィードバックしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

#### 【授業計画】

##### 春学期

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義内容・進め方の紹介
2	先祖祭祀と葬送儀礼 1	葬送儀礼の視聴覚資料視聴
3	先祖祭祀と葬送儀礼 2	先祖祭祀と葬送儀礼概説
4	年中行事	暦と儀礼
5	村の民俗宗教 1	仏教民俗
6	村の民俗宗教 2	カミ信仰
7	祭りの民俗 1	村落
8	祭りの民俗 2	都市
9	巡礼・参詣 1	巡礼・参詣概説
10	巡礼・参詣 2	伊勢
11	巡礼・参詣 3	四国八十八ヶ所
12	巡礼・参詣 4	観音霊場
13	巡礼・参詣 5	山岳宗教
14	まとめ	総論

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考図書を利用して予習すること。その他、民俗学に関する書籍を、適宜読んでみる。日頃から、生活・民俗文化と考えられる事象を観察してやること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。毎回プリントを Hoppii において配信する。

#### 【参考書】

谷口貢・松崎憲三編著『民俗学講義』（八千代出版）2000 円＋税  
宮本袈裟雄・谷口貢編著『日本の民俗信仰』（八千代出版）2300 円＋税  
福田アジオ他編『図説 日本民俗学』（吉川弘文館）2600 円＋税  
福田アジオ他編『図解案内 日本の民俗』（吉川弘文館）3300 円＋税  
市川秀之他編『はじめて学ぶ民俗学』（ミネルヴァ書房）2800 円＋税  
宮田登『民俗学への招待』（筑摩書房）800 円＋税

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点（出席状況・リアクションペーパー）50%、レポート 50%

#### 【学生の意見等からの気づき】

質問に出来る限り対応し、わかりやすい講義になるよう心がけたい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

#### 【その他の重要事項】

質問は、Hoppii の「授業内掲示板」で受け付ける。  
民俗学Aと併せて履修することが望ましい。

#### 【Outline and objectives】

Folklore are the Bunka when the family, a clan and a social group of the small unit of the village stuck to handing and a life of maintained food, clothing and shelter, ceremonial occasion and bread-and-butter job. After it achieves economic growth in particular after the modern times, it's standardized or folklore are being lost by a national policy and influence of media. It's being explained about folklore from the various angles in this lecture. I'd like also to think of Japan about Japanese culture and Japanese history by leading with folklore at the same time.

PHL100CA
Japanese Culture A
李 址遠
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces basic knowledge and concepts of modern Japanese culture. By examining diverse aspects of Japanese culture and society, students will learn various conceptual tools and perspectives to better understand the modern Japanese culture in which they live.

## 【到達目標】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- explain basic concepts of analyzing culture,
- explain basic concepts and characteristics of Japanese culture,
- analyze specific aspects of Japanese culture in a contextualized way.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

Each class is mainly conducted with a lecture and discussion on a specific theme. At the end of the course, students will give presentations on themes that they find interesting. Submitting a reaction paper is required after each class. Feedback and comments will be given in the class.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Guidance of the course/ Defining the concept of culture
2	An overview of Japanese Culture	Concepts of Japan, Japanese culture, and the Japanese
3	Japan's emic conceptions	Etic and emic perspectives in analysis of culture
4	Language	History and characteristics of Japanese language
5	Family culture	The Japanese family in sociohistorical contexts
6	School culture	Diversity of school cultures and their characteristics
7	Work culture	Japan's economic development and work ethos
8	Buraku culture	Minority groups in contemporary Japan
9	Globalisation and cultural nationalism	Impact of globalization on Japanese culture
10	Mid-term	Test on covered themes
11	Preparation for presentation	Deciding themes and gathering information
12	Presentations 1	Student presentations & feedback
13	Presentations 2	Student presentations & feedback
14	Review	Summary

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Students are expected to preview the textbook and review class materials distributed in each class.

## 【テキスト（教科書）】

Yoshio Sugimoto ed. Cambridge Companion to Modern Japanese Culture. Cambridge UP, 2009 (can be downloaded free from the Hosei Library website)

## 【参考書】

Roger J. Davies, Osamu Ikeno. The Japanese Mind: Understanding Contemporary Japanese Culture. Tuttle Publishing, 2002

## 【成績評価の方法と基準】

Reaction papers: 30%, Midterm: 20%, Presentation: 20%, Class participation and contribution: 30%

## 【学生の意見等からの気づき】

Not applicable due to the change of the lecturer.

## 【Outline and objectives】

This course introduces basic knowledge and concepts of modern Japanese culture. By examining diverse aspects of Japanese culture and society, students will learn various conceptual tools and perspectives to better understand the modern Japanese culture in which they live.

PHL100CA
Japanese Culture B
李 址遠
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, students will read American anthropologist Ruth Benedict's classic book, "The Chrysanthemum and the Sword: Patterns of Japanese Culture," one of the most influential studies on Japanese culture. By examining its contents and criticisms toward it, students will learn the underpinning concepts of Japanese culture and the importance of a critical understanding of culture.

## 【到達目標】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- explain underpinning concepts of Japanese culture,
- critically assess various discourses on Japanese culture.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

The course proceeds with summarizing and discussing the contents of the text or criticisms toward it. Students will have to take charge of summarizing one chapter or criticism in the course. Submitting a reaction paper is required. Feedback will be done in the class.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction/ Reading Chapter 1	Guidance of the course/ Background, aim, and methods
2	Reading Chapters 2-4	From Kamakura period to the Meiji reform
3	Reading Chapters 5-6	'On' (恩) and 'Gimu' (義務)
4	Reading Chapters 7-8	Two kinds of 'Giri' (義理)
5	Reading Chapter 9	Dealing with personal desire
6	Reading Chapter 10	Virtue and Shame
7	Reading Chapter 11	Self-Discipline
8	Reading Chapter 12	Socialization
9	Reading Chapter 13	The Japanese after the war/ Review of the book
10	Examining Criticisms (1)	Watsuji (1949) & Nakamura (1997)
11	Examining Criticisms (2)	Kent (1999), Ryang (2002)
12	Examining Criticisms (3)	Boles (2006)
13	Examining Criticisms (4)	Kent (2008) & Cave (2010)
14	Review	Review of the course

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Students are expected to preview the textbook and review class materials distributed in each class.

## 【テキスト（教科書）】

Ruth Benedict, The Chrysanthemum and the Sword: Patterns of Japanese Culture. Mariner Books, (2006[1946])

## 【参考書】

Roger J. Davies, Osamu Ikeno. The Japanese Mind: Understanding Contemporary Japanese Culture. Tuttle Publishing, 2002

## 【成績評価の方法と基準】

Reaction papers: 30%, Chapter summary: 20%, Term paper: 20%, Class participation and contribution: 30%

## 【学生の意見等からの気づき】

Not applicable due to the change of the lecturer.

## 【Outline and objectives】

In this course, students will read American anthropologist Ruth Benedict's classic book, "The Chrysanthemum and the Sword: Patterns of Japanese Culture," one of the most influential studies on Japanese culture. By examining its contents and criticisms toward it, students will learn the underpinning concepts of Japanese culture and the importance of a critical understanding of culture.

POL100CA
<b>政治学 A</b>
<b>富永 靖敬</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、政治学の導入レベルの授業であり、主に国内政治過程を対象とし、政治に求められる役割、その中心的な主体となる国家の諸側面について学習する。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の政治を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に付けることを目的とする。

### 【到達目標】

1. 現代政治を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること
2. 政治の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること
3. 日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」「DP9」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本講義は経済学部授業方針に従い、オンデマンド授業とする。オンデマンド授業は、コンテンツ（動画）配信を中心とし、曜日時間・教室の配置をせずに実施するものである。本講義では、講義資料・講義動画での授業を基本としたうえで、適宜授業内容の理解度を確保するための小テスト、オフィスアワーでの質疑応答を行うことで授業内容の理解を促す。講義動画、講義資料は学習支援システム（また Google Drive でのファイル共有）を通じて配信し、小テストは学習支援システムのテスト機能を用いる。また、教員との質疑応答は Zoom を用いて行う。講義動画は 1 本 60 分前後を基本とする。なお課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】

#### 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	政治のとらえ方	授業概要、市場の失敗、分析視角
第 2 回	政治権力と秩序	財の種類とフリーライダー、集合行為問題、政治の役割、政治の失敗
第 3 回	国家という枠組み	国家とは、国民とは。国家のある世界・ない世界、国家の役割
第 4 回	政治体制 I	政治体制の分類、民主化の波
第 5 回	政治体制 II	政治体制の移行とその要因、福祉国家
第 6 回	戦後の日本政治	戦後から 55 年体制へ、経済復興と自民党長期政権、政治改革
第 7 回	民主主義と選挙	選挙と選挙制度、投票行動、日本における政治参加・投票行動
第 8 回	政党と政党システム	政党の役割（意見の表出と集約機能）、政党システム、政党と政治家
第 9 回	執政とアカウントビリティ	政権のタイプ、選挙制度と政権のタイプ、戦後日本の首相
第 10 回	権力の分割	議院内閣制と大統領、立法における権力の分割、司法機関の独立
第 11 回	国会	国会の特徴、立法過程、国会の評価

第 12 回	官僚制と政官関係	政策過程、官僚の役割、官僚制問題、日本の官僚制
第 13 回	利益団体	ロビー活動とレント、政治家・官僚・利益団体
第 14 回	復習	学期全体のまとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講学生は、授業前に指定されたテキストを読むことが求められます。また、講義ごとに授業で用いたスライド・資料に基づき復習することが望ましいです。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

砂原庸介・稗田健志・多湖淳（2015）『政治学の第一歩（有斐閣ストゥディア）』有斐閣。定価 2,052 円（本体 1,900 円）ISBN978-4-641-15025-6

### 【参考書】

久米郁男・川出良枝・古城佳子・田中愛治・真淵勝（2011）『政治学 補訂版』有斐閣。定価 3,672 円（本体 3,400 円）ISBN 978-4-641-05377-9  
浅古泰史（2018）『ゲーム理論で考える政治学 フォーマルモデル入門』有斐閣。定価 2,860 円（本体 2,600 円）ISBN978-4-641-14928-1  
上神貴佳・三浦まり編（2018）『日本政治の第一歩（有斐閣ストゥディア）』有斐閣。定価 2,052 円（本体 1,900 円）ISBN978-4-641-15054-6  
飯田健・松林哲也・大村華子（2015）『政治行動論 有権者は政治を変えられるのか（有斐閣ストゥディア）』有斐閣。定価 1,944 円（本体 1,800 円）ISBN978-4-641-15029-4

### 【成績評価の方法と基準】

本授業は、小テスト（30%）と期末試験（70%）にて評価を行う。期末試験は、指定の日・時間内にて行うが、複数回試験日を設けることで、すべての受講生が受験できるように配慮する。学生は複数回の試験日のうちどれか一つ、あるいはすべてを受験しても構わない。すべてを受験した場合には点数の高い方を採用する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

### 【学生が準備すべき機器他】

本講義はオンデマンド授業で行うため、動画、講義資料を視聴・確認できるデバイス（携帯、タブレット、PC など）、オンライン環境が必要となる。

### 【その他の重要事項】

オフィスアワーの時間は適宜学習支援システムを通じて連絡する。

### 【Outline and objectives】

This course introduces the basic concepts of political science, historical development, and relevant theories developed for explaining domestic political processes. Particularly, we address the following questions: What is politics? What characterizes democracy and autocracy? What is the electoral system and are there any differences among democratic countries? How do those varieties affect political consequences? What factors specify the presidential system and the parliamentary system? We also cover the roles of an interest group, a local government, and media. In addressing these questions, we illustrate those relevant concepts and theories through actual cases across the world. At the completion of this course, students will have: (1) an understanding of not just the basic nature of politics but also varieties of the political system and the logic of political decision-making, (2) analytical thinking skills not just to apply relevant theories to actual political cases, but also to find out any drawback of the existing theories. No prerequisites are required for this course.

POL100CA
<b>政治学 B</b>
<b>富永 靖敬</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義は、政治学の導入レベルの授業であり、主に国家間関係を対象とし、戦争と平和をめぐる国際関係の諸側面について学習する。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の国際関係を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に付けることを目的とする。

**【到達目標】**

1. 現代政治を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること
2. 政治の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること
3. 日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」「DP9」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本講義は経済学部授業方針に従い、オンデマンド授業とする。オンデマンド授業は、コンテンツ（動画）配信を中心とし、曜日時間・教室の配置をせずに実施するものである。本講義では、講義資料・講義動画での授業を基本としたうえで、適宜授業内容の理解度を確認するための小テスト、オフィスアワーでの質疑応答を行うことで授業内容の理解を促す。講義動画、講義資料は学習支援システム（また Google Drive でのファイル共有）を通じて配信し、小テストは学習支援システムのテスト機能を用いる。また、教員との質疑応答は Zoom を用いて行う。講義動画は 1 本 60 分前後を基本とする。なお課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】****秋学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	政治学 A の復習	前学期の復習、授業概要
第 2 回	マスメディアと政治	世論、統計資料でみる内閣支持率と政治信頼、メディアと世論
第 3 回	国と地方の関係	単一国家と連邦国家、本人代理人関係、地方分権
第 4 回	地方自治	首長、地方議会、住民による統制、条例
第 5 回	市民社会と国民国家	市民社会、ナショナリズムとコスモポリタニズム
第 6 回	国内社会と国際社会	国内社会と国際関係との比較：アナーキー
第 7 回	主権国家システムの拡大	封建的国際システム・主権国家システム、ナショナリズム
第 8 回	伝統的国際政治の視点	リアリズム、勢力均衡論、リベラリズム、国際制度と国際協調
第 9 回	国際制度	調整の手段としての制度、制度の形成、覇権安定論・新自由主義制度論
第 10 回	安全保障と平和	統計資料で見る戦争、アナーキーと国際関係、安全保障のジレンマ
第 11 回	非伝統的安全保障	テロリズム、内戦、海賊

第 12 回	国際政治経済 I	経済的相互依存の拡大、自由貿易、非対称的な相互依存
第 13 回	国際政治経済 II	貧困、貧困とガバナンス、開発援助
第 14 回	復習	学期全体の復習

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

受講学生は、授業前に指定されたテキストを読むことが求められます。また、講義ごとに授業で用いたスライド・資料に基づき復習することが望ましいです。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

砂原 庸介・稗田 健志・多湖 淳（2015）『政治学の第一歩（有斐閣ストゥディア）』有斐閣。定価 2,052 円（本体 1,900 円）ISBN 978-4-641-15025-6

**【参考書】**

浅古泰史（2018）『ゲーム理論で考える政治学 フォーマルモデル入門』有斐閣。定価 2,860 円（本体 2,600 円）ISBN978-4-641-14928-1  
上神貴佳・三浦まり編（2018）『日本政治の第一歩（有斐閣ストゥディア）』有斐閣。定価 2,052 円（本体 1,900 円）ISBN978-4-641-15054-6  
ジョセフ・S・ナイ・ジュニア、デイヴィッド・A・ウェルチ（田中明彦・村田晃嗣訳）（2017）『国際紛争 理論と歴史』有斐閣。定価 3,240 円（本体 3,000 円）ISBN978-4-641-14917-5

**【成績評価の方法と基準】**

本授業は、小テスト（30%）と期末試験（70%）にて評価を行う。期末試験は、指定の日（日）にち・時間内にて行うが、複数回試験日を設けることで、すべての受講生が受験できるよう配慮する。学生は複数回の試験日のうちどれか一つ、あるいはすべてを受験しても構わない。すべて受験した場合には点数の高い方を採用する。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【学生が準備すべき機器他】**

本講義はオンデマンド授業で行うため、動画、講義資料を視聴・確認できるデバイス（携帯、タブレット、PC など）、オンライン環境が必要となる。

**【その他の重要事項】**

オフィスアワーの時間は適宜学習支援システムを通じて連絡する。

**【Outline and objectives】**

This course is split into two sections: The first section covers other topics of domestic politics that are not covered in the Spring semester such as the relationship between media and politics, and between a state government and local government. The second section introduces the essence of international relations, the historical development of the nation-state system, and relevant theories developed for explaining war and peace. Specifically, we address the following questions: What is a sovereign state? How has it been developed? What is the essential difference between domestic politics and international politics? Why does a state keep building military power? What is the role of the international regime such as the United Nations? In addressing these questions, we illustrate those relevant concepts and theories through the actual cases in history as many as possible. At the completion of this course, students will have: (1) the understanding of not just the basic nature of international politics but also varieties of theory explaining interactions between states, (2) the analytical thinking skills to not just apply relevant theories to the actual cases and generate plausible policy implication to deal with its problem, but also find out the pitfalls of the existing theories.

GEO100CA
<b>地理学 A</b>
<b>朴 宗玄</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「地理学」の講義が目指す最終的目標は、細分・専門化されてきた幅広い地理学の研究アプローチを理解するとともに、「空間（地域）」と「人間活動」との関連性を解明することである。講義を通じて、現代の日本・世界を理解する方法と様々な人文地理学を学習する。

**【到達目標】**

授業の到達目標は、地図や統計資料などを通じて世界各国の事情を学習し、諸課題について理解することである。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

授業形態は、教員の講義と授業内での発表、リアクションペーパー提出を求める。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	地理学の課題・方法・見方	地理学の課題・方法・見方について解説する。
2	大都市圏と地域区分の意義	都市をめぐるさまざまな概念を用いて、都市のテリトリーと地域区分の意義を学習する。
3	複写機メーカーの販売ネットワークの空間構造	経済・経営組織は、空間構造をどのように活用しているのかを学習する。事例として、大手複写機メーカーの販売ネットワーク事例に空間構造を学習する。
4	企業の支店配置の原理	大手複写機メーカーの販売ネットワークを用いて、地域区分や支店・営業所配置の原理を学習する。
5	買い物行動圏	東京大都市圏における消費者の買い物行動を用いて、商圏と地域区分を学習する。
6	日本の国土構造の変遷	日本の国土構造の変遷を時期別に区分し、日本の国土構造の特徴を解説する。
7	地域政策と国土構造	日本の国土構造の変遷を時期別に区分し、国土政策の特徴を解説する。
8	日本の地域構造の特徴	統計データに基づいて、日本の国土構造の特徴を学習する。
9	中枢管理機能	中枢管理機能の概念を用いて、中枢管理機能からみた日本の都市システムの構造を学習する。
10	企業行動の空間構造	経済的中枢管理機能を用いて、経済的中枢管理機能からみた日本の都市階層を学習する。
11	支社配置と広域中心都市	日本の主要企業の支社配置を用いて、日本の国家的都市システムにおける広域中心都市の位置づけを学習する。
12	支社立地と日本の国土構造	企業の支社の空間的配置を用いて、日本の国家的都市システムの構造を学習する。

- 13 本社配置と日本の国土構造 企業の本社の空間的配置を用いて、日本の国家的都市システムの構造を学習する。
- 14 まとめ 地理学で学習した内容を整理し、地理学の課題を学習する。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

地理に関連する社会問題について深く考え、授業中の議論に備えること。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは指定しないが、個別の文献は授業中で指示する。

**【参考書】**

高橋ほか編『ジオグラフィー入門』（古今書院）

**【成績評価の方法と基準】**

小テスト（50%）、定期試験（50%）などにより評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【Outline and objectives】**

The regional geography of the world with the perspective of how human, physical and environmental components interact will be learned.

GEO100CA
<b>地理学 B</b>
<b>朴 宗玄</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「地理学」の講義が目指す最終的目標は、細分・専門化されてきた幅広い地理学の研究アプローチを理解するとともに、「空間（地域）」と「人間活動」との関連性を解明することである。講義を通じて、現代の日本・世界を理解する方法と様々な人文地理学を学習する。

#### 【到達目標】

授業の到達目標は、地図や統計資料などを通じて世界各国の事情を学習し、諸課題について理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義と学生の授業内での発表、リアクションペーパー提出を求める。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	地理学のモデルー都市内部構造理論	都市地理学について解説し、都市内部構造理論を学習する。
2	同心円モデルとセクターモデル	同心円モデルとセクターモデルを用いて、都市内部構造モデルを学習する。
3	多核心モデルと三地域モデル	多核心モデルと三地域モデルを用いて、都市内部構造理論を学習する。
4	工業立地と地理学	工業地理学について解説し、工業立地の理論と実態について学習する。
5	ウェーバーの工業立地モデル	ウェーバーの工業立地モデルについて解説し、工業立地の理論と実態について学習する。
6	日本の工業立地と空間構造	日本の工業立地の実態を用いて、工業立地の要因を学習する。
7	企業の海外進出行動と地理学 1	企業地理学について解説し、日本企業の海外進出の実態とその空間構造を学習する。
8	企業のグローバル活動	地理学の視点から企業のグローバル活動を学習する。
9	シカゴ大都市圏に立地する日系企業の立地行動	シカゴ大都市圏に立地する日系企業を用いて、日経企業の業種別分布パターンを学習する。
10	シカゴ大都市圏に立地する日系企業の取引行動	シカゴ大都市圏に立地する日系企業を用いて、日経企業の取引行動の現地化プロセスを学習する。
11	ジェンダー地理学	ジェンダー地理学について解説し、地理学の支店で、ジェンダー問題の捉え方を学習する。
12	男女の通勤行動の差	男女の通勤行動の違いからみた空間構造の違いを学習する。
13	ライフステージと通勤距離	ライフステージ別における通勤距離の違いを学習する。
14	まとめ	地理学全体で学習した内容を整理し、地理学の課題を学習する。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地理に関連する社会問題について深く考え、授業中の議論に備えること。講義内容をもとに、統計データを用いて、地図化と地域の見方を学習するとともに、フィールドワークの方法について学習する。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

テキストは指定しないが、個別の文献は授業中で指示する。

#### 【参考書】

高橋ほか編『ジオグラフィー入門』（古今書院）

#### 【成績評価の方法と基準】

小テスト（50%）、定期試験（50%）などにより評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

#### 【Outline and objectives】

The regional geography of the world with the perspective of how human, physical and environmental components interact will be learned, In addition, geographic analytical skills as well as geographic theory will be acquired.

CUA100CA
<b>文化人類学 A</b>
<b>横田 浩一</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化人類学とは、人類の文化や生活様式の多様性と普遍性を研究して、「人間とは何か」ということを考察する学問である。授業を通じて文化人類学の視点を身につけることがテーマとなる。文化人類学 A は基礎・入門編。

#### 【到達目標】

文化人類学の基礎的な考え方や方法を学び、理解する。異なる社会の異なる慣習を学ぶことで、自分をとりまく社会環境を相対化して見ることができるようになる。1) 文化人類学の基礎知識を身につける。2) 文化人類学の基礎概念を自分で説明できる。3) 文化人類学の基礎概念を用いて、社会現象を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

講義形式。各回の資料を授業支援システムに、授業の 2 日前にアップするので、ダウンロードまたはプリントアウトをして受講のこと。他に映像や画像も見せる。

オンライン授業期間中は、講義の代わりに音声の入ったパワーポイントファイルをダウンロードできるようにするので、そのファイルを使って自宅等で学習すること。授業時間が終わってもダウンロード可能としておく。次の授業までに、リアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要、目的、方針の説明
第 2 回	文化概念と文化相対主義	文化人類学における「文化」の定義と文化相対主義について学ぶ
第 3 回	フィールドワークと民族誌	方法としてのフィールドワークと成果としての民族誌について知る
第 4 回	人種とエスニシティ	人種論の形成過程と、それが引き起こす現代の諸問題について学ぶ
第 5 回	生態と文化	生態適応の諸類型とその文化について学ぶ
第 6 回	家族と親族	現代の家族・親族のあり方について、生殖医療の進展を視野に入れて学ぶ
第 7 回	結婚	インセスト・タブーや連帯理論などから現代の結婚まで学ぶ
第 8 回	ジェンダーとセクシュアリティ	ジェンダーの多様性や性の多義性を学ぶ
第 9 回	宗教	人間と宗教の関わりについて、近年の宗教人類学の議論を視野に入れて学ぶ
第 10 回	儀礼	通過儀礼を中心に説明し、人間は何かのために儀礼を行うのか学ぶ
第 11 回	法と文化	人間はどのようにもめごとを解決してきたのか民族誌から学ぶ
第 12 回	贈与と交換	人はなぜモノをもらったからお返しをするのか民族誌から学ぶ
第 13 回	観光と文化	観光と文化の関係を真正性をキーワードとして学ぶ
第 14 回	まとめと復習	全体のまとめと復習を行う

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

それぞれの回に対応する予習復習資料（授業支援システムの教材）を読んで予習ないしは復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

なし。

#### 【参考書】

綾部恒雄・桑山敬己（編）『よくわかる文化人類学【第 2 版】』（ミネルヴァ書房、2010）。

川口幸大『ようこそ文化人類学へ』（昭和堂、2017 年）。

その他、授業中に適宜、指示する。参考書の購入は必須ではない。

#### 【成績評価の方法と基準】

学期末レポート 70%。平常点（リアクションペーパーの提出）30%。総計 60%以上を合格とする。詳細はいずれ発表する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

リラックスして授業をする。

#### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを多用するので、授業開始時には仮登録を行うこと。学習支援システムで配布する授業資料を毎回プリントアウトまたはダウンロードして持参すること。パソコンまたはタブレットが望ましい。WIFI 環境を必要とする。

#### 【その他の重要事項】

授業中の私語は慎むこと。授業に支障をもたらす学生に退室を命ずることがある。

#### 【Outline and objectives】

Cultural Anthropology is the discipline to contemplate "what human being is" through learning human cultures and ways of life. It is the important theme for students to acquire anthropological perspective in studying this subject. Cultural Anthropology A is an introductory stage.

CUA100CA
<b>文化人類学B</b>
横田 浩一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

文化人類学とは、人類の文化や生活様式の多様性と普遍性を研究して、「人間とは何か」ということを考察する学問である。授業を通じて文化人類学の視点を身につけることがテーマとなる。この授業は応用編として文化人類学の視点から中国社会についての解説を行う。

**【到達目標】**

(1) 授業を通して中国の社会と文化の多様性、複雑さを理解できるようになること、(2) 中国社会の成り立ちと現状について大まかに把握できるようになること、を目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義形式。各回の資料を授業支援システムに、授業の2日前にアップするので、プリントアウトまたはダウンロードをして受講のこと。他に映像や画像も見せる。オンライン授業期間中は、講義の代わりに音声の入ったパワーポイントファイルをダウンロードできるようにするので、そのファイルを使って自宅等で学習すること。授業時間が終わってからもダウンロード可能としておく。次の授業までに、リアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の内容、方針、評価の方法について
第2回	中国社会の基礎知識	内的な多様性、支配体制、戸籍制度などについての説明
第3回	1949年以降の現代中国史	現代中国の重要なターニングポイントについて学ぶ
第4回	中国人の人間関係	行動原理としての「関係」、「面子」、「人情」
第5回	家族とその変容	中国の理念的な家族と、父系出自集団「宗族」、現代の家族が直面する問題について学ぶ
第6回	中国の民族問題	民族問題の起源と現在について学ぶ
第7回	現代中国の年中行事	特に「春節」と「清明節」を中心に年中行事の過ごし方について知る
第8回	風水	中国における環境認識の方法としての風水について学ぶ
第9回	食文化の多様性	中国の食文化の多様性、民俗的健康観、食事のマナーなどについて学ぶ
第10回	中華圏のポップミュージック	中華圏のポップミュージックについて社会的背景も踏まえながら学ぶ
第11回	I T と監視社会化	スマホ以降の中国社会の変化と監視社会化する現状について学ぶ
第12回	香港と台湾	中国の台頭にともなう両者との関係の変化について学ぶ
第13回	華僑華人の現在	華僑華人の定義、歴史と現状について日本社会の状況も踏まえて解説する
第14回	まとめと復習	全体のまとめと復習

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

それぞれの回に対応する予習復習資料（授業支援システムの教材の箇所）を読んで予習ないしは復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

なし。

**【参考書】**

授業内で毎回紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

学期末レポート 70%。平常点（リアクションペーパー）30%。

**【学生の意見等からの気づき】**

リラックスして授業をする。

**【学生が準備すべき機器他】**

HOPPII を多用するので、必要な場合は仮登録を行うこと。このシステムを通じて配布する授業資料を毎回プリントアウトして持参のこと。

**【その他の重要事項】**

授業中の私語は慎むこと。授業に支障をもたらす学生に退室を命ずることがある。

**【Outline and objectives】**

Cultural Anthropology is the discipline to contemplate "what human being is" through learning human cultures and ways of life. It is the important theme for students to acquire anthropological perspective in studying this subject. Cultural Anthropology B is advanced and the analyses on Chinese society in the perspective of anthropology.

HIS100CA
<b>日本史 A</b>
<b>古澤 直人</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

国際関係緊張の中で生まれた日本国家の形成と展開の特色を理解する。次に武士の台頭が対外関係の変化を背景とし、それが日本の諸地域ごとに種々の独自性をもったことを把握する。さらに、国際的環境が日本史を通じた分散と統合の重要な要素であることを認識する。関連史料を読み解きつつ、解釈の多様性や因果関係への留意など歴史的思考力の獲得をめざす。

**【到達目標】**

日本の都市の特色から日本の伝統と文化の原点を押さえる。そして、白村江の戦いの敗戦という軍事的緊張の中で成立した日本の律令国家の特質を理解する。その統一国家が、10世紀以降の緊張緩和という国際関係変化の中で王朝国家へと移行する古代国家の変容を考える。そして新体制としての荘園・公領が生まれ、その中で何回かの戦乱を通じて、武士が政権を掌握していく、我が国独自の歴史過程を考察する。最後に国家形成だけでなく、国際的環境の変化が、中世から近代まで統合と分散の要素でありつづけた問題を学ぶ。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

事前に学習支援システムからダウンロードし目を通した教材（ワード、パワポ pdf、動画）を参照しつつ、基本的にはパワーポイントにそって授業を進める。章ごとに設定された課題を考えながら、事実にもとづいて歴史事象を考える姿勢を獲得する。課題ペーパー（1200字程度）を毎回提出してもらう。課題は毎回採点の上、改善点などがある場合はコメントを付しフィードバックする。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	我が国の伝統と文化の特色	防壁なき都市、権力と権威の分離、農業開始と戦争、白村江の戦い、国際的環境と国家形成、日本史の教育における本授業の意味
2	軍事国家としての律令国家	戸籍と軍団制、新羅、蝦夷、隼人、東夷の小帝国
3	律令国家から王朝国家へ	対外関係変化、弓馬の士と俘囚、郡司と律令支配、時代区分
4	武士の源流	群盗蜂起、最初の武士、武器・武装の変化、地域文化の接触、弓馬と刀
5	承平・天慶の乱	反逆の論理、東国自立の伝統、群盗蜂起、西国武士の特色、乱後の武士
6	源氏と平氏	平忠常の乱、頼信と関東、浅間山噴火、田地荒廃と再開発、荘園公領制
7	前九年合戦と後三年合戦	蝦夷支配の歴史、清原氏内紛、源義家と藤原清衡、平泉文化
8	院政開始と源氏・平氏	伊勢平氏の登場、河内源氏の没落、院政という政治形態
9	保元の乱・平治の乱	武士と貴族、武者の世への転換、親政と院政、平氏政権への道
10	平氏政権	厳島社の保護、日宋貿易、西国国家、海洋国家構想、治承3年のクーデター

11	治承寿永の内乱	以仁王の挙兵、頼朝挙兵と東国独立、義仲挙兵、天下三分、十月宣旨
12	寿永の内乱	源平の合戦、平家滅亡、朝廷改造と地頭設置、奥州戦争
13	日本史における分散と統合	東と西の関係、幕府と朝廷、関東公方と將軍、地域の文化
14	国際環境と国内統合	得宗政権、義満政権、織豊政権、幕末維新

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

事前に講義資料を読んであらましを理解し、興味に応じて参考文献に目を通す。授業の課題（1200字程度）を学習支援システムに提出するとともに、課題回答文に対する教員のコメントに目を通す。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用しない。講義プリントとパワーポイントの pdf、動画等を学習支援システムから各自ダウンロードする。

**【参考書】**

竹内理三『武士の成立』中公文庫、2009年改版第2刷、高橋典幸・保谷徹・山田邦明『日本軍事史』吉川弘文館、2006年

**【成績評価の方法と基準】**

課題 80%、期末試験・レポートの評価（10%）、平常点（授業への積極的な貢献度）10%として総合評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

内容が多すぎる回があるとの指摘があるので内容を厳選したい。なお授業中のおしゃべりについては、他の人が迷惑をするので、私語をおさえる自信のない学生は受講を控えてほしい。

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システム、PC またはタブレット

**【その他の重要事項】**

高校日本史教科書レベルの基礎知識を要するので、高校時代に日本史を学ばなかった学生は各自で自習しておいてほしい。

**【Outline and objectives】**

Understand the characteristics of the formation and development of the Japanese state. Understand that the rise of samurai has various identities for each region of Japan. Furthermore, we recognize that the international environment is an important element of diversification and integration through Japanese history.

HIS100CA
<b>日本史 B</b>
<b>古澤 直人</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業は中世国家の形成と展開に軸をすえつつ前後の時代も見通すことで、日本社会の統合と地域の特徴や地域の自立の歴史について理解を深めることをめざす。関連史料を読み解きつつ史料に対する批判的な見方を養い、解釈の多様性を学ぶなど歴史的思考力を獲得することを目的とする

**【到達目標】**

治承寿永の乱、承久の乱をへて東西に分かれた日本が、蒙古襲来を契機に統合に向かい、その反発として建武政権が成立する。その後わが国は動乱の時代に入り、義満による統合をへて、さらに戦国大名領国へと分裂し、再統合をへて近世社会・近代社会を迎える。こうしたわが国の統合と地域自立の歴史的ダイナミズムについて考察する。いくつかのテーマを論述する活動とその評価を通じて、歴史的事象には複数の歴史的解釈が成立することを理解し、同時に事実(史料)にもとづき筋道を立てて事物をとらえる歴史的認識方法を訓練する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

授業支援システムからダウンロードした教材（パワポ pdf、ワード資料、動画等）を事前に予習し、授業中はそれを参照しつつ、パワーポイントにそって授業を進める。史料を読み、章ごとに設定された課題を解きながら、事実にもとづいて歴史事象を考える姿勢を獲得したい。課題（1200字程度）を毎回提出してもらう予定である。課題は毎回採点の上、改善点などがある場合はコメントを付しフィードバックする。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	治承寿永の乱、日本史における地域と統合	日本史の教育における本授業の意義、古代～近代の国際的環境と国内政治、地理的環境と文化
2	承久の乱と朝廷・幕府	東と西の分裂、乱の影響、中世的枠組みの成立
3	蒙古襲来とその影響	モンゴル帝国の世界への影響、幕府による統合、経緯と影響
4	後醍醐天皇の倒幕運動	天皇不執政の伝統と専制、天皇御謀叛、朝廷による統合
5	鎌倉幕府の滅亡	討幕運動の広がり、楠木正成の伝説と実像、鎌倉時代の足利氏
6	建武新政	高氏と護良、旧御家人層の動き、恩賞不公平、造宮と造幣、天皇専制
7	南北朝の動乱	諸国の反乱、南北朝の分裂、北畠顕家の長征、後醍醐の死と人物論
8	室町幕府の成立	幕府とは何か、全武士の組織、建武式目、足利直義の思想
9	乱世の人間像	高師直の伝説と実像、執事としての師直、下剋上の原型、婆娑羅の文化
10	観応の擾乱	尊氏と直義、兄弟の相克、個人と党派、伝統と変革
11	武家統一政権の形成	武家による統合、朝廷と守護の圧伏、北山邸の造営と北山文化

12	織豊政権による統合	天下の大義、鉄砲と木綿、国郡制の枠組み
13	近世社会の展望	幕府と藩、藩士と百姓の帰属意識、話し言葉と書き言葉
14	近代社会の展望	国民国家の形成、方言と共通語、国民意識と儀礼

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業支援システムにアップした一回あたり 4～7 頁ほどの講義資料（ワード）とパワーポイント pdf（および動画）を事前に読み、興味に応じて末尾に挙げた参考文献にもあたっておく。授業後は、授業内で示された宿題や課題をまとめ提出する。課題回答文に対する教員のコメントに目を通す。事前準備 2 時間、復習 2 時間を目安とする。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用しない。教材を学習支援システムから各自ダウンロード。

**【参考書】**

佐藤進一『南北朝の動乱』中公文庫、2009 年改版第 2 刷。網野善彦『日本社会の歴史（上）（中）（下）』岩波新書、1997 年。

**【成績評価の方法と基準】**

提出課題の評価が中心（80 %）で、平常点（授業への積極的な貢献度）を従（20 %）として総合評価。なお平常点が所定に満たない学生は採点の対象としない。

**【学生の意見等からの気づき】**

内容が細かすぎる回があったとの指摘があったので分量を厳選したい。なお授業中のおしゃべりについては、即刻減点して静粛を保ちたい。なお私語をおさえる自信のない学生は受講を控えてほしい。

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システム、PC またはタブレット

**【その他の重要事項】**

高校日本史教科書程度の基礎知識を要するので、高校時代に日本史を学ばなかった学生は各自で自習しておいてほしい。

**【Outline and objectives】**

This lecture aims to deepen the understanding of the integration of Japanese society and the history of the local characteristics and regional independence by looking at the formation and development of the medieval state while also forecasting the times before and after.

HIS100CA
<b>世界史 A</b>
<b>太田 啓子</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要：

高校までに学んだ「世界史」とは異なる、新たな世界の歴史の捉え方について学ぶ。

授業の目的：

現在の「世界史」の問題点を認識した上で、世界の歴史について新しい視点を提供している先行研究に触れる。この過程を通じて世界史を学ぶことの意義を考える。

### 【到達目標】

1. 現在の「世界史」が抱える問題点を具体的に指摘できる。
2. 世界の歴史について新しい視点を提供している先行研究を理解し、それを自分の言葉で説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

新型コロナウイルス感染症の流行状況を受けた本学からの要請により、本授業はオンラインでの開講となる（資料配信型）。

具体的には各回の講義スライドを学習支援システムにアップロードする。また、必要に応じて適宜、課題図書を提示する。

受講者は各自スライドをダウンロードし、課題図書を参照しつつ在宅での学習に取り組む。

講義においては毎回小テストを課す。受講者は講義後、学習支援システムから小テストの解答を提出する（提出は必須）。

また、講義への感想、質問があれば入力する（こちらの入力は任意）。これに対して次回の講義で教員より解説・補足説明等を行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と目的の説明
第 2 回	「世界史」の成立	現在の「世界史」が成立した経緯について概観する。
第 3 回	「世界史」の問題点	現在の「世界史」が抱える問題点について学ぶ。
第 4 回	新しい世界史/グローバル・ヒストリーとは何か	新しい世界観と歴史認識、グローバル・ヒストリーの特徴について学ぶ。
第 5 回	ヨーロッパとアジア	近世までのアジアの歴史的発展を検証し、ヨーロッパ中心の歴史観を批判した諸研究について学ぶ。
第 6 回	主観性を超えて：発展とは何か (1)	何に基づいて発展を比較するか、また地域間における発展のあり方の違いについて考える。
第 7 回	主観性を超えて：発展とは何か (2)	何に基づいて発展を比較するか、また地域間における発展のあり方の違いについて考える。
第 8 回	「新しい世界史」の視角	疫病、人口変動、環境など、従来の歴史研究ではほとんど分析対象とされることがなかった歴史学の新たな視角について学ぶ。
第 9 回	移動と交易	人・モノ・情報の移動が地域にもたらした歴史的変化、形成してきた地域間構造について考える。

第 10 回	モノの世界史	「モノ」に着目し、「モノ」を通じて世界史を概観した諸研究について学ぶ。
第 11 回	地域と世界システム	近代以前の世界システムについて考える。
第 12 回	世界市場をめぐる議論	世界市場の形成が、世界の発展のあり方にどのような影響を及ぼしたかを考察する。
第 13 回	思想のグローバル・ヒストリー	知識・思想・学問の形成・伝播が世界史に与えた影響について考える。
第 14 回	授業のまとめと到達目標の確認	春学期の授業を振り返り、授業のまとめと到達目標の確認を行う。試験の概要についても説明する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

高校時代に使用した世界史の教科書を事前に一読することが望ましい。また、テキスト、参考書にもあらかじめ目を通しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

水島司『グローバル・ヒストリー入門（世界史リブレット 127）』、山川出版社、2010 年。

### 【参考書】

羽田正『新しい世界史へ：地球市民のための構想』、岩波書店、2011 年。  
水島司編『グローバル・ヒストリーの挑戦』、山川出版社、2008 年。

### 【成績評価の方法と基準】

課題（小テスト）：100%

毎回の講義後に提出を課している課題（小テスト）の提出状況で成績評価をします。

なお、新型コロナウイルス感染症の流行が収束し、本学の授業実施方針が変更となった場合には、学期末に教室での試験を実施する可能性があります。その場合は学習支援システムの「お知らせ」欄および講義内で告知しますので注意してください。

\*皆さんの学習の成果をできる限り正確に評価したいと思っています。突然試験になった！とあわてないように、しっかり勉強しておいてください。「絶対に試験を受けたくない！」と思う学生さんは履修しないでください。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生から寄せられた講義への感想、提案を講義に反映させる。

### 【Outline and objectives】

Outline of the lecture:

To learn how to grasp the history of the world

Objectives of the lecture:

To recognize the problems of the current world history, and learn the new perspectives for it

HIS100CA
<b>世界史 B</b>
<b>太田 啓子</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要：

高校までに学んだ「世界史」とは異なる、新たな世界の歴史の捉え方について学ぶ。

授業の目的：

春学期の「世界史 A」に引き続き、新たな視点から世界史を捉え直し、その中に自分自身を位置づけることを試みる。秋学期は具体的な「モノ」に着目してテーマを設定し、そのテーマを通じて世界史を概観する。「世界史 A」を履修していなくても受講可能。

### 【到達目標】

1. 講義で取り上げる「モノ」を通じて世界史を概観し、自分の言葉で説明することが出来る。
2. 講義で出てきた地域、国、都市等の地理的情報についても理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

新型コロナウイルス感染症の流行状況を受けた本学からの要請により、本授業はオンラインでの開講となる（資料配信型）。

具体的には各回の講義スライドを学習支援システムにアップロードする。また、必要に応じて適宜、課題図書を提示する。受講者は各自スライドをダウンロードし、課題図書を参照しつつ在宅での学習に取り組む。

講義においては毎回小テストを課す。受講者は講義後、学習支援システムから小テストの解答を提出する（提出は必須）。また、講義への感想、質問があれば入力する（こちらの入力は任意）。これに対して次回の講義で教員より解説・補足説明等を行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要と目的の説明
第 2 回	乳香と乳香をめぐる文化	乳香というファクターに着目し、「ヨーロッパ必需品の生産地としてのアジア」を考える。
第 3 回	香辛料が作る世界史	インド洋貿易で行われていた多様な商品取引の中で、なぜ香辛料が着目されたのかを考える。
第 4 回	ガラス器の展開	国際取引品としてのガラス器の歴史を概観し、ヨーロッパとアジアの関係について考える。
第 5 回	モスク建築の変遷	モスク建築の変遷の歴史を学び、建築と権力の関係について考える。
第 6 回	世界飲料としてのコーヒー	コーヒーの伝播の歴史を概観し、なぜコーヒーが世界飲料となり得たのかを考察する。
第 7 回	タバコの受容と伝播	タバコが嗜好品として世界に広がっていく経緯を概観し、なぜタバコが受容されていったのかについて考える。

### 第 8 回 砂糖と生活

砂糖の精製技術がアジアからヨーロッパ、新大陸へと広まっていった経緯について学び、砂糖が国際関係にもたらした影響について考察する。

### 第 9 回 お茶とイギリス帝国

世界飲料の 1 つである茶に着目し、その歴史的影響を考察する。貨幣の発展の歴史について概観し、交易を支えるファクターとしての貨幣の機能を考える。

### 第 10 回 貨幣と交易

### 第 11 回 石油を支配する者 (1)

近年誕生した石油産業と国際関係について概観し、現代のエネルギー問題を考察する（19 世紀～第二次世界大戦）。

### 第 12 回 石油を支配する者 (2)

近年誕生した石油産業と国際関係について概観し、現代のエネルギー問題を考察する（第二次世界大戦～現代）。

### 第 13 回 ワイン

世界飲料の 1 つであるワインに着目し、その歴史的影響を考察する。

### 第 14 回 講義のまとめと到達目標の確認

秋学期の授業を振り返り、授業のまとめと到達目標の確認を行う。試験の概要についても説明する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義ノートのまとめなどを通じて講義の復習をしておくこと。講義内で出てきた地域、国、都市などについても地図中に落とし込めるようにしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

### 【参考書】

シドニー・ミンツ『甘さと権力：砂糖が語る近代史』、平凡社、1988 年。そのほか、各回の授業テーマに応じて適宜、授業内で紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

課題（小テスト）：100%

毎回の講義後に提出を課している課題（小テスト）の提出状況で成績評価をします。

なお、新型コロナウイルス感染症の流行が収束し、本学の授業実施方針が変更となった場合には、学期末に教室での試験を実施する可能性があります。その場合は学習支援システムの「お知らせ」欄および講義内で告知しますので注意してください。

\*皆さんの学習の成果をできる限り正確に評価したいと思っています。突然試験になった！とあわてないように、しっかり勉強しておいてください。「絶対に試験を受けたくない！」と思う学生さんは履修しないでください。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生から寄せられた講義への感想、提案を講義に反映させる。

### 【Outline and objectives】

Outline of the lecture:

To learn how to grasp the history of the world

Objectives of the lecture:

To learn the new perspectives for the world history, especially through the history of the things ("mono, in Japanese")

LAW100CA
<b>法学 A</b>
<b>菅 富美枝</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法律学とはどのような学問であるのか、その特徴を知ることを通して、法的な思考方法を修得する。特に、市場の基本構造を形成している契約法について学ぶ。

### 【到達目標】

良識ある公民として、現代社会において主体的に行動し、平和で民主的な国家・社会の有意な形成者となることを目指して、法律学を学ぶ。基礎的な法律知識と、法学的思考法が習得できる。六法全書を使いこなし、基礎的な条文解釈ができるようになる。わが国における市場を支える契約法の基本構造がわかるとともに、さらに、わが国の司法制度全般が見えてくるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」「DP9」に関連

### 【授業の進め方と方法】

コロナ禍にある本年度の授業は、フルオンデマンド形式で行われる。曜日や時間指定がないため、受講生はいつでも視聴ができるが、毎回の復習課題には厳格な提出期限が設定されていることから、自己管理が強く求められる。教材としては、指定教科書に加えて、担当教員によって音声を入れた PDF ファイルやパワーポイントファイル、または録画済み Zoom 動画が用いられる。そのため、パソコンやスマートホン、通信環境の準備が求められる。復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説が Hoppii 上で公表されるため、各自フィードバックに役立てることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	経済学部生のための法学入門 1	「1. はじめに」
第 2 回	経済学部生のための法学入門 2	「2. 法的思考様式」
第 3 回	経済学部生のための法学入門 3	「3. 法的議論を行うということ」と「法的三段論法の習得」
第 4 回	経済学部生のための法学入門 4	「4. 法を解釈ということ」
第 5 回	契約法を学ぶ	契約の成立、契約書の作成
第 6 回	意思表示に問題があるとき	・心裡留保 ・虚偽表示
第 7 回	意思表示に問題があるとき	・錯誤
第 8 回	意思表示に問題があるとき	・詐欺 ・強迫
第 9 回	相手が契約を守らないとき 1	同時履行の抗弁、契約の解除
第 10 回	相手が契約を守らないとき 2	契約不適合責任
第 11 回	相手が契約を守らないとき 3	損害賠償責任
第 12 回	消費者としての私たち	約款問題
第 13 回	総合復習	最終課題の作成に向けた指導
第 14 回	総括	最終課題に関する講評

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教材やお知らせは、「授業支援システム Hoppii」や「Google クラウドスルーム」を用いて配信される。各自ダウンロードして視聴に臨み、また、毎回、復習課題を確実にこなすこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

村千鶴子『消費者のための民法入門』（新世社）  
六法全書（どの出版社のものでもよい）

### 【参考書】

道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に』（弘文堂）

### 【成績評価の方法と基準】

「春学期最終課題」の成績（70%）と、毎回の復習課題の提出状況及び内容（30%）による。

### 【学生の意見等からの気づき】

復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説が Hoppii 上で公表される。

### 【学生が準備すべき機器他】

音声付きの PDF ファイルやパワーポイントファイルをダウンロードの上、視聴できるパソコンやスマートホンなど。さらに、Zoom が視聴できる通信環境。

### 【Outline and objectives】

The objective of this course is to help students acquire the way of "legal thinking". In the spring semester students will learn about contract law which facilitates the function of markets.

LAW100CA
<b>法学B</b>
<b>菅 富美枝</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

自由で公正な市場とは、どのような法理念・法構造を背景に実現されているのか、契約法を学ぶことを通して、経済的自由主義の考え方を修得し、また消費者教育を身につける。さらに、法学Aで学んだ日本の契約法の基礎知識を元に、イギリスの契約法との異同について学ぶ。

**【到達目標】**

自覚ある消費者市民として、市場社会において主体的に行動し、自由で活気ある市場経済の有意な形成者となることを目指して、法学を学ぶ。基礎的な法律知識と、法学的思考法が習得できる。六法全書を使いこなし、基礎的な条文解釈ができるようになる。さらに、イギリス契約法を知ることによって、グローバルな取引に備えることができるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」「DP9」に関連

**【授業の進め方と方法】**

コロナ禍にある本年度の授業は、フルオンデマンド形式で行われる。曜日や時間指定がないため、受講生はいつでも視聴ができるが、毎回の復習課題には厳格な提出期限が設定されていることから、自己管理が強く求められる。教材としては、指定教科書に加えて、担当教員によって音声を入れたPDFファイルやパワーポイントファイル、または録画済みZoom動画が用いられる。そのため、パソコンやスマートホン、通信環境の準備が求められる。復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説がHoppii上で公表されるため、各自フィードバックに役立てることができる。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	イギリス契約法の基礎理論1	・法学Aの総復習 ・契約法、消費者法の役割、機能 ・市場の活動の促進と「人為的な信頼」の創設
第2回	イギリス契約法の基礎理論2	イギリス契約法の特徴 ・約因法理 ・客観性 ・厳格責任 ・契約違反に対する救済措置
第3回	イギリス契約法の基礎理論3	リスクの予防と契約条項 ・錯誤 ・状況の変化
第4回	イギリス契約法の基礎理論4	契約における良心とは① ・契約終了権の制御 ・申し出の撤回 ・禁反言の原則 ・違約罰
第5回	イギリス契約法の基礎理論5	契約における良心とは② ・非良心的契約 ・不実表示 ・強迫 ・不当な影響力
第6回	イギリス契約法の基礎理論6	契約の自由の限界① ・司法 ・投票 ・臓器提供

第7回	イギリス契約法の基礎理論7	契約の自由の限界② ・権利の放棄 ・フォールアウト
第8回	イギリス契約法の基礎理論8	日本法とイギリス法の比較 ・公序良俗違反 ・権利濫用の禁止 ・信義誠実の原則 ・クリーンハンズの原則 ・不法原因給付
第9回	イギリス契約法の基礎理論9	新型コロナウイルスの感染拡大と契約法① ・不可抗力、 ・履行不能 ・事情変更の原則
第10回	イギリス契約法の基礎理論10	新型コロナウイルスの感染拡大と契約法② ・解除不可 ・執行停止 ・再交渉義務
第11回	イギリス契約法の基礎理論11	贈与の約束の効力
第12回	イギリス契約法の基礎理論12	契約内容の修正の効力
第13回	総合①	市場の活性化と公正な競争
第14回	総合②	グローバル化の時代と契約法

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

教材やお知らせは、「授業支援システム Hoppii」や「Google クラウドスルーム」を用いて配信される。各自ダウンロードして視聴に臨み、また、毎回、復習課題を確実にこなすこと。本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

菅富美枝『イギリス契約法の基本思想』（成文堂）

**【参考書】**

法学Aの指定テキストである、村千鶴子『消費者のための民法入門』（新世社）

**【成績評価の方法と基準】**

「春学期最終課題」の成績（70%）と、毎回の復習課題の提出状況及び内容（30%）による。

**【学生の意見等からの気づき】**

復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説がHoppii上で公表される。

**【学生が準備すべき機器他】**

音声付きのPDFファイルやパワーポイントファイルをダウンロードの上、視聴できるパソコンやスマートホンなど。さらに、Zoomが視聴できる通信環境。

**【その他の重要事項】**

法学Aで修得した日本の契約法に関する知識が前提となるため、法学Aを履修済みであることが望ましい。

**【Outline and objectives】**

In the autumn semester students will learn about the functions of contract law in the fair and free markets more profoundly. This will also enhance your understanding of consumer rights. With the knowledge you have acquired in the spring semester you will recognize common principles and, at the same time, different policies between Japanese and English contract laws.

LAW100CA
<b>法学 A</b>
<b>菅 富美枝</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法律学とはどのような学問であるのか、その特徴を知ることを通して、法的な思考方法を修得する。特に、市場の基本構造を形成している契約法について学ぶ。

#### 【到達目標】

良識ある公民として、現代社会において主体的に行動し、平和で民主的な国家・社会の有意な形成者となることを目指して、法律学を学ぶ。基礎的な法律知識と、法学的思考法が習得できる。六法全書を使いこなし、基礎的な条文解釈ができるようになる。わが国における市場を支える契約法の基本構造がわかるとともに、さらに、わが国の司法制度全般が見えてくるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」「DP9」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

コロナ禍にある本年度の授業は、フルオンデマンド形式で行われる。曜日や時間指定がないため、受講生はいつでも視聴ができるが、毎回の復習課題には厳格な提出期限が設定されていることから、自己管理が強く求められる。教材としては、指定教科書に加えて、担当教員によって音声や挿入された PDF ファイルやパワーポイントファイル、または録画済み Zoom 動画が用いられる。そのため、パソコンやスマートホン、通信環境の準備が求められる。復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説が Hoppii 上で公表されるため、各自フィードバックに役立てることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	経済学部生のための法学入門 1	「1. はじめに」
第 2 回	経済学部生のための法学入門 2	「2. 法的思考様式」
第 3 回	経済学部生のための法学入門 3	「3. 法的議論を行うということ」と「法的三段論法の習得」
第 4 回	経済学部生のための法学入門 4	「4. 法を解釈ということ」
第 5 回	契約法を学ぶ	契約の成立、契約書の作成
第 6 回	意思表示に問題があるとき	・心裡留保 ・虚偽表示
第 7 回	意思表示に問題があるとき	・錯誤
第 8 回	意思表示に問題があるとき	・詐欺 ・強迫
第 9 回	相手が契約を守らないとき 1	同時履行の抗弁、契約の解除
第 10 回	相手が契約を守らないとき 2	契約不適合責任
第 11 回	相手が契約を守らないとき 3	損害賠償責任
第 12 回	消費者としての私たち	約款問題
第 13 回	総合復習	最終課題の作成に向けた指導
第 14 回	総括	最終課題に関する講評

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教材やお知らせは、「授業支援システム Hoppii」や「Google クラウドスルーム」を用いて配信される。各自ダウンロードして視聴に臨み、また、毎回、復習課題を確実にこなすこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

村千鶴子『消費者のための民法入門』（新世社）  
六法全書（どの出版社のものでもよい）

#### 【参考書】

道垣内弘人『プレップ法学を学ぶ前に』（弘文堂）

#### 【成績評価の方法と基準】

「春学期最終課題」の成績（70%）と、毎回の復習課題の提出状況及び内容（30%）による。

#### 【学生の意見等からの気づき】

復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説が Hoppii 上で公表される。

#### 【学生が準備すべき機器他】

音声付きの PDF ファイルやパワーポイントファイルをダウンロードの上、視聴できるパソコンやスマートホンなど。さらに、Zoom が視聴できる通信環境。

#### 【Outline and objectives】

The objective of this course is to help students acquire the way of "legal thinking". In the spring semester students will learn about contract law which facilitates the function of markets.

LAW100CA
<b>法学B</b>
<b>菅 富美枝</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

自由で公正な市場とは、どのような法理念・法構造を背景に実現されているのか、契約法を学ぶことを通して、経済的自由主義の考え方を修得し、また消費者教育を身につける。さらに、法学Aで学んだ日本の契約法の基礎知識を元に、イギリスの契約法との異同について学ぶ。

**【到達目標】**

自覚ある消費者市民として、市場社会において主体的に行動し、自由で活気ある市場経済の有意な形成者となることを目指して、法学を学ぶ。基礎的な法律知識と、法学的思考法が習得できる。六法全書を使いこなし、基礎的な条文解釈ができるようになる。さらに、イギリス契約法を知ることによって、グローバルな取引に備えることができるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」「DP9」に関連

**【授業の進め方と方法】**

コロナ禍にある本年度の授業は、フルオンデマンド形式で行われる。曜日や時間指定がないため、受講生はいつでも視聴ができるが、毎回の復習課題には厳格な提出期限が設定されていることから、自己管理が強く求められる。教材としては、指定教科書に加えて、担当教員によって音声を入れたPDFファイルやパワーポイントファイル、または録画済みZoom動画が用いられる。そのため、パソコンやスマートホン、通信環境の準備が求められる。復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説がHoppii上で公表されるため、各自フィードバックに役立てることができる。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	イギリス契約法の基礎理論1	・法学Aの総復習 ・契約法、消費者法の役割、機能 ・市場の活動の促進と「人為的な信頼」の創設
第2回	イギリス契約法の基礎理論2	イギリス契約法の特徴 ・約因法理 ・客観性 ・厳格責任 ・契約違反に対する救済措置
第3回	イギリス契約法の基礎理論3	リスクの予防と契約条項 ・錯誤 ・状況の変化
第4回	イギリス契約法の基礎理論4	契約における良心とは① ・契約終了権の制御 ・申し出の撤回 ・禁反言の原則 ・違約罰
第5回	イギリス契約法の基礎理論5	契約における良心とは② ・非良心的契約 ・不実表示 ・強迫 ・不当な影響力
第6回	イギリス契約法の基礎理論6	契約の自由の限界① ・司法 ・投票 ・臓器提供

第7回	イギリス契約法の基礎理論7	契約の自由の限界② ・権利の放棄 ・フォールアウト
第8回	イギリス契約法の基礎理論8	日本法とイギリス法の比較 ・公序良俗違反 ・権利濫用の禁止 ・信義誠実の原則 ・クリーンハンズの原則 ・不法原因給付
第9回	イギリス契約法の基礎理論9	新型コロナウイルスの感染拡大と契約法① ・不可抗力、 ・履行不能 ・事情変更の原則
第10回	イギリス契約法の基礎理論10	新型コロナウイルスの感染拡大と契約法② ・解除不可 ・執行停止 ・再交渉義務
第11回	イギリス契約法の基礎理論11	贈与の約束の効力
第12回	イギリス契約法の基礎理論12	契約内容の修正の効力
第13回	総合①	市場の活性化と公正な競争
第14回	総合②	グローバルイゼーションの時代と契約法

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

教材やお知らせは、「授業支援システム Hoppii」や「Google クラウドスルーム」を用いて配信される。各自ダウンロードして視聴に臨み、また、毎回、復習課題を確実にこなすこと。本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

菅富美枝『イギリス契約法の基本思想』（成文堂）

**【参考書】**

法学Aの指定テキストである、村千鶴子『消費者のための民法入門』（新世社）

**【成績評価の方法と基準】**

「春学期最終課題」の成績（70%）と、毎回の復習課題の提出状況及び内容（30%）による。

**【学生の意見等からの気づき】**

復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説がHoppii上で公表される。

**【学生が準備すべき機器他】**

音声付きのPDFファイルやパワーポイントファイルをダウンロードの上、視聴できるパソコンやスマートホンなど。さらに、Zoomが視聴できる通信環境。

**【その他の重要事項】**

法学Aで修得した日本の契約法に関する知識が前提となるため、法学Aを履修済みであることが望ましい。

**【Outline and objectives】**

In the autumn semester students will learn about the functions of contract law in the fair and free markets more profoundly. This will also enhance your understanding of consumer rights. With the knowledge you have acquired in the spring semester you will recognize common principles and, at the same time, different policies between Japanese and English contract laws.

SOC100CA
<b>社会学 A</b>
<b>松下 峻也</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、「社会学」が提起したいくつかの概念を学んだうえで、「戦後」日本の高度経済成長を再考する。「現在」を生きる学生が、日本社会が抱える問題に気がつき、それを自分自身で考える力を伸ばすことを目的とする。

#### 【到達目標】

履修する学生は、社会における「意味」と「表象」、「記憶」と「記録」の理論と思想を学び、「戦後」日本が「豊かさ」を追い求めるなかで発生した水俣病事件をふりかえる。社会学的な概念をふまえて、現在の視点から過去の出来事を読み解くことの意義を、学生が理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

本科目は、講義形式（オンラインの場合は文書・映像資料の配布形式）でおこなう。また、学生からのリアクションペーパー（質問やコメント）への返信にも時間を割く（オンラインの場合はリプライペーパーを配布する）。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「社会（学）」を考えるためのキーワードを紹介する。
2	社会における意味の成り立ち	シンボリック相互作用論をもとに、「意味」の成立を考える。
3	記号としての意味の成り立ち	記号論（学）をもとに、「意味」の成立を考える。
4	記号としての表象と経験	記号論（学）をもとに、「表象」のさまざまな様態を考える。
5	社会的記憶としての集合的記憶	M. アルヴァクスの議論をもとに、「集合的記憶」を考える。
6	社会における「記憶と記録」	集合的記憶を発展させ、社会の「記憶」と「記録」を考える。
7	記憶と記録としての出来事の意味と表象	第 6 回までの講義をもとに、実際の出来事を読み解く準備をする。
8	水俣病事件の記憶	水俣病事件が現在、どのような出来事として記憶されているのかを考える。
9	水俣病事件の表象と経験①	高度経済成長の初期に、水俣病事件がどのような出来事として表象されたのかを考える。
10	水俣病事件の表象と経験②	高度経済成長の後期に、水俣病事件がどのような出来事として表象されるようになったのかを考える。
11	水俣病事件の表象と経験③	1970 年代以降、水俣病事件がどのような出来事として表象されるようになったのかを考える。
12	水俣病事件の表象と経験④	水俣病事件と、「戦後」に起きた他の出来事の表象との関係を考える。
13	水俣病事件と高度経済成長の記憶の想起	水俣病事件を再考することで、「高度経済成長」のどのような記憶を想起することができるのかを考える。
14	総括	第 13 回までの講義をもとに、「戦後」日本の「豊かさ」をみずから再考していくための準備をする。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生には、毎回の講義で指定される参考文献、参考資料を読んで予習、復習することが求められる。本科目の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

使用しない。

#### 【参考書】

小林直毅編著、2006、『水俣』の言説と表象 藤原書店。  
原田正純、1972、『水俣病』岩波書店。

#### 【成績評価の方法と基準】

成績評価は、原則として期末レポートを 100 % とする。講義で繰り返し解説する論点を、学生が理解しているかが評価の基準となる。また、講義内で指定する課題の提出状況・内容に応じた平常点を評価に加算することもある。

#### 【学生の意見等からの気づき】

経済学部学生には馴染みのない、社会学の専門用語の解説をより丁寧におこなうようにします。

#### 【Outline and objectives】

In this class, students will learn some of ideas that raised by 'sociology', and re-consider the rapid economy growth of 'post-war' Japan. The objective is that students living in the 'present' improve their ability to realize problems in Japan society, and to think them on their own.

SOC100CA
<b>社会学 B</b>
<b>松下 峻也</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、「社会学」が提起したいくつかの概念を学んだうえで、日本の「敗戦」と「復興」の歴史を再考する。「現在」を生きる学生が、「戦後」日本の歴史を自分自身の問題として考える力を伸ばすことを目的とする。

#### 【到達目標】

履修する学生は、「言説」の理論と思想を学び、現代社会と不可分の関係にある「メディア」を考え、核エネルギー利用の「記録」をふりかえる。過去の記録を辿ることで、「敗戦」と「被爆」、「復興」と「原子力開発」が現在の自分自身につながる問題であると、学生が理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

本科目は、講義形式（オンラインの場合は文書・映像資料の配布形式）でおこなう。また、学生からのリアクションペーパー（質問やコメント）への返答にも時間を割く（オンラインの場合はリプライペーパーの配布）。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「メディア社会（学）」を考えるためのキーワードを紹介する。
2	「ことばの規則」としての言説	M. フーコーの思想をもとに、「言説」という概念の立ち上がりを考える。
3	言説と主体	M. フーコーの思想をもとに、言説と「主体」との関係を考える。
4	「知」の考古学／系譜学	言説を分析する手法としての「考古学」と「系譜学」を考える。
5	言説編制とメディア	言説が編制される場としての「メディア」を考える。
6	言説編制を記録するメディア	言説編制を跡づける技術としての「メディア」を考える。
7	メディア言説の分析	第 6 回までの講義をもとに、実際の「メディア言説」を分析するための準備をする。
8	福島原発事故の言説	福島原発事故後の核エネルギー利用をめぐるメディア言説を考える。
9	「被爆」の言説	「被爆地」広島と長崎をめぐるメディア言説を考える。
10	「第三の被爆」の言説	ビキニ事件の被爆と被曝をめぐるメディア言説を考える。
11	「夢の原子力」の言説	日本の「原子力開発」をめぐるメディア言説を考える。
12	「核の惨禍」の言説	「原子力災害」の被害をめぐるメディア言説を考える。
13	核エネルギー利用と「敗戦」と「復興」の記憶の想起	福島原発事故後のメディア言説が、何を語り、何を語らなかったのかを考える。
14	総括	第 13 回までの講義をもとに、「敗戦」と「復興」をみずからの歴史として再考していくための準備をする。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生には、毎回の講義で指定される参考文献、参考資料を読んで予習、復習することが求められる。本科目の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

指定しない。

#### 【参考書】

福岡良明, 2006, 『「反戦」のメディア史——戦後日本における世論と輿論の拮抗』世界思想社。

山本昭宏, 2012, 『核エネルギー言説の戦後史 1945-1960 ——「被爆の記憶」と「原子力の夢」』人文書院

#### 【成績評価の方法と基準】

成績評価は、原則として期末レポートを 100 % とする。講義で繰り返し解説する論点を、学生が理解しているかが評価の基準となる。また、講義内で指定する課題の提出状況・内容に応じた平常点を評価に加算することもある。

#### 【学生の意見等からの気づき】

経済学部学生には馴染みのない、社会学の専門用語の解説をより丁寧におこなうようにします。

#### 【Outline and objectives】

In this class, students will learn some of ideas that raised by 'sociology', and re-consider the history of 'defeat' and 'reconstruction' of Japan. The objective is that students living in the 'present' improve their ability to think the history of 'post-war Japan' as their own problems.

SOC100CA
<b>社会学 A</b>
<b>松下 峻也</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、「社会学」が提起したいいくつかの概念を学んだうえで、「戦後」日本の高度経済成長を再考する。「現在」を生きる学生が、日本社会が抱える問題に気がつき、それを自分自身で考える力を伸ばすことを目的とする。

#### 【到達目標】

履修する学生は、社会における「意味」と「表象」、「記憶」と「記録」の理論と思想を学び、「戦後」日本が「豊かさ」を追い求めるなかで発生した水俣病事件をふりかえる。社会学的な概念をふまえて、現在の視点から過去の出来事を読み解くことの意義を、学生が理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

本科目は、講義形式（オンラインの場合は文書・映像資料の配布形式）でおこなう。また、学生からのリアクションペーパー（質問やコメント）への返信にも時間を割く（オンラインの場合はリプライペーパーを配布する）。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「社会（学）」を考えるためのキーワードを紹介する。
2	社会における意味の成り立ち	シンボリック相互作用論をもとに、「意味」の成立を考える。
3	記号としての意味の成り立ち	記号論（学）をもとに、「意味」の成立を考える。
4	記号としての表象と経験	記号論（学）をもとに、「表象」のさまざまな様態を考える。
5	社会的記憶としての集合的記憶	M. アルヴァクスの議論をもとに、「集合的記憶」を考える。
6	社会における「記憶と記録」	集合的記憶を発展させ、社会の「記憶」と「記録」を考える。
7	記憶と記録としての出来事の意味と表象	第 6 回までの講義をもとに、実際の出来事を読み解く準備をする。
8	水俣病事件の記憶	水俣病事件が現在、どのような出来事として記憶されているのかを考える。
9	水俣病事件の表象と経験①	高度経済成長の初期に、水俣病事件がどのような出来事として表象されたのかを考える。
10	水俣病事件の表象と経験②	高度経済成長の後期に、水俣病事件がどのような出来事として表象されるようになったのかを考える。
11	水俣病事件の表象と経験③	1970 年代以降、水俣病事件がどのような出来事として表象されるようになったのかを考える。
12	水俣病事件の表象と経験④	水俣病事件と、「戦後」に起きた他の出来事の表象との関係を考える。
13	水俣病事件と高度経済成長の記憶の想起	水俣病事件を再考することで、「高度経済成長」のどのような記憶を想起することができるのかを考える。
14	総括	第 13 回までの講義をもとに、「戦後」日本の「豊かさ」をみずから再考していくための準備をする。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生には、毎回の講義で指定される参考文献、参考資料を読んで予習、復習することが求められる。本科目の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

使用しない。

#### 【参考書】

小林直毅編著、2006、『水俣』の言説と表象 藤原書店。  
原田正純、1972、『水俣病』岩波書店。

#### 【成績評価の方法と基準】

成績評価は、原則として期末レポートを 100 % とする。講義で繰り返し解説する論点を、学生が理解しているかが評価の基準となる。また、講義内で指定する課題の提出状況・内容に応じた平常点を評価に加算することもある。

#### 【学生の意見等からの気づき】

経済学部学生には馴染みのない、社会学の専門用語の解説をより丁寧におこなうようにします。

#### 【Outline and objectives】

In this class, students will learn some of ideas that raised by 'sociology', and re-consider the rapid economy growth of 'post-war' Japan. The objective is that students living in the 'present' improve their ability to realize problems in Japan society, and to think them on their own.

SOC100CA
<b>社会学 B</b>
<b>松下 峻也</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、「社会学」が提起したいくつかの概念を学んだうえで、日本の「敗戦」と「復興」の歴史を再考する。「現在」を生きる学生が、「戦後」日本の歴史を自分自身の問題として考える力を伸ばすことを目的とする。

#### 【到達目標】

履修する学生は、「言説」の理論と思想を学び、現代社会と不可分の関係にある「メディア」を考え、核エネルギー利用の「記録」をふりかえる。過去の記録を辿ることで、「敗戦」と「被爆」、「復興」と「原子力開発」が現在の自分自身につながる問題であると、学生が理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

本科目は、講義形式（オンラインの場合は文書・映像資料の配布形式）でおこなう。また、学生からのリアクションペーパー（質問やコメント）への返答にも時間を割く（オンラインの場合はリプライペーパーの配布）。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「メディア社会（学）」を考えるためのキーワードを紹介する。
2	「ことばの規則」としての言説	M. フーコーの思想をもとに、「言説」という概念の立ち上がりを考える。
3	言説と主体	M. フーコーの思想をもとに、言説と「主体」との関係を考える。
4	「知」の考古学／系譜学	言説を分析する手法としての「考古学」と「系譜学」を考える。
5	言説編制とメディア	言説が編制される場としての「メディア」を考える。
6	言説編制を記録するメディア	言説編制を跡づける技術としての「メディア」を考える。
7	メディア言説の分析	第 6 回までの講義をもとに、実際の「メディア言説」を分析するための準備をする。
8	福島原発事故の言説	福島原発事故後の核エネルギー利用をめぐるメディア言説を考える。
9	「被爆」の言説	「被爆地」広島と長崎をめぐるメディア言説を考える。
10	「第三の被爆」の言説	ビキニ事件の被爆と被曝をめぐるメディア言説を考える。
11	「夢の原子力」の言説	日本の「原子力開発」をめぐるメディア言説を考える。
12	「核の惨禍」の言説	「原子力災害」の被害をめぐるメディア言説を考える。
13	核エネルギー利用と「敗戦」と「復興」の記憶の想起	福島原発事故後のメディア言説が、何を語り、何を語らなかったのかを考える。
14	総括	第 13 回までの講義をもとに、「敗戦」と「復興」をみずからの歴史として再考していくための準備をする。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生には、毎回の講義で指定される参考文献、参考資料を読んで予習、復習することが求められる。本科目の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

指定しない。

#### 【参考書】

福岡良明, 2006, 『「反戦」のメディア史——戦後日本における世論と輿論の拮抗』世界思想社。

山本昭宏, 2012, 『核エネルギー言説の戦後史 1945-1960 ——「被爆の記憶」と「原子力の夢」』人文書院

#### 【成績評価の方法と基準】

成績評価は、原則として期末レポートを 100 %とする。講義で繰り返し解説する論点を、学生が理解しているかが評価の基準となる。また、講義内で指定する課題の提出状況・内容に応じた平常点を評価に加算することもある。

#### 【学生の意見等からの気づき】

経済学部学生には馴染みのない、社会学の専門用語の解説をより丁寧におこなうようにします。

#### 【Outline and objectives】

In this class, students will learn some of ideas that raised by 'sociology', and re-consider the history of 'defeat' and 'reconstruction' of Japan. The objective is that students living in the 'present' improve their ability to think the history of 'post-war Japan' as their own problems.

PSY100CA
心理学 A
松野 響
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、「心」の仕組みに関する現代心理学の知見を学ぶ。ものの見え方や思考、言語に関する心の働きなど、幅広いトピックスについて、科学的な実証研究にもとづいた初学者向けの解説をもとに、人間の「心」とはどのようなものなのかについて考察する。

### 【到達目標】

現代の心理学の初歩的な知識を得る。「心」に対する科学的なアプローチの方法論を知り、心がどのように働いているのか、そのメカニズムについて理解を深めることで、我々人間の心や行動を、科学的・客観的に分析する力を養う（臨床・深層心理学、個人的な心の悩みの解決方法、などはこの授業では解説されない。心のメカニズムについての実証的・科学的な研究について学ぶ）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

### 【授業の進め方と方法】

毎週 100 分間の授業動画により講義をおこなう。オンデマンド形式の授業ではあるが、毎週決まった曜日に授業動画がアップロードされ、その翌日に小レポートの提出日が設定されるため、動画視聴をする受講日は決まった曜日となる。その曜日に必ず空きコマを確保し、毎週決まった曜日に受講することを求める（水曜日に 1 コマ受講するための時間を取る必要がある。詳細は初回授業にて説明する）。

授業の配信および質問に対するフィードバックのために Google Classroom を用いる。詳細は、授業日第 1 週目に学習支援システム (Hoppi) のお知らせ欄にて連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	心理学の方法論	「心」への科学的なアプローチについて
2	感覚と知覚	感覚知覚について
3	色覚	色とは何か。色が見える仕組みについて
4	形態視	形の認識について
5	注意	視覚的注意の仕組みについて
6	視覚以外の感覚および感覚間相互作用	聴覚、味覚、嗅覚、体性感覚、および感覚間の相互作用について
7	学習	学習の原理について
8	知覚学習	知覚学習の仕組みについて
9	記憶の仕組み	ワーキングメモリの働きについて
10	記憶の仕組み	長期的な記憶について
11	思考	思考・創造性について
12	意思決定	意思決定と判断のバイアスについて
13	言語	ことばの起源と発達について
14	言語	思考と言語の相互作用について

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。  
授業中に課す小レポート課題への取り組み、心理学実験・心理学調査への参加体験、授業時に紹介する参考資料の精読を通じて、実証的な心理学についてより深く実感をもって理解する。

### 【テキスト（教科書）】

教科書はもっていない。

### 【参考書】

トピックごとに授業内で適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

定期試験期間中の期末試験 (65%) および毎週の授業動画内で課す課題 (授業トピックに関する毎週の小レポート、心理学実験・心理学調査への参加体験およびその考察) の提出 (35%) によって評価する。COVID-19 の流行状況によって大学での期末試験の実施が困難になった場合には、期末試験の配点 65 % の内、33 % をオンライン試験に、32% を小レポートの評価点に配分する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【学生が準備すべき機器他】

資料配布や授業に関する各種連絡のため Google Classroom を使用する。講義は動画で配信するため、動画視聴可能な十分なディスプレイサイズを備えたデバイスおよび安定した通信環境を確保していること。スマートフォンでの授業受講は想定していない。スマートフォンでの受講を妨げるものではないが、スマートフォン固有のトラブルや画面サイズの小ささに起因する制約に関しての配慮はおこなわない。

### 【Outline and objectives】

This course is an introduction to the science of psychology. Students will learn about the latest research on topics such as perception, learning, memory, and language.

PSY100CA
心理学 B
松野 響
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この講義では、「心」の仕組みに関する現代心理学の知見を学ぶ。意識、感情、他者との関わりに関する心の働きなど、幅広いトピックスについて、科学的な実証研究にもとづいた初学者向けの解説をもとに、人間の「心」とはどのようなものなのかについて考察する。

**【到達目標】**

現代の心理学の初歩的な知識を得る。「心」に対する科学的なアプローチの方法論を知り、心がどのように働いているのか、そのメカニズムについて理解を深めることで、我々人間の心や行動を、科学的・客観的に分析する力を養う（臨床・深層心理学、個人的な心の悩みの解決方法、などはこの授業では解説されない。心のメカニズムについての実証的・科学的な研究について学ぶ）。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

毎週 100 分間の授業動画により講義をおこなう。オンデマンド形式の授業ではあるが、毎週決まった曜日に授業動画がアップロードされ、その翌日に小レポートの提出日が設定されるため、動画視聴をする受講日は決まった曜日となる。その曜日に必ず空きコマを確保し、毎週決まった曜日に受講することを求める（水曜日に 1 コマ受講するための時間を取る必要がある。詳細は初回授業にて説明する）。

授業の配信および質問に対するフィードバックのために Google Classroom を用いる。詳細は、授業日第 1 週目に学習支援システム (Hoppi) のお知らせ欄にて連絡する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	意識の科学	意識・無意識の情報処理について
2	時間の認識	時間知覚、過去・未来の認識について
3	感性情報処理	選好の仕組みについて
4	感性情報処理	色・音楽・社会的刺激の嗜好、選好について
5	感情	情動に関する諸理論について
6	感情	複雑で複合的な感情について
7	自己身体認識	身体感覚について
8	身体化された認知	心と身体の相互作用について
9	自己の知覚	自己身体と自己認識について
10	自己概念	顕在的・潜在的な自己認識について
11	他者知覚	社会的情報の知覚について
12	他者の心の理解	他者の心的状態の認識について
13	他者の理解を支える情報処理	視線・意図の認識について
14	社会と心	他者から受ける影響について

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備・復習時間は 2 時間を標準とする。

授業中に課された小レポート課題への取り組み、心理学実験・心理学調査への参加体験、授業時に紹介する参考資料の精読を通じて、実証的な心理学についてより深く実感をもって理解する。

**【テキスト（教科書）】**

教科書はもっていない。

**【参考書】**

授業中に適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

定期試験期間中の期末試験 (65%) および毎週の授業動画内で課す課題 (授業トピックに関する毎週の小レポート、心理学実験・心理学調査への参加体験およびその考察) の提出 (35%) によって評価する。COVID-19 の流行状況によって大学での期末試験の実施が困難になった場合には、期末試験の配点 65 % の内、33 % をオンライン試験に、32% を小レポートの評価点に配分する。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【学生が準備すべき機器他】**

資料配布や授業に関する各種連絡のため Google Classroom を使用する。講義は動画で配信するため、動画視聴可能な十分なディスプレイサイズを備えたデバイスおよび安定した通信環境を確保していること。スマートフォンでの授業受講は想定していない。スマートフォンでの受講を妨げるものではないが、スマートフォン固有のトラブルや画面サイズの小ささに起因する制約に関しての配慮はおこなわない。

**【Outline and objectives】**

This course is an introduction to the science of psychology. Students will learn about the latest research on topics such as consciousness, time perception, emotion, and social cognition.

PSY100CA
心理学 A
松野 響
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、「心」の仕組みに関する現代心理学の知見を学ぶ。ものの見え方や思考、言語に関する心の働きなど、幅広いトピックスについて、科学的な実証研究にもとづいた初学者向けの解説をもとに、人間の「心」とはどのようなものなのかについて考察する。

### 【到達目標】

現代の心理学の初歩的な知識を得る。「心」に対する科学的なアプローチの方法論を知り、心がどのように働いているのか、そのメカニズムについて理解を深めることで、我々人間の心や行動を、科学的・客観的に分析する力を養う（臨床・深層心理学、個人的な心の悩みの解決方法、などはこの授業では解説されない。心のメカニズムについての実証的・科学的な研究について学ぶ）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

### 【授業の進め方と方法】

毎週 100 分間の授業動画により講義をおこなう。オンデマンド形式の授業ではあるが、毎週決まった曜日に授業動画がアップロードされ、その翌日に小レポートの提出日が設定されるため、動画視聴をする受講日は決まった曜日となる。その曜日に必ず空きコマを確保し、毎週決まった曜日に受講することを求める（水曜日に 1 コマ受講するための時間を取る必要がある。詳細は初回授業にて説明する）。

授業の配信および質問に対するフィードバックのために Google Classroom を用いる。詳細は、授業日第 1 週目に学習支援システム (Hoppi) のお知らせ欄にて連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	心理学の方法論	「心」への科学的なアプローチについて
2	感覚と知覚	感覚知覚について
3	色覚	色とは何か。色が見える仕組みについて
4	形態視	形の認識について
5	注意	視覚的注意の仕組みについて
6	視覚以外の感覚および感覚間相互作用	聴覚、味覚、嗅覚、体性感覚、および感覚間の相互作用について
7	学習	学習の原理について
8	知覚学習	知覚学習の仕組みについて
9	記憶の仕組み	ワーキングメモリの働きについて
10	記憶の仕組み	長期的な記憶について
11	思考	思考・創造性について
12	意思決定	意思決定と判断のバイアスについて
13	言語	ことばの起源と発達について
14	言語	思考と言語の相互作用について

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。  
授業中に課す小レポート課題への取り組み、心理学実験・心理学調査への参加体験、授業時に紹介する参考資料の精読を通じて、実証的な心理学についてより深く実感をもって理解する。

### 【テキスト（教科書）】

教科書はもっていない。

### 【参考書】

トピックごとに授業内で適宜紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

定期試験期間中の期末試験 (65%) および毎週の授業動画内で課す課題 (授業トピックに関する毎週の小レポート、心理学実験・心理学調査への参加体験およびその考察) の提出 (35%) によって評価する。小レポートの提出率が低い場合には期末試験の受験は認めない。COVID-19 の流行状況によって大学での期末試験の実施が困難になった場合には、期末試験の配点 65 % の内、33 % をオンライン試験に、32% を小レポートの評価点に配分する。

### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

### 【学生が準備すべき機器他】

資料配布や授業に関する各種連絡のため Google Classroom を使用する。講義は動画で配信するため、動画視聴可能な十分なディスプレイサイズを備えたデバイスおよび安定した通信環境を確保していること。スマートフォンでの授業受講は想定していない。スマートフォンでの受講を妨げるものではないが、スマートフォン固有のトラブルや画面サイズの小ささに起因する制約に関する配慮はおこなわない。

### 【Outline and objectives】

This course is an introduction to the science of psychology. Students will learn about the latest research on topics such as perception, learning, memory, and language.

PSY100CA
心理学 B
松野 響
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この講義では、「心」の仕組みに関する現代心理学の知見を学ぶ。意識、感情、他者との関わりに関する心の働きなど、幅広いトピックスについて、科学的な実証研究にもとづいた初学者向けの解説をもとに、人間の「心」とはどのようなものなのかについて考察する。

**【到達目標】**

現代の心理学の初歩的な知識を得る。「心」に対する科学的なアプローチの方法論を知り、心がどのように働いているのか、そのメカニズムについて理解を深めることで、我々人間の心や行動を、科学的・客観的に分析する力を養う（臨床・深層心理学、個人的な心の悩みの解決方法、などはこの授業では解説されない。心のメカニズムについての実証的・科学的な研究について学ぶ）。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

毎週 100 分間の授業動画により講義をおこなう。オンデマンド形式の授業ではあるが、毎週決まった曜日に授業動画がアップロードされ、その翌日に小レポートの提出日が設定されるため、動画視聴をする受講日は決まった曜日となる。その曜日に必ず空きコマを確保し、毎週決まった曜日に受講することを求める（水曜日に 1 コマ受講するための時間を取る必要がある。詳細は初回授業にて説明する）。

授業の配信および質問に対するフィードバックのために Google Classroom を用いる。詳細は、授業日第 1 週目に学習支援システム (Hoppi) のお知らせ欄にて連絡する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	意識の科学	意識・無意識の情報処理について
2	時間の認識	時間知覚、過去・未来の認識について
3	感性情報処理	選好の仕組みについて
4	感性情報処理	色・音楽・社会的刺激の嗜好、選好について
5	感情	情動に関する諸理論について
6	感情	複雑で複合的な感情について
7	自己身体認識	身体感覚について
8	身体化された認知	心と身体の相互作用について
9	自己の知覚	自己身体と自己認識について
10	自己概念	顕在的・潜在的な自己認識について
11	他者知覚	社会的情報の知覚について
12	他者の心の理解	他者の心的状態の認識について
13	他者の理解を支える情報処理	視線・意図の認識について
14	社会と心	他者から受ける影響について

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備・復習時間は 2 時間を標準とする。

授業中に課された小レポート課題への取り組み、心理学実験・心理学調査への参加体験、授業時に紹介する参考資料の精読を通じて、実証的な心理学についてより深く実感をもって理解する。

**【テキスト（教科書）】**

教科書はもっていない。

**【参考書】**

授業中に適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

定期試験期間中の期末試験 (65%) および毎週の授業動画内で課す課題 (授業トピックに関する毎週の小レポート、心理学実験・心理学調査への参加体験およびその考察) の提出 (35%) によって評価する。COVID-19 の流行状況によって大学での期末試験の実施が困難になった場合には、期末試験の配点 65 % の内、33 % をオンライン試験に、32% を小レポートの評価点に配分する。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【学生が準備すべき機器他】**

資料配布や授業に関する各種連絡のため Google Classroom を使用する。講義は動画で配信するため、動画視聴可能な十分なディスプレイサイズを備えたデバイスおよび安定した通信環境を確保していること。スマートフォンでの授業受講は想定していない。スマートフォンでの受講を妨げるものではないが、スマートフォン固有のトラブルや画面サイズの小ささに起因する制約に関しての配慮はおこなわない。

**【Outline and objectives】**

This course is an introduction to the science of psychology. Students will learn about the latest research on topics such as consciousness, time perception, emotion, and social cognition.

PLN100CA
<b>数学 A</b>
佐柄 信純
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

解析学は変化する量を扱う科学です。経済学は不断に変動する経済量を分析します。本講義では、経済理論の理解に不可欠な解析学の基礎を入門レベルから解説します。A では1変数および多変数の微分法を、B ではラグランジュ乗数法と積分法をできるだけ分かり易く講義します。

### 【到達目標】

経済の専門科目目の講義を理解するのに必要な数学を修得するのが目標です。特に、ミクロ経済学と統計学への微積分の応用に力を置きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

### 【授業の進め方と方法】

教科書に基づき授業を進めます。100分の授業のうち、80分を講義にあて、残りの20分で講義内容に関する演習問題を各自解いてもらいます。毎回、それを提出し、次回の授業時に答え合わせをして返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	数学と経済学(1)	等式
第2回	数学と経済学(2)	関数
第3回	数学と経済学(3)	数学と経済学の関係
第4回	1変数連続関数(1)	関数の連続性
第5回	1変数連続関数(2)	連続関数の逆関数
第6回	1変数連続関数(3)	連続関数の合成関数
第7回	1変数関数の微分法(1)	微分の基礎、合成関数の微分法
第8回	1変数関数の微分法(2)	積と商の微分法、逆関数の微分法
第9回	1変数関数の微分法(3)	指数関数、対数関数
第10回	1変数関数の微分法(4)	需要の価格弾力性、接線と1次近似
第11回	1変数関数の最適化(1)	極値の1階の条件
第12回	1変数関数の最適化(2)	凸関数
第13回	1変数関数の最適化(3)	2次近似と2階の条件
第14回	まとめ	理解度の評価

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当箇所を事前に読んで上で授業に出席することが求められます。必要に応じて、適宜宿題を課します。毎回の講義につき、予習1時間、復習2時間、宿題1時間の学習が必要になります。

### 【テキスト（教科書）】

小宮英敏『入門 経済学のための微分・積分』、東洋経済新報社、2015年

### 【参考書】

高校レベルの数学の復習が必要な学生には、次のテキストを推奨します。

[1] 尾山大輔・安田洋祐 編著『経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める』、改訂版、日本評論社、2013年

本講義のレベルを超えて、さらに経済数学を学びたい学生には次のテキストを薦めます。

[2] 武隈慎一・石村直之『基礎コース 経済数学』、新世社、2003年

[3] 立石 寛・武藤 功『経済数学への招待』、勁草書房、1994年

[4] A.C. チャン・K. ウェインライト『現代経済学の数学基礎（第4版）』、シーエーピー出版、2010年

数学に関する面白い読み物として、次のものを薦めます。

[5] マーシャ・ガッセン『完全なる証明—100万ドルを拒否した天才数学者』、文藝春秋、2009年

[6] サイモン・シン『フェルマーの最終定理』、新潮文庫、2006年

[7] 高瀬正仁『岡潔—数学の詩人』、岩波新書、2008年

[8] ポール・ホフマン『放浪の天才数学者エルデシュ』、草思社、2000年

[9] G.H. ハーディ・C.P. スノー『ある数学者の生涯と弁明』、シュプリンガー・フェアラーク東京、1994年

### 【成績評価の方法と基準】

定期試験(80%)と平常授業時に行う問題演習(20%)の総合評価。試験は持ち込み不可で行います。振り替え試験、レポート提出による成績評価は一切行いません。

### 【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に合わせて授業の進行スピードを調整します。

### 【Outline and objectives】

In this course elementary calculus is lectured. Differentiation with multivariable is the main theme.

PLN100CA
<b>数学B</b>
佐柄 信純
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

解析学は変化する量を扱う科学です。経済学は不断に変動する経済量を分析します。本講義では、経済理論の理解に不可欠な解析学の基礎を入門レベルから解説します。Aでは1変数および多変数の微分法を、Bではラグランジュ乗数法と積分法をできるだけ分かり易く講義します。

**【到達目標】**

経済の専門科目目の講義を理解するのに必要な数学を修得するのが目標です。特に、ミクロ経済学と統計学への微積分の応用に力を置きます。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

教科書に基づき授業を進めます。100分の授業のうち、80分を講義にあて、残りの20分で講義内容に関する演習問題を各自解いてもらいます。毎回、それを提出し、次回の授業時に答え合わせをして返却します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	2変数関数の微分法 (1)	$R^2$ の世界
第2回	2変数関数の微分法 (2)	2変数関数、2変数関数の連続性
第3回	2変数関数の微分法 (3)	2変数関数の微分可能性、偏微分
第4回	2変数関数の微分法 (4)	接平面、合成関数の微分法
第5回	2変数関数の最適化 (1)	制約なしの極値問題、等値線
第6回	2変数関数の最適化 (2)	制約付き極値問題、陰関数（関係の中に隠れている関数）
第7回	2変数関数の最適化 (3)	ラグランジュ未定乗数法と陰関数、消費者と需要関数
第8回	1変数関数の積分法 (1)	定積分、不定積分
第9回	1変数関数の積分法 (2)	置換積分法、部分積分法
第10回	1変数関数の積分法 (3)	無限区間上の定積分と確率密度関数
第11回	2変数関数の積分法 (1)	2変数関数の積分
第12回	2変数関数の積分法 (2)	1次元正規分布の確率密度関数
第13回	2変数関数の積分法 (3)	$R^2$ 上の積分と2次元正規分布、確率密度関数の行列表示
第14回	まとめ	理解度の評価

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

教科書の講義箇所を事前に読んで上で授業に出席することが求められます。必要に応じて、適宜宿題を課します。毎回の講義につき、予習1時間、復習2時間、宿題1時間の学習が必要になります。

**【テキスト（教科書）】**

小宮英敏『入門 経済学のための微分・積分』、東洋経済新報社、2015年

**【参考書】**

高校レベルの数学の復習が必要な学生には、次のテキストを推奨します。

[1] 尾山大輔・安田洋祐 編著『経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める』、改訂版、日本評論社、2013年

本講義のレベルを超えて、さらに経済数学を学びたい学生には次のテキストを薦めます。

[2] 武隈慎一・石村直之『基礎コース 経済数学』、新世社、2003年

[3] 立石 寛・武藤 功『経済数学への招待』、勁草書房、1994年

[4] A.C. チャン・K. ウェインライト『現代経済学の数学基礎（第4版）』、シーエービー出版、2010年

数学に関する面白い読み物として、次のものを薦めます。

[5] マーシャ・ガッセン『完全なる証明—100万ドルを拒否した天才数学者』、文藝春秋、2009年

[6] サイモン・シン『フェルマーの最終定理』、新潮文庫、2006年

[7] 高瀬正仁『岡潔—数学の詩人』、岩波新書、2008年

[8] ポール・ホフマン『放浪の天才数学者エルデシュ』、草思社、2000年

[9] G.H. ハーディ・C.P. スノー『ある数学者の生涯と弁明』、シュプリンガー・フェアラーク東京、1994年

**【成績評価の方法と基準】**

定期試験（80%）と平常授業時に行う問題演習（20%）の総合評価。試験は持ち込み不可で行います。振り替え試験、レポート提出による成績評価は一切行いません。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生の理解度に合わせて授業の進行スピードを調整します。

**【Outline and objectives】**

In this course elementary calculus is lectured. Lagrange multiplier method is the main theme.

PHY100CA
<b>物理学 A</b>
<b>藤田 貢崇</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、宇宙はどのようにしてできたのか、宇宙にはなにがあるのか、また非常に小さなスケールの視点で、身の回りの物質がどのように構成されているのかについて理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます。さらに、科学と社会の関わりについても理解を深めます。

#### 【到達目標】

ものを構成する究極の構成要素は何であるのか、それらの構成要素は宇宙の歴史のなかでいつ、どこで生成されたかを説明できること。また、素粒子とはなにかを説明できること。さらに、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、科学をどう活用すべきであるかを具体的に提示できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

毎回、資料を学習支援システムの「教材」に配信します。  
 ・これらの資料と教科書などを活用し、内容を理解したうえでオンラインの問題に答え、さらに小課題をオンラインにより提出してください。  
 ・提出期限は資料公開からおおむね1週間とし、毎回の資料に締切日時を明示します。  
 ・課題や質問等に対するフィードバックは、次回の授業時に資料として配信します。  
 ・毎回の授業で、最近の科学ニュースなどを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と物理の学び方についての説明
2	物理学とはどのような学問か	物理学の研究領域について理解する
3	ものはなからできていますか	身の周りのものがどのようにできているかを理解する
4	素粒子の世界	原子のさらに微細な構造を理解する
5	質量とエネルギー	質量とエネルギーの関係を理解する
6	素粒子と力の関係	素粒子と力がどのように関係するかを理解する
7	宇宙の構造	宇宙はどのようなものでできているかを理解する
8	宇宙の歴史	宇宙の歴史の概要を理解する
9	初期宇宙とインフレーション	初期の宇宙の状況を理解する
10	最初の原子	最初にできた原子とその状況を理解する
11	星の中で起こること	星の中でどのような物質が形成されるのかを理解する
12	暗黒エネルギー	暗黒エネルギーとは何かを理解する
13	粒子加速器	物質の研究を行う粒子加速器について理解する

14 科学技術が果たす役割 科学技術は私たちの社会にどのような関わりをもつかを理解する

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

『ブロックで学ぶ素粒子の世界』、Ben Still 著・藤田貢崇訳、白揚社、2020年

#### 【参考書】

・Nature ダイジェスト教材活用事例：<http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video>

#### 【成績評価の方法と基準】

・毎回の確認問題および小課題の提出【50%】

・最終課題の提出【50%】

の比率とし、得点率60%以上で単位修得を認定する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

#### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに登録すること。

#### 【その他の重要事項】

本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

#### 【Outline and objectives】

Physics is a field of research to understand the laws in the natural world from microscopic to cosmic scale. The contents of learning are origin of Universe, microscopic structures of matters, the laws of particle physics, and so on.

The course aims to understand the nature and structure of matters, as well as relation between science and society.

PHY100CA
<b>物理学 B</b>
<b>藤田 貢崇</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、微小な世界を説明する素粒子物理学について学び、物理学がまだまだ明らかにできない点は何であるのかを理解します。

また、科学の研究が私たちの社会と深く関係していることを理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます

**【到達目標】**

素粒子論の考え方を説明できること。また、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、科学がどのように発展すべきであるかを考察できること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

- 毎回、資料を学習支援システムの「教材」に配信します。
- これらの資料と教科書などを活用し、内容を理解したうえでオンラインの問題に答え、さらに小課題をオンラインにより提出してください。
- 提出期限は資料公開からおおむね1週間とし、毎回の資料に締切日時を明示します。
- 課題や質問等に対するフィードバックは、次回の授業時に資料として配信します。
- 毎回の授業で、最近の科学ニュースなどを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の実施方法・評価方法・教科書などについて説明する
2	物質はなにかからできているか	物理学 B から学ぶ学生も素粒子をスムーズに理解できるよう、物理学 A で学んだ内容のうち、原子の構成とクォークについて学ぶ
3	物質の構成要素はどのように結び付けられているか	物理学 B から学ぶ学生も素粒子をスムーズに理解できるよう、物理学 A で学んだ内容のうち、素粒子の世界ではたらく力について学ぶ
4	素粒子の種類	素粒子は一体何種類あるのか、それらのはたらきとの関係は何かを理解する
5	電磁気力	電磁気力について詳しく理解する
6	弱い力	弱い力について詳しく理解する
7	重力	重力について詳しく理解する
8	強い力と中間子	中間子と強い力について詳しく理解する
9	ニュートリノ	ニュートリノについて理解する
10	素粒子を検出する方法	素粒子を検出する加速器や霧箱などについて理解する
11	放射能とはなにか	放射能とは何か、詳しく理解する
12	統一理論	力の統一理論について理解する
13	未知の物理	いまだ明らかにできていない物理学の領域について知る

14 科学技術の未来 科学技術はどのような方向性を持つべきかを考察する

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

『ブロックで学ぶ素粒子の世界』、Ben Still 著・藤田貢崇訳、白揚社、2020年

**【参考書】**

・Nature ダイジェスト教材活用事例: <http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video>

**【成績評価の方法と基準】**

- ・毎回の確認問題および小課題の提出 【50%】
  - ・最終課題の提出 【50%】
- の比率とし、得点率 60%以上で単位修得を認定する。

**【学生の意見等からの気づき】**

毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムに登録すること。

**【その他の重要事項】**

本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

**【Outline and objectives】**

Physics is a field of research to understand the laws in the natural world from microscopic to cosmic scale. The contents of learning are the structures of matters and quantum theories, and so on.

The course aims to understand the fundamental quantum physics as well as relation between science and society.

PHY100CA
<b>物理学 A</b>
藤田 貢崇
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、宇宙はどのようにしてできたのか、宇宙にはなにがあるのか、また非常に小さなスケールの視点で、身の回りの物質がどのように構成されているのかについて理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます。さらに、科学と社会の関わりについても理解を深めます。

#### 【到達目標】

ものを構成する究極の構成要素は何であるのか、それらの構成要素は宇宙の歴史のなかでいつ、どこで生成されたかを説明できること。また、素粒子とはなにかを説明できること。

さらに、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、科学をどう活用すべきであるかを具体的に提示できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

毎回、資料を学習支援システムの「教材」に配信します。  
 ・これらの資料と教科書などを活用し、内容を理解したうえでオンラインの問題に答え、さらに小課題をオンラインにより提出してください。  
 ・提出期限は資料公開からおおむね1週間とし、毎回の資料に締切日時を明示します。  
 ・課題や質問等に対するフィードバックは、次回の授業時に資料として配信します。  
 ・毎回の授業で、最近の科学ニュースなどを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と物理の学び方についての説明
2	物理学とはどのような学問か	物理学の研究領域について理解する
3	ものはなからできてくるか	身の周りのものがどのようにできているかを理解する
4	素粒子の世界	原子のさらに微細な構造を理解する
5	質量とエネルギー	質量とエネルギーの関係を理解する
6	素粒子と力の関係	素粒子と力がどのように関係するかを理解する
7	宇宙の構造	宇宙はどのようなものでできているかを理解する
8	宇宙の歴史	宇宙の歴史の概要を理解する
9	初期宇宙とインフレーション	初期の宇宙の状況を理解する
10	最初の原子	最初にできた原子とその状況を理解する
11	星の中で起こること	星の中でどのような物質が形成されるかを理解する
12	暗黒エネルギー	暗黒エネルギーとは何かを理解する
13	粒子加速器	物質の研究を行う粒子加速器について理解する

14 科学技術が果たす役割 科学技術は私たちの社会にどのような関わりをもつかを理解する

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

『ブロックで学ぶ素粒子の世界』、Ben Still 著・藤田貢崇訳、白揚社、2020年

#### 【参考書】

・Nature ダイジェスト教材活用事例：<http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video>

#### 【成績評価の方法と基準】

・毎回の確認問題および小課題の提出【50%】

・最終課題の提出【50%】

の比率とし、得点率60%以上で単位修得を認定する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

#### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに登録すること。

#### 【その他の重要事項】

本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

#### 【Outline and objectives】

Physics is a field of research to understand the laws in the natural world from microscopic to cosmic scale. The contents of learning are origin of Universe, microscopic structures of matters, the laws of particle physics, and so on.

The course aims to understand the nature and structure of matters, as well as relation between science and society.

PHY100CA
<b>物理学 B</b>
<b>藤田 貢崇</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

物理学とは、この世界の状況をどのように法則化することができるかを考える学問です。この授業では、微小な世界を説明する素粒子物理学について学び、物理学がまだまだ明らかにできない点は何であるのかを理解します。

また、科学の研究が私たちの社会と深く関係していることを理解し、日常生活の現象を科学的に説明する力を身につけます

**【到達目標】**

素粒子論の考え方を説明できること。また、私たちの社会と科学がどのように結びついているのか、科学がどのように発展すべきであるかを考察できること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

- 毎回、資料を学習支援システムの「教材」に配信します。
- これらの資料と教科書などを活用し、内容を理解したうえでオンラインの問題に答え、さらに小課題をオンラインにより提出してください。
- 提出期限は資料公開からおおむね1週間とし、毎回の資料に締切日時を明示します。
- 課題や質問等に対するフィードバックは、次回の授業時に資料として配信します。
- 毎回の授業で、最近の科学ニュースなどを取り上げ、科学技術と社会のつながりについて意識できるような話題を提供します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の実施方法・評価方法・教科書などについて説明する
2	物質はなにかからできているか	物理学 B から学ぶ学生も素粒子をスムーズに理解できるよう、物理学 A で学んだ内容のうち、原子の構成とクォークについて学ぶ
3	物質の構成要素はどのように結び付けられているか	物理学 B から学ぶ学生も素粒子をスムーズに理解できるよう、物理学 A で学んだ内容のうち、素粒子の世界ではたらく力について学ぶ
4	素粒子の種類	素粒子は一体何種類あるのか、それらのはたらきとの関係は何かを理解する
5	電磁気力	電磁気力について詳しく理解する
6	弱い力	弱い力について詳しく理解する
7	重力	重力について詳しく理解する
8	強い力と中間子	中間子と強い力について詳しく理解する
9	ニュートリノ	ニュートリノについて理解する
10	素粒子を検出する方法	素粒子を検出する加速器や霧箱などについて理解する
11	放射能とはなにか	放射能とは何か、詳しく理解する
12	統一理論	力の統一理論について理解する
13	未知の物理	いまだ明らかにできていない物理学の領域について知る

14 科学技術の未来 科学技術はどのような方向性を持つべきかを考察する

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

科学的な考え方を身に付けるためにも、新聞の科学面などを読む習慣をつけ、私たちの日常生活に科学がどう役立てられているかを考えながら、授業を受けること。

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

『ブロックで学ぶ素粒子の世界』、Ben Still 著・藤田貢崇訳、白揚社、2020年

**【参考書】**

・Nature ダイジェスト教材活用事例: <http://www.natureasia.com/ja-jp/ndigest/video>

**【成績評価の方法と基準】**

- ・毎回の確認問題および小課題の提出 【50%】
  - ・最終課題の提出 【50%】
- の比率とし、得点率 60%以上で単位修得を認定する。

**【学生の意見等からの気づき】**

毎回の授業のテーマとポイントを明確に示し、自らが物理現象についてより深く考えられるような授業を目指します。

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムに登録すること。

**【その他の重要事項】**

本授業は、科学技術理解増進活動推進の実務経験のある教員が担当し、実生活の中で科学技術と社会の関わりや科学技術リテラシーについて、より深く考察できるような授業展開を行います。

**【Outline and objectives】**

Physics is a field of research to understand the laws in the natural world from microscopic to cosmic scale. The contents of learning are the structures of matters and quantum theories, and so on.

The course aims to understand the fundamental quantum physics as well as relation between science and society.

PLN100CA
<b>地学 A</b>
<b>山川 信之</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地学が対象とする研究分野は地形や地質だけでなく、天文や気象、古生物など多岐にわたる。本授業では、地学の研究対象分野の中から地形・地質分野を中心に学習する。また、地球を取り巻く環境問題についても論じていく。それによって地球の姿がどのように形作られてきたのかについて理解することを目的とする。

#### 【到達目標】

- ①地球の成り立ちについて理解する。
- ②地形を作るさまざまな力について理解する。
- ③地球を取り巻く環境問題や自然災害について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

本年度は、コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン授業とする。学習資料は、学習支援システムの教材欄に PDF で配信する。動画の配信や Zoom 等でのリアルタイムでの講義は行わない。なお、毎回の学習資料がワークシート形式になっているので、フィードバックとして次回に配信する学習資料の中で、前回の解答と解説を行う。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

##### 春学期

回	テーマ	内容
第 1 講	地球について知ろう	ガイダンスとして地学の研究内容や学問的位置づけについて紹介する。また、地球の大きさや内部構造、地球を取り巻く大気など地球の概観について学習する。それによって地球がどのような特色を持つ天体であるかを理解する。
第 2 講	地球の歴史を概観する	地球の歴史を地質時代順に概観し、現在の地球環境が成り立つまでにどのような環境変化や地学的イベントが起こったかについて学習する。それによって地球の生い立ちについての概略を理解する。
第 3 講	世界の大地形	大陸移動や海溝、大山脈の形成および造陸運動や造山運動など地球内部のエネルギーによって起こるさまざまな現象について学習する。それによって地球の陸地は3つの形成時代の異なる地形から成り立っていることを理解する。
第 4 講	地殻を構成する物質と岩石のでき方	地殻の成り立ちや地殻を構成する物質としての岩石、鉱物および火成岩、堆積岩、変成岩のできかたなどについて学習する。それによって地表に見られる岩石の一般的な特徴や性質について理解する。
第 5 講	地震と災害	地震が引き起こされるメカニズムと地震によって起こる災害について学習する。それによって日本が変動帯に位置し、世界の中でも地震による災害が多い国であることを理解する。
第 6 講	火山がつくる地形と火山災害	火山の噴火形式や火山がつくるさまざまな地形について学習する。また、火山の噴火によって起こるさまざまな災害についても言及する。それによって日本が変動帯に位置し、世界有数の火山国であることを理解する。
第 7 講	小テストおよび河川がつくる地形	河川の流域に形成されるさまざまな地形や微地形について学習する。それによって河川の地形形成作用の働き方の違いや河川の流域で見られる地形の形成時代や形成環境について理解する。
第 8 講	海岸地形	海岸に発達するさまざまな地形や微地形について学習する。それによって海岸地形の形成のされ方や形成時代、形成環境について理解する。

#### 第 9 講 乾燥帯の地形

乾燥帯に発達するさまざまな地形や微地形について学習する。また、乾燥帯での人々の生活と関連付けて砂漠化などの環境問題にも言及する。それによって乾燥帯における地形形成のメカニズムや乾燥帯における環境問題について理解する。

#### 第 10 講 氷河時代の環境と氷河地形

第四紀の気候変動の中で起こったヴェルム氷期に焦点を当て、氷河作用によって形成された地形や氷河時代の環境について学習する。それによって氷河時代の存在は、現在の自然環境に大きな影響を及ぼしたことを理解する。

#### 第 11 講 永久凍土と周水河環境

北極海沿岸や高山帯などの周水河地域において永久凍土がつくる地形とその形成のメカニズムについて学習する。それによって地球上には周水河帯とよばれる特殊な地形形成作用が働く地域があることを理解する。

#### 第 12 講 石灰岩がつくるカルスト地形

石灰岩の溶食によって形成されるさまざまな地形について学習する。また、石灰岩地域に分布する土壌についても言及する。それによって石灰岩の溶食は異なる気候環境では個別に働き、その気候環境特有のカルスト地形が形成されることを理解する。

#### 第 13 講 土壌の成り立ち

岩石が風化する過程と土壌の生成について学習する。それによって岩石の種類によって風化の過程は異なり、岩石の性質に応じて土壌が生成されることを理解する。

#### 第 14 講 人為が引き起こすさまざまな環境問題

熱帯雨林の伐採にともなう熱帯雨林の縮小と砂漠化、過度な灌漑による塩地化、過剰な施肥による土壌汚染、自然改変によるアラル海の縮小など人間の経済活動によって引き起こされたさまざまな環境問題について学習する。それによって地球環境の維持にどのような施策が必要であるかについて理解する。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で配信する学習資料の最後に復習のためのワークがあるので、それを完成させる。フィードバックとして次回に配布する学習資料に解答と解説を掲載する。予習については各回の学習資料の中で指示する。復習と予習に要する時間は各 2 時間、計 4 時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎時間、学習資料を配布（配信）する。

#### 【参考書】

- 『図説・地球科学』 杉村新・中村保夫・井田喜明編、岩波書店。
- 『地球の科学・大陸は移動する』 竹内均・上田誠也著、NHK ブックス。
- 『地震の教室』 神沼克伊著、古今書院。
- 『火山を読む・自然景観の読み方 1』 守屋以智雄著、岩波書店。
- 『地形学』 町田貞著、大明堂。
- 『自然環境の生い立ち』 田淵洋編、朝倉書店。

#### 【成績評価の方法と基準】

今年度はオンライン授業になるため、学習支援システムを使って一斉テストを 2 回行い、講義内容の理解度を確認する。出題範囲は、授業の到達目標に合わせ、第 6 講までの地球の成り立ちと内的営力に関するもので 40 点、第 7 講から第 14 講までの外的営力と環境問題に関するもので 60 点、合計 100 点で評価する。第 1 回のテストは第 7 講の前半に行う。第 2 回のテストは定期考査期間中の指定された日時で行う。なお、2 回のテストともフィードバックとして解答と解説を学習支援システムより配信する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

学習内容についての質問や要望があれば、学習支援システムから質問してください。次回の学習資料配信時に回答します。なお、質問や要望に対してはできるだけ受講者全員に共有できるようにお答えします。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特にありません。高校の時に使った地図帳や地学、地理の教科書などがあれば準備してください。

#### 【その他の重要事項】

学習内容の関連から、後期の地学 B と合わせて受講することが望ましい。

#### 【Outline and objectives】

His research interests include not only topography and geology, but also astronomical texts, weather, and paleontology. In this class, students will learn mainly in the fields of geomorphology and geology from among the fields of research in geotechnical science. We will also discuss environmental issues surrounding the earth. The aim is to understand how the earth has been shaped by it.

PLN100CA
<b>地学 B</b>
<b>山川 信之</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地学が対象とする研究分野は地形・地質だけでなく、天文や気象、古生物など多岐にわたる。本授業では、地学の研究対象分野の中から気象・気候分野を中心に学習する。それによって地球を取り巻く大気循環やそれによって生じる気候について理解することを目的とする。また、地球を取り巻く環境問題にも触れ、その原因や対策についても論じていく。

### 【到達目標】

- ①地球の大気循環によって生じる気象現象や気候帯の成り立ちについて理解する。
- ②植生帯や土壌分布は気候の影響を受けて成立することを理解する。
- ③第四紀の気候変動とそれによって起こった諸現象について理解する。
- ④地球を取り巻く環境問題について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン授業とする。学習資料は、学習支援システムの教材欄に PDF で配信する。動画の配信や Zoom 等でのリアルタイムでの講義は行わない。なお、毎回の学習資料がワークシート形式になっているので、フィードバックとして次回に配信する学習資料の中で、前回の解答と解説を行う。なお、社会状況が改善され、対面授業が可能になった場合はパワーポイントと学習資料を用いた講義主体の授業を行う。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

#### 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 講	自然環境における気象や気候の働き	ガイダンスとして世界および日本の様々な自然景観を取り上げ、その景観がどのようにして成り立っているのかについて紹介する。それにより自然景観を作る要素のひとつとして気候環境が影響していることを理解する。
第 2 講	気候の成り立ち	地球の大気循環のメカニズムと気候要素および気候因子について学習する。それにより世界の気候帯が成立していることを理解する。
第 3 講	ケッペンの気候区分と気候区分の基本的な考え方	ケッペンの気候区分の考え方や基本的な気候区分のしかたについて学習する。それによりケッペンの気候区分が気温、降水量の分布と植生帯との対応によって合理的に気候帯を区分していることを理解する。
第 4 講	熱帯・乾燥帯の気候	熱帯および乾燥帯の気候区の気温、降水量の分布とそれを規定する要因について学習する。それによって熱帯および乾燥帯の気候区分とそれぞれの気候区の特徴について理解する。
第 5 講	温帯の気候	温帯の気候区の気温、降水量の分布とそれを規定する要因について学習する。それによって温帯の気候区分とそれぞれの気候区の特徴について理解する。
第 6 講	亜寒帯・寒帯の気候	亜寒帯および寒帯の気候区の気温、降水量の分布とそれを規定する要因について学習する。それにより亜寒帯および寒帯の気候区分とそれぞれの気候区の特徴について理解する。
第 7 講	第 1 回テストおよび日本の気候と気候区分	日本の気候と気候区分について学習する。また、日本の気候に影響を与える気団やさまざまな気象現象についても言及する。それによって日本の各気候区における気候の特色について理解する。

#### 第 8 講 気象災害

日本における台風、雪崩、集中豪雨などの気象災害がどのようなメカニズムで発生するのかについて学習する。また、異常気象や都市気候についても言及する。それによって日本がさまざまな気象災害が起こる地域であることを理解するとともに防災に対する理解を深める。

#### 第 9 講 日本の植生帯

日本の植生帯と植生帯が成り立つ環境について学習する。それによって日本の植生帯は気候環境に応じて植生帯が成り立っていることを理解する。

#### 第 10 講 熱帯・乾燥帯の土壌

熱帯および乾燥帯に分布する成帯土壌と成帯内性土壌（間帯土壌）について学習する。それによって熱帯および乾燥帯に分布する土壌の性質と特徴について理解する。

#### 第 11 講 温帯・亜寒帯・寒帯の土壌

温帯、亜寒帯および寒帯に分布する成帯土壌と成帯内性土壌（間帯土壌）について学習する。それによって温帯、亜寒帯および寒帯に分布する土壌の性質と特徴について理解する。

#### 第 12 講 日本の土壌

日本に分布する土壌とその特質について学習する。日本の土壌分布は、複雑な地形や亜熱帯から亜寒帯まで分布する気候環境および異なる母材の性質によって規定されていることを理解する。

#### 第 13 講 第四紀の気候変動

第四紀に起きた氷河期や小氷期、間氷期の気候変動について地形や堆積物の研究からどのような環境が生じたのかについて学習する。それによって現在の自然環境が、気候変動を経て成り立っていることを理解する。

#### 第 14 講 地球温暖化と自然環境への影響

地球温暖化のメカニズムと地球温暖化によって起こるさまざまな自然環境への影響について学習する。それによって温暖化を防止することが地球レベルの重要な課題であることを理解する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で配信する学習資料の最後に復習のためのワークがあるので、それを完成させる。フィードバックとして次回に配布する学習資料に解答と解説を掲載する。予習については各回の学習資料の中で指示する。復習と予習に要する時間は各 2 時間、計 4 時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎時間、学習資料を配布する。

### 【参考書】

【気候学入門】水越允治・山下脩二著、古今書院。  
 【気象ハンドブック】NHK 放送文化研究所編、NHK 出版。  
 【世界の自然環境】山本正三・田中真吾・太田勇編、大明堂。  
 【日本の気候・日本の自然 5】中村和郎・木村竜治・内嶋善兵衛著、岩波書店  
 【土壌地理学序説】松井健著、築地書館。

### 【成績評価の方法と基準】

今年度はオンライン授業になるため、学習支援システムを使って一斉テストを 2 回行い、講義内容の理解度を確認する。出題範囲は、授業の到達目標に合わせ、第 6 講までの気候の成り立ちと気候区分に関するもので 40 点、第 7 講から第 14 講までの日本の気候と植生帯、世界の土壌と環境問題に関するもので 60 点、合計 100 点で評価する。第 1 回は第 7 講の前半を使って行い、第 2 回は定期考査中の指定された日時で行う。なお、2 回のテストともフィードバックとして学習支援システムより解答と解説を配信する。

### 【学生の意見等からの気づき】

学習内容についての質問や要望があれば、学習支援システムから質問してください。次回の学習資料配信時に回答します。なお、質問や要望に対してはできるだけ受講者全員に共有できるようお答えします。

### 【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、高校で使った地図帳があれば手元にあると便利です。

### 【その他の重要事項】

学習内容の関連から、前期の地学 A と合わせて受講することが望ましい。また、社会状況の改善で対面授業が可能になった場合には、授業計画に一部変更が起こりうることを了解していただきたい。

### 【Outline and objectives】

His research interests include not only geomorphology and geology, but also astronomical texts, weather, and paleontology. In this class, students will learn mainly in the meteorological and climate fields from among the research subjects of geosthology. The purpose of this study is to understand the circulation of the atmosphere surrounding the Earth and the climate caused by it. In addition, we will touch on the environmental issues surrounding the earth and discuss the causes and countermeasures.

BSC100CA
<b>化学A</b>
<b>山崎 友紀</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「化学」の知識は、身のまわりにあるさまざまな自然現象を理解するために重要です。「物質」や“反応”によって支えられている私たちの体や地球環境、めまぐるしく発展する科学技術の姿について「化学」を通じて学びましょう。

#### 【到達目標】

「身近な商品」の中から、その物質の性質や変化について、基礎的で正確な知識の習得を通して「化学」を学ぶ。社会的、文化的、政治的、経済的、および倫理的な絡み合いの中にある「化学」の位置づけを理解し、合理的な判断力を養うこと（科学リテラシーの修得）を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

親しみある身近なトピックスを主体に「化学」の知識と理解を深めていきます。講義の中でデモ実験、ネットワーク学習（学習支援システム）、映像教材を取り入れ、授業内容の理解を促します。ほぼ毎回アクションペーパーまたは課題で理解度チェックを行います。学生へのフィードバックとして代表的なものを授業内でフォローします。また学生からの質問や相談には、学習支援システム上またはオフィスアワーで解説などの対応をします。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	『シャープ芯、消しゴム、ノート』	講義のガイダンス。「化学」とはどのような学問か。
第2回	『携帯電話、レアアース・レアメタル』	元素の種類と性質、粒子概念（原子、分子、素粒子）
第3回	『ダイヤモンド、天然塩』	化学結合の姿
第4回	『胃薬、ミネラルウォーター』	物質量とモル
第5回	『備長炭、ヨーグルト』	化学反応式
第6回	『スケート靴、ボンボン船』	物質の状態変化
第7回	『圧力鍋、熱気球』	気体の性質
第8回	『梅酒、融雪剤、不凍液』	溶液の性質、浸透圧
第9回	『エアコン、カセットコンロ、カイロ』	熱化学
第10回	『シャンプー、リンス、アミノ酸ドリンク』 『ヘアカラー、リチウムイオン電池』	酸と塩基 酸化と還元
第11回	『ケミカルライト、ディーゼル車』	反応速度と化学平衡
第12回	『化粧品、宝飾品、ワイングラス、LED、真珠』	非金属元素、典型元素、遷移元素
第13回	『ステーク、マスカラ、バイオプラスチック』	天然高分子化合物と合成高分子化合物
第14回	総合復習	まとめ

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業時に、次回授業の予定を説明するのであらかじめ教科書と資料集に目を通すこと。毎回の授業に演習を授業支援システムを通じて課すので事前登録しておくこと。高校の化学の図録は資料として役立つので入手しておいてください（出版社は問わない）。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

1 松田勝彦著『商品から学ぶ化学の基礎』（化学同人、2011年）。

#### 【参考書】

- 1 日本化学会編『感動する化学』（東京書籍、2010年）。
- 2 アメリカ化学会編『実感する化学』上下巻（NTS出版、2015年）。
- 3 『三訂版 フォトサイエンス化学図録』（数研出版、2017年）。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験を60%、課題（毎回の授業後）や授業中の取り組み等の平常点を40%として100点中の60点を合格とする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

具体的な「化学」と「社会」、「文化」等との関わりを理解できるように講義、演習に努める。演習や実験を多く取り入れる。

#### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用します。

#### 【その他の重要事項】

学習支援システムのお知らせや課題は授業の前後に必ずチェックしてください。

#### 【Outline and objectives】

The knowledge of chemistry is important to understand natural phenomena and make your life better. Our planet and environment were created by the reactions of materials and elements. Let's study chemistry to enjoy our daily life, as well as science and technology, fields that are growing day by day.

BSC100CA
<b>化学B</b>
<b>山崎 友紀</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

化学は自然科学の中心的存在として位置づけられ、自然現象を理解するために重要な学問です。本講義では、実験を多く取り入れ、身近な現象からハイテク産業、環境保全にまで目を向けた内容を体験的に学ぶ。

**【到達目標】**

化学の実験や学習を通じて、身近な自然現象からハイテク産業、環境保全にまで目を向けた、判断力、応用力を身につけること（科学リテラシーの取得）を目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

基本的な知識内容に加え、演習（実験）、映像教材などを通じて、より発展的な学習を行う。実技を伴う授業を行うために研究実験棟の化学実験室を利用する。毎回の授業で理解度チェックの課題を課す。課題は添削後、学生に返却して授業内で解説する。また学生からの質問や相談には、学習支援システム上またはオフィスアワーで解説などの対応をします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと「元素の化学」および「元素発見の歴史」	化学の基礎を確認し、2回目以降の準備をする。
第2回	実験器具の取り扱いとその考察	化学実験の器具および設備の扱いを学ぶ。自宅で使える器具についても考える。
第3回	基礎実験1	酸・アルカリの実験
第4回	基礎実験2	酸化・還元反応に関する実験
第5回	応用実験1	自分で設定したテーマについて動画を作成する。
第6回	生活の中の化学1	家庭にある身近な化学を見つける。
第7回	生活の中の化学2	家庭にある身近な化学を見つける。
第8回	基礎実験3	光と色の実験：基本実験により、光と色に関する理解を深める。
第9回	調べ学習とプレゼン	自分のテーマについて調査した結果を報告する。
第10回	分析化学（実験）	中和滴定：実験を通して、水溶液の調整、濃度の測定等の基本操作を学びます。
第11回	環境を守る化学（実験）	環境浄化、環境保全に役立つ化学について学習する。
第12回	基礎実験4	電気化学の基礎実験。
第13回	食品、医薬品、環境	食品、医薬品、環境に見る化学について学習する。
第14回	総復習とレポート提出およびプレゼンテーション	秋学期の授業全体についての復習とレポート提出を行い、レポートの内容紹介を行って学習者同士で理解を深める。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業ごとに予習・復習課題を課す。基本的には学習支援システムを利用する。毎回復習プリントを提出する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

1 『三訂版 フォトサイエンス化学図録』（数研出版、2017年）。

**【参考書】**

1 松田勝彦著『商品から学ぶ化学の基礎』（化学同人、2011年）。  
2 アメリカ化学会編『実感する化学』上下巻（NTS出版、2015年）。

**【成績評価の方法と基準】**

毎回の課題や実験の取組みを70%、出席を30%として100点中の60点を合格とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

映像や演習課題を多く取り入れる。できるだけ多くの学生さんが理解できるように心がける。

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システム、インターネット接続環境、パソコンまたはスマホによる動画編集アプリ

**【その他の重要事項】**

- ・この授業では、実験・実習を行います。丁寧な指導のために受講人数の上限を定めます（40名以内）。
- ・受講者を初回授業時の抽選で決定します。
- ・初回授業に参加していない方は2回目以降、受講できません。
- ・履修確定者は教科書（化学資料集）を必ず購入してください。

**【Outline and objectives】**

Chemistry is positioned as central in the natural sciences, because chemistry is the study of "materials". In this class, you will practically learn chemistry topics related to your daily life and environmental science through experiments and exercises.

BAB100CA
<b>生物学 A</b>
<b>岡部 雅史</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、生命とはなにか？ について現在の学術的知見を基に理解を進める事をテーマにしています。

#### 【到達目標】

生命現象の理解と、生物と自然環境とのかかわりをひろく俯瞰的視点から理解できるようになることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

講義開始はガイダンスからスタートします。

講義概要としては、1 - 生命現象をあらわすキーワード、2 - DNA とデジタルコピー、3 - 遺伝情報から生体が組み立てられるメカニズム、4 - バイオテクノロジーの発展と、バイオビジネスの展開以上の4つのサブテーマから構成され、生物学・生命現象の基礎概念の理解、バイオテクノロジーの最先端の紹介をもとに進行いたします。生物に興味のある方、バイオテクノロジーに興味のある方などの積極的参加を希望します。

履修希望者は必ず初回の講義ガイダンスに出席すること。

試験に対するフィードバックは授業支援システムにて行います。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
2	生物を構成する物質 1	無機物と有機物・ミユラーの実験・化学進化
3	生物を構成する物質 2	アミノ酸・タンパク質・ペプチド結合
4	生物を構成する物質 3	一次構造～四次構造・構造と機能
5	生物を構成する物質 4	生命の設計図 遺伝子・DNA・RNA の構造
6	セントラルドグマ 1	DNA の自己複製メカニズム・コピーミスと発ガン
7	セントラルドグマ 2	遺伝情報の流れ・転写と翻訳からタンパク質の合成
8	セントラルドグマ 3	環状 DNA と線状 DNA、テロメアの役割
9	セントラルドグマ 4	遺伝子の完全なコピー vs 遺伝子のシャッフル
10	バイオテクノロジー 1	古代の技術・納豆・酒・チーズ・ヨーグルト
11	バイオテクノロジー 2	現代の技術・遺伝子組み替えと遺伝子産物の利用
12	バイオテクノロジー 3	遺伝子組み替え作物・遺伝子診断と差別・生命倫理
13	バイオテクノロジー 4	遺伝子の個人差・移植用臓器の生産・クローン生物
14	バイオテクノロジー 5	幹細胞と再生医療・ES 細胞・iPS 細胞の作成と臓器への分化

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ニュース、新聞など報道資料に目を通しておくこと（特に生物学・環境・医療・食品などの分野）。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

支援システムにてテーマに沿った資料・映像ファイルを配布する。

#### 【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末に試験を行う（100 点満点）及び、授業内にて小試験（10 点満点）を複数回行う。総合計点の 60%以上得点した学生に単位を認める。試験の配分が 100 % となります。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

#### 【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンまたはタブレット端末

#### 【その他の重要事項】

毎週講義時刻に支援システムにて その週の教材を配信します。

小テストは講義時間中に配信し、講義時間中に答えを回収します。

シラバスの内容は今後の状況次第で変化することもありますので注意してください。

#### 【Outline and objectives】

This lecture features the theme of pushing forward understanding based on a current scientific finding about life sciences.

BAB100CA
<b>生物学 B</b>
<b>岡部 雅史</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この講義は、生命とはなにか？ について現在の学術的知見を基に理解を進める事をテーマにしています。

**【到達目標】**

生命現象の理解と、生物と自然環境とのかかわりをひろく俯瞰的視点から理解できるようになることを目的としています。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義概要としては、1 - 生命現象をあらわすキーワード、2 - 生命とエネルギー、3 - 細胞の構築メカニズム、4 - バイオテクノロジーの発展とバイオビジネスの展開 以上の4つのサブテーマから構成され、生物学・生命現象の基礎概念の理解、バイオテクノロジーの最先端の紹介をもとに進行いたします。生物に興味のある方、バイオテクノロジーに興味のある方などの積極的参加を希望します。履修希望者は必ず初回の講義ガイダンスに出席すること。試験に対するフィードバックは授業支援システムにて行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	生物を構成する物質 1	人間に必要な栄養素・基礎代謝
2	生物を構成する物質 2	炭水化物と各種の糖
3	生物を構成する物質 3	エネルギー貯蔵物質・脂質
4	生物を構成する物質 4	ビタミン・ミネラル・食物繊維の役割
5	エネルギー代謝 1	生物が利用することができるエネルギーは？
6	エネルギー代謝 2	糖からエネルギーを取り出す（呼吸 1）
7	エネルギー代謝 3	脂質からエネルギーを取り出す（呼吸 2）
8	エネルギー代謝 4	生命のエネルギー通貨 ATP
9	エネルギー代謝 5	効率的なエネルギー利用と酵素の役割・活性酸素とは何か？
10	細胞の構造 1	細胞内小器官とその役割
11	細胞の構造 2	体細胞分裂と減数分裂のメカニズムとその意義
12	細胞の構造 3	細胞の分化と遺伝子の役割
13	細胞の構造 4	生物の進化と性の役割・テロメアと細胞分裂回数の限界
14	生命とは何か？	生命の定義と環境応答 日本のノーベル賞研究 再生医療と iPS 細胞の利用

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

ニュース、新聞など報道資料に目を通しておくこと（特に生物学・環境・医療・食品などの分野）。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

授業支援システムにてテーマに沿った資料を配布する。

**【参考書】**

参考図書は授業内にて紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

期末に試験を行う（100点満点）及び、授業内にて小試験（10点満点）を複数回行う。総合計点の60%以上得点した学生に単位を認める。試験の配分が100%となります。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【学生が準備すべき機器他】**

ノートパソコンまたはタブレット端末

**【Outline and objectives】**

This lecture features the theme of pushing forward understanding based on a current scientific finding about life sciences.

SHS100CA
<b>科学史 A</b>
<b>河野 俊哉</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

新型コロナウイルスや原発問題をみればわかるように、文・理を問わず多くの人々にとっても、科学研究やその結果の持つ意味について通じていること（科学リテラシー）が必須となりつつあります。それを踏まえて科学とは何かについて歴史的に考察し科学に対する理解を深めることを目的とします。

**【到達目標】**

歴史的事例を題材に、「科学」と「技術」の違いを理解した上で、リスク社会とも呼ばれる現代社会の特質をも理解し科学リテラシーの習得を目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義形式で授業を進めますが、適宜視聴覚教材を用いたり、小レポートを課したりクリッカーを使用する等して、双方向の授業を目指します。【オンライン授業の場合】学習支援システムや Googleclassroom にレジュメ、音声付きパワーポイントをアップし、授業の後半は zoom で授業を行い課題提出。【フィードバックの方法】課題等の提出・フィードバックは Googleclassroom を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび「科学」の誕生（前半）	講義の概要、成績評価等について説明。アンケート実施。要出席。
第 2 回	「科学」の誕生（後半）	「歴史観」について説明。
第 3 回	「古代ギリシャの自然観」	アリストテレスの「宇宙論」等。
第 4 回	「錬金術と絵画」	『ハリリー・ポッターと賢者の石』を手掛かりに錬金術について概観。
第 5 回	「12 世紀ルネサンス」と「大学の誕生」	12 世紀ルネサンスと大学の誕生について説明
第 6 回	「科学革命論」再考Ⅰ	「科学革命論」の概略とその問題点を説明。映画『善徳の名前』。
第 7 回	「科学革命論」再考Ⅱ	「中国の科学」と「暦の誕生」
第 8 回	「科学革命論」再考Ⅲ	ガリレオ、コペルニクス、ケプラー
第 9 回	「科学革命論」再考Ⅳ	「魔術的自然観」と「機械論的自然観」
第 10 回	「科学革命論」再考Ⅴ：「化学革命の検討」	「化学革命」再考。『においの歴史』、『パヒューム』
第 11 回	「酸素の発見」と「パラダイム論」	「酸素の発見」と「パラダイム論」。絵画と科学、啓蒙主義と聖俗革命
第 12 回	BSE と科学コミュニケーション	BSE（狂牛病）と科学コミュニケーション。
第 13 回	原発問題とリスク社会	原発問題・リスク社会・科学リテラシーについて
第 14 回	本講義のまとめ	「教養教育の再構築」。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

化学史学会編『化学史への招待』（オーム社、2019 年）  
河野俊哉他共著『科学の真理は永遠に不変なのだろうか』（バレ出版、2009 年）

**【参考書】**

古川安『科学の社会史』（筑摩書房、2018 年）。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（授業内小レポート）40 % 授業外レポート 30 % 試験 30 %  
【オンライン授業の場合】平常点（課題）70 % 授業外レポート 30 %

**【学生の意見等からの気づき】**

時間配分には配慮しますが、短時間で自分の考えをまとめ、表現するスキルをマスターしましょう。

**【学生が準備すべき機器他】**

携帯電話（クリッカー用）、授業支援システム、【オンライン授業の場合】Google Classroom を導入します。

**【Outline and objectives】**

As you can see from COVID-19 and the nuclear power plant incidental problem, for many people, the understanding of the meaning of scientific research and the result (science literacy) are becoming indispensable. With that in mind, this lecture aims to deepen the understanding of "science" by historically considering what "science" is.

SHS100CA
<b>科学史 B</b>
<b>河野 俊哉</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

新型コロナウイルスや原発問題をみればわかるように、文・理を問わず多くの人々にとっても、科学研究やその結果の持つ意味について通じていること（科学リテラシー）が必須となりつつあります。それを踏まえ本講義では科学とは何かについて歴史的に考察し科学に対する理解を深めることを目的とする。

**【到達目標】**

歴史的事例を題材に、「科学」と「技術」の違いを理解した上で、最終的には「リスク社会」とも呼ばれる現代社会の特質をも理解し、科学・技術と上手に付き合っていくための「科学リテラシー」の習得を目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

適宜視聴覚教材を用いたり、クリッカーを使用する等して双方向の授業を目指す。【オンライン授業の場合】LMS や Googleclassroom にレジュメ、音声付き ppt をアップし後半は zoom で授業を行い課題提出【フィードバックの方法】課題等の提出・フィードバックは Googleclassroom で行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ダーウィンと進化論	進化論の衝撃：アンケート実施
第 2 回	社会ダーウィニズムと日本における進化論	社会ダーウィニズムや日本における進化論の受容
第 3 回	「ダーウィニズムとウェルズ」	『タイムマシン』や『宇宙戦争』について考察します。
第 4 回	『フランケンシュタイン』の科学史的考察	『フランケンシュタイン』を科学的に考察してみましょう。
第 5 回	「戦争と科学」	ハーバーの生涯と業績、毒ガス開発
第 6 回	レイチェル・カーソン：科学・文学・環境	カーソンの事例を通して、DDT の功罪について考察。
第 7 回	病気の文化史：『JIN-仁』、華岡青洲	江戸における病気や医学
第 8 回	『長州ファイブ』山尾庸三、ダイアー	『長州ファイブ』、山尾庸三、御雇外人、工部大学校。
第 9 回	ジェンダーと科学：マリー・キュリー	キュリーを事例に「ジェンダーと科学」について
第 10 回	「緑の革命」、環境倫理について説明します。	「あいのり」を通してみる「緑の革命」
第 11 回	北里柴三郎	第 1 回ノーベル賞候補、脚気論争、バスター菌論争
第 12 回	野口英世	研究倫理
第 13 回	池田菊苗：理学と応用の相克	旨味の発見、夏日漱石、味の素
第 14 回	本講義のまとめ	「教養教育」の再構築

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

化学史学会編『化学史への招待』（オーム社、2019 年）。  
河野俊哉他共著『科学の真理は永遠に不変なのだろうか』（バレ出版、2009 年）

**【参考書】**

古川安『科学の社会史』（筑摩書房、2018 年）。

**【成績評価の方法と基準】**

授業内小レポート 40 % 授業外レポート 30 % 試験 30 % 【オンライン授業の場合】平常点（課題）70 % 授業外レポート 30 %

**【学生の意見等からの気づき】**

時間配分には極力配慮しますが、みなさんも短時間で自分の考えをまとめ、表現するスキルをマスターしていきましょう。

**【学生が準備すべき機器他】**

携帯電話（クリッカー用）、授業支援システム【オンライン授業の場合】Google Classroom を導入します。

**【Outline and objectives】**

As you can see from COVID-19 and the nuclear power plant incidental problem, for many people, the understanding of the meaning of scientific research and the result (science literacy) are becoming indispensable. With that in mind, this lecture aims to deepen the understanding of "science" by historically considering what "science" is.

NAS100CA
<b>自然科学特講</b>
<b>藤田 貢崇、松野 響</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

自然現象を研究対象とする上で、実験や観察によって現象を具体化し、それらの普遍的な法則を明らかにすることは、極めて重要である。本授業では、自然科学ならびに心理学の実験を通して、実験・観察の方法や、それらのデータのまとめ方について学ぶ。

**【到達目標】**

- ・基礎的な実験を通じて自然法則を理解し、身の回りのさまざまな現象について科学的に説明できること。
- ・心理的な事象を、客観的に分析すること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本授業は、前半は物理学および天文学に関する内容、後半は心理学に関する内容で構成され、それぞれ藤田貢崇、松野響が担当する。授業では実際に実験装置やデータ整理のための PC を操作し、レポートを作成する。

- ・課題や質問等に対するフィードバックは、授業時に全体に対して回答します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり/Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、評価方法について説明する 物理学実験の基礎項目を学ぶ
2	地図の作成	歩測によって距離を測り、地図を作成する
3	自然放射線の理解	自然放射線を計測し、線量分布図を作成する
4	望遠鏡の作成	身近な材料で作成できる望遠鏡を作成する
5	太陽の観測	天体望遠鏡を用いて太陽を観測する
6	水を含む化学製品の理解	ゲル状物質を作成し、水がどのように保持されるかを理解する
7	乳製品について理解を深める	市販の牛乳を用いて、乳製品の特性を理解する
8	心理実験の基礎	心理実験の方法論を学ぶ
9	知覚実験	視知覚実験をおこない、自分自身の知覚特性を測定する
10	知覚実験の解析	知覚実験の結果を解析する
11	認知心理学実験	認知心理学の実験をおこなう
12	認知心理学実験の結果解析	認知心理学の実験の結果を解析する
13	感性評価実験	感性評価実験をおこなう
14	感性評価実験の結果解析	感性評価実験の結果を解析する

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

- ・前半（第7回まで：藤田担当回）は、毎回の実験課題への取り組みを通じ、実験の方法論、データ収集手法、解析方法、実験レポートの書き方を学ぶ。
- ・後半（第8回以降：松野担当回）は、心理実験を自分自身で体験し、その結果を自分自身で解析する。分析をおこなうための統計的な知識やソフトウェアの利用方法を自習する。

- ・本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用しない。

**【参考書】**

必要に応じて授業中に紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

- ・自然科学実験への取り組みと実験レポートの評価 (50%)
  - ・心理学実験実習への取り組みと実験レポートの評価 (50%)
- いずれも、実習形式での授業であり、欠席した回におこなった内容を含む課題レポートの評価はおこなわない。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

**【学生が準備すべき機器他】**

- ・前半・後半それぞれの初回に、担当教員より詳細を説明する。
- ・本授業の後半では、各自、充電済みのノート PC を持参すること（実験プログラムを駆動する必要上から、タブレットは不可とする。OS は問わないが一般的なブラウザが動作すること）。フォルダ・ファイルとは何かについての知識、画像ファイルの取り扱い、わからないことを自分で Web 検索するスキルなど、基本的な PC リテラシーを受講生がもっていることを前提に授業をおこなう。統計解析のために統計ソフトウェア R、R studio（いずれも無料）を使用できる環境を準備し、基本的な使用方法を自習することを求める。自習のための資料は授業で紹介するが、使用ラップトップがインストールに必要なスペックを満たしているか確認しておくこと（大学の貸出ノート PC にはインストールされている）。
- ・COVID-19 の流行状況に応じて、授業形態をオンラインに変更する可能性がある。

**【その他の重要事項】**

- ・この授業は、実験・実習を行う授業であり、実験装置等に限りがあることから、受講人数の上限を定めている。受講者を初回授業時に抽選するので、受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。
- ・初回授業の集合場所は、研究・実験棟（12号館）1階101教室となる。2回目以降の授業は、必要に応じて実施場所を変更する可能性がある。
- ・全体についての実務的質問は、藤田貢崇に問い合わせること。授業内容に関する質問は、それぞれの講師の指示を仰ぐこと。

**【Outline and objectives】**

In this course, students learn research methods through observations and experiments in natural science and psychology. Students develop the ability to understand scientific methodology and logically evaluate the scientific and psychological phenomena through the eye of the science.

BSC100CA
Basic Science for Global Environment A
山崎 友紀
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class provides a comprehensive overview of environmental science.

Throughout the course, we will examine environmental issues and investigate realistic solutions. By the end of this course, you will have a greater understanding of the relationships between the environmental factors that affect our world.

#### 【到達目標】

When you have finished this course, you will be able to explain the basic science such as chemistry, biology, physics and geology behind environmental issues. You will be able to evaluate information, analyze scientific data/reasons logically. Also you can consider multiple viewpoints on environmental issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

Lecture and discussion;

The class will use PowerPoint files and video to introduce environmental topics. The instructor will give some feedback on assignments during the class or office hours.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
WEEK 1	Course guidance and Introduction to Environmental Science; Ch.1	Complexity of our wonderful planet, How to interpret Scientific Data and Graphs
WEEK 2	Science and Sustainability; Ch.1	The nature of Environmental Science
WEEK 3	Earth's Physical Systems; Ch.2	Matter(Chemistry), Energy, Geology and Ecosystems
WEEK 4	Evolution, Biodiversity and Population Ecology; Ch.3	Levels of Ecological Organization, Conserving Biodiversity
WEEK 5	Species Interactions and Community Ecology; Ch.4	History of Life's Diversification, Earth's Biomes
WEEK 6	Environmental Systems and Ecosystem Ecology; Ch.5	Ecosystems, Biogeochemical Cycles
WEEK 7	Ethics, Economics, and Sustainable Development; Ch.6	Environmental/Ecological Economics, Sustainable Development
WEEK 8	Environmental Policy; Ch.7	Making Decisions and Solving Problems, International Environmental Policy
WEEK 9	Human Population; Ch.8	Presentation and Essay/Demography, Population and Society

WEEK 10	Soil Science and Agriculture; Ch.9	Sustainable Agriculture, Fertilizer, World Climate
WEEK 11	Biotechnology and the Future of Food; Ch.10	Food Science, Genetic Engineering/GMO
WEEK 12	Biodiversity and Conservation Biology, Life's Diversity on the Earth; Ch.11	Extinction and Biodiversity Loss, Benefits of Biodiversity
WEEK 13	Forest Management and Protect Areas; Ch.12	Deforestation, Biological Resources, Resource Management

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

#### 【テキスト（教科書）】

Withgott and Laposata 2015. Environment:The Science behind the Stories, Global Edition, Pearson; 5th ed.

"E-textbook" is strongly recommended for this course.

DO NOT use other edition because page numbers and content are different.

#### 【参考書】

1)Berg Raven, Hassenzahl 2012. Environment 9th, ed. John Wiley & Sons

2)『地球環境学入門 第2版』山崎友紀（講談社サイエンティフィク）

3)David Turner, The Green Marble 2018. Earth System Science and Global Sustainability, ed. Columbia University Press

4)Jay H. Withgott, Matthew Laposata 2018. Essential Environment, ed. Pearson; 6 edition

#### 【成績評価の方法と基準】

Participation(20%), Contribution to Class Discussion/Class Quizzes(30%), Assignments(50%)

#### 【学生の意見等からの気づき】

Prepare the answers and your opinion for "Before Class Quizzes". You can't complete them without the textbook.

#### 【その他の重要事項】

To successfully complete this course, you must do the following:

- Attendance and Punctuality are basic requirements
- Read the textbook and view before the class
- Finish weekly quizzes
- Complete and submit the class project and assignments

Instructor's Office Hours are by appointment.

Write to yyuki@hosei.ac.jp to schedule an appointment.

#### 【Outline and objectives】

This class provides a comprehensive overview of environmental science.

Throughout the course, we will examine environmental issues and investigate realistic solutions. By the end of this course, you will have a greater understanding of the relationships between the environmental factors that affect our world.

BSC100CA
Basic Science for Global Environment B
山崎 友紀
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：○

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

This class provides a comprehensive overview of environmental science.

Throughout the course, we will examine environmental issues and investigate realistic solutions. By the end of this course, you will have a greater understanding of the relationships between the environmental factors that affect our world.

**【到達目標】**

When you have finished this course, you will be able to explain the basic science such as chemistry, biology, physics and geology behind environmental issues. You will be able to evaluate information, analyze scientific data/reasons logically. Also you can consider multiple viewpoints on environmental issues.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

Lecture and discussion;

The class will use PowerPoint files and video to introduce environmental topics. The instructor will give some feedback on assignments during the class or office hours.

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
WEEK 1	The Urban Environment and Urban Sustainability; Ch.13	Impacts of Urbanization, Smart growth and New Urbanism
WEEK 2	Environmental Health and Toxicology; Ch.14	Health Hazard, Effects of Toxic chemicals on Organisms, Risk Assessment/Management
WEEK 3	Fresh Water Systems and Resources; Ch.15	Global Aquatic system, Water Pollution, Waste Water Treatment
WEEK 4	Marine and Coastal Systems and Resources; Ch.16	Marine Pollution, Marine Biodiversity, Marine Conservation
WEEK 5	The Atmosphere, Air Quality, and Pollution Control; Ch. 17	Large-scale Wind Circulation System, Ozone Depletion, Air Pollution, Acid Rain
WEEK 6	Global Climate Change; Ch.18	Global Warming, Climate Change and Economics, Kyoto Protocol vs. Paris Accord
WEEK 7	Midterm Adjustment, Review	Essay/Report, Q&A
WEEK 8	Fossil Fuels, Their Impacts; Ch.19	Energy Sources, Energy Efficiency, Economic Impacts of Fossil Fuel

WEEK 9	Conventional Energy Alternatives; Ch.20	Nuclear Energy Use, Environmental Impacts of Energy Use, Bioenergy, Hydroelectric Power
WEEK 10	New Renewable Energy Alternatives; Ch.21	Wind Power, Geothermal, Solar, Hydrogen
WEEK 11	Managing Our Waste; Ch.22	Waste Stream, Municipal Solid Waste, Recycling, Managing Hazardous Waste
WEEK 12	Minerals and Mining; Ch.23	Earth's Mineral Resources, Mining Methods and Their Impacts
WEEK 13	Sustainable Solutions; Ch.24	Environmental Protection Can Enhance Economic Opportunity.
WEEK 14	Total Review	Presentation and Q&A

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

The standard preparation and review time for this class is TWO HOURS each.

**【テキスト（教科書）】**

Withgott and Laposata 2015. Environment: The Science behind the Stories, Global Edition, Pearson; 5th ed.

More inexpensive alternatives, such as used books, or eBook are encouraged. However, DO NOT use other edition because page numbers and content are different.

**【参考書】**

1) Berg Raven, Hassenzahl 2012. Environment 9th, ed. John Wiley & Sons

2) 『地球環境学入門 第2版』山崎友紀（講談社サイエンティフィク）

3) David Turner, The Green Marble 2018. Earth System Science and Global Sustainability, ed. Columbia University Press

4) Jay H. Withgott, Matthew Laposata 2018. Essential Environment, ed. Pearson; 6 edition

**【成績評価の方法と基準】**

Participation(20%), Contribution to Class Discussion/Class Quizzes(30%), Assignments(50%)

**【学生の意見等からの気づき】**

Prepare the answers and your opinion for "Before Class Quizzes". You can't complete them without the textbook.

**【その他の重要事項】**

To successfully complete this course, you must do the following:

- Attendance and Punctuality are basic requirements
- Read the textbook and view before the class
- Finish weekly quizzes
- Complete and submit the class project and assignments

Instructor's Office Hours are by appointment.

Write to [yyuki@hosei.ac.jp](mailto:yyuki@hosei.ac.jp) to schedule an appointment.

**【Outline and objectives】**

This class provides a comprehensive overview of environmental science.

Throughout the course, we will examine environmental issues and investigate realistic solutions. By the end of this course, you will have a greater understanding of the relationships between the environmental factors that affect our world.

LANe100CA
English Communication IA
MARILYN H OBOGNE
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The aim of this course is to prepare students for interactive communication using the different expressions in the English language and how to use them properly. This course will stimulate the interest of students to improve their ability to talk about various topics connected with social issues.

#### 【到達目標】

Same as above.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

Classes will be conducted online using the on-demand type of class. The contents of the lesson will be provided in video PowerPoint voice recorded format with the written copy in PDF file and it will be uploaded and posted on Google classroom. The class code of Google Classroom will be sent to all the students through the learning management system (Hoppii) and e-mail. Students will receive a written or verbal feedback in a variety of ways for online class:

- Announcements at the beginning of class (online or recorded)
- Written feedback on weekly assignments via Google classroom
- Online / One-on-One (Question and Answer ) during “digital office hours” by appointment
- Using rubrics to help make comments actionable for the student

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to course	Introduction and syllabus explanation
2	Unit 1: Lifestyles	Communication strategies, grammar and listening practice
3	Oral Communication	Conversation and speaking task
4	Unit 2: Leisure	Communication strategies, grammar and listening practice
5	Oral Communication	Conversation and speaking task
6	Unit 3: Getting along	Communication strategies, grammar and listening practice
7	Oral Communication	Conversation and speaking task
8	Unit 4: Interests	Communication strategies, grammar and listening practice
9	Oral Communication	Conversation and speaking task
10	Unit 5: Telling a Story	Communication strategies, grammar and listening practice
11	Oral Communication	Conversation and speaking task
12	Unit 6: Celebrations	Communication strategies, grammar and listening practice
13	Speech making - instructions and preparation	Explanation about the contents of the final presentation
14	Oral Presentation	Final speaking task

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete weekly listening and reading assignments as well as periodic student presentations on topics from the textbook with preparation of 2 hours, review of 2 hours, a total of 4 hours.

#### 【テキスト（教科書）】

Title: Breakthrough Plus Level 2 (Second Edition)

Author: Miles Craven

Publisher: Macmillan Education

ISBN: 978-1-380-00313-3

#### 【参考書】

None

#### 【成績評価の方法と基準】

Grading for this course will be based on:

40% - Oral presentation (voice or video recorded presentation)

40% - Homework (Listening and reading practice)

10% - Final Report

10% - Final Oral Presentation

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

Not applicable

【その他の重要事項】

This is not a difficult course, but it is easy to fail if you do not produce good, weekly homework.

【Outline and objectives】

This course will help students to:

- improve listening skills;
- learn to communicate ideas;
- develop basic skills in oral fluency, accuracy, and communication strategies;
- give short speeches and presentations about culture, personal experiences and plans for the future;
- develop self-confidence in using English for talking about their own life and the world.

LANe100CA
English Communication IB
MARILYN H OBOGNE
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The aim of this course is to prepare students for interactive communication using the different expressions in the English language and how to use them properly. This course will stimulate the interest of students to improve their ability to talk about various topics connected with social issues.

## 【到達目標】

Same as above.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

Classes will be conducted online using the on-demand type of class. The contents of the lesson will be provided in video PowerPoint voice recorded format with the written copy in PDF file and it will be uploaded and posted on Google classroom. The class code of Google Classroom will be sent to all the students through the learning management system (Hoppii) and e-mail. Students will receive a written or verbal feedback in a variety of ways for online class:

- Announcements at the beginning of class (online or recorded)
- Written feedback on weekly assignments via Google classroom
- Online / One-on-One (Question and Answer ) during “digital office hours” by appointment
- Using rubrics to help make comments actionable for the student

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction to course	Introduction and syllabus explanation
2	Unit 7: Food and drink	Communication strategies, grammar and listening practice
3	Oral Communication	Recorded conversation and speaking task
4	Unit 8: Rules	Communication strategies, grammar and listening practice
5	Oral Communication	Conversation and speaking task
6	Unit 9: Adventures	Communication strategies, grammar and listening practice
7	Oral Communication	Conversation and speaking task
8	Unit 10: Health	Communication strategies, grammar and listening practice
9	Oral Communication	Conversation and speaking task
10	Unit 11: Comparisons	Communication strategies, grammar and listening practice
11	Oral Communication	Conversation and speaking task
12	Unit 12: The modern world	Communication strategies, grammar and listening practice
13	Speech making - instructions and preparation	Explanation about the contents of the final presentation
14	Oral Presentation	Final speaking task

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete weekly listening and reading assignments as well as periodic student presentations on topics from the textbook with preparation of 2 hours, review of 2 hours, a total of 4 hours.

## 【テキスト（教科書）】

Title: Breakthrough Plus Level 2 (Second Edition)

Author: Miles Craven

Publisher: Macmillan Education

ISBN: 978-1-380-00313-3

## 【参考書】

None

## 【成績評価の方法と基準】

Grading for this course will be based on:

40% - Oral presentation (voice or video recorded presentation)

40% - Homework (Listening and reading practice)

10% - Final Report

10% - Final Oral Presentation

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

Not applicable

## 【その他の重要事項】

This is not a difficult course, but it is easy to fail if you do not produce good, weekly homework.

## 【Outline and objectives】

This course will help students to:

- improve listening skills;
- learn to communicate ideas;
- develop basic skills in oral fluency, accuracy, and communication strategies;
- give short speeches and presentations about culture, personal experiences and plans for the future;
- develop self-confidence in using English for talking about their own life and the world.

LANe100CA
English Communication IA
中塚 芽依
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

This course will improve real-world English communication skills using exciting new materials and technology. The English conversation skills taught will help students to discuss topics such as hobbies, food, homes, jobs, people, entertainment, and life choices.

**【到達目標】**

Students will become stronger at communicating in English for many real-world situations, such as meeting people, traveling, and work. They will learn English skills related to expressing feelings, making choices, listening effectively, asking questions, and giving advice.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

The students will use fun and interactive activities within the class. These include online games, entertaining animations, and real-world discussion practices. Each class focuses on important interactional skills within native-speaker dialogues to learn more natural English.

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
Week 1	Course Introduction.	Introduction to the teacher, course focuses, activities, online games, animation videos, and grading system
Week 2	Hobby preferences	Skills for sharing hobby preferences, online preference language game, and discussing a 'hobby' animation video
Week 3	Hobby discussions	Real-world hobby discussion practices, online team language game, and extended language activities for giving preferences
Week 4	Food preferences	Skills for comparing different food/restaurants, online language game, and discussing a 'restaurant' animation video
Week 5	Food discussions	Real-world food discussion practices, online team language game, and extended language activities for comparing
Week 6	Home preferences	Skills for choosing where to live and why, online language game, and discussing a 'home choice' animation video
Week 7	Home discussions and speech prep	Real-world home choice discussion practices, extended language activities, and speech 1 prep (planning a party)
Week 8	Class speeches 1	Speeches in small groups about planning a party
Week 9	Job/people preferences	Asking questions about jobs/people, online language game, and discussing a 'job choice' animation video
Week 10	Job/people discussions	Real-world job discussion practices, online team language game, and summary language activities for asking questions
Week 11	Entertainment preferences	Skills for giving advice about entertainment, online language game, and discussing an 'entertainment' animation video
Week 12	Entertainment discussions	Real-world entertainment discussion practices, online team language game, and summary language activities for advice

Week 13 Life choices and speech prep Real-world discussion practices about life choices and speech 2 prep (planning a trip)

Week 14 Classes speeches 2 Speeches in small groups about planning a trip

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Homework will be preparing for classroom discussions and animation video quizzes. 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

SMART Communication 1, SMART Class Series (2021 edition)

**【参考書】**

None

**【成績評価の方法と基準】**

Class participation (25%), Homework (25%), Speech 1 (25%) and Speech 2 (25%)

**【学生の意見等からの気づき】**

Based on the teacher's reflection and evaluation of the course feedback.

**【学生が準備すべき機器他】**

Please bring a charged smartphone to class if possible (for classroom games).

**【その他の重要事項】**

None

**【Outline and objectives】**

This course will improve real-world English communication skills using exciting new materials and technology. The English conversation skills taught will help students to discuss topics such as hobbies, food, homes, jobs, people, entertainment, and life choices.

LANe100CA
English Communication IB
中塚 芽依
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will improve real-world English communication skills using exciting new materials and technology. The English conversation skills taught will help students give their opinions and have English conversations about fun topics related to their past, present, and future lives.

#### 【到達目標】

Students will become stronger at communicating in English for giving their opinions for many different situations beyond the classroom. They will learn to use English effectively for explaining experiences and memories, current habits/routines, and future hopes/dreams.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

The students will use fun and interactive activities within the class. These include online games, entertaining animations, and real-world discussion practices. Each class focuses on important interactional skills within native-speaker dialogues to learn more natural English.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Course Introduction	Introduction to the teacher, course focuses, activities, online games, animation videos, and grading system
Week 2	My past experiences	Skills for sharing experiences, online preference language game, and discussing an 'experience' animation video
Week 3	Past experience discussions	Real-world experience opinionated discussions, online language game, and extended language activities
Week 4	My best memories	Skills for sharing memories, online preference language game, and debating about a 'memory' animation video
Week 5	Best memory discussions	Real-world memory opinionated discussions, online language game, and extended language activities
Week 6	Look at my life	Skills for sharing routines/habits, online preference language game, and debating about a 'routine/habit' animation video
Week 7	My life discussions	Real-world routines/habits opinionated discussions, online language game, and extended language activities
Week 8	Class speeches 1	Speeches in small groups about varying opinions
Week 9	My life changes	Skills for sharing desired changes, online preference language game, and debating about a 'life changes' animation video
Week 10	My life changes discussions	Real-world life changes opinionated discussions, online language game, and extended language activities
Week 11	My dreams	Skills for sharing dreams, online preference language game, and debating about a 'dreams' animation video
Week 12	My dreams discussion	Real-world dreams opinionated discussions, online language game, and extended language activities
Week 13	My future discussion	Real-world future targets opinionated discussions, online language game, and extended language activities

Week 14 Classes speeches 2 Speeches in small groups about varying opinions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will be preparing for classroom discussions and animation video quizzes. 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

SMART Communication 2, SMART Class Series (2021 edition)

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Class participation (25%), Homework (25%), Speech 1 (25%) and Speech 2 (25%)

【学生の意見等からの気づき】

Based on the teacher's reflection and evaluation of the course feedback.

【学生が準備すべき機器他】

Please bring a charged smartphone to class if possible (for classroom games).

【その他の重要事項】

None

【Outline and objectives】

This course will improve real-world English communication skills using exciting new materials and technology. The English conversation skills taught will help students give their opinions and have English conversations about fun topics related to their past, present, and future lives.

LANe100CA
English Communication IA
MARK OSELAND
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will work on improving General English skills with a focus on listening and speaking. There will be short reading and writing exercises to help students to build their vocabulary and develop their grammatical accuracy.

#### 【到達目標】

The course goal is to improve students skills for communicating effectively in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

Students will work in pairs and small groups in the class using English in an enjoyable and communicative way. We will work with a textbook and class activities will include listening, vocabulary development, pair-work activities, and role plays. Students will submit homework exercises and assignments on Google Classroom. Feedback will be given to students in class and via Google Classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
week 1	Course Outline and Introductions.	Teacher gives an overview of unit 1 and students prepare a short introductory speech (2 minutes).
week 2	Unit 1; Where are you from?	Introductions and greetings. pp.2-7. Pair-work, groupwork.
week 3	Unit 2; What do you do?	Asking for and giving opinions. pp.8-10. Pair-work, groupwork, discussions.
week 4	Unit 2 continued.	pp.11-13. Pair-work, groupwork, writing exercise.
week 5	Unit 3; How much are these?	Shopping and prices. pp.16-18. Pair-work, groupwork, discussion.
week 6	Unit 3 continued.	pp.19-21. Pair-work, groupwork, writing exercise, short presentation.
week 7	Review units 1-3.	Students prepare a short, written report and do general Comprehension exercises.
week 8	Unit 4; Do you play the guitar?	Likes and dislikes. pp.22-24. Pair-work, groupwork.
week 9	Unit 4 continued. pp.25-27.	Pair-work, groupwork, writing exercise.
week 10	Unit 6; How often do you run?	Describing routines, discussing exercise/sports. pp.36-38. Pair-work, groupwork.
week 11	Unit 6 continued; pp.39-41.	Pair work, groupwork, writing exercise.
week 12	Unit 7: We went dancing; Talking about past events and experiences.	pp.44-46. Pair-work, groupwork.

week 13	Unit 7 continued; pp47-49.	Pair-work, groupwork, writing exercise.
week 14	Review of units 4,6 and 7.	Students prepare a short, written report and complete final activities.

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Textbook homework including grammar and vocabulary assignments. Review and preparation (total of 2-4 hours per week).

#### 【テキスト（教科書）】

Richards, R.C, Hull, J., Proctor, S., Interchange 1A Students Book (Split Edition) (Cambridge: C.U.P., 2020) ISBN: 9781316620458

Students who want to study in both the spring and fall/autumn semesters should buy the full book with 16 units. Note that the ISBN is different: Richards, R.C, Hull, J., Proctor, S., Interchange 1 Students Book (Cambridge: C.U.P., 2020) ISBN: 978-1-316-62031-1

#### 【参考書】

A good dictionary is recommended.

#### 【成績評価の方法と基準】

Homework (20%) In-class participation including participation in pair work activities, small group discussions and small group presentations (50%). Submission of two short written reports (30%). Homework assignments, regular attendance and active participation in class activities are required in order to pass the course.

#### 【学生の意見等からの気づき】

Student comments are welcome. Changes will be made when appropriate.

The syllabus is subject to change based on students's needs.

#### 【その他の重要事項】

This is a first year elective and enrollment is limited. Preference will be given to first year students.

Attendance is required. Even if absent, students are responsible for finding out and completing assignments for the next class. These can be found on Google Classroom.

Students must not use cell phones in class except for class related activities.

#### 【Outline and objectives】

The course will help students to improve their listening skills and enhance their confidence in using spoken English in conversations, small group discussions and everyday situations.

LANe100CA
English Communication IB
MARK OSELAND
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

We will work on improving General English skills with a focus on listening and speaking. There will be short reading and writing exercises to help students to build their vocabulary and develop their grammatical accuracy.

**【到達目標】**

The course goal is to improve students skills for communicating effectively in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

Students will work in pairs and small groups in the class using English in an enjoyable and communicative way. We will work with a textbook and class activities will include listening, vocabulary development, pair-work activities, and role plays. Students will submit homework exercises and assignments on Google Classroom. Feedback will be given to students in class and via Google Classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
week 1	Course Outline and Introductions.	Teacher explains course and gives an overview unit 10. Students prepare a short speech abousummer vacations (2 minutes).
week 2	Unit 10; Have you ever been there?	Describing past experiences. pp.64-69. Pair-work, groupwork, discussions.
week 3	Unit 11; It's a really nice city.	Describing cities. Giving suggestions. pp.72-74. Pair-work, groupwork.
week 4	Unit 11 continued.	pp.74-76. Pair-work, groupwork, discussions.
week 5	Unit 12; It's important to get rest.	Talking about health. pp.78-80. Pair-work, groupwork, discussion.
week 6	Unit 12 continued. Pp.81-83.	Pair-work, groupwork, writing exercise, short presentation.
week 7	Review units 10-12.	Students prepare a short, written report and do general Comprehension exercises.
week 8	Unit 13; What would you like? Food and restaurants.	Likes and dislikes. pp.86-88. Pair-work, groupwork.
week 9	Unit 13 continued. pp89-91.	Pair-work, groupwork, writing exercise.
week 10	Unit 14; It's the coldest city.	Describing cities/countries. Expressing opinions. pp.92-94. Pair-work, groupwork.
week 11	Unit 14 continued; pp95-97.	Pair-work, groupwork, writing exercise.

week 12	Unit 15; What are you doing later?; Talking about plans.	Accepting/refusing. pp.100-102. Pair-work, groupwork.
week 13	Unit 15 continued; pp103-105.	Pair-work, groupwork, writing exercise.
week 14	Review of units 13-15.	Students prepare a short, written report and complete final activities.

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Textbook homework including grammar and vocabulary assignments. Review and preparation (total of 2-4 hours per week).

**【テキスト（教科書）】**

Richards, R.C, Hull, J., Proctor, S., Interchange 1B Students Book (Split Edition) (Cambridge: C.U.P., 2020) ISBN:9781316620427

Students who want to study in both the spring and fall/autumn semesters should buy the full book with 16 units. Note that the ISBN is different: Richards, R.C, Hull, J., Proctor, S., Interchange 1 Students Book (Cambridge: C.U.P., 2020) ISBN: 978-1-316-62031-1

**【参考書】**

A good dictionary is recommended.

**【成績評価の方法と基準】**

Homework (20%) In-class participation including participation in pair work activities, small group discussions and small group presentations (50%). Submission of two short written reports (30%). Homework assignments, regular attendance and active participation in class activities are required in order to pass the course.

**【学生の意見等からの気づき】**

Student comments are welcome. Changes will be made when appropriate.

The syllabus is subject to change based on students's needs.

**【その他の重要事項】**

This is a first year elective and enrollment is limited. Preference will be given to first year students.

Attendance is required. Even if absent, students are responsible for finding out and completing assignments for the next class. These can be found on Google Classroom.

Students must not use cell phones in class except for class related activities.

**【Outline and objectives】**

The course will help students to improve their listening skills and enhance their confidence in using spoken English in conversations, small group discussions and everyday situations.

LANe100CA
English Communication I A
Kregg Johnston
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course aims to develop communicative competence necessary to function in a variety of situations encountered in business. Students will learn key phrases and grammar related to the business topics covered in each unit. The students will also develop their listening comprehension skills by listening to interviews with business people and short talks. The students will also practice using this knowledge by taking part in role plays and end of unit case discussions. The students will learn and practice how to summarize their case discussions in the form of email correspondence.

### 【到達目標】

This course aims to develop communicative competence necessary to understand what others say, state their opinions through role plays and case discussions, and briefly summarize the results of their discussions in written form for a variety of situations encountered in business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

### 【授業の進め方と方法】

The first day of class will be held on April 21, 2020 via Zoom at the normal class time: 1:40 pm. Please refer to the announcement on Hoppii for the URL and login details.

This course will make use of pair work, group work, and discussion skills in concordance with the textbook. Vocabulary development and listening comprehension will be stressed. After completing the case discussion at the end of each unit, the students will be expected to submit a written summary of their discussions.

Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the next class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Course introduction	Ice breakers, Level assessment
Week 2	Unit 1 Introductions	State nationalities Using the verb "To be" Introducing yourself & others
Week 3	Unit 1 Introductions	Asking & answering Wh-questions Conversation & role play: Introducing yourself & others
Week 4	Unit 1 quiz and case discussion	Unit 1 quiz U1 case:choose job candidate to meet Written summary of discussion
Week 5	Unit 2 Work & leisure	Word partnerships for Routines, leisure activities Days, months, dates & prepositions of time Discussing routines

Week 6	Unit 2 Work & leisure	Simple present tense Adverbs and expressions of frequency Asking questions Expressing feelings
Week 7	Unit 2 quiz and case discussion	Unit 2 quiz U2 case: Decide 3 changes for company Written summary of discussion
Week 8	Unit 3 Problems	State Problems at work adjectives with "too" & "enough" Listen to interview on work problems
Week 9	Unit 3 Problems	Phoning: Solving problems Present tense: Negatives sentences & Questions
Week 10	Unit 3 quiz and case discussion	Unit 3 quiz U3 case:Discuss advertising policy in groups Working across cultures: restaurant etiquette Written summary of discussion
Week 11	Unit 4 Travel	Talk about travel Listen to travel information Use "Can/Can't" to state ability or possibility State existence: "there is/there are"
Week 12	Unit 4 Travel	Listening:arranging plans on the phone Checking arrangements: telephone role play
Week 13	Unit 4 quiz and case discussion	Unit 4 quiz U4 case: Scheduling different conferences at a conference center. Written summary of discussion
Week 14	Units 1-4 Review	Review of units 1-4, conclusion activities for course.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】  
Homework assigned from the textbook, supplemental exercises, preparation for discussion, write short business correspondence 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】  
Market Leader Coursebook: elementary 3rd ed. Cotton, Falvy, Kent  
ISBN 9781292134758

【参考書】  
Market Leader Coursebook: elementary 3rd ed. Cotton, Falvy, Kent  
ISBN 9781292134758

【成績評価の方法と基準】  
Student grades will be calculated in the following way:  
Quizzes-55%  
Homework-10%  
Attendance & Participation 15%  
Writing assignments:business correspondence (Typed) 20%

【学生の意見等からの気づき】  
Increased use of activities which create opportunities for exchanging information in pairs and small groups

【学生が準備すべき機器他】  
The textbook

【その他の重要事項】  
None

**【Outline and objectives】**

Develop the skills necessary to communicate effectively in a variety of business situations

LANe100CA
English Communication I B
Kregg Johnston
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

This course aims to develop communicative competence necessary to function in a variety of situations encountered in business. Students will learn key phrases and grammar related to the business topics covered in each unit. The students will also develop their listening comprehension skills by listening to interviews with business people and short talks. The students will also practice using this knowledge by taking part in role plays and end of unit case discussions. The students will learn and practice how to summarize their case discussions in the form of email correspondence.

**【到達目標】**

This course aims to develop communicative competence necessary to understand what others say, state their opinions through role plays and case discussions, and briefly summarize the results of their discussions in written form for a variety of situations encountered in business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

This course will make use of pair work, group work, and discussion skills in concordance with the textbook. Vocabulary development and listening comprehension will be stressed. After completing the case discussion at the end of each unit, the students will be expected to submit a written summary of their discussions.

Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the next class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
Week 1	Course introduction	Ice breakers, Level assessment
Week 2	Unit 7 People	Describing People Use adjectives to describe people Past simple: negatives & questions Listen to an interview on managing people
Week 3	Unit 7 People	Question forms Stating and dealing with problems Reading: Asking questions about Andrea Jung & Steve Jobs
Week 4	Unit 7 quiz and case discussion	Unit 7 quiz U7 case: Advice on work problems Written summary of discussion
Week 5	Unit 8 Advertising	Advertising quiz Talk about Advertising & markets Read about VW advertising and answer questions

Week 6	Unit 8 Advertising	Explaining graphs and using quantifiers Stating opinions and making comparisons Comparing car features Comparative/Superlative Discussing Marketing strategy	<b>【学生が準備すべき機器他】</b> The textbook <b>【その他の重要事項】</b> None <b>【Outline and objectives】</b> Develop the skills necessary to communicate effectively in a variety of business situations
Week 7	Unit 8 quiz and case discussion	Unit 8 quiz U8 case:Advertising for a chocolate bar Written summary of discussion	
Week 8	Unit 9 Companies	Describing companies Listening:interview on favorite company Using the present continuous tense Reading: Wind-energy business	
Week 9	Unit 9 Companies	Grammar:Present continuous vs simple Role play: show visitor around company Starting a presentation	
Week 10	Unit 9 quiz and case discussion	Unit 9 quiz U9 case:Present your company to an audience Written summary of presentation	
Week 11	Unit 10 Communication	Doing business abroad Article:Methods of communication Listen to interview on social networking Stating future plans: fixed arrangements vs intended plans	
Week 12	Unit 10 Communication	Making offers Making arrangements by phone Article on Vodafone CEO	
Week 13	Unit 10 quiz and case discussion	Unit 10 quiz U10 case:Discuss how to communicate bad news to employees. Written summary of discussion	
Week 14	Review Units 7-10	Review of units 7-10, conclusion activities for course.	

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Homework assigned from the textbook, supplemental exercises, preparation for discussion, write short business correspondence 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

Market Leader Coursebook: elementary 3rd ed. Cotton, Falvy, Kent  
ISBN 9781292134758

**【参考書】**

Market Leader Coursebook: elementary 3rd ed. Cotton, Falvy, Kent  
ISBN 9781292134758

**【成績評価の方法と基準】**

Student grades will be calculated in the following way:

Quizzes-55%

Homework-10%

Attendance & Participation 15%

Writing assignments:business correspondence (Typed) 20%

**【学生の意見等からの気づき】**

Increased use of activities which create opportunities for exchanging information in pairs and small groups

LANe200CA
English Communication IIA
MARK OSELAND
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will develop and improve your oral communication skills. You will use worksheets and practise speaking English in pairs and small groups, participate in short, small group talks and small group presentations on general English topics.

#### 【到達目標】

At the end of the course, students should have improved their oral communication skills and confidence when speaking English in pairs, small groups and in front of an audience.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

You will work in groups, in pairs and with the class using English in an enjoyable and communicative way. You will use worksheets and participate in small group projects. Feedback on assignments will be provided on an ongoing in-class basis and via Google Classroom (students will be asked to submit work on Google Classroom).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week#1	Welcome and Course Introduction.	Students are introduced to the course and get to know the teacher.
Week#2	Getting to know you and topic selection.	Students ask each other and the teacher questions to review basic structures. Students choose topics.
Week#3	Topic 1: Worksheet; warm-up exercises, brainstorming.	Students brainstorm vocabulary, write questions, ask and answer and do worksheets.
Week#4	Topic 1: Short Talk and Presentation skills; structuring a short talk.	Students learn how to structure a short talk and practice opening a short talk.
Week#5	Topic 1: Small Group talks/Presentations on topic 1.	Students make and listen to short talks on topic 1 by their peers and give feedback.
Week#6	Topic 2: Worksheet; warm-up exercises, brainstorming.	Students brainstorm vocabulary, prepare a quiz and do worksheets.
Week#7	Topic 2: Short Talk and Presentation skills; using your voice.	Students practice using their voices focusing on rhythm and intonation and projection.
Week#8	Topic 2: Small Group Talks/Presentations on topic 2.	Students make and listen to short talks by their peers on topic 2 and give feedback.
Week#9	Topic 3: Worksheet; warm-up exercises, brainstorming.	Students brainstorm vocabulary, write questions, ask and answer and do worksheet.
Week#10	Topic 3: Short Talk and Presentation skills; eye contact, gestures and body language.	Students practice making eye contact, gestures and focus on posture and body language.
Week#11	Topic 3: Small Group Talks/Presentations on topic 3.	Students make and listen to short talks by their peers on topic 3 and give feedback.
Week#12	Topic 4: Worksheet; warm-up exercises, brainstorming.	Students brainstorm vocabulary, write questions, ask and answer and do worksheet.
Week#13	Topic 4: Short Talk and Presentation skills; Handling questions.	Students practice handling questions at the end of a short talk.
Week#14	Topic 4: Small Group Talks/Presentations on topic 4. Final Review activities.	Students make and listen to short talks by their peers on topic 4 and give feedback. Completion of final review activities.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Short weekly homework related to classroom activities and worksheets.

Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

No textbook will be used.

【参考書】

A good dictionary will be helpful.

【成績評価の方法と基準】

Homework (20%) In-class participation including participation in pair work activities, small group discussions, short talks and small group presentations (50%). Participation in speaking review activities (30%). Homework assignments, regular attendance and active participation in class activities are required in order to pass the course.

【学生の意見等からの気づき】

We will listen carefully to all student comments and make adjustments to role play and interview topics, as well as assessment criteria.

【学生が準備すべき機器他】

none

【その他の重要事項】

none

【Outline and objectives】

To help students enjoy speaking English. Students will improve their speaking skills and enhance their confidence in conversations, small group discussions and short talks.

LANe200CA
English Communication IIB
MARK OSELAND
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will develop and improve your oral communication skills. You will practise talking about news topics, giving and asking for opinions and agreeing and disagreeing. Students will practise speaking English in pairs and small groups and participate in short small group talks.

#### 【到達目標】

At the end of the course, students should have improved their oral communication skills and confidence when speaking English. They should show some understanding of how to give and ask for opinions and agree and disagree politely in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

We will use worksheets and adapted real world news stories in a communicative and enjoyable way. You will work in pairs, in groups and with the class. You will practise making short talks and simple presentations on news topics of your choice. Feedback on assignments will be provided on an ongoing in-class basis and via Google Classroom (students will be asked to submit work on Google Classroom).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week#1	Course introduction, Attendance, Grading Policies and other important points.	Students study the course outline and review asking for and giving opinions.
Week#2	Getting to know you/news topic selection.	Students introduce themselves and ask and answer basic questions. Students practise giving simple opinions.
Week#3	News Topic 1: Worksheet; warm-up exercises, brainstorming and giving opinions.	Students brainstorm topic related vocabulary, read a news article and practice giving opinions.
Week#4	News Topic 1 + Short Talk & Presentation Skill: Structuring a talk.	Students learn how to structure a short talk. Students prepare a short talk on a news story in small groups.
Week#5	News Topic 1: Small Group Presentations on topic 1.	Students give a short talk/presentation on a news story in a small group and receive feedback from their peers.
Week#6	News Topic 2: Worksheet; warm-up exercises, brainstorming and asking for opinions.	Students brainstorm topic related vocabulary, write and practice questions asking for opinions.
Week#7	News Topic 2 + Short Talk and Presentation skill: Using your voice.	Students practice using their voices focusing on rhythm and intonation and projection. Students prepare a short talk/presentation on a news story.
Week#8	News Topic 2: Small Group Presentations on topic 2.	Students give a short talk/presentation on a news story in a small group and receive feedback from their peers.
Week#9	News Topic 3: Worksheet; warm-up exercises, brainstorming and agreeing with an opinion.	Students brainstorm topic related vocabulary and learn how to agree with opinions. Students take part in a whole class mixer activity.

Week#10	News Topic 3 + Short Talk and Presentation skills: Eye contact, gestures and body language.	Students practise making eye contact, using gestures and appropriate body language. Students prepare a short talk/presentation on a news story in a small group.
Week#11	News Topic 3: Small Group Presentations on topic 3.	Students give a short talk/presentation on a news story in a small group and receive feedback from their peers.
Week#12	News Topic 4: Worksheet; warm-up exercises, brainstorming and disagreeing with opinions.	Students brainstorm topic related vocabulary, write opinions and practice politely disagreeing with opinions.
Week#13	News Topic 4 + Short Talk and Presentation skill: Handling questions on agreement and disagreement.	Students practice handling friendly and hostile questions and prepare a short talk/presentation on a news story in a small group.
Week#14	News Topic 4: Small Group Presentations on topic 4. Final Review activities.	Students give a short talk/presentation on a news story in a small group and receive feedback from their peers. Completion of final review activities.

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Short weekly homework related to worksheets and short talk/presentation preparation. Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】  
No textbook will be used.

#### 【参考書】

A good dictionary will be useful.

#### 【成績評価の方法と基準】

Homework (20%) In-class participation including participation in pairwork activities, small group discussions, short talks and small group presentations (50%). Participation in speaking review activities (30%). Homework assignments, regular attendance and active participation in class activities are required in order to pass the course.

#### 【学生の意見等からの気づき】

We will listen carefully to all student comments to make changes to topics and assessment.

【学生が準備すべき機器他】  
none

【その他の重要事項】  
none

#### 【Outline and objectives】

To help students enjoy speaking English. Students will improve their speaking skills and enhance their confidence in conversations, small group discussions and short talks.

LANe200CA
English Communication IIA
リチャード エバノフ
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

In this course students will learn how to give an impromptu speech and an informative speech.

**【到達目標】**

The goal of this course is to help students improve their English communication skills at a high-intermediate level.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

A weekly schedule will be given on Hoppii. Students should do the assignments indicated. Feedback will be given on Hoppii immediately after assignments have been submitted.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
Week 1:	Course introduction	Read the assigned documents
Week 2:	Impromptu speeches	Making an impromptu speech
Week 3:	Informative speeches (1)	Choosing a topic
Week 4:	Informative speeches (2)	Skeleton outline
Week 5:	Informative speeches (3)	Final outline
Week 6:	Informative speeches (4)	Visual aids
Week 7:	Informative speeches (5)	Introduction
Week 8:	Informative speeches (6)	Body
Week 9:	Informative speeches (7)	Conclusion
Week 10:	Informative speeches (8)	First draft
Week 11:	Informative speeches (9)	Revisions
Week 12:	Informative speeches (10)	Final draft
Week 13:	Review as necessary (1)	Review (1)
Week 14:	Review as necessary (2)	Review (2)

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Weekly home preparation is required. Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

**【テキスト（教科書）】**

There is no textbook. Students will select their own topics for the speeches and learn basic research skills for gathering their own materials.

**【参考書】**

None

**【成績評価の方法と基準】**

Students will be evaluated on the basis of the assignments they return to me (100%). It is important that you submit all assignments by the deadline so that I have enough time to read and mark them. Grades will be reduced if you submit the assignments late.

**【学生の意見等からの気づき】**

Since the comments did not recommend any changes, no changes will be made unless specific changes are requested.

**【学生が準備すべき機器他】**

None

**【その他の重要事項】**

None

**【Outline and objectives】**

In this course students will be encouraged to do research and express their own opinions rather than to simply learn vocabulary and grammar.

LANe200CA
English Communication IIB
リチャード エバノフ
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

In this course students will learn how to give a research speech on a topic related to the students' areas of study which requires academic research.

**【到達目標】**

The goal of this course is to help students improve their English communication skills at a high-intermediate level.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

A weekly schedule will be given on Hoppii. Students should do the assignments indicated. Feedback will be given on Hoppii immediately after assignments have been submitted.

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
Week 1:	Course introduction	Read the assigned documents
Week 2:	Research speeches (1)	Choosing a topic
Week 3:	Research speeches (2)	Doing research
Week 4:	Research speeches (3)	Visual aids
Week 5:	Research speeches (4)	Skeleton outline
Week 6:	Research speeches (5)	Final outline
Week 7:	Research speeches (6)	Introduction
Week 8:	Research speeches (7)	Body
Week 9:	Research speeches (8)	Conclusion
Week 10:	Research speeches (9)	First draft
Week 11:	Research speeches (10)	Revisions
Week 12:	Research speeches (11)	Final draft
Week 13:	Research speeches (12)	Final revisions as necessary
Week 14:	Review	Review as necessary

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Weekly home preparation is required. Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

**【テキスト（教科書）】**

There is no textbook. Materials will be provided by the professor for the media English section. Students will select their own topics for the research speeches and learn basic research skills for gathering their own materials.

**【参考書】**

None

**【成績評価の方法と基準】**

Students will be evaluated on the basis of the assignments they return to me (100%). It is important that you submit all assignments by the deadline so that I have enough time to read and mark them. Grades will be reduced if you submit the assignments late.

**【学生の意見等からの気づき】**

Since the comments did not recommend any changes, no changes will be made unless specific changes are requested.

**【学生が準備すべき機器他】**

None

**【その他の重要事項】**

None

**【Outline and objectives】**

In this course students will be encouraged to do research and express their own opinions rather than to simply learn vocabulary and grammar.

LANe300CA
English Communication IIIA
リチャード エバノフ
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

This course focuses on giving a persuasive speech.

**【到達目標】**

The goal of this course is to help students improve their English communication skills at an advanced level.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

A variety of activities will be conducted in the class. The contents for the persuasive speeches will be determined by the students in consultation with the professor. Feedback will be given on Hoppii immediately after assignments have been submitted.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
Week 1:	Course introduction	Read the assigned documents
Week 2:	Persuasive speeches (1)	Choosing a thesis
Week 3:	Persuasive speeches (2)	Doing research
Week 4:	Persuasive speeches (3)	Visual aids
Week 5:	Persuasive speeches (4)	Skeleton outline
Week 6:	Persuasive speeches (5)	Final outline
Week 7:	Persuasive speeches (6)	Introduction
Week 8:	Persuasive speeches (7)	Body
Week 9:	Persuasive speeches (8)	Conclusion
Week 10:	Persuasive speeches (9)	First draft
Week 11:	Persuasive speeches (10)	Revisions
Week 12:	Persuasive speeches (11)	Final draft
Week 13:	Review as necessary (1)	Review (1)
Week 14:	Review as necessary (2)	Review (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly home preparation is required. Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. Students will select their own topics for the speeches and learn basic research skills for gathering their own materials.

【参考書】

None

**【成績評価の方法と基準】**

Students will be evaluated on the basis of the assignments they return to me (100%). It is important that you submit all assignments by the deadline so that I have enough time to read and mark them. Grades will be reduced if you submit the assignments late.

【学生の意見等からの気づき】

Since the comments did not recommend any changes, no changes will be made unless specific changes are requested.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【Outline and objectives】

In this course students will be encouraged to do research and express their own opinions rather than to simply learn vocabulary and grammar.

LANe300CA
English Communication IIIB
リチャード エバノフ
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces students to five advanced levels of speech communication: (1) debate; (2) discussion; (3) negotiation theory; (4) intercultural communication; and (5) international management.

#### 【到達目標】

The goal of this course is to help students improve their English communication skills at an advanced level.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

A weekly schedule will be given on Hoppii. Students should do the assignments indicated. Feedback will be given on Hoppii immediately after assignments have been submitted.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1:	Course introduction	Read the assigned documents
Week 2:	Debates (1)	Read handout and write propositions
Week 3:	Debates (2)	Prepare constructives
Week 4:	Debates (3)	Prepare rebuttals
Week 5:	Debates (4)	Concluding the debate
Week 6:	Discussion	Discussion exercise
Week 7:	Negotiations (1)	Negotiation theory
Week 8:	Negotiations (2)	Negotiation exercise
Week 9:	Intercultural communication (1)	Lecture by the teacher
Week 10:	Intercultural communication (2)	Response to the lecture
Week 11:	International management (1)	Gung Ho movie 1st half
Week 12:	International management (2)	Gung Ho movie 2nd half
Week 13:	International management (3)	Written response to Gung Ho
Week 14:	Review	Review as necessary

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly home preparation is required. Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

#### 【テキスト（教科書）】

There is no textbook. Materials will be provided by the professor for the intercultural communication and intercultural negotiations sections. Students will select their own topics for the debates and discussions, and learn basic research skills for gathering their own materials.

#### 【参考書】

None

#### 【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on the basis of the assignments they return to me (100%). It is important that you submit all assignments by the deadline so that I have enough time to read and mark them. Grades will be reduced if you submit the assignments late.

#### 【学生の意見等からの気づき】

Since the comments did not recommend any changes, no changes will be made unless specific changes are requested.

#### 【学生が準備すべき機器他】

None

#### 【その他の重要事項】

None

#### 【Outline and objectives】

The objective of this course is to prepare students for situations in their future careers in which they need to interact successfully with people from other cultures in business situations.

LANd100CA
ドイツ語コミュニケーション IA
北岡 幸代
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業はドイツ語初修者を対象とした初級ドイツ語の運用クラスです。ネイティブの音声に慣れ、日常生活の場面においてドイツ語で話すことに重点を置きます。ドイツ語表現の背後にある文化的・歴史的背景についても必要に応じて理解していきます。

**【到達目標】**

初歩的な会話であれば、相手の話すことを理解し、ドイツ語で実際に話せるようになること、またドイツ語の学びから、異なる文化的・歴史的背景を持った人々の価値観を尊重できるようになることが目標です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

※ 2021 年度のコロナウィルスの感染状況に応じて、対面授業と「Zoom」によるリアルタイム双方向型のオンライン授業で柔軟に対応します。特に初回授業の形態に関しては「学習支援システム」の「お知らせ」欄を必ずチェックして下さい。

- (1) 日常生活の具体的なシチュエーションを想定し、会話表現を学びます。
- (2) ドイツ語の音声に慣れ、聞き取る練習をします。
- (3) ペアワーク、グループワークによる発話練習を行います。
- (4) 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
01	ガイダンス	授業方針、授業の進め方について。 みんなでドイツ語を話してみよう。
02	人と知り合う（1）	挨拶をしよう。 名前・出身をたずねよう。
03	人と知り合う（2）	友達を別の友達に紹介する。
04	人と知り合う（3）	調子・気分をきこう。
05	買い物しよう（1）	家具製品の語彙。 百万までの数字。
06	買い物しよう（2）	家具屋で買い物をする。 値段に関する表現。
07	買い物しよう（3）	アドバイスを求める表現。 品物について述べる。 動詞 <b>finden</b> を使う表現。
08	事物を評価しよう（1）	品物の名称をたずねる表現、答える表現。
09	事物を評価しよう（2）	眼鏡ショップの広告を読む。 材質・色・形に関する語彙。
10	事物を評価しよう（3）	品物をオークションにかけよう。 インターネットで注文しよう。
11	仕事と通信機器（1）	電話の会話を聴く。 オフィスに関する語彙。
12	仕事と通信機器（2）	SMS を使う。
13	仕事と通信機器（3）	電話会話のストラテジー。
14	口頭試験	口頭試験 春学期のまとめ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

予習にはオンラインの学習アプリを使います。授業の復習としての提出課題を出します。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

【MENSCHEN A1.1 Kursbuch】(Hueber)

**【参考書】**

辞書については授業時に説明します。参考書等も授業中に適時紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

成績評価は、日頃の提出課題達成度（30%）、授業内パフォーマンス（30%）、期末口頭試験（30%）、期末筆記課題（10%）を目安に総合的に判断し、全体の 60% 以上で合格とします。

**【学生の意見等からの気づき】**

ドイツ語圏の映画やドイツ語圏に関する動画なども積極的に使います。

**【その他の重要事項】**

初回のガイダンスには必ず出席してください。

**【Outline and objectives】**

In this course students will learn conversational German, oral communication skills at a beginner level.

The purpose of this course is to develop students' basic listening and speaking skills and also get students interested in German.

LANd100CA
ドイツ語コミュニケーション IB
北岡 幸代
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業はドイツ語初修者を対象とした初級ドイツ語の運用クラスです。ネイティブの音声に慣れ、日常生活の場面においてドイツ語で話すことに重点を置きます。ドイツ語表現の背後にある文化的・歴史的背景についても必要に応じて理解していきます。

**【到達目標】**

初歩的な会話であれば、相手の話すことを理解し、ドイツ語で実際に話せるようになること、またドイツ語の学びから、異なる文化的・歴史的背景を持った人々の価値観を尊重できるようになることが目標です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

- 日常生活の具体的なシチュエーションを想定し、会話表現を学びます。
- ドイツ語の音声に慣れ、聞き取る練習をします。
- ペアワーク、グループワークによる発話練習を行います。
- 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
01	ガイダンス	秋学期の内容確認。 ドイツ語圏の最新トピックの紹介。
02	予定を伺う（1）	一日の時間の流れと所在場所。
03	予定を伺う（2）	時刻の表現。
04	予定を伺う（3）	予定の確認や取り消し。
05	食事について（1）	好きな食べ物について。 話法の助動詞 mögen と möchte
06	食事について（2）	食事に招待する。
07	食事について（3）	食事での会話。 ドイツ語圏の料理。
08	交通機関（1）	構内放送を聴く。 交通に関する語彙。
09	交通機関（2）	分離動詞を使う。
10	交通機関（3）	旅や乗り換えに関する表現。
11	季節の行事（1）	季節・時期・行事に関する語彙。 ドイツ語圏のお祭り。
12	季節の行事（2）	季節の行事を調べてみよう。
13	口頭試験	口頭試験 復習
14	期末筆記試験	筆記試験
	秋学期の振り返り	秋学期の振り返り

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

予習にはオンラインの学習アプリを使います。授業の復習としての提出課題を出します。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

『MENSCHEN A1.1 Kursbuch』(Hueber)

**【参考書】**

参考書等は、授業中に適時紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

各テーマを終えるごとに、簡単な小テストを実施します。筆記試験のほかに簡単な口頭試験も行います。成績評価は、日頃の課題達成度（30%）、小テスト・期末の筆記テスト（35%）、期末口頭試験（35%）を目安に総合的に判断し、全体の 60% 以上で合格とします。

**【学生の意見等からの気づき】**

ドイツ語圏の映画やドイツ語圏に関する動画なども積極的に使います。

**【Outline and objectives】**

In this course students will learn conversational German, oral communication skills at a beginner level.

The purpose of this course is to develop students' basic listening and speaking skills and also get students interested in German.

LANd200CA
ドイツ語コミュニケーション IIA
栗田 くり菜
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

・ドイツ語圏での短期滞在や、ドイツ語圏出身の人々との交友を想定し、ドイツ語によるコミュニケーション能力を養います。またドイツの文化的・歴史的要素も学んでいきます。  
・ドイツ語の授業を一年以上受けた人が対象ですが、必要な文法や発音など適宜確認しつつ授業を進めますので、コミュニケーション I を履修してなくても本科目の履修に問題はありません。  
・必修科目以外にさらに多くのドイツ語に触れる機会として、楽しみながら力をつけることを目指します。

**【到達目標】**

・「聞く」「話す」「読む」「書く」の四技能をバランスよく身につけながら、各テーマで使われる基本的文法・語彙・表現の特徴・正しい発音を学び、自らの表現として使えるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

- 特定の具体的な場面で使われる、定型的表現・語彙・文脈に合った表現を学び、必要に応じて、映画や動画を利用し表現の背後にある文化的・歴史的要素を理解する。
  - 映像教材・音声教材を使い、聞き取りによる理解を深める練習をする。
  - 対話練習等により、理解した語彙・表現に慣れ、さらに自らの自発的な発話・対話につなげる。
- 授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。  
・選択科目で人数もさほど多くはないと思いますので、互いにいろいろ相談しながら進めていきましょう！  
<オンライン授業となった場合>  
・感染状況などからオンライン授業が行われることになる場合、学習支援システムを通じてお知らせをします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
01	オリエンテーション	・授業の進め方と準備作業。 ・授業中に使用するドイツ語表現。
02	目的地にたどり着く（1）	・町の目印の語彙と前置詞。
03	目的地にたどり着く（2）	・自分の位置を表現。
04	目的地にたどり着く（3）	・助けを求め道を尋ねる。
05	目的地にたどり着く（4）	・DVD 視聴：道順の理解と説明。
06	お気に入りの街角（1）	・建物・施設に関する語彙と表現。
07	お気に入りの街角（2）	・町の紹介ブログを読む。
08	お気に入りの街角（3）	・お気に入りの場所を表明する。
09	お気に入りの街角（4）	・DVD 視聴：Martin の Bern 紹介。
10	ホテルでトラブル（1）	・ホテル利用に関する語彙と表現。
11	ホテルでトラブル（2）	・トラブル時の依頼と応答の表現
12	ホテルでトラブル（3）	・E-Mail で予約する。
13	ホテルでトラブル（4）	・謝罪とその応答の表現。 ・DVD 視聴：Alfons の仕事。
14	春学期の振り返り	・口頭試験と春学期のまとめ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

&lt;教室での通常の対面授業&gt;

・予習としてはテーマで使用する重要語彙のプリント課題を、授業内容の復習としてはほぼ毎回練習プリントの課題を出し、それぞれ平常点の評価対象とします。本授業の準備学習・復習時間は、約 2 時間を標準とします。

&lt;オンライン授業となった場合&gt;

・授業前に必ず学習支援システムの「お知らせ」欄を確認して、オンライン授業のアクセス方法を確認し、事前学習の内容や課題をチェックして、実施しておいて下さい。

**【テキスト（教科書）】**

『Menschen A1.2 Kursbuch』(Hueber)

・教科書は、生協で購入が可能となれば、用意して下さい。それまでは、こちらで対応します。

**【参考書】**

・授業中に適宜紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

・各テーマを終えるごとに小テストを実施します。筆記試験のほかにヒヤリング・口頭試験も行います。

・成績評価は、宿題・授業内の課題達成度（30％）、授業内筆記テスト（35％）、授業内口頭試験・プレゼンテーション（35％）を目安に総合的に判断し、全体の60％以上で合格とします。  
 ・正当な理由のない欠席が全体の30％を超えた場合は成績評価対象外とします。  
 ・オンライン授業となった場合＜  
 オンライン授業となった場合、改めて学習支援システムに評価方法についてお知らせいたします。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業に対してご意見などがある場合、リアクションペーパーに記入をしてください。

#### 【その他の重要事項】

・各テーマとも、個々の基礎的な課題から応用的発展的課題へつなげていきます。その積み重ねとプロセスが大事ですので、授業を欠席しないようにしましょう。

#### 【Outline and objectives】

Assume a short-term stay in a German-speaking country and friendship with people from German-speaking countries and cultivate communication skills in German. We will also learn about the cultural and historical elements of Germany.

LANd200CA

## ドイツ語コミュニケーション IIB

栗田 くり菜

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・ドイツ語圏での短期滞在や、ドイツ語圏出身の人々との交友を想定し、ドイツ語によるコミュニケーション能力を養います。またドイツの文化的・歴史的要素も学んでいきます。  
 ・ドイツ語の授業を一年以上受けた人が対象ですが、必要な文法や発音など適宜確認しつつ授業を進めますので、コミュニケーションIを履修してなくても本科目の履修に問題はありません。  
 ・必修科目以外にさらに多くのドイツ語に触れる機会として、楽しみながら力をつけることを目指します。

#### 【到達目標】

・「聞く」「話す」「読む」「書く」の四技能をバランスよく身につけながら、各テーマで使われる基本的文法・語彙・表現の特徴・正しい発音を学び、自らの表現として使えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

1. 特定の具体的な場面で使われる、定型的表现・語彙・文脈に合った表現を学び、必要に応じて、映画や動画を利用し表現の背後にある文化的・歴史的要素を理解する。  
 2. 映像教材・音声教材を使い、聞き取りによる理解を深める練習をする。  
 3. 対話練習等により、理解した語彙・表現に慣れ、さらに自らの自発的な発話・対話につなげる。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
01	オリエンテーション	・授業内容、進め方の再確認。 ・発音のブラッシュアップ。
02	身体をめぐる表現（1）	・身体・病・治療をめぐる語彙と表現。
03	身体をめぐる表現（2）	・治療のアドバイスをめぐる表現。
04	身体をめぐる表現（3）	・健康に関するコラムを読む。
05	身体をめぐる表現（4）	・DVD 視聴：Wien でジョギング。
06	シェアハウス（1）	・家事に関する語彙と表現。
07	シェアハウス（2）	・同居人に家事を頼むやり取り。
08	シェアハウス（3）	・同居人を募集する広告記事。 ・大学生とWG(Wohngemeinschaft)。
09	シェアハウス（4）	・DVD 視聴：祖母の家事を手伝う。
10	祝い事に招待される（1）	・祝い事、招待をめぐる語彙と表現。
11	祝い事に招待される（2）	・日付と序数の復習。
12	祝い事に招待される（3）	・接続法Ⅱ式を使った願望・婉曲表現。
13	祝い事に招待される（4）	・DVD 視聴：遊園地でのデート。
14	秋学期のまとめ	・口頭試験と学期のまとめ。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・予習としてはテーマで使用する重要語彙のプリント課題を、授業内容の復習としてはほぼ毎回練習プリントの課題を出し、それぞれ平常点の評価対象とします。本授業の準備学習・復習時間は、約2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

『Menschen A1.2 Kursbuch』（ Hueber）

#### 【参考書】

・授業中に適宜紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

・各テーマを終えるごとに小テストを実施します。筆記試験のほかにヒヤリング・口頭試験も行います。  
 ・成績評価は、宿題・授業内の課題達成度（30％）、授業内筆記テスト（35％）、授業内口頭試験・プレゼンテーション（35％）を目安に総合的に判断し、全体の60％以上で合格とします。  
 ・正当な理由のない欠席が全体の30％を超えた場合は成績評価対象外とします。

#### 【学生の意見等からの気づき】

・宿題のプリント内容については、配布時に適宜アドバイスをします。

#### 【その他の重要事項】

・各テーマとも、個々の基礎的な課題から応用的発展的課題へつなげていきます。その積み重ねとプロセスが大事ですので、授業を欠席しないようにしましょう。

## 【Outline and objectives】

Assume a short-term stay in a German-speaking country and friendship with people from German-speaking countries and cultivate communication skills in German. We will also learn about the cultural and historical elements of Germany.

LANf100CA
フランス語コミュニケーション A
余語 毅憲
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語を初めて学ぶ人だけでなく、「フランス語によるコミュニケーション能力の向上」といった観点からフランス語を鍛え直したいと思っている既習者のための授業です。

## 【到達目標】

平易で短めのフランス語を使って、日常的なやり取りや旅行用のやり取りができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

①授業活動は、基本的にペア/グループワークで進めていきます。②毎回の授業後に、①簡単な復習テストを、学習支援システム「HOPPI」に提示しますので、それらを解答・提出してください。②同じく「授業アンケート（ミニッツ・ペーパーのようなもの）」も「HOPPI」に提示します（2～3分程度の内容）。当日の授業に関する質問や感想などを、簡潔にサイト上で回答し提出してください。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス、フランス語を学ぶための準備	挨拶表現、数詞表現
2	教室で使うフランス語表現	フランス語発音の特徴
3	自分のことを伝える 1	名前、職業、数詞 1～20
4	自分のことを伝える 2	主語人称代名詞、動詞 être
5	自分のことを伝える 3	国籍や年齢、兄弟の有無などに関する表現
6	自分のことを伝える 4	数詞表現、男性形と女性形、不定冠詞
7	家族や友人を紹介する 1	人の容姿や性格の描写や数詞表現
8	家族や友人を紹介する 2	所有形容詞、否定文の作り方
9	趣味や好みを紹介する 1	趣味や余暇の活動に関する表現、好き嫌いに関する表現
10	趣味や好みを紹介する 2	－ er 動詞、定冠詞
11	道案内をする 1	人や物の位置についての表現、道順についてのやりとりに関する表現
12	道案内をする 2	序数表現、il y a 構文、場所を表す前置詞
13	行動について話す 1	近い過去や未来、進行中の動作についての表現
14	期末試験/今期の総括	期末試験/今期の振り返り

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

<予習について>特に必要ありませんが、日々、意識的に語彙を増やすよう努力しましょう。フランス語上達の近道です。<復習について>①授業後に簡単な復習テストを「HOPPI」に提示しますので、それらを「HOPPI」上で解答・提出してください。②復習をする際、音読による多読を中心に行うことを推奨します。\*本授業の準備や復習時間の目安は、計 2 時間ほどを考慮してください。

## 【テキスト（教科書）】

授業ごとに配布します。

## 【参考書】

授業内で適宜に指示します。

## 【成績評価の方法と基準】

①期末試験 < 60 % > ②毎回の復習テスト（授業後に「HOPPI」上で提示） < 40 % >

## 【学生の意見等からの気づき】

①皆さんが均等に発言、発話できるような授業環境を作ります。②ペア/グループワークを積極的に導入します。③実践的なコミュニケーション練習も多く導入します。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course/class is to acquire abilities of communication in daily social exchanges, to improve your oral skills through activities designed to enrich your vocabulary, and to master the French language structures. Emphasis is put on interactive exercises among the students in the class, reflection on the language and acquisition of automatisms.

LANf100CA
フランス語コミュニケーション B
余語 毅憲
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

フランス語を初めて学ぶ人だけでなく、「フランス語によるコミュニケーション能力の向上」といった観点からフランス語を鍛え直したいと思っている既習者のための授業です。

**【到達目標】**

平易で短めのフランス語を使って、日常的なやり取りや旅行用のやり取りができるようになることを目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

①授業活動は、基本的にペア／グループワークで進めていきます。②毎回の授業後に、①簡単な復習テストを、学習支援システム「HOPPI」に提示しますので、それらを解答・提出してください。②同じく「授業アンケート（ミニッツ・ペーパーのようなもの）」も「HOPPI」に提示します（2～3分程度の内容）。当日の授業に関する質問や感想などを、簡潔にサイト上で回答し提出してください。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	行動について話す 2	四則計算に関する表現、動詞 aller,venir
2	習慣について話す 1	一日の行動、日常の習慣、時間表現
3	習慣について話す 2	代名動詞、部分冠詞
4	過去の経験を伝える 1	複合過去、過去分詞
5	過去の経験を伝える 2	季節や年月日の表現、値段の尋ね方や答え方
6	過去の自分について語る 1	半過去
7	過去の自分について語る 2	過去の習慣や状況、気持ちについての表現
8	インターネットを使う 1	インターネットに関する表現、天気表現
9	インターネットを使う 2	比較級と最上級、前置詞と定冠詞の縮約
10	未来について語る 1	単純未来、条件法現在、指示形容詞
11	未来について語る 2	可能、願望、義務表現
12	インタビューをしてみる 1	疑問詞、順序を表す副詞、接続詞
13	インタビューをしてみる 2	直接／間接目的補語代名詞、中性代名詞
14	期末試験／今期の総括	期末試験／今期の振り返り

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

<予習について>特に必要ありませんが、日々、意識的に語彙を増やすよう努力しましょう。フランス語上達の近道です。<復習について>①授業後に簡単な復習テストを「HOPPI」に提示しますので、それらを「HOPPI」上で解答・提出してください。②復習をする際、音読による多読を中心に行うことを推奨します。\*本授業の準備や復習時間の目安は、計2時間ほどを考えてください。

**【テキスト（教科書）】**

授業ごとに配布します。

**【参考書】**

授業内で適宜に指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

①期末試験<60%>②毎回の復習テスト（授業後に「HOPPI」上で提示）<40%>

**【学生の意見等からの気づき】**

①皆さんが均等に発言、発話できるような授業環境を作ります。②ペア／グループワークを積極的に導入します。③実践的なコミュニケーション練習も多く導入します。

**【Outline and objectives】**

The aim of this course/class is to acquire abilities of communication in daily social exchanges, to improve your oral skills through activities designed to enrich your vocabulary, and to master the French language structures. Emphasis is put on interactive exercises among the students in the class, reflection on the language and acquisition of automatisms.

LANf200CA
資格をめざすフランス語 A
小室 廉太
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

仏検（フランス語技能検定試験）の出題問題形式に依拠しながら、フランス語力の向上をめざしましょう。

1年次のフランス語学習で挫折した人でも、フランス語の資格がとれるように、基本的な文法や表現に関する知識を復習してゆきます。資格の取得は、大学でフランス語を学習したことを記録できるだけではなく、留学や就職にも有利です。ぜひチャレンジして下さい！

**【到達目標】**

フランス語の初級文法が習得できる。

フランス語の表現や語彙を習得できる。

フランス語圏への旅行で困らない程度のフランス語会話ができる。

仏検4級レベルに到達できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

1年次に学んだ文法項目を復習しながら、仏検に準拠した問題をとります。仏検の観点から文法項目をとらえなおし、設問のポイントや解法を学びます。

授業形態は、最初に文法や表現の例文を学び、その後、練習問題を解きます。単なる文法理解ではなく、会話表現に即した応答問題、聞き取り問題もとりあげます。授業を進めていくうちに、フランス語の会話力も向上する筈です。楽しい授業にしたいので、皆さんの積極的な授業参加を期待します。

オンライン授業では課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業、評価方法紹介
	仏検4級解説	仏検4級の出題解説
	発音規則	発音規則の復習
2	名詞と冠詞	不定冠詞、定冠詞、部分冠詞の用法
3	様々な代名詞	補語人称代名詞、人称代名詞強勢形、中性代名詞、指示代名詞の用法
4	様々な形容詞	形容詞の位置と所有形容詞、指示形容詞の用法
5	動詞の活用	直説法現在、複合過去、近接過去、単純未来、近接未来の活用形と用法
6	否定形・命令法・受動態・代名動詞	さまざまな否定形、命令法、受動態、代名動詞の用法
7	前置詞	前置詞の用法
	数字の聞きとり	数字（1～100）の聞きとり
8	疑問文1（応答文2）	疑問文の作り方とその読解
9	疑問文2（応答文2）	疑問文に関する聞きとり問題
10	構文研究1	条件法現在、非人称構文、現在分詞
11	構文研究2	強調構文、比較級、最上級の用法と並べかえ
12	会話文読解、会話文聞き取り	会話文の読解と聞きとり問題の解法
13	模擬試験	仏兼4級模擬試験

## 14 まとめ 春学期授業の総まとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業プリントの例文は意味を調べ、また、練習問題は必ず予習しておいてください（2時間）。

対面授業の場合、毎回単語小テストをするので、暗記してください（1時間）。

また、毎週、単語集の意味暗記も課題とします（1時間）。

## 【テキスト（教科書）】

初回授業でプリントを配布します。その他、毎回小テストプリントを配布し、次回授業で採点し返却します。できなかった問題は必ず復習をしてください。

## 【参考書】

1年次に使用した文法の教科書

『仏検4級スピード合格』（富田正二著、三修社）

『仏検3級スピード合格』（富田正二著、三修社）

『《データ本位》でる順仏検単語集』（久松健一著、駿河台出版社）

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（60%）と、小テストおよび平常点（40%）を合算して判定します。実際に仏検を受験した学生は、その成績も考慮します。

## 【学生の意見等からの気づき】

検定合格者を輩出できただけでなく、必修フランス語の復習になったのは幸いです。学生の皆さんには今後もフランス語学習を続けてもらえれば幸いです。

## 【学生が準備すべき機器他】

仏和辞典は必ず準備してください。できれば紙媒体をお勧めします。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire "Futuken" (DAFP : Diplôme d'Aptitude Pratique au Français).

LANf200CA

## 資格をめざすフランス語 B

小室 廉太

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、仏検（フランス語技能検定試験）の出題問題形式に依拠しながら、フランス語力の向上をめざしましょう。

1年次のフランス語学習で挫折した人でも、フランス語の資格がとれるように、基本的な文法や表現に関する知識を復習してゆきます。資格の取得は、大学でフランス語を学習したことを記録できるだけではなく、留学や就職にも有利です。ぜひチャレンジして下さい！

## 【到達目標】

フランス語の文法全般が習得できる。

フランス語の表現や語彙を習得できる。

一か月程度の短期留学で使う、簡単なフランス語会話がができる。

仏検3級レベルに到達できる。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

前期に引き続き、1年次に学んだ文法項目を復習しながら、仏検に準拠した問題に取り組みます。仏検の観点から文法項目を学ぶことで、設問のポイントや解法のテクニックを理解します。

授業形態は、最初に文法や表現の例文を学び、その後、練習問題を解きます。単なる文法理解ではなく、会話表現に即した応答問題、聞き取り問題もとりあげます。授業を進めていくうちに、フランス語の会話力も向上する筈です。楽しい授業にしたいので、皆さんの積極的な授業参加を期待します。

オンライン授業では課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 仏検3級の設問解説 前期授業の復習	授業、評価方法紹介 仏検3級の出題解説 前期授業の復習
2	動詞の活用1	不規則動詞、命令形の特殊形、使役動詞の活用と用法
3	動詞の活用2	複合過去と半過去、過去分詞の一致
4	動詞の活用3	条件法、接続法、現在分詞、ジェロンディフの用法
5	代名詞の復習	補語人称代名詞、中性代名詞などの語順
6	構文研究1	非人称構文の復習・不定代名詞の用法
7	構文研究2	関係代名詞・疑問代名詞の用法
8	前置詞1	様々な前置詞と前置詞句 その1
9	前置詞2	様々な前置詞と前置詞句 その2
10	単語配列1	強調構文、比較構文などの並べかえ
11	単語配列2	慣用表現を用いた構文の並べかえ
12	応答文1	応答文の読解
13	応答文2	応答文の聞き取り
14	総まとめ	年間授業の総まとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業プリントの例文は意味を調べ、また、練習問題は必ず予習しておいてください（2時間）。

対面授業の場合、毎回単語小テストをするので、暗記してください（1時間）。

また、毎週、単語集の意味暗記も課題とします（1時間）。

#### 【テキスト（教科書）】

初回授業でプリントを配布します。その他、毎回小テストプリントを配布し、次回授業で採点し返却します。できなかった問題は必ず復習をしてください。

#### 【参考書】

1年次に使用した文法の教科書

『仏検3級スピード合格』（富田正二著、三修社）

『仏検準2級スピード合格』（富田正二、小室廉太著、三修社）

『《データ本位》で順仏検単語集』（久松健一著、駿河台出版社）

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験（60%）と、小テストおよび平常点（40%）を合算して判定します。実際に仏検を受験した学生は、その成績も考慮します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

必修フランス語の復習になったのは幸いです。学生の皆さんには今後もフランス語学習を続けてもらえれば幸いです。

#### 【学生が準備すべき機器他】

仏和辞典は必ず準備してください。できれば紙媒体をお勧めします。

#### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire "Futuken" (DAPF : Diplôme d'Aptitude Pratique au Français).

LANs100CA
スペイン語コミュニケーション IA
マリア ドローレス
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では少ないボキャブラリーや文法知識でも、基本的なコミュニケーションのとれる会話能力を身につけることを目的とします。また、言語の背景にあるスペイン文化や習慣、伝統等の理解にも努めます。

#### 【到達目標】

日常生活でよく用いられる会話能力を身につけることを第一義的な目標に定めます。具体的には、受講生がスペイン語圏の国に旅行または留学したとして、その初期において現地の人々と支障なく交流できる会話力を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

本科目はスペイン語でのコミュニケーション能力を高めるための授業です。従って、授業は Zoom によるリアルタイムでの口頭練習を中心に進めます。

対面授業では質問・解答を繰り返し修正しながら進め、課題等は直接提出又は Hoppii を活用する。オンライン授業では Zoom を通じて同様の授業形態を採る。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	日常生活に関する表	再帰動詞 現、会話
2	習慣について、待ち合わせをする	相互再帰動詞
3	最近の出来事について話す	現在完了形
4	経験や過去の出来事について話す、意向を表現する	頻度を表す副詞
5	未来について話す、仮定の話	未来形
6	旅行を計画する、家について話す	関係代名詞を使った文章
7	1回～6回までの復習	復習
8	同時進行する出来事	現在分詞
9	比較する、身体部分名、称の言い方、スポーツ、国名	比較級、最上級
10	過去の習慣的行動を思い出す、レジャー	線過去
11	歴史について話す、病院で	過去形
12	過去の出来事について話す、歌詞を訳す	点過去
13	町中での行動、旅行、ラテンアメリカについて	過去形
14	8回～13回までの復習	復習

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

簡単な単語の宿題を毎回出すので、授業外でやっておくこと本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

タイトル Imagínatelo  
出版社 朝日出版  
価格 ￥2600

**【参考書】**

辞書

**【成績評価の方法と基準】**

試験 66 %  
平常点 34%

**【学生の意見等からの気づき】**

外国の文化、習慣等に関心のある学生が多いようなので、その点に留意しながら授業を行う

**【学生が準備すべき機器他】**

リアルタイム・オンライン授業が中心となるため、Zoom に対応したデバイス(PC、タブレット端末など)

**【Outline and objectives】**

In this lesson, we aim to acquire conversation skills that can take basic communication even with little vocabulary and grammatical knowledge. In addition, we will strive to understand the Spanish culture, customs, traditions, etc behind the language.

LANs100CA
スペイン語コミュニケーション IB
マリア ドローレス
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業では少ないボキャブラリーや文法知識でも、基本的なコミュニケーションのとれる会話能力を身につけることを目的とします。また、言語の背景にあるスペイン文化や習慣、伝統等の理解にも努めます。

**【到達目標】**

日常生活でよく用いられる会話能力を身につけることを第一義的な目標に定めます。具体的には、受講生がスペイン語圏の国に旅行または留学したとして、その初期において現地の人々と支障なく交流できる会話力を身につけてもらいます。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本科目はスペイン語でのコミュニケーション能力を高めるための授業です。従って、授業は Zoom によるリアルタイムでの口頭練習を中心に進めます。

対面授業では質問・解答を繰り返し修正しながら進め、課題等は直接提出又は Hoppii を活用する。オンライン授業では Zoom を通じて同様の授業形態を採る。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	有名人の伝記、歴史上の人物について	3種類の過去形
2	Eメールの書き方、あ	頻度を表す副詞 る行動の継続性
3	料理レシピ、命令、指示の仕方	命令形
4	目的地への道順、友人を紹介する	命令形
5	完了した過去の出来事、職場・家庭での会話	過去完了
6	時の表現の復習、パプでの会話	時を表す副詞句
7	1回～6回までの復習	復習
8	政治、社会問題について議論する、希望・要求の言い方	接続法現在
9	空港での会話、アドバイスと助言・勧告	接続法現在
10	買い物、室内装飾	接続法過去、条件法
11	丁寧な表現、希望と夢の表現、時事問題について議論する	条件法
12	パーティーでの会話、他者の言葉を再現する	間接話法
13	金言・名言集、他者のメッセージを伝える、メモを残す	間接話法
14	8回～13回までの復習	復習

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

簡単な単語の宿題を毎回出すので、授業外でやっておくこと本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

タイトル Imagínatelo  
出版社 朝日出版  
価格 ￥ 2600

**【参考書】**

辞書

**【成績評価の方法と基準】**

試験 66 %  
平常点 34%

**【学生の意見等からの気づき】**

外国の文化、習慣等に関心のある学生が多いようなので、その点に留意しながら授業を行う

**【学生が準備すべき機器他】**

リアルタイム・オンライン授業が中心となるため、Zoom に対応したデバイス (PC、タブレット端末など)

**【Outline and objectives】**

In this lesson, we aim to acquire conversation skills that can take basic communication even with little vocabulary and grammatical knowledge. In addition, we will strive to understand the Spanish culture, customs, traditions, etc behind the language.

LANs200CA
スペイン語コミュニケーション IIA
YENG A J FERNANDO
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

既習文法を基に、日常生活に必要な基礎的なコミュニケーション能力を養う。

**【到達目標】**

1. 現在進行中の出来事を表現できる。
2. 過去の出来事を、点過去と線過去を使い分けて表現ができる。
3. ニュースや文化についてスペイン語で受信・発信できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となる。それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は 4 月 23 日)とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・授業の進め方、成績評価等について。 ・既習事項の確認。
第 2 回	学校生活・趣味活動 (1)	<語彙> ・学生生活に関連する動詞、科目、生活習慣
第 3 回	学校生活・趣味活動 (2)	<表現練習> ・名前を訊く。 ・同時進行の行為・行動の表現。
第 4 回	人の一生 (1)	<語彙> ・過去を表わす副詞句、位置関係語、親族語、人の一生に関わる動詞
第 5 回	人の一生 (2)	<表現練習> ・休暇中の活動。 ・年表作成。 ・自分史を書く。
第 6 回	昔と今 (1)	<語彙> ・mente 副詞、施設や店舗、品質形容詞
第 7 回	昔と今 (2)	<表現練習> ・過去のある時期の活動や習慣などを表現する。
第 8 回	まとめ	第 2 回授業～第 7 回授業
第 9 回	習得確認	第 2 回～第 8 回授業
第 10 回	旅行報告 (1)	<語彙> ・活動動詞、携行品、天候
第 11 回	旅行報告 (2)	<表現練習> ・旅行報告書を書く。 ・事件記事を読む、書く。
第 12 回	余暇活動 (1)	<語彙> 余暇活動、勧誘表現、買い物、ファッション

## 第13回 余暇活動(2)

&lt;表現練習&gt;

- ・今を含む期間に行った行動、活動。
- ・経験。

## 第14回 習得確認&amp;総括

習得確認

第10回～13回授業

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習1. 各課の「文法」部分の練習問題。

文法は既習事項なので、授業前にやっておくこと。

予習2. 各課の「語彙」部分。

「語彙」部分は授業前に辞書で意味を確認しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

『Entre amigos 2 2a. edición』（総合スペイン語コース 中級 改訂版）  
スペイン語教材研究会編、朝日出版社

## 【参考書】

『本気で学ぶスペイン語』菅原昭江著、同学社

## 【成績評価の方法と基準】

点数評価とする。平常点（授業参加、Google Classroom の課題など）：40%、オンラインテスト実施60%により総合的に評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

アンケート対象外の授業だったため、コメントはありません。

## 【その他の重要事項】

授業を理解するためには、教科書と辞書は必須です。

忘れないように。

## 【Outline and objectives】

This course is intended to help students develop their Spanish communication skills by offering them opportunities to improve their

Listening, Speaking and Reading skills. We will do listening and speaking activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in Spanish.

LANs200CA

## スペイン語コミュニケーション IIB

YENG A J FERNANDO

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

既習文法を基に、日常生活に必要なより高度なコミュニケーション能力を養います。

## 【到達目標】

1. 過去の推測、現在の推測、未来のことが表現できる。
2. 指示や命令ができる。
3. 意見を言う・アドバイスする・願望・依頼などの表現ができる。
4. 単文の願望表現、事実と異なる条件下での仮定表現ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

教科書の各課の「語彙」部分と「コミュニケーション」部分を2回の授業で進めていきます。以下の順序で進めます。

1. 既習の文法事項を確認する。
2. 表現練習に必要な語彙を習得する。各課ごとに語彙テストを随時実施する。
3. 習得した語を使ってコミュニケーションの練習を行う。
4. 練習に関連した映像や音楽などを随時取り上げ表現枠を広げる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業の進め方、成績評価について ・春期の学習内容の確認
第2回	将来は... (1)	<語彙> ・未来を表す副詞句 ・推測 ・確実性を表す表現
第3回	将来は... (2)	<表現練習> ・25年後の自分は... ・学長選挙公約と結果
第4回	時系列で過去を語る (1)	<語彙> ・直説法動詞 ・家具と調度品
第5回	時系列で過去を語る (2)	<表現練習> ・10年前の我が家と今 ・プロフィール ・窃盗事件の経緯
第6回	命令・指示する (1)	<語彙> ・食品・その分類名 ・単位 ・体の動き
第7回	命令・指示する (2)	<表現練習> ・運動のやり方を指示 ・アドバイスする
第8回	まとめ	第1回～8回授業
第9回	習得確認	第1回～8回授業
第10回	願望・依頼・命令表現 (1)	<語彙> ・大きな数字 ・地理 ・環境問題 ・対応策

- 第 11 回 願望・依頼・命令表現 <表現練習>  
(2)  
・意見交換する  
・理想の国を述べる  
・環境問題を考える
- 第 12 回 事実と異なる仮定表現 <語彙>  
(1)  
・接続法過去動詞活用  
・抽象名詞  
・事実と異なる仮定  
・願望表現
- 第 13 回 事実と異なる仮定表現 <表現練習>  
(2)  
・Ojalá～願望表現  
・もし～なら
- 第 14 回 習得確認&総括 習得確認  
第 10 回～13 回授業

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

- 予習 1. 各課の「文法」部分の復習。  
文法は既習事項なので、授業には復習して臨むこと。
- 予習 2. 各課の「語彙」部分。  
「語彙」部分は授業前に辞書で意味を確認しておくこと。  
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

『Entre amigos 2a. edición』(総合スペイン語コース 中級 改訂版)  
スペイン語教材研究会編、朝日出版社

**【参考書】**

『スペイン語の接続法ドリル』菅原昭江著、白水社

**【成績評価の方法と基準】**

平常点：30%（授業内活動・課題・小テスト）  
定期試験：70%（定期試験）

**【学生の意見等からの気づき】**

アンケート対象外の授業だったため、コメントはありません。

**【その他の重要事項】**

授業を理解するためには、教科書と辞書は必須です。  
忘れないように。

**【Outline and objectives】**

This course is intended to help students develop their Spanish communication skills by offering them opportunities to improve their Listening, Speaking and Reading skills. We will do listening and speaking activities. We will listen to dialogues, learn new vocabulary and phrases, practice grammar, and talk about many different topics in Spanish.

LANC100CA
中国語コミュニケーション IA
将邑 劍平
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

中国語初心者としてのコミュニケーションに必要な基本的な知識と実技を確実に身につける。  
中国語入門の発音難関を突破し、話したことが通じる喜びを体験。

**【到達目標】**

目標は中国語を完璧に発音できるようにすること。簡単な発話ができるようにすること。

現在広く利用されている中国語辞書はピンイン表記に従ってアルファベット順に文字、語彙が配列されているので、音節の綴りと発音の要領をしっかりと身につけることは、中国語の習得に欠かせない前提である。話したい内容が正確に伝えられるように、中国語の発音のスキルを常にチェックし、中国で定められたピンインと呼ばれるローマ字による音声表記に基づき、正しく発音することができるまで、発音の練習に多くの時間が割かれる。

文法、語彙については、教科書の配列に従って授業への予習として自ら予め学ぶことになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

中国語を伝えるようにするには、かなりの努力と集中力が必要である。予習・復習が非常に重要視される授業なので、予習・復習した語彙・文法のポイントなどを実際に応用できるように、常に繰り返し練習しておくこと。

毎回の授業は小テストや発表を行い、音読練習、会話練習、質問の受付、内容を暗記し小テストまたは発表の順で行う。

小テストや課題などのフィードバックは授業時間内で講評・解説する予定ですが、できない場合は「学習支援システム」を通して行う。

授業中も授業外も中国語をできるだけたくさん話してみよう。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の紹介
第 2 回	発音 第 1 課	声調・母音
第 3 回	発音 第 2 課	子音
第 4 回	発音 第 3 課	鼻母音
第 5 回	発音 第 4 課	音節変化・r 化など
第 6 回	第 5 課	日本到着ー成田空港
第 7 回	第 6 課	ホテルチェックイン
第 8 回	第 7 課	夜景が綺麗
第 9 回	第 8 課	電車で
第 10 回	第 9 課	化粧品売り場で
第 11 回	第 10 課	花火大会
第 12 回	自己紹介文作成	自己紹介文作成し練習
第 13 回	発表	自己紹介文練習・発表
第 14 回	発表	自己紹介文発表

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

語学学習に予習・復習は欠かせない。中国語を美しく発音できることを目標にして、予習・復習をして授業に参加する。

授業にのぞむにあたって、予め語彙の意味をおさえ、文法事項を出来るだけ調べておく。声をしっかり出して、新出語句をはじめ、例文や本文などを暗記するほど繰り返し読む。授業が終わった後は宿題をやりながら、学習した内容を復習し、更に実際に使ってみて、応用できるようにする。

準備学習・復習時間は、毎日それぞれ少なくとも20分ずつ行い、週に4時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

『ニーハオ！ ニッポンーふりむけば、中国語。』 相原茂 / 朱怡穎 著（朝日出版社）2,592円（本体2,400円+税）2018年

#### 【参考書】

日中辞典及び中日辞典（電子版も可）

相原茂・石田知子・戸沼市子著、『WHY?にこたえるはじめての中国語の文法書』、同学社

守屋宏則『やさしくくわしい中国語文法の基礎』東方書店

#### 【成績評価の方法と基準】

小テスト点及び発表点（欠席は一回5%マイナス）で評価する。100点満点で合計60点以上が合格。

授業の3分の1以上欠席の場合は評価不可とする。遅刻3回で欠席1回と計算され、大幅な遅刻は欠席とみなす。

履修登録する前に必ず確認してください

準備学習ができない方は評価対象外とするので、必ず準備学習ができることを確認してから履修してください。

\*重要！春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日以降に学習支援システムで提示する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

学生が中国語の発音の基本をしっかりマスターできるよう、発音重視の小テストや発表を引き続き毎回実施します。

#### 【その他の重要事項】

初めて中国語を学ぶ人を対象にする。必修中国語の他にもっと学びたい人も歓迎。

中国語既習者はご自身のレベルに合う授業を履修することを勧める。

・初回のガイダンスは必ず出席すること。（再履修の場合は特に）

・3分の2以上出席していない場合、期末試験の受験不可。

・遅刻した場合は授業終了時に申告にくること。授業中に指名されていても、遅刻したことを申告しないで帰った場合、欠席扱いになる場合がある。

・交通機関の遅延・忌引き・学校伝染病等のために欠席や遅刻をした場合は、遅延証明や学部指定の書類等を添付の上、日付・クラス・氏名・欠席（遅刻）理由を記して提出すること。欠席については事後の提出も可とするが、欠席後2週間以内に提出すること。

・手術、入院等による欠席の場合は、診断書等を遅くとも期末試験の前に提出すること。

・上記の理由や大学や学部が指定した事項以外による欠席はすべて「欠席」として扱う。

・授業中のトイレは原則として不可。授業前に済ませておくこと。

・無断退出や授業中の私語、携帯電話等の使用、その他授業に関係のない行為を行った場合や、30分以上の遅刻や授業途中の無断退出は欠席扱いとする。

・教科書や筆記用具を持ってこない場合、減点の対象とする。

・自分の出欠は自分で把握すること。一切回数質問には答えない。

#### 【Outline and objectives】

It is a class to surely acquire the basic knowledge and practical skills necessary for communication as a beginner in Chinese. Students can overcome Chinese pronunciation difficulties and experience the pleasure of being understood what they said.

LANC100CA
中国語コミュニケーション IB
将邑 劍平
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語初心者としてのコミュニケーションに必要な基本的な知識と実技を確実に身につける。

中国語入門の発音難関を突破し、話したことが通じる喜びを体験。

#### 【到達目標】

目標は中国語を完璧に発音できるようにすること。簡単な発話ができるようにすること。

現在広く利用されている中国語辞書はピンイン表記に従ってアルファベット順に文字、語彙が配列されているので、音節の綴りと発音の要領をしっかりと身につけることは、中国語の習得に欠かせない前提である。話したい内容が正確に伝えられるように、中国語の発音のスキルを常にチェックし、中国で定められたピンインと呼ばれるローマ字による音声表記に基づき、正しく発音することができるまで、発音の練習に多くの時間が割かれる。

文法、語彙については、教科書の配列に従って授業への予習として自ら予め学ぶことになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

中国語を使えるようにするには、かなりの努力と集中力が必要である。予習・復習が非常に重要視される授業なので、予習・復習した語彙・文法のポイントなどを実際に応用できるように、常に繰り返し練習しておくこと。

毎回の授業は小テストや発表を行い、音読練習、会話練習、質問の受付、内容を暗記し小テストまたは発表の順で行う。

小テストや課題などのフィードバックは授業時間内で講評・解説する予定ですが、できない場合は「学習支援システム」を通して行う。

授業中も授業外も中国語をできるだけたくさん話してみよう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方の紹介
第2回	第11課	日本の雑貨
第3回	第12課	おいしい和牛をどうぞ
第4回	第13課	日本の人気デザート
第5回	第14課	着物体験
第6回	第15課	温泉に入る
第7回	第16課	日帰りバスツアー
第8回	第17課	日本人と漫画
第9回	第18課	歌舞伎鑑賞
第10回	第19課	お土産を買う
第11回	第20課	別れ
第12回	寸劇作成	寸劇作成し練習
第13回	発表	寸劇練習・発表
第14回	発表	寸劇発表

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学学習に予習・復習は欠かせない。中国語を美しく発音できることを目標にして、予習・復習をして授業に参加する。

授業にのぞむにあたって、予め語彙の意味をおさえ、文法事項を出来るだけ調べておく。声をしっかり出して、新出語句をはじめ、例文や本文などを暗記するほど繰り返し読む。授業が終わった後は宿題をやりながら、学習した内容を復習し、更に実際に使ってみて、応用できるようにする。

準備学習・復習時間は、毎日それぞれ少なくとも20分ずつ行い、週に4時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

『ニーハオ！ ニッポンーふりむけば、中国語。』 相原茂/朱怡穎著（朝日出版社）2,592円（本体2,400円+税）2018年

#### 【参考書】

日中辞典及び中日辞典（電子版も可）

相原茂・石田知子・戸沼市子著、『WHY?にこたえるはじめての中国語の文法書』、同学社

守屋宏則『やさしくくわしい中国語文法の基礎』東方書店

#### 【成績評価の方法と基準】

小テスト点及び発表点（欠席は一回5%マイナス）で評価する。100点満点で合計60点以上が合格。

授業の3分の1以上欠席の場合は評価不可とする。遅刻3回で欠席1回と計算され、大幅な遅刻は欠席とみなす。

履修登録する前に必ず確認してください

準備学習ができない方は評価対象外とするので、必ず準備学習ができることを確認してから履修してください。

#### 【学生の意見等からの気づき】

秋学期から履修される学生は中国語の発音の基本をしっかりと復習しておくべきだが、自力でできない場合は発音の基本をもう一度最初から受講することを勧める。

#### 【その他の重要事項】

初めて中国語を学ぶ人を対象にする。必修中国語の他にもっと学びたい人も歓迎。

中国語既習者はご自身のレベルに合う授業を履修することを勧める。  
・初回のガイダンスは必ず出席すること。（再履修の場合は特に）

・3分の2以上出席していない場合、期末試験の受験不可。  
・遅刻した場合は授業終了時に申告にくること。授業中に指名されていても、遅刻したことを申告しないで帰った場合、欠席扱いになる場合がある。

・交通機関の遅延・忌引き・学校伝染病等のために欠席や遅刻をした場合は、遅延証明や学部指定の書類等を添付の上、日付・クラス・氏名・欠席（遅刻）理由を記して提出すること。欠席については事後の提出も可とするが、欠席後2週間以内に提出すること。

・手術、入院等による欠席の場合は、診断書等を遅くとも期末試験の前に提出すること。

・上記の理由や大学や学部が指定した事項以外による欠席はすべて「欠席」として扱う。

・授業中のトイレは原則として不可。授業前に済ませておくこと。  
・無断退出や授業中の私語、携帯電話等の使用、その他授業に関係のない行為を行った場合や、30分以上の遅刻や授業途中の無断退出は欠席扱いとする。

・教科書や筆記用具を持ってこない場合、減点の対象とする。  
・自分の出欠は自分で把握すること。一切回数質問には答えない。

#### 【Outline and objectives】

It is a class to surely acquire the basic knowledge and practical skills necessary for communication as a beginner in Chinese. Students can overcome Chinese pronunciation difficulties and experience the pleasure of being understood what they said.

LANC200CA
中国語コミュニケーション IIA
張 欣
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の授業を1年以上受けた人を対象とします（中国語コミュニケーション初級を履修していなくてもかまいません）。中国語コミュニケーション能力の向上を目指します。中国語が母国語の学生は履修できません。

#### 【到達目標】

中国語で簡単な日常会話ができるようになることと短い作文を書けるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

①教科書にそって、映像を見ながら会話文と読解文を学習します。②既に学んだ基本的な単語や表現を復習しながら、新しい表現を徐々に加え、繰り返し会話練習をします。③フィードバック方法:授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	第1課 大学校园 (1)	読解、会話
第2回	第1課 大学校园 (2)	読解、会話、練習
第3回	第2課 南京路步行街 (1)	読解、会話
第4回	第2課 南京路步行街 (2)	読解、会話、練習
第5回	第3課 晨练 (1)	読解、会話
第6回	第3課 晨练 (2)	読解、会話、練習
第7回	第4課 豫园 (1)	読解、会話
第8回	第4課 豫园 (2)	読解、会話、練習
第9回	第5課 国宝大熊猫 (1)	読解、会話
第10回	第5課 国宝大熊猫 (2)	読解、会話、練習
第11回	第6課 世界遺産九寨沟 (1)	読解、会話
第12回	第6課 世界遺産九寨沟 (2)	読解、会話、練習
第13回	看电影	中国映画鑑賞
第14回	試験・まとめ	授業内試験等

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①教科書の予習と復習をします。
- ②学習した表現をできるだけ覚えます。
- ③本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

洪潔清著『チャイニーズアドベンチャー DVDで学ぶ中国文化』金星堂、2012年、2700円

#### 【参考書】

『中日辞典』、『日中辞典』小学館

#### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加度50%、授業内試験50%。

#### 【学生の意見等からの気づき】

言葉が持つ文化的背景等についても折りに触れて説明します。

#### 【Outline and objectives】

Develop and extend mastery of Chinese communication.

LANC200CA
中国語コミュニケーション IIB
張 欣
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【Outline and objectives】

Develop and extend mastery of Chinese communication.

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の授業を1年以上受けた人を対象とします(中国語コミュニケーション初級を履修していなくてもかまいません)。中国語コミュニケーション能力の向上を目指します。中国語が母国語の学生は履修できません。

#### 【到達目標】

中国語で簡単な日常会話ができるようになることと短い作文を書けるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

①教科書にそって、映像を見ながら会話文と読解文を学習します。②既に学んだ基本的な単語や表現を復習しながら、新しい表現を徐々に加え、繰り返し会話練習をします。③フィードバック方法:授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	第7課 大学的社団活動(1)	読解、会話
第2回	第7課 大学的社団活動(2)	読解、会話、練習
第3回	第8課 故宫博物院(1)	読解、会話
第4回	第8課 故宫博物院(2)	読解、会話、練習
第5回	第9課 北京 798 艺术区(1)	読解、会話
第6回	第9課 北京 798 艺术区(2)	読解、会話、練習
第7回	第10課 秦始皇兵马俑(1)	読解、会話
第8回	第10課 秦始皇兵马俑(2)	読解、会話、練習
第9回	第11課 少数民族(1)	読解、会話
第10回	第11課 少数民族(2)	読解、会話、練習
第11回	第12課 丽江古城(1)	読解、会話
第12回	第12課 丽江古城(2)	読解、会話、練習
第13回	看电影	中国映画鑑賞
第14回	試験・まとめ	授業内試験等

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①教科書の予習と復習をします。  
②学習した表現をできるだけ覚ええます。③本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

洪潔清著『チャイニーズアドベンチャー DVDで学ぶ中国文化』金星堂、2012年、2700円

#### 【参考書】

『中日辞典』、『日中辞典』小学館

#### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加度 50%、授業内試験 50%

#### 【学生の意見等からの気づき】

言葉を持つ文化的背景等についても折りに触れて説明します。

NAS100CA
<b>総合講座 I</b>
藤田 貢崇、KALENGA N JOHN、富永 靖敬
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジャーナリズムは民主主義社会でもっとも重要な役割を担っている。授業担当者の専門分野におけるジャーナリズムの役割や関わりを取り上げ、ジャーナリズムが政治問題・アフリカの課題・科学技術の課題などで何をどのように報道しているかを知り、ジャーナリズムのあり方を学ぶ。また、現代社会は一方向に流れる情報だけではなく、社会のさまざまな構成要素の間で双方向的な情報の流れが重視されている。社会におけるコミュニケーションのあり方についても話題を提供する。

現代社会におけるジャーナリズムの存在意義や重要性を学び、健全な民主主義のあり方を考える。

## 【到達目標】

- ・社会でなぜジャーナリズムが存在するのかを理解し、ジャーナリズムがどうあるべきかを理解できる。
- ・市民がジャーナリズムとどのように関わるべきかを理解できる。
- ・社会でのコミュニケーションの必要性について理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

それぞれの回について、講義を主体に行う。グループ活動や発表を行う場合もある。講師によって、資料の与え方、参考図書の見し方が異なるので、それぞれの担当者の指示に従うこと。授業時のフィードバックは講師の担当中に回答することとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション (藤田)	(1) ジャーナリズムについて学ぶ 必要性を知る (2) 担当者別の授業スケジュールを提示する
2	メディアと政治 (富永)	(1) 世論とは何か (2) メディアの政治的影響
3	メディアと政治 (富永)	メディアが世論に与える影響についての諸理論
4	メディアの役割 (富永)	(1) 日米におけるメディアと政治の関わり方の対比：メディアの「公平性」 (2) 政治によるメディアへの介入
5	戦争とメディア (富永)	(1) 民主主義における観衆費用と結集効果 (2) メディアは戦争にどう関わってきたか
6	アフリカ開発会議:TICAD (カレンガ)	メディアのパワーについて考える
7	アフリカの資源問題 (カレンガ)	イメージを分析する
8	アフリカの社会と文化 (カレンガ)	コミュニケーションスキルについて学ぶ
9	教育とジェンダー問題 (カレンガ)	情報のコスト分析について学ぶ
10	科学技術と現代社会 (藤田)	科学技術が私たちの生活とどう関わっているかを理解する
11	科学技術とジャーナリズム (藤田)	科学技術にジャーナリズムが関係する理由と必要性について理解する

- |    |                   |                                               |
|----|-------------------|-----------------------------------------------|
| 12 | 科学技術コミュニケーショ (藤田) | 科学技術を誰もが理解するためにどのような施策や取り組みがあるのかを理解する         |
| 13 | 科学技術の向かう方向 (藤田)   | 科学技術はどのような方向に進むべきなのか、私たちの意見をどのように反映させるべきかを考える |
| 14 | まとめ (藤田)          | これまでの授業内容をまとめ、知識や理解の定着を図る                     |

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業で活用する資料などを事前に読むこと
  - ・授業内で示された課題に取り組むこと
  - ・日々、どのような話題がジャーナリズムで扱われているかを新聞などで確認することなどが必要となる。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

なし

## 【参考書】

それぞれの担当者から必要に応じて参考書等が示される。

## 【成績評価の方法と基準】

各授業担当者による小課題の提出… 50 %  
最終レポート（3名の担当者が作成する課題 3 題のうちから 1 題を選択）… 50 %  
の比率で評価を行い、60 %以上の得点率で単位を認定する。

## 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用するので、準備しておくこと。

## 【その他の重要事項】

- ・この授業は、富永 靖敬／カレンガ ゴイ ジョン／藤田 貢崇の3名がオムニバス形式で実施する。
- ・上記に示されている授業計画のうち、担当者の順番については初回のオリエンテーションで提示する。
- ・全体についての事務的質問は、藤田貢崇に問い合わせること。授業内容に関する質問は、それぞれの講師の指示を仰ぐこと。

## 【Outline and objectives】

The purpose of journalism is thus to provide citizens with the information people need to make the best possible decisions about their lives, communities, societies and governments.

In this class, students recognize the importance of journalism and learn what journalism is. Students develop an interest in journalism and communication by specific cases in the field of politics, African and science issues.

SOS100CA
<b>総合講座Ⅱ</b>
藤田 貢崇、山崎 友紀
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然現象を研究対象とする上で、実験や観察によって現象を具体化し、それらの普遍的な法則を明らかにすることは、極めて重要である。本授業では、化学や物理などの実験を通して、科学的なものの考え方や実験・観察の方法、それらのデータのまとめ方について学ぶ。

### 【到達目標】

・基礎的な実験を通じて自然法則を理解し、身の回りのさまざまな象について科学的に説明できること。  
・身近なことから現象を物理的また化学的に考察できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」「DP8」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本授業は、前半は広く自然科学を対象とした内容、後半は身近な化学を実験的に理解する内容で構成され、それぞれ藤田貢崇、山崎友紀が担当する。授業では前半は身の回りの材料を用いた実験を行い、その手順や結果・考察などをレポートにまとめることを行う。後半は実際に実験を行い、レポート（またはプレゼン）を作成する。

課題や質問等に対するフィードバックは、次の授業時に全体に対して回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 光に関する実験	授業の進め方、評価方法について説明する 光を主体にした実験を行い、光の特徴を理解する
2	身の回りの力学に関する実験	簡単な実験から、力のはたらきについて理解する。
3	熱に関する実験	簡単な実験から、熱の物理的な性質について理解する
4	食品に関する実験	食品に活用されている物理・化学的な性質・特性を理解する
5	電気に関する実験	簡単な実験からダイオードに関する法則を理解する
6	物性に関する実験	水蒸気の性質などの実験から、物性に関する法則を理解する
7	素粒子に関する実験	素粒子のふるまいについて理解する実験を行う
8	身近なものを科学する	5つ実施する実験テーマを計画する
9	テーマ1：衣	「衣」に関する実験（例：繊維、温度・熱、染色など）
10	テーマ2：食	「食」に関する実験（例：食品添加物、カロリー、塩分など）
11	テーマ3：住	「住」に関する実験（例：冷暖房、建築関係、放射線量など）
12	テーマ4：水	「水」に関する実験（例：状態変化、硬度、中和など）
13	テーマ5：大気	「大気」に関する実験（例：香り、大気汚染など）
14	成果発表	5つの実験について成果をレポートまたはプレゼンによって発表する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・前半（第7回まで：藤田担当回）では、毎回の授業で行なった実験に関するレポートを提出すること。自然法則を正しく理解しているか、現象を的確に説明しているかを評価する。

・後半（第8回以降：山崎担当回）では、5つの実験について事前に調査・予習をした上で実施する。実験の結果は後ほど報告できるようにまとめる。

・本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

### 【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

### 【成績評価の方法と基準】

・授業での平常点（毎回の小課題提出を含む）の評価（50%）：毎回、授業時間内で回答できる小課題を提出すること。

・実験への取り組みと成果発表の評価（50%）：実習形式での授業であり、欠席した回におこなった内容を含む課題レポートの評価はおこなわない。

### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

### 【学生が準備すべき機器他】

・前半・後半それぞれの初回に、担当教員より詳細を説明する。

### 【その他の重要事項】

・本科目は実験を行う授業であるため、実験機器の制約から受講人数を制限することがある。希望者が担当者の想定人数を上回った場合、抽選を実施するので、受講希望者は初回授業に研究・実験棟（12号館101教室）に集合すること。

・全体についての実務的質問は、藤田貢崇に問い合わせること。授業内容に関する質問は、それぞれの講師の指示を仰ぐこと。

### 【Outline and objectives】

Students learn research methods through observations, experiments in natural science and photographic skills. Students develop the ability to understand scientific methodology and logically evaluate the science phenomena through the eye of the science.

Students will learn the laws of nature through scientific experiments with objects close at hand.

ECN100CB
<b>経済学入門 A</b>
<b>菅原 琢磨</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高等学校で学ぶ「政治・経済」の内容から大学で学ぶ「経済学」への内容へのスムーズな橋渡しをおこない、今後、経済学を体系的に学ぶスタートポイントとして最低限必要な知識の習得と能力の涵養を目的とする。

#### 【到達目標】

「政治・経済」の知識を踏まえつつ「経済学」で取り扱う内容について、全体的かつ体系的な把握ができるようになること。

今後の「経済学」の学習過程において必要となる基礎的知識、技能を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

原則として対面（教室）で授業をおこなうが、個々の事情によってオンラインでの参加を認める場合がある。

学習支援システムを通じて、適宜、講義内容に関する指示が出されるので確認を怠らないこと。同様に、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	経済学とは？ どんな分野？
第 2 回	おかね	経済っておかねのこと？
第 3 回	市場	市場って何？
第 4 回	機会費用	授業をサボって家で寝ているのはタダ？
第 5 回	経済数学の準備	便利で役立つ「微分」の考え方、使い方
第 6 回	選好と効用	バナナとミカンがいくつか入ったかご、どれを取る？
第 7 回	予算制約	お財布の中身と相談。みんな買える範囲で買っている
第 8 回	最適消費計画	いちばん満足できるのは、どのかご？
第 9 回	需要曲線	価格が変わったらどうする？
第 10 回	企業の利潤	企業は何を目的に活動している？ 株式会社って何？
第 11 回	利潤最大化	何か作るには人手と機械と材料が必要。もうかる？
第 12 回	費用と供給曲線	生産量と費用の関係、価格が変わったら生産は増える？
第 13 回	需要と供給	売り手と買い手が出会って取引。生産量と価格の決まり方
第 14 回	まとめ	全体の復習

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修前に「政治・経済」の教科書・参考書を通読しておくことが望ましい。また計算が苦手な学生は、特に 1 次と 2 次の関数の計算とグラフ、1 次と 2 次の方程式、連立方程式、ベクトルの復習をしておくことが強く望まれる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

講義内では教員独自のスライドを利用するので、特に指定しない。

#### 【参考書】

必要な際には授業内で適宜、指示する。

#### 【成績評価の方法と基準】

評価は平常点（確認テストや教材の視聴状況等）40 %、学期末試験 60 % とする。

（同一名称の科目を 3 名の担当者で分担しているが、扱う内容は概ね統一されるよう事前合意がなされており、成績評価の際にも、各々の教員が成績評価の分布の状況を共有しあってクラス割り当てによる不利益がないように考慮がなされる。）

#### 【学生の意見等からの気づき】

昨年度、一部のスライドに誤植が認められた。この点は改善する。

#### 【その他の重要事項】

春学期開講の経済学入門 A では、主にミクロ経済学の基本事項を扱い、秋学期開講の経済学入門 B では、主にマクロ経済学の基本事項を扱う。両方を履修することで経済学の全体的な基本事項の鳥瞰が得られる。

#### 【Outline and objectives】

A smooth bridge to the content from high school to Economics learned at the university, and to acquire minimum necessary knowledge as a starting point to systematically study economics.

ECN100CB
<b>経済学入門 B</b>
<b>菅原 琢磨</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期開講の経済学入門 A と一連の内容である。高等学校で学ぶ「政治・経済」の内容から大学で学ぶ「経済学」への内容へのスムーズな橋渡しをおこない、今後、経済学を体系的に学ぶスタートポイントとして最低限必要な知識の習得と能力の涵養を目的とする。

#### 【到達目標】

「政治・経済」の知識を踏まえつつ「経済学」で取り扱う内容について、全体的かつ体系的な把握ができるようになること。

今後の「経済学」の学習過程において必要となる基礎的知識、技能を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

原則として対面（教室）で授業をおこなうが、個々の事情によってオンラインでの参加を認める場合がある。

学習支援システムを通じて、適宜、講義内容に関する指示が出されるので確認を怠らないこと。同様に、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

身近な題材を取り入れつつ通年で「経済学」の基礎の基礎から丁寧に解説する。これから始まる「経済学」の学びの第一歩として、入念な「準備運動」を行うつもりで積極的に受講してほしい。

なお、各回の講義内容については、適宜、変更が加えられることがある。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	マクロ経済学の問題意識
第 2 回	用語の定義①	三面等価はなぜ成り立つ？
第 3 回	用語の定義②	インフレ、デフレ、そして物価水準
第 4 回	理論的背景	マクロ経済学の成り立ちとケインズ革命
第 5 回	財市場の分析①	有効需要の原理ってどういう意味だろうか？
第 6 回	財市場の分析②	IS 曲線を理解する
第 7 回	貨幣市場の分析①	ひとはなぜ貨幣を必要とするのか
第 8 回	貨幣市場の分析②	LM 曲線を理解する
第 9 回	IS - LM 分析①	現代経済学の約束事：均衡分析
第 10 回	IS - LM 分析②	クラウディング・アウトを理解する
第 11 回	IS - LM 分析③	流動性のワナを理解する
第 12 回	AD - AS 分析①	IS - LM 曲線だけじゃなんでダメ？
第 13 回	AD - AS 分析②	トレード・オフはとっても便利な概念
第 14 回	まとめ	全体の復習

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修前に「政治・経済」の教科書・参考書を通読しておくことが望ましい。また計算が苦手な学生は、特に 1 次と 2 次の関数の計算とグラフ、1 次と 2 次の方程式、連立方程式、ベクトルの復習をしておくことが強く望まれる。授業中に出した練習問題は必ず家で復習をしながら解いて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

講義内では教員独自のスライドを利用するので、特に指定しない。

#### 【参考書】

必要な際には授業内で適宜、指示する。

#### 【成績評価の方法と基準】

評価は平常点（確認テストや教材の視聴状況等）40%、学期末試験 60%とする。

（同一名称の科目を 3 名の担当者で分担しているが、扱う内容は概ね統一されるよう事前合意がなされており、成績評価の際にも、各々の教員が成績評価の分布の状況を共有しあってクラス割り当てによる不利益がないように考慮がなされる。）

#### 【学生の意見等からの気づき】

一部スライドに誤植が見られた。この点は改善したい。

#### 【その他の重要事項】

春学期開講の経済学入門 A では、主にミクロ経済学の基本事項を扱い、秋学期開講の経済学入門 B では、主にマクロ経済学の基本事項を扱う。両方を履修することで経済学の全体的な基本事項の鳥瞰が得られる。

#### 【Outline and objectives】

It is a series of contents, Introduction of Economics A which is opened spring semester. A smooth bridge to the content from high school to Economics learned at the university, and to acquire minimum necessary knowledge as a starting point to systematically study economics.

ECN100CB
<b>経済学入門A</b>
<b>酒井 正</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高等学校で学ぶ「政治・経済」の内容から大学で学ぶ「経済学」への内容へのスムーズな橋渡しをおこない、今後、経済学を体系的に学ぶスタートポイントとして最低限必要な知識の習得と能力の涵養を目的とする。

#### 【到達目標】

「政治・経済」の知識を踏まえつつ「経済学」で取り扱う内容について、全体的かつ体系的な把握ができるようになること。今後の「経済学」の学習過程において必要となる基礎的知識、技能を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

身近な題材を取り入れつつ通年で「経済学」の基礎の基礎から丁寧に解説する。これから始まる「経済学」の学びの第一歩として、一念な「準備運動」を行うつもりで積極的に受講してほしい。

原則として対面（教室）で授業をおこなうが、個々の事情によってオンラインでの参加を認める場合がある。

小テストを学習支援システム（Hoppii）を通じておこない、その点数はシステムを通じてフィードバックする。また、正答率の低かった問題等については、適宜、授業内で確認する予定である。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	経済学とは？ どんな分野？
第2回	おかね	経済っておかねのこと？
第3回	市場	市場って何？
第4回	機会費用	授業をサボって家で寝ているのはタダ？
第5回	経済数学の準備	便利で役立つ「微分」の考え方、使い方
第6回	選好と効用	バナナとミカンがいくつか入ったかご、どれを取る？
第7回	予算制約	お財布の中身と相談。みんな買える範囲で買っている
第8回	最適消費計画	いちばん満足できるのは、どのかご？
第9回	需要曲線	価格が変わったらどうする？
第10回	企業の利潤	企業は何を目的に活動している？ 株式会社って何？
第11回	利潤最大化	何か作るには人手と機械と材料が必要。もうかる？
第12回	費用と供給曲線	生産量と費用の関係、価格が変わったら生産は増える？
第13回	需要と供給	売り手と買い手が出会って取引。生産量と価格の決まり方
第14回	まとめ	全体の復習

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修前に「政治・経済」の教科書・参考書を通読しておくことが望ましい。また計算が苦手な学生は、特に1次と2次の関数の計算とグラフ、1次と2次の方程式、連立方程式等の復習をしておくことが望まれる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

#### 【参考書】

必要な際には授業内で適宜、指示する。

#### 【成績評価の方法と基準】

成績は、平常点（小テスト等）：60%と期末テスト：40%で評価する。小テストと期末テストのいずれも、学習支援システム上でおこなう予定である。

#### 【学生の意見等からの気づき】

基本事項を丁寧に扱い、より分かりやすい講義を心掛けたい。

#### 【Outline and objectives】

This course provides a smooth bridge from the content learned at high school to Economics learned at university in order to acquire minimum necessary knowledge as a starting point of a systematic approach to economics. Especially, it provides a learning experience of Microeconomics.

ECN100CB
<b>経済学入門 B</b>
酒井 正
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期開講の経済学入門 A と一連の内容である。高等学校で学ぶ「政治・経済」の内容から大学で学ぶ「経済学」への内容へのスムーズな橋渡しをおこない、今後、経済学を体系的に学ぶスタートポイントとして最低限必要な知識の習得と能力の涵養を目的とする。

### 【到達目標】

「政治・経済」の知識を踏まえつつ「経済学」で取り扱う内容について、全体的かつ体系的な把握ができるようになること。今後の「経済学」の学習過程において必要となる基礎的知識、技能を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

### 【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式でおこなう。身近な題材を取り入れつつ通年で「経済学」の基礎の基礎から丁寧に解説する。これから始まる「経済学」の学びの第一歩として、入念な「準備運動」を行うつもりで積極的に受講してほしい。

原則として対面（教室）で授業をおこなうが、個々の事情によってオンラインでの参加を認める場合がある。

小テストを学習支援システム（Hoppii）を通じておこない、その点数はシステムを通じてフィードバックする。また、正答率の低かった問題等については、適宜、授業内で確認する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	マクロ経済学の問題意識
第 2 回	用語の定義①	三面等価はなぜ成り立つ？
第 3 回	用語の定義②	インフレ、デフレ、そして物価水準
第 4 回	理論的背景	マクロ経済学の成り立ちとケインズ革命
第 5 回	財市場の分析①	有効需要の原理ってどういう意味だろう？
第 6 回	財市場の分析②	IS 曲線を理解する
第 7 回	貨幣市場の分析①	ひとはなぜ貨幣を必要とするのか
第 8 回	貨幣市場の分析②	LM 曲線を理解する
第 9 回	IS - LM 分析①	現代経済学の約束事：均衡分析
第 10 回	IS - LM 分析②	クラウディング・アウトを理解する
第 11 回	IS - LM 分析③	流動性のワナを理解する
第 12 回	AD - AS 分析①	IS - LM 曲線だけじゃなんでダメ??
第 13 回	AD - AS 分析②	トレード・オフはとっても便利な概念
第 14 回	まとめ	全体の復習

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修前に「政治・経済」の教科書・参考書を通読しておくことが望ましい。また計算が苦手な学生は、特に 1 次と 2 次の関数の計算とグラフ、1 次と 2 次の方程式、連立方程式等の復習をしておくことが強く望まれる。授業中に出した練習問題は必ず家で復習をしながら解いて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

### 【参考書】

必要な際には授業内で適宜、指示する。

### 【成績評価の方法と基準】

成績は、平常点（小テスト等）：60%と期末テスト：40%で評価する。小テストと期末テストのいずれも、学習支援システム上でおこなう予定である。

### 【学生の意見等からの気づき】

基本事項を丁寧に扱い、より分かりやすい講義を心掛けたい。

### 【Outline and objectives】

This course provides a smooth bridge from the content learned at high school to Economics learned at university in order to acquire minimum necessary knowledge as a starting point of a systematic approach to economics. Especially, it provides a learning experience of Macroeconomics.

ECN100CB
<b>経済学入門 A</b>
<b>菊地 和也</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

高等学校で学ぶ「政治・経済」の内容から大学で学ぶ「経済学」への内容へのスムーズな橋渡しをおこない、今後、経済学を体系的に学ぶスタートポイントとして最低限必要な知識の習得と能力の涵養を目的とする。

**【到達目標】**

「政治・経済」の知識を踏まえつつ「経済学」で取り扱う内容について、全体的かつ体系的な把握ができるようになること。  
今後の「経済学」の学習過程において必要となる基礎的知識、技能を習得すること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

原則として教室で授業を行うが、個々の事情によってオンラインでの参加を認める場合がある。小テストに関する解説や講評は学習支援システムまたは授業内で行う予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	経済学とは？ どんな分野？
第 2 回	おかね	経済っておかねのこと？
第 3 回	市場	市場って何？
第 4 回	機会費用	授業をサボって家で寝ているのはタダ？
第 5 回	経済数学の準備	便利で役立つ「微分」の考え方、使い方
第 6 回	選好と効用	バナナとミカンがいくつか入ったかご、どれを取る？
第 7 回	予算制約	お財布の中身と相談。みんな買える範囲で買っている
第 8 回	最適消費計画	いちばん満足できるのは、どのかご？
第 9 回	需要曲線	価格が変わったらどうする？
第 10 回	企業の利潤	企業は何を目的に活動している？ 株式会社って何？
第 11 回	利潤最大化	何か作るには人手と機械と材料が必要。もうかる？
第 12 回	費用と供給曲線	生産量と費用の関係、価格が変わったら生産は増える？
第 13 回	需要と供給	売り手と買い手が会って取引。生産量と価格の決まり方
第 14 回	まとめ	全体の復習

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

履修前に「政治・経済」の教科書・参考書を通読しておくことが望ましい。また計算が苦手な学生は、特に 1 次と 2 次の関数の計算とグラフ、1 次と 2 次の方程式、連立方程式、ベクトルの復習をしておくことが強く望まれる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定しない。

**【参考書】**

必要な際には授業内で適宜、指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 40%、期末試験 60%とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

新規担当のため特になし。

**【Outline and objectives】**

A smooth bridge to the content from high school to Economics learned at the university, and to acquire minimum necessary knowledge as a starting point to systematically study economics.

ECN100CB
<b>経済学入門 B</b>
<b>菊地 和也</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

春学期開講の経済学入門 A と一連の内容である。高等学校で学ぶ「政治・経済」の内容から大学で学ぶ「経済学」への内容へのスムーズな橋渡しをおこない、今後、経済学を体系的に学ぶスタートポイントとして最低限必要な知識の習得と能力の涵養を目的とする。

**【到達目標】**

「政治・経済」の知識を踏まえつつ「経済学」で取り扱う内容について、全体的かつ体系的な把握ができるようになること。  
今後の「経済学」の学習過程において必要となる基礎的知識、技能を習得すること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

原則として教室で授業を行うが、個々の事情によってオンラインでの参加を認める場合がある。小テストに関する解説や講評は学習支援システムまたは授業内で行う予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	マクロ経済学の問題意識
第 2 回	用語の定義①	三面等価はなぜ成り立つ？
第 3 回	用語の定義②	インフレ、デフレ、そして物価水準
第 4 回	理論的背景	マクロ経済学の成り立ちとケインズ革命
第 5 回	財市場の分析①	有効需要の原理ってどういう意味だろうか？
第 6 回	財市場の分析②	IS 曲線を理解する
第 7 回	貨幣市場の分析①	ひとはなぜ貨幣を必要とするのか
第 8 回	貨幣市場の分析②	LM 曲線を理解する
第 9 回	IS - LM 分析①	現代経済学の約束事：均衡分析
第 10 回	IS - LM 分析②	クラウディング・アウトを理解する
第 11 回	IS - LM 分析③	流動性のワナを理解する
第 12 回	AD - AS 分析①	IS - LM 曲線だけじゃなんでダメ？
第 13 回	AD - AS 分析②	トレード・オフはとっても便利な概念
第 14 回	まとめ	全体の復習

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

履修前に「政治・経済」の教科書・参考書を通読しておくことが望ましい。また計算が苦手な学生は、特に 1 次と 2 次の関数の計算とグラフ、1 次と 2 次の方程式、連立方程式、ベクトルの復習をしておくことが強く望まれる。授業中に出了た練習問題は必ず家で復習をしながら解いて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定しない。

**【参考書】**

必要な際には授業内で適宜、指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 40%、期末試験 60%とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

新規担当のため特になし。

**【Outline and objectives】**

It is a series of contents, Introduction of Economics A which is opened spring semester. A smooth bridge to the content from high school to Economics learned at the university, and to acquire minimum necessary knowledge as a starting point to systematically study economics.

ECN100CA
<b>社会経済学基礎 A</b>
<b>大友 敏明</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が社会経済学基礎を学ぶことで資本主義とはどういう経済社会なのかを学ぶことができます。この授業はマルクス経済学の立場から経済学を考え、貨幣とは何か、資本とは何か、市場経済とは何かを考察します。資本主義の発展が一方では巨大な生産力の発展をもたらしながら、他方では経済的な格差、貧困や金融危機といった諸問題を引き起こす原因を考察します。

#### 【到達目標】

学生が経済現象を論理的に理解する能力を身につけることがこの授業の目標です。自由競争段階の資本主義を基礎とし、賃金と利潤との関係、資本の蓄積および信用制度などの基礎的な知識を体系的に学び、現代の資本主義を考察する社会経済学応用の基礎となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。現代ビジネス学科は「DP2」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

現在、世界で問題となっている時事問題を取り上げながら授業を進めます。授業には毎回レジュメを配布します。基礎的な用語は繰り返し説明し、時々質問をします。前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか質問を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	『資本論』と現代	『資本論』を現代において学ぶ意義について学びます。
第 2 回	労働価値論	価値とは何かを学びます。
第 3 回	労働の二重性	労働には二面性があることを学びます。
第 4 回	貨幣の本質	貨幣とは何かを学びます。
第 5 回	貨幣論 1 - 価値尺度機能と価格の度量標準	価値尺度機能とは何かを学びます。
第 6 回	貨幣論 2 - 流通手段機能	貨幣の流通手段機能とは何かを学びます。
第 7 回	貨幣論 3 - インフレーション	インフレーションの本質について学びます。
第 8 回	貨幣論 4 - 蓄蔵貨幣の機能	貨幣の蓄蔵貨幣の機能とは何かを学びます。
第 9 回	資本とは何か	労働力の商品化について学びます。
第 10 回	剰余価値の生産 1 - 絶対的剰余価値の生産	剰余がどうして生まれるのかを学びます。
第 11 回	剰余価値の生産 2 - 相対的剰余価値の生産と特別剰余価値の生産	剰余価値の生産の多様な形態を学びます。
第 12 回	資本蓄積論	資本の蓄積とは何かを学びます。
第 13 回	相対的過剰人口論	機械と失業との関係を学びます。
第 14 回	まとめ	春学期のまとめをします。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は毎回配布されるレジュメを復習し授業に臨み、授業中に示される演習問題に対応すること。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

#### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。毎回レジュメを配布します。

#### 【参考書】

大谷禎之介著『社会経済学』桜井書店、2001 年。

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の成績評価の方法と基準は、平常点（授業内小テスト 2 回、50 %）および期末試験（50 %）の合計で行います。

#### 【学生の意見等からの気づき】

よりわかりやすい授業を目指します。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

#### 【その他の重要事項】

特になし。

#### 【Outline and objectives】

The Elementary Political Economy intends to analyze the formation and structure of the capitalism from the viewpoint of Marx's economics. This class will talk about what money is, what the capital is, and what the capitalism is. Based on such basic considerations, this class will then examine as to why the capitalism has caused the distress and crisis and has widened the gap between the rich and the poor, though it has brought about the huge productivity.

This class in the spring semester focuses on the formation of the capitalism. It will argue the history of economic thought such as mercantilism, classical economics and Marx's economics. It will give you a general understanding about the nature of the capitalism. This class will plainly explain basic terms on political economy for beginners.

ECN100CA
<b>社会経済学基礎 B</b>
<b>大友 敏明</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

学生が社会経済学基礎を学ぶことで資本主義とはどういう経済社会なのかを学ぶことができます。この授業はマルクス経済学の立場から経済学を考え、貨幣とは何か、資本とは何か、市場経済とは何かを考察します。資本主義の発展が一方では巨大な生産力の発展をもたらしながら、他方では経済的な格差、貧困や金融危機といった諸問題を引き起こす原因を考察します。

**【到達目標】**

学生が経済現象を論理的に理解する能力を身につけることがこの授業の目標です。自由競争段階の資本主義を基礎とし、賃金と利潤との関係、資本の蓄積および信用制度などの基礎的な知識を体系的に学び、現代の資本主義を考察する社会経済学応用の基礎となります。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。現代ビジネス学科は「DP2」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

現在、世界で問題となっている時事問題を取り上げながら授業を進めます。授業には毎回レジュメを配布します。基礎的な用語は繰り返して説明し、時々質問をします。前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか質問を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	資本主義とは何か	現代の資本主義の諸問題を取り上げ、理論と現実を考察します。
第 2 回	再生産とは何かーアダム・スミスの再生産論	再生産ということを学びます。
第 3 回	単純再生産論 1	生産が社会的に行われる場合の条件を学びます。
第 4 回	単純再生産論 2	生産が社会的に行われる場合の条件を深く考察します。
第 5 回	拡大再生産論 1	経済が拡大しているもとの均衡条件を学びます。
第 6 回	拡大再生産論 2	経済が拡大しているもとの均衡条件を深く学びます。
第 7 回	信用の必然性	資本主義社会において信用が必然的に必要とされる理由について学びます。
第 8 回	商業信用	資本家同士が相互に与え合う信用について学びます。
第 9 回	銀行信用 1	銀行とは何かについて学びます。
第 10 回	銀行信用 2	手形の割引や銀行券について学びます。
第 11 回	銀行信用 3	銀行が信用創造機関であることを学びます。
第 12 回	信用制度と中央銀行	中央銀行の役割について学びます。
第 13 回	金本位制	金本位制の特質について学びます。
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめをします。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

学生は毎回配布されるレジュメを復習し授業に臨み、授業中に示される演習問題に対応すること。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは使用しない。毎回レジュメを配布します。

**【参考書】**

大谷禎之介著『社会経済学』桜井書店、2001 年。

**【成績評価の方法と基準】**

秋学期の成績評価の方法と基準は授業内小テスト 2 回（50 %）と期末試験（50 %）の合計で行います。

**【学生の意見等からの気づき】**

よりわかりやすい授業を目指します。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

特になし。

**【Outline and objectives】**

The Elementary Political Economy intends to analyze the formation and structure of the capitalism from the viewpoint of Marx's economics. This class will talk about what money is, what the capital is, and what the capitalism is. Based on such basic considerations, this class will then examine as to why the capitalism has caused the distress and crisis and has widened the gap between the rich and the poor, though it has brought about the huge productivity.

The class in the fall semester analyzes the structure of the capitalism. It will attempt to consider about the wage theory, the theory of accumulation and reproduction, and the credit system. Therefore, you will be able to learn an insight into the development and contradiction which are immanent in the capitalism.

This class will plainly explain basic terms on political economy for beginners.

ECN100CA
<b>社会経済学基礎 A</b>
大友 敏明
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が社会経済学基礎を学ぶことで資本主義とはどういう経済社会なのかを学ぶことができます。この授業はマルクス経済学の立場から経済学を考え、貨幣とは何か、資本とは何か、市場経済とは何かを考察します。資本主義の発展が一方では巨大な生産力の発展をもたらしながら、他方では経済的な格差、貧困や金融危機といった諸問題を引き起こす原因を考察します。

#### 【到達目標】

学生が経済現象を論理的に理解する能力を身につけることがこの授業の目標です。自由競争段階の資本主義を基礎とし、賃金と利潤との関係、資本の蓄積および信用制度などの基礎的な知識を体系的に学び、現代の資本主義を考察する社会経済学応用の基礎となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。現代ビジネス学科は「DP2」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

現在、世界で問題となっている時事問題を取り上げながら授業を進めます。授業には毎回レジュメを配布します。基礎的な用語は繰り返し説明し、時々質問をします。前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか質問を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	『資本論』と現代	『資本論』を現代において学ぶ意義について学びます。
第 2 回	労働価値論	価値とは何かを学びます。
第 3 回	労働の二重性	労働には二面性があることを学びます。
第 4 回	貨幣の本質	貨幣とは何かを学びます。
第 5 回	貨幣論 1 - 価値尺度機能と価格の度量標準	価値尺度機能とは何かを学びます。
第 6 回	貨幣論 2 - 流通手段機能	貨幣の流通手段機能とは何かを学びます。
第 7 回	貨幣論 3 - インフレーション	インフレーションの本質について学びます。
第 8 回	貨幣論 4 - 蓄蔵貨幣の機能	貨幣の蓄蔵貨幣の機能とは何かを学びます。
第 9 回	資本とは何か	労働力の商品化について学びます。
第 10 回	剰余価値の生産 1 - 絶対的剰余価値の生産	剰余がどうして生まれるのかを学びます。
第 11 回	剰余価値の生産 2 - 相対的剰余価値の生産と特別剰余価値の生産	剰余価値の生産の多様な形態を学びます。
第 12 回	資本蓄積論	資本の蓄積とは何かを学びます。
第 13 回	相対的過剰人口論	機械と失業との関係を学びます。
第 14 回	まとめ	春学期のまとめをします。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は毎回配布されるレジュメを復習し授業に臨み、授業中に示される演習問題に対応すること。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

#### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。毎回レジュメを配布します。

#### 【参考書】

大谷慎之介著『社会経済学』桜井書店、2001 年。

#### 【成績評価の方法と基準】

春学期の成績評価の方法と基準は平常点（授業内小テスト 2 回、50 %）および期末試験（50 %）の合計で行います。

#### 【学生の意見等からの気づき】

よりわかりやすい授業を目指します。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

#### 【その他の重要事項】

特になし。

#### 【Outline and objectives】

The Elementary Political Economy intends to analyze the formation and structure of the capitalism from the viewpoint of Marx's economics. This class will talk about what money is, what the capital is, and what the capitalism is. Based on such basic considerations, this class will then examine as to why the capitalism has caused the distress and crisis and has widened the gap between the rich and the poor, though it has brought about the huge productivity.

This class in the spring semester focuses on the formation of the capitalism. It will argue the history of economic thought such as mercantilism, classical economics and Marx's economics. It will give you a general understanding about the nature of the capitalism.

This class will plainly explain basic terms on political economy for beginners.

ECN100CA
<b>社会経済学基礎 B</b>
<b>大友 敏明</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

学生が社会経済学基礎を学ぶことで資本主義とはどういう経済社会なのかを学ぶことができます。この授業はマルクス経済学の立場から経済学を考え、貨幣とは何か、資本とは何か、市場経済とは何かを考察します。資本主義の発展が一方では巨大な生産力の発展をもたらしながら、他方では経済的な格差、貧困や金融危機といった諸問題を引き起こす原因を考察します。

**【到達目標】**

学生が経済現象を論理的に理解する能力を身につけることがこの授業の目標です。自由競争段階の資本主義を基礎とし、賃金と利潤との関係、資本の蓄積および信用制度などの基礎的な知識を体系的に学び、現代の資本主義を考察する社会経済学応用の基礎となります。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。現代ビジネス学科は「DP2」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

現在、世界で問題となっている時事問題を取り上げながら授業を進めます。授業には毎回レジュメを配布します。基礎的な用語は繰り返して説明し、時々質問をします。前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか質問を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	『資本論』と現代	『資本論』を現代において学ぶ意義について考察します。
第 2 回	再生産とは何かーアダム・スミスの再生産論	再生産ということを学びます。
第 3 回	単純再生産論 1	生産が社会的に行われる場合の条件を学びます。
第 4 回	単純再生産論 2	生産が社会的に行われる場合の条件を深く考察します。
第 5 回	拡大再生産論 1	経済が拡大しているもとの均衡条件を学びます。
第 6 回	拡大再生産論 2	経済が拡大しているもとの均衡条件を深く学びます。
第 7 回	信用の必然性	資本主義社会において信用が必然的に必要とされる理由について学びます。
第 8 回	商業信用	資本家同士が相互に与え合う信用について学びます。
第 9 回	銀行信用 1	銀行とは何かについて学びます。
第 10 回	銀行信用 2	手形の割引や銀行券について学びます。
第 11 回	銀行信用 3	銀行が信用創造機関であることを学びます。
第 12 回	信用制度と中央銀行	中央銀行の役割について学びます。
第 13 回	金本位制	金本位制の特質について学びます。
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめをします。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

学生は毎回配布されるレジュメを復習し授業に臨み、授業中に示される演習問題に対応すること。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは使用しない。毎回レジュメを配布します。

**【参考書】**

大谷禎之介著『社会経済学』桜井書店、2001 年。

**【成績評価の方法と基準】**

秋学期の成績評価の方法と基準は授業内小テスト 2 回（50 %）と期末試験（50 %）の合計で行います。

**【学生の意見等からの気づき】**

よりわかりやすい授業を目指します。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

特になし。

**【Outline and objectives】**

The Elementary Political Economy intends to analyze the formation and structure of the capitalism from the viewpoint of Marx's economics. This class will talk about what money is, what the capital is, and what the capitalism is. Based on such basic considerations, this class will then examine as to why the capitalism has caused the distress and crisis and has widened the gap between the rich and the poor, though it has brought about the huge productivity.

The class in the fall semester analyzes the structure of the capitalism. It will attempt to consider about the wage theory, the theory of accumulation and reproduction, and the credit system. Therefore, you will be able to learn an insight into the development and contradiction which are immanent in the capitalism.

This class will plainly explain basic terms on political economy for beginners.

ECN100CA
<b>社会経済学基礎 A</b>
<b>原 伸子</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、現代経済を歴史的・理論的に考察することによって「なぜ経済学の基礎理論が必要なのか」について考える。経済学はたんなるお金のための学問ではないし、また理論のための理論ではない。それは現実を批判的に分析し、深く思考するための理論である。社会経済学はマルクス経済学にもとづきながら、A では資本主義が発生した歴史的条件、基本的性格そして基礎概念について学ぶ。さらに B では、資本主義の再生産という観点から資本主義が自らを維持し、再生産するためのメカニズムについて学ぶ。

### 【到達目標】

1. 資本主義経済の基本的仕組みを歴史的・理論的に理解すること。
2. 社会経済学応用をはじめ、その他の専門諸科目で学ぶ現代資本主義の諸問題の解明に必要な基礎理論を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。現代ビジネス学科は「DP2」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

毎回、資料を用いて講義しますが、適宜、DVD などを用いて現実の諸問題をわかりやすく説明します。また皆さんからの積極的な質問を歓迎します。

・2021 年度においても、コロナ禍の状況に対応して、オンラインの講義形式を組み合わせる可能性があります。講義形式については、学習支援システムで指示します。

・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】

#### 秋学期

回	テーマ	内容
第 1 回	本年度の講義の進め方 社会経済学の対象と課題	オリエンテーション
第 2 回	社会経済学の対象と課題 (1)	理論と現実との関係について考える
第 3 回	市場経済 (1) 市場とは何か	資本主義の資源配分システムとしての市場
第 4 回	市場経済 (2) 商品形態	商品の物神性とな何か
第 5 回	市場経済 (3) 貨幣	貨幣の成立過程と諸機能、金本位制度と管理通貨制度
第 6 回	資本と生産 (1) 資本主義的生産と賃労働	労働力商品と賃労働
第 7 回	資本と生産 (2) 機械制大工業の成立と発展、生産力発展の方法	イギリス産業革命と技術的発展
第 8 回	資本と生産 (3) 産業革命と労働	イギリス産業革命と労働者・家族・子ども
第 9 回	雇用と蓄積 (1) 失業と人口法則	失業発生メカニズムと

第 10 回 雇用と蓄積 (2) 相対 失業をめぐる諸理論  
的過剰人口と産業予備軍

第 11 回 雇用と蓄積 (3) 現代 労働の規制緩和と非正規労働  
の労働市場

第 12 回 雇用と蓄積 (4) 資本 生産と消費の関係、消費の意義  
の生産と家族

第 13 回 雇用と蓄積 (5) 資本 家族における労働力の再生産と家  
の生産と家族 (続き) 事労働論争

第 14 回 春学期のまとめ 春学期の内容整理と補足

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

基本的に毎回、資料を配布します。参考文献は適宜指示します。

### 【参考書】

・増田壽男・沢田幸治編『現代経済と経済学〔新版〕』有斐閣、2007 年。

・大谷禎之介著『図解社会経済学』桜井書店、2001 年。

・原伸子『ジェンダーの政治経済学—福祉国家・市場・家族』有斐閣、2016 年。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 20%、中間試験 30%、学期末試験 50% で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

DVD やその他の教材を活用しながら、変化をもたせた魅力的な授業にしたいと思っています。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【Outline and objectives】

The aim of this lecture is to study the basic principles of the political economy. I hope that the students would be able to acquire an ability to think about our society in which we live, historically and theoretically.

ECN100CA
<b>社会経済学基礎B</b>
<b>原 伸子</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義ではこれから経済学を学ぶ皆さんとともに、現代経済を理論的・歴史的に考察することによって「なぜ経済学の基礎理論が必要なのか」について考える。経済学はたんなるお金儲けの学問とか、理論のための理論ではない。それは、現実を批判的に分析し、深く思考するための理論である。社会経済学はマルクス経済学にもとづきながら、基礎Aは、資本主義が発生した歴史的条件、基本的性格そして基礎概念について学ぶ。さらに基礎Bでは、資本主義の再生産という観点から資本主義が自らを維持し、再生産するためのメカニズムについて学ぶ

**【到達目標】**

1. 資本主義経済の基本的仕組みを歴史的・理論的に理解すること。
2. 社会経済学応用をはじめ、その他の専門諸科目で学ぶ現代資本主義経済の諸問題の解明に必要な基礎理論を習得すること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。現代ビジネス学科は「DP2」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

毎回、資料を用いて講義しますが、適宜、DVDなどを用いて現実の諸問題をわかりやすく説明します。また皆さんからの積極的な質問を歓迎します。

・2021年度においても、コロナ禍の状況に対応して、オンラインの講義形式を組み合わせる可能性があります。講義形式については、学習支援システムで指示します。

・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	春学期の復習	秋学期の学習内容についての概観
第2回	資本の循環と回転(1)	三循環と運輸・商業資本
第3回	資本の循環と回転(2)	回転と利潤率、減価償却の問題
第4回	再生産と産業循環(1)	18世紀末フランス経済のケネーの経済表
第5回	再生産と産業循環(2)	マルクスの再生産表式、単純再生産と拡大再生産
第6回	再生産と産業循環(3)	再生産論の総括
		レオンチェフ産業連関表とケインズ国民所得論
第7回	競争と市場経済(1)	競争とは何か 資本の競争、平均利潤率と生産価格、市場価格
第8回	競争と市場経済(2)	競争の動的仮定 利潤率の傾向的低下法則
第9回	競争と市場経済(3)	利潤率と産業循環との関係 競争と資本の動態理論
第10回	信用制度の成立(1)	銀行とは何か 利子生み資本
第11回	信用制度の成立(2)	銀行の成立過程 商業信用と銀行信用

第12回 信用制度の成立(3) 中央銀行、最後の貸し手  
管理通貨制度と中央銀行

第13回 資本主義と農業(1) 農業の特殊性  
差額地代と絶対地代

第14回 資本主義と農業(2) 農業問題、環境問題  
農産物価格問題、持続可能な農業

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

基本的に毎回、資料を配布します。参考文献は適宜指示します。

**【参考書】**

- ・増田壽男・沢田幸治編『現代経済と経済学〔新版〕』有斐閣、2007年。
- ・大谷禎之介『図解社会経済学』桜井書店、2001年。
- ・原伸子『ジェンダーの政治経済学—福祉国家・市場・家族』有斐閣、2016年。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点20%、中間試験30%、学期末試験50%で評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

DVDやその他の教材を活用しながら、変化をもたせた魅力的な授業にしたいと思っています。

**【Outline and objectives】**

The aim of this lecture is to study the basic principles of political economy. I hope that the students would be able to acquire an ability to think about the society in which we live, historically and theoretically.

ECN100CA
<b>社会経済学基礎 A</b>
<b>原 伸子</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、これから経済学を学ぶ皆さんとともに、現代経済を歴史的・理論的に考察することによって「なぜ経済学の基礎理論が必要なのか」について考える。経済学はたんなるお金のためだけの学問ではないし、また理論のための理論ではない。それは現実を批判的に分析し、深く思考するための理論である。社会経済学はマルクス経済学にもとづきながら、A では資本主義が発生した歴史的条件、基本的性格そして基礎概念について学ぶ。さらに B では、資本主義の再生産という観点から資本主義が自らを維持し、再生産するためのメカニズムについて学ぶ。

### 【到達目標】

1. 資本主義経済の基本的仕組みを歴史的・理論的に理解すること。
2. 社会経済学応用をはじめ、その他の専門諸科目で学ぶ現代資本主義の諸問題の解明に必要な基礎理論を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。現代ビジネス学科は「DP2」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

毎回、資料を用いて講義しますが、適宜、DVD などを用いて現実の諸問題をわかりやすく説明します。また皆さんからの積極的な質問を歓迎します。

・2021 年度においても、コロナ禍の状況に対応して、オンラインの講義形式を組み合わせる可能性があります。講義形式については、学習支援システムで指示します。

・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	本年度の講義の進め方 社会経済学の対象と 課題	オリエンテーション
第 2 回	社会経済学の対象と 課題 (1)	理論と現実との関係について考える
第 3 回	市場経済 (1) 市場とは何か	資本主義の資源配分システムとしての市場
第 4 回	市場経済 (2) 商品形態	商品の物神性とな何か
第 5 回	市場経済 (3) 貨幣	貨幣の成立過程と諸機能、金本位制度と管理通貨制度
第 6 回	資本と生産 (1) 資本主義的生産と賃労働	労働力商品と賃労働
第 7 回	資本と生産 (2) 機械制大工業の成立と発展、生産力発展の方法	イギリス産業革命と技術的発展
第 8 回	資本と生産 (3) 産業革命と労働	イギリス産業革命と労働者・家族・子ども
第 9 回	雇用と蓄積 (1) 失業と人口法則	失業発生メカニズムと

第 10 回 雇用と蓄積 (2) 相対 失業をめぐる諸理論  
的過剰人口と産業予備軍

第 11 回 雇用と蓄積 (3) 現代 労働の規制緩和と非正規労働  
の労働市場

第 12 回 雇用と蓄積 (4) 資本 生産と消費の関係、消費の意義  
の生産と家族

第 13 回 雇用と蓄積 (5) 資本 家族における労働力の再生産と家  
の生産と家族 (続き) 事労働論争

第 14 回 春学期のまとめ 春学期の内容整理と補足

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

基本的に毎回、資料を配布します。参考文献は適宜指示します。

### 【参考書】

・増田壽男・沢田幸治編『現代経済と経済学〔新版〕』有斐閣、2007 年。

・大谷禎之介著『図解社会経済学』桜井書店、2001 年。

・原伸子『ジェンダーの政治経済学—福祉国家・市場・家族』有斐閣、2016 年。

### 【成績評価の方法と基準】

平常点 20%、中間試験 30%、学期末試験 50% で評価します。

### 【学生の意見等からの気づき】

DVD やその他の教材を活用しながら、変化をもたせた魅力的な授業にしたいと思っています。

### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

### 【Outline and objectives】

The aim of this lecture is to study the basic principles of the political economy. I hope that the students would be able to acquire an ability to think about our society in which we live, historically and theoretically.

ECN100CA
<b>社会経済学基礎B</b>
<b>原 伸子</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義ではこれから経済学を学ぶ皆さんとともに、現代経済を理論的・歴史的に考察することによって「なぜ経済学の基礎理論が必要なのか」について考える。経済学はたんなるお金儲けの学問とか、理論のための理論ではない。それは、現実を批判的に分析し、深く思考するための理論である。社会経済学はマルクス経済学にもとづきながら、基礎Aは、資本主義が発生した歴史的条件、基本的性格そして基礎概念について学ぶ。さらに基礎Bでは、資本主義の再生産という観点から資本主義が自らを維持し、再生産するためのメカニズムについて学ぶ

**【到達目標】**

1. 資本主義経済の基本的仕組みを歴史的・理論的に理解すること。
2. 社会経済学応用をはじめ、その他の専門諸科目で学ぶ現代資本主義経済の諸問題の解明に必要な基礎理論を習得すること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。現代ビジネス学科は「DP2」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

毎回、資料を用いて講義しますが、適宜、DVDなどを用いて現実の諸問題をわかりやすく説明します。また皆さんからの積極的な質問を歓迎します。

・2021年度においても、コロナ禍の状況に対応して、オンラインの講義形式を組み合わせる可能性があります。講義形式については、学習支援システムで指示します。

・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	春学期の復習	秋学期の学習内容についての概観
第2回	資本の循環と回転(1)	三循環と運輸・商業資本
第3回	資本の循環と回転(2)	回転と利潤率、減価償却の問題
第4回	再生産と産業循環(1)	18世紀末フランス経済のケネーの経済表
第5回	再生産と産業循環(2)	マルクスの再生産表式、単純再生産と拡大再生産
第6回	再生産と産業循環(3)	再生産論の総括
		レオンチェフ産業連関表とケインズ国民所得論
第7回	競争と市場経済(1)	競争とは何か 資本の競争、平均利潤率と生産価格、市場価格
第8回	競争と市場経済(2)	競争の動的仮定 利潤率の傾向的低下法則
第9回	競争と市場経済(3)	利潤率と産業循環との関係 競争と資本の動態理論
第10回	信用制度の成立(1)	銀行とは何か 利子生み資本
第11回	信用制度の成立(2)	銀行の成立過程 商業信用と銀行信用

第12回 信用制度の成立(3) 中央銀行、最後の貸し手  
管理通貨制度と中央銀行

第13回 資本主義と農業(1) 農業の特殊性  
差額地代と絶対地代

第14回 資本主義と農業(2) 農業問題、環境問題  
農産物価格問題、持続可能な農業

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

基本的に毎回、資料を配布します。参考文献は適宜指示します。

**【参考書】**

- ・増田壽男・沢田幸治編『現代経済と経済学〔新版〕』有斐閣、2007年。
- ・大谷禎之介『図解社会経済学』桜井書店、2001年。
- ・原伸子『ジェンダーの政治経済学—福祉国家・市場・家族』有斐閣、2016年。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点20%、中間試験30%、学期末試験50%で評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

DVDやその他の教材を活用しながら、変化をもたせた魅力的な授業にしたいと思っています。

**【Outline and objectives】**

The aim of this lecture is to study the basic principles of political economy. I hope that the students would be able to acquire an ability to think about the society in which we live, historically and theoretically.

ECN100CA
<b>現代経済学基礎 A</b>
<b>檜野 智子</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では入門レベルのミクロ経済学を学びます。ミクロ経済学とは、家計や企業がどのように意思決定を行い、それらがどのように関わりあっているかを研究する学問であり、経済学の様々な分野の基礎となっています。この授業の目的は、経済的相互依存関係がもたらす恩恵や、需要と供給の作用、公共政策の効果、市場の失敗を理解することです。

#### 【到達目標】

- ・経済的相互依存関係がもたらす恩恵を理解する。
- ・市場における需要と供給の作用を理解する。
- ・公共政策の効果を理解する。
- ・市場の効率性や課税の費用を理解する。
- ・市場の失敗とその解決策を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

- ・オンデマンド型のオンライン授業を行います。講義資料は学習支援システムで配布します。
- ・課題等のフィードバックは、学習支援システムを使って行います。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	経済学の十大原理	経済学の中心となる考え方
2	相互依存と交易の利益	絶対優位、比較優位
3	需要と供給（1）	競争市場、需要曲線
4	需要と供給（2）	供給曲線、市場均衡
5	弾力性（1）	需要の価格弾力性、需要の所得弾力性
6	弾力性（2）	供給の価格弾力性、供給の所得弾力性
7	政府の政策	価格規制、課税の効果
8	市場の効率性	消費者余剰、生産者余剰
9	課税の費用	課税の死荷重、死荷重と税収
10	国際貿易（1）	貿易の決定要因、貿易の利益と損失
11	国際貿易（2）	関税、貿易政策
12	外部性（1）	外部性と市場の非効率性、負の外部性
13	外部性（2）	正の外部性、外部性に対する公共政策
14	さまざまな種類の財	公共財、共有資源

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・講義前に教科書を読み、講義後しっかり復習してください。
- ・予習時間 1 時間、復習時間 3 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

「マンキュー経済学 I ミクロ編 第 4 版」N・グレゴリー・マンキュー著、東洋経済新報社、2019 年  
(電子書籍あり <https://bit.ly/315Zbfg>)

#### 【参考書】

なし

#### 【成績評価の方法と基準】

小テスト 100 %

- ・小テストとは、学習支援システムを使用した Web テストです。複数回実施する小テストにより評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛けます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

講義資料の配布、Web テスト、授業連絡等に学習支援システムを使用するため、最低限スマートフォンが必要です。(パソコンは必須ではありません)

#### 【その他の重要事項】

秋学期の「現代経済学基礎 B」は、春学期の「現代経済学基礎 A」の内容を前提とした講義になります。

#### 【Outline and objectives】

This lecture deals with the basics of microeconomics. Microeconomics is the study of individuals, households and firms' behavior in decision making and allocation of resources. It generally applies to markets of goods and services and deals with individual and economic issues.

ECN100CA
<b>現代経済学基礎 B</b>
<b>檜野 智子</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では入門レベルのミクロ経済学を学びます。ミクロ経済学とは、家計や企業がどのように意思決定を行い、それらがどのように関わりあっているかを研究する学問であり、経済学の様々な分野の基礎となっています。この授業の目的は、企業の意思決定や、企業が市場にもたらす非効率性、労働市場、家計の意思決定、情報の非対称性を理解することです。

#### 【到達目標】

- ・競争市場における企業の意思決定を理解する。
- ・市場支配力を持つ企業の意思決定を理解する。
- ・市場支配力を持つ企業が市場にもたらす非効率性を理解する。
- ・労働市場の特徴を理解する。
- ・家計の意思決定を理解する。
- ・情報の非対称性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

- ・オンデマンド型のオンライン授業を行います。講義資料は学習支援システムで配布します。
- ・課題等のフィードバックは、学習支援システムを使って行います。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	生産の費用	生産と費用、費用の尺度、短期と長期の費用
2	競争市場（1）	競争市場、企業の利潤最大化、競争企業の供給曲線
3	競争市場（2）	操業停止の決定、埋没費用、市場への退出・参入
4	独占（1）	独占企業の生産および価格の決定、独占企業の利潤最大化
5	独占（2）	独占の死荷重、価格差別、独占に対する公共政策
6	独占的競争	短期・長期における独占的競争企業、広告
7	寡占（1）	複占、寡占、ゲーム理論
8	寡占（2）	寡占に対する公共政策
9	消費者選択の理論（1）	予算制約線、選好、無差別曲線
10	消費者選択の理論（2）	消費者の最適選択、所得効果と代替効果
11	生産要素市場（1）	企業の労働需要、労働の供給
12	生産要素市場（2）	労働市場の均衡、他の生産要素（土地、資本）
13	ミクロ経済学のフロンティア（1）	モラルハザード、逆選択、シグナリング、スクリーニング
14	ミクロ経済学のフロンティア（2）	コンドルセのパラドックス、アローの可能性定理、中位投票者定理、

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・春学期の「現代経済学基礎 A」の内容を前提とした講義を行います。履修していない場合は、授業開始前に教科書の 1～10 章を自習しておいてください。
- ・講義前に教科書を読み、講義後しっかり復習してください。
- ・予習時間 1 時間、復習時間 3 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

「マンキュー経済学 I ミクロ編 第 4 版」N・グレゴリー・マンキュー著、東洋経済新報社、2019 年  
(電子書籍あり <https://bit.ly/315Zbfg>)

#### 【参考書】

なし

#### 【成績評価の方法と基準】

小テスト 100 %

- ・小テストとは、学習支援システムを使用した Web テストです。複数回実施する小テストにより評価します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛けます。

**【学生が準備すべき機器他】**

講義資料の配布、Web テスト、授業連絡等に学習支援システムを使用するため、最低限スマートフォンが必要です。(パソコンは必須ではありません)

**【その他の重要事項】**

「現代経済学基礎B」は、春学期の「現代経済学基礎A」の内容を前提とした講義になります。

**【Outline and objectives】**

This lecture deals with the basics of microeconomics. Microeconomics is the study of individuals, households and firms' behavior in decision making and allocation of resources. It generally applies to markets of goods and services and deals with individual and economic issues.

ECN100CA <b>現代経済学基礎A</b>
<b>平瀬 友樹</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ミクロ経済学は家計や企業といった個々の主体の意思決定に注目しながら経済の仕組みを説明しようとする学問である。この授業では、市場における企業間の競争を主な題材としてミクロ経済学の基礎を学ぶ。具体的には、経済主体の間で生じる戦略的関係を扱うゲーム理論の初歩を習得し、その応用として様々な市場構造の下での企業行動を分析する。より広範な経済問題についてミクロ経済学的な分析を行うための基礎知識を身につけることが、この授業の目的である。

**【到達目標】**

1. 均衡、効率性、不完全競争といった基礎概念を正しく使うことができる。
2. 理論モデルを用いて企業間競争を記述し分析できる。
3. 市場構造に応じた均衡の特性を説明できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

動画配信および課題の掲示・提出など連絡は全て学習支援システムを通じて行うものとする。具体的には、教科書または配布資料の解説および問題演習という形で進める。また、毎週課題提出を義務づける。ただし、課題については、手書き（apple pencil などアプリは不可）等厳密な条件を課すので、講義内の指示に従うこと。なお、課題に対するフィードバックが必要な場合には支援システムの登録アドレスへ直接送るので、PC からのメールを受け取れるように準備しておくこと。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方に関するガイダンス。
2	戦略ゲームとクールノー競争	プレイヤーたちが同時に行動を決定する戦略ゲームと、その一例であるクールノー競争。
3	ナッシュ均衡	戦略ゲームにおけるナッシュ均衡の概念と導出方法。
4	クールノー競争の均衡	クールノー競争におけるナッシュ均衡の導出方法。
5	独占市場	一企業が生産を独占する市場に関する均衡分析。
6	パレート効率性	パレート効率性の概念とクールノー競争への応用。
7	ここまでの復習	ここまでの授業内容に関する問題演習を行う。
8	展開形ゲームとシュタツケルベルク競争	プレイヤーたちが一定の順番で行動を決定する展開形ゲームと、その一例であるシュタツケルベルク競争。
9	シュタツケルベルク競争の均衡	シュタツケルベルク競争の均衡の導出。
10	価格受容的な企業行動	価格支配力を持たない企業の供給行動。
11	完全競争市場	需要曲線、供給曲線、完全競争市場での均衡。
12	市場構造の比較	市場構造に応じた均衡の性質を比較する。
13	ここまでの復習	ここまでの授業内容に関する問題演習。
14	まとめ	さらなる理解のために。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

上記の授業計画を参考にしてテキスト、資料を読み、課題を解くこと。なお、準備時間と復習時間は、それぞれ、2 時間とする。

**【テキスト（教科書）】**

岡田章（2014）『ゲーム理論・入門 - 人間社会の理解のために』（新版）有斐閣

**【参考書】**

梶井厚志・松井彰彦（2000）『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社

**【成績評価の方法と基準】**

対面での定期試験が可能であれば試験 100 %（ただし課題提出率が 50 % 未満の学生は採点対象外とする）、実施不可能であれば毎週の課題 100 % で評価とする。個人的事情は一切考慮せず、救済策なども行わないので注意すること。

**【学生の意見等からの気づき】**

新規担当のため特になし。

**【学生が準備すべき機器他】**

遠隔授業への参加に必要なネット環境、デバイス。

**【その他の重要事項】**

難易度として、「経済学入門 A」「英語で学ぶ経済学入門 A・B」と「ミクロ経済学 A・B」の中間程度を目指す。

**【Outline and objectives】**

This course introduces microeconomics, focusing on firms' behavior under various market structures. It covers elements of game theory and applications to several models of market competition. The objective of this course is to provide students with the basic knowledge needed to study further topics in microeconomics.

ECN100CA
<b>現代経済学基礎 B</b>
平瀬 友樹
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

マクロ経済学は、GDP や物価といった経済全体の集計量がどのように決定されるかを解明しようとする学問である。この授業では、長期的な経済成長に焦点を当てながらマクロ経済学の基礎を学ぶ。一期間内の経済活動を説明するマクロ経済モデルを導入したうえで、資本蓄積を通じた時間発展を説明する経済成長モデルへと拡張する。より広範な経済問題についてマクロ経済学的な分析を行うための基礎知識を身につけることが、この授業の目的である。

**【到達目標】**

1. GDP、物価指数、実質値、成長率といった基礎概念を正しく使うことができる。
2. 生産関数を用いて一国の経済活動を記述し分析することができる。
3. 経済成長モデルを用いて経済の時間発展と定常状態を記述し分析することができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

動画配信および課題の掲示・提出など連絡は全て学習支援システムを通じて行うものとする。具体的には、教科書または配布資料の解説および問題演習という形で進める。また、毎週課題提出を義務づける。ただし、課題については、手書き（apple pencil などアプリは不可）等厳密な条件を課すので、講義内の指示に従うこと。なお、課題に対するフィードバックが必要な場合には支援システムの登録アドレスへ直接送るので、PC からのメールを受け取れるように準備しておくこと。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	導入	オリエンテーション。この授業で考えていく主な問題。
2	GDP	GDP の概念と計測方法について学ぶ。
3	物価指数と実質値	物価指数と名目変数の実質化について学ぶ。
4	数学準備	成長率、指数、対数などの解説。
5	経済成長の概観	各国の経済成長に関する事実を概観する。
6	生産関数	生産技術を表すために必要となるコブ・ダグラス型生産関数について理解する。
7	利潤最大化	利潤最大化を目指す企業がどのように生産水準を決定するかを理解する。
8	一般均衡	資本市場、労働市場、生産物市場の一般均衡について学ぶ。
9	比較分析	モデルの結果とデータを比較し、経済発展会計という手法に基づく分析を行う。
10	ソローの経済成長モデル・初級編	ソローの経済成長モデルの枠組みを理解する。
11	ソローの経済成長モデル・中級編	モデルを使って経済の時間発展を捉える。
12	ソローの経済成長モデル・上級編	主要な内生変数が一定の水準にとどまり続ける定常状態に関する分析を行う。
13	ソローの経済成長モデル・基礎分析	投資率、資本減耗率といった外生変数の変化が経済に与える影響を分析する。
14	まとめ	後期で学んだことの復習と今後に向けて

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

教科書の該当範囲を読むこと、演習問題を解くことが事前・事後学習となる。なお、準備時間と復習時間は、それぞれ、2 時間とする。

**【テキスト（教科書）】**

チャールズ I. ジョーンズ（2011）『マクロ経済学 I 長期成長編』（宮川努ほか訳）東洋経済新報社

**【参考書】**

二神孝一（2009）『マクロ経済学入門』（第 2 版）日本評論社

**【成績評価の方法と基準】**

対面での定期試験が可能であれば試験 100 %（ただし課題提出率が 50 %未満の学生は採点対象外とする）、実施不可能であれば毎週の課題 100 %で評価とする。個人的事情は一切考慮せず、救済策なども行わないので注意すること。

**【学生の意見等からの気づき】**

新規担当のため特になし。

**【学生が準備すべき機器他】**

Zoom による遠隔授業への参加に必要なネット環境、デバイス。

**【その他の重要事項】**

難易度として、「経済学入門 B」と「マクロ経済学 A・B」の中間程度を目指す。

**【Outline and objectives】**

This course introduces macroeconomics, focusing on economic growth in the long run. It first introduces a macroeconomic model that describes the aggregate economic activity in one period, and then extends it to a growth model in which capital is accumulated over time. The objective of the course is to provide students with the basic knowledge needed to study further topics in macroeconomics.

ECN100CA
<b>経済史 A</b>
<b>牧野 文夫</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「近代経済成長」を主題に、なぜある国は豊かで、他の国は貧しいのか、比較経済史の視点で講義する。講義は基本的に 1 年生を前提にするので、高校で学習した世界史、日本史との連続性を重視し、日本経済史、世界経済史、企業経営史、開発経済学などの専門科目への橋渡しをする。秋学期の経済史 B も続けて受講することが望ましい。

**【到達目標】**

- 1) 市場経済がどのように発展していったかを理解する。
- 2) またそれには様々な類型があったことを理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

オンデマンド形式のオンライン講義とする。学年暦に応じ毎週各スライドにナレーションを挿入したパワーポイント・資料を、学習支援システム（HOPPII）の教材フォルダーにアップロードしておくので、それをダウンロードし、受講生が適切な環境で学習してもらう。授業内容に関し質問等がある場合は、学習支援システムの「掲示板」内のスレッド「授業への質問コーナー」に投稿か、授業期間中に 2 回のオフィスアワーの時間を設けるので、Zoom あるいは Webex を使って質問を受け付ける。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	近代経済成長とその成果	講義全体の視点、枠組みについて
2	グローバリゼーションと世界経済 1	20～21 世紀をまたぐ世界経済：リーマンショックとその後について
3	グローバリゼーションと世界経済 2	1980～90 年代の世界経済：レーガノミクスと日本のバブル経済について
4	1960～70 年代の世界経済	ケインズ政策とオイルショックについて
5	大恐慌から第二次世界大戦へ	第 1 次世界大戦から第 2 次世界大戦の間の世界経済
6	社会主義経済の成立と崩壊	ソ連型社会主義経済の成立、発展、崩壊について
7	小括 1	第 1 回から第 6 回目までの講義に関する質疑応答
8	第二次産業革命	19 世紀末から 20 世紀初めにかけての欧米経済の発展について
9	自動車産業の発展	自動車産業の発展とその世界経済に対する意義について
10	東アジアと western impact	19 世紀後半から 20 世紀前半にかけてのアジアと欧米の経済関係について
11	イギリスの産業革命 1	産業革命の前提、前近代のエネルギー問題について
12	イギリスの産業革命 2	綿工業、鉄工業など諸産業の発展
13	イギリスの産業革命 3	産業革命の帰結、社会変化について
14	小括 2	第 8 回から第 13 回目までの講義に関する質疑応答

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

高校で日本史あるいは世界史を履修していなかった受講生は、教科書あるいは概説で事前に確認しておくこと。授業で使用する資料を事前にダウンロードし、各回の授業の流れを理解しておくこと本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定しないが、毎回パワーポイントで作成した資料を授業支援システムにアップロードするのでそれをダウンロードしておくこと。

**【参考書】**

- ①猪木武徳『戦後世界経済史』中公新書。
  - ②飯田隆『図説西洋経済史』日本経済評論社。
  - ③深尾京司・他編『日本経済の歴史（全 6 巻）』岩波書店。
  - ④速水融等編『日本経済史（全 8 巻）』岩波書店。
  - ⑤谷沢弘毅『近現代日本の経済発展（上下）』八千代出版。
  - ⑥ T. ピケティ『21 世紀の資本』みすず書房。
- その他適宜授業の中で指摘する。

**【成績評価の方法と基準】**

複数回のレポートを課し、それによって評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

日本と外国のバランスに配慮します。  
グラフがモノクロ表示で見づらいとの指摘があり、カラー使用を増やします。

**【Outline and objectives】**

Understanding modern economic growth

ECN100CA

**経済史 B**

牧野 文夫

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「近代経済成長」を主題に、なぜある国は豊かで、他の国は貧しいのか、比較経済史の視点で講義する。講義は基本的に 1 年生を前提にするので、高校で学習した世界史、日本史との連続性を重視し、日本経済史、世界経済史、企業経営史、開発経済学などの専門科目への橋渡しをする。経済史 A を受講しておくことが望ましい。

**【到達目標】**

- 1) 市場経済がどのように発展していったかを理解する。
- 2) またそれには様々な類型があったことを理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

オンデマンド形式のオンライン講義とする。学年暦に応じ毎週各スライドにナレーションを挿入したパワーポイント・資料を、学習支援システム（HOPPII）の教材フォルダーにアップロードしておくので、それをダウンロードし、受講生が適切な環境で学習してもらう。授業内容に関し質問等がある場合は、学習支援システムの「掲示板」内のスレッド「授業への質問コーナー」に投稿か、授業期間中に 2 回のオフィスアワーの時間を設けるので、Zoom あるいは Webex を使って質問を受け付ける。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	16-17 世紀のオランダ経済	中継貿易基地としてのオランダ経済の発展とその制度的革新
2	大航海時代（16-17 世紀）の経済のグローバル化 1	モンゴル帝国、黒死病、スペインとポルトガルによる「新大陸発見」について
3	大航海時代（16-17 世紀）の経済のグローバル化 2	価格革命と商業革命についてヨーロッパとアジア、大西洋三角貿易について
4	近世以前の日本の市場経済	江戸期以前の貨幣の発展からみた日本における市場経済の発展について
5	徳川時代の貨幣と市場経済	江戸期の通貨と物価変動（貨幣改鑄からみた江戸期の経済）
6	徳川時代の人口とマクロ経済	歴史人口学の研究成果からみた徳川時代の人口と経済
7	小括 1	第 1 回から 6 回までの講義に関する質疑応答
8	江戸後期の前近代的経済成長と維新期の制度改革 1	19 世紀以降の前近代的経済成長と開国
9	江戸後期の前近代的経済成長と維新期の制度改革 2	明治維新期の制度改革について
10	日本における工業化のスタート（1900 年代）	1880 年代後半から 20 世紀初頭にかけての工業化の実態について
11	1910-20 年代の日本経済	第 1 次世界大戦期のバブル経済について
12	金融恐慌と井上・高橋財政	第一次世界大戦後のバブル崩壊と金解禁論争について

- 13 戦時統制経済 1930年代後半から40年代前半の日本経済（戦後日本型経済システムの源流）について
- 14 小括 2 第8回から13回までの質疑応答

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

高校で日本史あるいは世界史を履修していなかった受講生は、教科書あるいは概説等で事前に確認しておくこと。授業で使用する資料を事前にダウンロードし、各回の授業の流れを理解しておくこと本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、毎回パワーポイントで作成した資料を授業支援システムにアップロードするのでそれをダウンロードしておくこと。

## 【参考書】

- ①猪木武徳『戦後世界経済史』中公新書。
  - ②飯田隆『図説西洋経済史』日本経済評論社。
  - ③深尾京司・他編『日本経済の歴史（全6巻）』岩波書店。
  - ④速水融等編『日本経済史（全8巻）』岩波書店。
  - ⑤谷沢弘毅『近現代日本の経済発展（上下）』八千代出版。
  - ⑥T. ビケティ『21世紀の資本』みすず書房。
- その他適宜授業の中で指摘する。

## 【成績評価の方法と基準】

複数回のレポートを課し、それによって評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

日本と外国のバランスに配慮する。  
グラフ表記がモノクロで見にくいとのコメントがあり、カラー表示を増やします。

## 【Outline and objectives】

Understanding modern economic growth

ECN100CA
<b>経済史 A</b>
長原 豊
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業概要：近代とその土台である資本主義の形成過程を「史実」と「論理（あるいは理論）」という2つの視点から整理する。  
授業目的と意義：現代という観点から歴史を俯瞰的かつアクチュアルに捉え、他者に説明できるようになることを目的とする。

## 【到達目標】

- 到達目標は以下の2点である。
- (1)「歴史的近代」が「資本主義的近代」へと具体化していく過程を「資本」形成の視点から大掴みにできるようにすること。
  - (2)またそのさい、「史実」とその「理論-論理」的理解を説明できるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

## 【授業の進め方と方法】

- (1) 教員が作成した図表および資料等の「基本データ」（教員だけが加工可能）および講義の基本的行程を示した「基本ノート」（受講者も加工可能）を講義の進捗に合わせて「学習支援システム」の「教材」欄から順次配置し（講義の前日に更新される）、それをZoomの「画面共有」で教員と受講生の共通の議論の「素材」として使用する、リアルタイム講義を行う。
- (2) 「基本データ」は教員だけが加工可能（色つけ・ハイライトなどによる視覚化）であり、「基本ノート」は受講生が自分のノートとして加工利用できる。
- (3) 教員が講義中に書き込みした「基本データ」および「基本ノート」は、講義終了後に「学習支援システム」にアップロードされ、受講生はそれを自分が書き込んだ「ノート」と統合して、蓄積することができる。
- (4) 教員による書き込みがなされた「基本資料」および「基本ノート」は、学期間中「学習支援システム」に残され、受講生はいつでも繰り返しアクセスできる。
- (5) 講義の最後に10分ほどの「ディスカッション・タイム」を設けるだけでなく、受講生には、「学習支援システム」を通じてリアクション・ペーパーの提出を求め、有益なコメントについては、次回の講義冒頭で紹介的に受講生全体にフィードバックする。
- (6) 最終授業では、(5)で蓄積されたさまざまな論点を講評的に紹介し、学期末試験として出題される「課題=レポート」作成のための一助とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	「経済」史とは何か	いわゆる歴史学と経済史との関係を「経済」概念に重点を置いて概説する。
第2回	経済「史」とは何か	経済史はどのように経済理論と関係しているかを概説する。 資料「概念図」(1)と「ノート」(1)を配布。 ※ 以下配布される資料はすべて受講生も書き込み可能な資料です。

- 第3回 「経済史」が描き出す「対象」とは何か？ 経済史の「対象」としての「資本」の成り立ちを「経済理論」的に概説する。資料「概念図」(1)を講義中に受講生の目の前で「改訂し」、第4回講義へ接続させる。
- 第4回 「資本-主義」的システムが歴史的にどのように形成されてきたかを俯瞰する——時間編——。 第3回講義で「改訂」された資料「概念図」(1)を教員がさらに整理した資料「概念図」(2)を用いて、「資本-主義」的システムの歴史的形成の出発点を「大航海時代」として提示する。
- 第5回 「資本-主義」的システムが歴史的にどのように形成されてきたかを俯瞰する——空間編——。 大航海時代における「中心」と「周辺」の変遷過程を具体的に論ずる。資料「概念図」(2)を講義中に受講生の目の前で「改訂し」、第6回講義へ接続させる。
- 第6回 ポルトガルとスペインという2つの「帝国」の大航海時代における展開とその展開方法の相違を論ずる。 これまでの講義を踏まえて、視点としての「流通」と「生産」の歴史的かつ経済的な「相違」を「ノート」(1)を用いて概説する。
- 第7回 第6回講義を受けて「世界」という概念を「世界市場」という視点から考える。 前回配布した「資料」(3)に加えて、数種類の「世界地図」を地勢的に比較しながら、「世界」という概念が「世界市場」という概念として広がることを確認する。
- 第8回 第7回における「世界市場」という視点から「流通」と「生産」の相違を「オランダ」において論ずる。 オランダはなぜイングランドになれなかったのか？「ノート」(2)を配布する。
- 第9回 第8回講義を受けて、資本主義の形成という視点から見た「オランダ」の先進性と限界を論ずる。 ふたたび資本とは何かを「商人資本」と「産業資本」との「異同」として確認する。資料「概念図」(2)をさらに受講生とともに改訂し、受講生とともに資料「概念図」(3)を講義中に改訂する。
- 第10回 第9回講義を確認された「オランダ」の先進性と限界を「市民革命」との関係で論ずる。 いわゆる「イングランド」とは？本当に「典型」だったのか？
- 第11回 第10回講義で論じられた経済史的意味における「市民革命」を「技術革新」を視野に入れて整理する。 ノート(3)を配布し、このノートに受講生とともに農業革命・産業革命などの技術における変革を整理する。
- 第12回 第11回講義の続き。 同上、続き。最低限の「史実」を中心に講義を進める。
- 第13回 大航海時代からイングランドにおけるいわゆる「産業資本」の形成を遡行的に整理し、春学期の講義の「総括」を行う。 資料「概念図」(3)を総括的に完成させ、資本-主義の形成過程を図式的に理解する。
- 第14回 なぜ資本主義は「変化」するのか？ 資料「概念図」(3)を総括的に完成させ、資本-主義の形成過程を図式的に理解する。また前回配布した「資本の原型 Final」とレポート作成のための「手引き」を配布し、春学期を振り返る。またこれまでのレアクション・ペーパーの総括的講評を行う。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

著書のタイトルに「歴史」という文字が入っている書籍を少なくとも1冊は読みとおし、経済史へのそれぞれのイメージを作る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

#### 【注意事項】

さきに【授業の進め方と方法】Method(s)で示した方法で講義が進められることから、講義のなかで受講生とのインタラクションも含めて、学期末での課題提出のための「資料集的なガイドブック」を作成するという形態をとっている。

#### 【参考書】

■ 金井雄一・中西聡・福澤直樹編『世界経済の歴史：グローバル経済史入門』名古屋大学出版会、初版第3刷（2014年、2,800円＋税）

#### 【成績評価の方法と基準】

学期末試験（記述式の課題＝レポート）によって成績評価する（100%）。

#### 【学生の意見等からの気づき】

講義冒頭で前回講義の単なるサマリーを行うだけでなく、理解深度が浅いと感じられた場合は、重複的に講義を反復する必要があることに気づかされた。

#### 【学生が準備すべき機器他】

##### 【重要】

例えば、MSWord・PowerPoint・Excelなどのような機能をマウントしたPCが必須です。

#### 【専門分野】

日本経済史・経済理論

#### 【研究テーマ】

経済史・経済史方法論・経済理論

#### 【主要業績】

『天皇制国家と農民』日本経済評論社、1989年  
『われら瑕疵ある者たち』青土社、2008年  
『ヤサグレたちの街頭』航思社、2015年  
『敗北と憶想』航思社、2019年

#### 【Outline and objectives】

(1): Our class aims at understanding the modernity so-called and the formation processes of Capitalism associated with it in terms of the two viewpoints: "the historical facts" and "the theories (or logics).

(2) Based on (1), our class is to guide students to actually grasp the economic histories and then become to be able to explain to others what is learned in the class.

ECN100CA
<b>経済史 B</b>
<b>長原 豊</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

授業概要：近代とその土台である資本主義の形成過程を「史実」と「論理（あるいは理論）」という2つの視点から整理する。

授業目的と意義：現代という観点から歴史を俯瞰的かつアクチュアルに捉え、他者に説明できるようになることを目的とする。

**【到達目標】**

到達目標は以下の2点である。

(1)「歴史的近代」が「資本主義的近代」へと具体化していく過程を「資本」形成の視点から大掴みにできるようにする。

(2)またそのさい、「史実」とその「理論-論理」的理解を説明できるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

(1) 教員が作成した図表および資料等の「基本データ」（教員だけが加工可能）および講義の基本的行程を示した「基本ノート」（受講者も加工可能）を講義の進捗に合わせて「学習支援システム」の「教材」欄から順次配置し（講義の前日に更新される）、それを Zoom の「画面共有」で教員と受講生の共通の議論の「素材」として使用する、リアルタイム講義を行う。

(2) 「基本データ」は教員だけが加工可能（色つけ・ハイライトなどによる視覚化）であり、「基本ノート」は受講生が自分のノートとして加工利用できる。

(3) 教員が講義中に書き込みした「基本データ」および「基本ノート」は、講義終了後に「学習支援システム」にアップロードされ、受講生はそれを自分が書き込んだ「ノート」と統合して、蓄積することができる。

(4) 教員による書き込みがなされた「基本資料」および「基本ノート」は、学期中「学習支援システム」に残され、受講生はいつでも繰り返しアクセスできる。

(5) 講義の最後に10分ほどの「ディスカッション・タイム」を設けるだけでなく、受講生には、「学習支援システム」を通じてリアクション・ペーパーの提出を求め、有益なコメントについては、次の講義冒頭で紹介的に受講生全体にフィードバックする。

(6) 最終授業では、(5)で蓄積されたさまざまな論点を講評的に紹介し、学期末試験として出題される「課題＝レポート」作成のための一助とする。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	自由主義世界の経済史的構造 (1)	「1820年代以降」の世界の構造を整理する。資料「俯瞰図」と「講義の要」を配布する。 ※ 以下配布される資料はすべて受講生も書き込み可能な資料です。
2	1825年恐慌の「経済的」意義	産業資本のイングランドにおける自律的運動の意味を整理する。資料「産業資本と『自己』」を配布する。

3	いわゆる「平和の百年」をパクス・ブリタニカという視点から把握する。	イングランドにおける1840年代政治過程の意味を第2回講義との対比で考える。
4	恐慌の反復 (1)	恐慌の反復と産業資本の「変質」との関係を整理解する。資料「恐慌1」と「恐慌2」を配布する。
5	恐慌の反復 (2)	第4回講義の続き。史実と統計数値を軸にして。
6	19世紀における「成長と衰退」と「貿易構造」(1)	イングランドを基軸国としたシステムにおける基軸通貨の意味を考える。資料「決済システム」と「国際金本位制」を配布する。
7	19世紀における「成長と衰退」と「貿易構造」(2)	第6回講義の続き。統計を視点にして。
8	「19世紀」の生産構造	恐慌を繰り返すなかでの生産構造の変化を恐慌史論的に俯瞰する。
9	〈長い19世紀〉と「平和の百年」(1)	19世紀を資本の世紀と考えるための18世紀末と20世紀初頭:資料「長い19世紀」の配布
10	〈長い19世紀〉と「平和の百年」(2)	第9回講義の続き。とくに国民経済の「個性」に関わって。先発と後発との対比。
11	国民経済の個性と国民国家	なぜ資本主義に「国名」がつくのか？
12	〈長い19世紀〉と「平和の百年」という時期区分のズレ	国家と資本との緊張と政治あるいは支配的資本の変遷
13	第1次世界大戦の経済的意味	短い20世紀と介入主義的国家的「普遍性」
14	経済史Bの総括と質問日	レポート作成のための「手引き」（通称「単位への道」）を配布し、秋学期を振り返る。またこれまでのレアクション・ペーパーの総括的講評を行う。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業中に指示するテキストの該当箇所や参考文献を読み、理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用しない。

**【注意事項】**

さきに【授業の進め方と方法】Method(s)で示した方法で講義が進められることから、講義のなかで受講生とのインタラクションも含めて、学期末での課題提出のための「資料集的なガイドブック」を作成するという形態をとっている。

**【参考書】**

金井雄一・中西聡・福澤直樹編『世界経済の歴史：グローバル経済史入門』名古屋大学出版会、初版第3刷、2014年、2800円＋税

**【成績評価の方法と基準】**

学期末試験（記述式の課題＝レポート）によって成績評価する（100%）。

**【学生の意見等からの気づき】**

講義冒頭で前回講義の単なるサマリーを行うだけでなく、理解深度が浅いと感じられた場合は、重複的に講義を反復する必要があることに気づかされた。

**【学生が準備すべき機器他】****【重要】**

例えば、MSWord・PowerPoint・Excelのような機能をマウントしたPCが必須です。

**【専門分野】**

日本経済史・経済理論

**【研究テーマ】**

経済史・経済史方法論・経済理論

**【主要業績】**

『天皇制国家と農民』日本経済評論社、1989年  
『われら瑕疵ある者たち』青土社、2008年  
『ヤサグレたちの街頭』航思社、2015年

## 【Outline and objectives】

(1): Our class aims at understanding the modernity so-called and the formation processes of Capitalism associated with it in terms of the two viewpoints: "the historical facts" and "the theories (or logics).

(2) Based on (1), our class is to guide students to actually grasp the economic histories and then become to be able to explain to others what is learned in the class.

ECN100CA
<b>統計学 A</b>
<b>菅 幹雄</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済統計、記述統計について講義を行います。

## 【到達目標】

経済・社会に関する統計制度を理解した上で、記述統計の基本的なテクニックを学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP7」に関連。

## 【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いた講義形式であり、Zoom を用いて実施する。講義はテキストに沿って行う。第1～8回は授業は経済・社会に関する統計制度を学ぶ。第1回になぜ経済学部で統計学を学ぶのかを確認した上で、第2～4回は産業ベースの統計、第5～7回は世帯ベースの統計について学ぶが、それぞれセンサス、標本調査、加工統計・指数という構成になっている。そして第8回にはそれらを総合したマクロ統計である国民経済計算を学ぶ。第9～13回は度数分布とヒストグラム、平均、分散と標準偏差、相関係数、回帰分析など記述統計の基本的なテクニックを学ぶ。そして第14回に記述統計から推測統計（統計学 B）への橋渡しを行う。毎回、学習支援システムでテストを実施する。テスト提出メ切り後、正解を提示し、テスト結果について講評を行うことでフィードバックする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、経済統計（1）	経済学部でなぜ統計を学ぶのか、経済統計の流れ
2	経済統計（2）	経済センサス
3	経済統計（3）	工業統計調査、経済構造実態調査
4	経済統計（4）	産業連関表
5	経済統計（5）	国勢調査
6	経済統計（6）	家計調査
7	経済統計（7）	消費者物価指数
8	経済統計（8）	国民経済計算
9	記述統計（1）	度数分布とヒストグラム、平均（1）
10	記述統計（2）	平均（2）
11	記述統計（3）	分散と標準偏差
12	記述統計（4）	相関係数
13	記述統計（5）	回帰分析
14	記述統計から推測統計へ	記述統計から推測統計へ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習・・・1時間

Excelを含む実習・・・2時間

授業の復習・・・1時間

## 【テキスト（教科書）】

清水雅彦・菅幹雄『経済統計』培風館（1～8回）3630円

## 【参考書】

福井幸男『統計学の力 ベースボールからベンチャービジネスまで』共立出版（9回目以降）2640円

## 【成績評価の方法と基準】

毎回のテスト 100%

**【学生の意見等からの気づき】**

テストの正解はなるべく早く授業支援システムにアップする。

**【学生が準備すべき機器他】**

電卓

**【Outline and objectives】**

Students learn economic statistics and descriptive statistics.

ECN100CA
<b>統計学 B</b>
<b>阿部 俊弘</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

我々が普段何気なく眺めているデータに対して、統計学の立場では、このデータに対してなんらかの法則（確率分布）に従うという仮定をします。このことを理解するために、まず、統計学 A で学習した記述統計に基づいて離散型確率分布について学習します。また、確率分布に従うとはどういうことかを理解するために、PC を用いて確率分布から乱数を発生させ、視覚的に理解していきます。特に、代表的な連続型確率分布として、正規分布を取り上げ、この分布が（大学で学ぶ）統計学では何故避けては通ることのできないものであるのかを説明します。また、正規分布に関連したカイ 2 乗分布や t 分布についても背景にどのような事情があったのかを考えながら学習していきます。さらに、データに正規分布を仮定したときの区間推定や検定についても学んでいきます。

**【到達目標】**

1. 確率分布にどのようなものがあるのか知っている。
2. 確率分布の性質を理解し、乱数の発生をさせることができる。
3. 様々な確率分布を用いた区間推定・検定ができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP7」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

パワーポイントを用いた講義形式であり、Zoom を用いて実施します。また、Microsoft Word と Microsoft Excel を用いた課題を提出します。テスト提出後、正解を提示し、テスト結果について講評を行うことでフィードバックを行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	統計学とその意義	身近な統計データと統計の考え方
第 2 回	標本空間と確率	確率の定義と考え方
第 3 回	条件付確率と独立性	ベイズの定理と乱数を用いた例
第 4 回	確率分布とその特性値	期待値と分散
第 5 回	離散型確率分布	ベルヌーイ分布・二項分布・ポアソン分布
第 6 回	離散データと連続データ	乱数発生・データ要約のトリック
第 7 回	連続型確率分布の必要性	離散データによる連続データの理解
第 8 回	連続型確率分布入門	一様分布と正規分布
第 9 回	中心極限定理	ド・モアブル＝ラプラスの定理
第 10 回	正規分布に関連した連続型確率分布	カイ 2 乗分布と t 分布
第 11 回	正規母集団における区間推定	母平均・母分散の区間推定
第 12 回	二項母集団における母比率の区間推定	母比率の区間推定
第 13 回	正規母集団における母平均の検定	母平均・母分散の検定
第 14 回	二項母集団における母比率の検定	母比率の検定

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

テキストの予習・・・1 時間  
Excel を含む実習・・・2 時間  
授業の復習・・・1 時間

**【テキスト（教科書）】**

宮田庸一 (2012) 『統計学がよくわかる本』、アイケイコーポレーション

**【参考書】**

篠崎 信雄, 竹内 秀一 (2009) 『統計解析入門 (MS ライブラリ)』、サイエンス社  
田中勝人 (2010) 『基礎コース統計学 第 2 版』、新世社

**【成績評価の方法と基準】**

2 回のレポート（各 20%）と期末レポート（60%）で評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

数学的に難解にならないよう説明します。また、必要に応じて Microsoft Excel や Microsoft Word を用いることで、実践的な授業になるよう努めます。

**【学生が準備すべき機器他】**

・(Microsoft Word と Microsoft Excel がインストールされた) パソコンが必要  
・学習支援システムを利用します。

## 【Outline and objectives】

From a statistical viewpoint, we always assume that data follow a certain statistical (or probability) distribution. To understand this situation, we start from the discrete probability distributions based on the descriptive statistics given in Statistics A. In order to understand what “The data sets follow a probability distribution” indicates, we generate random numbers from the distribution using a Microsoft Excel. In particular, we introduce the normal distribution as a typical continuous probability distribution, and give an overview of the reason why this distribution is the most important and inevitable one in statistics (in undergraduate study). In addition, we study the chi-square distribution and t distribution related to the normal distribution with their historical background. Finally, we also learn fundamental inferences for confidence intervals and tests when the data are assumed to come from the normal distribution.

ECN100CA
<b>統計学 A</b>
<b>菅 幹雄</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済統計、記述統計について講義を行います。

## 【到達目標】

経済・社会に関する統計制度を理解した上で、記述統計の基本的なテクニックを学習する。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP7」に関連。

## 【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いた講義形式であり、Zoom を用いて実施する。講義はテキストに沿って行う。第1～8回は授業は経済・社会に関する統計制度を学ぶ。第1回になぜ経済学部で統計学を学ぶのかを確認した上で、第2～4回は産業ベースの統計、第5～7回は世帯ベースの統計について学ぶが、それぞれセンサス、標本調査、加工統計・指数という構成になっている。そして第8回にはそれらを総合したマクロ統計である国民経済計算を学ぶ。第9～13回は度数分布とヒストグラム、平均、分散と標準偏差、相関係数、回帰分析など記述統計の基本的なテクニックを学ぶ。そして第14回に記述統計から推測統計（統計学 B）への橋渡しを行う。毎回、学習支援システムでテストを実施する。テスト提出メ切り後、正解を提示し、テスト結果について講評を行うことでフィードバックする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、経済統計（1）	経済学部でなぜ統計を学ぶのか、経済統計の流れ
2	経済統計（2）センサス	経済センサス
3	経済統計（3）標本調査	工業統計調査、経済構造実態調査
4	経済統計（4）加工統計	産業連関表
5	経済統計（5）センサス	国勢調査
6	経済統計（6）標本調査	家計調査
7	経済統計（7）加工統計	消費者物価指数
8	経済統計（8）加工統計	国民経済計算
9	記述統計（1）	度数分布とヒストグラム、平均（1）
10	記述統計（2）	平均（2）
11	記述統計（3）	分散と標準偏差
12	記述統計（4）	相関係数
13	記述統計（5）	回帰分析
14	記述統計から推測統計へ	記述統計から推測統計へ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習・・・1時間  
Excelを含む実習・・・2時間  
授業の復習・・・1時間

## 【テキスト（教科書）】

清水雅彦・菅幹雄『経済統計』培風館（1～8回）3630円

## 【参考書】

福井幸男『統計学の力 ベースボールからベンチャービジネスまで』共立出版（9回目以降）2640円

## 【成績評価の方法と基準】

毎回のテスト 100%

## 【学生の意見等からの気づき】

テストの正解はなるべく早く授業支援システムにアップする。

## 【学生が準備すべき機器他】

電卓

## 【Outline and objectives】

Students learn economic statistics and descriptive statistics.

ECN100CA
<b>統計学 B</b>
<b>阿部 俊弘</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々が普段何気なく眺めているデータに対して、統計学の立場では、このデータに対してなんらかの法則（確率分布）に従うという仮定をします。このことを理解するために、まず、統計学 A で学習した記述統計に基づいて離散型確率分布について学習します。また、確率分布に従うとはどういうことかを理解するために、PC を用いて確率分布から乱数を発生させ、視覚的に理解していきます。特に、代表的な連続型確率分布として、正規分布を取り上げ、この分布が（大学で学ぶ）統計学では何故避けては通ることのできないものであるのかを説明します。また、正規分布に関連したカイ 2 乗分布や t 分布についても背景にどのような事情があったのかを考えながら学習していきます。さらに、データに正規分布を仮定したときの区間推定や検定についても学んでいきます。

## 【到達目標】

1. 確率分布にどのようなものがあるのかわっている。
2. 確率分布の性質を理解し、乱数の発生をさせることができる。
3. 様々な確率分布を用いた区間推定・検定ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP7」に関連。

## 【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いた講義形式であり、Zoom を用いて実施します。また、Microsoft Word と Microsoft Excel を用いた課題を提出します。テスト提出後、正解を提示し、テスト結果について講評を行うことでフィードバックを行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	統計学とその意義	身近な統計データと統計の考え方
第 2 回	標本空間と確率	確率の定義と考え方
第 3 回	条件付確率と独立性	ベイズの定理と乱数を用いた例
第 4 回	確率分布とその特性値	期待値と分散
第 5 回	離散型確率分布	ベルヌーイ分布・二項分布・ポアソン分布
第 6 回	離散データと連続データ	乱数発生・データ要約のトリック
第 7 回	連続型確率分布の必要性	離散データによる連続データの理解
第 8 回	連続型確率分布入門	一様分布と正規分布
第 9 回	中心極限定理	ド・モアブル＝ラプラスの定理
第 10 回	正規分布に関連した連続型確率分布	カイ 2 乗分布と t 分布
第 11 回	正規母集団における区間推定	母平均・母分散の区間推定
第 12 回	二項母集団における母比率の区間推定	母比率の区間推定
第 13 回	正規母集団における母平均の検定	母平均・母分散の検定
第 14 回	二項母集団における母比率の検定	母比率の検定

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習・・・1時間  
Excel を含む実習・・・2時間  
授業の復習・・・1時間

## 【テキスト（教科書）】

宮田庸一（2012）『統計学がよくわかる本』、アイケイコーポレーション

## 【参考書】

篠崎 信雄, 竹内 秀一（2009）『統計解析入門（MS ライブラリ）』、サイエンス社  
田中勝人（2010）『基礎コース統計学 第 2 版』、新世社

## 【成績評価の方法と基準】

2 回のレポート（各 20%）と期末レポート（60%）で評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

数学的に難解にならないよう説明します。また、必要に応じて Microsoft Excel や Microsoft Word を用いることで、実践的な授業になるよう努めます。

## 【学生が準備すべき機器他】

・(Microsoft Word と Microsoft Excel がインストールされた) パソコンが必要  
・学習支援システムを利用します。

## 【Outline and objectives】

From a statistical viewpoint, we always assume that data follow a certain statistical (or probability) distribution. To understand this situation, we start from the discrete probability distributions based on the descriptive statistics given in Statistics A. In order to understand what “The data sets follow a probability distribution” indicates, we generate random numbers from the distribution using a Microsoft Excel. In particular, we introduce the normal distribution as a typical continuous probability distribution, and give an overview of the reason why this distribution is the most important and inevitable one in statistics (in undergraduate study). In addition, we study the chi-square distribution and t distribution related to the normal distribution with their historical background. Finally, we also learn fundamental inferences for confidence intervals and tests when the data are assumed to come from the normal distribution.

PRI100CA
コンピューター入門 A
新村 隆英
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、データの作成や検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法、Web ページの原理などを理解する。さらに、データ処理の基本と数値データ解析の基礎的な計算方法を理解することを目的とする。

## 【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの送受信方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ Web ページの簡単な作成方法を理解する。
- ⑥ データ処理の基本と簡単な数値データ解析法を理解する。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

## 【授業の進め方と方法】

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること（大学からの指示です）。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。

講義の前半ではコンピューターとネットワークの利用法を身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、インターネットやホームページの仕組みを理解する。講義の後半は表計算ソフトを用いたデータの集計やデータの視覚化法を学習する。

以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

課題の提出・質問等は「学習支援システム」を通じて行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・ 講義概要とコンピューターおよびネットワーク環境の簡単な紹介 ・ コンピューターのハードウェア構成と OS 環境の紹介 ・ ローカルエリアネットワークとそのハードウェア構成 ・ ID の管理の重要性
第 2 回	オペレーティングシステムの操作法とファイル操作	・ オペレーティングシステムの操作法とファイルの操作 ・ メールサーバーとメール伝送の仕組み ・ Web メールの利用法
第 3 回	文書作成ソフトの利用法	・ 文書作成ソフトの基本操作の習得 ・ 文書のファイル形式と保存法 ・ 数式の入力
第 4 回	定型文書の作成	定型文書の作成と画像データの利用と加工
第 5 回	さまざまな文書の作成	ビジネス文書や英文の文書の作成

第 6 回	定型文書の作成演習	・はがきサイズの文書の作成 ・レポート形式の文書の作成
第 7 回	簡単なホームページの作成	ハイパーリンク形式のファイルの作成 HTML 言語によるプログラムの紹介
第 8 回	プレゼンテーション資料の作り方	プレゼンテーション用ソフトの利用と資料作成方法
第 9 回	表計算ソフトの基本機能	表計算ソフトの基本操作と種類の機能とその利用法
第 10 回	表計算ソフトへのデータの読み込みと簡単な計算	・新たな変数の作成、テキストデータの扱い ・インターネット上のデータのダウンロードと整形法
第 11 回	データの並べ替えと条件処理	データの並べ替えと各種関数の利用法
第 12 回	ヒストグラムとグラフの作成	・ヒストグラムの作成 ・複合グラフの作成 ・積み上げ棒グラフの作成
第 13 回	基本統計量の算出	基本統計量の意味と算出手順
第 14 回	統計処理を利用したサンプルデータからの情報抽出（演習問題）	各種統計量からサンプルデータの特徴を理解する

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書などの予習・復習と講義内で課された課題の作成。  
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税  
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著  
4 月 21 日から法政大学生協にて web による販売が開始されます。

#### 【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

#### 【成績評価の方法と基準】

毎回の演習（70%；提出は必須）および期末課題（30%；学期末に 1 回）の合計により評価する。特別な理由がないにもかかわらず有効な演習提出回数が全回数の 70%に満たない場合は、期末課題も無効となるので注意。

#### 【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

#### 【Outline and objectives】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA

## コンピューター入門 B

新村 隆英

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次に、データ処理の基本と数値データ解析の計算方法を理解する。これらに基づいて次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法などを習得することを目的とする。

#### 【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの収集方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ データ処理の基本と数値データ解析法を理解する。
- ⑥ 簡単なプログラミングの開発環境を利用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること（大学からの指示です）。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。講義の前半で表計算ソフトを用いたデータの集計や分類、統計処理、2 変数の関係の定量化やデータの視覚化法を学習する。講義の後半は、回帰分析によるモデルパラメータの決定法や自動制御など計測・制御の基礎を学習する。最後に、アプリケーションソフトの開発環境を理解する。以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。課題の提出・質問等は「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	表計算ソフトの基本機能	データの並替えと関数の利用法、及び基本的なグラフ作成。
第 2 回	2 変数間の関係（相関）	散布図の作成と相関係数の算出法。
第 3 回	相関係数の算出（演習）	演習問題を通しての散布図の作成と相関係数の算出。
第 4 回	カテゴリーデータの集計	アンケートによる調査データの処理法。
第 5 回	クロス集計と変数間の関連	クロス集計表の作成と変数間の関連性の検定
第 6 回	時系列データの処理	・変動と移動平均の算出 ・折れ線グラフによる可視化
第 7 回	時系列データの分析（演習）	GDP や為替レートなどの分析を行う。
第 8 回	単回帰分析	・回帰分析の基礎（データの計測とモデルの作成基礎） ・パラメータ決定のアルゴリズム
第 9 回	ソルバーによる単回帰分析	ソルバーを利用した単回帰分析のパラメータの決定
第 10 回	ソルバーによる解の探索	ソルバーによる線形計画問題の解法

第 11 回	マクロプログラムの作り方	マクロプログラムの作成と入力方
第 12 回	プログラミング入門	プログラミングの開発環境から簡単なプログラムを入力し動作確認を行う
第 13 回	各種応用ソフトウェアの紹介	GIS や代数計算ソフトの紹介と簡単な利用法。
第 14 回	秋学期最終課題	秋学期最終課題

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習と講義内で課された課題の作成本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税  
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

#### 【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

#### 【成績評価の方法と基準】

毎回の演習 (70%; 提出は必須) および期末課題 (30%; 学期末に 1 回) の合計により評価する。特別な理由がないにもかかわらず有効な演習提出回数が全回数の 70% に満たない場合は、期末課題も無効となるので注意。

#### 【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

#### 【学生が準備すべき機器他】

本年度は事情により当面の間オンライン (リアルタイムではない) 方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること (ともに Ver. は問わない)。

#### 【Outline and objectives】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門 A
斉藤 典明
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、データの作成や検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法、Web ページの原理などを理解する。さらに、データ処理の基本と数値データ解析の基礎的な計算方法を理解することを目的とする。

#### 【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの送受信方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ Web ページの簡単な作成方法を理解する。
- ⑥ データ処理の基本と簡単な数値データ解析法を理解する。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

本年度は事情により当面の間オンライン (リアルタイムではない) 方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること (大学からの指示です)。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること (ともに Ver. は問わない)。

講義の前半ではコンピューターとネットワークの利用法を身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、インターネットやホームページの仕組みを理解する。講義の後半は表計算ソフトを用いたデータの集計やデータの視覚化法を学習する。

以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

講義に関する連絡事項、課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・ 講義概要とコンピューターおよびネットワーク環境の簡単な紹介 ・ コンピューターのハードウェア構成と OS 環境の紹介 ・ ローカルエリアネットワークとそのハードウェア構成 ・ ID の管理の重要性
第 2 回	オペレーティングシステムの操作法とファイル操作	・ オペレーティングシステムの操作法とファイルの操作 ・ メールサーバーとメール伝送の仕組み ・ Web メールの利用法
第 3 回	文書作成ソフトの利用法	・ 文書作成ソフトの基本操作の習得 ・ 文書のファイル形式と保存法 ・ 数式の入力
第 4 回	定型文書の作成	定型文書の作成と画像データの利用と加工

第5回	さまざまな文書の作成	ビジネス文書や英文の文書の作成
第6回	定型文書の作成演習	・はがきサイズの文書の作成 ・レポート形式の文書の作成
第7回	簡単なホームページの作成	ハイパーリンク形式のファイルの作成 HTML言語によるプログラムの紹介
第8回	プレゼンテーション資料の作り方	プレゼンテーション用ソフトの利用と資料作成方法
第9回	表計算ソフトの基本機能	表計算ソフトの基本操作と種類の機能とその利用法
第10回	表計算ソフトへのデータの読み込みと簡単な計算	・新たな変数の作成、テキストデータの扱い ・インターネット上のデータのダウンロードと整形法
第11回	データの並べ替えと条件処理	データの並べ替えと各種関数の利用法
第12回	ヒストグラムとグラフの作成	・ヒストグラムの作成 ・複合グラフの作成 ・積み上げ棒グラフの作成
第13回	基本統計量の算出	基本統計量の意味と算出手順
第14回	統計処理を利用したサンプルデータからの情報抽出(演習問題)	各種統計量からサンプルデータの特徴を理解する

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

教科書などの予習・復習と講義内で課された課題の作成。  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト(教科書)】**

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013年10月、¥1,900+税  
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著  
4月21日から法政大学生協にてwebによる販売が開始されます。

**【参考書】**

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

**【成績評価の方法と基準】**

・教室で実施の場合：毎回提示される通常課題14個の合計が50%、試験相当の最終課題が50%。普段の取り組み姿勢を平常点として評価の補正をおこなう。  
・オンラインで実施の場合：毎回提示される通常課題14個の合計が90%、試験相当の最終課題が10%。オンライン講義を受講できているということでコンピュータリテラシーを修得したという意味で、最終課題の割合を減らす。さらに、普段の取り組み姿勢を平常点として評価の補正をおこなう。  
・いずれの場合も最終課題の提出を必須とし、通常課題と最終課題の合計が60点以上を合格とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

**【Outline and objectives】**

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門B
斉藤 典明
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的(何を学ぶか)】**

コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次に、データ処理の基本と数値データ解析の計算方法を理解する。これらに基づいて次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法などを習得することを目的とする。

**【到達目標】**

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの収集方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ データ処理の基本と数値データ解析法を理解する。
- ⑥ 簡単なプログラミングの開発環境を利用できるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

本年度は事情により当面の間オンライン(リアルタイムではない)方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境とPC環境を用意すること(大学からの指示です)。PCはWindowsが稼働するものでOfficeが搭載されていること(ともにVer.は問わない)。

講義の前半で表計算ソフトを用いたデータの集計や分類、統計処理、2変数の関係の定量化やデータの視覚化法を学習する。講義の後半は、回帰分析によるモデルパラメータの決定法や自動制御など計測・制御の基礎を学習する。最後に、アプリケーションソフトの開発環境を理解する。以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

講義に関する連絡事項、課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	表計算ソフトの基本機能	データの並替えと関数の利用法、及び基本的なグラフ作成。
第2回	2変数間の関係(相関)	散布図の作成と相関係数の算出法。
第3回	相関係数の算出(演習)	演習問題を通しての散布図の作成と相関係数の算出。
第4回	カテゴリーデータの集計	アンケートによる調査データの処理法。
第5回	クロス集計と変数間の関連	クロス集計表の作成と変数間の関連性の検定
第6回	時系列データの処理	・変動と移動平均の算出 ・折れ線グラフによる可視化
第7回	時系列データの分析(演習)	GDPや為替レートなどの分析を行う。
第8回	単回帰分析	・回帰分析の基礎(データの計測とモデルの作成基礎) ・パラメータ決定のアルゴリズム
第9回	ソルバーによる単回帰分析	ソルバーを利用した単回帰分析のパラメータの決定

第10回	ソルバーによる解の探索	ソルバーによる線形計画問題の解法
第11回	マクロプログラムの作り方	マクロプログラムの作成と入力
第12回	プログラミング入門	プログラミングの開発環境から簡単なプログラムを入力し動作確認を行う
第13回	各種応用ソフトウェアの紹介	GIS や代数計算ソフトの紹介と簡単な利用法。
第14回	秋学期最終課題	秋学期最終課題

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習と講義内で課された課題の作成本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013年10月、¥1,900＋税  
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

#### 【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

#### 【成績評価の方法と基準】

・教室で実施の場合：毎回提示される通常課題14個の合計が50%、試験相当の最終課題が50%。普段の取り組み姿勢を平常点として評価の補正をおこなう。

・オンラインで実施の場合：毎回提示される通常課題14個の合計が90%、試験相当の最終課題が10%。オンライン講義を受講できているということでコンピュータリテラシーを修得したという意味で、最終課題の割合を減らす。さらに、普段の取り組み姿勢を平常点として評価の補正をおこなう。

・いずれの場合も最終課題の提出を必須とし、通常課題と最終課題の合計が60点以上を合格とする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

#### 【学生が準備すべき機器他】

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境とPC環境を用意すること。PCはWindowsが稼働するものでOfficeが搭載されていること（ともにVer.は問わない）。

#### 【Outline and objectives】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門 A
齊藤 典明
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、データの作成や検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法、Web ページの原理などを理解する。さらに、データ処理の基本と数値データ解析の基礎的な計算方法を理解することを目的とする。

#### 【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの送受信方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ Web ページの簡単な作成方法を理解する。
- ⑥ データ処理の基本と簡単な数値データ解析法を理解する。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境とPC環境を用意すること（大学からの指示です）。PCはWindowsが稼働するものでOfficeが搭載されていること（ともにVer.は問わない）。

講義の前半ではコンピューターとネットワークの利用法を身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、インターネットやホームページの仕組みを理解する。講義の後半は表計算ソフトを用いたデータの集計やデータの視覚化法を学習する。

以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

講義に関する連絡事項、課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・講義概要とコンピューターおよびネットワーク環境の簡単な紹介 ・コンピューターのハードウェア構成とOS環境の紹介 ・ローカルエリアネットワークとそのハードウェア構成 ・IDの管理の重要性
第2回	オペレーティングシステムの操作法とファイル操作	・オペレーティングシステムの操作法とファイルの操作 ・メールサーバーとメール伝送の仕組み ・Webメールの利用法
第3回	文書作成ソフトの利用法	・文書作成ソフトの基本操作の習得 ・文書のファイル形式と保存法 ・数式の入力
第4回	定型文書の作成	定型文書の作成と画像データの利用と加工

第5回	さまざまな文書の作成	ビジネス文書や英文の文書の作成
第6回	定型文書の作成演習	・はがきサイズの文書の作成 ・レポート形式の文書の作成
第7回	簡単なホームページの作成	ハイパーリンク形式のファイルの作成 HTML言語によるプログラムの紹介
第8回	プレゼンテーション資料の作り方	プレゼンテーション用ソフトの利用と資料作成方法
第9回	表計算ソフトの基本機能	表計算ソフトの基本操作と種類の機能とその利用法
第10回	表計算ソフトへのデータの読み込みと簡単な計算	・新たな変数の作成、テキストデータの扱い ・インターネット上のデータのダウンロードと整形法
第11回	データの並べ替えと条件処理	データの並べ替えと各種関数の利用法
第12回	ヒストグラムとグラフの作成	・ヒストグラムの作成 ・複合グラフの作成 ・積み上げ棒グラフの作成
第13回	基本統計量の算出	基本統計量の意味と算出手順
第14回	統計処理を利用したサンプルデータからの情報抽出(演習問題)	各種統計量からサンプルデータの特徴を理解する

**【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】**

教科書などの予習・復習と講義内で課された課題の作成。  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト(教科書)】**

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013年10月、¥1,900+税  
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著  
4月21日から法政大学生協にてwebによる販売が開始されます。

**【参考書】**

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

**【成績評価の方法と基準】**

・教室で実施の場合：毎回提示される通常課題14個の合計が50%、試験相当の最終課題が50%。普段の取り組み姿勢を平常点として評価の補正をおこなう。  
・オンラインで実施の場合：毎回提示される通常課題14個の合計が90%、試験相当の最終課題が10%。オンライン講義を受講できているということでコンピュータリテラシーを修得したという意味で、最終課題の割合を減らす。さらに、普段の取り組み姿勢を平常点として評価の補正をおこなう。  
・いずれの場合も最終課題の提出を必須とし、通常課題と最終課題の合計が60点以上を合格とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

**【Outline and objectives】**

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門B
斉藤 典明
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的(何を学ぶか)】**

コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次に、データ処理の基本と数値データ解析の計算方法を理解する。これらに基づいて次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法などを習得することを目的とする。

**【到達目標】**

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの収集方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ データ処理の基本と数値データ解析法を理解する。
- ⑥ 簡単なプログラミングの開発環境を利用できるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

本年度は事情により当面の間オンライン(リアルタイムではない)方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境とPC環境を用意すること(大学からの指示です)。PCはWindowsが稼働するものでOfficeが搭載されていること(ともにVer.は問わない)。

講義の前半で表計算ソフトを用いたデータの集計や分類、統計処理、2変数の関係の定量化やデータの視覚化法を学習する。講義の後半は、回帰分析によるモデルパラメータの決定法や自動制御など計測・制御の基礎を学習する。最後に、アプリケーションソフトの開発環境を理解する。以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

講義に関する連絡事項、課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

**【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	表計算ソフトの基本機能	データの並替えと関数の利用法、及び基本的なグラフ作成。
第2回	2変数間の関係(相関)	散布図の作成と相関係数の算出法。
第3回	相関係数の算出(演習)	演習問題を通しての散布図の作成と相関係数の算出。
第4回	カテゴリーデータの集計	アンケートによる調査データの処理法。
第5回	クロス集計と変数間の関連	クロス集計表の作成と変数間の関連性の検定
第6回	時系列データの処理	・変動と移動平均の算出 ・折れ線グラフによる可視化
第7回	時系列データの分析(演習)	GDPや為替レートなどの分析を行う。
第8回	単回帰分析	・回帰分析の基礎(データの計測とモデルの作成基礎) ・パラメータ決定のアルゴリズム
第9回	ソルバーによる単回帰分析	ソルバーを利用した単回帰分析のパラメータの決定

第10回	ソルバーによる解の探索	ソルバーによる線形計画問題の解法
第11回	マクロプログラムの作り方	マクロプログラムの作成と入力
第12回	プログラミング入門	プログラミングの開発環境から簡単なプログラムを入力し動作確認を行う
第13回	各種応用ソフトウェアの紹介	GIS や代数計算ソフトの紹介と簡単な利用法。
第14回	秋学期最終課題	秋学期最終課題

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習と講義内で課された課題の作成本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013年10月、¥1,900+税  
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

#### 【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

#### 【成績評価の方法と基準】

・教室で実施の場合：毎回提示される通常課題14個の合計が50%、試験相当の最終課題が50%。普段の取り組み姿勢を平常点として評価の補正をおこなう。

・オンラインで実施の場合：毎回提示される通常課題14個の合計が90%、試験相当の最終課題が10%。オンライン講義を受講できているということでコンピュータリテラシーを修得したという意味で、最終課題の割合を減らす。さらに、普段の取り組み姿勢を平常点として評価の補正をおこなう。

・いずれの場合も最終課題の提出を必須とし、通常課題と最終課題の合計が60点以上を合格とする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

#### 【学生が準備すべき機器他】

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境とPC環境を用意すること。PCはWindowsが稼働するものでOfficeが搭載されていること（ともにVer.は問わない）。

#### 【Outline and objectives】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門 A
安藤 富貴子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、データの作成や検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法、Webページの原理などを理解する。さらに、データ処理の基本と数値データ解析の基礎的な計算方法を理解することを目的とする。

#### 【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの送受信方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ Webページの簡単な作成方法を理解する。
- ⑥ データ処理の基本と簡単な数値データ解析法を理解する。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境とPC環境を用意すること（大学からの指示です）。PCはWindowsが稼働するものでOfficeが搭載されていること（ともにVer.は問わない）。

講義の前半ではコンピューターとネットワークの利用法を身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、インターネットやホームページの仕組みを理解する。講義の後半は表計算ソフトを用いたデータの集計やデータの視覚化法を学習する。

以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

毎回の授業内容・質問・実習課題の提出・フィードバックなど、授業についての全ては「学習支援システム」を通じて行う。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・講義概要とコンピューターおよびネットワーク環境の簡単な紹介 ・コンピューターのハードウェア構成とOS環境の紹介 ・ローカルエリアネットワークとそのハードウェア構成 ・IDの管理の重要性
第2回	オペレーティングシステムの操作法とファイル操作	・オペレーティングシステムの操作法とファイルの操作 ・メールサーバーとメール伝送の仕組み ・Webメールの利用法
第3回	文書作成ソフトの利用法	・文書作成ソフトの基本操作の習得 ・文書のファイル形式と保存法 ・数式の入力
第4回	定型文書の作成	定型文書の作成と画像データの利用と加工

第5回	さまざまな文書の作成	ビジネス文書や英文の文書の作成
第6回	定型文書の作成演習	・はがきサイズの文書の作成 ・レポート形式の文書の作成
第7回	簡単なホームページの作成	ハイパーリンク形式のファイルの作成 HTML言語によるプログラムの紹介
第8回	プレゼンテーション資料の作り方	プレゼンテーション用ソフトの利用と資料作成方法
第9回	表計算ソフトの基本機能	表計算ソフトの基本操作と種類の機能とその利用法
第10回	表計算ソフトへのデータの読み込みと簡単な計算	・新たな変数の作成、テキストデータの扱い ・インターネット上のデータのダウンロードと整形法
第11回	データの並べ替えと条件処理	データの並べ替えと各種関数の利用法
第12回	ヒストグラムとグラフの作成	・ヒストグラムの作成 ・複合グラフの作成 ・積み上げ棒グラフの作成
第13回	基本統計量の算出	基本統計量の意味と算出手順
第14回	統計処理を利用したサンプルデータからの情報抽出（演習問題）	各種統計量からサンプルデータの特徴を理解する

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書などの予習・復習と講義内で課された課題の作成。  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013年10月、¥1,900+税  
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著  
4月21日から法政大学生協にてwebによる販売が開始されます。

#### 【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

#### 【成績評価の方法と基準】

成績評価項目は、①授業内実習課題：計100点、②定着のための各復習課題：計100点、③アプリごとの試験相当の演習課題：各100点以上を合計した得点を100点満点に換算し総合得点とします。総合得点を法政大学の成績評価表に準拠し本授業の成績評価とします。課題や成績評価の詳細については学習支援システムの「お知らせ」に掲載します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

実習時間を多くすることで内容の理解とPCスキルをより高める。

#### 【Outline and objectives】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門B
安藤 富貴子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次に、データ処理の基本と数値データ解析の計算方法を理解する。これらに基づいて次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法などを習得することを目的とする。

#### 【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの収集方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ データ処理の基本と数値データ解析法を理解する。
- ⑥ 簡単なプログラミングの開発環境を利用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境とPC環境を用意すること（大学からの指示です）。PCはWindowsが稼働するものでOfficeが搭載されていること（ともにVer.は問わない）。

講義の前半で表計算ソフトを用いたデータの集計や分類、統計処理、2変数の関係の定量化やデータの視覚化法を学習する。講義の後半は、回帰分析によるモデルパラメータの決定法や自動制御など計測・制御の基礎を学習する。最後に、アプリケーションソフトの開発環境を理解する。以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

毎回の授業内容・質問・実習課題の提出・フィードバックなど、授業についての全ては「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	表計算ソフトの基本機能	データの並替えと関数の利用法、及び基本的なグラフ作成。
第2回	2変数間の関係（相関）	散布図の作成と相関係数の算出法。
第3回	相関係数の算出（演習）	演習問題を通しての散布図の作成と相関係数の算出。
第4回	カテゴリーデータの集計	アンケートによる調査データの処理法。
第5回	クロス集計と変数間の関連	クロス集計表の作成と変数間の関連性の検定
第6回	時系列データの処理	・変動と移動平均の算出 ・折れ線グラフによる可視化
第7回	時系列データの分析（演習）	GDPや為替レートなどの分析を行う。
第8回	単回帰分析	・回帰分析の基礎（データの計測とモデルの作成基礎） ・パラメータ決定のアルゴリズム
第9回	ソルバーによる単回帰分析	ソルバーを利用した単回帰分析のパラメータの決定

第10回	ソルバーによる解の探索	ソルバーによる線形計画問題の解法
第11回	マクロプログラムの作り方	マクロプログラムの作成と入力
第12回	プログラミング入門	プログラミングの開発環境から簡単なプログラムを入力し動作確認を行う
第13回	各種応用ソフトウェアの紹介	GIS や代数計算ソフトの紹介と簡単な利用法。
第14回	秋学期最終課題	秋学期最終課題

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習と講義内で課された課題の作成本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013年10月、¥1,900+税  
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

#### 【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

#### 【成績評価の方法と基準】

基本的には学期末に実技を伴う試験、あるいはそれに相当するレポートを課す(50%)。また、ほぼ毎回の課題(または宿題)の提出(50%)が重視される。

#### 【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

#### 【学生が準備すべき機器他】

本年度は事情により当面の間オンライン(リアルタイムではない)方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境とPC環境を用意すること。PCはWindowsが稼働するものでOfficeが搭載されていること(ともにVer.は問わない)。

#### 【Outline and objectives】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門 A
安藤 富貴子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、データの作成や検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法、Webページの原理などを理解する。さらに、データ処理の基本と数値データ解析の基礎的な計算方法を理解することを目的とする。

#### 【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの送受信方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ Webページの簡単な作成方法を理解する。
- ⑥ データ処理の基本と簡単な数値データ解析法を理解する。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

本年度は事情により当面の間オンライン(リアルタイムではない)方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境とPC環境を用意すること(大学からの指示です)。PCはWindowsが稼働するものでOfficeが搭載されていること(ともにVer.は問わない)。

講義の前半ではコンピューターとネットワークの利用法を身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、インターネットやホームページの仕組みを理解する。講義の後半は表計算ソフトを用いたデータの集計やデータの視覚化法を学習する。

以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

毎回の授業内容・質問・実習課題の提出・フィードバックなど、授業についての全ては「学習支援システム」を通じて行う。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・ 講義概要とコンピューターおよびネットワーク環境の簡単な紹介 ・ コンピューターのハードウェア構成とOS環境の紹介 ・ ローカルエリアネットワークとそのハードウェア構成 ・ IDの管理の重要性
第2回	オペレーティングシステムの操作法とファイル操作	・ オペレーティングシステムの操作法とファイルの操作 ・ メールサーバーとメール伝送の仕組み ・ Webメールの利用法
第3回	文書作成ソフトの利用法	・ 文書作成ソフトの基本操作の習得 ・ 文書のファイル形式と保存法 ・ 数式の入力
第4回	定型文書の作成	定型文書の作成と画像データの利用と加工

第5回	さまざまな文書の作成	ビジネス文書や英文の文書の作成
第6回	定型文書の作成演習	・はがきサイズの文書の作成 ・レポート形式の文書の作成
第7回	簡単なホームページの作成	ハイパーリンク形式のファイルの作成 HTML言語によるプログラムの紹介
第8回	プレゼンテーション資料の作り方	プレゼンテーション用ソフトの利用と資料作成方法
第9回	表計算ソフトの基本機能	表計算ソフトの基本操作と種類の機能とその利用法
第10回	表計算ソフトへのデータの読み込みと簡単な計算	・新たな変数の作成、テキストデータの扱い ・インターネット上のデータのダウンロードと整形法
第11回	データの並べ替えと条件処理	データの並べ替えと各種関数の利用法
第12回	ヒストグラムとグラフの作成	・ヒストグラムの作成 ・複合グラフの作成 ・積み上げ棒グラフの作成
第13回	基本統計量の算出	基本統計量の意味と算出手順
第14回	統計処理を利用したサンプルデータからの情報抽出（演習問題）	各種統計量からサンプルデータの特徴を理解する

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書などの予習・復習と講義内で課された課題の作成。  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013年10月、¥1,900＋税  
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著  
4月21日から法政大学生協にてwebによる販売が開始されます。

#### 【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

#### 【成績評価の方法と基準】

成績評価項目は、①授業内実習課題：計100点、②定着のための各復習課題：計100点、③アプリごとの試験相当の演習課題：各100点以上を合計した得点を100点満点に換算し総合得点とします。総合得点を法政大学の成績評価表に準拠し本授業の成績評価とします。課題や成績評価の詳細については学習支援システムの「お知らせ」に掲載します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

実習時間を多くすることで内容の理解とPCスキルをより高める。

#### 【Outline and objectives】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門B
安藤 富貴子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次に、データ処理の基本と数値データ解析の計算方法を理解する。これらに基づいて次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法などを習得することを目的とする。

#### 【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの収集方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ データ処理の基本と数値データ解析法を理解する。
- ⑥ 簡単なプログラミングの開発環境を利用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境とPC環境を用意すること（大学からの指示です）。PCはWindowsが稼働するものでOfficeが搭載されていること（ともにVer.は問わない）。講義の前半で表計算ソフトを用いたデータの集計や分類、統計処理、2変数の関係の定量化やデータの視覚化法を学習する。講義の後半は、回帰分析によるモデルパラメータの決定法や自動制御など計測・制御の基礎を学習する。最後に、アプリケーションソフトの開発環境を理解する。以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。毎回の授業内容・質問・実習課題の提出・フィードバックなど、授業についての全ては「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	表計算ソフトの基本機能	データの並替えと関数の利用法、及び基本的なグラフ作成。
第2回	2変数間の関係（相関）	散布図の作成と相関係数の算出法。
第3回	相関係数の算出（演習）	演習問題を通しての散布図の作成と相関係数の算出。
第4回	カテゴリーデータの集計	アンケートによる調査データの処理法。
第5回	クロス集計と変数間の関連	クロス集計表の作成と変数間の関連性の検定
第6回	時系列データの処理	・変動と移動平均の算出 ・折れ線グラフによる可視化
第7回	時系列データの分析（演習）	GDPや為替レートなどの分析を行う。
第8回	単回帰分析	・回帰分析の基礎（データの計測とモデルの作成基礎） ・パラメータ決定のアルゴリズム
第9回	ソルバーによる単回帰分析	ソルバーを利用した単回帰分析のパラメータの決定

第10回	ソルバーによる解の探索	ソルバーによる線形計画問題の解法
第11回	マクロプログラムの作り方	マクロプログラムの作成と入力
第12回	プログラミング入門	プログラミングの開発環境から簡単なプログラムを入力し動作確認を行う
第13回	各種応用ソフトウェアの紹介	GIS や代数計算ソフトの紹介と簡単な利用法。
第14回	秋学期最終課題	秋学期最終課題

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習と講義内で課された課題の作成本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013年10月、¥1,900+税  
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

#### 【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

#### 【成績評価の方法と基準】

成績評価項目は、①授業内実習課題：計100点、②定着のための復習課題：計100点、③秋学期を前半後半に分け、演習内容とExcelスキルの確認試験を実施：各100点

以上を合計した得点を100点満点に換算し総合得点とします。総合得点を法政大学の成績評価表に準拠し本授業の成績評価とします。課題、試験、成績評価の詳細については学習支援システムの「お知らせ」に掲示します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

実習時間を多くし内容の理解とExcelのスキルをより高める。

#### 【学生が準備すべき機器他】

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境とPC環境を用意すること。PCはWindowsが稼働するものでOfficeが搭載されていること（ともにVer.は問わない）。

#### 【Outline and objectives】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門 A
安藤 富貴子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、データの作成や検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法、Webページの原理などを理解する。さらに、データ処理の基本と数値データ解析の基礎的な計算方法を理解することを目的とする。

#### 【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの送受信方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ Webページの簡単な作成方法を理解する。
- ⑥ データ処理の基本と簡単な数値データ解析法を理解する。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境とPC環境を用意すること（大学からの指示です）。PCはWindowsが稼働するものでOfficeが搭載されていること（ともにVer.は問わない）。

講義の前半ではコンピューターとネットワークの利用法を身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、インターネットやホームページの仕組みを理解する。講義の後半は表計算ソフトを用いたデータの集計やデータの視覚化法を学習する。

以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

毎回の授業内容・質問・実習課題の提出・フィードバックなど、授業についての全ては「学習支援システム」を通じて行う。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・講義概要とコンピューターおよびネットワーク環境の簡単な紹介 ・コンピューターのハードウェア構成とOS環境の紹介 ・ローカルエリアネットワークとそのハードウェア構成 ・IDの管理の重要性
第2回	オペレーティングシステムの操作法とファイル操作	・オペレーティングシステムの操作法とファイルの操作 ・メールサーバーとメール伝送の仕組み ・Webメールの利用法
第3回	文書作成ソフトの利用法	・文書作成ソフトの基本操作の習得 ・文書のファイル形式と保存法 ・数式の入力
第4回	定型文書の作成	定型文書の作成と画像データの利用と加工

第5回	さまざまな文書の作成	ビジネス文書や英文の文書の作成
第6回	定型文書の作成演習	・はがきサイズの文書の作成 ・レポート形式の文書の作成
第7回	簡単なホームページの作成	ハイパーリンク形式のファイルの作成 HTML言語によるプログラムの紹介
第8回	プレゼンテーション資料の作り方	プレゼンテーション用ソフトの利用と資料作成方法
第9回	表計算ソフトの基本機能	表計算ソフトの基本操作と種類の機能とその利用法
第10回	表計算ソフトへのデータの読み込みと簡単な計算	・新たな変数の作成、テキストデータの扱い ・インターネット上のデータのダウンロードと整形法
第11回	データの並べ替えと条件処理	データの並べ替えと各種関数の利用法
第12回	ヒストグラムとグラフの作成	・ヒストグラムの作成 ・複合グラフの作成 ・積み上げ棒グラフの作成
第13回	基本統計量の算出	基本統計量の意味と算出手順
第14回	統計処理を利用したサンプルデータからの情報抽出（演習問題）	各種統計量からサンプルデータの特徴を理解する

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

教科書などの予習・復習と講義内で課された課題の作成。  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013年10月、¥1,900+税  
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著  
4月21日から法政大学生協にてwebによる販売が開始されます。

**【参考書】**

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

**【成績評価の方法と基準】**

成績評価項目は、①授業内実習課題：計100点、②定着のための各復習課題：計100点、③アプリごとの試験相当の演習課題：各100点以上を合計した得点を100点満点に換算し総合得点とします。総合得点を法政大学の成績評価表に準拠し本授業の成績評価とします。課題や成績評価の詳細については学習支援システムの「お知らせ」に掲載します。

**【学生の意見等からの気づき】**

実習時間を多くすることで内容の理解とPCスキルをより高める。

**【Outline and objectives】**

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門B
安藤 富貴子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次に、データ処理の基本と数値データ解析の計算方法を理解する。これらに基づいて次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法などを習得することを目的とする。

**【到達目標】**

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの収集方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ データ処理の基本と数値データ解析法を理解する。
- ⑥ 簡単なプログラミングの開発環境を利用できるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境とPC環境を用意すること（大学からの指示です）。PCはWindowsが稼働するものでOfficeが搭載されていること（ともにVer.は問わない）。講義の前半で表計算ソフトを用いたデータの集計や分類、統計処理、2変数の関係の定量化やデータの視覚化法を学習する。講義の後半は、回帰分析によるモデルパラメータの決定法や自動制御など計測・制御の基礎を学習する。最後に、アプリケーションソフトの開発環境を理解する。以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。毎回の授業内容・質問・実習課題の提出・フィードバックなど、授業についての全ては「学習支援システム」を通じて行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	表計算ソフトの基本機能	データの並替えと関数の利用法、及び基本的なグラフ作成。
第2回	2変数間の関係（相関）	散布図の作成と相関係数の算出法。
第3回	相関係数の算出（演習）	演習問題を通しての散布図の作成と相関係数の算出。
第4回	カテゴリーデータの集計	アンケートによる調査データの処理法。
第5回	クロス集計と変数間の関連	クロス集計表の作成と変数間の関連性の検定
第6回	時系列データの処理	・変動と移動平均の算出 ・折れ線グラフによる可視化
第7回	時系列データの分析（演習）	GDPや為替レートなどの分析を行う。
第8回	単回帰分析	・回帰分析の基礎（データの計測とモデルの作成基礎） ・パラメータ決定のアルゴリズム
第9回	ソルバーによる単回帰分析	ソルバーを利用した単回帰分析のパラメータの決定

第10回	ソルバーによる解の探索	ソルバーによる線形計画問題の解法
第11回	マクロプログラムの作り方	マクロプログラムの作成と入力
第12回	プログラミング入門	プログラミングの開発環境から簡単なプログラムを入力し動作確認を行う
第13回	各種応用ソフトウェアの紹介	GIS や代数計算ソフトの紹介と簡単な利用法。
第14回	秋学期最終課題	秋学期最終課題

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習と講義内で課された課題の作成本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013年10月、¥1,900+税  
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

#### 【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

#### 【成績評価の方法と基準】

成績評価項目は、①授業内実習課題：計100点、②定着のための復習課題：計100点、③秋学期を前半後半に分け、演習内容とExcelスキルの確認試験を実施：各100点

以上を合計した得点を100点満点に換算し総合得点とします。総合得点を法政大学の成績評価表に準拠し本授業の成績評価とします。課題、試験、成績評価の詳細については学習支援システムの「お知らせ」に掲示します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

実習時間を多くし内容の理解とExcelのスキルをより高める。

#### 【学生が準備すべき機器他】

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境とPC環境を用意すること。PCはWindowsが稼働するものでOfficeが搭載されていること（ともにVer.は問わない）。

#### 【Outline and objectives】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門A
安藤 富貴子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、データの作成や検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法、Webページの原理などを理解する。さらに、データ処理の基本と数値データ解析の基礎的な計算方法を理解することを目的とする。

#### 【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの送受信方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法等を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ Webページの簡単な作成方法を理解する。
- ⑥ データ処理の基本と簡単な数値データ解析法を理解する。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境とPC環境を用意すること（大学からの指示です）。PCはWindowsが稼働するものでOfficeが搭載されていること（ともにVer.は問わない）。

講義の前半ではコンピューターとネットワークの利用法を身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、インターネットやホームページの仕組みを理解する。講義の後半は表計算ソフトを用いたデータの集計やデータの視覚化法を学習する。

以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

毎回の授業内容・質問・実習課題の提出・フィードバックなど、授業についての全ては「学習支援システム」を通じて行う。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・講義概要とコンピューターおよびネットワーク環境の簡単な紹介 ・コンピューターのハードウェア構成とOS環境の紹介 ・ローカルエリアネットワークとそのハードウェア構成 ・IDの管理の重要性
第2回	オペレーティングシステムの操作法とファイル操作	・オペレーティングシステムの操作法とファイルの操作 ・メールサーバーとメール伝送の仕組み ・Webメールの利用法
第3回	文書作成ソフトの利用法	・文書作成ソフトの基本操作の習得 ・文書のファイル形式と保存法 ・数式の入力
第4回	定型文書の作成	定型文書の作成と画像データの利用と加工

第5回	さまざまな文書の作成	ビジネス文書や英文の文書の作成
第6回	定型文書の作成演習	・はがきサイズの文書の作成 ・レポート形式の文書の作成
第7回	簡単なホームページの作成	ハイパーリンク形式のファイルの作成 HTML言語によるプログラムの紹介
第8回	プレゼンテーション資料の作り方	プレゼンテーション用ソフトの利用と資料作成方法
第9回	表計算ソフトの基本機能	表計算ソフトの基本操作と種類の機能とその利用法
第10回	表計算ソフトへのデータの読み込みと簡単な計算	・新たな変数の作成、テキストデータの扱い ・インターネット上のデータのダウンロードと整形法
第11回	データの並べ替えと条件処理	データの並べ替えと各種関数の利用法
第12回	ヒストグラムとグラフの作成	・ヒストグラムの作成 ・複合グラフの作成 ・積み上げ棒グラフの作成
第13回	基本統計量の算出	基本統計量の意味と算出手順
第14回	統計処理を利用したサンプルデータからの情報抽出（演習問題）	各種統計量からサンプルデータの特徴を理解する

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書などの予習・復習と講義内で課された課題の作成。  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013年10月、¥1,900＋税  
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著  
4月21日から法政大学生協にてwebによる販売が開始されます。

#### 【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

#### 【成績評価の方法と基準】

成績評価項目は、①授業内実習課題：計100点、②定着のための各復習課題：計100点、③アプリごとの試験相当の演習課題：各100点以上を合計した得点を100点満点に換算し総合得点とします。総合得点を法政大学の成績評価表に準拠し本授業の成績評価とします。課題や成績評価の詳細については学習支援システムの「お知らせ」に掲載します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

実習時間を多くすることで内容の理解とPCスキルをより高める。

#### 【Outline and objectives】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門B
安藤 富貴子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次に、データ処理の基本と数値データ解析の計算方法を理解する。これらに基づいて次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法などを習得することを目的とする。

#### 【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの収集方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ データ処理の基本と数値データ解析法を理解する。
- ⑥ 簡単なプログラミングの開発環境を利用できるようにする。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境とPC環境を用意すること（大学からの指示です）。PCはWindowsが稼働するものでOfficeが搭載されていること（ともにVer.は問わない）。講義の前半で表計算ソフトを用いたデータの集計や分類、統計処理、2変数の関係の定量化やデータの視覚化法を学習する。講義の後半は、回帰分析によるモデルパラメータの決定法や自動制御など計測・制御の基礎を学習する。最後に、アプリケーションソフトの開発環境を理解する。以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。毎回の授業内容・質問・実習課題の提出・フィードバックなど、授業についての全ては「学習支援システム」を通じて行う。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	表計算ソフトの基本機能	データの並替えと関数の利用法、及び基本的なグラフ作成。
第2回	2変数間の関係（相関）	散布図の作成と相関係数の算出法。
第3回	相関係数の算出（演習）	演習問題を通しての散布図の作成と相関係数の算出。
第4回	カテゴリーデータの集計	アンケートによる調査データの処理法。
第5回	クロス集計と変数間の関連	クロス集計表の作成と変数間の関連性の検定
第6回	時系列データの処理	・変動と移動平均の算出 ・折れ線グラフによる可視化
第7回	時系列データの分析（演習）	GDPや為替レートなどの分析を行う。
第8回	単回帰分析	・回帰分析の基礎（データの計測とモデルの作成基礎） ・パラメータ決定のアルゴリズム
第9回	ソルバーによる単回帰分析	ソルバーを利用した単回帰分析のパラメータの決定

第10回	ソルバーによる解の探索	ソルバーによる線形計画問題の解法
第11回	マクロプログラムの作り方	マクロプログラムの作成と入力
第12回	プログラミング入門	プログラミングの開発環境から簡単なプログラムを入力し動作確認を行う
第13回	各種応用ソフトウェアの紹介	GIS や代数計算ソフトの紹介と簡単な利用法。
第14回	秋学期最終課題	秋学期最終課題

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習と講義内で課された課題の作成本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013年10月、¥1,900+税  
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

#### 【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

#### 【成績評価の方法と基準】

成績評価項目は、①授業内実習課題：計100点、②定着のための復習課題：計100点、③秋学期を前半後半に分け、演習内容とExcelスキルの確認試験を実施：各100点

以上を合計した得点を100点満点に換算し総合得点とします。総合得点を法政大学の成績評価表に準拠し本授業の成績評価とします。課題、試験、成績評価の詳細については学習支援システムの「お知らせ」に掲示します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

実習時間を多くし内容の理解とExcelのスキルをより高める。

#### 【学生が準備すべき機器他】

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境とPC環境を用意すること。PCはWindowsが稼働するものでOfficeが搭載されていること（ともにVer.は問わない）。

#### 【Outline and objectives】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門A
安藤 富貴子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、データの作成や検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法、Webページの原理などを理解する。さらに、データ処理の基本と数値データ解析の基礎的な計算方法を理解することを目的とする。

#### 【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの送受信方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法等を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ Webページの簡単な作成方法を理解する。
- ⑥ データ処理の基本と簡単な数値データ解析法を理解する。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境とPC環境を用意すること（大学からの指示です）。PCはWindowsが稼働するものでOfficeが搭載されていること（ともにVer.は問わない）。

講義の前半ではコンピューターとネットワークの利用法を身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、インターネットやホームページの仕組みを理解する。講義の後半は表計算ソフトを用いたデータの集計やデータの視覚化法を学習する。

以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

毎回の授業内容・質問・実習課題の提出・フィードバックなど、授業についての全ては「学習支援システム」を通じて行う。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・講義概要とコンピューターおよびネットワーク環境の簡単な紹介 ・コンピューターのハードウェア構成とOS環境の紹介 ・ローカルエリアネットワークとそのハードウェア構成 ・IDの管理の重要性
第2回	オペレーティングシステムの操作法とファイル操作	・オペレーティングシステムの操作法とファイルの操作 ・メールサーバーとメール伝送の仕組み ・Webメールの利用法
第3回	文書作成ソフトの利用法	・文書作成ソフトの基本操作の習得 ・文書のファイル形式と保存法 ・数式の入力
第4回	定型文書の作成	定型文書の作成と画像データの利用と加工

第5回	さまざまな文書の作成	ビジネス文書や英文の文書の作成
第6回	定型文書の作成演習	・はがきサイズの文書の作成 ・レポート形式の文書の作成
第7回	簡単なホームページの作成	ハイパーリンク形式のファイルの作成 HTML言語によるプログラムの紹介
第8回	プレゼンテーション資料の作り方	プレゼンテーション用ソフトの利用と資料作成方法
第9回	表計算ソフトの基本機能	表計算ソフトの基本操作と種類の機能とその利用法
第10回	表計算ソフトへのデータの読み込みと簡単な計算	・新たな変数の作成、テキストデータの扱い ・インターネット上のデータのダウンロードと整形法
第11回	データの並べ替えと条件処理	データの並べ替えと各種関数の利用法
第12回	ヒストグラムとグラフの作成	・ヒストグラムの作成 ・複合グラフの作成 ・積み上げ棒グラフの作成
第13回	基本統計量の算出	基本統計量の意味と算出手順
第14回	統計処理を利用したサンプルデータからの情報抽出（演習問題）	各種統計量からサンプルデータの特徴を理解する

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

教科書などの予習・復習と講義内で課された課題の作成。  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013年10月、¥1,900+税  
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著  
4月21日から法政大学生協にてwebによる販売が開始されます。

**【参考書】**

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

**【成績評価の方法と基準】**

成績評価項目は、①授業内実習課題：計100点、②定着のための各復習課題：計100点、③アプリごとの試験相当の演習課題：各100点以上を合計した得点を100点満点に換算し総合得点とします。総合得点を法政大学の成績評価表に準拠し本授業の成績評価とします。課題や成績評価の詳細については学習支援システムの「お知らせ」に掲載します。

**【学生の意見等からの気づき】**

実習時間を多くすることで内容の理解とPCスキルをより高める。

**【Outline and objectives】**

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門B
安藤 富貴子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次に、データ処理の基本と数値データ解析の計算方法を理解する。これらに基づいて次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法などを習得することを目的とする。

**【到達目標】**

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの収集方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ データ処理の基本と数値データ解析法を理解する。
- ⑥ 簡単なプログラミングの開発環境を利用できるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境とPC環境を用意すること（大学からの指示です）。PCはWindowsが稼働するものでOfficeが搭載されていること（ともにVer.は問わない）。講義の前半で表計算ソフトを用いたデータの集計や分類、統計処理、2変数の関係の定量化やデータの視覚化法を学習する。講義の後半は、回帰分析によるモデルパラメータの決定法や自動制御など計測・制御の基礎を学習する。最後に、アプリケーションソフトの開発環境を理解する。以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。毎回の授業内容・質問・実習課題の提出・フィードバックなど、授業についての全ては「学習支援システム」を通じて行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	表計算ソフトの基本機能	データの並替えと関数の利用法、及び基本的なグラフ作成。
第2回	2変数間の関係（相関）	散布図の作成と相関係数の算出法。
第3回	相関係数の算出（演習）	演習問題を通しての散布図の作成と相関係数の算出。
第4回	カテゴリーデータの集計	アンケートによる調査データの処理法。
第5回	クロス集計と変数間の関連	クロス集計表の作成と変数間の関連性の検定
第6回	時系列データの処理	・変動と移動平均の算出 ・折れ線グラフによる可視化
第7回	時系列データの分析（演習）	GDPや為替レートなどの分析を行う。
第8回	単回帰分析	・回帰分析の基礎（データの計測とモデルの作成基礎） ・パラメータ決定のアルゴリズム
第9回	ソルバーによる単回帰分析	ソルバーを利用した単回帰分析のパラメータの決定

第10回	ソルバーによる解の探索	ソルバーによる線形計画問題の解法
第11回	マクロプログラムの作り方	マクロプログラムの作成と入力
第12回	プログラミング入門	プログラミングの開発環境から簡単なプログラムを入力し動作確認を行う
第13回	各種応用ソフトウェアの紹介	GIS や代数計算ソフトの紹介と簡単な利用法。
第14回	秋学期最終課題	秋学期最終課題

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習と講義内で課された課題の作成本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013年10月、¥1,900 + 税

宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

#### 【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

#### 【成績評価の方法と基準】

成績評価項目は、①授業内実習課題：計100点、②定着のための復習課題：計100点、③秋学期を前半後半に分け、演習内容とExcelスキルの確認試験を実施：各100点

以上を合計した得点を100点満点に換算し総合得点とします。総合得点を法政大学の成績評価表に準拠し本授業の成績評価とします。課題、試験、成績評価の詳細については学習支援システムの「お知らせ」に掲示します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

実習時間を多くし内容の理解とExcelのスキルをより高める。

#### 【学生が準備すべき機器他】

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境とPC環境を用意すること。PCはWindowsが稼働するものでOfficeが搭載されていること（ともにVer.は問わない）。

#### 【Outline and objectives】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門 A
近藤 佐保子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、データの作成や検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法、Webページの原理などを理解する。さらに、データ処理の基本と数値データ解析の基礎的な計算方法を理解することを目的とする。

#### 【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの送受信方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ Webページの簡単な作成方法を理解する。
- ⑥ データ処理の基本と簡単な数値データ解析法を理解する。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境とPC環境を用意すること（大学からの指示です）。PCはWindowsが稼働するものでOfficeが搭載されていること（ともにVer.は問わない）。

講義の前半ではコンピューターとネットワークの利用法を身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、インターネットやホームページの仕組みを理解する。講義の後半は表計算ソフトを用いたデータの集計やデータの視覚化法を学習する。

以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

教材の提示や課題の提出・フィードバックは「学習支援システムHoppii」を通じて行う。

また操作説明の動画は、Google Driveなどで共有し、「学習支援システムHoppii」にリンクを示す。

オンデマンド型のオンライン授業では、授業内で実施予定であった実習課題が課題として提出されます。そのため、課題が若干多くなりますが、できる限り未提出にならないよう取り組んでください。「学習支援システムHoppii」では、「授業内掲示板」があり、ここで教員への質問と回答、受講生同士の意見交換が可能なので利用してください。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・講義概要とコンピューターおよびネットワーク環境の簡単な紹介 ・コンピューターのハードウェア構成とOS環境の紹介 ・ローカルエリアネットワークとそのハードウェア構成 ・IDの管理の重要性

第2回	オペレーティングシステムの操作法とファイル操作	・オペレーティングシステムの操作法とファイルの操作 ・メールサーバーとメール伝送の仕組み
第3回	文書作成ソフトの利用法	・Webメールの利用法 ・文書作成ソフトの基本操作の習得 ・文書のファイル形式と保存法 ・数式の入力
第4回	定型文書の作成	定型文書の作成と画像データの利用と加工
第5回	さまざまな文書の作成	ビジネス文書や英文の文書の作成
第6回	定型文書の作成演習	・はがきサイズの文書の作成 ・レポート形式の文書の作成
第7回	簡単なホームページの作成	ハイパーリンク形式のファイルの作成 HTML言語によるプログラムの紹介
第8回	プレゼンテーション資料の作り方	プレゼンテーション用ソフトの利用と資料作成方法
第9回	表計算ソフトの基本機能	表計算ソフトの基本操作と種類の機能とその利用法
第10回	表計算ソフトへのデータの読み込みと簡単な計算	・新たな変数の作成、テキストデータの扱い ・インターネット上のデータのダウンロードと整形法
第11回	データの並べ替えと条件処理	データの並べ替えと各種関数の利用法
第12回	ヒストグラムとグラフの作成	・ヒストグラムの作成 ・複合グラフの作成 ・積み上げ棒グラフの作成
第13回	基本統計量の算出	基本統計量の意味と算出手順
第14回	統計処理を利用したサンプルデータからの情報抽出（演習問題）	各種統計量からサンプルデータの特徴を理解する

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

教科書などの予習・復習と講義内で課された課題の作成。  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013年10月、¥1,900＋税  
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著  
4月21日から法政大学生協にてwebによる販売が開始されます。

**【参考書】**

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

**【成績評価の方法と基準】**

授業への参加の程度 20%、  
授業時に出题される複数回の課題の提出 50%、  
期末試験（Excelの実習形式）30%とする。  
ただし、オンラインの場合、授業への参加は課題の提出状況に代える。  
また試験は期末課題に代える  
その他、授業支援システムの「お知らせ」を適宜参照してください。

**【学生の意見等からの気づき】**

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

**【Outline and objectives】**

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門B
近藤 佐保子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次に、データ処理の基本と数値データ解析の計算方法を理解する。これらに基づいて次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法などを習得することを目的とする。

**【到達目標】**

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの収集方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ データ処理の基本と数値データ解析法を理解する。
- ⑥ 簡単なプログラミングの開発環境を利用できるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境とPC環境を用意すること（大学からの指示です）。PCはWindowsが稼働するものでOfficeが搭載されていること（ともにVer.は問わない）。

講義の前半で表計算ソフトを用いたデータの集計や分類、統計処理、2変量の関係の定量化やデータの視覚化法を学習する。講義の後半は、回帰分析によるモデルパラメータの決定法や自動制御など計測・制御の基礎を学習する。最後に、アプリケーションソフトの開発環境を理解する。以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

教材の提示や課題の提出・フィードバックは「学習支援システム Hoppii」を通じて行う。

また操作説明の動画は、Google Driveなどで共有し、「学習支援システム Hoppii」にリンクを示す。

オンデマンド型のオンライン授業では、授業内で実施予定であった実習課題が課題として提出されます。そのため、課題が若干多くなりますが、できる限り未提出にならないよう取り組んでください。「学習支援システム Hoppii」では、「授業内掲示板」があり、ここで教員への質問と回答、受講生同士の意見交換が可能なので利用してください。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	表計算ソフトの基本機能	データの並替えと関数の利用法、及び基本的なグラフ作成。
第2回	2変数間の関係（相関）	散布図の作成と相関係数の算出法。
第3回	相関係数の算出（演習）	演習問題を通しての散布図の作成と相関係数の算出。
第4回	カテゴリーデータの集計	アンケートによる調査データの処理法。
第5回	クロス集計と変数間の関連	クロス集計表の作成と変数間の関連性の検定
第6回	時系列データの処理	・変動と移動平均の算出 ・折れ線グラフによる可視化

第7回	時系列データの分析 (演習)	GDP や為替レートなどの分析を行う。
第8回	単回帰分析	・ 回帰分析の基礎 (データの計測とモデルの作成基礎) ・ パラメータ決定のアルゴリズム
第9回	ソルバーによる単回帰分析	ソルバーを利用した単回帰分析のパラメータの決定
第10回	ソルバーによる解の探索	ソルバーによる線形計画問題の解法
第11回	マクロプログラムの作り方	マクロプログラムの作成と入力
第12回	プログラミング入門	プログラミングの開発環境から簡単なプログラムを入力し動作確認を行う
第13回	各種応用ソフトウェアの紹介	GIS や代数計算ソフトの紹介と簡単な利用法。
第14回	秋学期最終課題	秋学期最終課題

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

教科書の予習・復習と講義内で課された課題の作成本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013年10月、¥1,900 + 税

宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

#### 【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

#### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加の程度 20%、  
授業時に出题される複数回の課題の提出 50%、  
期末試験 (Excel の実習形式) 30%とする。  
ただし、オンラインの場合、授業への参加は課題の提出状況に代える。  
また試験は期末課題に代える  
その他、授業支援システムの「お知らせ」を適宜参照してください。

#### 【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

#### 【学生が準備すべき機器他】

本年度は事情により当面の間オンライン (リアルタイムではない) 方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること (ともに Ver. は問わない)。

#### 【Outline and objectives】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門 A
近藤 佐保子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、データの作成や検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法、Web ページの原理などを理解する。さらに、データ処理の基本と数値データ解析の基礎的な計算方法を理解することを目的とする。

#### 【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの送受信方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ Web ページの簡単な作成方法を理解する。
- ⑥ データ処理の基本と簡単な数値データ解析法を理解する。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

本年度は事情により当面の間オンライン (リアルタイムではない) 方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること (大学からの指示です)。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること (ともに Ver. は問わない)。

講義の前半ではコンピューターとネットワークの利用法を身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、インターネットやホームページの仕組みを理解する。講義の後半は表計算ソフトを用いたデータの集計やデータの視覚化法を学習する。

以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

教材の提示や課題の提出・フィードバックは「学習支援システム Hoppii」を通じて行う。

また操作説明の動画は、Google Drive などでも共有し、「学習支援システム Hoppii」にリンクを示す。

オンデマンド型のオンライン授業では、授業内で実施予定であった実習課題が課題として提出されます。そのため、課題が若干多くなりますが、できる限り未提出にならないよう取り組んでください。「学習支援システム Hoppii」では、「授業内掲示板」があり、ここで教員への質問と回答、受講生同士の意見交換が可能なので利用してください。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・ 講義概要とコンピューターおよびネットワーク環境の簡単な紹介 ・ コンピューターのハードウェア構成と OS 環境の紹介 ・ ローカルエリアネットワークとそのハードウェア構成 ・ ID の管理の重要性

第2回	オペレーティングシステムの操作法とファイル操作	・オペレーティングシステムの操作法とファイルの操作 ・メールサーバーとメール伝送の仕組み
第3回	文書作成ソフトの利用法	・Webメールの利用法 ・文書作成ソフトの基本操作の習得 ・文書のファイル形式と保存法 ・数式の入力
第4回	定型文書の作成	定型文書の作成と画像データの利用と加工
第5回	さまざまな文書の作成	ビジネス文書や英文の文書の作成
第6回	定型文書の作成演習	・はがきサイズの文書の作成 ・レポート形式の文書の作成
第7回	簡単なホームページの作成	ハイパーリンク形式のファイルの作成 HTML言語によるプログラムの紹介
第8回	プレゼンテーション資料の作り方	プレゼンテーション用ソフトの利用と資料作成方法
第9回	表計算ソフトの基本機能	表計算ソフトの基本操作と種類の機能とその利用法
第10回	表計算ソフトへのデータの読み込みと簡単な計算	・新たな変数の作成、テキストデータの扱い ・インターネット上のデータのダウンロードと整形法
第11回	データの並べ替えと条件処理	データの並べ替えと各種関数の利用法
第12回	ヒストグラムとグラフの作成	・ヒストグラムの作成 ・複合グラフの作成 ・積み上げ棒グラフの作成
第13回	基本統計量の算出	基本統計量の意味と算出手順
第14回	統計処理を利用したサンプルデータからの情報抽出（演習問題）	各種統計量からサンプルデータの特徴を理解する

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書などの予習・復習と講義内で課された課題の作成。  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013年10月、¥1,900＋税  
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著  
4月21日から法政大学生協にてwebによる販売が開始されます。

#### 【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

#### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加の程度 20%、  
授業時に出题される複数回の課題の提出 50%、  
期末試験（Excelの実習形式）30%とする。  
ただし、オンラインの場合、授業への参加は課題の提出状況に代える。  
また試験は期末課題に代える  
その他、授業支援システムの「お知らせ」を適宜参照してください。

#### 【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

#### 【Outline and objectives】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門B
近藤 佐保子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次に、データ処理の基本と数値データ解析の計算方法を理解する。これらに基づいて次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法などを習得することを目的とする。

#### 【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの収集方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ データ処理の基本と数値データ解析法を理解する。
- ⑥ 簡単なプログラミングの開発環境を利用できるようにする。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境とPC環境を用意すること（大学からの指示です）。PCはWindowsが稼働するものでOfficeが搭載されていること（ともにVer.は問わない）。

講義の前半で表計算ソフトを用いたデータの集計や分類、統計処理、2変量の関係の定量化やデータの視覚化法を学習する。講義の後半は、回帰分析によるモデルパラメータの決定法や自動制御など計測・制御の基礎を学習する。最後に、アプリケーションソフトの開発環境を理解する。以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

教材の提示や課題の提出・フィードバックは「学習支援システム Hoppii」を通じて行う。

また操作説明の動画は、Google Driveなどで共有し、「学習支援システム Hoppii」にリンクを示す。

オンデマンド型のオンライン授業では、授業内で実施予定であった実習課題が課題として提出されます。そのため、課題が若干多くなりますが、できる限り未提出にならないよう取り組んでください。「学習支援システム Hoppii」では、「授業内掲示板」があり、ここで教員への質問と回答、受講生同士の意見交換が可能なので利用してください。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	表計算ソフトの基本機能	データの並替えと関数の利用法、及び基本的なグラフ作成。
第2回	2変数間の関係（相関）	散布図の作成と相関係数の算出法。
第3回	相関係数の算出（演習）	演習問題を通しての散布図の作成と相関係数の算出。
第4回	カテゴリーデータの集計	アンケートによる調査データの処理法。
第5回	クロス集計と変数間の関連	クロス集計表の作成と変数間の関連性の検定
第6回	時系列データの処理	・変動と移動平均の算出 ・折れ線グラフによる可視化

第7回	時系列データの分析 (演習)	GDP や為替レートなどの分析を行う。
第8回	単回帰分析	・ 回帰分析の基礎 (データの計測とモデルの作成基礎) ・ パラメータ決定のアルゴリズム
第9回	ソルバーによる単回帰分析	ソルバーを利用した単回帰分析のパラメータの決定
第10回	ソルバーによる解の探索	ソルバーによる線形計画問題の解法
第11回	マクロプログラムの作り方	マクロプログラムの作成と入力
第12回	プログラミング入門	プログラミングの開発環境から簡単なプログラムを入力し動作確認を行う
第13回	各種応用ソフトウェアの紹介	GIS や代数計算ソフトの紹介と簡単な利用法。
第14回	秋学期最終課題	秋学期最終課題

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

教科書の予習・復習と講義内で課された課題の作成本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013年10月、¥1,900 + 税

宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

#### 【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

#### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加の程度 20%、  
授業時に出题される複数回の課題の提出 50%、  
期末試験 (Excel の実習形式) 30%とする。  
ただし、オンラインの場合、授業への参加は課題の提出状況に代える。  
また試験は期末課題に代える  
その他、授業支援システムの「お知らせ」を適宜参照してください。

#### 【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

#### 【学生が準備すべき機器他】

本年度は事情により当面の間オンライン (リアルタイムではない) 方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること (ともに Ver. は問わない)。

#### 【Outline and objectives】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門 A
近藤 佐保子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、データの作成や検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法、Web ページの原理などを理解する。さらに、データ処理の基本と数値データ解析の基礎的な計算方法を理解することを目的とする。

#### 【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの送受信方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ Web ページの簡単な作成方法を理解する。
- ⑥ データ処理の基本と簡単な数値データ解析法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

本年度は事情により当面の間オンライン (リアルタイムではない) 方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること (大学からの指示です)。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること (ともに Ver. は問わない)。

講義の前半ではコンピューターとネットワークの利用法を身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、インターネットやホームページの仕組みを理解する。講義の後半は表計算ソフトを用いたデータの集計やデータの視覚化法を学習する。

以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

教材の提示や課題の提出・フィードバックは「学習支援システム Hoppii」を通じて行う。

また操作説明の動画は、Google Drive などでも共有し、「学習支援システム Hoppii」にリンクを示す。

オンデマンド型のオンライン授業では、授業内で実施予定であった実習課題が課題として提出されます。そのため、課題が若干多くなりますが、できる限り未提出にならないよう取り組んでください。「学習支援システム Hoppii」では、「授業内掲示板」があり、ここで教員への質問と回答、受講生同士の意見交換が可能なので利用してください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・ 講義概要とコンピューターおよびネットワーク環境の簡単な紹介 ・ コンピューターのハードウェア構成と OS 環境の紹介 ・ ローカルエリアネットワークとそのハードウェア構成 ・ ID の管理の重要性

第2回	オペレーティングシステムの操作法とファイル操作	・オペレーティングシステムの操作法とファイルの操作 ・メールサーバーとメール伝送の仕組み
第3回	文書作成ソフトの利用法	・Webメールの利用法 ・文書作成ソフトの基本操作の習得 ・文書のファイル形式と保存法 ・数式の入力
第4回	定型文書の作成	定型文書の作成と画像データの利用と加工
第5回	さまざまな文書の作成	ビジネス文書や英文の文書の作成
第6回	定型文書の作成演習	・はがきサイズの文書の作成 ・レポート形式の文書の作成
第7回	簡単なホームページの作成	ハイパーリンク形式のファイルの作成 HTML言語によるプログラムの紹介
第8回	プレゼンテーション資料の作り方	プレゼンテーション用ソフトの利用と資料作成方法
第9回	表計算ソフトの基本機能	表計算ソフトの基本操作と種類の機能とその利用法
第10回	表計算ソフトへのデータの読み込みと簡単な計算	・新たな変数の作成、テキストデータの扱い ・インターネット上のデータのダウンロードと整形法
第11回	データの並べ替えと条件処理	データの並べ替えと各種関数の利用法
第12回	ヒストグラムとグラフの作成	・ヒストグラムの作成 ・複合グラフの作成 ・積み上げ棒グラフの作成
第13回	基本統計量の算出	基本統計量の意味と算出手順
第14回	統計処理を利用したサンプルデータからの情報抽出（演習問題）	各種統計量からサンプルデータの特徴を理解する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書などの予習・復習と講義内で課された課題の作成。  
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013年10月、¥1,900＋税  
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著  
4月21日から法政大学生協にてwebによる販売が開始されます。

## 【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

## 【成績評価の方法と基準】

授業への参加の程度 20%、  
授業時に出题される複数回の課題の提出 50%、  
期末試験（Excelの実習形式）30%とする。  
ただし、オンラインの場合、授業への参加は課題の提出状況に代える。  
また試験は期末課題に代える  
その他、授業支援システムの「お知らせ」を適宜参照してください。

## 【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

## 【Outline and objectives】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門B
近藤 佐保子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次に、データ処理の基本と数値データ解析の計算方法を理解する。これらに基づいて次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法などを習得することを目的とする。

## 【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの収集方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ データ処理の基本と数値データ解析法を理解する。
- ⑥ 簡単なプログラミングの開発環境を利用できるようにする。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

## 【授業の進め方と方法】

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境とPC環境を用意すること（大学からの指示です）。PCはWindowsが稼働するものでOfficeが搭載されていること（ともにVer.は問わない）。

講義の前半で表計算ソフトを用いたデータの集計や分類、統計処理、2変量の関係の定量化やデータの視覚化法を学習する。講義の後半は、回帰分析によるモデルパラメータの決定法や自動制御など計測・制御の基礎を学習する。最後に、アプリケーションソフトの開発環境を理解する。以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

教材の提示や課題の提出・フィードバックは「学習支援システム Hoppii」を通じて行う。

また操作説明の動画は、Google Driveなどで共有し、「学習支援システム Hoppii」にリンクを示す。

オンデマンド型のオンライン授業では、授業内で実施予定であった実習課題が課題として提出されます。そのため、課題が若干多くなりますが、できる限り未提出にならないよう取り組んでください。「学習支援システム Hoppii」では、「授業内掲示板」があり、ここで教員への質問と回答、受講生同士の意見交換が可能なので利用してください。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	表計算ソフトの基本機能	データの並替えと関数の利用法、及び基本的なグラフ作成。
第2回	2変数間の関係（相関）	散布図の作成と相関係数の算出法。
第3回	相関係数の算出（演習）	演習問題を通しての散布図の作成と相関係数の算出。
第4回	カテゴリーデータの集計	アンケートによる調査データの処理法。
第5回	クロス集計と変数間の関連	クロス集計表の作成と変数間の関連性の検定
第6回	時系列データの処理	・変動と移動平均の算出 ・折れ線グラフによる可視化

第7回	時系列データの分析 (演習)	GDP や為替レートなどの分析を行う。
第8回	単回帰分析	・ 回帰分析の基礎 (データの計測とモデルの作成基礎) ・ パラメータ決定のアルゴリズム
第9回	ソルバーによる単回帰分析	ソルバーを利用した単回帰分析のパラメータの決定
第10回	ソルバーによる解の探索	ソルバーによる線形計画問題の解法
第11回	マクロプログラムの作り方	マクロプログラムの作成と入力
第12回	プログラミング入門	プログラミングの開発環境から簡単なプログラムを入力し動作確認を行う
第13回	各種応用ソフトウェアの紹介	GIS や代数計算ソフトの紹介と簡単な利用法。
第14回	秋学期最終課題	秋学期最終課題

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

教科書の予習・復習と講義内で課された課題の作成本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト (教科書)】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013年10月、¥1,900 + 税

宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

#### 【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

#### 【成績評価の方法と基準】

授業への参加の程度 20%、  
授業時に出题される複数回の課題の提出 50%、  
期末試験 (Excel の実習形式) 30%とする。  
ただし、オンラインの場合、授業への参加は課題の提出状況に代える。  
また試験は期末課題に代える  
その他、授業支援システムの「お知らせ」を適宜参照してください。

#### 【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

#### 【学生が準備すべき機器他】

本年度は事情により当面の間オンライン (リアルタイムではない) 方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること (ともに Ver. は問わない)。

#### 【Outline and objectives】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門 A
小沢 和浩
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、データの作成や検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法、Web ページの原理などを理解する。さらに、データ処理の基本と数値データ解析の基礎的な計算方法を理解することを目的とする。

#### 【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの送受信方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ Web ページの簡単な作成方法を理解する。
- ⑥ データ処理の基本と簡単な数値データ解析法を理解する。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

本年度は事情により当面の間オンライン (リアルタイムではない) 方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること (大学からの指示です)。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること (ともに Ver. は問わない)。

講義の前半ではコンピューターとネットワークの利用法を身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、インターネットやホームページの仕組みを理解する。講義の後半は表計算ソフトを用いたデータの集計やデータの視覚化法を学習する。

以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

講義の開講は各教員から「学習支援システム」を通じて案内があります。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

#### 【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・ 講義概要とコンピューターおよびネットワーク環境の簡単な紹介 ・ コンピューターのハードウェア構成と OS 環境の紹介 ・ ローカルエリアネットワークとそのハードウェア構成 ・ ID の管理の重要性
第2回	オペレーティングシステムの操作法とファイル操作	・ オペレーティングシステムの操作法とファイルの操作 ・ メールサーバーとメール伝送の仕組み ・ Web メールの利用法
第3回	文書作成ソフトの利用法	・ 文書作成ソフトの基本操作の習得 ・ 文書のファイル形式と保存法 ・ 数式の入力

第4回	定型文書の作成	定型文書の作成と画像データの利用と加工
第5回	さまざまな文書の作成	ビジネス文書や英文の文書の作成
第6回	定型文書の作成演習	・はがきサイズの文書の作成 ・レポート形式の文書の作成
第7回	簡単なホームページの作成	ハイパーリンク形式のファイルの作成 HTML 言語によるプログラムの紹介
第8回	プレゼンテーション資料の作り方	プレゼンテーション用ソフトの利用と資料作成方法
第9回	表計算ソフトの基本機能	表計算ソフトの基本操作と種類の機能とその利用法
第10回	表計算ソフトへのデータの読み込みと簡単な計算	・新たな変数の作成、テキストデータの扱い ・インターネット上のデータのダウンロードと整形法
第11回	データの並べ替えと条件処理	データの並べ替えと各種関数の利用法
第12回	ヒストグラムとグラフの作成	・ヒストグラムの作成 ・複合グラフの作成 ・積み上げ棒グラフの作成
第13回	基本統計量の算出	基本統計量の意味と算出手順
第14回	統計処理を利用したサンプルデータからの情報抽出（演習問題）	各種統計量からサンプルデータの特徴を理解する

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書などの予習・復習と講義内で課された課題の作成。  
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

以下のテキストを予定していますが、担当者により異なる場合があります。

授業支援システムにて担当教員からの指示に従ってください。  
実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税

宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著  
法政大学生協にて web による販売が開始されます。

#### 【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

#### 【成績評価の方法と基準】

毎回課される課題の合計点を 100% として評価する。  
課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

#### 【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

#### 【学生が準備すべき機器他】

Windows8 以上の OS を搭載し、Office2013 以降のものがインストールされている PC を用意してください。この講義は Mac には対応していません。

#### 【Outline and objectives】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門 B
小沢 和浩
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次に、データ処理の基本と数値データ解析の計算方法を理解する。これらに基づいて次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法などを習得することを目的とする。

#### 【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの収集方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ データ処理の基本と数値データ解析法を理解する。
- ⑥ 簡単なプログラミングの開発環境を利用できるようにする。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること（大学からの指示です）。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。

講義の前半で表計算ソフトを用いたデータの集計や分類、統計処理、2 変数の関係の定量化やデータの視覚化法を学習する。講義の後半は、回帰分析によるモデルパラメータの決定法や自動制御など計測・制御の基礎を学習する。最後に、アプリケーションソフトの開発環境を理解する。以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	表計算ソフトの基本機能	データの並替えと関数の利用法、及び基本的なグラフ作成。
第2回	2変数間の関係（相関）	散布図の作成と相関係数の算出法。
第3回	相関係数の算出（演習）	演習問題を通しての散布図の作成と相関係数の算出。
第4回	カテゴリーデータの集計	アンケートによる調査データの処理法。
第5回	クロス集計と変数間の関連	クロス集計表の作成と変数間の関連性の検定
第6回	時系列データの処理	・変動と移動平均の算出 ・折れ線グラフによる可視化
第7回	時系列データの分析（演習）	GDP や為替レートなどの分析を行う。
第8回	単回帰分析	・回帰分析の基礎（データの計測とモデルの作成基礎） ・パラメータ決定のアルゴリズム
第9回	ソルバーによる単回帰分析	ソルバーを利用した単回帰分析のパラメータの決定
第10回	ソルバーによる解の探索	ソルバーによる線形計画問題の解法

第 11 回	マクロプログラムの作り方	マクロプログラムの作成と入力方
第 12 回	プログラミング入門	プログラミングの開発環境から簡単なプログラムを入力し動作確認を行う
第 13 回	各種応用ソフトウェアの紹介	GIS や代数計算ソフトの紹介と簡単な利用法。
第 14 回	秋学期最終課題	秋学期最終課題

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習と講義内で課された課題の作成本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

以下のテキストを予定していますが、担当者により異なる場合があります。

授業支援システムにて担当教員からの指示に従ってください。

実践コンピュタリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税

宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

法政大学生協にて web による販売が開始されます。

#### 【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

#### 【成績評価の方法と基準】

毎回課される課題の合計点を 100%として評価する。

課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

#### 【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

#### 【学生が準備すべき機器他】

Windows8 以上の OS を搭載し、Office2013 以降のものがインストールされている PC を用意してください。この講義は Mac には対応していません。

#### 【Outline and objectives】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門 A
宮脇 典彦
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、データの作成や検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法、Web ページの原理などを理解する。さらに、データ処理の基本と数値データ解析の基礎的な計算方法を理解することを目的とする。

#### 【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの送受信方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成方法を習得する。
- ⑤ Web ページの簡単な作成方法を理解する。
- ⑥ データ処理の基本と簡単な数値データ解析法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

教室での授業は実習室の PC・ネットワークを用いて進めるとともに、大学で用意している「学習支援システムシステム」を利用して教材を表示し課題を提出する。なお、コロナ禍によりキャンパスでの授業が行われない場合は、オンライン方式で講義を進める。

講義の前半ではコンピューターとネットワークの利用法を身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、インターネットやホームページの仕組みを理解する。講義の後半は表計算ソフトを用いたデータの集計やデータの視覚化法を学習する。

課題等に対するフィードバックは、授業内あるいは学習支援システムを用いて随時行う。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・講義概要とコンピューターおよびネットワーク環境の簡単な紹介 ・コンピューターのハードウェア構成と OS 環境の紹介 ・ローカルエリアネットワークとそのハードウェア構成 ・ID の管理の重要性
第 2 回	オペレーティングシステムの操作法とファイル操作	・オペレーティングシステムの操作法とファイルの操作 ・メールサーバーとメール伝送の仕組み ・Web メールの利用法
第 3 回	文書作成ソフトの利用法	・文書作成ソフトの基本操作の習得 ・文書のファイル形式と保存法 ・数式の入力
第 4 回	定型文書の作成	定型文書の作成と画像データの利用と加工
第 5 回	さまざまな文書の作成	ビジネス文書や英文の文書の作成
第 6 回	定型文書の作成演習	・はがきサイズの文書の作成 ・レポート形式の文書の作成
第 7 回	簡単なホームページの作成	ハイパーリンク形式のファイルの作成
第 8 回	プレゼンテーション資料の作り方	HTML 言語によるプログラムの紹介 プレゼンテーション用ソフトの利用と資料作成方法
第 9 回	表計算ソフトの基本機能	表計算ソフトの基本操作と種類の機能とその利用法
第 10 回	表計算ソフトへのデータの読み込みと簡単な計算	・新たな変数の作成、テキストデータの扱い ・インターネット上のデータのダウンロードと整形法
第 11 回	データの並べ替えと条件処理	データの並べ替えと各種関数の利用法
第 12 回	ヒストグラムとグラフの作成	・ヒストグラムの作成 ・複合グラフの作成 ・積み上げ棒グラフの作成
第 13 回	基本統計量の算出	基本統計量の意味と算出手順

第 14 回 統計処理を利用したサン 各種統計量からサンプルデータの特徴  
ブルデータからの情報抽 を理解する  
出（演習問題）

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書などの予習・復習と講義内で課された課題の作成。  
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税  
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

4 月 21 日から法政大学生協にて web による販売が開始されます。

#### 【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

#### 【成績評価の方法と基準】

以下の配分で成績を評価します。

平常点 40 %  
課題 30 %  
小テスト 30 %

#### 【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

#### 【学生が準備すべき機器他】

自宅等での学習を可能とするため、ネットワーク環境と PC 環境を用意すること。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。

#### 【Outline and objectives】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA

## コンピューター入門 B

宮脇 典彦

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次に、データ処理の基本と数値データ解析の計算方法を理解する。これらに基づいて次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法などを習得することを目的とする。

#### 【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの収集方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成法を習得する。
- ⑤ データ処理の基本と数値データ解析法を理解する。
- ⑥ 簡単なプログラミングの開発環境を利用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

教室での授業は実習室の PC・ネットワークを用いて進めるとともに、大学で用意している「学習支援システムシステム」を利用して教材を表示し課題を提出する。なお、コロナ禍によりキャンパスでの授業が行われない場合は、オンライン方式で講義を進める。

講義の前半で表計算ソフトを用いたデータの集計や分類、統計処理、2 変量の関係の定量化やデータの視覚化法を学習する。講義の後半は、回帰分析によるモデルパラメータの決定法や自動制御など計測・制御の基礎を学習する。最後に、アプリケーションソフトの開発環境を理解する。

課題等に対するフィードバックは、授業内あるいは学習支援システムを用いて随時行う。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	表計算ソフトの基本機能	データの並替えと関数の利用法、及び基本的なグラフ作成。
第 2 回	2 変数間の関係（相関）	散布図の作成と相関係数の算出法。
第 3 回	相関係数の算出（演習）	演習問題を通しての散布図の作成と相関係数の算出。
第 4 回	カテゴリーデータの集計	アンケートによる調査データの処理法。
第 5 回	クロス集計と変数間の関連	クロス集計表の作成と変数間の関連性の検定
第 6 回	時系列データの処理	・変動と移動平均の算出 ・折れ線グラフによる可視化
第 7 回	時系列データの分析（演習）	GDP や為替レートなどの分析を行う。
第 8 回	単回帰分析	・回帰分析の基礎（データの計測とモデルの作成基礎） ・パラメータ決定のアルゴリズム
第 9 回	ソルバーによる単回帰分析	ソルバーを利用した単回帰分析のパラメータの決定
第 10 回	ソルバーによる解の探索	ソルバーによる線形計画問題の解法
第 11 回	マクロプログラムの作り方	マクロプログラムの作成と入力
第 12 回	プログラミング入門	プログラミングの開発環境から簡単なプログラムを入力し動作確認を行う
第 13 回	各種応用ソフトウェアの紹介	GIS や代数計算ソフトの紹介と簡単な利用法。
第 14 回	秋学期最終課題	秋学期最終課題

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習と講義内で課された課題の作成本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税  
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

#### 【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

#### 【成績評価の方法と基準】

以下の配分で成績を評価します。

平常点 40 %

課題 30 %  
小テスト 30 %

**【学生の意見等からの気づき】**

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

**【学生が準備すべき機器他】**

自宅等での学習を可能とするため、ネットワーク環境と PC 環境を用意すること。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。

**【Outline and objectives】**

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門 A
坂部 創一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、データの作成や検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法、Web ページの原理などを理解する。さらに、データ処理の基本と数値データ解析の基礎的な計算方法を理解することを目的とする。

**【到達目標】**

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの送受信方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ Web ページの簡単な作成方法を理解する。
- ⑥ データ処理の基本と簡単な数値データ解析法を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること（大学からの指示です）。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。

講義の前半ではコンピューターとネットワークの利用法を身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、インターネットやホームページの仕組みを理解する。講義の後半は表計算ソフトを用いたデータの集計やデータの視覚化法を学習する。

以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

講義の開講は各教員から「学習支援システム」を通じて案内があります。

課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・ 講義概要とコンピューターおよびネットワーク環境の簡単な紹介 ・ コンピューターのハードウェア構成と OS 環境の紹介 ・ ローカルエリアネットワークとそのハードウェア構成 ・ ID の管理の重要性
第 2 回	オペレーティングシステムの操作法とファイル操作	・ オペレーティングシステムの操作法とファイルの操作 ・ メールサーバーとメール伝送の仕組み ・ Web メールの利用法
第 3 回	文書作成ソフトの利用法	・ 文書作成ソフトの基本操作の習得 ・ 文書のファイル形式と保存法 ・ 数式の入力

第4回	定型文書の作成	定型文書の作成と画像データの利用と加工
第5回	さまざまな文書の作成	ビジネス文書や英文の文書の作成
第6回	定型文書の作成演習	・はがきサイズの文書の作成 ・レポート形式の文書の作成
第7回	簡単なホームページの作成	ハイパーリンク形式のファイルの作成 HTML 言語によるプログラムの紹介
第8回	プレゼンテーション資料の作り方	プレゼンテーション用ソフトの利用と資料作成用方法
第9回	表計算ソフトの基本機能	表計算ソフトの基本操作と種類の機能とその利用法
第10回	表計算ソフトへのデータの読み込みと簡単な計算	・新たな変数の作成、テキストデータの扱い ・インターネット上のデータのダウンロードと整形法
第11回	データの並べ替えと条件処理	データの並べ替えと各種関数の利用法
第12回	ヒストグラムとグラフの作成	・ヒストグラムの作成 ・複合グラフの作成 ・積み上げ棒グラフの作成
第13回	基本統計量の算出	基本統計量の意味と算出手順
第14回	統計処理を利用したサンプルデータからの情報抽出（演習問題）	各種統計量からサンプルデータの特徴を理解する

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書などの予習・復習と講義内で課された課題の作成。  
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税  
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著  
4 月 21 日から法政大学生協にて web による販売が開始されます。

#### 【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

#### 【成績評価の方法と基準】

ほぼ毎回における提出課題 100%

#### 【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

#### 【Outline and objectives】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門 B
坂部 創一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次に、データ処理の基本と数値データ解析の計算方法を理解する。これらに基づいて次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法などを習得することを目的とする。

#### 【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの収集方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ データ処理の基本と数値データ解析法を理解する。
- ⑥ 簡単なプログラミングの開発環境を利用できるようにする。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること（大学からの指示です）。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。講義の前半で表計算ソフトを用いたデータの集計や分類、統計処理、2 変数の関係の定量化やデータの視覚化法を学習する。講義の後半は、回帰分析によるモデルパラメータの決定法や自動制御など計測・制御の基礎を学習する。最後に、アプリケーションソフトの開発環境を理解する。以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

講義の開講は各教員から「学習支援システム」を通じて案内があります。

課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	表計算ソフトの基本機能	データの並替えと関数の利用法、及び基本的なグラフ作成。
第 2 回	2 変数間の関係（相関）	散布図の作成と相関係数の算出法。
第 3 回	相関係数の算出（演習）	演習問題を通しての散布図の作成と相関係数の算出。
第 4 回	カテゴリーデータの集計	アンケートによる調査データの処理法。
第 5 回	クロス集計と変数間の関連	クロス集計表の作成と変数間の関連性の検定
第 6 回	時系列データの処理	・変動と移動平均の算出 ・折れ線グラフによる可視化
第 7 回	時系列データの分析（演習）	GDP や為替レートなどの分析を行う。
第 8 回	単回帰分析	・回帰分析の基礎（データの計測とモデルの作成基礎） ・パラメータ決定のアルゴリズム
第 9 回	ソルバーによる単回帰分析	ソルバーを利用した単回帰分析のパラメータの決定

第10回	ソルバーによる解の探索	ソルバーによる線形計画問題の解法
第11回	マクロプログラムの作り方	マクロプログラムの作成と入力
第12回	プログラミング入門	プログラミングの開発環境から簡単なプログラムを入力し動作確認を行う
第13回	各種応用ソフトウェアの紹介	GIS や代数計算ソフトの紹介と簡単な利用法。
第14回	秋学期最終課題	秋学期最終課題

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習と講義内で課された課題の作成本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013年10月、¥1,900+税  
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

#### 【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

#### 【成績評価の方法と基準】

ほぼ毎回における提出課題 100%

#### 【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

#### 【学生が準備すべき機器他】

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境とPC環境を用意すること。PCはWindowsが稼働するものでOfficeが搭載されていること（ともにVer.は問わない）。

#### 【Outline and objectives】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門 A
坂部 創一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、データの作成や検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法、Webページの原理などを理解する。さらに、データ処理の基本と数値データ解析の基礎的な計算方法を理解することを目的とする。

#### 【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの送受信方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ Webページの簡単な作成方法を理解する。
- ⑥ データ処理の基本と簡単な数値データ解析法を理解する。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境とPC環境を用意すること（大学からの指示です）。PCはWindowsが稼働するものでOfficeが搭載されていること（ともにVer.は問わない）。

講義の前半ではコンピューターとネットワークの利用法を身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、インターネットやホームページの仕組みを理解する。講義の後半は表計算ソフトを用いたデータの集計やデータの視覚化法を学習する。

以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

講義の開講は各教員から「学習支援システム」を通じて案内があります。

課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・講義概要とコンピューターおよびネットワーク環境の簡単な紹介 ・コンピューターのハードウェア構成とOS環境の紹介 ・ローカルエリアネットワークとそのハードウェア構成 ・IDの管理の重要性
第2回	オペレーティングシステムの操作法とファイル操作	・オペレーティングシステムの操作法とファイルの操作 ・メールサーバーとメール伝送の仕組み ・Webメールの利用法
第3回	文書作成ソフトの利用法	・文書作成ソフトの基本操作の習得 ・文書のファイル形式と保存法 ・数式の入力

第4回	定型文書の作成	定型文書の作成と画像データの利用と加工
第5回	さまざまな文書の作成	ビジネス文書や英文の文書の作成
第6回	定型文書の作成演習	・はがきサイズの文書の作成 ・レポート形式の文書の作成
第7回	簡単なホームページの作成	ハイパーリンク形式のファイルの作成 HTML 言語によるプログラムの紹介
第8回	プレゼンテーション資料の作り方	プレゼンテーション用ソフトの利用と資料作成用方法
第9回	表計算ソフトの基本機能	表計算ソフトの基本操作と種類の機能とその利用法
第10回	表計算ソフトへのデータの読み込みと簡単な計算	・新たな変数の作成、テキストデータの扱い ・インターネット上のデータのダウンロードと整形法
第11回	データの並べ替えと条件処理	データの並べ替えと各種関数の利用法
第12回	ヒストグラムとグラフの作成	・ヒストグラムの作成 ・複合グラフの作成 ・積み上げ棒グラフの作成
第13回	基本統計量の算出	基本統計量の意味と算出手順
第14回	統計処理を利用したサンプルデータからの情報抽出（演習問題）	各種統計量からサンプルデータの特徴を理解する

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書などの予習・復習と講義内で課された課題の作成。  
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税

宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

4 月 21 日から法政大学生協にて web による販売が開始されます。

#### 【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

#### 【成績評価の方法と基準】

ほぼ毎回における提出課題 100%

#### 【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

#### 【Outline and objectives】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門 B
坂部 創一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次に、データ処理の基本と数値データ解析の計算方法を理解する。これらに基づいて次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法などを習得することを目的とする。

#### 【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの収集方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ データ処理の基本と数値データ解析法を理解する。
- ⑥ 簡単なプログラミングの開発環境を利用できるようにする。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること（大学からの指示です）。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。

講義の前半で表計算ソフトを用いたデータの集計や分類、統計処理、2 変数の関係の定量化やデータの視覚化法を学習する。講義の後半は、回帰分析によるモデルパラメータの決定法や自動制御など計測・制御の基礎を学習する。最後に、アプリケーションソフトの開発環境を理解する。以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

講義の開講は各教員から「学習支援システム」を通じて案内があります。

課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	表計算ソフトの基本機能	データの並替えと関数の利用法、及び基本的なグラフ作成。
第2回	2変数間の関係（相関）	散布図の作成と相関係数の算出法。
第3回	相関係数の算出（演習）	演習問題を通しての散布図の作成と相関係数の算出。
第4回	カテゴリーデータの集計	アンケートによる調査データの処理法。
第5回	クロス集計と変数間の関連	クロス集計表の作成と変数間の関連性の検定
第6回	時系列データの処理	・変動と移動平均の算出 ・折れ線グラフによる可視化
第7回	時系列データの分析（演習）	GDP や為替レートなどの分析を行う。
第8回	単回帰分析	・回帰分析の基礎（データの計測とモデルの作成基礎） ・パラメータ決定のアルゴリズム
第9回	ソルバーによる単回帰分析	ソルバーを利用した単回帰分析のパラメータの決定

第10回	ソルバーによる解の探索	ソルバーによる線形計画問題の解法
第11回	マクロプログラムの作り方	マクロプログラムの作成と入力
第12回	プログラミング入門	プログラミングの開発環境から簡単なプログラムを入力し動作確認を行う
第13回	各種応用ソフトウェアの紹介	GIS や代数計算ソフトの紹介と簡単な利用法。
第14回	秋学期最終課題	秋学期最終課題

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習と講義内で課された課題の作成本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013年10月、¥1,900 + 税  
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

#### 【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

#### 【成績評価の方法と基準】

ほぼ毎回における提出課題 100%

#### 【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

#### 【学生が準備すべき機器他】

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。

#### 【Outline and objectives】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門 A
堀 亜砂実
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、データの作成や検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法、Web ページの原理などを理解する。さらに、データ処理の基本と数値データ解析の基礎的な計算方法を理解することを目的とする。

#### 【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの送受信方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ Web ページの簡単な作成方法を理解する。
- ⑥ データ処理の基本と簡単な数値データ解析法を理解する。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること（大学からの指示です）。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。

講義の前半ではコンピューターとネットワークの利用法を身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、インターネットやホームページの仕組みを理解する。講義の後半は表計算ソフトを用いたデータの集計やデータの視覚化法を学習する。

以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	・ 講義概要とコンピューターおよびネットワーク環境の簡単な紹介 ・ コンピューターのハードウェア構成と OS 環境の紹介 ・ ローカルエリアネットワークとそのハードウェア構成 ・ ID の管理の重要性
第2回	オペレーティングシステムの操作法とファイル操作	・ オペレーティングシステムの操作法とファイルの操作 ・ メールサーバーとメール伝送の仕組み ・ Web メールの利用法
第3回	文書作成ソフトの利用法	・ 文書作成ソフトの基本操作の習得 ・ 文書のファイル形式と保存法 ・ 数式の入力
第4回	定型文書の作成	定型文書の作成と画像データの利用と加工
第5回	さまざまな文書の作成	ビジネス文書や英文の文書の作成

第 6 回	定型文書の作成演習	・はがきサイズの文書の作成 ・レポート形式の文書の作成
第 7 回	簡単なホームページの作成	ハイパーリンク形式のファイルの作成 HTML 言語によるプログラムの紹介
第 8 回	プレゼンテーション資料の作り方	プレゼンテーション用ソフトの利用と資料作成方法
第 9 回	表計算ソフトの基本機能	表計算ソフトの基本操作と種類の機能とその利用法
第 10 回	表計算ソフトへのデータの読み込みと簡単な計算	・新たな変数の作成、テキストデータの扱い ・インターネット上のデータのダウンロードと整形法
第 11 回	データの並べ替えと条件処理	データの並べ替えと各種関数の利用法
第 12 回	ヒストグラムとグラフの作成	・ヒストグラムの作成 ・複合グラフの作成 ・積み上げ棒グラフの作成
第 13 回	基本統計量の算出	基本統計量の意味と算出手順
第 14 回	統計処理を利用したサンプルデータからの情報抽出（演習問題）	各種統計量からサンプルデータの特徴を理解する

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書などの予習・復習と講義内で課された課題の作成。  
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税  
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著  
4 月 21 日から法政大学生協にて web による販売が開始されます。

#### 【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

#### 【成績評価の方法と基準】

・小課題の合計（授業内課題に相当し、授業トピック毎に出題）：60%  
・大課題の合計（試験に相当し、学期中に 1～2 回出題）：40%  
大課題が提出されない場合、成績評価の対象外とする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

#### 【Outline and objectives】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA

## コンピューター入門 B

堀 亜砂実

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次に、データ処理の基本と数値データ解析の計算方法を理解する。これらに基づいて次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法などを習得することを目的とする。

#### 【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの収集方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ データ処理の基本と数値データ解析法を理解する。
- ⑥ 簡単なプログラミングの開発環境を利用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること（大学からの指示です）。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。

講義の前半で表計算ソフトを用いたデータの集計や分類、統計処理、2 変数の関係の定量化やデータの視覚化法を学習する。講義の後半は、回帰分析によるモデルパラメータの決定法や自動制御など計測・制御の基礎を学習する。最後に、アプリケーションソフトの開発環境を理解する。以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	表計算ソフトの基本機能	データの並替えと関数の利用法、及び基本的なグラフ作成。
第 2 回	2 変数間の関係（相関）	散布図の作成と相関係数の算出法。
第 3 回	相関係数の算出（演習）	演習問題を通しての散布図の作成と相関係数の算出。
第 4 回	カテゴリーデータの集計	アンケートによる調査データの処理法。
第 5 回	クロス集計と変数間の関連	クロス集計表の作成と変数間の関連性の検定
第 6 回	時系列データの処理	・変動と移動平均の算出 ・折れ線グラフによる可視化
第 7 回	時系列データの分析（演習）	GDP や為替レートなどの分析を行う。
第 8 回	単回帰分析	・回帰分析の基礎（データの計測とモデルの作成基礎） ・パラメータ決定のアルゴリズム
第 9 回	ソルバーによる単回帰分析	ソルバーを利用した単回帰分析のパラメータの決定
第 10 回	ソルバーによる解の探索	ソルバーによる線形計画問題の解法

第 11 回	マクロプログラムの作り方	マクロプログラムの作成と入力方
第 12 回	プログラミング入門	プログラミングの開発環境から簡単なプログラムを入力し動作確認を行う
第 13 回	各種応用ソフトウェアの紹介	GIS や代数計算ソフトの紹介と簡単な利用法。
第 14 回	秋学期最終課題	秋学期最終課題

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習と講義内で課された課題の作成本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税  
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

#### 【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

#### 【成績評価の方法と基準】

・小課題の合計（授業内課題に相当し、授業トピック毎に出題）：60%  
・大課題の合計（試験に相当し、学期中に 1～2 回出題）：40%  
大課題が提出されない場合、成績評価の対象外とする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

#### 【学生が準備すべき機器他】

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。

#### 【Outline and objectives】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門 A
堀 亜砂実
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、データの作成や検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法、Web ページの原理などを理解する。さらに、データ処理の基本と数値データ解析の基礎的な計算方法を理解することを目的とする。

#### 【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの送受信方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ Web ページの簡単な作成方法を理解する。
- ⑥ データ処理の基本と簡単な数値データ解析法を理解する。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること（大学からの指示です）。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。

講義の前半ではコンピューターとネットワークの利用法を身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、インターネットやホームページの仕組みを理解する。講義の後半は表計算ソフトを用いたデータの集計やデータの視覚化法を学習する。

以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・講義概要とコンピューターおよびネットワーク環境の簡単な紹介 ・コンピューターのハードウェア構成と OS 環境の紹介 ・ローカルエリアネットワークとそのハードウェア構成 ・ID の管理の重要性
第 2 回	オペレーティングシステムの操作法とファイル操作	・オペレーティングシステムの操作法とファイルの操作 ・メールサーバーとメール伝送の仕組み ・Web メールの利用法
第 3 回	文書作成ソフトの利用法	・文書作成ソフトの基本操作の習得 ・文書のファイル形式と保存法 ・数式の入力
第 4 回	定型文書の作成	定型文書の作成と画像データの利用と加工
第 5 回	さまざまな文書の作成	ビジネス文書や英文の文書の作成

第 6 回	定型文書の作成演習	・はがきサイズの文書の作成 ・レポート形式の文書の作成
第 7 回	簡単なホームページの作成	ハイパーリンク形式のファイルの作成 HTML 言語によるプログラムの紹介
第 8 回	プレゼンテーション資料の作り方	プレゼンテーション用ソフトの利用と資料作成方法
第 9 回	表計算ソフトの基本機能	表計算ソフトの基本操作と種類の機能とその利用法
第 10 回	表計算ソフトへのデータの読み込みと簡単な計算	・新たな変数の作成、テキストデータの扱い ・インターネット上のデータのダウンロードと整形法
第 11 回	データの並べ替えと条件処理	データの並べ替えと各種関数の利用法
第 12 回	ヒストグラムとグラフの作成	・ヒストグラムの作成 ・複合グラフの作成 ・積み上げ棒グラフの作成
第 13 回	基本統計量の算出	基本統計量の意味と算出手順
第 14 回	統計処理を利用したサンプルデータからの情報抽出（演習問題）	各種統計量からサンプルデータの特徴を理解する

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書などの予習・復習と講義内で課された課題の作成。  
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税  
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著  
4 月 21 日から法政大学生協にて web による販売が開始されます。

#### 【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

#### 【成績評価の方法と基準】

・小課題の合計（授業内課題に相当し、授業トピック毎に出題）：60%  
・大課題の合計（試験に相当し、学期中に 1～2 回出題）：40%  
大課題が提出されない場合、成績評価の対象外とする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

#### 【Outline and objectives】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA

## コンピューター入門 B

堀 亜砂実

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次に、データ処理の基本と数値データ解析の計算方法を理解する。これらに基づいて次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法などを習得することを目的とする。

#### 【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの収集方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ データ処理の基本と数値データ解析法を理解する。
- ⑥ 簡単なプログラミングの開発環境を利用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること（大学からの指示です）。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。

講義の前半で表計算ソフトを用いたデータの集計や分類、統計処理、2 変数の関係の定量化やデータの視覚化法を学習する。講義の後半は、回帰分析によるモデルパラメータの決定法や自動制御など計測・制御の基礎を学習する。最後に、アプリケーションソフトの開発環境を理解する。以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	表計算ソフトの基本機能	データの並替えと関数の利用法、及び基本的なグラフ作成。
第 2 回	2 変数間の関係（相関）	散布図の作成と相関係数の算出法。
第 3 回	相関係数の算出（演習）	演習問題を通しての散布図の作成と相関係数の算出。
第 4 回	カテゴリーデータの集計	アンケートによる調査データの処理法。
第 5 回	クロス集計と変数間の関連	クロス集計表の作成と変数間の関連性の検定
第 6 回	時系列データの処理	・変動と移動平均の算出 ・折れ線グラフによる可視化
第 7 回	時系列データの分析（演習）	GDP や為替レートなどの分析を行う。
第 8 回	単回帰分析	・回帰分析の基礎（データの計測とモデルの作成基礎） ・パラメータ決定のアルゴリズム
第 9 回	ソルバーによる単回帰分析	ソルバーを利用した単回帰分析のパラメータの決定
第 10 回	ソルバーによる解の探索	ソルバーによる線形計画問題の解法

第 11 回	マクロプログラムの作り方	マクロプログラムの作成と入力方
第 12 回	プログラミング入門	プログラミングの開発環境から簡単なプログラムを入力し動作確認を行う
第 13 回	各種応用ソフトウェアの紹介	GIS や代数計算ソフトの紹介と簡単な利用法。
第 14 回	秋学期最終課題	秋学期最終課題

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習と講義内で課された課題の作成本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税  
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

#### 【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

#### 【成績評価の方法と基準】

・小課題の合計（授業内課題に相当し、授業トピック毎に出題）：60%  
・大課題の合計（試験に相当し、学期中に 1～2 回出題）：40%  
大課題が提出されない場合、成績評価の対象外とする。

#### 【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

#### 【学生が準備すべき機器他】

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。

#### 【Outline and objectives】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門 A
新村 隆英
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、データの作成や検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法、Web ページの原理などを理解する。さらに、データ処理の基本と数値データ解析の基礎的な計算方法を理解することを目的とする。

#### 【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの送受信方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ Web ページの簡単な作成方法を理解する。
- ⑥ データ処理の基本と簡単な数値データ解析法を理解する。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること（大学からの指示です）。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。

講義の前半ではコンピューターとネットワークの利用法を身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、インターネットやホームページの仕組みを理解する。講義の後半は表計算ソフトを用いたデータの集計やデータの視覚化法を学習する。

以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

課題の提出・質問等は「学習支援システム」を通じて行う。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・講義概要とコンピューターおよびネットワーク環境の簡単な紹介 ・コンピューターのハードウェア構成と OS 環境の紹介 ・ローカルエリアネットワークとそのハードウェア構成 ・ID の管理の重要性
第 2 回	オペレーティングシステムの操作法とファイル操作	・オペレーティングシステムの操作法とファイルの操作 ・メールサーバーとメール伝送の仕組み ・Web メールの利用法
第 3 回	文書作成ソフトの利用法	・文書作成ソフトの基本操作の習得 ・文書のファイル形式と保存法 ・数式の入力
第 4 回	定型文書の作成	定型文書の作成と画像データの利用と加工
第 5 回	さまざまな文書の作成	ビジネス文書や英文の文書の作成

第 6 回	定型文書の作成演習	・はがきサイズの文書の作成 ・レポート形式の文書の作成
第 7 回	簡単なホームページの作成	ハイパーリンク形式のファイルの作成 HTML 言語によるプログラムの紹介
第 8 回	プレゼンテーション資料の作り方	プレゼンテーション用ソフトの利用と資料作成方法
第 9 回	表計算ソフトの基本機能	表計算ソフトの基本操作と種類の機能とその利用法
第 10 回	表計算ソフトへのデータの読み込みと簡単な計算	・新たな変数の作成、テキストデータの扱い ・インターネット上のデータのダウンロードと整形法
第 11 回	データの並べ替えと条件処理	データの並べ替えと各種関数の利用法
第 12 回	ヒストグラムとグラフの作成	・ヒストグラムの作成 ・複合グラフの作成 ・積み上げ棒グラフの作成
第 13 回	基本統計量の算出	基本統計量の意味と算出手順
第 14 回	統計処理を利用したサンプルデータからの情報抽出（演習問題）	各種統計量からサンプルデータの特徴を理解する

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書などの予習・復習と講義内で課された課題の作成。  
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税  
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著  
4 月 21 日から法政大学生協にて web による販売が開始されます。

#### 【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

#### 【成績評価の方法と基準】

毎回の演習（70%；提出は必須）および期末課題（30%；学期末に 1 回）の合計により評価する。特別な理由がないにもかかわらず有効な演習提出回数が全回数の 70%に満たない場合は、期末課題も無効となるので注意。

#### 【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

#### 【Outline and objectives】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門 B
新村 隆英
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次に、データ処理の基本と数値データ解析の計算方法を理解する。これらに基づいて次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法などを習得することを目的とする。

#### 【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの収集方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ データ処理の基本と数値データ解析法を理解する。
- ⑥ 簡単なプログラミングの開発環境を利用できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること（大学からの指示です）。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。講義の前半で表計算ソフトを用いたデータの集計や分類、統計処理、2 変数の関係の定量化やデータの視覚化法を学習する。講義の後半は、回帰分析によるモデルパラメータの決定法や自動制御など計測・制御の基礎を学習する。最後に、アプリケーションソフトの開発環境を理解する。以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。課題の提出・質問等は「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	表計算ソフトの基本機能	データの並替えと関数の利用法、及び基本的なグラフ作成。
第 2 回	2 変数間の関係（相関）	散布図の作成と相関係数の算出法。
第 3 回	相関係数の算出（演習）	演習問題を通しての散布図の作成と相関係数の算出。
第 4 回	カテゴリーデータの集計	アンケートによる調査データの処理法。
第 5 回	クロス集計と変数間の関連	クロス集計表の作成と変数間の関連性の検定
第 6 回	時系列データの処理	・変動と移動平均の算出 ・折れ線グラフによる可視化
第 7 回	時系列データの分析（演習）	GDP や為替レートなどの分析を行う。
第 8 回	単回帰分析	・回帰分析の基礎（データの計測とモデルの作成基礎） ・パラメータ決定のアルゴリズム
第 9 回	ソルバーによる単回帰分析	ソルバーを利用した単回帰分析のパラメータの決定
第 10 回	ソルバーによる解の探索	ソルバーによる線形計画問題の解法

第 11 回	マクロプログラムの作り方	マクロプログラムの作成と入力方
第 12 回	プログラミング入門	プログラミングの開発環境から簡単なプログラムを入力し動作確認を行う
第 13 回	各種応用ソフトウェアの紹介	GIS や代数計算ソフトの紹介と簡単な利用法。
第 14 回	秋学期最終課題	秋学期最終課題

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習と講義内で課された課題の作成本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税  
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

#### 【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

#### 【成績評価の方法と基準】

毎回の演習 (70%; 提出は必須) および期末課題 (30%; 学期末に 1 回) の合計により評価する。特別な理由がないにもかかわらず有効な演習提出回数が全回数の 70% に満たない場合は、期末課題も無効となるので注意。

#### 【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

#### 【学生が準備すべき機器他】

本年度は事情により当面の間オンライン (リアルタイムではない) 方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること (ともに Ver. は問わない)。

#### 【Outline and objectives】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA
コンピューター入門 A
新村 隆英
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターおよびネットワークの仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの送受信方法、データの作成や検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法、Web ページの原理などを理解する。さらに、データ処理の基本と数値データ解析の基礎的な計算方法を理解することを目的とする。

#### 【到達目標】

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの送受信方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ Web ページの簡単な作成方法を理解する。
- ⑥ データ処理の基本と簡単な数値データ解析法を理解する。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

本年度は事情により当面の間オンライン (リアルタイムではない) 方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること (大学からの指示です)。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること (ともに Ver. は問わない)。

講義の前半ではコンピューターとネットワークの利用法を身につける。その後ファイル操作、ビジネス文書や論文形式の文書作成、電子メールの送受信方法、インターネットやホームページの仕組みを理解する。講義の後半は表計算ソフトを用いたデータの集計やデータの視覚化法を学習する。

以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。

課題の提出・質問等は「学習支援システム」を通じて行う。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・ 講義概要とコンピューターおよびネットワーク環境の簡単な紹介 ・ コンピューターのハードウェア構成と OS 環境の紹介 ・ ローカルエリアネットワークとそのハードウェア構成 ・ ID の管理の重要性
第 2 回	オペレーティングシステムの操作法とファイル操作	・ オペレーティングシステムの操作法とファイルの操作 ・ メールサーバーとメール伝送の仕組み ・ Web メールの利用法
第 3 回	文書作成ソフトの利用法	・ 文書作成ソフトの基本操作の習得 ・ 文書のファイル形式と保存法 ・ 数式の入力
第 4 回	定型文書の作成	定型文書の作成と画像データの利用と加工
第 5 回	さまざまな文書の作成	ビジネス文書や英文の文書の作成

第 6 回	定型文書の作成演習	・はがきサイズの文書の作成 ・レポート形式の文書の作成
第 7 回	簡単なホームページの作成	ハイパーリンク形式のファイルの作成 HTML 言語によるプログラムの紹介
第 8 回	プレゼンテーション資料の作り方	プレゼンテーション用ソフトの利用と資料作成方法
第 9 回	表計算ソフトの基本機能	表計算ソフトの基本操作と種類の機能とその利用法
第 10 回	表計算ソフトへのデータの読み込みと簡単な計算	・新たな変数の作成、テキストデータの扱い ・インターネット上のデータのダウンロードと整形法
第 11 回	データの並べ替えと条件処理	データの並べ替えと各種関数の利用法
第 12 回	ヒストグラムとグラフの作成	・ヒストグラムの作成 ・複合グラフの作成 ・積み上げ棒グラフの作成
第 13 回	基本統計量の算出	基本統計量の意味と算出手順
第 14 回	統計処理を利用したサンプルデータからの情報抽出（演習問題）	各種統計量からサンプルデータの特徴を理解する

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

教科書などの予習・復習と講義内で課された課題の作成。  
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税  
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著  
4 月 21 日から法政大学生協にて web による販売が開始されます。

**【参考書】**

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

**【成績評価の方法と基準】**

毎回の演習 (70%；提出は必須) および期末課題 (30%；学期末に 1 回) の合計により評価する。特別な理由がないにもかかわらず有効な演習提出回数が全回数の 70% に満たない場合は、期末課題も無効となるので注意。

**【学生の意見等からの気づき】**

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

**【Outline and objectives】**

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

PRI100CA

**コンピューター入門 B**

新村 隆英

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

コンピューターによる情報処理の仕組みを理解し、情報ネットワーク上でのデータの検索方法等コンピューターの基本的な利用法を習得する。次に、データ処理の基本と数値データ解析の計算方法を理解する。これらに基づいて次にビジネス文書やプレゼンテーション資料の作成方法などを習得することを目的とする。

**【到達目標】**

- ① コンピューターおよびネットワークの利用法を習得する。
- ② ネットワークを利用したデータの収集方法を習得する。
- ③ データの作成や検索方法を習得する。
- ④ ビジネス文書やプレゼンテーション用資料の作成法を習得する。
- ⑤ データ処理の基本と数値データ解析法を理解する。
- ⑥ 簡単なプログラミングの開発環境を利用できるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること（大学からの指示です）。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。講義の前半で表計算ソフトを用いたデータの集計や分類、統計処理、2 変数の関係の定量化やデータの視覚化法を学習する。講義の後半は、回帰分析によるモデルパラメータの決定法や自動制御など計測・制御の基礎を学習する。最後に、アプリケーションソフトの開発環境を理解する。以上の内容はすべてコンピューターを利用して例題を実習しながら演習する。課題の提出・質問等は「学習支援システム」を通じて行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	表計算ソフトの基本機能	データの並替えと関数の利用法、及び基本的なグラフ作成。
第 2 回	2 変数間の関係（相関）	散布図の作成と相関係数の算出法。
第 3 回	相関係数の算出（演習）	演習問題を通しての散布図の作成と相関係数の算出。
第 4 回	カテゴリーデータの集計	アンケートによる調査データの処理法。
第 5 回	クロス集計と変数間の関連	クロス集計表の作成と変数間の関連性の検定
第 6 回	時系列データの処理	・変動と移動平均の算出 ・折れ線グラフによる可視化
第 7 回	時系列データの分析（演習）	GDP や為替レートなどの分析を行う。
第 8 回	単回帰分析	・回帰分析の基礎（データの計測とモデルの作成基礎） ・パラメータ決定のアルゴリズム
第 9 回	ソルバーによる単回帰分析	ソルバーを利用した単回帰分析のパラメータの決定
第 10 回	ソルバーによる解の探索	ソルバーによる線形計画問題の解法

第 11 回	マクロプログラムの作り方	マクロプログラムの作成と入力方
第 12 回	プログラミング入門	プログラミングの開発環境から簡単なプログラムを入力し動作確認を行う
第 13 回	各種応用ソフトウェアの紹介	GIS や代数計算ソフトの紹介と簡単な利用法。
第 14 回	秋学期最終課題	秋学期最終課題

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習と講義内で課された課題の作成本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

実践コンピュータリテラシー入門、実教出版、2013 年 10 月、¥1,900 + 税  
宮脇、小沢、坂本、安藤、新村著

#### 【参考書】

必要に応じて講義の途中で担当教員より指示される。

#### 【成績評価の方法と基準】

毎回の演習 (70%；提出は必須) および期末課題 (30%；学期末に 1 回) の合計により評価する。特別な理由がないにもかかわらず有効な演習提出回数が全回数の 70% に満たない場合は、期末課題も無効となるので注意。

#### 【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

#### 【学生が準備すべき機器他】

本年度は事情により当面の間オンライン (リアルタイムではない) 方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、各担当教員からの指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること (ともに Ver. は問わない)。

#### 【Outline and objectives】

This course is aimed at 1) understanding the structure of information processing using computers; 2) acquiring the basic skills of application of computer systems for searching data on the information networks; 3) understanding the basic mechanisms of data processing and computation for advanced data analyses; 4) and learning the methods of creating business documents and presentation materials based on the above knowledge.

ECN100CA
ビジネス数学入門 A
明城 聡
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学を学ぶためには、初等的な数学の知識が必要である。また、社会に出てからも「数字を読む」「論理的に考える」「データを扱う」などの技術が要求される。数学受験を経っていない人には初等的な知識の獲得を、数学受験を経ている人にはビジネスで活用できる数学の修得をめざす。

#### 【到達目標】

経済学部の講義を受講するのに必要となる基本的な数学の知識と考え方を習得し、簡単な練習問題が解けるようになることを目標とする。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

基本的な講義形式はオンライン (資料配布型 + Zoom の併用) での開講となる。資料配付を読んで練習問題を解く。理解度の確認と成績評価のため複数回のミニテストを学習支援システム上にて実施する。また、ミニテストの結果で理解度が不十分と考えられるところについては補足するなど、授業にフィードバックして理解度に応じた授業計画の修正を適宜行う。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済・社会を数学を用いて考えることの意味、モデルという発想、いままら開けないことの確認、動機づけ。
2	関数入門（数と数との関係を考える）	変数と定数、直線の式とグラフ、切片、傾きの意味、軸の見方、増加関数、減少関数。
3	関数を使ってみる（ものの値段の決まり方）	ふたつの関数の交点を求める、需要／供給曲線、売上額をグラフで見る、値段を高くしたら売上は上がるか下がるか？
4	集団を代表する数	和、平均値、加重平均、期待値、最頻値、中央値、GDP、日経平均など。
5	比率によってものごとをとらえる	失業率、利率、インフレ率（おまけ：食塩水の濃度問題）
6	直線的でない関係	反比例、べき乗、平方根に対応する関数、ピタゴラスの定理、2 次関数、2 次関数の解の公式。
7	中間のまとめと復習	第 2 回～第 6 回の内容のふりかえりと演習。応用問題。
8	逆関数	因果関係、みかけの関係、逆関数の考え方
9	お金を銀行に預けたら (1)	単利と複利の考え方、経済成長、割引現在価値、指数関数
10	お金を銀行に預けたら (2)	1 万円を貯金、何年で 2 万円になる？ 対数関数の考え方
11	かけ算と足し算、割り算と引き算	指数法則、対数法則
12	お金を銀行に預けたら (3)	(等比) 数列の考え方：預けたお金は、1 年後、2 年後、3 年後・・・、どれだけ増えていく？

- 13 お金を銀行に預けたら 級数（等比数列の和、無限等比級数）の考え方：毎年積み立てたお金は 10 年後にはどれだけになる？
- 14 まとめと復習 全回（主に第 8 回～第 13 回）の内容のふりかえりと演習、応用問題。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

第 1 回：(1) オリエンテーションの説明を受けたあと、自分のレベルにあった補助教材（授業内に指示）を入手する（2 時間）、(2) 数学に関連した読み物や映画などを見て、数学に親しむ（2 時間）

第 2-14 回：(1) 復習として、授業内に取り上げた小問題の見直し、参考書や補助教材の演習問題を解く（2 時間）、(2) 他の授業で出てきた数学の問題を見直し、解き直す（1 時間）、(3)SPI の問題を解く（1 時間）、(4) ときおり、(2)(3) に替えて、数学に関連した読み物や映画などを見て、数学に親しむ（2 時間）

#### 【テキスト（教科書）】

特に指定なし。

#### 【参考書】

白石俊輔『経済学で出る数学 ワークブックでじっくり攻める』日本評論社、2013 年

#### 【成績評価の方法と基準】

学習支援システム上での複数回のミニテストで評価（100 %）する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じてレジュメ・関連資料の配布を行うため、履修登録の確定を待たずに、各自、仮登録（授業コード：K6671）を済ませること。ミニテストの受験もこちらで受けることになる。なお、PDF の閲覧と Word を使えるように準備すること。

#### 【Outline and objectives】

In this course, you will learn very basic mathematics, necessary to understand current economics and applicable to different business settings. Topics include linear function, ratio and proportion, quadratic function, exponent, logarithm, sequence and series, and their application to economic models.

ECN100CA
ビジネス数学入門 B
明城 聡
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学を学ぶためには、初等的な数学の知識が必要である。また、社会に出てからも「数字を読む」「論理的に考える」「データを扱う」などの技術が要求される。数学受験を経っていない人は初等的な知識の獲得を、数学受験を経ている人はビジネスで数学の活用できるスキルの修得をめざす。

#### 【到達目標】

数学的な論理、微分や確率の知識がどのように経済学やビジネスに応用されているか説明できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

オンライン講義（資料配布型 + Zoom の併用）を基本とする。講義資料を読んで練習問題を解く。授業内容の理解度の確認と成績評価のため、複数回のミニテストを学習支援システム上でおこなう。また、ミニテストの結果で理解が不十分と考えられるところについては補足するなど、授業にフィードバックして理解度に応じた授業計画の修正を適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「ビジネス数学入門 A」の復習、今後の学習の動機づけ。
2	数列と級数 (1)	数列の理解、複利、経済成長。
3	数列と級数 (2)	級数の理解、有効需要の原理。
4	限界と平均	変化をとらえる「限界」の考え方、限界と平均との関係。
5	微分の考え方	一次関数の復習、曲がったモノでも直線と見なしてしまおう。「限界=微分=傾き」を理解する。
6	簡単な微分	べき関数の復習、べき関数の微分、微分の線型性。
7	最大値と最小値	2 次関数の復習、微分係数と傾きの関係、増減表の作成、独占企業の利潤最大化問題を解く。
8	もっと微分	合成関数の考え方と微分、積の微分、代表的な関数の微分。
9	さらに微分	効用と消費者の行動。
10	集合・論理入門	数の集まりをひとくくりで考えてみる（偶数、3 の倍数など）、ベン図の作成、対偶の考え方。
11	確率の考え方	簡単な確率の求め方。
12	期待値の考え方	宝くじはいくら儲かる？
13	期待値と期待効用	サンクトペテルブルクのパラドックス：人は期待値で行動を選択する？
14	リスクについての考え方	保険会社の保険料/保険金の設定。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

第 1 回：(1) 予習として、春学期の授業内容を復習しておく（4 時間）

第 2~14 回：(1) 復習として、授業内に取り上げた小問題の見直し、参考書や補助教材の演習問題を解く (2 時間)、(2) 他の授業で出てきた数学の問題を見直し、解き直す (1 時間)、(3)SPI の問題を解く (1 時間)、(4) ときおり、(2)(3) に替えて、数学に関連した読み物や映画などを見て、数学に親しむ (2 時間)

#### 【テキスト (教科書)】

特に指定なし。

#### 【参考書】

白石俊輔『経済学で出る数学 ワークブックでじっくり攻める』日本評論社、2013 年。また、講義中に適宜指示する。

#### 【成績評価の方法と基準】

学習支援システム上で行うミニテストで成績評価する (100 %)

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【その他の重要事項】

学習支援システムを通じてレジュメ・関連資料の配布を行う。練習問題への回答やミニテストもこちらで受けることになる。学習支援システムに自分が登録されているかを確認して欲しい。履修変更などをした学生は学習支援システムへの登録も行っておくこと。なお、PDF の閲覧と Word を使えるように準備しておくこと。

#### 【Outline and objectives】

In this course, you will learn very basic mathematics, necessary to understand current economics and applicable to different business settings. Topics include differentiation(single variable), set theory, probability, and their application to economic models.

ECN100CC
英語で学ぶ経済学入門 A
八木橋 毅司
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語で書かれた教科書を使い、経済学の基本的な概念を理解します。本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson のうち、イントロパートおよび経済学に関わるいくつかのトピックについて学びます。

#### 【到達目標】

- (1) 人間の経済行動を理解するために必要な考え方の基礎を学ぶ。
- (2) 意思決定をする際に有用なツールを知る。
- (3) 分析的・批判的思考のためのスキルを身につける。

- (1) to build a foundation for understanding human economic behavior,
- (2) to introduce some useful decision making tools,
- (3) to develop critical and analytical thinking skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

教科書をベースとしたスライドを用いた講義形式の授業を行います。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

The textbook is your major tool for learning the material of this course. My responsibility will be to try to guide you through the material, emphasize the important points, answer your questions, and to iron out any problems that might arise. I will mainly cover the economic models and leave the institutional details for you to study on your own.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】  
なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction: General	The Principles and Practice of Economics/Organization of the Class
2	Introduction: Economic Methods and Economic Questions	The Scientific Method/Causation and Correlation/Economic Questions and Answers
3	Introduction: Optimization	Optimization: Choosing the Best Feasible Option/Optimization Application: Renting the Optimal Apartment
4	Introduction: Optimization	Optimization Using Marginal Analysis
5	Introduction: Demand, Supply, and Equilibrium	Markets/How Do Buyers Behave?
6	Introduction: Demand, Supply, and Equilibrium	How Do Sellers Behave?/Supply and Demand in Equilibrium
7	Foundation of Micro: Consumers and Incentives	The Buyer's Problem/Putting It All Together

8	Foundation of Micro: Consumers and Incentives	From the Buyer's Problem to the Demand Curve/Consumer Surplus
9	Foundation of Micro: Trade	The Production Possibilities/Comparative Advantage
10	Foundation of Micro: Trade	Trade between States/ Trade between Countries
11	Foundation of Micro: Markets for Labor	The Competitive Labor Market/The Supply of Labor
12	Introduction to Game Theory	Simultaneous Move Games/Nash Equilibrium
13	Introduction to Macroeconomics	Macroeconomic Questions/National Income Accounts
14	Introduction to Macroeconomics	What Isn't Measured by GDP?/Real vs. Nominal

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義の学習時間は、宿題・小テストのない回で3～4時間、宿題・小テストのある回で4～6時間程度を標準とします。

Your responsibility is to do the assigned reading, submit each homework before the due date, to think about and learn the material, and to ask questions when the material is unclear. The class goes very fast.

(Average workload for each class is as follows: reading assignment of 1 to 2 hours, working on homework/quiz of 1 to 2 hours, class preparation time of 1 hour and review time of 1 hour)

#### 【テキスト（教科書）】

Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

#### 【参考書】

特になし/None

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%、宿題・小テスト 50%

Final Exam: 50%, Homeworks and Quizzes: 50%

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし/None

#### 【Outline and objectives】

This course introduces students to the fundamentals of economics. The course covers introductory chapters and some of the topics of Economics: Pearson, Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A.

ECN100CC

### 英語で学ぶ経済学入門 B

八木橋 毅司

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

※国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた教科書を使い、経済学の基本的な概念を理解します。本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson のうち、イントロパートおよび経済学に関わるいくつかのトピックについて学びます。

#### 【到達目標】

(1) 人間の経済行動を理解するために必要な考え方の基礎を学ぶ。

(2) 意思決定をする際に有用なツールを知る。

(3) 分析的・批判的思考のためのスキルを身につける。

(1) to build a foundation for understanding human economic behavior,

(2) to introduce some useful decision making tools,

(3) to develop critical and analytical thinking skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

教科書をベースとしたスライドを用いた講義形式の授業を行います。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

The textbook is your major tool for learning the material of this course. My responsibility will be to try to guide you through the material, emphasize the important points, answer your questions, and to iron out any problems that might arise. I will mainly cover the economic models and leave the institutional details for you to study on your own.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Intro to Macro: Aggregate Incomes	Overview of the Course, Review of Some Earlier Material, Inequality Around the World
2	Intro to Macro: Aggregate Incomes	Productivity and the Aggregate Production Function
3	Intro to Macro: Aggregate Incomes	The Role and Determinants of Technology
4	Equilibrium in the Macro: Employment and Unemployment	Measuring Employment and Unemployment/Equilibrium in the Labor Market/Why Is There Unemployment?
5	Equilibrium in the Macro: Employment and Unemployment	Job Search and Frictional Unemployment/Wage Rigidity and Structural Unemployment
6	Equilibrium in the Macro: Credit Markets	What Is the Credit Market?/Banks and Financial Intermediation: Putting Supply and Demand Together
7	Equilibrium in the Macro: Credit Markets	What Banks Do

8	Equilibrium in the Macro: The Monetary System	Money/Money, Prices, and GDP/Inflation
9	Equilibrium in the Macro: The Monetary System	The Federal Reserve/Bank Reserves and the Plumbing of the Monetary System
10	Equilibrium in the Macro: Short-run Fluctuations	Economic Fluctuations and Business Cycles/Macroeconomic Equilibrium and Economic Fluctuations
11	Equilibrium in the Macro: Short-run Fluctuations	Modeling Expansions
12	Equilibrium in the Macro: Countercyclical Macroeconomic Policy	The Role of Countercyclical Policies in Economic Fluctuations/Countercyclical Monetary Policy
13	Equilibrium in the Macro: Countercyclical Macroeconomic Policy	Countercyclical Fiscal Policy
14	Further Topics	Economics of Life, Health, and the Environment

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本講義の学習時間は、宿題・小テストのない回で3～4時間、宿題・小テストのある回で4～6時間程度を標準とします。

Your responsibility is to do the assigned reading, submit each homework before the due date, to think about and learn the material, and to ask questions when the material is unclear. The class goes very fast.

(Average workload for each class is as follows: reading assignment of 1 to 2 hours, working on homework/quiz of 1 to 2 hours, class preparation time of 1 hour and review time of 1 hour)

**【テキスト（教科書）】**

Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

**【参考書】**

特になし/None

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験 50%、宿題・小テスト 50%

Final Exam: 50%, Homeworks and Quizzes: 50%

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし/None

**【Outline and objectives】**

This course introduces students to the fundamentals of economics. The course covers introductory chapters and some of the topics of Economics: Pearson, Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A.

ECN100CC 英語で学ぶ経済学入門 A
武智 一貴
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

This course is intended to introduce basic concepts in economics in English.

**【到達目標】**

We use an economic textbook written in English and learn how we can understand economic issues in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

All the materials are in English, but teaching is conducted in Japanese. We also study how we use real data to answer the economic questions in the economic evidence section in each chapter. Submissions of homework and feedback to those are conducted through the online learning support system.

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	The Principles and Practice of Economics	Basic concepts in economics
2	Is facebook free?	Evidence for the 1st section
3	Economic Methods and Economic Questions	Economic reasoning
4	Is college worth it?	Evidence for the 2nd section
5	Optimization: Doing the Best You Can	Economic behavior
6	How does location affect the rental cost of housing?	Evidence for the 3rd section
7	Demand, Supply, and Equilibrium	Market mechanism
8	How much more gasoline would people buy if its price were lower?	Evidence for the 4th section
9	Foundations of Microeconomics: Consumers and Incentives	Consumer behavior
10	Would a smoker quit the habit for \$100 a month?	Evidence for the 5th section
11	Sellers and Incentives	producer behavior
12	How would an ethanol subsidy affect ethanol producers?:	Evidence for the 6th section

- 13 Perfect Competition and the Invisible Hand What is competitive equilibrium?
- 14 Can markets composed of only self-interested people maximize the overall well-being of society? Evidence for the 7th section

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Students are expected to study at least 4 hours for this course.

**【テキスト（教科書）】**

Acemoglu, Laibson, and List, Economics, Pearson

**【参考書】**

Mankiw, Principles of Economics, Cengage Learning

**【成績評価の方法と基準】**

Your grade will be determined by your performance on assignments (40%) and the term paper (60%).

**【学生の意見等からの気づき】**

We study the basic concepts of economics repeatedly.

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムを使用します。

**【Outline and objectives】**

This course is intended to introduce basic concepts in economics in English.

ECN100CC 英語で学ぶ経済学入門 B
武智 一貴
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

This course is intended to introduce basic concepts in economics in English. We focus on macroeconomics this semester.

**【到達目標】**

We use an economic textbook written in English and learn how we can understand economic issues in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

All the materials are in English, but teaching is conducted in Japanese. We also study how we use real data to answer the economic questions in the economic evidence section in each chapter. Submissions of homework and feedback to those are conducted through the online learning support system.

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Introduction to Macroeconomics: The Wealth of Nations	Defining and Measuring Macroeconomic Aggregates
2	In the United States, what is the total market value of annual economic production?	Evidence for the 1st section
3	Aggregate Incomes	The target of macroeconomics
4	Why is the average American so much richer than the average Indian?	Evidence for the 2nd section
5	Economic Growth	How to improve our standard of living
6	Why are you so much more prosperous than your great-greatgrandparents were?:	Evidence for the 3rd section
7	Why Isn't the Whole World Developed?	Economic inequality
8	Are tropical and semitropical areas condemned to poverty by their geographies?	Evidence for the 4th section
9	Equilibrium in the Macroeconomy: Employment and Unemployment	Labor market

10	What happens to employment and unemployment if local employers go out of business?	Evidence for the 5th section
11	Credit Markets	Bank, loan, and securities
12	How often do banks fail?:	Evidence for the 6th section
13	The Monetary System	Money, interest rate, and price level
14	What caused the German hyperinflation of 1922 - 1923?	Evidence for the 7th section

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Students are expected to study at least 4 hours for this course.

**【テキスト（教科書）】**

Acemoglu, Laibson, and List, Economics, Pearson

**【参考書】**

Mankiw, Principles of Economics, Cengage Learning

**【成績評価の方法と基準】**

Your grade will be determined by your performance on assignments (40%) and the final examination (60%).

**【学生の意見等からの気づき】**

We will learn the basic concepts of economics repeatedly.

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムを利用します。

**【Outline and objectives】**

This course is intended to introduce basic concepts in economics in English. We focus on macroeconomics this semester.

ECN100CA
データで知る世界経済 A
馬場 敏幸
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

国際経済学科の入門講義として、「世界経済」の現状をオンラインデータベースの最新のデータによって理解を深めることを目的とする。本講義で使用するデータ検索・抽出は、主に世銀データベースを利用するが、必要に応じて様々なデータベースを紹介する。その上で「持続可能な開発目標（SDGs: Sustainable Development Goals）」について項目ごとに詳しく学ぶ

**【到達目標】**

世界の現状について、様々なデータベースからデータを抽出することを目指す。さらに得られたデータをもとに世界の国々の現状を比較検討し、持続可能な開発目標（SDGs）の各項目で詳しく分析を行えるようになることを目指す。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

コロナの影響を鑑み、現状の所、基本的にオンデマンド開催の可能性がある。必要に応じ Zoom による講義も行う予定である。また、課題で提出されたレポートのうち幾つかを取り上げ、オンデマンド講義や Zoom 講義で紹介、説明、補足、ディスカッションなどを行うことを考えている。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、様々なオンラインデータベースの紹介
第 2 回	世銀データベース 1	各経済指標と基礎、および世銀データベースの使い方とデータ検索
第 3 回	世銀データベース 2	演習
第 4 回	持続可能な開発目標 (SDGs)	ミレニアム開発目標と SDGs の概要
第 5 回	SDGs 1-1	貧困 1 貧困 1 ターゲット、貧困線など
第 6 回	SDGs 1-2	貧困 2 貧困 2 絶対的貧困、相対的貧困など
第 7 回	SDGs 2-1	飢餓 1 ターゲット、日本のケースなど
第 8 回	SDGs 2-2	飢餓 2 世界の飢餓状況など
第 9 回	SDGs 3-1	健康と福祉 1 ターゲット、マラリアなど
第 10 回	SDGs 3-2	健康と福祉 2 妊産婦死亡率、幼児死亡率など
第 11 回	SDGs 4-1	教育 1 ターゲット、教育の不平等など
第 12 回	SDGs 4-2	教育 2 世界の例、学歴と生涯賃金など
第 13 回	講義のまとめ	講義のまとめ
第 14 回	総括	試験・解説・まとめ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

データベースの取り扱いに慣れるため、学習したデータベースを用いて様々な検索をすることを薦める。本授業の予習は 1 時間、復習時間は 3 時間を目安とします。

**【テキスト（教科書）】**

なし

**【参考書】**

各データベースは講義中に指示する。主なものは世界銀行、国連（特に SDGs）、国連商品貿易統計、OECD、ILO、JETRO、外務相、世界の統計など。URL 詳細は通年科目「世界の経済」を参照。

**【成績評価の方法と基準】**

コロナによりオンデマンド講義になった場合は、オンデマンドの中で課題を課し、その課題の提出状況、および課題の内容、ZOOM 授業時の出席状況や発言内容などに基つき成績評価（100%）を行うことを考えている。コロナがおさまり、通学が基本となった場合は定期試験による評価もあり得る。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業内容や授業の進め方などについて質問・連絡方法に戸惑う学生がいた。教員・受講生双方のコミュニケーション手段は学習支援システムによる授業掲示板でのやりとりを基本とする。教員は講義期間中、週一度は授業掲示板を確認し返信を行う。他方、個別メール対応や学期末の個別単位要望などについては公平性の観点より原則として受け付けられないものとし、返信も行わない。（本人のコロナ罹患の際の課題対応など、必要と思われる場合は対応します）

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムによるオンデマンド講義、および Zoom による遠隔授業を行う可能性が高いので、PC の使用を強く薦める。インターネット環境は必須である。スマホやタブレットなどでも受講や課題提出で問題が無い場合は PC 使用でなくともかまわない。

**【その他の重要事項】**

本講義は A,B より構成される。A と B は継続する内容で行う。このため、A,B ともに履修することを推奨する。

Zoom による授業参加の場合、自分の発言の際にはビデオオンにしての発言をお願いします。また Zoom 講義でのプライバシー保護のため、画像保存、録画などは一切禁止します。発覚した場合は、単位を出さない場合もありますので、ネチケットには十分気をつけてください。

**【Outline and objectives】**

In this class, you learn basic skills of how to search and extract from economic data base and how to analyze using those data. Data bases using in this class are such as World Bank open data base and UN data base. Next, you learn about Sustainable Development Goals (SDGs) in detail.

ECN100CA
<b>データで知る世界経済 B</b>
<b>馬場 敏幸</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

データで知る世界経済 A に引き続き、「持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development Goals)」について項目ごとに詳しく学ぶ

**【到達目標】**

世界の国々の現状を比較検討し、持続可能な開発目標 (SDGs) の各項目で詳しく分析を行えるようになることを目指す。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP6」に関連

**【授業の進め方と方法】**

コロナの影響を鑑み、現状の所、基本的にオンデマンド開催の可能性がある。必要に応じ Zoom による講義も行う予定である。また、課題で提出されたレポートのうち幾つかを取り上げ、オンデマンド講義や Zoom 講義で紹介、説明、補足、ディスカッションなどを行うことを考えている。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、政府開発援助、持続可能な開発目標
第 2 回	SDGs 5-1	ジェンダー 1 ターゲット、ジェンダー不平等など
第 3 回	SDGs 5-2	ジェンダー 2 ジェンダーギャップ、日本の状況など
第 4 回	SDGs 6-1	水と衛生 1 ターゲット、水指標など
第 5 回	SDGs 6-2	水と衛生 2 世界のケース、ODA など
第 6 回	SDGs 7-1	地球環境問題・エネルギー 1 ターゲット、世界の状況など
第 7 回	SDGs 7-2	地球環境問題・エネルギー 2 再生可能エネルギー、気候変動枠組み条約など
第 8 回	SDGs 8-1	労働・働きがい 1 ターゲット、ディーセントワークなど
第 9 回	SDGs 8-2	労働・働きがい 2 ILO、働き方改革など
第 10 回	SDGs 9-1	産業・インフラ 1 ターゲット、レジリエント都市など
第 11 回	SDGs 9-2	産業・インフラ 2 産業化、国土強靱化基本法など
第 12 回	SDGs 10-1	不平等是正 1 ターゲット、世界のケースなど
第 13 回	SDGs 10-2	不平等是正 2 改善のためのアプローチなど
第 14 回	総括	試験・まとめ・解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業で紹介した SDGs のデータソースにアクセスし、内容の理解を深めることを勧める。本授業の予習は 1 時間、復習時間は 3 時間を目安。

**【テキスト（教科書）】**

なし

**【参考書】**

A と同様

**【成績評価の方法と基準】**

コロナによりオンデマンド講義になった場合は、オンデマンドの中で課題を課し、その課題の提出状況、および課題の内容、ZOOM 授業時の出席状況や発言内容などに基づき成績評価 (100%) を行うことを考えている。コロナがおさまり、通学が基本となった場合は定期試験による評価もあり得る。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業内容や授業の進め方などについて質問・連絡方法に戸惑う学生がいた。教員・受講生双方向のコミュニケーション手段は学習支援システムによる授業掲示板でのやりとりを基本とする。教員は講義期間中、週一度は授業掲示板を確認し返信を行う。他方、個別メール対応や学期末の個別単位要望などについては公平性の観点より原則として受け付けられないものとし、返信も行わない。(本人のコロナ罹患の際の課題対応など、必要と思われる場合は対応します)

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムによるオンデマンド講義、および Zoom による遠隔授業を行う可能性が高いので、PC の使用を強く薦める。インターネット環境は必須である。スマホやタブレットなどでも受講や課題提出で問題が無い場合は PC 使用でなくともかまわない。

**【その他の重要事項】**

本講義は A,B より構成される。A と B は継続する内容で行う。このため、A,B ともに履修することを推奨する。

Zoom による授業参加の場合、自分の発言の際にはビデオオンをお願いします。また Zoom 講義でのプライバシー保護のため、画像保存、録画などは一切禁止します。発覚した場合は、単位を出さない場合もありますので、チケットには十分気をつけてください。

**【Outline and objectives】**

In this class, you learn about the Sustainable Development Goals (SDGs) in detail, continuously A.

ECN100CA
Japan and the Global Economy A
倪 彬
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

Japan's economy witnessed a fast growth after world war II. But ever since 1989, Japan's imploding stock bubble threw the country into a deep financial crisis, resulting in the famous "lost decades". And the stagnation continues especially after the world economic crisis hit in 2008. This will be one-year course. In the 1st semester, we will mainly take a macroeconomic perspective, and look at the reality and problems of Japanese economy from 1980s in a big picture, such as economic growth, financial and monetary policies, "the lost decade" and Abenomics.

**【到達目標】**

The purpose of this course is twofold: to arouse the students' interest towards the happenings that are related to Japanese economy, in a globalized context; and to equip students with the basic knowledge to reasonably question the phenomenon during the process of Japan's globalization, from the standpoint of economics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

This will be an on-demand course. Videos and teaching materials will be uploaded in advance via Hosei's website ('lecture supporting system'). Lectures are given in line with the teaching materials. The combination of response papers, homework and a final exam will be used.

The answers to the representative questions in the response papers will be provided in each class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Orientation	The general introduction of this course
2	GDP, demand and supply, and other basic concepts	To understand the definition of GDP, equilibrium and other basic economic terms
3	Rise of Japanese economy after World War 2	How Japanese economy developed after the war
4	The growth engine and Japan's "economic miracle"	To explain the Japan's fast economic growth using growth theory
5	National savings and economic growth in Japan	How Japan's economic growth can be explained by national savings
6	Japan's financial policy	To introduce the basic fiscal policies of Japan, from the perspective of investment and savings (taxation, government expenditure)
7	Japan's monetary policy	To introduce the basic monetary policies of Japan (interest rate, money supply)

8	The lost decade (1)	How the bubble in Japan was formed?
9	The lost decade (2)	The burst of the bubble and the stagnation of the economy in Japan
10	Subprime loan and world financial crisis	How the world financial crisis was triggered by subprime loan problem (in comparison to Japan's bubble economy)
11	From inflation to deflation: does Abenomics work?	How deflation hurt Japan and three arrows of Abenomics
12	Appreciation of yen and balance of payment & Japanese economy	Introduction of exchange rate and how that affects the Japanese economy
13	Japan's labor market	Introduction of the history and trend from lifetime to "irregular" employment, from a macro perspective
14	Japan's energy economy and sustainable development	How Japan's energy economy and sustainable development have developed

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule. It is important that students raise their own questions and actively participate in the discussion. 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

Teaching materials of both full textbook and charts in the PDF format are posted on the Hosei's website. Students are asked to download and print out these teaching materials before each class.

**【参考書】**

Flath, David, The Japanese Economy, 3rd ed., Oxford: Oxford University Press, 2014.  
Barba Navaretti, G. and A. J. Venables, Multinational Firms in the World Economy, Princeton University Press, 2004  
Krugman, P.R., M. Obstfeld, and M. Melitz, International Economics: Theory and Policy, 10th Edition, Pearson, 2014  
Robert C. Feenstra and Alan M. Taylor, International Economics, 2nd Edition, Worth Publishers, 2010

**【成績評価の方法と基準】**

We will have a final exam for this course. But different from the regular written exam, it will be online and take the form of multiple choice question, using Hoppii (the same format as the homework). I will give you enough time, meanwhile you will be allowed to make reference to all the resources. As for the evaluation:

- (1)Homework: 50%  
(2)Final exam: 50%

**【学生の意見等からの気づき】**

Nothing particular

**【Outline and objectives】**

The objective is to help the students form a general idea of the basic situation of Japanese economy in the context of globalization.

ECN100CA
Japan and the Global Economy B
倪 彬
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

We will start by investigating how Japan's international trade and foreign direct investment evolve with the development of globalization, followed by discussion on some of the latest topics concerning Japan's integration with the world economy.

**【到達目標】**

The purpose of this course is twofold: to arouse the students' interest towards the happenings that are related to Japanese economy, in a globalized context; and to equip students with the basic knowledge to reasonably question the phenomenon during the process of Japan's globalization, from the standpoint of economics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

This will be an on-demand course. Videos and teaching materials will be uploaded in advance via Hosei's website ('lecture supporting system'). Lectures are given in line with the teaching materials. The combination of response papers, homework and a final exam will be used.

The answers to the representative questions in the response papers will be provided in each class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction of the contents to be covered in the second semester
2	Japan's trade with other countries	Why Japan promoted export and the benefit of trade liberalization
3	Japanese trade policies and the impact on world economy	The export and import policies that Japan adopted and its impact on world economy: the case of TPP
4	Firm structure and recruiting system in Japan	What does a firm consist of? What's the recruiting system in Japan like compared to other countries? The case of Toyota multinational firms
5	The basics of FDI and Japanese multinational firms	To introduce the types of FDI and other basic knowledge of FDI
6	"Hollowing out" of Japan's manufacturing sector through overseas FDI	Japan's outward FDI and its connection with "hollowing out" impact: the case of Manga industry
7	Doing business in Japan	To introduce the benefits and difficulties of doing business in Japan: the case study of TripAdvisor

8	Japan's recent economic stagnation	The declining economic growth is thought to be caused by insufficient domestic consumption: what to do
9	Shrinking population and immigration policy	How Japan can increase its working force, e.g. by using the immigration policy: the case of Germany
10	Ageing problem in Japan	The problem lies in the unbalanced pension system: how Japan can learn from other developed economies
11	ICT and innovation	How ICT promotes trade and FDI through the channel of innovation: case study (by JETRO report)
12	Structural reform of Japan	Structural reforms are vital for Japan, especially for agricultural farmers small and medium-sized firms
13	Sharing economy in Japan	The development and prosperity of sharing economy in Japan, in comparison to China
14	EU, ASEAN and Japan's economic integration	How Japan can learn from EU and ASEAN to be integrated into global economy

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule. It is important that students raise their own questions and actively participate in the discussion. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

Teaching materials of both full textbook and charts in the PDF format are posted on the Hosei's website. Students are asked to download and print out the teaching materials before each class.

**【参考書】**

Flath, David, The Japanese Economy, 3rd ed., Oxford: Oxford University Press, 2014.  
 Barba Navaretti, G. and A. J. Venables, Multinational Firms in the World Economy, Princeton University Press, 2004  
 Krugman, P.R., M. Obstfeld, and M. Melitz, International Economics: Theory and Policy, 10th Edition, Pearson, 2014  
 Robert C. Feenstra and Alan M. Taylor, International Economics, 2nd Edition, Worth Publishers, 2010

**【成績評価の方法と基準】**

We will have a final exam for this course. But different from the regular written exam, it will be online and take the form of multiple choice question, using Hoppii (the same format as the homework). I will give you enough time, meanwhile you will be allowed to make reference to all the resources. As for the evaluation:

- (1)Homework: 50%  
 (2)Final exam: 50%

**【学生の意見等からの気づき】**

Nothing particular

**【Outline and objectives】**

The objective is to help the students form a general idea of the basic situation of Japanese economy in the context of globalization.

ECN100CA
Practical Economics A
JESS DIAMO N D
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson の Chapter1 から Chapter12 までの「Evidence-Based Economics」を取り上げます。

**【到達目標】**

経済学に関する基本的な知識を応用し、様々な現代問題を経済学の立場から考えるようになる。

The goal of this class is for students to consider various modern social issues from the perspective of economics and apply their understanding of economics to these problems.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。コロナウイルスの発生が治るまで授業の動画をネット上オンデマンドで配信する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded. For the duration of the coronavirus outbreak, classes will be recorded and made available online for students to view on demand. Regular homework assignments will be followed by feedback on students' performance.

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	The Principles and Practice of Economics	Is Facebook free?
2	Economic Methods and Economic Questions	How much more do workers with a college education earn?
3	Economic Methods and Economic Questions	How much do wages increase when an individual is compelled by law to get an extra year of schooling?
4	Optimization: Doing the Best You Can	How does location affect the rental cost of housing?
5	Demand, Supply and Equilibrium	How much more gasoline would people buy if its price were lower?
6	Consumers and Incentives	Would a smoker quit the habit for \$100 per month?
7	Sellers and Incentives	How would an ethanol subsidy affect ethanol producers?
8	Perfect Competition and the Invisible Hand	Can a market composed of only self-interested people maximize the overall well-being of society?
9	Trade	Will free trade cause you to lose your job?
10	Externalities and Public Goods	How can the queen of England lower her commute time to Wembley Stadium?

11	The Government in the Economy; Taxation and Regulation	What is the optimal size of government?
12	The Government in the Economy; Taxation and Regulation	The Efficiency of Government Versus Privately Run Expeditions
13	Markets for Factors of Production	Do Wages Really Go Down if Labor Supply Increases?
14	Review and Final Exam	Final review of material covered and Final Exam.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework assignment will be assigned regularly. Students are required to review the work covered in lecture and read the corresponding section of the textbook in addition to completing homework assignments. Preparation time of 2 hours and review time of 2 hours for a total of 4 hours.

## 【テキスト（教科書）】

Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

## 【参考書】

特になし。

None.

## 【成績評価の方法と基準】

宿題：30%

期末試験：70%

Homework: 30%

Final Exam: 70%

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

None.

## 【Outline and objectives】

This course teaches students how to apply the principles of economics to real world questions. The course centers on problems described in the 「Evidence-Based Economics」 sections of Economics: Pearson, Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A.

ECN100CA
Practical Economics B
JESS DIAMO N D
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Pearson の Chapter13 から Chapter27 までの「Evidence-Based Economics」を取り上げます。

## 【到達目標】

経済学に関する基本的な知識を応用し、様々な現代問題を経済学の立場から考えるようになる。

The goal of this class is for students to consider various modern social issues from the perspective of economics and apply their understanding of economics to these problems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

## 【授業の進め方と方法】

スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。コロナウイルスの発生が治るまで授業の動画をネット上オンデマンドで配信する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded. For the duration of the coronavirus outbreak, classes will be recorded and made available online for students to view on demand.Regular homework assignments will be followed by feedback on students' performance.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Class introduction and explanation
2	Markets for Factors of Production	Is there discrimination in the labor market?
3	Basic Finance	The basics of business and finance part 1
4	Basic Finance	The basics of business and finance part 2
5	Monopoly	Can a monopoly ever be good for society?
6	Game Theory and Strategic Play	Is there value in putting yourself into someone else's shoes?
7	Oligopoly and Monopolistic Competition	How many firms are necessary to make a market competitive?
8	Trade-Offs Involving Time and Risk	Time and Risk
9	The Wealth of Nations: Defining and Measuring Macroeconomic Aggregates	What is the total market value of annual economic production?
10	Aggregate Incomes	Inequality
11	Economic Growth	Japan's Post-World War II Economic Growth
12	The Monetary System	Hyperinflation

13	Short-Run Fluctuations	Mutual Funds and Index Investing
14	Review and Final Exam	Final review of material covered and Final Exam.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework assignment will be assigned regularly. Students are required to review the work covered in lecture and read the corresponding section of the textbook in addition to completing homework assignments. Preparation 2 hours, review 2 hours, for a total of 4 hours.

## 【テキスト（教科書）】

Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Pearson.

## 【参考書】

特になし。

None.

## 【成績評価の方法と基準】

宿題：30%

期末試験：70%

Homework: 30%

Final Exam: 70%

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

None.

## 【Outline and objectives】

This course continues the application of the principles of economics to real world questions. The course centers on problems described in the 「Evidence-Based Economics」 sections of Economics: Pearson, Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015.

ECN100CD
<b>企業と経済・基礎 A</b>
<b>河村 真</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学は、企業、消費者、政府を含めた経済全体の仕組みを、マクロ的に分析する体系化された学問であるが、この講義は、特に「現代ビジネス学科」1年生向けに、企業とビジネス活動という切り口を中心として、理論と実際の両面から、経済学入門を提供するものである。

## 【到達目標】

受講生は、講義を通じてマクロの基礎理論をマスターし、同時にビジネス経済学の視点から、現実経済に対しての問題意識を持つようになることが期待される。なお、2016年度以降入学生にとって本科目は「必修科目」であるため、2年次終了までに単位を取得しなければならない。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

## 【授業の進め方と方法】

感染状況が許す限り、対面による授業で行いたい。春学期には、第4回授業終了後（予定）に課題を提出してもらう。ほぼ1週間を提出期間とする。締め切り直後の講義内で、模範解答を解説する。感染状況が対面授業を許さない場合、毎回、授業支援システムにレジュメをアップするので、読んで各自で理解いただきたい。その場合、春学期中に1回課題を出すので、授業支援システムを通じて課題の解答を提出していただくつもりである。締め切り直後に zoom による授業を通じて解答の解説を行う。授業内容の質疑応答のため zoom による授業の回数を初回だけでなく、1、2回行う。1週間前までに、zoom 授業の情報を授業支援システムを通じてお知らせする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	日本経済の状況を把握する統計Ⅰ	GDP、実質 GDP および産業別生産額
第2回	日本経済の状況を把握する統計Ⅱ	物価統計と物価指数の作成例
第3回	日本経済の状況を把握する統計Ⅲ	国民所得の分配の内訳としての分配勘定
第4回	日本経済の状況を把握する統計Ⅳ	消費、投資などを項目として含む支出勘定
第5回	消費の水準の変化は何が原因か？Ⅰ	GDP と消費の相関、限界消費性向
第6回	消費の水準の変化は何が原因か？Ⅱ	金利、物価水準などの消費への効果
第7回	投資の水準の変化は何が原因か？Ⅰ	GDP の成長の投資への効果：加速度原理、利潤原理
第8回	投資の水準の変化は何が原因か？Ⅱ	機会費用としての金利の投資への効果：投資関数
第9回	GDP 決定の理論Ⅰ	「45度線」分析の紹介
第10回	GDP 決定の理論Ⅱ	投資および政府支出の乗数効果、なぜこれらは1より大きい？
第11回	政府支出増加と減税	政府支出乗数と租税乗数
第12回	需要-供給曲線を用いた GDP および物価水準同時決定の理論	需要・供給曲線を用いて決める GDP 及び物価の均衡水準
第13回	財政政策、金融政策の GDP および物価水準への効果	需要-供給曲線を用いた政策の GDP 及び物価の水準の変化の予測
第14回	日本経済の状況を把握する統計Ⅴ	金利および失業率

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容（授業ノート）および配布資料の理解と確認をその都度、および復習を通じて行っていくこと。その他詳細は授業内で指示する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業の中で、レジュメや参考資料の配布、参考文献の指示を行う。

## 【参考書】

講義内で適宜紹介したいと思う。要望があれば、基本的な経済学入門の教科書を数冊、講義の際に持参するので、手にとって確かめることができるようにしたいと思う。

**【成績評価の方法と基準】**

定期試験の成績に従って、評価をつけることにする。定期試験点数による評価 90%、1 回の課題の提出状況に 10%のウェイトで評価を行う。

**【学生の意見等からの気づき】**

大学 1 年次の基本科目ということもあり、授業内容を丁寧に、そして適切に講義し、到達目標の達成につなげていきたい。また大教室授業ということもあり、教室内の授業規律（私語の注意など）も適切に実現させたい。

**【Outline and objectives】**

The aim of this course is to get the view on the related SNA(System of National Accounts) figures(e.g. GDP, private consumption, private investment,etc). Second is to overview last 3 decades macro economic figures changes (e.g.real GDP, Consumer Price Index,etc.) and build a view on Japanese Economy for last 3 decades. The third is to understand the determinants of private consumption (consumption function) and private investment(investment function),and fiscal policy effect on GDP(multiplier effect).

ECN100CD
<b>企業と経済・基礎 B</b>
<b>鈴木 豊</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

春学期 A の講義に続いて、秋学期 B の講義では、「現代ビジネス学科」1 年生が、企業とビジネス活動という切り口を中心に、理論と実際の両面から、経済学の基礎的な考え方、分析の仕方を学ぶ。B では「ミクロ経済学」を中心に学習する。

**【到達目標】**

受講生は、講義を通じてミクロ経済学やゲーム理論の基礎理論をマスターし、同時にビジネス経済学の視点から、現実経済に対してアプローチするための問題意識を持つことが期待される。なお、本科目は「必修科目」であるので、2 年次終了までに単位を取得しなければならない。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

教室での対面授業の形態で進める。その場合、黒板を使つての講義となるので、受講生は内容をノートに取り、しっかりと復習することが望まれる。なお、新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、オンライン授業に切り替えて授業を行う。受講生には、Hoppii の「お知らせ」を通じて連絡し、「教材」や「課題」から授業資料や課題を入手できるようにする。課題提出へのフィードバックは、大人数授業のため、重要なポイントに絞って、適切に行う予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期授業の概観	授業の概説：需要・供給と市場メカニズム。ゲーム理論について。
第 2 回	消費者行動の理論①	予算制約（消費可能性集合）、消費者の選好、効用と無差別曲線概念。
第 3 回	消費者行動の理論②	予算制約下の効用最大化、需要関数の導出①。
第 4 回	消費者行動の理論③	予算制約下の効用最大化、需要関数の導出② → 集計
第 5 回	消費者行動の理論④	応用 1：消費者余剰
第 6 回	消費者行動の理論⑤	応用 2：複数制約を伴う効用最大化。消費者の選好の違い。
第 7 回	企業行動の理論①	企業とは。生産関数とその意味。限界生産性の概念。
第 8 回	企業行動の理論②	費用最小化の問題
第 9 回	企業行動の理論③	利潤最大化の問題と企業の供給関数の導出 → 集計
第 10 回	市場の需要、供給曲線とその応用	市場の均衡と、需要供給曲線を使った「政策効果」の分析。
第 11 回	ゲーム理論入門①	ゲーム理論～ゲームとは何か。「囚人のジレンマ」とその応用。
第 12 回	ゲーム理論入門②	チキンゲーム、立地ゲームなどの紹介。「ナッシュ均衡」の概念。
第 13 回	ゲーム理論入門③	調整ゲームなど、ゲームのさらなる紹介と応用例。
第 14 回	インセンティブの経済学	企業の経営者や従業員の「やる気」を引き出す。制度設計への応用。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業ノートおよび配布資料の理解と確認をその都度行っていくこと。配布資料は「授業支援システム」にアップするので、利用すること。

**【テキスト（教科書）】**

前半については、授業内でレジュメや参考資料を配布する。後半については、鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論』（勁草書房）を教科書とする。

**【参考書】**

①ミクロ経済学：伊藤元重『はじめての経済学』日経文庫、同『入門経済学』日本評論社 ②ゲーム理論：岡田章『ゲーム理論・入門』有斐閣、武藤滋夫『ゲーム理論入門』日経文庫 ③日本経済：池上彰『経済のニュースが面白いほどわかる本』中経文庫 ④企業経営、組織の経済学：新原浩朗『日本の優秀企業研究』日経ビジネス文庫、中島隆信『こうして組織は失敗する』中公新書

**【成績評価の方法と基準】**

数回の課題提出（30%）および期末試験（70%）の合計で評価する。課題提出へのフィードバックは、大人数授業のため、ポイントを絞って適切に行う。

**【学生の意見等からの気づき】**

1年次の経済学の基本科目であるので、授業内容を丁寧に、適切に講義し、目標達成につなげていきたい。教室内の授業規律（私語の注意など）も適切に実現させたい。

**【Outline and objectives】**

In the Elementary Business Economics B, the first year students of the Department of Business Economics will learn the basic concepts of Microeconomics and how to analyze Business Economy, from both theoretical and practical aspects, mainly focusing on the corporations (firms) and their business activities. Topics will include Consumer Behavior, Firm Behavior, Market Mechanism, and (Elementary) Game Theory.

MAN100CA
簿記 I A
岸 牧人
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

簿記の目的は、企業が行う経済活動を一定のルールに従って記録・集計し、その結果を決算書に集約することにあります。ただ、簿記を未学習の人の多くは、「簿記はお金の計算をするもの」、あるいは「お小遣い帳のように帳面づけをすること」と思っているのではないのでしょうか。実は、簿記ではお金の計算はほとんどしません。簿記が扱うのは「金額の計算」です。この講義では、決算書の作成方法を習得するための簿記のルールを学習し、企業活動を貨幣価値で表現することを目的とします。

**【到達目標】**

- ・企業が行う経済活動の二面性を理解する。
  - ・簿記のルールを理解する。
  - ・決算書の作成方法を習得する。
- これらの理解を通じて、「日商簿記検定試験 3 級」レベルの知識習得を目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義ごとに書き込み式のプリントを配付します。講義を行ったうえで、講義内容に関する問題演習を行います。演習問題および試験の解答と解説は Hoppii にアップします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス-簿記を学ぶにあたって-	簿記ができると何ができるようになる？ どのように役立てる？
第 2 回	貸借対照表と損益計算書を実際に作ってみよう/両者の関係/利益はお金じゃない？	簡単なケースを用いて貸借対照表と損益計算書を実際に作成します。
第 3 回	経済活動の二面性と仕訳	経済活動の二面性について理解し、これらを仕訳に変換するための法則と方法を学習します。
第 4 回	取引の仕訳と勘定記入	仕訳から総勘定元帳への転記の方法について学習します。
第 5 回	試算表の作成	合計残高試算表の作成方法について学習します。
第 6 回	損益振替仕訳と元帳の締め切り、6 桁式精算表、貸借対照表と損益計算書の作成	決算振替仕訳の意義と各勘定の締め切り、6 桁式精算表と貸借対照表、損益計算書の作成方法について学習します。
第 7 回	簿記一巡の手続き	仕訳から決算書の作成に至るプロセスについて演習します。
第 8 回	中間試験および解説	第 7 回までの内容について中間試験および解説を行います。
第 9 回	三分法による商品売買取引の会計処理①	三分法の意義と売上原価の算定に関する決算整理仕訳について学習します。
第 10 回	三分法による商品売買取引の会計処理②	三分法による商品売買取引の会計処理について問題演習を行います。
第 11 回	仕入諸掛と売上諸掛/仕入戻しと売上戻り/仕入帳と売上帳	仕入諸掛と売上諸掛、商品の返品の会計処理および仕入帳と売上帳の記入方法について学習します。
第 12 回	売掛金と買掛金	得意先元帳と仕入先元帳の記入方法について学習します。
第 13 回	商品有高帳	商品売買取引に関する仮定と商品有高帳の記入方法、売上高・売上原価・売上総利益の計算方法について学習します。
第 14 回	期末試験および解説	春学期の内容について期末試験および解説を行います。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

プリントの演習問題は、講義中にすべてを消化することはできません。残った問題と、別途課す宿題を翌講義までに解答すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

渡部裕巨, 片山覚, 北村敬子編著『検定簿記講義3級商業簿記』（講義開始時における最新版）

## 【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

小テスト 15%（5 点満点 ×3 回）、中間試験 35%（35 点満点）、期末試験 50%（50 点満点）によって評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

講義で配付する書き込み式のプリントはおおむね好評であったので、引き続き使用する。また、ペースが速いと意見があったので、演習問題を宿題とするなど、講義時間の確保に留意する。

## 【学生が準備すべき機器他】

電卓を持参すること。また、プリントを綴じ込む 2 穴のファイルを持参すること。

## 【Outline and objectives】

Bookkeeping is a systematic process of recording economic activities or events concerning the business with monetary unit, and reporting the results in financial statements. This course will provide method how to record economic activities or events and prepare financial statements.

MAN100CA
簿記 I B
岸 牧人
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記 I A で学習した内容の理解を前提として、各種取引の会計処理について学習する。決算整理仕訳を含めた簿記一巡の流れを理解し、決算書の作成を行うことができるようになる。

## 【到達目標】

・各種取引の意義を理解し、会計処理を習得する。  
・決算整理の意義を理解し、8 桁式精算表の作成方法を習得する。  
最終的には日商簿記 3 級の合格レベルの知識と技能を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義ごとに書き込み式のプリントを配付します。講義を行ったうえで、講義内容に関する問題演習を行います。演習問題および試験の解答と開設は Hoppii にアップします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	現金預金取引	当座預金, 当座借越, 当座預金出納帳, 小口現金
第 2 回	現金過不足	現金過不足の会計処理, 記入漏れと誤記入に対する修正仕訳
第 3 回	売掛金・買掛金以外の債権・債務	クレジット売掛金, 前払金と前受金, 貸付金と借入金, 未収入金と未払金, 立替金と預り金, 仮払金と仮受金, 受取商品券と商品券, 差入保証金
第 4 回	手形取引	手形債権と手形債務の会計処理, 受取手形記入帳と支払手形記入帳の記入方法
第 5 回	有形固定資産取引①	有形固定資産の種類, 取得時の会計処理, 減価償却（定額法）の会計処理と記帳方法（直接法, 間接法）
第 6 回	有形固定資産取引②	有形固定資産の売却取引, 期中取得と期中売却
第 7 回	中間試験および解説	第 6 回までの内容に関する中間試験および解説
第 8 回	売上債権と貸倒れ	売上債権の貸倒時の会計処理, 貸倒引当金の設定方法
第 9 回	株式の発行と繰越利益剰余金の分配	株式会社の設立および増資時の会計処理, 繰越利益剰余金の分配と利益準備金の計上
第 10 回	経過勘定科目①	収益・費用の未収・未払・前受・前払の意義と会計処理, 消耗品の期末処理
第 11 回	経過勘定科目②	経過勘定科目の会計処理に関する演習問題
第 12 回	株式会社の税金	租税公課, 法人税, 消費税の会計処理
第 13 回	総合問題演習	8 桁式精算表の作成を中心とした総合問題演習
第 14 回	期末試験および解説	第 13 回までの内容について期末試験および解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プリントの演習問題は、講義中にすべてを消化することはできません。残った問題と、別途課す宿題を翌講義までに解答すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

渡部裕巨, 片山覚, 北山敬子編著『検定簿記講義』（講義開始時における最新版）

## 【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

小テスト 15%（5 点満点 ×3 回）、中間試験 35%（35 点満点）、期末試験 50%（50 点満点）によって評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

講義で配付する書き込み式のプリントはおおむね好評であったので、引き続き使用する。また、ペースが速いと意見があったので、演習問題を宿題とするなど、講義時間の確保に留意する。

**【学生が準備すべき機器他】**

電卓を持参すること。また、プリントを綴じ込む 2 穴のファイルを持参すること。

**【Outline and objectives】**

Bookkeeping is a systematic process of recording economic activities or events concerning the business with monetary unit, and reporting the results in financial statements. This course will provide method how to record economic activities or events and prepare financial statements.

MAN100CA
簿記 I A
石田 惣平
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

簿記の目的は、企業が行う経済活動を一定のルールに従って記録・集計し、その結果を決算書に集約することにあります。ただ、簿記を未学習の人の多くは、「簿記はお金の計算をするもの」、あるいは「お小遣い帳のように帳面づけをすること」と思っているのではないのでしょうか。実は、簿記ではお金の計算はほとんどしません。簿記が扱うのは「金額の計算」です。この講義では、決算書の作成方法を習得するための簿記のルールを学習し、企業活動を貨幣価値で測定することを目的とします。

**【到達目標】**

本講義では、終了時に学生が以下の能力を身に付けることを目標としています。

1. 企業が行う経済活動の二面性を理解する。
2. 簿記のルールを理解する。
3. 決算書の作成方法を習得する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

資料配布の形式で講義を行います。具体的には、講義資料と課題を配布し、講義資料を参照しながら、各自で課題を解いてもらいます。課題についてわからない箇所があれば、Hoppii 上の授業内掲示板で質問をしてください。適宜、回答するようにします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	簿記の目的	簿記の目的
第 2 回	商品売買	商品売買
第 3 回	現金預金	現金預金
第 4 回	手形と電子記録債権（債務）	手形と電子記録債権（債務）
第 5 回	有形固定資産	有形固定資産
第 6 回	その他の取引①	未収入金・未払金／貸付金・借入金／手形貸付金・手形借入金／前払金・前受金
第 7 回	その他の取引②	仮払金・仮受金／立替金・預り金／受取商品券／差入保証金
第 8 回	その他の取引③	その他の収益・費用／消費税／株式の発行／訂正仕訳
第 9 回	帳簿①	主要簿と補助簿／仕訳帳と総勘定元帳／現金出納帳・当座預金出納帳／小口現金出納帳
第 10 回	帳簿②	仕入帳・売上帳／受取手形記入帳・支払手形記入帳／売掛金元帳・買掛金元帳
第 11 回	帳簿③	商品有高帳／固定資産台帳／仕訳と補助簿の関係
第 12 回	試算表	試算表
第 13 回	伝票と仕訳日計表	伝票と仕訳日計表
第 14 回	期末試験と解説	期末試験と解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

事前に講義資料をよく読み、課題を解くこととなります。また、間違った問題を把握し、事後的にしっかり復習する必要があります。そのため、予習だけでなく復習が必要となります。本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

講義資料と課題を授業前にアップロードします。各自で印刷するようにお願いします。

**【参考書】**

特にありません。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験（100%）で成績を評価します。なお、出席は単位取得の前提条件なので、出席が一定の割合を充たさない場合は成績評価の対象としません。

**【学生の意見等からの気づき】**

真剣に学びたい学生のサポートをできるよう努めます。

**【学生が準備すべき機器他】**

電卓あるいは関数電卓が必須となります。

**【その他の重要事項】**

簿記 I B も合わせて受講することを推奨します。

**【Outline and objectives】**

Bookkeeping is a systematic process of recording economic activities or events concerning the business with monetary unit, and reporting the results in financial statements. This course will provide method how to record economic activities or events and prepare financial statements.

MAN100CA
簿記 I B
石田 惣平
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

簿記の目的は、企業が行う経済活動を一定のルールに従って記録・集計し、その結果を決算書に集約することにあります。ただ、簿記を未学習の人の多くは、「簿記はお金の計算をするもの」、あるいは「お小遣い帳のように帳面づけをすること」と思っているのではないのでしょうか。実は、簿記ではお金の計算はほとんどしません。簿記が扱うのは「金額の計算」です。この講義では、決算書の作成方法を習得するための簿記のルールを学習し、企業活動を貨幣価値で測定することを目的とします。

**【到達目標】**

本講義では、終了時に学生が以下の能力を身に付けることを目標としています。

1. 企業が行う経済活動の二面性を理解する。
2. 簿記のルールを理解する。
3. 決算書の作成方法を習得する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

資料配布の形式で講義を行います。具体的には、講義資料と課題を配布し、講義資料を参照しながら、各自で課題を解いてもらいます。課題についてわからない箇所があれば、Hoppii 上の授業内掲示板で質問をしてください。適宜、回答するようにします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	決算手続①	決算手続／決戦整理① 現金過不足の処理／決戦整理② 当座借越勘定への振り替え／決戦整理③ 貯蔵品勘定への振り替え／決戦整理④ 貸倒引当金の設定
第 2 回	決算手続②	決算整理⑤ 有形固定資産の減価償却／有形固定資産の売却／決算整理⑥ 売上原価の算定／決算整理⑦ 消費税の納付額の計算／決算整理⑧ 収益・費用の前払い・前受けと未払い・未収／決算整理⑨ 法人税等の計上
第 3 回	決算手続③	決算整理後残高試算表／精算表の作成／財務諸表の作成／勘定の締め切り／剰余金の配当
第 4 回	株式の発行	株式の発行
第 5 回	剰余金の配当と処分／株主資本の計数変動	剰余金の配当と処分／株主資本の計数変動
第 6 回	税金	税金
第 7 回	商品売買	商品売買
第 8 回	手形と電子記録債権（債務）等	手形と電子記録債権（債務）等
第 9 回	固定資産①	固定資産／固定資産の購入／固定資産の減価償却／固定資産の売却

第10回	固定資産②	固定資産の買換え／固定資産の除却・廃棄／建設仮勘定／固定資産の改良・修繕／固定資産の減失／圧縮記帳／固定資産（管理）台帳
第11回	リース取引	リース取引
第12回	研究開発費と無形固定資産	研究開発費と無形固定資産
第13回	引当金	引当金
第14回	期末試験と解説	期末試験と解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料をよく読み、課題を解くことになります。また、間違った問題を把握し、事後的にしっかり復習する必要があります。そのため、予習だけでなく復習が必要となります。本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

講義資料と課題を授業前にアップロードします。各自で印刷するようにお願いします。

#### 【参考書】

特にありません。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）で成績を評価します。なお、出席は単位取得の前提条件なので、出席が一定の割合を充たさない場合は成績評価の対象としません。

#### 【学生の意見等からの気づき】

真剣に学びたい学生のサポートをできるよう努めます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

電卓あるいは関数電卓が必須となります。

#### 【その他の重要事項】

簿記I Aも合わせて受講することを推奨します。

#### 【Outline and objectives】

Bookkeeping is a systematic process of recording economic activities or events concerning the business with monetary unit, and reporting the results in financial statements. This course will provide method how to record economic activities or events and prepare financial statements.

MAN100CA
簿記 I A
梅津 亮子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※現代ビジネス学科の指定クラスのみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記とは、企業等で行われる経済活動とその結果を一定のルールによって記録・集計する仕組みのことである。本講義では、複式簿記のシステムに従って、主として企業で行われる日々の活動（取引）を整理・記録して、企業の一年間の成績表である損益計算書と貸借対照表を作成するまでの過程を学習していく。簿記の初学者を対象とし、日商簿記検定3級程度の基礎的な知識を習得することを目的とする。

#### 【到達目標】

1. 複式簿記の仕組みを理解する、2. 日常の取引を処理することができる、3. 決算手続きの一連の流れを説明することができる、4. 損益計算書・貸借対照表を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	企業会計の意義	会計の意義と種類、経営活動と会計、簿記の基本原則
第2回	貸借対照表の仕組み	資産・負債・資本、貸借対照表を用いた損益計算
第3回	損益計算書の仕組み	収益と費用、損益計算書を用いた損益計算、貸借対照表と損益計算書の関係
第4回	勘定と取引	勘定の意義、簿記上の取引、取引要素と取引の二重性
第5回	仕訳と転記	貸借平均の原理、仕訳のルール、元帳への転記
第6回	試算表の意義と限界	合計試算表、残高試算表、合計残高試算表
第7回	現金預金	通貨代用証券、現金過不足の処理、現金出納帳
第8回	当座預金	当座預金、当座預金出納帳
第9回	小口現金	インプレスト・システム、小口現金出納帳
第10回	商品売買①	分記法、三分法、掛け売買、手付金・内金の処理
第11回	商品売買②	商品券、返品処理、諸掛りの処理
第12回	商品売買③	売掛金元帳、買掛金元帳
第13回	商品売買④	商品有高帳、売上原価の計算
第14回	復習	春学期の学習内容の復習

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。特にテキストの例題、練習問題をもう一度解いておくこと。本授業の準備・復習時間は4時間を目安とします。

#### 【テキスト（教科書）】

初回講義で指示します。

#### 【参考書】

必要に応じてそのつと紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

小テスト10%、期末試験90%（オンライン授業の場合は、適宜、学習支援システムで成績評価方法を掲示する）

#### 【学生の意見等からの気づき】

理論説明、問題演習、解説をバランスよく配分する。

#### 【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

#### 【Outline and objectives】

This course introduces the theory and practice of double-entry bookkeeping. Students learn the fundamental rules of double-entry bookkeeping and accounting procedures required to prepare the financial statements.

MAN100CA
簿記 I B
梅津 亮子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※現代ビジネス学科の指定クラスのみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

簿記とは、企業等で行われる経済活動とその結果を一定のルールによって記録・集計する仕組みのことである。本講義では、複式簿記のシステムに従って、主として企業で行われる日々の活動（取引）を整理・記録して、企業の一年間の成績表である損益計算書と貸借対照表を作成するまでの過程を学習していく。簿記の初学者を対象とし、日商簿記検定 3 級程度の基礎的な知識を習得することを目的とする。

**【到達目標】**

1. 複式簿記の仕組みを理解する、2. 日常の取引を処理することができる、3. 決算手続きの一連の流れを説明することができる、4. 損益計算書・貸借対照表を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	手形取引	約束手形、手形記入帳、手形による借入れ・貸付け
第 2 回	各種帳簿、電子記録債権・債務	主要簿と補助簿、各種帳簿の関係、電子記録債権・債務
第 3 回	有形固定資産	有形固定資産の取得・売却・賃借
第 4 回	債権債務	未収入金・未払金、仮払金・仮受金、立替金・預り金
第 5 回	決算	決算の意味、決算手続き
第 6 回	決算整理①	租税公課、貯蔵品の処理
第 7 回	決算整理②	売上原価を算定するための仕訳と勘定記入
第 8 回	決算整理③	貸倒引当金の設定
第 9 回	決算整理④	有形固定資産の減価償却
第 10 回	決算整理⑤	前払費用、前受収益、未払費用、未収収益
第 11 回	精算表	8 桁精算表の作成
第 12 回	帳簿の締切と財務諸表	損益振替、繰越利益剰余金勘定、財務諸表の作成
第 13 回	株式会社の会計	株式の発行、利益剰余金の配当・処分、税金
第 14 回	復習	秋学期の学習内容の復習

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。特にテキストの例題、練習問題をもう一度解いておくこと。本授業の準備・復習時間は 4 時間を目安とします。

**【テキスト（教科書）】**

初回講義で指示します。

**【参考書】**

必要に応じてそのつど紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

小テスト 10 %、期末試験 90 %（オンライン授業の場合は、随時、学習支援システムで成績評価方法を掲示する）

**【学生の意見等からの気づき】**

理論説明、問題演習、解説をバランスよく配分する。

**【その他の重要事項】**

電卓を用意しておくこと。

**【Outline and objectives】**

This course introduces the theory and practice of double-entry bookkeeping. Students learn the fundamental rules of double-entry bookkeeping and accounting procedures required to prepare the financial statements.

MAN100CA
簿記 I A
田中 優希
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※現代ビジネス学科の指定クラスのみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義では複式簿記の記録・作表のルールを学ぶ。会計科目の履修を考えている学生、企業分析に関心のある学生は履修してほしい。

**【到達目標】**

複式簿記のルールにしたがって、記録・集計を行うことができる。

日本商工会議所簿記検定 3 級に合格できる水準を目指す。

初学者を対象としているので、既に簿記 3 級相当の知識を持つ者は履修する必要はない。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義中は頻繁に練習問題を実施する。電卓を持参すること。

講義後、出席票には理解度と、質問や感想を書くこと。質問については時間の許す範囲で次の講義時に対応する。

パワーポイントとプロジェクターを用いて講義を実施する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	簿記の紹介
第 2 回	簿記の意義と財務諸表	単式簿記と複式簿記／簿記の基本原理
第 3 回	収益・費用	損益計算書の構成
第 4 回	資産・負債・純資産	貸借対照表の構成
第 5 回	勘定と取引	簿記上の取引／取引要素と取引の二重性／貸借平均の原理
第 6 回	仕訳と転記	仕訳のルール／元帳への転記
第 7 回	試算表の作成	合計試算表／残高試算表／合計残高試算表
第 8 回	決算 (1)	決算手続きの一巡
第 9 回	決算 (2)	費用収益の損益振替／資本金勘定への振替／帳簿の締め切り
第 10 回	決算 (3)	繰越試算表／損益計算書、貸借対照表の作成
第 11 回	現金預金取引 (1)	現金・預金取引／現金過不足／現金出納帳
第 12 回	現金預金取引 (2)	当座預金／当座借越
第 13 回	現金預金取引 (3)	小口現金／小口現金出納帳
第 14 回	総合問題演習	総合問題演習

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

講義後はわずかな時間で構わないので復習を行うこと。もっとも効果的な学習は反復である。講義資料は学習支援システムを通じて配布する。

予習に 1 時間、講義後の復習に 1 時間、次回講義前に 1 時間の見直しを行うと効果的である。

最初は耳慣れない言葉が多いと思うが、講義の進捗と共にビジネスや企業経営に対する理解も深まるので、根気よく取り組んでほしい。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは定めない。講義時に配布する資料に基づいて進める。

**【参考書】**

講義開始後に案内する。

**【成績評価の方法と基準】**

①講義後に実施する「学習支援システム」上のテスト／アンケート (20%)

②期末試験 (80%)

簿記資格の保有に対する優遇措置は取らない。

初回講義で詳細を案内する。

**【学生の意見等からの気づき】**

初学者にわかりやすいよう、適度なスピードで講義を実施する。講義の冒頭には前回の復習を実施し、頻繁に練習問題を実施する。

**【学生が準備すべき機器他】**

電卓を持参すること。

**【その他の重要事項】**

関連資格：日商簿記検定 3 級

科目の位置づけ：すべての会計関連科目の基礎。1 年次の履修を推奨。質問等はメールでお知らせください (y.tanaka@hosei.ac.jp)。

**【Outline and objectives】**

The student will be introduced to rules for double entry bookkeeping.

Upon completion of the course, the student is expected to be able to:

1. Understand accounting process and cycle.
2. Record and tabulate according to the rules of double entry bookkeeping.
3. Pass the Japanese Chamber of Commerce and Industry Bookkeeping Test Level 3 grade.

Every student who wants to learn accounting should take this course.

MAN100CA
簿記 I B
田中 優希
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※現代ビジネス学科の指定クラスのみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義では複式簿記の記録・作表のルールを学ぶ。会計科目の履修を考えている学生、企業分析に関心のある学生は履修してほしい。

**【到達目標】**

複式簿記のルールにしたがって、記録・集計を行うことができる。日本商工会議所簿記検定 3 級に合格できる水準を目指す。初学者を対象としているので、既に簿記 3 級相当の知識を持つ者は履修する必要はない。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義中は頻繁に練習問題を実施する。電卓を用意すること。

パワーポイントを用いて講義を実施する。

講義中に出题する演習問題は、資料を参考に自身で手書きで解いても良いし、学習支援システムの「テスト」に用意された同じ問題を解いても良い。いずれにせよ、必ず各回の演習問題を行って欲しい。講義後は、翌週までに学習支援システムを通じて質問や感想を送ることができ、内容に応じて加点がある。詳細は下記「成績評価の方法と基準」参照。

多くの受講生の理解の助けになる質問やコメントについては、学習支援システムの資料配布等を通じてフィードバックする。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期復習	春学期の学習内容の復習と問題演習
第 2 回	商品売買 (1)	商品売買取引 (三分法、分記法) / 掛取引 / 売上・仕入諸掛
第 3 回	商品売買 (2)	仕入帳・売上帳 / 売掛金元帳・買掛金元帳
第 4 回	商品売買 (3)	商品有高帳の記帳方法 / 売上原価の計算
第 5 回	手形取引	手形取引の意味 / 約束手形
第 6 回	債権と債務 (1)	貸付金・借入金 / 未収金・未払金 / 立替金・預り金
第 7 回	債権と債務 (2)	前払金・前受金 / 仮払金・仮受金 / 他店商品券
第 8 回	有形固定資産	有形固定資産の取得・減価償却・売却
第 9 回	株式会社の資本	資本の増加取引 / 資本の減少取引
第 10 回	税金の処理	租税公課
第 11 回	精算表の作成	8 桁精算票の仕組み
第 12 回	決算整理事項 (1)	売上原価計算 / 貸倒引当金の設定
第 13 回	決算整理事項 (2)	費用収益の繰延・見越
第 14 回	決算整理事項 (3)	有形固定資産の減価償却
	総合復習問題	総合復習問題

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

講義後はわずかな時間で構わないので復習を行うこと。もっとも効果的な学習は反復である。講義資料は学習支援システムを通じて配布する。

予習に 1 時間、講義後の復習に 1 時間、次回講義前に 1 時間の見直しを行うと効果的である。

最初は耳慣れない言葉が多いと思うが、講義の進捗と共にビジネスや企業経営に対する理解も深まるので、根気よく取り組んでほしい。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは定めない。講義時に配布する資料に基づいて進める。

**【参考書】**

講義開始後に案内する。

**【成績評価の方法と基準】**

①講義後に実施する「学習支援システム」上のテスト／アンケート（20%）

②期末試験（80 %）

簿記資格の保有に対する優遇措置は取らない。

初回講義で詳細を案内する。

**【学生の意見等からの気づき】**

初学者にわかりやすいよう、適度なスピードで講義を実施する。

講義の冒頭には前回の復習を実施し、頻繁に練習問題を実施する。

**【学生が準備すべき機器他】**

電卓を持参すること。

**【その他の重要事項】**

関連資格：日商簿記検定 3 級

科目の位置づけ：すべての会計関連科目の基礎。1 年次の履修を推奨。

**【Outline and objectives】**

The student will be introduced to rules for double entry bookkeeping.

Upon completion of the course, the student is expected to be able to:

1. Understand accounting process and cycle.
2. Record and tabulate according to the rules of double entry bookkeeping.
3. Pass the Japanese Chamber of Commerce and Industry Bookkeeping Test Level 3 grade.

Every student who wants to learn accounting should take this course.

MAN100CA
<b>企業経営入門 A</b>
川邊 安彦
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

企業経営入門 A では、基礎的な企業の経営手法を学びます。グローバル企業における組織及び経営の基礎ノウハウなどの語彙及び具体的な内容についての理解を行います。

**【到達目標】**

企業経営に興味があり、何か自分でできるのか？ という事を切欠に企業経営を理解できるようになります。また、学生が企業経営を評価できることで自分自身の将来の進路を決心する時に役立ちます。最終的に学生が専門的な企業経営内容の質疑に適切に応えることができるようになることが目標となる講義です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

- ①シラバスの内容を事前に確認し指示事項に沿って予習を行ってください。
- ②毎回講義の中で学生が質疑を行い回答しますので理解を深めてください。
- ③教員からのコメントや資料の意味についての説明を行います。
- ④講義の理解確認の為、ミニ試験と最終確認試験を行います。
- ⑤前回の授業内容への理解確認や課題等に対するフィードバックの為に次回の講義の最初に確認時間を設定します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
①	企業組織とは何か？	組織図のパターンから読み取る会社の特性と将来
②	企業経営とは？	目標値の設定と日程管理
③	目標値達成手法について	コミットとターゲットとの両立方法
④	企業評価手法（初級）	外から何を評価されているのか？
⑤	企業評価手法（中級）	営業手法から商品について
⑥	企業評価手法（上級）	商品原価内訳について
⑦	企業評価手法（上級プラス）	税金の不思議について
⑧	商品とマーケット評価	海外（アメリカ、欧州、中国）と日本の違い
⑨	商品性とは？	自動車、パソコン、スマホ服飾など商品毎に評価軸を議論しましょう。 学生の好きな商品で大丈夫です。
⑩	国際ルールと商法を含めた法律、税金	海外や日本の商法の概要説明
⑪	労務費とその他費目	製造会社に必要な費目説明
⑫	収益の最大化手法	あるべき原価とは？
⑬	海外事業の成功の鍵	コミュニケーションが全て
⑭	利益の次は、還元	次への準備、どのように還元するのか？

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

予習は、可能であればキーワードのテーマと内容から自分なりにネットで調べてください。

復習は、公開情報の確認を行い、一般的にはどのように進めるのかを確認ください。

本講義の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

必要時には当日配布しますので活用ください。

**【参考書】**

講義内で使用した専門語彙からネットで検索ください。

**【成績評価の方法と基準】**

①成績は、最終講義終了時の次回にマークシート方式のテストを行います。

必ず出席ください。

②その他に各講義で確認試験を行います。この試験が、出席確認となりますので必ず試験には参加ください。

**【学生の意見等からの気づき】**

他の講義実績から対話形式を可能な限りの試みます。

**【学生が準備すべき機器他】**

通常の講義ではスマホなどの機器を持参し、その場で確認できる状況にしてください。

テスト時も持参することが望ましい。

**【その他の重要事項】**

特になし。

**【Outline and objectives】**

Basic business management is learned by management technique. It's understood about vocabulary of the business organization, basic know-how of management and the contents for global company.

MAN100CA
<b>企業経営入門 B</b>
<b>川邊 安彦</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

企業経営入門 B では、テクニカルなノウハウと共に海外に弱い日本企業の体質の説明します。

目的は、今後今まで以上に海外が身近な世界になる経済界においてのグローバルビジネスの理解度向上を行い競争力のある人材の教育をおこないたいと考えています。

**【到達目標】**

海外との評価や現状認識を行うことで日本の現状の理解を深める。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

①シラバスの内容を事前に確認し指示事項に沿って予習を行ってください。

②毎回講義の中で学生が質疑を行い回答しますので理解を深めてください。

③教員側からコメントや資料の意味について説明を行います。

④講義の理解確認の為、ミニ試験と最終確認試験を行います。

⑤前回の授業内容への理解確認や課題等に対するフィードバックの為に次回の講義の最初に確認時間を設定します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
①	経営戦略とは？	自動車生産を基に海外市場の特異性を説明し、異なる商品毎に市場要求が異なる理解を深めてもらう。
②	商品戦略と企業戦略	N 社と T 社系列の商品戦略と企業戦略の説明
③	SWOT 分析	戦略作成の方法
④	自動車業界とリチウム電池の戦略	マップの説明
⑤	品質と要求性能の関係	自動車の衝突安全性能の向上を事例に安全の商品価値の説明
⑥	マーケティング戦略	自動車のマーケティング手法から戦略の定義の理解を説明
⑦	戦略策定	収益性向上の戦略について
⑧	競争優位の戦略	日本の自動車業界がなぜ飛躍的に伸びたのか？
⑨	日本の製造業の明暗	もの作りの伝統と現状
⑩	何故、ダイムラーなのか？	世界 No. 1 を維持できる理由
⑪	何故、アップルなのか？	人間の求めるものに応える商品戦略
⑫	知的財産戦略	今までの日本の優位性と今後
⑬	技術優位で勝てない日本企業	発想の低さ
⑭	標準化	ルールが作れない社会構造
⑮	自由な発想	今、何が求められているのか？

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

予習は、可能であればキーワードのテーマと内容から自分なりにネットで調べてください。

復習は、公開情報の確認を行い、一般的にはどのように進めるのかを確認ください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

必要に応じて当日配布しますので活用ください。

**【参考書】**

講義内で使用した専門語彙はネットで検索ください。

**【成績評価の方法と基準】**

①成績は、最終講義終了時の次回にマークシート方式のテストを行います。

必ず、出席ください。

②その他に各講義で確認試験を行います。この試験が、出席確認となりますので必ず試験には参加ください。

**【学生の意見等からの気づき】**

他の講義経験から対話形式を可能な限り試みます。

**【学生が準備すべき機器他】**

通常の講義ではスマホなどの機器を持参し、その場で確認できる状況にしてください。

テスト時も持参することが望ましい。

**【その他の重要事項】**

特になし。

**【Outline and objectives】**

In corporate management Introduction B, the Japanese management no better than global Biz for the technical know-how and management.

Language: Japanese, English and Spanish

ECN200CD

**企業と経済・応用 A**

鈴木 豊

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

春学期は1年次の「企業と経済・基礎」に続く内容として、「独占・寡占とその応用」「ゲーム理論の基礎」「交渉とオークション」を中心に学習する。受講生は、企業やビジネスに関わる経済学のより進んだ概念や考え方、分析手法を習得し、現実経済（特に企業経済）を考察する力をさらに高めることができる。

**【到達目標】**

1年次の「企業と経済・基礎」（マイクロ・パート）からの接続を意識し、そこからの積み上げとして、企業やビジネスに関わる経済学のより進んだ概念や考え方、分析手法を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

前半は授業用のレジュメ、後半は、教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論』を使って授業を進める。この講義はフルオンデマンド授業となるが、「Zoom」による動画配信」の方式で進める予定である。受講生は、リアクションペーパーと課題提出（レポートを含む）の積み重ねが重要となる。授業の詳細の指示や課題等へのフィードバックは、適宜「学習支援システム」上で行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	完全競争企業	復習。価格所与の下での利潤最大化行動。
第2回	独占企業①	独占企業の行動原理。最適解（独占価格公式）の導出と図解①
第3回	独占企業②	独占企業の行動原理。最適解（独占価格公式）の導出と図解②
第4回	独占企業③	応用問題：価格差別とその応用。部品の内製 vs 外部市場調達など。
第5回	寡占企業①	クールノー競争（数量競争）
第6回	寡占企業②	ベルトラン競争（価格競争）
第7回	寡占企業③	シュタッケルベルク競争（先手・後手の区別） 3つのモデルの比較（余剰分析）
第8回	ゲーム理論の基礎①	ナッシュ均衡
第9回	ゲーム理論の基礎②	サブゲーム完全均衡
第10回	ゲーム理論の基礎③	支配戦略、弱支配戦略、被支配戦略の繰り返し削除など。
第11回	交渉とオークション①	展開型交渉ゲーム
第12回	交渉とオークション②	ナッシュ交渉問題
第13回	交渉とオークション③	オークション①基礎
第14回	交渉とオークション④	オークション②応用

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

教科書『完全理解 ゲーム理論・契約理論』勁草書房 2016 および 授業の配布資料、授業ノートを基に、予習、復習をする。課題提出（毎回の課題、複数回のレポート、リアクションペーパーの内容等）を怠らないこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論』勁草書房 2016

**【参考書】**

1. マクミラン『経営戦略のゲーム理論』（伊藤・林田訳）有斐閣
2. ミルグロム+ロバーツ『組織の経済学』（奥野・伊藤ほか訳）NTT出版
3. 伊藤元重『ミクロ経済学』日本評論社
4. 梶井・松井『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社
5. 岡田章『ゲーム理論・入門』有斐閣

**【成績評価の方法と基準】**

学習支援システム上で課された課題提出（毎回の課題、複数回のレポート、リアクションペーパーの内容等）の積み重ねで評価する。評価のウェイトは、課題提出の合計点（65%）、レポートの合計点（30%）、リアクションペーパーの合計点（5%）で考えている。

## 【学生の意見等からの気づき】

説明はできるだけ分かりやすく、丁寧に行うよう心がけたい。簡単な数値例や図を使い、レジュメなども配って、直観的理解に訴える工夫を心がける。後半は、教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論』に沿った形で進め、内容をフォローしやすくする。レポート課題提出後の解説（フィードバック）も必ず行う。

## 【Outline and objectives】

Following the Elementary Business Economics in the first year, this Advanced Business Economics will deal with the more advanced topics associated with the corporations (firms) and their corporate strategies. It will cover Monopoly and its applications, Duopoly, Game Theory and its applications, such as Bargaining and Auction.

ECN200CD
<b>企業と経済・応用 B</b>
河村 真
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業と経済基礎 A で均衡 GDP（国民所得）の決定の説明（45° 線分析）を学習した。その延長線上として、GDP（国民所得）と金利の水準を同時に決定する説明（IS-LM 分析）さらに、GDP（国民所得）と物価水準を同時に決定する説明（総需要-総供給分析）を理解することが本講義の目的の一つである。これらの説明に基づき（応用問題として）、財政政策及び金融政策が GDP（国民所得）、金利および物価水準への効果を自分で予測できるようになることが第二の目的である。

## 【到達目標】

- ・ IS-LM 分析に基づく GDP（国民所得）および金利の水準の決定の仕組みを理解する。
- ・ 総需要-総供給分析に基づく GDP（国民所得）および物価の水準の決定の仕組みを理解する。
- ・ 財政政策及び金融政策が金利および GDP（国民所得）にあたる効果を予測できるようになる。（IS-LM 分析の仕組みに基づき）
- ・ 財政政策及び金融政策が物価水準および GDP（国民所得）にあたる効果を予測できるようになる。（総需要-総供給分析の仕組みに基づき）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

## 【授業の進め方と方法】

毎回、レジュメをアップし、そのレジュメを読んで図解による説明を理解してもらう。秋学期中に、2 回課題を出すので、1 週間を日毎に授業支援システムの課題にその解答をアップしてほしい。締め切り直後の zoom による講義内で正解の解説を行う。第 1 回は、ガイダンスということで zoom による授業を考えている。さらに、受講生の理解の程度により、質疑応答のための zoom による授業を 1、2 回行うことも考えている。その場合、1 週間前までに、授業支援システムのお知らせにて周知する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済学の理論に基づき GDP、金利、物価水準の動きを説明する理由
2	消費関数と貯蓄関数	消費関数の復習とその裏表の関係にある貯蓄関数の説明（限界貯蓄性向）
3	投資関数	投資関数の背後にある投資の水準の決定の考え方（機会費用）
4	IS 曲線の導出－財市場の均衡－	貯蓄関数と投資関数を組み合わせ、財市場を均衡させる金利と GDP（国民所得）の組み合わせの導出
5	貨幣供給	中央銀行による貨幣供給の仕組み（マーシャルの $k$ など）
6	貨幣需要	IS-LM 分析における貨幣需要の考え方および貨幣需要関数（取引的動機および投機的動機に基づく）
7	LM 曲線の導出－貨幣市場の均衡－	貨幣市場を均衡させる金利と GDP（国民所得）の水準の導出
8	IS-LM 分析に基づく均衡 GDP および金利の水準の決定－財市場および貨幣市場の同時均衡－	IS-LM 分析に基づく 2 つの市場を均衡させる GDP（国民所得）および金利の水準の導出
9	IS-LM 分析に基づく財政政策・金融政策の効果	金融政策及び財政政策美変化が金利および GDP（国民所得）の水準に与える効果の予測（IS-LM 分析に基づき）
10	総需要曲線の導出	貨幣市場および財市場を同時に均衡させる GDP（国民所得）と物価水準の導出
11	生産関数および労働需要曲線	全国体の生産と生産要素需要の決定
12	労働市場を均衡させる GDP 及び物価水準の関係－総供給曲線の導出－	総供給曲線の導出（労働市場を均衡させる物価水準と GDP（国民所得）の水準の導出
13	総需要-総供給分析に基づく物価水準と GDP（国民所得）の導出	財市場、貨幣市場および労働市場を同時に均衡させる GDP（国民所得）および物価水準の導出

- 14 総需要－総供給分析に基づく金融政策、財政政策の効果  
金融政策および財政政策の変化が GDP（国民所得）および物価水準に与える効果の予測

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

レジュメを読んで図解を理解してもらいたい。図解を自分で再現できるようになってほしい。そのため、2 時間程度は必要かと思う。

**【テキスト（教科書）】**

特に指示しない。参考書は、要望が多ければ、レジュメまたは zoom による授業の際に紹介する。基本的には、講義時に配布するレジュメで理解いただけると思う。

**【参考書】**

なし

**【成績評価の方法と基準】**

成績評価は、基本的に、期末に出す課題の解答を授業支援システムの課題にアップしてもらいその素点に関して 85%、2 回の学期内での課題提出の状況（提出の有無）に関して 15%のウェイトで評価を行う。

**【学生の意見等からの気づき】**

レジュメは、ほぼ図解の説明によるため、図解の中で、書き込みの多いものについては、なるべく大きく示すよう心掛ける。

**【Outline and objectives】**

This course is aimed to acquire basic understandings for IS-LM model, determines the levels of interest rate and GDP, and AD-AS model, determines the levels of inflation rate and GDP. Moreover, the course is aimed to be possible for assessing the effects of monetary and fiscal policy changes on the changes of interest rate, inflation rate, and GDP, based on IS-LM, and AD-AS model.

ECN200CA
<b>社会経済学応用 A</b>
<b>原 伸子</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

授業の概要

社会経済学応用 A は社会経済学基礎 A.B で学んだ資本主義の一般理論を前提に、20 世紀以降の現代資本主義のあらたな特質を明らかにする。19 世紀末から 20 世紀初めの景気循環の変容、独占的大資本の登場、国家の経済過程への介入、さらに金本位制度から管理通貨制度への移行は資本主義をどのように変化させたのかを、歴史的具体的事象をととして理論的に理解できるように説明する。さらに 21 世紀に生活するわれわれが現在の社会経済構造を歴史的、理論的に広い視野をもち主体的に考察する視点を持つことの重要性を明らかにする。

**【到達目標】**

この講義では、資本主義の発展過程を歴史的かつ理論的に考える視点を身につけることを目標とする。専門領域の勉強を深めるための土台ともなる講義である。20 世紀以降の歴史的な事象を具体的に示して、資本主義の新たな段階を主体的に考察することができるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

- ・配布資料、パワーポイントを用いながら講義します。また適宜、映像（DVD）を用いて理解を深めることができるようにします。また皆さんからの積極的な質問を歓迎します。
- ・2021 年度もコロナ禍の状況に対応して、オンラインの講義形式を組み合わせる可能性があります。講義形式については、学習支援システムで指示します。
- ・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	社会経済学応用 A の対象と課題	戦間期資本主義の概観、現代社会を理解するための視点
第 2 回	19 世紀末から 20 世紀の資本主義の変容と経済学（1）	オックスフォード理想主義
第 3 回	19 世紀末から 20 世紀の資本主義の変容と経済学（2）	ニューリベラリズム
第 4 回	金融資本の成立（1）	イギリス、フランス
第 5 回	金融資本の成立（2）	ドイツ、ロシア、アメリカ
第 6 回	大恐慌のアメリカ（1）	20 年代から 30 年代の産業構造と金融市場
第 7 回	大恐慌のアメリカ（2）	1929 年大恐慌のメカニズム
第 8 回	戦間期の経済理論（1）	イギリス資本主義とケインズ
第 9 回	戦間期の経済理論（2）	アメリカの新古典派経済学とマネタリスト論争
第 10 回	再建金本位制度	金本位制度再建への努力、日本における金本位制度復帰論争
第 11 回	管理通貨制度への動向	金本位制度崩壊の歴史的・理論的分析
第 12 回	戦間期の日本（1）	恐慌下のマルクス主義とケインズ主義
第 13 回	戦間期の日本（2）	経済思想の相克、世界の中の日本

## 第14回 復習

これまでの講義の内容を整理して  
理解を深める

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 新聞を読み、世界で、日本で、地域で、なにが起きているのかを知る。2. 授業でその都度指示する参考文献を積極的に読むこと。3. 自分の問題関心（テーマ）を設定して深く思索する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

毎回必要なレジュメや資料を配布します。詳しくは、第一回の授業時に学習支援システムで提示します。

## 【参考書】

・増田壽男・沢田幸治編『現代経済と経済学[新版]』有斐閣、2007年。  
・長幸男『昭和恐慌』岩波現代文庫、2001年版。  
・林敏彦『大恐慌のアメリカ』岩波新書、1988年。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点20%、中間試験30%、学期末試験50%で評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の講義を目指す。

## 【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

## 【Outline and objectives】

The aim of the lecture is to study the relationship between the competitive capitalism, which is typical in 19th century in Britain, and the modern capitalism since the 1920-30s from the historical and theoretical point of view. The lecture focuses on the inter-war period, in which there are several features of transition from the competitive capitalism to the modern capitalism. They are the changing of monetary system, the appearance of the monopoly capital and the state intervention in the phased of industrial cycle.

ECN200CA
<b>社会経済学応用 B</b>
<b>原 伸子</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会経済学応用 B は社会経済学応用 A とともに、社会経済学基礎 A.B で学んだ資本主義の一般理論を前提に、現代資本主義の社会経済構造を歴史的、理論的に分析する。社会経済学応用 A では現代資本主義の起点としての戦間期に焦点をあてた。それに対して社会経済学応用 B では、第二次大戦後をブレトンウッズ体制における高度経済成長期、70年代のスタグフレーション期、そして80年代以降の福祉国家の変容の時期の三つにおいて授業をおこなう。とくに、国家の変容、労働市場の動向、家族の変容の諸問題に焦点をあてる。

## 【到達目標】

この講義では、現代資本主義の諸問題を取りあげて理論的・歴史的に分析することを目標とする。専門領域の勉強を深めるための土台ともなる講義である。第二次大戦後から今日に至る日本経済に重点をおいて、統計資料なども用いながら、現実の社会を理解する。そして、私たちが生活する資本主義的経済のメカニズムを主体的に考察することができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

## 【授業の進め方と方法】

・配布資料、パワーポイントを用いながら講義します。また適宜、映像（DVD）を用いて理解を深めることができるようにします。  
・2021年度もコロナのために、大学の授業方針にもとづいて、当面はZoomによるオンライン授業形式を組み合わせる可能性があります。講義形式については、学習支援システムで指示します。  
・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	現代資本主義の諸問題	国家、市場、家族の関係についてを上げる視点
第2回	戦後福祉国家の論理	ベヴァリッジ報告とケインズの総需要管理政策
第3回	高度経済成長期の蓄積メカニズム	年代別に資料を見ながら歴史的展開を確認する
第4回	スタグフレーション(1)	ブレトンウッズ体制の崩壊（通貨危機）と石油危機
第5回	スタグフレーション(2)	戦後初の世界恐慌、二つのコクサイ化
第6回	福祉国家の変容(1)	小さな政府と新自由主義・新保守主義、民営化と市場化、規制緩和
第7回	福祉国家の変容(2)	サッチャーリズムとレーガノミックス、96年アメリカ福祉改革
第8回	労働市場の変容(1)	労働分配率の動向、非正規労働、副業
第9回	労働市場の動向(2)	労働時間の二分化、労働時間の二つの統計
第10回	家族の経済学(1)	ワークライフバランス。日本、ドイツ、スウェーデン。
第11回	家族の経済学(2)	保育と介護の政治経済学。ケア労働の意味を考える。
第12回	労働と生活の調和(1)	家族の経済学、家族の性別分業と男女賃金格差、ジェンダー

- 第13回 労働と生活の調和(2) 各国のワークライフバランスの比較と論理  
 第14回 復習 これまでの講義の内容を整理して理解を深める

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

1. 新聞を読み、世界で、日本で、地域でなにが起きているのかを知る。2. 授業で指示する参考文献を積極的に読むこと。3. 自分の問題関心（テーマ）を設定して深く思索する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

毎回、必要な資料を配布する。

**【参考書】**

増田壽男・沢田幸治編『現代経済学と経済[新版]』有斐閣、2007年。  
 原伸子『ジェンダーの政治経済学—福祉国家・市場・家族』有斐閣、2016年。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点20%、中間試験30%、学期末試験50%で評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生参加型の講義を目指す。

**【Outline and objectives】**

The aim of the lecture is to study the features of contemporary capitalism after the post-World War II from the point of view of Marxian political economy. The lecture focuses on the accumulation pattern of the high level of economic growth in 1960s, the stagflation in 1970s and the retrenchment of welfare state since 1980s. It also examines particularly the changing features of labour market and family life.

ECN200CA
<b>社会経済学応用 A</b>
<b>原 伸子</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

授業の概要

社会経済学応用 A は社会経済学基礎 A,B で学んだ資本主義の一般理論を前提に、20世紀以降の現代資本主義のあらたな特質を明らかにする。19世紀末から20世紀初めの景気循環の変容、独占的大資本の登場、国家の経済過程への介入、さらに金本位制度から管理通貨制度への移行は資本主義をどのように変化させたのかを、歴史的具体的事象をととして理論的に理解できるように説明する。さらに21世紀に生活するわれわれが現在の社会経済構造を歴史的、理論的に広い視野をもち主体的に考察する視点を持つことの重要性を明らかにする。

**【到達目標】**

この講義では、資本主義の発展過程を歴史的かつ理論的に考える視点を身につけることを目標とする。専門領域の勉強を深めるための土台ともなる講義である。20世紀以降の歴史的な事象を具体的に示して、資本主義の新たな段階を主体的に考察することができるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

- ・配布資料、パワーポイントを用いながら講義します。また適宜、映像（DVD）を用いて理解を深めることができますようにします。また皆さんからの積極的な質問を歓迎します。
- ・2021年度もコロナ禍の状況に対応して、オンラインの講義形式を組み合わせる可能性があります。講義形式については、学習支援システムで指示します。
- ・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	社会経済学応用 A の対象と課題	戦間期資本主義の概観、現代社会を理解するための視点
第2回	19世紀末から20世紀の資本主義の変容と経済学(1)	オックスフォード理想主義
第3回	19世紀末から20世紀の資本主義の変容と経済学(2)	ニューリベラリズム
第4回	金融資本の成立(1)	イギリス、フランス
第5回	金融資本の成立(2)	ドイツ、ロシア、アメリカ
第6回	大恐慌のアメリカ(1)	20年代から30年代の産業構造と金融市場
第7回	大恐慌のアメリカ(2)	1929年大恐慌のメカニズム
第8回	戦間期の経済理論(1)	イギリス資本主義とケインズ
第9回	戦間期の経済理論(2)	アメリカの新古典派経済学とマナタリスト論争
第10回	再建金本位制度	金本位制度再建への努力、日本における金本位制度復帰論争
第11回	管理通貨制度への動向	金本位制度崩壊の歴史的・理論的分析
第12回	戦間期の日本(1)	恐慌下のマルクス主義とケインズ主義
第13回	戦間期の日本(2)	経済思想の相克、世界の中の日本

## 第14回 復習

これまでの講義の内容を整理して  
理解を深める

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 新聞を読み、世界で、日本で、地域で、なにが起きているのかを知る。2. 授業でその都度指示する参考文献を積極的に読むこと。3. 自分の問題関心（テーマ）を設定して深く思索する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

毎回必要なレジュメや資料を配布します。詳しくは、第一回の授業時に学習支援システムで提示します。

## 【参考書】

・増田壽男・沢田幸治編『現代経済と経済学[新版]』有斐閣、2007年。  
・長幸男『昭和恐慌』岩波現代文庫、2001年版。  
・林敏彦『大恐慌のアメリカ』岩波新書、1988年。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点20%、中間試験30%、学期末試験50%で評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の講義を目指す。

## 【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

## 【Outline and objectives】

The aim of the lecture is to study the relationship between the competitive capitalism, which is typical in 19th century in Britain, and the modern capitalism since the 1920-30s from the historical and theoretical point of view. The lecture focuses on the inter-war period, in which there are several features of transition from the competitive capitalism to the modern capitalism. They are the changing of monetary system, the appearance of the monopoly capital and the state intervention in the phased of industrial cycle.

ECN200CA
社会経済学応用 B
原 伸子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会経済学応用 B は社会経済学応用 A とともに、社会経済学基礎 A.B で学んだ資本主義の一般理論を前提に、現代資本主義の社会経済構造を歴史的、理論的に分析する。社会経済学応用 A では現代資本主義の起点としての戦間期に焦点をあてた。それに対して社会経済学応用 B では、第二次大戦後をブレトンウッズ体制における高度経済成長期、70年代のスタグフレーション期、そして80年代以降の福祉国家の変容の時期の三つにおいて授業をおこなう。とくに、国家の変容、労働市場の動向、家族の変容の諸問題に焦点をあてる。

## 【到達目標】

この講義では、現代資本主義の諸問題を取りあげて理論的・歴史的に分析することを目標とする。専門領域の勉強を深めるための土台ともなる講義である。第二次大戦後から今日に至る日本経済に重点をおいて、統計資料なども用いながら、現実の社会を理解する。そして、私たちが生活する資本主義的経済のメカニズムを主体的に考察することができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

## 【授業の進め方と方法】

・配布資料、パワーポイントを用いながら講義します。また適宜、映像（DVD）を用いて理解を深めることができるようにします。  
・2021年度もコロナのために、大学の授業方針にもとづいて、当面はZoomによるオンライン授業形式を組み合わせる可能性があります。講義形式については、学習支援システムで指示します。  
・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	現代資本主義の諸問題を取り上げる視点	国家、市場、家族の関係について
第2回	戦後福祉国家の論理	ベヴァリッジ報告とケインズの総需要管理政策
第3回	高度経済成長期の蓄積メカニズム	年代別に資料を見ながら歴史的展開を確認する
第4回	スタグフレーション(1)	ブレトンウッズ体制の崩壊（通貨危機）と石油危機
第5回	スタグフレーション(2)	戦後初の世界恐慌、二つのコクサイ化
第6回	福祉国家の変容(1)	小さな政府と新自由主義・新保守主義、民営化と市場化、規制緩和
第7回	福祉国家の変容(2)	サッチャーリズムとレーガノミックス、96年アメリカ福祉改革
第8回	労働市場の変容(1)	労働分配率の動向、非正規労働、副業
第9回	労働市場の動向(2)	労働時間の二分化、労働時間の二つの統計
第10回	家族の経済学(1)	ワークライフバランス。日本、ドイツ、スウェーデン。
第11回	家族の経済学(2)	保育と介護の政治経済学。ケア労働の意味を考える。
第12回	労働と生活の調和(1)	家族の経済学、家族の性別分業と男女賃金格差、ジェンダー

第13回 労働と生活の調和(2) 各国のワークライフバランスの比較と論理

第14回 復習 これまでの講義の内容を整理して理解を深める

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

1. 新聞を読み、世界で、日本で、地域でなにが起きているのかを知る。2. 授業で指示する参考文献を積極的に読むこと。3. 自分の問題関心（テーマ）を設定して深く思索する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

毎回、必要な資料を配布する。

**【参考書】**

増田壽男・沢田幸治編『現代経済学と経済[新版]』有斐閣、2007年。  
原伸子『ジェンダーの政治経済学—福祉国家・市場・家族』有斐閣、2016年。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点20%、中間試験30%、学期末試験50%で評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生参加型の講義を目指す。

**【Outline and objectives】**

The aim of the lecture is to study the features of contemporary capitalism after the post-World War II from the point of view of Marxian political economy. The lecture focuses on the accumulation pattern of the high level of economic growth in 1960s, the stagflation in 1970s and the retrenchment of welfare state since 1980s. It also examines particularly the changing features of labour market and family life.

ECN200CA
<b>マクロ経済学 A</b>
<b>森田 裕史</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

数学的な手法を用いて、マクロ経済分析に用いられる経済指標、及び基本的なマクロ経済モデルについて説明を行います。

**【到達目標】**

- 1：マクロ経済分析で用いられる経済指標を正しく理解する。
- 2：マクロ経済モデルに基づいて現実の経済現象を説明できるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

ビデオ教材を利用したオンデマンド形式の授業です。適宜、学習支援システムを利用して確認テストを行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンス
第2回	GDPについて(1)	GDPとは
第3回	GDPについて(2)	GDPに関連した概念
第4回	GDPについて(3)	質問の受付：GDPについて
第5回	GDPについての総括	確認テスト1：GDPについて
第6回	長期モデル1(1)	総供給と総需要の決定
第7回	長期モデル1(2)	財市場の均衡と与件の変化
第8回	長期モデル1(3)	質問の受付：長期モデル1
第9回	長期モデル1の総括	確認テスト2：長期モデル1
第10回	長期モデル2(1)	貨幣と貨幣需要について
第11回	長期モデル2(2)	貨幣市場の均衡と政策の効果
第12回	長期モデル2(3)	質問の受付：長期モデル2
第13回	長期モデル2の総括	確認テスト3：長期モデル2
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

特になし。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

古澤泰治・塩路悦朗、『ベーシック経済学—次につながる基礎固め(新版)』、有斐閣アルマ、2018年。

**【参考書】**

特になし。

**【成績評価の方法と基準】**

確認テスト1～3(30%)と期末テスト(70%)に基づいて成績を評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

ひとつのトピックが終わるごとに確認テストを行うことで、学生に知識の定着を促す。

**【その他の重要事項】**

教科書の内容に沿った講義なので、必ず教科書を購入するようにして下さい。

確認テストや期末テストを実施する回は決まっているので、計画的にビデオ教材を視聴するようにして下さい。

授業内容に関する質問は、学習支援システム上の「掲示板」の機能を利用してください。

## 【Outline and objectives】

In this course, the students learn the economic data related with macroeconomic analysis and the basic macro economic model.

ECN200CA
マクロ経済学 B
森田 裕史
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学的な手法を用いて、マクロ経済分析に用いられる経済指標、及び基本的なマクロ経済モデルについて説明を行います。

## 【到達目標】

- 1：マクロ経済分析で用いられる経済指標を正しく理解する。
- 2：マクロ経済モデルに基づいて現実の経済現象を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

## 【授業の進め方と方法】

ビデオ教材を利用したオンデマンド形式の授業です。適宜、学習支援システムを利用して確認テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンス
第 2 回	短期モデル（1）	短期モデルにおける財市場
第 3 回	短期モデル（2）	短期モデルにおける貨幣市場
第 4 回	短期モデルの総括	確認テスト 1：短期モデル
第 5 回	人々の将来予想と経済変動（1）	家計の将来予想
第 6 回	人々の将来予想と経済変動（2）	企業による価格設定
第 7 回	人々の将来予想と経済変動の総括	確認テスト 2：人々の将来予想と経済変動
第 8 回	経済成長モデル（1）	経済成長モデルの構造と生産関数
第 9 回	経済成長モデル（2）	ソロー・スワン経済成長モデル
第 10 回	経済成長モデル（3）	人口成長と技術進歩の役割
第 11 回	経済成長モデルの総括	確認テスト 3：経済成長モデル
第 12 回	日本経済とマクロ経済学	失われた 10 年の原因
第 13 回	これまでの授業の復習	予備：質問の受付
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

古澤泰治・塩路悦朗, 『ベーシック経済学一次につながる基礎固め(新版)』, 有斐閣アルマ, 2018 年.

## 【参考書】

特になし。

## 【成績評価の方法と基準】

確認テスト 1～3（30%）と期末テスト（70%）に基づいて成績を評価する。

## 【学生の意見等からの気づき】

ひとつのトピックが終わるごとに確認テストを行うことで、学生に知識の定着を促す。

## 【その他の重要事項】

教科書の内容に沿った講義なので、必ず教科書を購入するようにして下さい。

確認テストや期末テストを実施する回は決まっているので、計画的にビデオ教材を視聴するようにして下さい。  
授業内容に関する質問は、学習支援システム上の「掲示板」の機能を利用して下さい。

**【Outline and objectives】**

In this course, the students learn the economic data related with macroeconomic analysis and the basic macro economic model.

ECN200CA
<b>マクロ経済学 A</b>
<b>檜野 智子</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業では初級レベルのマクロ経済学を学びます。マクロ経済学とは、インフレーション、失業、経済成長など、経済全体に関わる現象を研究する学問です。この授業の目的は、マクロ経済学の基礎的な概念や、基本となる分析の枠組みを理解することです。

**【到達目標】**

- ・今日の日本経済における問題が何か理解する。
- ・日常的なマクロ経済学の問題を考察できるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

- ・オンデマンド型のオンライン授業を行います。講義資料は学習支援システムで配布します。
- ・課題等のフィードバックは、学習支援システムを使って行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	GDP(1)	国内総生産、三面等価の原則、国民総所得、名目と実質
2	GDP(2)	景気循環の考え方
3	消費と貯蓄の決定 (1)	ケインズ型の消費関数、ライフサイクル仮説、恒常所得仮説
4	消費と貯蓄の決定 (2)	流動性制約と消費、日本の貯蓄率
5	設備投資と在庫投資 (1)	企業の設備投資、投資の決定要因、資本の限界生産性
6	設備投資と在庫投資 (2)	資本の使用者費用、望ましい資本ストック、新古典派の投資理論
7	設備投資と在庫投資 (3)	ジョルゲンソンの投資理論、調整費用モデル、在庫投資
8	金融と株価 (1)	企業の資金調達手段、家計の資産選択、株価の決定理論
9	金融と株価 (2)	トービンの q 理論、投資理論の実証分析、流動性制約と投資
10	貨幣の需要と供給 (1)	貨幣の機能、貨幣需要の動機、貨幣需要関数
11	貨幣の需要と供給 (2)	ハイパワードマネーと貨幣供給、貨幣量のコントロール方法、利率の決定理論、テーラー・ルール
12	乗数理論と IS-LM 分析 (1)	有効需要の原理、乗数理論
13	乗数理論と IS-LM 分析 (2)	財市場と IS 曲線、貨幣市場と LM 曲線
14	乗数理論と IS-LM 分析 (3)	IS-LM 分析、財政・金融政策

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

- ・講義前に教科書を読み、講義後しっかり復習して下さい。
- ・予習時間 1 時間、復習時間 3 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

「マクロ経済学・入門 第 5 版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2016 年（電子書籍あり <https://bit.ly/3qFDQny>）

**【参考書】**

なし

**【成績評価の方法と基準】**

小テスト 100 %

・小テストとは、学習支援システムを使用した Web テストです。複数回実施する小テストにより評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

ゆっくり講義するよう心掛けます。

**【学生が準備すべき機器他】**

講義資料の配布、Web テスト、授業連絡等に学習支援システムを使用するため、最低限スマートフォンが必要です。(パソコンは必須ではありません)

**【その他の重要事項】**

秋学期の「マクロ経済学B」は、春学期の「マクロ経済学A」の内容を前提とした講義になります。

**【Outline and objectives】**

When you take this course, you can explain basic macroeconomic and consider our society from an independent perspective.

ECN200CA
<b>マクロ経済学 B</b>
<b>檜野 智子</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業では初級レベルのマクロ経済学を学びます。マクロ経済学とは、インフレーション、失業、経済成長など、経済全体に関わる現象を研究する学問です。この授業の目的は、マクロ経済学の基礎的な概念や、基本となる分析の枠組みを理解することです。

**【到達目標】**

- ・今日の日本経済における問題が何か理解する。
- ・日常的なマクロ経済学の問題を考察できるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

- ・オンデマンド型のオンライン授業を行います。講義資料は学習支援システムで配布します。
- ・課題等のフィードバックは、学習支援システムを使って行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	経済政策の有効性 (1)	景気循環と経済政策、トレンドの変動、経済政策の有効性
2	経済政策の有効性 (2)	マクロ計量モデル、マネタリズム
3	経済政策の有効性 (3)	非伝統的金融政策
4	財政赤字と国債 (1)	財政政策、国債の役割と問題点、日本の財政赤字
5	財政赤字と国債 (2)	課税平準化の理論、日本の国債市場の動向
6	インフレとデフレ (1)	日本の物価水準の推移、ダイヤモンド・インフレ
7	インフレとデフレ (2)	コストプッシュ・インフレ、インフレのコスト、ハイパー・インフレ、デフレ
8	失業 (1)	労働市場と失業、フィリップス曲線
9	失業 (2)	自然失業率仮説、自然失業率の変動、日本の失業率
10	経済成長理論 (1)	経済成長とは何か、経済成長の源泉、経済成長理論
11	経済成長理論 (2)	成長会計、収束の概念
12	経済成長理論 (3)	内生的経済成長理論、経済成長と所得分配
13	オープン・マクロ経済 (1)	国際収支表、為替レート、国際通貨制度
14	オープン・マクロ経済 (2)	為替レートの決定要因、経常収支の決定要因

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

- ・春学期の「マクロ経済学 A」の内容を前提とした講義を行います。履修していない場合は、授業開始前に教科書の 1～6 章を自習しておいてください。
- ・講義前に教科書を読み、講義後しっかり復習してください。
- ・予習時間 1 時間、復習時間 3 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

「マクロ経済学・入門 第 5 版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2016 年（電子書籍あり <https://bit.ly/3qFDQny>）

## 【参考書】

なし

## 【成績評価の方法と基準】

小テスト 100%

・小テストとは、学習支援システムを使用した Web テストです。複数回実施する小テストにより評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛けます。

## 【学生が準備すべき機器他】

講義資料の配布、Web テスト、授業連絡等に学習支援システムを使用するため、最低限スマートフォンが必要です。(パソコンは必須ではありません)

## 【その他の重要事項】

「マクロ経済学B」は、春学期の「マクロ経済学A」の内容を前提とした講義になります。

## 【Outline and objectives】

When you take this course, you can explain basic macroeconomics and consider our society from an independent perspective.

ECN200CA

## ミクロ経済学 A

篠原 隆介

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、経済問題・経済事象をミクロ経済学の視点から分析する際に必要な基本知識を習得する。まず、市場取引の理論の基本概念である「需要と供給の理論」について学習する。次に、複数の主体間の相互依存関係を分析する道具として「ゲーム理論」を学習する。本講義では、特に、戦略形ゲームの応用例や分析手順（=ナッシュ均衡の導出）について、学習する。

## 【到達目標】

本講義では、現代経済における人と人、企業と人、国家と人などの主体間の相互依存関係をミクロ経済学的な視点から分析し理解する能力を習得し、相互依存関係により引き起こされる現象の良し悪しを、論理的に判断できる力を身に付けることを到達目標とする。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

## 【授業の進め方と方法】

下記指定の教科書と講義資料に基づき講義を行う。

本講義はオンラインで開講する（オンデマンド型・リアルタイム型の併用）初回のガイダンスはオンデマンド型で行い、これ以降の講義は初回講義にて指示する。講義に関するお知らせ、資料配布、課題の出題は、すべて学習支援システムを通して行う。課題等のフィードバック（課題の解答解説等）は講義内で行う予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ミクロ経済学とは	ミクロ経済学の学習内容について。
2	需要と供給の理論 (1)	支払意思と需要。需要関数と逆需要関数。
3	需要と供給の理論 (2)	企業の意味決定に重要な費用概念について。
4	需要と供給の理論 (3)	限界費用と平均費用、企業の意味決定にどのように影響を与えるか。
5	需要と供給の理論 (4)	供給曲線の導出について。
6	需要と供給の理論 (5)	総余剰、消費者余剰、生産者余剰とは。
7	需要と供給の理論 (6)	市場均衡と配分効率性について。
8	需要と供給の理論 (7)	完全競争市場と不完全競争市場、ゲーム理論はなぜミクロ経済分析において必要とされているのか。
9	選択と意思決定 (1)	リスク、期待効用、不確実性について。
10	選択と意思決定 (2)	リスクに対する態度（危険回避、中立、愛好）について。
11	戦略形ゲーム (1)	戦略形ゲームについて（さまざまな例の提示）。
12	戦略形ゲーム (2)	純粋戦略と混合戦略について。
13	戦略形ゲーム (3)	ナッシュ均衡の定義と導出方法について。
14	春学期講義の総括	春学期の学習内容を復習し、理解度確認のための問題演習を行う。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備・復習時間は、各2時間（計4時間）を標準とします。各自、講義の前後で練習問題を解き、理解度を確認すること。

**【テキスト（教科書）】**

・「需要と供給の理論」の講義資料は、学習支援システムに掲載する。  
・第9回目講義以降の「ゲーム理論」の学習では、下記のテキストを用いる。

・岡田章『ゲーム理論・入門－人間社会の理解のために 新版』有斐閣、2014年

**【参考書】**

0. 井堀利宏『入門ミクロ経済学』新世社、2019年

1. 岡田章、加茂知幸、三上和彦、宮川敏治『ゲーム理論ワークブック』有斐閣、2015年

2. 梶井厚志、松井彰彦『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社、2000年

**【成績評価の方法と基準】**

課題レポート（100%）により評価を行う。詳細については、学習支援システムにて知らせる。

**【学生の意見等からの気づき】**

特に無し。

**【その他の重要事項】**

①「現代経済学入門（基礎）」、「経済学入門」、「企業と経済基礎」等の入門講義は履修済みであることが望ましい。

②本講義で用いる数学は、「ビジネス数学入門」で習得可能であるため、履修を推奨したい。

③授業に関するお知らせは、学習支援システムを通して行う。

**【Outline and objectives】**

This course deals with the basic knowledge in order to analyze economic problems and phenomena from the viewpoint of microeconomics. First, the students learn the standard theory of market transactions (that is, the theory of demand and supply). Second, the students learn the game theory, which examines the interactions among economic players. In this course, the students particularly study some economic applications of the strategic games and the way to derive the Nash equilibrium.

ECN200CA
ミクロ経済学B
篠原 隆介
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義では、ミクロ経済学Aに引き続き、経済問題・経済事象をミクロ経済学の視点から分析する際に必要な基本知識を習得する。第一に、戦略形ゲームの経済問題の応用としてクールノー寡占市場ゲームと公共財供給ゲームを紹介し、分析する。第二に、集団合理性と個人合理性の関係を考察するため、パレート最適性の概念を学習し、上記の応用ゲームに適用する。第三に、逐次的なゲームとその応用例を学習する。形式的な定式化として、展開型ゲームにおける基本知識を学習する。最後に、これまで習得したゲーム理論の基本知識を応用し、繰り返しゲーム理論について学習する。

**【到達目標】**

ミクロ経済学Aに引き続き、現代経済における様々な主体間の相互依存関係を分析対象とするゲーム理論を習得し、主体間の相互依存関係により引き起こされる現象の良し悪しを主体的かつ客観的に考察できる力を身につけることを到達目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

指定の教科書と練習問題集に基づき講義を行う。ミクロ経済学Aの講義内容を前提として、講義を行う。

本講義はオンラインで開講する（オンデマンド型・リアルタイム型の併用）初回のガイダンスはオンデマンド型で行い、これ以降の講義は初回講義にて指示する。講義に関するお知らせ、資料配布、課題の出題は、すべて学習支援システムを通して行う。課題等のフィードバック（課題の解答解説等）は講義内で行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	学習内容について。ミクロ経済学Aとの関連について。
2	戦略形ゲームの応用 (1)	クールノー寡占市場ゲームとナッシュ均衡の導出について。
3	戦略形ゲームの応用 (2)	公共財供給ゲーム、およびこのゲームのナッシュ均衡の導出について。
4	利害対立と協調 (1)	個人合理性 vs 集団合理性
5	利害対立と協調 (2)	パレート最適性について。応用例での導出。
6	ダイナミックなゲーム	逐次的なゲームとその例、ゲームの木、先読み推論について。
7	逐次手番ゲーム応用	シュタッケルベルグ寡占市場ゲームと先導者の利益について。
8	展開型ゲーム (1)	情報集合、部分ゲーム、部分ゲーム完全均衡について Part 1。
9	展開型ゲーム (2)	情報集合、部分ゲーム、部分ゲーム完全均衡について Part 2。
10	繰り返しゲーム (1)	2回繰り返し囚人のジレンマのナッシュ均衡と部分ゲーム完全均衡について。
11	繰り返しゲーム (2)	無限回繰り返し囚人のジレンマについて。

12	繰り返しゲーム (3)	無限回繰り返し囚人のジレンマのトリガー戦略とフォーク定理について Part 1。
13	繰り返しゲーム (4)	無限回繰り返し囚人のジレンマのトリガー戦略とフォーク定理について Part 2。
14	復習と練習問題演習	秋学期の学習内容を復習し、練習問題演習を行う。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間（計 4 時間）を標準とします。各自、講義の前で練習問題を解き、理解度を確認すること。

## 【テキスト（教科書）】

岡田章『ゲーム理論・入門－人間社会の理解のために 新版』有斐閣、2014 年  
学習支援システムにて、補助資料を配布する。

## 【参考書】

1. 井堀利宏『入門ミクロ経済学』新世社、2019 年
1. 岡田章、加茂知幸、三上和彦、宮川敏治『ゲーム理論ワークブック』有斐閣、2015 年
2. 梶井厚志、松井彰彦『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社、2000 年

## 【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した課題 (100%) により成績評価を行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

予習をし、授業に参加し、復習をしてください。そうすれば、自然と講義内容を理解できると思います。

## 【その他の重要事項】

- ① 「現代経済学入門（基礎）」、「経済学入門」、「企業と経済基礎」等の入門講義は履修済みであることが望ましい。
- ② 本講義で用いる数学は、「ビジネス数学入門」で習得可能であるため、履修を推奨したい。
- ③ 授業に関するお知らせは、学習支援システムを通して行う。

## 【Outline and objectives】

This course deals with the basic knowledge in order to analyze economic problems and phenomena from the viewpoint of microeconomics. The contents of this course are as follows:

- 1) Economic applications of the strategic games: the Cournot oligopoly game and the public good provision game.
- 2) The theory of sequential games and its application to the oligopoly market (the Stackelberg oligopoly games)
- 3) Repeated games of the prisoners' dilemma.

ECN200CA
ミクロ経済学 A
平井 俊行
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学 A では特に価格理論と呼ばれる、完全競争市場における価格を通じた資源配分について学ぶ。

## 【到達目標】

- ・ミクロ経済学の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
- ・実際の経済事象をミクロ経済学の考え方で捉えることができるようになる。
- ・簡単なミクロ経済モデルを分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

## 【授業の進め方と方法】

本年度はオンラインでの開講となります。オンデマンド型・リアルタイム型を併用します。第 1 回はオンデマンド型でおこないます。第 2 回目以降は第 1 回のガイダンスで指示します。また、適宜オンラインでの課題をおこないます。課題へのフィードバックは Hoppii のフィードバック機能を用いておこなわれます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・数学準備	講義の進め方。数学準備
2	部分均衡分析 (1)	需要曲線・供給曲線と市場均衡。比較静学。
3	部分均衡分析 (2)	余剰分析。
4	部分均衡分析 (3)	課税の影響。
5	消費者行動 (1)	選好・効用・無差別曲線。予算制約線。
6	消費者行動 (2)	限界代替率と需要の導出。
7	消費者行動 (3)	代替効果・所得効果。
8	生産者行動 (1)	等生産量曲線・等費用線。
9	生産者行動 (2)	生産要素間の限界代替率と費用関数。
10	生産者行動 (3)	供給の導出。
11	生産者行動 (4)	長期の供給と短期の供給。
12	一般均衡分析 (1)	契約曲線・パレート効率性・コア。
13	一般均衡分析 (2)	厚生経済学の基本定理。
14	まとめ	講義のまとめ。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで事前に講義スライド（穴埋め式）を配布するので、事前に目を通し、自身で考えておくこと。また、講義内容の復習および講義内で扱えなかった演習問題を解いておくこと。（各 2 時間が標準）

## 【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、講義資料を配布する。

## 【参考書】

- ① 神取道宏「ミクロ経済学の力」2014 年、日本評論社、3200 円+税
- ② レヴィット, S., グールズビー, A., サイヴァーソン, C.[著]、安田洋祐 [監訳]、高遠裕子 [訳]「レヴィット ミクロ経済学 基礎編」2017 年、東洋経済新報社、3200 円+税
- ③ レヴィット, S., グールズビー, A., サイヴァーソン, C.[著]、安田洋祐 [監訳]、高遠裕子 [訳]「レヴィット ミクロ経済学 発展編」2017 年、東洋経済新報社、3600 円+税

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、オンライン課題 30 %

## 【学生の意見等からの気づき】

話すスピードが速くなりすぎないようにします。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム (Hoppii) を利用する予定。詳細は第 1 回目の講義で説明する。

## 【その他の重要事項】

科目の性質上、数学が出てくるので「ビジネス数学入門」を履修済み・履修することを推奨する。

## 【Outline and objectives】

This course introduces microeconomic theory, especially price theory that analyzes resource allocations through a price in a competitive market.

ECN200CA
<b>ミクロ経済学B</b>
<b>平井 俊行</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学Bでは不完全競争市場・外部性・情報の非対称性を学ぶ。これらの分析に必須となるゲーム理論の学習もおこなう。

**【到達目標】**

・ミクロ経済学・ゲーム理論の用語の定義を理解し、説明できるようになる。  
 ・実際の経済事象を必要に応じて不完全市場・外部性・情報の非対称性の問題と関連づけて捉えることができる。  
 ・ゲーム理論の分析手法で、少なくとも簡単なモデルを分析できるようになる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

本年度はオンライン講義でおこないます。オンデマンド型とリアルタイム型を併用します。第1回目はオンデマンド型でおこない、それ以降については第1回目のガイダンスで指示します。また、Hoppiiの機能を通じたオンライン課題をおこないます。フィードバックもHoppiiのフィードバック機能を利用しておこないます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容の概説・講義の進め方。
2	ゲーム理論 (1)	戦略形ゲームの導入。期待利得の解説。
3	ゲーム理論 (2)	最適反応戦略とナッシュ均衡。
4	ゲーム理論 (3)	(弱) 支配戦略。
5	ゲーム理論 (4)	混合戦略ナッシュ均衡。
6	不完全競争市場 (1)	独占市場。
7	不完全競争市場 (2)	数量競争寡占市場。
8	不完全競争市場 (3)	価格競争財寡占市場。
9	ゲーム理論 (5)	展開形ゲーム。
10	ゲーム理論 (6)	部分ゲーム完全均衡。後向き帰納法。
11	ゲーム理論 (7)	繰返しゲームと、カルテルとしての独占の発生。
12	外部性 (1)	外部 (不) 経済と市場の欠落。ピグー税・補助金。
13	外部性 (2)	公共財供給問題・VCG メカニズム。
14	まとめ	講義のまとめ。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業支援システムで事前に講義スライド (穴埋め式) を配布するので、事前に目を通し、自身で考えておくこと。また、講義内容の復習および講義内で扱えなかった演習問題を解いておくこと。(各2時間が標準)

**【テキスト（教科書）】**

テキストは用いず、講義資料を配布する。

**【参考書】**

- ① 神取道宏「ミクロ経済学の力」2014年、日本評論社、3200円+税
- ② レヴィット, S., グールズビー, A., サイヴァーソン, C. [著]、安田洋祐 [監訳]、高遠裕子 [訳]「レヴィット ミクロ経済学 発展編」2017年、東洋経済新報社、3600円+税
- ③ 岡田章「ゲーム理論・入門 - 人間社会の理解のために - 新版」2014年、有斐閣アルマ、1900円+税

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験 70%、オンライン課題 30%

**【学生の意見等からの気づき】**

話すスピードが速くなりすぎないようにします。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業支援システムを利用する。詳細は第1回目の講義で説明する。

**【その他の重要事項】**

科目の性質上、数学が出てくるので「ビジネス数学入門」を履修済み・履修することを推奨する。

**【Outline and objectives】**

This course introduces microeconomic theory, especially situations called imperfect competition, externalities, and asymmetric information. This course also introduces game theory that is essential for analyzing these situations.

ECN200CA
<b>財政学A</b>
<b>小林 克也</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

日本では、現在、莫大な政府債務残高、少子高齢化に伴う社会保障費の増大、低成長に対する経済政策などの問題が重なり、政府は狭いパスを進まねばなりません。この講義ではこれらの現状について、主に以下のふたつの内容を学びます。前半では、政府の市場介入がどのようなとき必要なのかについて学びます。後半では、日本の財政制度と財政データを見ることで、政府が直面する問題を理解します。

**【到達目標】**

経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解するとともに、わが国の財政を取り巻く問題を把握します。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかを、主体的に考えられるようになるための論理的思考力を身につけます。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

オンラインでの開講です。毎回、Hoppii上の教材フォルダーに講義ノートと必要に応じて資料を入れておきます。受講者はこれらをダウンロードしてオンデマンドで学習を進めて下さい。質問や意見がある際は、Hoppii上の掲示板に書いて下さい。私がそれに返信する形でお答えいたします。10回程度、Hoppii上で課題を出します。採点でコメントもお返すようにしますので、その際に復習もするようにして下さい。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	財政学とはどういう学問か
2	市場の働き	価格機構の働き
3	市場の失敗・政府の失敗	外部性、公共財、情報の問題など
4	財政の三つの機能 (1)	資源配分機能
5	財政の三つの機能 (2)	所得再分配機能
6	財政の三つの機能 (3)	経済安定化機能
7	政府の規模	経済に占める政府の大きさ
8	一般会計歳入 (1)：税収	税目と税収規模、直間比率、国際比較
9	一般会計歳入 (2)：国債	国債の規模、累積赤字
10	一般会計歳出、プライマリーバランス	内訳と規模、一般歳出の考え方、プライマリーバランスの考え方
11	国と地方との関係	国から自治体への移転と規模
12	財政投融资	財政投融资の仕組みと規模
13	予算の策定過程	予算編成と審議過程の把握
14	まとめ	全体のまとめと補足、やり残した内容があればここで扱います。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。経済学の考え方を学びますので、1年次必修の経済学の科目の復習と各回の授業の復習で2時間、日々の新聞での政府や財政に関する記事に目を通し、授業に関連するデータを財務省などのwebを通じて学ぶことに2時間を費やすことを標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定しません。毎回、授業の講義ノートと必要に応じてデータ等をまとめた資料を配布します。

**【参考書】**

受講者が授業の内容を発展的に自習する際に、以下の文献が役立ちます。

制度やデータの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』東洋経済新報社。

財政学を通して学ぶ：麻生良文、小黒一正、鈴木将覚（2018）『財政学 15 講』新世社。

**【成績評価の方法と基準】**

授業内で出題された課題への解答により 100%評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

掲示板へのみなさんからの質問や提出された課題の解答を通じて、みなさんの理解度を確認しながら、わかりやすい講義を心がけます。

**【学生が準備すべき機器他】**

受講者は学期の始めに Hoppii 上で必ず登録をして下さい。オンラインで授業を進めますので PC とインターネットを使える環境を整えて下さい。また講義ノートは穴埋めや自分で作図する形ですので、印刷環境を整えて、自分で書きながら進められるようにして下さい。これらの環境を整えることが難しい場合は、大学の PC やプリンター、wifi を利用して下さい。

**【Outline and objectives】**

At present, Japanese government has to follow a narrow path due to the several problems of a huge government debt, increases in social security costs coming from the aging and low birth rate, and the low economic growth rate. In this course, students learn the issues on the current Japanese public finance and learn how to consider them from the standpoint of economics.

ECN200CA

**財政学 B**

小林 克也

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

財政の制度や現状（財政学 A の内容）の理解を前提として、さまざまな財政上の政策について、ミクロ・マクロ経済学の理論に基づく考え方を学びます。具体的には、課税、公債発行、公共投資増大が経済に及ぼす効果を学びます。春学期に予定した内容で扱えなかったものがある場合は、秋学期の最初で扱います。

**【到達目標】**

私たちの生活に密接な税から、国全体のマクロ経済政策まで、政府が実施している様々な政策について、経済学の理論を用いて考えます。その上で政策の効果がどのようなものなのかを理解できるようになることを目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

オンラインでの開講です。毎回、Hoppii 上の教材フォルダーに講義ノートと必要に応じて資料を入れておきます。受講者はこれらをダウンロードしてオンデマンドで学習を進めて下さい。質問や意見がある際は、Hoppii 上の掲示板に書いて下さい。私がそれに返信する形でお答えいたします。10 回程度、Hoppii 上で課題を出します。採点でコメントもお返しするようにしますので、その際に復習もするようにして下さい。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	財政学 A の復習、マクロとミクロの視点
2	国と地方との関係	国から地方自治体への移転と規模
3	予算の策定過程	予算編成と審議過程の把握
4	租税の転嫁と帰着 (1)	転嫁の現象の紹介
5	租税の転嫁と帰着 (2)	需要曲線と供給曲線による分析
6	所得税と消費税	所得税と消費税の理論的比較
7	消費税のしくみ	付加価値税、日本の制度、長所と問題点
8	国民所得決定の理論 (1)	有効需要の原理
9	国民所得決定の理論 (2)	経済政策（公共投資拡大）の効果
10	国民所得決定の理論 (3)	ビルトイン・スタビライザー、均衡予算定理
11	IS-LM 分析 (1)	財市場の均衡
12	IS-LM 分析 (2)	貨幣市場の均衡
13	IS-LM 分析 (3)	財政政策・金融政策の効果
14	公債の経済学、まとめ	負担についてのさまざまな考え、全体のまとめ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。経済学の考え方を学びますので、1 年次必修の経済学の科目の復習と各回の授業の復習で 2 時間、日々の新聞での政府や財政に関する記事に目を通し、授業に関連するデータを財務省などの web を通じて学ぶことに 2 時間を費やすことを標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定しません。毎回、授業の講義ノートと必要に応じてデータ等をまとめた資料を配布します。

**【参考書】**

受講者が授業の内容を発展的に自習する際に、以下の文献が役立ちます。

制度やデータの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』東洋経済新報社。

財政学を通して学ぶ：麻生良文、小黒一正、鈴木将覚（2018）『財政学 15 講』新世社。

**【成績評価の方法と基準】**

授業内で出題された課題への解答により 100%評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

掲示板へのみなさんからの質問や提出された課題の解答を通じて、みなさんの理解度を確認しながら、わかりやすい講義を心がけます。

**【その他の重要事項】**

受講者は学期の始めに Hoppii 上で必ず登録をして下さい。オンラインで授業を進めますので PC とインターネットを使える環境を整えて下さい。また講義ノートは穴埋めや自分で作図する形ですので、印刷環境を整えて、自分で書きながら進められるようにして下さい。これらの環境を整えることが難しい場合は、大学の PC やプリンター、wifi を利用して下さい。

**【Outline and objectives】**

Students learn the roles of public policies on the basis of Public Finance A, microeconomics, and macroeconomics. In particular, students understand the economic impact of taxation, public debt, and public investment.

ECN200CA
<b>財政学 A</b>
<b>天利 浩</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

わが国では、現在、莫大な政府債務残高、少子高齢化に伴う社会保障費の増大、低成長に対する経済政策など、財政上の問題が山積みになっている。この講義ではこれらの現状について、主に以下のふたつの内容を学ぶ。前半では、政府の市場介入がどのようなとき必要なのかについて考える。後半では、日本の財政制度とその規模を見ることで、日本が直面する財政問題をとらえる。

**【到達目標】**

経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解するとともに、わが国の財政を取り巻く問題を把握する。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかを、主体的に考えられるようになるための論理的思考力を身につける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

オンラインで開講する。Hoppii の教材フォルダーに講義ノートなどのファイルを置くので、オンデマンド式でダウンロードして学習してください。質問などは Hoppii の掲示板で受け付けます。Hoppii で課題を課し採点をします。Hoppii を通して答案へのフィードバックを加えます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	財政学とはどういう学問か
第 2 回	市場の働き	価格機構の働き
第 3 回	市場の失敗・政府の失敗	外部性、公共財、情報の問題など
第 4 回	財政の三つの機能 (1)	資源配分機能
第 5 回	財政の三つの機能 (2)	所得再分配機能
第 6 回	財政の三つの機能 (3)	経済安定化機能
第 7 回	政府の規模	経済に占める政府の大きさ
第 8 回	一般会計歳入 (1)：税収	税目と税収規模、直間比率、国際比較
第 9 回	一般会計歳入 (2)：国債	国債の規模、累積赤字
第 10 回	一般会計歳出、プライマリーバランス	内訳と規模、一般歳出の考え方、プライマリーバランスの考え方
第 11 回	国と地方との関係	国から自治体への移転と規模
第 12 回	財政投融资	財政投融资の仕組みと規模
第 13 回	予算の策定過程	予算編成と審議過程の把握
第 14 回	まとめ	全体のまとめと補足

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。1 年次必修の経済学の科目の復習（1 時間）、授業内容の予復習（2 時間）、新聞やデータの読み取り（1 時間）

**【テキスト（教科書）】**

特に指定しない。資料と講義ノートを配布する。

**【参考書】**

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。(1) は日本の財政制度を学ぶ際に有用。参考書としては (3) よりも (2) の方が基本的な内容。

(1)『図説日本の財政（最新年度版）』財経詳報社

- (2) 小塩隆士 (2016) 『コア・テキスト 財政学 第2版』新世社  
 (3) 麻生良文、小黒一正、鈴木将覚 (2018) 『財政学 15 講』新世社

#### 【成績評価の方法と基準】

講義で出題された課題への解答 (100%)。試験等 (0%)。

#### 【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい講義を心がけます。

#### 【その他の重要事項】

Hoppii を通し講義ノート・関連資料の配布を行うため、学期の始めに Hoppii に登録しておくこと。PDF の閲覧をできるように準備しておくこと。グラフや図を提出する必要があるかもしれないので、その際には、グラフや図を紙に描いて写真を画像ファイルにして送付したり、あるいは、グラフや図を作図できる Word など (あるいは Windows10 の Windows アクセサリ内のペイントなど何とか図を描けるツールで画像ファイルを保存しても良い) で簡単なグラフを描けると良い。

#### 【Outline and objectives】

Currently, there are many financial problems in Japan, such as huge government debt, increasing social security costs due to the aging and low birth rate, and low growth. In this course, students understand issues on the current Japanese public finance and learn how to consider them from the standpoint of economics.

ECN200CA

### 財政学 B

天利 浩

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

制度や現状 (財政学 A の内容) の理解を前提とした上で、さまざまな財政上の政策について、ミクロ・マクロ経済学の理論に基づく考え方を学ぶ。具体的には、税、公債発行、公共投資増大などがどのような効果をもたらすかを学ぶことになる。

#### 【到達目標】

身近な税の問題からマクロ経済政策まで、政府が実施している様々な政策を理論的に眺めていくことで、現実の経済を見る目を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

オンラインで開講する。Hoppii の教材フォルダーに講義ノートなどのファイルを置くので、オンデマンド式でダウンロードして学習してください。質問などは Hoppii の掲示板で受け付けます。Hoppii で課題を課し採点をします。Hoppii を通して答案へのフィードバックを加えます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】  
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	財政学 A の復習、マクロとミクロの視点
第 2 回	租税の転嫁と帰着 (1)	転嫁の現象の紹介
第 3 回	租税の転嫁と帰着 (2)	需要曲線と供給曲線による分析 (代表ケース)
第 4 回	租税の転嫁と帰着 (3)	さまざまなケースでの分析
第 5 回	所得税と消費税	所得税と消費税の理論的比較
第 6 回	消費税のしくみ	付加価値税、日本の制度、長所と問題点
第 7 回	国民所得決定の理論 (1)	有効需要の原理
第 8 回	国民所得決定の理論 (2)	経済政策 (公共投資拡大) の効果
第 9 回	国民所得決定の理論 (3)	ビルトイン・スタビライザー、均衡予算定理
第 10 回	IS-LM 分析 (1)	財市場の均衡
第 11 回	IS-LM 分析 (2)	貨幣市場の均衡
第 12 回	IS-LM 分析 (3)	財政政策・金融政策の効果
第 13 回	公債の経済学	負担についてのさまざまな考え方
第 14 回	、まとめ	全体のまとめと補足

#### 【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。1 年次必修の経済学の科目の復習 (1 時間)、授業内容の予復習 (2 時間)、新聞やデータの読み取り (1 時間)

#### 【テキスト (教科書)】

特に指定しない。資料と講義ノートを配布する。

#### 【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。(1) は日本の財政制度を学ぶ際に有用。参考書としては (3) よりも (2) の方が基本的な内容。

- (1) 『図説日本の財政 (最新年度版)』財経詳報社  
 (2) 小塩隆士 (2016) 『コア・テキスト 財政学 第2版』新世社  
 (3) 麻生良文、小黒一正、鈴木将覚 (2018) 『財政学 15 講』新世社

**【成績評価の方法と基準】**

講義で出題された課題への解答 (100%)。試験等 (0%)。

**【学生の意見等からの気づき】**

わかりやすい講義を心がけます。

**【その他の重要事項】**

Hoppii を通し講義ノート・関連資料の配布を行うため、学期の始めに Hoppii に登録しておくこと。PDF の閲覧をできるように準備しておくこと。グラフや図を提出する必要があるかもしれないので、その際には、グラフや図を紙に描いて写真を画像ファイルにして送付したり、あるいは、グラフや図を作図できる Word など (あるいは Windows10 の Windows アクセサリ内のペイントなど何とか図を描けるツールで画像ファイルを保存しても良い) で簡単なグラフを描けると良い。

**【Outline and objectives】**

Students learn the roles of public policies on the basis of Public Finance A, microeconomics, and macroeconomics. In particular, students understand the impact of taxation, public debt, and public investment on the economy.

ECN200CA
<b>金融論 A</b>
<b>武田 浩一</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この講義の目的は、初めて金融を学ぶ人を対象として、金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立ってくれるかを解説することを通じて、まず金融に興味を持ってもらい、さらには現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを身につけてもらうことです。

**【到達目標】**

この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを修得することです。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

今年度の講義では、新型コロナウイルス感染症対策の特別対応として、オンライン講義を行います。

第 1 回講義は、Zoom によるリアルタイムのオンライン形式の講義ガイダンスとなります。学習支援システム上で Zoom での講義への参加方法をお知らせしてオンライン講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録してオンライン講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

第 2 回以降の講義では、学習支援システムのオンデマンドシステムで受講登録者が動画コンテンツを視聴する形式のオンライン講義となる予定です。仮登録期間中は、オンデマンドシステムでこの講義の動画コンテンツを視聴するためには、受講者は原則として講義日の前週のうちにこの講義の履修を仮登録しておくことが必要になります。講義の日の週になってからこの講義に仮登録しても、この講義の動画コンテンツを視聴できない場合があるので、この講義のオンライン講義の受講を希望する学生は、必ず講義日の前週のうちに早めに仮登録しておくように注意してください。

この講義では、「金融ビッグバン」という言葉に象徴されるように、日本や海外の金融が近年ダイナミックに変化を遂げて、少し前にあたたかも金融の世界の常識であるかのようにいわれていた知識の多くが陳腐化して必ずしも実態にそぐわなくなりつつあることを念頭において、今動いている金融の実態に即した up-to-date な金融論の基礎を紹介することに力を入れます。また、初めて金融を学ぶ人でも講義内容を理解できるように、金融を理解する上で不可欠となる専門的な用語や概念を初めて使うときには、それらの意味をできるだけ平易な言葉や図を使って解説するようにします。

講義のフィードバックは、リアルタイム形式の講義の回には授業の中で行い、オンデマンド形式の講義の回には、学習支援システムの「お知らせ」での通知と授業内掲示板での質疑応答を通じて行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	講義ガイダンス	講義の方法や内容に関する説明
第 2 回	イントロダクション：金融とは何か	金融とは何か
第 3 回	直接金融と間接金融	直接金融と間接金融の違い
第 4 回	銀行の決済機能と信用創造機能	銀行の決済機能と信用創造機能の意味

第5回	日本の金融組織と銀行	日本の金融組織の特徴と銀行について
第6回	日本の金融組織	協同組織金融機関と証券会社について
第7回	日本の金融組織	保険会社とその他の金融機関について
第8回	資金循環と金融構造	マクロ的な資金循環から見た日本の金融の特徴
第9回	貨幣の意義と機能	貨幣の本質的な機能と通貨制度について
第10回	日本の決済システム	決済システムの仕組みについて
第11回	貨幣需要	人々はなぜ貨幣を保有するのか
第12回	貨幣供給と流動性のわな	貨幣供給について
第13回	マネーストック	マネーストックとは何か
第14回	公的金融	日本における公的金融の役割について

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや教科書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。現代経済学入門や企業と経済・基礎で学ぶ経済学の基礎知識があれば、金融論の理解はより深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第4版（有斐閣、2011年刊）

#### 【参考書】

なし

#### 【成績評価の方法と基準】

オンライン授業では、数回の講義毎に学習支援システム上で課題として提示される小テストまたはレポートで主に評価します（80%）。授業への参加が単位習得の前提条件となりますので、授業での学習状況や参加度を加味することとし、オンデマンドシステムでの動画コンテンツの視聴状況やZoomミーティングへの参加状況、小テストやレポートの提出状況（期限など指定された提出要件の充足度）などを確認し、平常点として加算します（20%）。

#### 【学生の意見等からの気づき】

関心はあっても難しい印象がある金融について、基本事項を丁寧に分かりやすく説明することに対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を徹底して講義を進める方針です。

#### 【学生が準備すべき機器他】

受講生の閲覧用資料の配布に学習支援システムを利用します。

#### 【Outline and objectives】

This is a course on the economics of money, banking and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy.

ECN200CA
<b>金融論 B</b>
<b>武田 浩一</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、金融の基本的な仕組みを紹介し、金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立ってくれるかを解説します。講義の目的は、初めて金融を学ぶ学生に、まず金融の面白さに触れてもらい、さらには現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを身につけてもらうことです。

#### 【到達目標】

この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを修得することです。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、新型コロナウイルス感染症対策の特別対応として、オンライン講義を行います。

第1回講義は、Zoomによるリアルタイムのオンライン形式の講義ガイダンスとなります。学習支援システム上でZoomでの講義への参加方法をお知らせしてオンライン講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録してオンライン講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

第2回以降の講義では、学習支援システムのオンデマンドシステムで受講登録者が動画コンテンツを視聴する形式のオンライン講義となる予定です。仮登録期間中は、オンデマンドシステムでこの講義の動画コンテンツを視聴するためには、受講者は原則として講義日の前週のうちにこの講義の履修を仮登録しておくことが必要になります。講義の日の週になってからこの講義に仮登録しても、この講義の動画コンテンツを視聴できない場合がありますので、この講義のオンライン講義の受講を希望する学生は、必ず講義日の前週のうちに早めに仮登録しておくように注意してください。

この講義では、金融市場の動向や金融取引の仕組み、貸出市場とメインバンク、新しい金融環境下での金融監督・規制などについて主に解説します。金融取引は、近年の急速な金融技術革新の進展に伴って国境や伝統的な業態の枠を越えて行われるようになっており、従来からの業態や規制の体系に依拠した枠組みでは的確にその鳥瞰図を描くことが困難になりつつありますが、この講義では、金融の基本的な機能に立ち返って金融システムについて議論することによって、金融市場はどのように機能し、そこで市場参加者はどのように行動しているのか、また市場の変化に金融監督・規制がどのように対応しようとしているのか、などのテーマについて新しい視点から俯瞰してゆきたいと考えています。

講義のフィードバックは、リアルタイム形式の講義の回には授業の中で行い、オンデマンド形式の講義の回には、学習支援システムの「お知らせ」での通知と授業内掲示板での質疑応答を通じて行うほか、個別の連絡が必要になる場合にはメールを通じて行います。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の内容や方法の説明
第2回	金融市場と金融取引	金融市場とは何か
第3回	金融市場	短期金融市場について
第4回	債券市場と株式市場	長期金融市場について

第5回	外国為替市場	外国為替市場について
第6回	金融派生商品市場	金融派生商品市場について
第7回	資産証券化	資産証券化とは何か
第8回	貸出市場とメインバンク	銀行貸出市場の特徴と日本のメインバンクについて
第9回	金融システムと中央銀行	金融システムにおける中央銀行の役割
第10回	金融システムの安定性と監督・規制①	金融システムの安定性とブルーデンス政策について
第11回	金融システムの安定性と監督・規制②	自己資本比率規制とセーフティネットについて
第12回	アメリカの金融システム	アメリカの金融システムの特徴について
第13回	ヨーロッパの金融システム	ヨーロッパの経済通貨統合について
第14回	企業金融	企業の資金調達について

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや教科書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

現代経済学基礎や企業と経済・基礎で学ぶ経済学の基礎知識があれば、金融論の理解はより深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

・酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第4版（有斐閣、2011年刊）

#### 【参考書】

なし

#### 【成績評価の方法と基準】

オンライン授業では、数回の講義毎に学習支援システム上で課題として提示される小テストまたはレポートで主に評価します（80%）。授業への参加が単位習得の前提条件となりますので、授業での学習状況や参加度を加味することとし、オンデマンドシステムでの動画コンテンツの視聴状況やZoomミーティングへの参加状況、小テストやレポートの提出状況（期限など指定された提出要件の充足度）などを確認し、平常点として加算します（20%）。

#### 【学生の意見等からの気づき】

関心はあっても難しい印象がある金融について、基本事項を丁寧に分かりやすく説明することに対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を徹底して講義を進める方針です。

#### 【学生が準備すべき機器他】

受講生の閲覧用資料の配布に学習支援システムを利用します。

#### 【Outline and objectives】

This is a course on the economics of money, banking and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy.

ECN200CA
<b>金融論 A</b>
<b>鈴木 誠</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、金融初学者を対象として、金融に関する基本的な知識およびフレームワークを習得し、身近で起きている金銭のやり取りやそれらに関わる様々な経済主体の存在意義などを経済学的な視点から理解することが目的である。また、実際のデータなどを利用して、金融における諸問題を考察できるような力の基礎を身につけてもらう。

#### 【到達目標】

本講義の目標は秋期の金融システムにおける諸問題を経済学のツールを利用して理解できるようになるために、その基礎となる貨幣の時間価値の概念、価値評価の概念、リスクの概念を理解し、身につけてもらうことにある。具体的な数値例を用いて、各概念を説明できるようにすることが最終目標である。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

オンライン（オンデマンド方式）による開講となる。テキストに沿った授業を行う予定であるが、具体的な内容は学習支援システムでその都度提示する。具体的なオンライン授業の方法などは学習支援システムにて提示するので参照してほしい。なお、課題に対するフィードバックは、個別対応は困難であることから出題後の授業において履修生全員に向けた説明説明を行う。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オンラインによる授業の進め方、および金融取引	オンラインを活用した授業の進め方を説明し、金融論の授業のイントロダクションとして金融取引における経済主体をテーマとする
2	金融の役割 1	異時点間の所得移転
3	金融の役割 2	異状態間の所得（リスク）移転
4	貨幣の時間価値 1	将来価値・複利計算
5	貨幣の時間価値 2	現在価値・割引
6	問題演習 1	貨幣の時間価値
7	リスク評価 1	2 状態モデルにおける分散化 (1)
8	リスク評価 2	2 状態モデルにおける分散化 (2)
9	リスク評価 3	4 状態モデル
10	債券価格	金利リスクと債券評価
11	株式評価	配当割引モデル
12	状態証券	保険・状態価格による資産評価
13	デリバティブ	状態価格によるオプション評価
14	問題演習 2	リスク資産評価

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業では初めて金融について学ぶ学生も少なくないと思われる。従って、授業の有無を問わず、日ごろから金融経済に馴染むことを勧めたい。そのためには日本経済新聞を30分以上毎日読むことである。授業の予習については、当該箇所について教科書を事前に読み、不明な点が無いように調べるなどの準備が求められる。（120分程度）また、事後的な復習については、自分で内容を咀嚼し理解できるようにすることが求められる。（90分程度）

#### 【テキスト（教科書）】

村瀬英彰著「新エコノミクスシリーズ 金融」 日本評論社、ISBN 4-535-04117-2、2000円（税別）

## 【参考書】

F. Mishkin 『Economics of Money, Banking, and Financial Markets, 9th Edition』 (Pearson Education, 2009)

※当該テキストの Part 2 が学習の対象

## 【成績評価の方法と基準】

春学期がオンラインでの開講となったことにともない、成績評価の方法と基準も変更する。基本的に毎回の授業の課題提出、課題の評価、期末試験の成績の3点で評価を行う。割合としては、10%、30%、60%の割合とする。授業において特に有益なコメントをしてくれた学生には、クレジットを行う。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度をよく確認したうえで、ゆっくりと進めていく。

## 【学生が準備すべき機器他】

電卓もしくは電卓機能のついたスマートフォン

## 【その他の重要事項】

期末試験はオンラインで行う。試験問題の提出は時間厳守とするので、十分に注意をして試験に臨むこと。試験を受験しない場合には、評価点が法政大学の基準となる60点に満たないこととなるので留意すること。

## 【Outline and objectives】

This course provides an introduction to the theories and the methods in finance such as future/present value, risk, and state price. I also show what role each economic entity plays and how important their roles are. Through this course, students are expected to obtain abilities to consider economic/financial issues and problems from the perspective of economics/finance.

ECN200CA

## 金融論B

高橋 秀朋

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、金融初学者を対象として、金融に関する基本的な知識およびフレームワークを習得することにある。身近で起きている金銭のやり取りやそれらに関わる様々な経済主体の存在意義などを経済学的な視点から理解することが目的である。金融論Aの知識に加え、情報の経済学を利用して、金融における諸問題をより現実的な形で分析する。

## 【到達目標】

本講義の目標は、金融論Aで学習したフレームワークを基礎に、いくつかのマイクロ経済学のフレームワークを付加し、金融市場、金融仲介機関の機能、金融規制、銀行規制などを理解することにある。また、金融論において重要な分野の一つである中央銀行の役割および金融政策の意義についても触れ、その概要を理解することも本講義の目的である。最終的な目標は、具体的な数値例を用いて、情報の非対称性や契約の不完備性に関わる諸問題を説明できるようになることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

## 【授業の進め方と方法】

本講義は、すべて遠隔授業により実施される。基本的には、学習資料を提示し、その資料に基づいて各自で学習をし、その上で、課題に回答する、という学習サイクルで実施する。ただし、必要に応じてセミナー形式のオンライン授業による解説を行う予定である。金融の諸問題に対して経済的なアプローチを用いて分析するためのフレームワークを身につけてもらい、知識が実際に適用可能であることを示していく。金融論Bではマイクロ経済学に基づいた経済学的フレームワークを利用して、金融に関する経済現象の分析を行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	金融論Aの復習①： 金融の機能	金融市場概要
2	金融論Aの復習②： 金融仲介機関	金融仲介の機能
3	金融論Aの復習③： 不確実性と市場	不確実性とリスク
4	情報の非対称性 1	逆選択問題
5	情報の非対称性 2	モラル・ハザード
6	情報の非対称性 3	自己選択メカニズム
7	情報の非対称性 4	インセンティブ・メカニズム
8	問題演習（予定）	情報の非対称性について
9	契約の不完備性 1	不完備契約における諸問題
10	契約の不完備性 2	金融仲介機関による再交渉
11	金融市場への応用	情報の非対称性と金融市場
12	金融仲介機能への応用	情報の非対称性と金融仲介機関
13	銀行・金融規制	銀行・金融規制の経済分析
14	最終課題（テスト実施）	本講義で学習した範囲

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

情報の経済学に基づく金融論は、実際の経済における金融に関わる事象をモデルによって説明しようと試みている。そのため、講義で学習する知識だけでなく、日本経済新聞、ロイター、F T等による経済情報の摂取を強くすすめる（120分）。講義資料に関しては講義中に詳細に説明するため予習は必要ないが、2回の中間アサインメントに答えるために講義資料もしくは指定教科書の該当箇所を復習しておくことも強く推奨する（120分）。

**【テキスト（教科書）】**

村瀬英彰『新エコノミクス 金融論』（日本評論社、2006年）  
ISBN 4-535-04117-2, 2000円（税別）

**【参考書】**

F. Mishkin『Economics of Money, Banking, and Financial Markets, 9th Edition』（Pearson Education, 2009）

※当該テキストの Part 3 および Part 4 が対象。

**【成績評価の方法と基準】**

遠隔授業による授業方式であるため、成績評価は、学期中に2回出される課題（回答は1週間以内）と期末の試験により評価を行う。また、期末試験がオンライン試験となる可能性がある場合は追加で期中レポートの提出を求める場合もある。2回のアサインメントを30%、期末試験（と期中レポートの合計）を70%とし評価を行う。最終的な成績は、上記の課題の合計点、期末試験（および期中レポート）の合計点を総合し、100%に変換の上、法政大学の評価基準に併せて成績を付ける。ただし、上記課題およびレポートの提出がされない者に関しては、講義への出席不足と判定し、期末試験への受験資格を喪失する可能性があるので留意すること。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生の理解度をよく確認したうえで、ゆっくりと進めていく。

**【学生が準備すべき機器他】**

電卓もしくは電卓機能のついたスマートフォン。

**【Outline and objectives】**

The purpose of this course is to introduce some concepts and frame works for Finance.

Students will be expected to examine real financial activities with Economic view point. In this lecture, we will employ the information theory and fundamental knowledge of Finance to recognize the real world.

ECN200CA

**国際経済論 A**

武智 一貴

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

※国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義は、国際経済学の基礎について学びます。特に国際貿易の諸問題について講義します。

**【到達目標】**

本講義は、受講者が国際貿易の基礎について理解できるようになることを目標とします。特に、貿易からの利益、貿易政策の効果といった基本概念について学習し、自ら貿易問題の分析が可能になることが目的です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義形式により、基本的な国際貿易の概念について学んでいきます。なぜ国々は貿易をするのか、輸出入の構造はどう決定されるのか、貿易政策の影響はどういったものがあるのかといった点について論理的に学び、自らそれらの分析ができるようにします。現実の貿易の諸問題を例にとり、貿易理論を応用しつつ理解を深めます。課題等の提出やフィードバックは「学習支援システム」により行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Introduction	国際取引とは何か
2	Why do we trade? I(Gains from trade)	なぜ貿易をするのか：余剰分析の基礎
3	Why do we trade? II	余剰分析：消費者余剰、生産者余剰
4	Why do we trade? III	自給自足から自由貿易へ
5	Market Structure and gains from trade I	競争的市場と独占市場
6	Market Structure and gains from trade II	独占市場における貿易の利益
7	Trade Policy	貿易政策とは何か
8	Effects of tariffs and subsidies I	輸入関税の影響
9	Effects of tariffs and subsidies II	輸出補助金の影響
10	What do we trade? (Understanding international trade trade pattern and trade volume)	比較優位
11	Trade and factor endowments	ヘクシャー・オリーオンモデル
12	Strategic Trade Policy	戦略的貿易政策とは何か
13	Strategic Trade Policy Analysis I	ゲーム理論の基礎
14	Strategic Trade Policy Analysis II	戦略的貿易政策の効果

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

学生は事前に授業支援システムのハンドアウトを読む必要があります。本授業の準備・復習時間は、各4時間を目安とします。

**【テキスト（教科書）】**

教科書はありません。

**【参考書】**

石川・菊池・椋著、国際経済学をつかむ、有斐閣  
 ジョン・マクラレン著、柳瀬明彦訳、国際貿易・グローバル化と政策の経済分析、文真堂  
 Krugman, Obstfeld and Melitz, International Economics, Pearson

**【成績評価の方法と基準】**

課題（40%）および期末試験もしくはレポートの結果等（60%）により成績の評価をします。

**【学生の意見等からの気づき】**

エクササイズを課すので、解答することで内容の理解を深めてもらいます。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業支援システムを使用する（All course materials will be distributed through the course website.）

**【Outline and objectives】**

This is an introductory course in international economics with a primary emphasis on international trade.

ECN200CA

**国際経済論 B**

武智 一貴

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

※国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義は、国際金融（マクロ経済学）の基礎について学びます。国際収支、為替レートといった国際金融を理解する基礎概念について講義します。

**【到達目標】**

本講義により、受講者は国際取引のパターンとその影響、為替レートの決定、金融市場と外国為替市場の関係といったことについて理解できることを目標とします。また、様々な国際金融データの処理が可能になることも目的です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義形式により、まずマクロ経済学の復習を行なった後に、国際金融の基礎である国際収支と為替レートに焦点を当てて学びます。国際金融データを用いつつ、国際金融理論を現実に応用する形で理解を深めます。・課題等の提出やフィードバックについては「学習支援システム」により行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Introduction	国際金融とは何か
2	Basic elements of international finance	国民経済計算、国際収支と為替レート
3	The link between national economy and international market	IS バランスと経常収支
4	Balance of Payments	国際収支とは何か
5	Current account	経常収支とその分析
6	The relationship between current account and financial account	経常収支と金融収支
7	More on exchange rate	為替レート：平価レート
8	Price and exchange rate	購買力平価
9	PPP violation	なぜ購買力平価は成立しないのか
10	Real exchange rate	実質為替レート
11	An asset approach	アセットアプローチ
12	Covered and Uncovered Interest Parity	利子平価とフォワードプレミアムバズル
13	Financial market and foreign exchange	外国為替と金融市場
14	Monetary policy and exchange rate	金融市場と為替レート

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

事前に授業支援システムのハンドアウトを読んでおく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各4時間を目安とします。

**【テキスト（教科書）】**

教科書はありません。

**【参考書】**

Krugman, Obstfeld and Melitz, International Economics, Pearson

**【成績評価の方法と基準】**

成績は課題（40%）、期末試験もしくはレポート等（60%）により評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

エクササイズを課すので、解答することにより内容の理解を深めてもらいます。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業支援システムを使用する（All course materials will be distributed through the course website.）

**【Outline and objectives】**

This course is an introduction to international finance that focuses on monetary (or macroeconomic) aspects of international economics.

ECN200CA
<b>国際経済論 A</b>
<b>田村 晶子</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生・現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

国際貿易の基礎理論を講義します。なぜ自由な貿易が望ましいのか、貿易がもたらす利益、関税などの貿易政策が社会全体におよぼす影響を理解し、FTAやEPAなどが進む現在の国際貿易体制について考えます。

**【到達目標】**

貿易の基礎理論により、どのように貿易の利益が示せるかを説明できる。貿易政策が、各経済主体に与える影響を説明し、その是非を議論できる。地域貿易協定の是非について、理論に基づき議論できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

パワーポイントを用いて講義します。キーワードや数式、グラフなどを書き込む形の空白のある配布資料を配布します。毎回の授業内容を復習する練習問題を学習支援システムで解き、得点は自動採点でフィードバックされます。次回授業で解答について解説します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンスと世界貿易の概要
第2回	比較優位の理論①	リカードモデルの仮定
第3回	比較優位の理論②	貿易後の相対価格と世界供給
第4回	比較優位の理論③	貿易の利益と実証研究
第5回	資源と貿易①	ヘクシャーオリーンモデルの仮定
第6回	資源と貿易②	貿易による利益と実証研究
第7回	グローバル経済の企業	輸出の判断と多国籍企業
第8回	貿易政策のツール①	輸入関税の効果、費用と便益
第9回	貿易政策のツール②	輸出補助金の効果
第10回	貿易政策のツール③	輸入割当と輸出自主規制の効果
第11回	貿易政策の政治経済	自由貿易の進展、WTO
第12回	地域貿易協定の効果	FTAが与える影響
第13回	貿易政策をめぐる論争	戦略的貿易政策
第14回	講義のまとめと質問	講義内容への質問

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

参考文献を読んで準備学習をする。毎回の授業終了後に練習問題を解き、配付資料で復習をする。準備は1時間、復習は3時間を目安とします。

**【テキスト（教科書）】**

なし。

**【参考書】**

クルグマン・オブズフェルド・メリッツ（山形浩生、守岡校訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策 [原書第10版] 上:貿易編』丸善出版、2017年  
石川城太・椋寛・菊地徹著『国際経済学をつかむ（第2版）』有斐閣、2013年

**【成績評価の方法と基準】**

練習問題（13回を予定）（30%）と、期末に行う定期試験（70%）

**【学生の意見等からの気づき】**

進度を気をつけて、学生が理解しているかを確認しながら授業を進めます。

**【学生が準備すべき機器他】**

パワーポイント、授業支援システムを利用します。

**【Outline and objectives】**

Students study the basics of International Trade. Students will comprehend why free trade is desirable, as well as they will learn the effect of trade policy such as tariffs. Then students consider the international trade framework with Free Trade Agreements.

ECN200CA
<b>国際経済論 B</b>
<b>田村 晶子</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生・現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際金融論、国際マクロ経済学の基礎を勉強します。為替レートの決定理論を勉強した上で、為替介入の効果や現在の国際通貨体制の問題について考えます。国際収支表の見方や経常収支と国内経済との関係について理解します。

#### 【到達目標】

国際収支表を理解し、経常収支、金融収支の内容を説明できる。為替レートの決定要因から、現在の為替レートの動きを説明できる。為替レートの適正水準を理解する。統一通貨や通貨危機など、国際通貨体制における問題を議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義を行います。キーワードや数式グラフなどを自分で書き込む空白のある配布資料を配布します。毎回の授業の練習問題を学習支援システムから出し、自動採点で得点をフィードバックします。次の授業で解き方を解説し、理解を深めます。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	国際収支表の項目	日本の国際収支表の見方
第 2 回	国際収支の記入方法	国際収支表の記入例
第 3 回	開放経済における国民所得恒等式	貯蓄・投資バランス
第 4 回	外国為替市場	外国為替市場のしくみ
第 5 回	外国為替取引の種類	さまざまな外国為替取引
第 6 回	短期為替レート決定①	外国為替市場における需給の一致
第 7 回	短期為替レート決定②	金融政策と為替レート
第 8 回	短期為替レート決定③	先渡為替レートとリスク要因
第 9 回	長期為替レート決定①	絶対的、相対的購買力平價
第 10 回	長期為替レート決定②	実質為替レートと貿易
第 11 回	外国為替介入	外国為替市場介入の効果
第 12 回	最適通貨圏の理論	固定為替レートの範囲
第 13 回	国際金融体制	国際金融における課題
第 14 回	授業のまとめ	授業全体のまとめと質問

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。授業終了後に練習問題を解き、配付資料で復習をする。準備は 1 時間、復習は 3 時間を目安とします。

#### 【テキスト（教科書）】

なし

#### 【参考書】

クルグマン・オブズフェルド（山形浩生、守岡桜訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策〔原書第 10 版〕下：金融編』丸善出版、2017 年  
清水順子・大野早苗・松原聖・川崎健太郎著『徹底解説 国際金融』日本評論社、2016 年  
高木信二著「入門国際金融（第 4 版）」日本評論社、2011 年

#### 【成績評価の方法と基準】

毎回の授業の練習問題（30％）と、期末に行う定期試験（70％）

#### 【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの進捗に気をつけて、学生の理解度に気を配ります。

#### 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントと授業支援システムを利用します。

#### 【Outline and objectives】

Students study the basics of International finance and Open Economy Macroeconomics. For International Finance foundation, students study the determination of exchange rates, then consider the effects of the foreign exchange intervention and the problems of monetary systems. For Open Economy Macroeconomics foundation, students learn balance of payments and the relation between current account and domestic economy.

ECN200CA
<b>環境経済論 A</b>
<b>松波 淳也</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

#### 【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義は、標準的な環境経済学の基本概念、手法を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

環境経済学にとって最重要であり、かつ、環境経済学の幅広い分野に応用の効く 3 つの概念（外部性、環境の経済評価、持続可能な発展）に絞って講義する。その際、特に、社会システムと環境の関係についての基本的考え方、および、経済学的方法、政策的志向をもとらえていきたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 01 回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？ 本講の立場と進め方。
第 02 回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第 03 回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第 04 回	外部性②	課税政策。
第 05 回	外部性③	ピグー税政策とポーモル＝オーツ税政策
第 06 回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第 07 回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考
第 08 回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第 09 回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ CVM。
第 10 回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ TCM, HPM。非需要曲線アプローチ RCM。
第 11 回	環境の経済評価④	環境価値の概念。CVM に関する論争。
第 12 回	持続可能な発展①	持続可能な発展 SD とは？ 環境経済学における SD。
第 13 回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としての SD。
第 14 回	持続可能な発展③	SD の視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学、マクロ経済学等、経済学の基礎学習）。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房、2007 年

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

期末レポート 100 %

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

Environmental economics has been deepening towards various fields through the face of global environmental problems such as global environmental problems since the beginning of efforts to systematize it. In this lecture, the basic concepts and methods of environmental economics will be described with initial scholars in mind as much as possible.

ECN200CA
環境経済論 B
松波 淳也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

廃棄物・リサイクルの経済学を習得する。

## 【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義では、最近理論的発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ、標準的な環境経済学の基礎概念、手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

## 【授業の進め方と方法】

現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標として講義する。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ごみ問題とリサイクル I - 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類. 「ごみ」の定義. 経済学における「ごみ」の扱い
第 2 回	ごみ問題とリサイクル II - 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学の主要アプローチ. 廃棄物経済学の整備に向けて. 最近のトピック
第 3 回	ごみ問題とリサイクル III - 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生. 廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第 4 回	廃棄物管理政策 I - 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等. 個別リサイクル法. 3 R の優先順位. 2つの基本理念
第 5 回	廃棄物管理政策 II - 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化. 埋立税・産業廃棄物税. 有害物質への税・課徴金. 特定製品への税・課徴金. デポジット・リファンド制度
第 6 回	廃棄物管理政策 III - 自治体の清掃行政-	3 R + 適正処理の優先順位に即した政策展開. 短期的政策. 中長期的政策の位置づけ. 地域特性に即したきめ細かい政策. 環境政策の 3 手法
第 7 回	動脈産業と静脈産業 I - 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済. 経済成長と動脈部門・静脈部門. 静脈経済と潜在技術
第 8 回	動脈産業と静脈産業 II - ゼロエミッションと循環型社会-	ゼロエミッション思想. 逆工場の考え方. 「循環型社会」の考え方
第 9 回	動脈産業と静脈産業 III - システム, 規制の効果-	市場リサイクルの条件. 動脈と静脈の相互関係. 規制と公共関与. 企業のイニシャティブ
第 10 回	費用支払いと費用負担 I - PPP と汚染者負担原則-	汚染者支払い原則 PPP. 汚染者負担原則. ピグー税と負担の帰着

第 11 回	費用支払いと費用負担 Ⅱ- PPP と EPR -	廃棄物管理費用の支払いと負担.EPR の物理的責任と金銭的責任
第 12 回	不法投棄と不適切処理	廃棄物管理と外部不経済. 不法投棄と不適切処理の経済的動機
第 13 回	個別リサイクル法と EPR I - 法体系と個別リサイクル法-	法体系と個別リサイクル法：再論. 容器包装リサイクル法
第 14 回	個別リサイクル法と EPR II - E-Waste のリサイクル-	家電リサイクル法.PC リサイクル・システム. 携帯電話リサイクル・システム. 小型家電リサイクル法

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

環境経済論 A を既習であることが望ましい（環境経済学の基礎理論・概念）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

細田衛士：『グッツとバツズの経済学 第 2 版』東洋経済新報社

**【参考書】**

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

**【成績評価の方法と基準】**

期末レポート：100 %

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【Outline and objectives】**

Environmental economics has been deepening towards various fields through the face of global environmental problems such as global environmental problems since the beginning of efforts to systematize it. In this lecture, we will take up the "economics of waste and recycling" which is remarkable theoretical development and deepen the understanding of basic concepts and methods of standard environmental economics.

ECN200CA
<b>環境経済論 A</b>
<b>松波 淳也</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

**【到達目標】**

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義は、標準的な環境経済学の基本概念、手法を習得することを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

環境経済学にとって最重要であり、かつ、環境経済学の幅広い分野に応用の効く 3 つの概念（外部性、環境の経済評価、持続可能な発展）に絞って講義する。その際、特に、社会システムと環境の関係についての基本的考え方、および、経済学的方法、政策的志向をとらえていきたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 01 回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？ 本講の立場と進め方。
第 02 回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第 03 回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第 04 回	外部性②	課税政策。
第 05 回	外部性③	ピグー税政策とボーモル=オーツ税政策
第 06 回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第 07 回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考
第 08 回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第 09 回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ CVM。
第 10 回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ TCM, HPM。非需要曲線アプローチ RCM。
第 11 回	環境の経済評価④	環境価値の概念。CVM に関する論争。
第 12 回	持続可能な発展①	持続可能な発展 SD とは？ 環境経済学における SD。
第 13 回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としての SD。
第 14 回	持続可能な発展③	SD の視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学、マクロ経済学等、経済学の基礎学習）。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房,2007 年

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

期末レポート 100 %

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

Environmental economics has been deepening towards various fields through the face of global environmental problems such as global environmental problems since the beginning of efforts to systematize it. In this lecture, the basic concepts and methods of environmental economics will be described with initial scholars in mind as much as possible.

ECN200CA
環境経済論 B
松波 淳也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

廃棄物・リサイクルの経済学を習得する。

## 【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義では、最近理論的発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ、標準的な環境経済学の基礎概念、手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

## 【授業の進め方と方法】

現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標として講義する。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ごみ問題とリサイクル I - 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類. 「ごみ」の定義. 経済学における「ごみ」の扱い
第 2 回	ごみ問題とリサイクル II - 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学の主要アプローチ. 廃棄物経済学の整備に向けて. 最近のトピック
第 3 回	ごみ問題とリサイクル III - 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生. 廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第 4 回	廃棄物管理政策 I - 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等. 個別リサイクル法. 3 R の優先順位. 2つの基本理念
第 5 回	廃棄物管理政策 II - 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化. 埋立税・産業廃棄物税. 有害物質への税・課徴金. 特定製品への税・課徴金. デポジット・リファンド制度
第 6 回	廃棄物管理政策 III - 自治体の清掃行政-	3 R + 適正処理の優先順位に即した政策展開. 短期的政策. 中長期的政策の位置づけ. 地域特性に即したきめ細かい政策. 環境政策の 3 手法
第 7 回	動脈産業と静脈産業 I - 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済. 経済成長と動脈部門・静脈部門. 静脈経済と潜在技術
第 8 回	動脈産業と静脈産業 II - ゼロエミッションと循環型社会-	ゼロエミッション思想. 逆工場の考え方. 「循環型社会」の考え方
第 9 回	動脈産業と静脈産業 III - システム, 規制の効果-	市場リサイクルの条件. 動脈と静脈の相互関係. 規制と公共関与. 企業のイニシャティブ
第 10 回	費用支払いと費用負担 I - PPP と汚染者負担原則-	汚染者支払い原則 PPP. 汚染者負担原則. ピグー税と負担の帰着

第11回	費用支払いと費用負担 II- PPP と EPR-	廃棄物管理費用の支払いと負担、EPR の物理的責任と金銭的責任
第12回	不法投棄と不適切処理	廃棄物管理と外部不経済、不法投棄と不適切処理の経済的動機
第13回	個別リサイクル法と EPR I- 法体系と個別リサイクル法-	法体系と個別リサイクル法：再論、容器包装リサイクル法
第14回	個別リサイクル法と EPR II- E-Waste のリサイクル-	家電リサイクル法、PC リサイクル・システム、携帯電話リサイクル・システム、小型家電リサイクル法

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境経済論 A を既習であることが望ましい（環境経済学の基礎理論・概念）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

細田衛士：『グッツとバツズの経済学 第2版』東洋経済新報社

## 【参考書】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

## 【成績評価の方法と基準】

期末レポート：100 %

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

Environmental economics has been deepening towards various fields through the face of global environmental problems such as global environmental problems since the beginning of efforts to systematize it. In this lecture, we will take up the "economics of waste and recycling" which is remarkable theoretical development and deepen the understanding of basic concepts and methods of standard environmental economics.

ECN200CA
日本経済論 A
小黒 一正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は今、少子高齢化やグローバル化の進展で様々な課題を抱えている。日本経済の今後の動向を理解するには、その内容を分析・考察するための「ツール」が必要であり、とくに「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠となってくる。そこで、本講義では、財政政策・金融政策との関係を含めて「マクロ経済学」の基礎的な内容を学びつつ、日本経済を巡る課題をマクロ経済学の視点から見ていく。

## 【到達目標】

日本経済論を学ぶことで、日本経済を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。日本経済の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

## 【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書に沿って講義を進めることを予定している。教科書以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

## 【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(1)	マクロ経済学の基礎（マクロ経済の循環・GDP・名目と実質）
第3回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(2)	古典派モデル(1) 基本モデル
第4回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(3)	古典派モデル(2) 拡張モデル（恒常所得仮説、開放経済モデル）
第5回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(4)	古典派モデル(3) 貨幣数量説、失業と労働市場
第6回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(5)	ケインズ・モデル(1) 所得支出モデル
第7回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(6)	ケインズ・モデル(2) IS-LMモデルと財政金融政策の効果
第8回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(7)	ケインズ・モデル(3) IS-MPモデル、開放経済モデル
第9回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(8)	消費関数・投資関数の理論
第10回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(9)	財政赤字（ドーマーの命題・リカードの等価定理）
第11回	日本経済を理解するためのマクロ経済学(10)	経済成長論
第12回	現在の日本が抱える課題(1)	デフレ脱却、金融政策の効果と限界
第13回	現在の日本が抱える課題(2)	財政政策の効果と限界、成長戦略

## 第14回 期末試験と総括 試験等

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

## 【テキスト（教科書）】

浅子和美・篠原総一『入門・日本経済 第4版』有斐閣

麻生良文『マクロ経済学入門』ミネルヴァ書房

配布資料

## 【参考書】

マンキュー『マンキュー経済学 II マクロ編』東洋経済新報社

マンキュー『マンキュー経済学 I・II』東洋経済新報社

内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）

小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社

山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学的アプローチへの招待』日本評論社

その他は適宜授業内で紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験100%での評価を予定するが、場合によってはレポート課題100%で対応する。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

## 【Outline and objectives】

The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of Japanese economy, by using the approaches of macroeconomics.

This will also help you to predict the future direction of Japanese economy at a much deeper level.

ECN200CA
日本経済論B
小黒 一正
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は今、少子高齢化やグローバル化の進展で様々な課題を抱えている。日本経済の今後の動向を理解するには、その内容を分析・考察するための「ツール」が必要であり、とくに「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠となってくる。そこで、本講義では、財政や租税の諸理論を含む「公共経済学」の基礎的な内容を学びつつ、日本経済を巡る課題を公共経済学の視点から見ていく。

## 【到達目標】

日本経済論を学ぶことで、日本経済を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。日本経済の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

## 【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書に沿って講義を進めることを予定している。教科書以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

## 【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	日本経済を理解するための公共経済学(1)	市場の失敗と政府の役割
第3回	日本経済を理解するための公共経済学(2)	財政、国債市場
第4回	日本経済を理解するための公共経済学(3)	公共財
第5回	日本経済を理解するための公共経済学(4)	外部性、共有地の悲劇、外部性の解決方法
第6回	日本経済を理解するための公共経済学(5)	社会保障の全体像、年金・医療・介護
第7回	日本経済を理解するための公共経済学(6)	情報の非対称性、逆選択、所得分配
第8回	日本経済を理解するための公共経済学(7)	租税の理論、物品税の帰着
第9回	日本経済を理解するための公共経済学(8)	労働所得税の効果、利子所得税の効果
第10回	日本経済を理解するための公共経済学(9)	課税が資本蓄積に及ぼす効果、減税の効果
第11回	日本経済を理解するための公共経済学(10)	公債の負担
第12回	現在の日本が抱える課題(1)	少子高齢化、社会保障、賦課方式と積立方式
第13回	現在の日本が抱える課題(2)	財政赤字、世代間格差
第14回	期末試験と総括	試験等

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

**【テキスト（教科書）】**

浅子和美・篠原総一『入門・日本経済 第 4 版』有斐閣  
林正義・小川光・別所俊一郎『公共経済学』有斐閣  
麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学 15 講』新世社  
配布資料

**【参考書】**

ステイグリッツ『公共経済学 上』東洋経済  
ステイグリッツ『公共経済学 下』東洋経済  
内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）  
小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社  
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学的アプローチへの招待』日本評論社  
その他は適宜授業内で紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

基本的に期末試験 100%での評価を予定するが、場合によってはレポート課題 100%で対応する。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

初回授業に必ず出席すること。

**【Outline and objectives】**

The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of Japanese economy, by using the approaches of public economics. This will also help you to predict the future direction of Japanese economy at a much deeper level.

ECN200CA

**日本経済論 A**

牧野 文夫

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「日本の経済発展」を主題に、日本の経済の戦後から現在までのあゆみを講義する。ただし講義の順は現在から過去に遡る。受講者は、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学んでいることが望ましい。また経済史、日本経済史なども受講していると理解が進むであろう。

**【到達目標】**

日本経済の現状と将来展望を理解し、新聞やニュースの経済記事を興味をもって読めるような基本的知識を身につけることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

オンデマンド形式のオンライン講義とする。学年暦に応じ毎週各スライドにナレーションを挿入したパワーポイント・資料を、学習支援システム（HOPPII）の教材フォルダーにアップロードしておくので、それをダウンロードし、受講生が適切な環境で学習してもらう。授業内容に関し質問等がある場合は、学習支援システムの「掲示板」内のスレッド「授業への質問コーナー」に投稿か、授業期間中に 2 回のオフィスアワーの時間を設けるので、Zoom あるいは Webex を使って質問を受け付ける。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、コロナ禍の日本と世界経済	講義の枠組み、2020 年の日本と世界の経済 これまでのアベノミクスの評価について
2	アベノミクス	2012 年以後のアベノミクスの実態と成果について
3	リーマンショック 1	アメリカのサブプライムローン問題とその影響
4	リーマンショック 2	東日本大震災とヨーロッパ債務危機について
5	失われた 20 年 1	1990 年代後半から 2000 年代半ばへ平成不況、不良債権問題の発生とその処理について
6	失われた 20 年 2	労働市場の需給悪化、小泉内閣の構造改革
7	小括 1	第 1 回から 7 回までの講義に関する質疑応答
8	レーガノミクスと円切り上げ	アメリカ経済の政策転換と日本経済に及ぼした影響について
9	オイルショックと高度成長の終焉	1970 年代のスタグフレーション下の日本経済について
10	高度成長 1	1960 年代の高度成長の原因と帰結について
11	高度成長 2	高度成長時代の国民生活の変化について
12	戦後改革 1	農地改革、財閥解体等の制度改革について
13	戦後改革 2	日本経済の再建、インフレ対策について
14	小括 2	第 8 回から 13 回までの講義に関する質疑応答

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備・復習時間は各回 4 時間を標準とし、毎日の新聞、ニュースの経済欄を読み聞く習慣を身に付けること、および授業で使う資料に必ず目を通すこと。

**【テキスト（教科書）】**

特に使用しない。毎回の講義内容は授業支援システム上にアップロードする。

**【参考書】**

- ①南亮進『日本の経済発展（第 3 版）』東洋経済新報社。
  - ②深尾・中村・中林編『講座 日本経済の歴史』第 5、6 巻、岩波書店。
  - ③内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）など。
- その他は適宜授業内で紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

複数回のレポートを課し、それによって評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

グラフを読みやすく改善しました。

**【その他の重要事項】**

現代経済学基礎、同応用、ミクロ経済学、マクロ経済学などの履修を平行して進めること。

**【Outline and objectives】**

Economic development of Japan after WWII

ECN200CA
<b>日本経済論 B</b>
<b>牧野 文夫</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

日本経済論 A の受講を前提にテーマごとに現在の日本経済の特徴、問題、課題をテーマ別に講義する。

**【到達目標】**

個別の分野ごとに日本経済の抱える問題、解決への手段を考察するための基本知識、そして当然のことながら、新聞の経済記事等が理解できるような基本知識を身につけることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

オンデマンド形式のオンライン講義とする。学年暦に応じ毎週各スライドにナレーションを挿入したパワーポイント・資料を、学習支援システム（HOPPII）の教材フォルダーにアップロードしておくので、それをダウンロードし、受講生が適切な環境で学習してもらう。授業内容に関し質問等がある場合は、学習支援システムの「掲示板」内のスレッド「授業への質問コーナー」に投稿か、授業期間中に 2 回のオフィスアワーの時間を設けるので、Zoom あるいは Webex を使って質問を受け付ける。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、産業構造 (1)	ガイダンスおよび農業問題特に食料自給率について
2	産業構造 (2)	製造業、IT 産業、研究開発について
3	金融システム (1)	部門別資金バランス、家計貯蓄について
4	金融システム (2)	銀行の貸出行動と企業の資金調達について
5	財政 (1)	歳入・歳出構造、税制について
6	財政 (2)	政府債務、特別会計、中央・地方の財政関係、
7	小括 1	第 1 回から 6 回までの講義に関する質疑応答
8	少子高齢化	晩婚化、少子化、高齢化問題について
9	労働市場 (1)	最近の雇用失業問題、非正規労働の増大について
10	労働市場 (2)	賃金水準、賃金格差について
11	対外経済関係	貿易構造の変化について、対外投資、国際収支、TPP/FTA について
12	所得分配、社会階層と教育 1	格差とは何か、所得分配の不平等化について
13	所得分配、社会階層と教育 2	経済格差のもたらす社会的弊害について
14	小括 2	第 8 回から 13 回までの講義に関する質疑応答

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備・復習時間は各回 4 時間を標準とし、毎日の新聞、ニュースの経済欄を読み聞く習慣を身に付けること、および授業で使う資料に必ず目を通すこと。

**【テキスト（教科書）】**

特定のテキストは使用しない。講義資料は事前に授業支援システムにアップロードする。

**【参考書】**

関係省庁の発行する白書類。

**【成績評価の方法と基準】**

複数回のレポートを課し、それによって評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

質疑応答の時間を積極的に活用したい。

**【Outline and objectives】**

Structure and problems of the Japanese economy

COT200CA

**ビジネスプログラミング入門A**

坂本 憲昭

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

授業の到達目標及びテーマを実践するために、オフィスソフトを用いて実習します。具体的には、テキスト文書による情報発信の実習、その際に個人情報保護などや、ネットデータのセキュリティについても合わせて学びます。文書作成ソフトによる企業の社外向け・社内向け文書の作成を実習します。その実習を通して職業人として必要とされる能力を身に付けます。表計算ソフトを用いる実習課題により、問題の発見から解決までの過程において必要となる基礎的な知識と技術を習得します。プレゼンテーションソフトにより情報コンテンツの制作・発信にかかわる能力と態度を身に付けます。

**【到達目標】**

情報活用の実践力が身に付きます。課題や目的に応じて情報手段を適切に選択及び活用することを含めて、実習を通して、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理し、受け手の状況などを踏まえて発信できる実践的な能力を習得します。情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、ICTを活用して情報の共有や発信をしている情報化社会を理解できます。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」に関連。国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

「コンピュータ入門」で扱わなかった範囲を習得するための操作演習や課題制作になります。したがって「コンピュータ入門」履修者、または同等のオフィスソフトの基本的操作の習得者を前提に授業を進めますので、基本的な操作方法について授業では説明しません。複数の担当教員が受け持つので、必ずガイダンスに出席して詳細を理解してください。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、社会人基礎力について	授業の進め方など、ビジネスメールの基礎知識
第2回	ビジネスメールについて	メール礼儀作法、メール構成必須内容を講義
第3回	ビジネスメールの実践	ビジネスメール演習問題に取り組む
第4回	文書作成議事録	Wordによる議事録作成に取り組む
第5回	日商 PC 検定文書作成 3 級	商工会議所 PC 検定文書 3 級相当の実習
第6回	日商 PC 検定文書作成 2 級	商工会議所 PC 検定文書 2 級相当の実習
第7回	メール・文書作成の試験	メール作成及び文書作成の試験と振り返り
第8回	表計算によるデータベースの理解	セルの強調表示、関数の復習とその実習
第9回	表計算のデータベース関数	並べ替え、フィルタ、テーブルの実習
第10回	表計算によるデータ分析と活用	小計、ピボットテーブルの実習
第11回	表計算の試験	表計算によるデータベース関数の試験、MOS 試験問題相当の試験
第12回	社会人基礎力プレゼンテーションについて	経済産業省から発信されている社会人基礎力の紹介
第13回	社内・社外プレゼンテーションについて	プレゼンソフトによる社内/社外向け表現方法の技法について講義
第14回	プレゼンテーション演習	プレゼンソフトによる実習

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

実習に付き、繰り返し操作をおこない、本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用せず担当教員による自作資料を使用します。

**【参考書】**

マイクロソフトオフィススペシャリスト（MOS）試験対策テキスト及び過去問題集、日本商工会議所日商 PC 検定試験対策テキスト及び過去問題集、ビジネスメールの書き方などの書籍

**【成績評価の方法と基準】**

基準として課題などの合計 100 点満点で 60 点以上が単位取得になります。複数の教員が担当していますから、詳細は、学習支援システムに掲載されたガイダンスファイルやお知らせで必ず確認してください。詳細を含めて不明であれば、必ず質問してご自分で確認してください。

**【学生の意見等からの気づき】**

「遅い」「早い」「易しすぎる」「難しすぎる」など相反する意見がありますが、能力別クラス編成ではないので、実習問題で吸収するようにします。授業内容が、コンピュータ入門の履修内容と重複することもあります。これは復習と考えてより確実に習得することを考えてください。

**【学生が準備すべき機器他】**

マイストレージでファイル等を保存することを復習しておいてください。USB メモリを使う場合はご自身で準備してください。

**【その他の重要事項】**

質問等があれば、担当教員坂本まで問い合わせてください。

**【Outline and objectives】**

In this course, students practice:

- information dissemination by documents, learning about the protection of personal information and security of online data
- creating documents in professions for outside or inside the company by software
- basic knowledge and skills that are necessary for the process from problem discovery to a solution, and
- skills and attitudes related to the creation and transmission of information contents using presentation software.

To carry out the targets and theme, Office software is used in practical lessons. On completion of this course, you will have the skills required for a professional.

COT200CA
ビジネスプログラミング入門B
坂本 憲昭
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

プログラム言語の役割とその仕組み、アルゴリズムについては講義が中心となります。実習として Excel/VBA によるプログラミングを行います。実習課題により、(1)「問題解決のために解決手順を組み立てる思考」「筋道を立てた考え方」を経験し、その基礎知識を習得します。(2) プログラミング経験を通して、モデル化について、シミュレーションの意味、社会インフラとなっているソフトウェアの概念やプログラムの間違いが社会生活に与える影響などを理解します。

**【到達目標】**

アルゴリズムとプログラミング及びデータ構造に関する知識と技術を習得し、実際に活用する能力を身に付けます。実習課題を通して、(1) アルゴリズムの基礎、(2) プログラミングの基礎、(3) 数値計算、(4) データの型と構造、(5) アルゴリズム応用について経験および習得します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」に関連。国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

目的や題意に沿って処理の内容を順序だてて考えてもらいます。次に、それをプログラミング言語（Excel VBA）を用いて実践します。他曜日と同じ授業がありますが、到達目標、アルゴリズムの考え方、使用するプログラミング言語、使用する基本命令は共通です。複数の担当教員が受け持つので、必ずガイダンスに出席して詳細を理解してください。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスとプログラミング準備	プログラミングをするための準備、プログラム言語の役割とその仕組み
第 2 回	データ入出力	データの入力と出力について解説
第 3 回	アルゴリズム	アルゴリズムについて解説
第 4 回	実社会におけるソフトウェアのバグ	プログラムの実行とソフトウェアのバグについて、バグが実社会に与える影響を解説
第 5 回	変数、四則演算、乱数	変数、四則演算、乱数に関する実習
第 6 回	条件分岐命令	条件分岐命令に関する実習
第 7 回	プログラミング試験	これまでの授業内容による試験とその振り返り
第 8 回	多岐分岐命令	多岐分岐命令、繰り返し命令に関する実習
第 9 回	繰り返し命令	繰り返し命令内での処理に関する実習
第 10 回	多岐分岐と繰り返し処理のプログラミング試験	試験とその振り返り
第 11 回	実践課題の基本設計	課題の基本設計に取り組む
第 12 回	実践課題の詳細設計	課題の詳細設計とプログラミングをおこなう
第 13 回	テストデータの考え方	課題の動作試験における考え方とテストデータの作成
第 14 回	納品と検収の考え方	課題の実行とソフトウェアの納品・検収について

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

実習の授業なので自宅等で課題等に取り組みます。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用せず担当教員による自作資料を使用します。

**【参考書】**

Excel/VBA（または Exce マクロ、どちらでも可）の入門書が該当します。多くの書籍があり、授業内容では Excel のバージョンによる違いはないので、読みやすい本を選ぶとよいでしょう。解説している内容もほぼ同じです。

**【成績評価の方法と基準】**

基準として試験（50%）、課題（30%）、平常点（20%）になります。成績評価は 100 点満点とし 60 点以上が合格となります。詳細は、複数の教員が曜日に分かれて担当しますので、ガイダンスは必ず出席し、その内容を理解してください。もしもやむを得ない事情で欠席した場合には、あなた自身で担当教員に確認してください。

## 【学生の意見等からの気づき】

演習問題の難しさを調整します。実習なので苦手意識がある場合には、授業時間外に自宅等での取り組みを望みます。

## 【学生が準備すべき機器他】

ファイルの保存にマイストレージを使用する場合には確認をしておいてください。USB メモリを使用する場合は、自分で準備してください。

## 【その他の重要事項】

授業内容について質問があれば、担当教員坂本まで問い合わせてください。「実務経験のある教員による授業」に該当し、SE の業務経験から注意点を紹介します。

## 【Outline and objectives】

The role of the programming language, its mechanisms and algorithms are taught in lectures. Practical lessons focus on actual programming with Excel or VBA. You will (1) learn basic skills, experiencing 'how to set up solution procedures to deal with problems' and 'logical thinking with the pathway,' and (2) further understand modeling through programming, including the meaning of simulation, the concept of software, which has become social infrastructure and the effects of mistakes(bugs) of programs on social life.

COT200CA

## ビジネスプログラミング入門A

坂本 憲昭

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の到達目標及びテーマを実践するために、オフィスソフトを用いて実習します。具体的には、テキスト文書による情報発信の実習、その際に個人情報保護などや、ネットデータのセキュリティについても合わせて学びます。文書作成ソフトによる企業の社外向け・社内向け文書の作成を実習します。その実習を通して職業人として必要とされる能力を身に付けます。表計算ソフトを用いる実習課題により、問題の発見から解決までの過程において必要となる基礎的な知識と技術を習得します。プレゼンテーションソフトにより情報コンテンツの制作・発信にかかわる能力と態度を身に付けます。

## 【到達目標】

情報活用の実践力が身に付きます。課題や目的に応じて情報手段を適切に選択及び活用することを含めて、実習を通して、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理し、受け手の状況などを踏まえて発信できる実践的な能力を習得します。情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、ICT を活用して情報の共有や発信をしている情報化社会を理解できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」に関連。国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。

## 【授業の進め方と方法】

「コンピュータ入門」で扱わなかった範囲を習得するための操作演習や課題制作になります。したがって「コンピュータ入門」履修者、または同等のオフィスソフトの基本的操作の習得者を前提に授業を進めますので、基本的な操作方法について授業では説明しません。複数の担当教員が受け持つので、必ずガイダンスに出席して詳細を理解してください。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、社会人基礎力について	授業の進め方など、ビジネスメールの基礎知識
第 2 回	ビジネスメールについて	メール礼儀作法、メール構成必須内容を講義
第 3 回	ビジネスメールの実践	ビジネスメール演習問題に取り組む
第 4 回	文書作成議事録	Word による議事録作成に取り組む
第 5 回	日商 PC 検定文書作成 3 級	商工会議所 PC 検定文書 3 級相当の実習
第 6 回	日商 PC 検定文書作成 2 級	商工会議所 PC 検定文書 2 級相当の実習
第 7 回	メール・文書作成の試験	メール作成及び文書作成の試験と振り返り
第 8 回	表計算によるデータベースの理解	セルの強調表示、関数の復習とその実習
第 9 回	表計算のデータベース関数	並べ替え、フィルタ、テーブルの実習
第 10 回	表計算によるデータ分析と活用	小計、ピボットテーブルの実習
第 11 回	表計算の試験	表計算によるデータベース関数の試験、MOS 試験問題相当の試験
第 12 回	社会人基礎力プレゼンテーションについて	経済産業省から発信されている社会人基礎力の紹介
第 13 回	社内・社外プレゼンテーションについて	プレゼンソフトによる社内/社外向け表現方法の技法について講義
第 14 回	プレゼンテーション演習	プレゼンソフトによる実習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習に付き、繰り返し操作をおこない、本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず担当教員による自作資料を使用します。

## 【参考書】

マイクロソフトオフィススペシャリスト（MOS）試験対策テキスト及び過去問題集、日本商工会議所日商 PC 検定試験対策テキスト及び過去問題集、ビジネスメールの書き方などの書籍

**【成績評価の方法と基準】**

基準として課題などの合計 100 点満点で 60 点以上が単位取得になります。複数の教員が担当していますから、詳細は、学習支援システムに掲載されたガイダンスファイルやお知らせで必ず確認してください。詳細を含めて不明であれば、必ず質問してご自分で確認してください。

**【学生の意見等からの気づき】**

「遅い」「早い」「易しすぎる」「難しすぎる」など相反する意見がありますが、能力別クラス編成ではないので、実習問題で吸収するようにします。授業内容が、コンピュータ入門の履修内容と重複することもあります。これは復習と考えてより確実に習得することを考えてください。

**【学生が準備すべき機器他】**

マイストレージでファイル等を保存することを復習しておいてください。USB メモリを使う場合はご自身で準備してください。

**【その他の重要事項】**

質問等があれば、担当教員坂本まで問い合わせてください。

**【Outline and objectives】**

In this course, students practice:

- information dissemination by documents, learning about the protection of personal information and security of online data
- creating documents in professions for outside or inside the company by software
- basic knowledge and skills that are necessary for the process from problem discovery to a solution, and
- skills and attitudes related to the creation and transmission of information contents using presentation software.

To carry out the targets and theme, Office software is used in practical lessons. On completion of this course, you will have the skills required for a professional.

COT200CA
ビジネスプログラミング入門B
坂本 憲昭
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

プログラム言語の役割とその仕組み、アルゴリズムについては講義が中心となります。実習として Excel/VBA によるプログラミングを行います。実習課題により、(1)「問題解決のために解決手順を組み立てる思考」「筋道を立てた考え方」を経験し、その基礎知識を習得します。(2) プログラミング経験を通して、モデル化について、シミュレーションの意味、社会インフラとなっているソフトウェアの概念やプログラムの間違いが社会生活に与える影響などを理解します。

**【到達目標】**

アルゴリズムとプログラミング及びデータ構造に関する知識と技術を習得し、実際に活用する能力を身に付けます。実習課題を通して、(1) アルゴリズムの基礎、(2) プログラミングの基礎、(3) 数値計算、(4) データの型と構造、(5) アルゴリズム応用について経験および習得します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」に関連。国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

目的や題意に沿って処理の内容を順序だてて考えてもらいます。次に、それをプログラミング言語（Excel VBA）を用いて実践します。他曜日と同じ授業がありますが、到達目標、アルゴリズムの考え方、使用するプログラミング言語、使用する基本命令は共通です。複数の担当教員が受け持つので、必ずガイダンスに出席して詳細を理解してください。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスとプログラミング準備	プログラミングをするための準備、プログラム言語の役割とその仕組み
第 2 回	データ入出力	データの入力と出力について解説
第 3 回	アルゴリズム	アルゴリズムについて解説
第 4 回	実社会におけるソフトウェアのバグ	プログラムの実行とソフトウェアのバグについて、バグが実社会に与える影響を解説
第 5 回	変数、四則演算、乱数	変数、四則演算、乱数に関する実習
第 6 回	条件分岐命令	条件分岐命令に関する実習
第 7 回	プログラミング試験	これまでの授業内容による試験とその振り返り
第 8 回	多岐分岐命令	多岐分岐命令、繰り返し命令に関する実習
第 9 回	繰り返し命令	繰り返し命令内での処理に関する実習
第 10 回	多岐分岐と繰り返し処理のプログラミング試験	試験とその振り返り
第 11 回	実践課題の基本設計	課題の基本設計に取り組む
第 12 回	実践課題の詳細設計	課題の詳細設計とプログラミングをおこなう
第 13 回	テストデータの考え方	課題の動作試験における考え方とテストデータの作成
第 14 回	納品と検収の考え方	課題の実行とソフトウェアの納品・検収について

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

実習の授業なので自宅等で課題等に取り組みます。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用せず担当教員による自作資料を使用します。

**【参考書】**

Excel/VBA（または Exce マクロ、どちらでも可）の入門書が該当します。多くの書籍があり、授業内容では Excel のバージョンによる違いはないので、読みやすい本を選ぶとよいでしょう。解説している内容もほぼ同じです。

**【成績評価の方法と基準】**

基準として試験（50%）、課題（30%）、平常点（20%）になります。成績評価は 100 点満点とし 60 点以上が合格となります。詳細は、複数の教員が曜日に分かれて担当しますので、ガイダンスは必ず出席し、その内容を理解してください。もしもやむを得ない事情で欠席した場合には、あなた自身で担当教員に確認してください。

## 【学生の意見等からの気づき】

演習問題の難しさを調整します。実習なので苦手意識がある場合には、授業時間外に自宅等での取り組みを望みます。

## 【学生が準備すべき機器他】

ファイルの保存にマイストレージを使用する場合には確認をしておいてください。USB メモリを使用する場合は、自分で準備してください。

## 【その他の重要事項】

授業内容について質問があれば、担当教員坂本まで問い合わせてください。「実務経験のある教員による授業」に該当し、SE の業務経験から注意点を紹介します。

## 【Outline and objectives】

The role of the programming language, its mechanisms and algorithms are taught in lectures. Practical lessons focus on actual programming with Excel or VBA. You will (1) learn basic skills, experiencing 'how to set up solution procedures to deal with problems' and 'logical thinking with the pathway,' and (2) further understand modeling through programming, including the meaning of simulation, the concept of software, which has become social infrastructure and the effects of mistakes(bugs) of programs on social life.

COT200CA

## ビジネスプログラミング入門A

高橋 朋一

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の到達目標及びテーマを実践するために、オフィスソフトを用いて実習します。具体的には、テキスト文書による情報発信の実習、その際に個人情報保護などや、ネットデータのセキュリティについても合わせて学びます。文書作成ソフトによる企業の社外向け・社内向け文書の作成を実習します。その実習を通して職業人として必要とされる能力を身に付けます。表計算ソフトを用いる実習課題により、問題の発見から解決までの過程において必要となる基礎的な知識と技術を習得します。プレゼンテーションソフトにより情報コンテンツの制作・発信にかかわる能力と態度を身に付けます。

## 【到達目標】

情報活用の実践力が身に付きます。課題や目的に応じて情報手段を適切に選択及び活用することを含めて、実習を通して、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理し、受け手の状況などを踏まえて発信できる実践的な能力を習得します。情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、ICT を活用して情報の共有や発信をしている情報化社会を理解できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」に関連。国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。

## 【授業の進め方と方法】

「コンピュータ入門」で扱わなかった範囲を習得するための操作演習や課題制作になります。したがって「コンピュータ入門」履修者、または同等のオフィスソフトの基本的操作の習得者を前提に授業を進めますので、基本的な操作方法について授業では説明しません。複数の担当教員が受け持つので、必ずガイダンスに出席して詳細を理解してください。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、社会人基礎力について	授業の進め方など、ビジネスメールの基礎知識
第 2 回	ビジネスメールについて	メール礼儀作法、メール構成必須内容を講義
第 3 回	ビジネスメールの実践	ビジネスメール演習問題に取り組む
第 4 回	文書作成議事録	Word による議事録作成に取り組む
第 5 回	日商 PC 検定文書作成 3 級	商工会議所 PC 検定文書 3 級相当の実習
第 6 回	日商 PC 検定文書作成 2 級	商工会議所 PC 検定文書 2 級相当の実習
第 7 回	メール・文書作成の試験	メール作成及び文書作成の試験と振り返り
第 8 回	表計算によるデータベースの理解	セルの強調表示、関数の復習とその実習
第 9 回	表計算のデータベース関数	並べ替え、フィルタ、テーブルの実習
第 10 回	表計算によるデータ分析と活用	小計、ピボットテーブルの実習
第 11 回	表計算の試験	表計算によるデータベース関数の試験、MOS 試験問題相当の試験
第 12 回	社会人基礎力プレゼンテーションについて	経済産業省から発信されている社会人基礎力の紹介
第 13 回	社内・社外プレゼンテーションについて	プレゼンソフトによる社内/社外向け表現方法の技法について講義
第 14 回	プレゼンテーション演習	プレゼンソフトによる実習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習に付き、繰り返し操作をおこない、本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず担当教員による自作資料を使用します。

## 【参考書】

マイクロソフトオフィススペシャリスト（MOS）試験対策テキスト及び過去問題集、日本商工会議所日商 PC 検定試験対策テキスト及び過去問題集、ビジネスメールの書き方などの書籍

**【成績評価の方法と基準】**

基準として課題などの合計 100 点満点で 60 点以上が単位取得になります。複数の教員が担当していますから、詳細は、学習支援システムに掲載されたガイダンスファイルやお知らせで必ず確認してください。詳細を含めて不明であれば、必ず質問してご自分で確認してください。

**【学生の意見等からの気づき】**

「遅い」「早い」「易しすぎる」「難しすぎる」など相反する意見がありますが、能力別クラス編成ではないので、実習問題で吸収するようにします。授業内容が、コンピュータ入門の履修内容と重複することもあります。これは復習と考えてより確実に習得することを考えてください。

**【学生が準備すべき機器他】**

マイストレージでファイル等を保存することを復習しておいてください。USB メモリを使う場合はご自身で準備してください。

**【その他の重要事項】**

質問等があれば、担当教員坂本まで問い合わせてください。

**【Outline and objectives】**

In this course, students practice:

- information dissemination by documents, learning about the protection of personal information and security of online data
- creating documents in professions for outside or inside the company by software
- basic knowledge and skills that are necessary for the process from problem discovery to a solution, and
- skills and attitudes related to the creation and transmission of information contents using presentation software.

To carry out the targets and theme, Office software is used in practical lessons. On completion of this course, you will have the skills required for a professional.

COT200CA
ビジネスプログラミング入門B
高橋 朋一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

プログラム言語の役割とその仕組み、アルゴリズムについては講義が中心となります。実習として Excel/VBA によるプログラミングを行います。実習課題により、(1)「問題解決のために解決手順を組み立てる思考」「筋道を立てた考え方」を経験し、その基礎知識を習得します。(2) プログラミング経験を通して、モデル化について、シミュレーションの意味、社会インフラとなっているソフトウェアの概念やプログラムの間違いが社会生活に与える影響などを理解します。

**【到達目標】**

アルゴリズムとプログラミング及びデータ構造に関する知識と技術を習得し、実際に活用する能力を身に付けます。実習課題を通して、(1) アルゴリズムの基礎、(2) プログラミングの基礎、(3) 数値計算、(4) データの型と構造、(5) アルゴリズム応用について経験および習得します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」に関連。国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

目的や題意に沿って処理の内容を順序だてて考えてもらいます。次に、それをプログラミング言語（Excel VBA）を用いて実践します。他曜日と同じ授業がありますが、到達目標、アルゴリズムの考え方、使用するプログラミング言語、使用する基本命令は共通です。複数の担当教員が受け持つので、必ずガイダンスに出席して詳細を理解してください。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスとプログラミング準備	プログラミングをするための準備、プログラム言語の役割とその仕組み
第 2 回	データ入出力	データの入力と出力について解説
第 3 回	アルゴリズム	アルゴリズムについて解説
第 4 回	実社会におけるソフトウェアのバグ	プログラムの実行とソフトウェアのバグについて、バグが実社会に与える影響を解説
第 5 回	変数、四則演算、乱数	変数、四則演算、乱数に関する実習
第 6 回	条件分岐命令	条件分岐命令に関する実習
第 7 回	プログラミング試験	これまでの授業内容による試験とその振り返り
第 8 回	多岐分岐命令	多岐分岐命令、繰り返し命令に関する実習
第 9 回	繰り返し命令	繰り返し命令内での処理に関する実習
第 10 回	多岐分岐と繰り返し処理のプログラミング試験	試験とその振り返り
第 11 回	実践課題の基本設計	課題の基本設計に取り組む
第 12 回	実践課題の詳細設計	課題の詳細設計とプログラミングをおこなう
第 13 回	テストデータの考え方	課題の動作試験における考え方とテストデータの作成
第 14 回	納品と検収の考え方	課題の実行とソフトウェアの納品・検収について

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

実習の授業なので自宅等で課題等に取り組みます。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用せず担当教員による自作資料を使用します。

**【参考書】**

Excel/VBA（または Exce マクロ、どちらでも可）の入門書が該当します。多くの書籍があり、授業内容では Excel のバージョンによる違いはないので、読みやすい本を選ぶとよいでしょう。解説している内容もほぼ同じです。

**【成績評価の方法と基準】**

基準として試験（50%）、課題（30%）、平常点（20%）になります。成績評価は 100 点満点とし 60 点以上が合格となります。詳細は、複数の教員が曜日に分かれて担当しますので、ガイダンスは必ず出席し、その内容を理解してください。もしもやむを得ない事情で欠席した場合には、あなた自身で担当教員に確認してください。

## 【学生の意見等からの気づき】

演習問題の難しさを調整します。実習なので苦手意識がある場合には、授業時間外に自宅等での取り組みを望みます。

## 【学生が準備すべき機器他】

ファイルの保存にマイストレージを使用する場合には確認をしておいてください。USB メモリを使用する場合は、自分で準備してください。

## 【その他の重要事項】

授業内容について質問があれば、担当教員坂本まで問い合わせてください。「実務経験のある教員による授業」に該当し、SE の業務経験から注意点を紹介します。

## 【Outline and objectives】

The role of the programming language, its mechanisms and algorithms are taught in lectures. Practical lessons focus on actual programming with Excel or VBA. You will (1) learn basic skills, experiencing 'how to set up solution procedures to deal with problems' and 'logical thinking with the pathway,' and (2) further understand modeling through programming, including the meaning of simulation, the concept of software, which has become social infrastructure and the effects of mistakes(bugs) of programs on social life.

COT200CA

## ビジネスプログラミング入門A

高橋 朋一

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の到達目標及びテーマを実践するために、オフィスソフトを用いて実習します。具体的には、テキスト文書による情報発信の実習、その際に個人情報保護などや、ネットデータのセキュリティについても合わせて学びます。文書作成ソフトによる企業の社外向け・社内向け文書の作成を実習します。その実習を通して職業人として必要とされる能力を身に付けます。表計算ソフトを用いる実習課題により、問題の発見から解決までの過程において必要となる基礎的な知識と技術を習得します。プレゼンテーションソフトにより情報コンテンツの制作・発信にかかわる能力と態度を身に付けます。

## 【到達目標】

情報活用の実践力が身に付きます。課題や目的に応じて情報手段を適切に選択及び活用することを含めて、実習を通して、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理し、受け手の状況などを踏まえて発信できる実践的な能力を習得します。情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、ICT を活用して情報の共有や発信をしている情報化社会を理解できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」に関連。国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。

## 【授業の進め方と方法】

「コンピュータ入門」で扱わなかった範囲を習得するための操作演習や課題制作になります。したがって「コンピュータ入門」履修者、または同等のオフィスソフトの基本的操作の習得者を前提に授業を進めますので、基本的な操作方法について授業では説明しません。複数の担当教員が受け持つので、必ずガイダンスに出席して詳細を理解してください。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、社会人基礎力について	授業の進め方など、ビジネスメールの基礎知識
第 2 回	ビジネスメールについて	メール礼儀作法、メール構成必須内容を講義
第 3 回	ビジネスメールの実践	ビジネスメール演習問題に取り組む
第 4 回	文書作成議事録	Word による議事録作成に取り組む
第 5 回	日商 PC 検定文書作成 3 級	商工会議所 PC 検定文書 3 級相当の実習
第 6 回	日商 PC 検定文書作成 2 級	商工会議所 PC 検定文書 2 級相当の実習
第 7 回	メール・文書作成の試験	メール作成及び文書作成の試験と振り返り
第 8 回	表計算によるデータベースの理解	セルの強調表示、関数の復習とその実習
第 9 回	表計算のデータベース関数	並べ替え、フィルタ、テーブルの実習
第 10 回	表計算によるデータ分析と活用	小計、ピボットテーブルの実習
第 11 回	表計算の試験	表計算によるデータベース関数の試験、MOS 試験問題相当の試験
第 12 回	社会人基礎力プレゼンテーションについて	経済産業省から発信されている社会人基礎力の紹介
第 13 回	社内・社外プレゼンテーションについて	プレゼンソフトによる社内/社外向け表現方法の技法について講義
第 14 回	プレゼンテーション演習	プレゼンソフトによる実習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習に付き、繰り返し操作をおこない、本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず担当教員による自作資料を使用します。

## 【参考書】

マイクロソフトオフィススペシャリスト（MOS）試験対策テキスト及び過去問題集、日本商工会議所日商 PC 検定試験対策テキスト及び過去問題集、ビジネスメールの書き方などの書籍

**【成績評価の方法と基準】**

基準として課題などの合計 100 点満点で 60 点以上が単位取得になります。複数の教員が担当していますから、詳細は、学習支援システムに掲載されたガイダンスファイルやお知らせで必ず確認してください。詳細を含めて不明であれば、必ず質問してご自分で確認してください。

**【学生の意見等からの気づき】**

「遅い」「早い」「易しすぎる」「難しすぎる」など相反する意見がありますが、能力別クラス編成ではないので、実習問題で吸収するようにします。授業内容が、コンピュータ入門の履修内容と重複することもあります。これは復習と考えてより確実に習得することを考えてください。

**【学生が準備すべき機器他】**

マイストレージでファイル等を保存することを復習しておいてください。USB メモリを使う場合はご自身で準備してください。

**【その他の重要事項】**

質問等があれば、担当教員坂本まで問い合わせてください。

**【Outline and objectives】**

In this course, students practice:

- information dissemination by documents, learning about the protection of personal information and security of online data
- creating documents in professions for outside or inside the company by software
- basic knowledge and skills that are necessary for the process from problem discovery to a solution, and
- skills and attitudes related to the creation and transmission of information contents using presentation software.

To carry out the targets and theme, Office software is used in practical lessons. On completion of this course, you will have the skills required for a professional.

COT200CA
ビジネスプログラミング入門B
高橋 朋一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

プログラム言語の役割とその仕組み、アルゴリズムについては講義が中心となります。実習として Excel/VBA によるプログラミングを行います。実習課題により、(1)「問題解決のために解決手順を組み立てる思考」「筋道を立てた考え方」を経験し、その基礎知識を習得します。(2) プログラミング経験を通して、モデル化について、シミュレーションの意味、社会インフラとなっているソフトウェアの概念やプログラムの間違いが社会生活に与える影響などを理解します。

**【到達目標】**

アルゴリズムとプログラミング及びデータ構造に関する知識と技術を習得し、実際に活用する能力を身に付けます。実習課題を通して、(1) アルゴリズムの基礎、(2) プログラミングの基礎、(3) 数値計算、(4) データの型と構造、(5) アルゴリズム応用について経験および習得します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」に関連。国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

目的や題意に沿って処理の内容を順序だてて考えてもらいます。次に、それをプログラミング言語（Excel VBA）を用いて実践します。他曜日と同じ授業がありますが、到達目標、アルゴリズムの考え方、使用するプログラミング言語、使用する基本命令は共通です。複数の担当教員が受け持つので、必ずガイダンスに出席して詳細を理解してください。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスとプログラミング準備	プログラミングをするための準備、プログラム言語の役割とその仕組み
第 2 回	データ入出力	データの入力と出力について解説
第 3 回	アルゴリズム	アルゴリズムについて解説
第 4 回	実社会におけるソフトウェアのバグ	プログラムの実行とソフトウェアのバグについて、バグが実社会に与える影響を解説
第 5 回	変数、四則演算、乱数	変数、四則演算、乱数に関する実習
第 6 回	条件分岐命令	条件分岐命令に関する実習
第 7 回	プログラミング試験	これまでの授業内容による試験とその振り返り
第 8 回	多岐分岐命令	多岐分岐命令、繰り返し命令に関する実習
第 9 回	繰り返し命令	繰り返し命令内での処理に関する実習
第 10 回	多岐分岐と繰り返し処理のプログラミング試験	試験とその振り返り
第 11 回	実践課題の基本設計	課題の基本設計に取り組む
第 12 回	実践課題の詳細設計	課題の詳細設計とプログラミングをおこなう
第 13 回	テストデータの考え方	課題の動作試験における考え方とテストデータの作成
第 14 回	納品と検収の考え方	課題の実行とソフトウェアの納品・検収について

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

実習の授業なので自宅等で課題等に取り組みます。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用せず担当教員による自作資料を使用します。

**【参考書】**

Excel/VBA（または Exce マクロ、どちらでも可）の入門書が該当します。多くの書籍があり、授業内容では Excel のバージョンによる違いはないので、読みやすい本を選ぶとよいでしょう。解説している内容もほぼ同じです。

**【成績評価の方法と基準】**

基準として試験（50%）、課題（30%）、平常点（20%）になります。成績評価は 100 点満点とし 60 点以上が合格となります。詳細は、複数の教員が曜日に分かれて担当しますので、ガイダンスは必ず出席し、その内容を理解してください。もしもやむを得ない事情で欠席した場合には、あなた自身で担当教員に確認してください。

## 【学生の意見等からの気づき】

演習問題の難しさを調整します。実習なので苦手意識がある場合には、授業時間外に自宅等での取り組みを望みます。

## 【学生が準備すべき機器他】

ファイルの保存にマイストレージを使用する場合には確認をしておいてください。USB メモリを使用する場合は、自分で準備してください。

## 【その他の重要事項】

授業内容について質問があれば、担当教員坂本まで問い合わせてください。「実務経験のある教員による授業」に該当し、SE の業務経験から注意点を紹介します。

## 【Outline and objectives】

The role of the programming language, its mechanisms and algorithms are taught in lectures. Practical lessons focus on actual programming with Excel or VBA. You will (1) learn basic skills, experiencing 'how to set up solution procedures to deal with problems' and 'logical thinking with the pathway,' and (2) further understand modeling through programming, including the meaning of simulation, the concept of software, which has become social infrastructure and the effects of mistakes(bugs) of programs on social life.

COT200CA

## ビジネスプログラミング入門A

金子 聡

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の到達目標及びテーマを実践するために、オフィスソフトを用いて実習します。具体的には、テキスト文書による情報発信の実習、その際に個人情報保護などや、ネットデータのセキュリティについても合わせて学びます。文書作成ソフトによる企業の社外向け・社内向け文書の作成を実習します。その実習を通して職業人として必要とされる能力を身に付けます。表計算ソフトを用いる実習課題により、問題の発見から解決までの過程において必要となる基礎的な知識と技術を習得します。プレゼンテーションソフトにより情報コンテンツの制作・発信にかかわる能力と態度を身に付けます。

## 【到達目標】

情報活用の実践力が身に付きます。課題や目的に応じて情報手段を適切に選択及び活用することを含めて、実習を通して、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理し、受け手の状況などを踏まえて発信できる実践的な能力を習得します。情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、ICT を活用して情報の共有や発信をしている情報化社会を理解できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」に関連。国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。

## 【授業の進め方と方法】

「コンピュータ入門」で扱わなかった範囲を習得するための操作演習や課題制作になります。したがって「コンピュータ入門」履修者、または同等のオフィスソフトの基本的操作の習得者を前提に授業を進めますので、基本的な操作方法について授業では説明しません。複数の担当教員が受け持つので、必ずガイダンスに出席して詳細を理解してください。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、社会人基礎力について	授業の進め方など、ビジネスメールの基礎知識
第 2 回	ビジネスメールについて	メール礼儀作法、メール構成必須内容を講義
第 3 回	ビジネスメールの実践	ビジネスメール演習問題に取り組む
第 4 回	文書作成議事録	Word による議事録作成に取り組む
第 5 回	日商 PC 検定文書作成 3 級	商工会議所 PC 検定文書 3 級相当の実習
第 6 回	日商 PC 検定文書作成 2 級	商工会議所 PC 検定文書 2 級相当の実習
第 7 回	メール・文書作成の試験	メール作成及び文書作成の試験と振り返り
第 8 回	表計算によるデータベースの理解	セルの強調表示、関数の復習とその実習
第 9 回	表計算のデータベース関数	並べ替え、フィルタ、テーブルの実習
第 10 回	表計算によるデータ分析と活用	小計、ピボットテーブルの実習
第 11 回	表計算の試験	表計算によるデータベース関数の試験、MOS 試験問題相当の試験
第 12 回	社会人基礎力プレゼンテーションについて	経済産業省から発信されている社会人基礎力の紹介
第 13 回	社内・社外プレゼンテーションについて	プレゼンソフトによる社内/社外向け表現方法の技法について講義
第 14 回	プレゼンテーション演習	プレゼンソフトによる実習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習に付き、繰り返し操作をおこない、本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず担当教員による自作資料を使用します。

## 【参考書】

マイクロソフトオフィススペシャリスト（MOS）試験対策テキスト及び過去問題集、日本商工会議所日商 PC 検定試験対策テキスト及び過去問題集、ビジネスメールの書き方などの書籍

**【成績評価の方法と基準】**

基準として課題などの合計 100 点満点で 60 点以上が単位取得になります。複数の教員が担当していますから、詳細は、学習支援システムに掲載されたガイダンスファイルやお知らせで必ず確認してください。詳細を含めて不明であれば、必ず質問してご自分で確認してください。

**【学生の意見等からの気づき】**

「遅い」「早い」「易しすぎる」「難しすぎる」など相反する意見がありますが、能力別クラス編成ではないので、実習問題で吸収するようにします。授業内容が、コンピュータ入門の履修内容と重複することもあります。これは復習と考えてより確実に習得することを考えてください。

**【学生が準備すべき機器他】**

マイストレージでファイル等を保存することを復習しておいてください。USB メモリを使う場合はご自身で準備してください。

**【その他の重要事項】**

質問等があれば、担当教員坂本まで問い合わせてください。

**【Outline and objectives】**

In this course, students practice:

- information dissemination by documents, learning about the protection of personal information and security of online data
- creating documents in professions for outside or inside the company by software
- basic knowledge and skills that are necessary for the process from problem discovery to a solution, and
- skills and attitudes related to the creation and transmission of information contents using presentation software.

To carry out the targets and theme, Office software is used in practical lessons. On completion of this course, you will have the skills required for a professional.

COT200CA
ビジネスプログラミング入門B
金子 聡
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

プログラム言語の役割とその仕組み、アルゴリズムについては講義が中心となります。実習として Excel/VBA によるプログラミングを行います。実習課題により、(1)「問題解決のために解決手順を組み立てる思考」「筋道を立てた考え方」を経験し、その基礎知識を習得します。(2) プログラミング経験を通して、モデル化について、シミュレーションの意味、社会インフラとなっているソフトウェアの概念やプログラムの間違いが社会生活に与える影響などを理解します。

**【到達目標】**

アルゴリズムとプログラミング及びデータ構造に関する知識と技術を習得し、実際に活用する能力を身に付けます。実習課題を通して、(1) アルゴリズムの基礎、(2) プログラミングの基礎、(3) 数値計算、(4) データの型と構造、(5) アルゴリズム応用について経験および習得します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」に関連。国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

目的や題意に沿って処理の内容を順序だてて考えてもらいます。次に、それをプログラミング言語（Excel VBA）を用いて実践します。他曜日と同じ授業がありますが、到達目標、アルゴリズムの考え方、使用するプログラミング言語、使用する基本命令は共通です。複数の担当教員が受け持つので、必ずガイダンスに出席して詳細を理解してください。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスとプログラミング準備	プログラミングをするための準備、プログラム言語の役割とその仕組み
第 2 回	データ入出力	データの入力と出力について解説
第 3 回	アルゴリズム	アルゴリズムについて解説
第 4 回	実社会におけるソフトウェアのバグ	プログラムの実行とソフトウェアのバグについて、バグが実社会に与える影響を解説
第 5 回	変数、四則演算、乱数	変数、四則演算、乱数に関する実習
第 6 回	条件分岐命令	条件分岐命令に関する実習
第 7 回	プログラミング試験	これまでの授業内容による試験とその振り返り
第 8 回	多岐分岐命令	多岐分岐命令、繰り返し命令に関する実習
第 9 回	繰り返し命令	繰り返し命令内での処理に関する実習
第 10 回	多岐分岐と繰り返し処理のプログラミング試験	試験とその振り返り
第 11 回	実践課題の基本設計	課題の基本設計に取り組む
第 12 回	実践課題の詳細設計	課題の詳細設計とプログラミングをおこなう
第 13 回	テストデータの考え方	課題の動作試験における考え方とテストデータの作成
第 14 回	納品と検収の考え方	課題の実行とソフトウェアの納品・検収について

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

実習の授業なので自宅等で課題等に取り組みます。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用せず担当教員による自作資料を使用します。

**【参考書】**

Excel/VBA（または Exce マクロ、どちらでも可）の入門書が該当します。多くの書籍があり、授業内容では Excel のバージョンによる違いはないので、読みやすい本を選ぶとよいでしょう。解説している内容もほぼ同じです。

**【成績評価の方法と基準】**

基準として試験（50%）、課題（30%）、平常点（20%）になります。成績評価は 100 点満点とし 60 点以上が合格となります。詳細は、複数の教員が曜日に分かれて担当しますので、ガイダンスは必ず出席し、その内容を理解してください。もしもやむを得ない事情で欠席した場合には、あなた自身で担当教員に確認してください。

## 【学生の意見等からの気づき】

演習問題の難しさを調整します。実習なので苦手意識がある場合には、授業時間外に自宅等での取り組みを望みます。

## 【学生が準備すべき機器他】

ファイルの保存にマイストレージを使用する場合には確認をしておいてください。USB メモリを使用する場合は、自分で準備してください。

## 【その他の重要事項】

授業内容について質問があれば、担当教員坂本まで問い合わせてください。「実務経験のある教員による授業」に該当し、SE の業務経験から注意点を紹介します。

## 【Outline and objectives】

The role of the programming language, its mechanisms and algorithms are taught in lectures. Practical lessons focus on actual programming with Excel or VBA. You will (1) learn basic skills, experiencing 'how to set up solution procedures to deal with problems' and 'logical thinking with the pathway,' and (2) further understand modeling through programming, including the meaning of simulation, the concept of software, which has become social infrastructure and the effects of mistakes(bugs) of programs on social life.

COT200CA

## ビジネスプログラミング入門A

金子 聡

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の到達目標及びテーマを実践するために、オフィスソフトを用いて実習します。具体的には、テキスト文書による情報発信の実習、その際に個人情報保護などや、ネットデータのセキュリティについても合わせて学びます。文書作成ソフトによる企業の社外向け・社内向け文書の作成を実習します。その実習を通して職業人として必要とされる能力を身に付けます。表計算ソフトを用いる実習課題により、問題の発見から解決までの過程において必要となる基礎的な知識と技術を習得します。プレゼンテーションソフトにより情報コンテンツの制作・発信にかかわる能力と態度を身に付けます。

## 【到達目標】

情報活用の実践力が身に付きます。課題や目的に応じて情報手段を適切に選択及び活用することを含めて、実習を通して、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理し、受け手の状況などを踏まえて発信できる実践的な能力を習得します。情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、ICT を活用して情報の共有や発信をしている情報化社会を理解できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」に関連。国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。

## 【授業の進め方と方法】

「コンピュータ入門」で扱わなかった範囲を習得するための操作演習や課題制作になります。したがって「コンピュータ入門」履修者、または同等のオフィスソフトの基本的操作の習得者を前提に授業を進めますので、基本的な操作方法について授業では説明しません。複数の担当教員が受け持つので、必ずガイダンスに出席して詳細を理解してください。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、社会人基礎力について	授業の進め方など、ビジネスメールの基礎知識
第 2 回	ビジネスメールについて	メール礼儀作法、メール構成必須内容を講義
第 3 回	ビジネスメールの実践	ビジネスメール演習問題に取り組む
第 4 回	文書作成議事録	Word による議事録作成に取り組む
第 5 回	日商 PC 検定文書作成 3 級	商工会議所 PC 検定文書 3 級相当の実習
第 6 回	日商 PC 検定文書作成 2 級	商工会議所 PC 検定文書 2 級相当の実習
第 7 回	メール・文書作成の試験	メール作成及び文書作成の試験と振り返り
第 8 回	表計算によるデータベースの理解	セルの強調表示、関数の復習とその実習
第 9 回	表計算のデータベース関数	並べ替え、フィルタ、テーブルの実習
第 10 回	表計算によるデータ分析と活用	小計、ピボットテーブルの実習
第 11 回	表計算の試験	表計算によるデータベース関数の試験、MOS 試験問題相当の試験
第 12 回	社会人基礎力プレゼンテーションについて	経済産業省から発信されている社会人基礎力の紹介
第 13 回	社内・社外プレゼンテーションについて	プレゼンソフトによる社内/社外向け表現方法の技法について講義
第 14 回	プレゼンテーション演習	プレゼンソフトによる実習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習に付き、繰り返し操作をおこない、本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず担当教員による自作資料を使用します。

## 【参考書】

マイクロソフトオフィススペシャリスト（MOS）試験対策テキスト及び過去問題集、日本商工会議所日商 PC 検定試験対策テキスト及び過去問題集、ビジネスメールの書き方などの書籍

**【成績評価の方法と基準】**

基準として課題などの合計 100 点満点で 60 点以上が単位取得になります。複数の教員が担当していますから、詳細は、学習支援システムに掲載されたガイダンスファイルやお知らせで必ず確認してください。詳細を含めて不明であれば、必ず質問してご自分で確認してください。

**【学生の意見等からの気づき】**

「遅い」「早い」「易しすぎる」「難しすぎる」など相反する意見がありますが、能力別クラス編成ではないので、実習問題で吸収するようにします。授業内容が、コンピュータ入門の履修内容と重複することもあります。これは復習と考えてより確実に習得することを考えてください。

**【学生が準備すべき機器他】**

マイストレージでファイル等を保存することを復習しておいてください。USB メモリを使う場合はご自身で準備してください。

**【その他の重要事項】**

質問等があれば、担当教員坂本まで問い合わせてください。

**【Outline and objectives】**

In this course, students practice:

- information dissemination by documents, learning about the protection of personal information and security of online data
- creating documents in professions for outside or inside the company by software
- basic knowledge and skills that are necessary for the process from problem discovery to a solution, and
- skills and attitudes related to the creation and transmission of information contents using presentation software.

To carry out the targets and theme, Office software is used in practical lessons. On completion of this course, you will have the skills required for a professional.

COT200CA
ビジネスプログラミング入門B
金子 聡
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

プログラム言語の役割とその仕組み、アルゴリズムについては講義が中心となります。実習として Excel/VBA によるプログラミングを行います。実習課題により、(1)「問題解決のために解決手順を組み立てる思考」「筋道を立てた考え方」を経験し、その基礎知識を習得します。(2) プログラミング経験を通して、モデル化について、シミュレーションの意味、社会インフラとなっているソフトウェアの概念やプログラムの間違いが社会生活に与える影響などを理解します。

**【到達目標】**

アルゴリズムとプログラミング及びデータ構造に関する知識と技術を習得し、実際に活用する能力を身に付けます。実習課題を通して、(1) アルゴリズムの基礎、(2) プログラミングの基礎、(3) 数値計算、(4) データの型と構造、(5) アルゴリズム応用について経験および習得します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」に関連。国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

目的や題意に沿って処理の内容を順序だてて考えてもらいます。次に、それをプログラミング言語（Excel VBA）を用いて実践します。他曜日と同じ授業がありますが、到達目標、アルゴリズムの考え方、使用するプログラミング言語、使用する基本命令は共通です。複数の担当教員が受け持つので、必ずガイダンスに出席して詳細を理解してください。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスとプログラミング準備	プログラミングをするための準備、プログラム言語の役割とその仕組み
第 2 回	データ入出力	データの入力と出力について解説
第 3 回	アルゴリズム	アルゴリズムについて解説
第 4 回	実社会におけるソフトウェアのバグ	プログラムの実行とソフトウェアのバグについて、バグが実社会に与える影響を解説
第 5 回	変数、四則演算、乱数	変数、四則演算、乱数に関する実習
第 6 回	条件分岐命令	条件分岐命令に関する実習
第 7 回	プログラミング試験	これまでの授業内容による試験とその振り返り
第 8 回	多岐分岐命令	多岐分岐命令、繰り返し命令に関する実習
第 9 回	繰り返し命令	繰り返し命令内での処理に関する実習
第 10 回	多岐分岐と繰り返し処理のプログラミング試験	試験とその振り返り
第 11 回	実践課題の基本設計	課題の基本設計に取り組む
第 12 回	実践課題の詳細設計	課題の詳細設計とプログラミングをおこなう
第 13 回	テストデータの考え方	課題の動作試験における考え方とテストデータの作成
第 14 回	納品と検収の考え方	課題の実行とソフトウェアの納品・検収について

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

実習の授業なので自宅等で課題等に取り組みます。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用せず担当教員による自作資料を使用します。

**【参考書】**

Excel/VBA（または Exce マクロ、どちらでも可）の入門書が該当します。多くの書籍があり、授業内容では Excel のバージョンによる違いはないので、読みやすい本を選ぶとよいでしょう。解説している内容もほぼ同じです。

**【成績評価の方法と基準】**

基準として試験（50%）、課題（30%）、平常点（20%）になります。成績評価は 100 点満点とし 60 点以上が合格となります。詳細は、複数の教員が曜日に分かれて担当しますので、ガイダンスは必ず出席し、その内容を理解してください。もしもやむを得ない事情で欠席した場合には、あなた自身で担当教員に確認してください。

## 【学生の意見等からの気づき】

演習問題の難しさを調整します。実習なので苦手意識がある場合には、授業時間外に自宅等での取り組みを望みます。

## 【学生が準備すべき機器他】

ファイルの保存にマイストレージを使用する場合には確認をしておいてください。USB メモリを使用する場合は、自分で準備してください。

## 【その他の重要事項】

授業内容について質問があれば、担当教員坂本まで問い合わせてください。「実務経験のある教員による授業」に該当し、SE の業務経験から注意点を紹介します。

## 【Outline and objectives】

The role of the programming language, its mechanisms and algorithms are taught in lectures. Practical lessons focus on actual programming with Excel or VBA. You will (1) learn basic skills, experiencing 'how to set up solution procedures to deal with problems' and 'logical thinking with the pathway,' and (2) further understand modeling through programming, including the meaning of simulation, the concept of software, which has become social infrastructure and the effects of mistakes(bugs) of programs on social life.

COT200CA

## ビジネスプログラミング入門A

金子 聡

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の到達目標及びテーマを実践するために、オフィスソフトを用いて実習します。具体的には、テキスト文書による情報発信の実習、その際に個人情報保護などや、ネットデータのセキュリティについても合わせて学びます。文書作成ソフトによる企業の社外向け・社内向け文書の作成を実習します。その実習を通して職業人として必要とされる能力を身に付けます。表計算ソフトを用いる実習課題により、問題の発見から解決までの過程において必要となる基礎的な知識と技術を習得します。プレゼンテーションソフトにより情報コンテンツの制作・発信にかかわる能力と態度を身に付けます。

## 【到達目標】

情報活用の実践力が身に付きます。課題や目的に応じて情報手段を適切に選択及び活用することを含めて、実習を通して、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理し、受け手の状況などを踏まえて発信できる実践的な能力を習得します。情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、ICT を活用して情報の共有や発信をしている情報化社会を理解できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」に関連。国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。

## 【授業の進め方と方法】

「コンピュータ入門」で扱わなかった範囲を習得するための操作演習や課題制作になります。したがって「コンピュータ入門」履修者、または同等のオフィスソフトの基本的操作の習得者を前提に授業を進めますので、基本的な操作方法について授業では説明しません。複数の担当教員が受け持つので、必ずガイダンスに出席して詳細を理解してください。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、社会人基礎力について	授業の進め方など、ビジネスメールの基礎知識
第 2 回	ビジネスメールについて	メール礼儀作法、メール構成必須内容を講義
第 3 回	ビジネスメールの実践	ビジネスメール演習問題に取り組む
第 4 回	文書作成議事録	Word による議事録作成に取り組む
第 5 回	日商 PC 検定文書作成 3 級	商工会議所 PC 検定文書 3 級相当の実習
第 6 回	日商 PC 検定文書作成 2 級	商工会議所 PC 検定文書 2 級相当の実習
第 7 回	メール・文書作成の試験	メール作成及び文書作成の試験と振り返り
第 8 回	表計算によるデータベースの理解	セルの強調表示、関数の復習とその実習
第 9 回	表計算のデータベース関数	並べ替え、フィルタ、テーブルの実習
第 10 回	表計算によるデータ分析と活用	小計、ピボットテーブルの実習
第 11 回	表計算の試験	表計算によるデータベース関数の試験、MOS 試験問題相当の試験
第 12 回	社会人基礎力プレゼンテーションについて	経済産業省から発信されている社会人基礎力の紹介
第 13 回	社内・社外プレゼンテーションについて	プレゼンソフトによる社内/社外向け表現方法の技法について講義
第 14 回	プレゼンテーション演習	プレゼンソフトによる実習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習に付き、繰り返し操作をおこない、本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず担当教員による自作資料を使用します。

## 【参考書】

マイクロソフトオフィススペシャリスト（MOS）試験対策テキスト及び過去問題集、日本商工会議所日商 PC 検定試験対策テキスト及び過去問題集、ビジネスメールの書き方などの書籍

**【成績評価の方法と基準】**

基準として課題などの合計 100 点満点で 60 点以上が単位取得になります。複数の教員が担当していますから、詳細は、学習支援システムに掲載されたガイダンスファイルやお知らせで必ず確認してください。詳細を含めて不明であれば、必ず質問してご自分で確認してください。

**【学生の意見等からの気づき】**

「遅い」「早い」「易しすぎる」「難しすぎる」など相反する意見がありますが、能力別クラス編成ではないので、実習問題で吸収するようにします。授業内容が、コンピュータ入門の履修内容と重複することもあります。これは復習と考えてより確実に習得することを考えてください。

**【学生が準備すべき機器他】**

マイストレージでファイル等を保存することを復習しておいてください。USB メモリを使う場合はご自身で準備してください。

**【その他の重要事項】**

質問等があれば、担当教員坂本まで問い合わせてください。

**【Outline and objectives】**

In this course, students practice:

- information dissemination by documents, learning about the protection of personal information and security of online data
- creating documents in professions for outside or inside the company by software
- basic knowledge and skills that are necessary for the process from problem discovery to a solution, and
- skills and attitudes related to the creation and transmission of information contents using presentation software.

To carry out the targets and theme, Office software is used in practical lessons. On completion of this course, you will have the skills required for a professional.

COT200CA
ビジネスプログラミング入門B
金子 聡
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

プログラム言語の役割とその仕組み、アルゴリズムについては講義が中心となります。実習として Excel/VBA によるプログラミングを行います。実習課題により、(1)「問題解決のために解決手順を組み立てる思考」「筋道を立てた考え方」を経験し、その基礎知識を習得します。(2) プログラミング経験を通して、モデル化について、シミュレーションの意味、社会インフラとなっているソフトウェアの概念やプログラムの間違いが社会生活に与える影響などを理解します。

**【到達目標】**

アルゴリズムとプログラミング及びデータ構造に関する知識と技術を習得し、実際に活用する能力を身に付けます。実習課題を通して、(1) アルゴリズムの基礎、(2) プログラミングの基礎、(3) 数値計算、(4) データの型と構造、(5) アルゴリズム応用について経験および習得します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」に関連。国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

目的や題意に沿って処理の内容を順序だてて考えてもらいます。次に、それをプログラミング言語（Excel VBA）を用いて実践します。他曜日と同じ授業がありますが、到達目標、アルゴリズムの考え方、使用するプログラミング言語、使用する基本命令は共通です。複数の担当教員が受け持つので、必ずガイダンスに出席して詳細を理解してください。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスとプログラミング準備	プログラミングをするための準備、プログラム言語の役割とその仕組み
第 2 回	データ入出力	データの入力と出力について解説
第 3 回	アルゴリズム	アルゴリズムについて解説
第 4 回	実社会におけるソフトウェアのバグ	プログラムの実行とソフトウェアのバグについて、バグが実社会に与える影響を解説
第 5 回	変数、四則演算、乱数	変数、四則演算、乱数に関する実習
第 6 回	条件分岐命令	条件分岐命令に関する実習
第 7 回	プログラミング試験	これまでの授業内容による試験とその振り返り
第 8 回	多岐分岐命令	多岐分岐命令、繰り返し命令に関する実習
第 9 回	繰り返し命令	繰り返し命令内での処理に関する実習
第 10 回	多岐分岐と繰り返し処理のプログラミング試験	試験とその振り返り
第 11 回	実践課題の基本設計	課題の基本設計に取り組む
第 12 回	実践課題の詳細設計	課題の詳細設計とプログラミングをおこなう
第 13 回	テストデータの考え方	課題の動作試験における考え方とテストデータの作成
第 14 回	納品と検収の考え方	課題の実行とソフトウェアの納品・検収について

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

実習の授業なので自宅等で課題等に取り組みます。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用せず担当教員による自作資料を使用します。

**【参考書】**

Excel/VBA（または Exce マクロ、どちらでも可）の入門書が該当します。多くの書籍があり、授業内容では Excel のバージョンによる違いはないので、読みやすい本を選ぶとよいでしょう。解説している内容もほぼ同じです。

**【成績評価の方法と基準】**

基準として試験（50%）、課題（30%）、平常点（20%）になります。成績評価は 100 点満点とし 60 点以上が合格となります。詳細は、複数の教員が曜日に分かれて担当しますので、ガイダンスは必ず出席し、その内容を理解してください。もしもやむを得ない事情で欠席した場合には、あなた自身で担当教員に確認してください。

## 【学生の意見等からの気づき】

演習問題の難しさを調整します。実習なので苦手意識がある場合には、授業時間外に自宅等での取り組みを望みます。

## 【学生が準備すべき機器他】

ファイルの保存にマイストレージを使用する場合には確認をしておいてください。USB メモリを使用する場合は、自分で準備してください。

## 【その他の重要事項】

授業内容について質問があれば、担当教員坂本まで問い合わせてください。「実務経験のある教員による授業」に該当し、SE の業務経験から注意点を紹介します。

## 【Outline and objectives】

The role of the programming language, its mechanisms and algorithms are taught in lectures. Practical lessons focus on actual programming with Excel or VBA. You will (1) learn basic skills, experiencing 'how to set up solution procedures to deal with problems' and 'logical thinking with the pathway,' and (2) further understand modeling through programming, including the meaning of simulation, the concept of software, which has become social infrastructure and the effects of mistakes(bugs) of programs on social life.

COT200CA

## ビジネスプログラミング入門A

金子 聡

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の到達目標及びテーマを実践するために、オフィスソフトを用いて実習します。具体的には、テキスト文書による情報発信の実習、その際に個人情報保護などや、ネットデータのセキュリティについても合わせて学びます。文書作成ソフトによる企業の社外向け・社内向け文書の作成を実習します。その実習を通して職業人として必要とされる能力を身に付けます。表計算ソフトを用いる実習課題により、問題の発見から解決までの過程において必要となる基礎的な知識と技術を習得します。プレゼンテーションソフトにより情報コンテンツの制作・発信にかかわる能力と態度を身に付けます。

## 【到達目標】

情報活用の実践力が身に付きます。課題や目的に応じて情報手段を適切に選択及び活用することを含めて、実習を通して、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理し、受け手の状況などを踏まえて発信できる実践的な能力を習得します。情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、ICT を活用して情報の共有や発信をしている情報化社会を理解できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」に関連。国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。

## 【授業の進め方と方法】

「コンピュータ入門」で扱わなかった範囲を習得するための操作演習や課題制作になります。したがって「コンピュータ入門」履修者、または同等のオフィスソフトの基本的操作の習得者を前提に授業を進めますので、基本的な操作方法について授業では説明しません。複数の担当教員が受け持つので、必ずガイダンスに出席して詳細を理解してください。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、社会人基礎力について	授業の進め方など、ビジネスメールの基礎知識
第 2 回	ビジネスメールについて	メール礼儀作法、メール構成必須内容を講義
第 3 回	ビジネスメールの実践	ビジネスメール演習問題に取り組む
第 4 回	文書作成議事録	Word による議事録作成に取り組む
第 5 回	日商 PC 検定文書作成 3 級	商工会議所 PC 検定文書 3 級相当の実習
第 6 回	日商 PC 検定文書作成 2 級	商工会議所 PC 検定文書 2 級相当の実習
第 7 回	メール・文書作成の試験	メール作成及び文書作成の試験と振り返り
第 8 回	表計算によるデータベースの理解	セルの強調表示、関数の復習とその実習
第 9 回	表計算のデータベース関数	並べ替え、フィルタ、テーブルの実習
第 10 回	表計算によるデータ分析と活用	小計、ピボットテーブルの実習
第 11 回	表計算の試験	表計算によるデータベース関数の試験、MOS 試験問題相当の試験
第 12 回	社会人基礎力プレゼンテーションについて	経済産業省から発信されている社会人基礎力の紹介
第 13 回	社内・社外プレゼンテーションについて	プレゼンソフトによる社内/社外向け表現方法の技法について講義
第 14 回	プレゼンテーション演習	プレゼンソフトによる実習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習に付き、繰り返し操作をおこない、本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず担当教員による自作資料を使用します。

## 【参考書】

マイクロソフトオフィススペシャリスト（MOS）試験対策テキスト及び過去問題集、日本商工会議所日商 PC 検定試験対策テキスト及び過去問題集、ビジネスメールの書き方などの書籍

**【成績評価の方法と基準】**

基準として課題などの合計 100 点満点で 60 点以上が単位取得になります。複数の教員が担当していますから、詳細は、学習支援システムに掲載されたガイダンスファイルやお知らせで必ず確認してください。詳細を含めて不明であれば、必ず質問してご自分で確認してください。

**【学生の意見等からの気づき】**

「遅い」「早い」「易しすぎる」「難しすぎる」など相反する意見がありますが、能力別クラス編成ではないので、実習問題で吸収するようにします。授業内容が、コンピュータ入門の履修内容と重複することもあります。これは復習と考えてより確実に習得することを考えてください。

**【学生が準備すべき機器他】**

マイストレージでファイル等を保存することを復習しておいてください。USB メモリを使う場合はご自身で準備してください。

**【その他の重要事項】**

質問等があれば、担当教員坂本まで問い合わせてください。

**【Outline and objectives】**

In this course, students practice:

- information dissemination by documents, learning about the protection of personal information and security of online data
- creating documents in professions for outside or inside the company by software
- basic knowledge and skills that are necessary for the process from problem discovery to a solution, and
- skills and attitudes related to the creation and transmission of information contents using presentation software.

To carry out the targets and theme, Office software is used in practical lessons. On completion of this course, you will have the skills required for a professional.

COT200CA
ビジネスプログラミング入門B
金子 聡
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

プログラム言語の役割とその仕組み、アルゴリズムについては講義が中心となります。実習として Excel/VBA によるプログラミングを行います。実習課題により、(1)「問題解決のために解決手順を組み立てる思考」「筋道を立てた考え方」を経験し、その基礎知識を習得します。(2) プログラミング経験を通して、モデル化について、シミュレーションの意味、社会インフラとなっているソフトウェアの概念やプログラムの間違いが社会生活に与える影響などを理解します。

**【到達目標】**

アルゴリズムとプログラミング及びデータ構造に関する知識と技術を習得し、実際に活用する能力を身に付けます。実習課題を通して、(1) アルゴリズムの基礎、(2) プログラミングの基礎、(3) 数値計算、(4) データの型と構造、(5) アルゴリズム応用について経験および習得します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」に関連。国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

目的や題意に沿って処理の内容を順序だてて考えてもらいます。次に、それをプログラミング言語（Excel VBA）を用いて実践します。他曜日と同じ授業がありますが、到達目標、アルゴリズムの考え方、使用するプログラミング言語、使用する基本命令は共通です。複数の担当教員が受け持つので、必ずガイダンスに出席して詳細を理解してください。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスとプログラミング準備	プログラミングをするための準備、プログラム言語の役割とその仕組み
第 2 回	データ入出力	データの入力と出力について解説
第 3 回	アルゴリズム	アルゴリズムについて解説
第 4 回	実社会におけるソフトウェアのバグ	プログラムの実行とソフトウェアのバグについて、バグが実社会に与える影響を解説
第 5 回	変数、四則演算、乱数	変数、四則演算、乱数に関する実習
第 6 回	条件分岐命令	条件分岐命令に関する実習
第 7 回	プログラミング試験	これまでの授業内容による試験とその振り返り
第 8 回	多岐分岐命令	多岐分岐命令、繰り返し命令に関する実習
第 9 回	繰り返し命令	繰り返し命令内での処理に関する実習
第 10 回	多岐分岐と繰り返し処理のプログラミング試験	試験とその振り返り
第 11 回	実践課題の基本設計	課題の基本設計に取り組む
第 12 回	実践課題の詳細設計	課題の詳細設計とプログラミングをおこなう
第 13 回	テストデータの考え方	課題の動作試験における考え方とテストデータの作成
第 14 回	納品と検収の考え方	課題の実行とソフトウェアの納品・検収について

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

実習の授業なので自宅等で課題等に取り組みます。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用せず担当教員による自作資料を使用します。

**【参考書】**

Excel/VBA（または Exce マクロ、どちらでも可）の入門書が該当します。多くの書籍があり、授業内容では Excel のバージョンによる違いはないので、読みやすい本を選ぶとよいでしょう。解説している内容もほぼ同じです。

**【成績評価の方法と基準】**

基準として試験（50%）、課題（30%）、平常点（20%）になります。成績評価は 100 点満点とし 60 点以上が合格となります。詳細は、複数の教員が曜日に分かれて担当しますので、ガイダンスは必ず出席し、その内容を理解してください。もしもやむを得ない事情で欠席した場合には、あなた自身で担当教員に確認してください。

**【学生の意見等からの気づき】**

演習問題の難しさを調整します。実習なので苦手意識がある場合には、授業時間外に自宅等での取り組みを望みます。

**【学生が準備すべき機器他】**

ファイルの保存にマイストレージを使用する場合には確認をしておいてください。USB メモリを使用する場合は、自分で準備してください。

**【その他の重要事項】**

授業内容について質問があれば、担当教員坂本まで問い合わせてください。「実務経験のある教員による授業」に該当し、SE の業務経験から注意点を紹介します。

**【Outline and objectives】**

The role of the programming language, its mechanisms and algorithms are taught in lectures. Practical lessons focus on actual programming with Excel or VBA. You will (1) learn basic skills, experiencing 'how to set up solution procedures to deal with problems' and 'logical thinking with the pathway,' and (2) further understand modeling through programming, including the meaning of simulation, the concept of software, which has become social infrastructure and the effects of mistakes(bugs) of programs on social life.

POL200CA
<b>国際関係論 A</b>
<b>富永 靖敬</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義は、国際関係論の導入レベルの授業であり、主に安全保障をめぐる国家間関係を対象とし、特に戦争の原因・メカニズムを近年の研究動向を踏まえて多面的に学習する。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の国際関係を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に付けることを目的とする。

**【到達目標】**

1. 国際関係を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること。
2. 国家間関係の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること。
3. 日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本講義は経済学部授業方針に従い、オンデマンド授業とする。オンデマンド授業は、コンテンツ（動画）配信を中心とし、曜日時間・教室の配置をせずに実施するものである。本講義では、講義動画・講義資料での授業を基本としたうえで、オフィスアワーでの質疑応答を行うことで授業内容の理解を促す。講義動画、講義資料は学習支援システム（また Google Drive でのファイル共有）を通じて配信する。また、教員との質疑応答は Zoom を用いて行う。講義動画は 1 本 60 分前後を基本とする。なお課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	国際関係論とは	ガイダンス、国際政治学の起源
第 2 回	国際システムの歴史的成り立ち I	主権国家の拡大、第一次・第二次大戦、冷戦と熱戦
第 3 回	国際システムの歴史的成り立ち II	脱植民地化と民族紛争、グローバルリゼーション、冷戦の終結
第 4 回	伝統的国際政治学の視点 I	リアリズム：古典的リアリズム、ネオリアリズム
第 5 回	伝統的国際政治学の視点 II	リベラリズム：国際制度と国際協調、コンストラクティヴィズム：規範
第 6 回	なぜ戦争は起こるのか I	データで見る戦争、交渉理論の導入（交渉の失敗としての戦争）
第 7 回	なぜ戦争は起こるのか II	第一次湾岸戦争、情報の非対称性
第 8 回	なぜ戦争は起こるのか III	イラク戦争、予防戦争論
第 9 回	戦争の持続期間、終結の仕方、戦後平和の持続期間	情報の非対称性、コミットメントの問題
第 10 回	国内政治と戦争 I	リーダーの生き残り戦争、観衆費用、結集効果、キューバ危機
第 11 回	国内政治と戦争 II	政治システムと政治的コスト、民主主義的平和論、陽動理論

第12回 同盟と戦争	他国間戦争への介入条件、同盟の効果（シグナリング、コミットメント）
第13回 国際機関	国際連盟と国際連合、集団安全保障体制、集合行為問題
第14回 復習	学期全体のまとめ

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講学生は、講義ごとに授業で用いたスライド・資料に基づき復習することが望ましいです。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

多湖淳（2020）『戦争とは何か 国際政治学の挑戦』中央公論新社（中央公論新書 2574）。定価 880 円（本体 800 円）ISBN978-4-12-102574-6。

#### 【参考書】

Kydd, Andrew H. (2015). *International Relations Theory: the Game-Theoretic Approach*. Cambridge: Cambridge University Press.

砂原庸介・稗田健志・多湖淳（2015）『政治学の第一歩（有斐閣ストゥディア）』有斐閣。定価 2,052 円（本体 1,900 円）ISBN 978-4-641-15025-6

鈴木基史・岡田章（2013）『国際紛争と強調のゲーム』有斐閣。定価 2,808 円（本体 2,600 円）ISBN 978-4-641-14904-5

浅古泰史（2018）『ゲーム理論で考える政治学 フォーマルモデル入門』有斐閣。定価 2,860 円（本体 2,600 円）ISBN978-4-641-14928-1

村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将（2015）『国際政治学をつかむ 新版』有斐閣。定価 2,376 円（本体 2,200 円）ISBN 978-4-641-17722-2

山本吉宣・河野勝（2005）『アクセス安全保障論』日本経済評論社。定価 3,024 円（本体 2,800）ISBN 978-4-8188-1720-3

#### 【成績評価の方法と基準】

本授業の評価は、二回のレポート試験で行う。授業期間中に複数のレポートテーマが提示され、学生はそのうちの二つのテーマを選択する。詳細は初回授業で説明する。二回のレポートを提出した学生のみが成績評価の対象となる。なお、提出されたレポートはすべて剽窃チェックソフトにかけ、他受講生のレポートとの類似性、オンライン情報などの盗用がないかチェックする。適切な引用を用いない引用など剽窃行為が確認された場合には、該当のレポートだけではなく、提出されたすべてのレポートの点数が 0 となる。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

#### 【学生が準備すべき機器他】

本講義はオンデマンド授業で行うため、動画、講義資料を視聴・確認できるデバイス（携帯、タブレット、PC など）、オンライン環境が必要となる。

#### 【その他の重要事項】

オフィスアワーの時間は適宜学習支援システムを通じて連絡する。

#### 【Outline and objectives】

This course introduces the essence of the theory of international relations. The Spring semester course pays particular attention to security studies. We first review traditional theories of international relations such as realism and liberalism, and critically analyze how those theories explain war and peace. After discussing the pros and cons of those theories, we next introduce the bargaining theory of war. To be specific, we address the following questions: regardless of the fact that war is ex-post inefficient in that it causes huge economic and human costs, why might war still occur? In addressing this question, we illustrate the three essential concepts: asymmetric information (private information), commitment problem, and issue divisibility. We elaborate on those concepts through actual cases such as the Gulf war and the Iraq war. At the completion of this course, students will have: (1) the understanding of not just the basic nature of international politics but also varieties of theory explaining interactions between states, (2) the analytical thinking skills to not just apply relevant theories to the actual cases and generate plausible policy implication to deal with its problem, but also find out the pitfalls of the existing theories.

POL200CA
<b>国際関係論 B</b>
<b>富永 靖敬</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際関係論の導入レベルの授業であり、主に非国家主体を中心とした非伝統的安全保障問題について幅広く学習する。国際関係論 A では、主に国家間関係に起因する安全保障問題を対象としたが、国際関係論 B では、内戦やテロリズム、国際犯罪といった国家内で発生する戦争、あるいは越境的な国際犯罪を対象とする。学生は、事例や様々なモデルを用いながら、現代の国際問題を理解する上で不可欠な基礎知識を学ぶとともに、論理的・分析的な考え方を身に付けることを目的とする。

#### 【到達目標】

1. 国際関係を理解する上で不可欠な基礎概念、用語を理解し習得すること。
2. 国家間関係の諸問題について、論理的・分析的に考える力を身につけること。
3. 日本や世界の諸地域を比較し関連づけて考察することを通して、現代社会が直面する政治的課題について、その原因・メカニズムを主体的に考察し、公正に判断できる力を養うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

本講義は経済学部授業方針に従い、オンデマンド授業とする。オンデマンド授業は、コンテンツ（動画）配信を中心とし、曜日時間・教室の配置をせずに実施するものである。本講義では、講義資料・講義動画での授業を基本としたうえで、適宜オフィスアワーでの質疑応答を行うことで授業内容の理解を促す。講義動画、講義資料は学習支援システム（また Google Drive でのファイル共有）を通じて配信する。また、教員との質疑応答は Zoom を用いて行う。講義動画は 1 本 60 分前後を基本とする。なお課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンス、国際関係論 A の復習
第2回	紛争と強調	国内政治過程と国際関係
第3回	内戦をめぐる様々な議論	(1) 内戦とは何か：統計資料でみる内戦 (2) どこで起こっているのか (3) 誰が当事者なのか (誰が参加するのか)
第4回	内戦の原因論	(1) 反政府勢力のタイプ (2) 政府のタイプ (3) 情報の非対称性とコミットメント問題
第5回	内戦の持続性と終結	(1) 情報の非対称性とコミットメント問題 (2) 国際仲介と成熟理論
第6回	内戦の再戦と PKO	(1) 絶対戦争と限定的戦争 (2) PKO とは何か：統計資料でみる PKO
第7回	PKO の効果	(1) 国連 PKO の形成・発展 (2) コミットメント問題 (3) 実証分析とセレクション・バイアス
第8回	テロリズムとは	(1) テロリズムとは何か：統計資料でみるテロ、(2) テロの歴史的発展
第9回	テロリズムのメカニズム	(1) 交渉の失敗としてのテロリズム (2) テロリストの戦略

第10回	テロリズムと政治体制	(1) 政治体制：民主主義と権威主義 (2) 報道の自由とテロリズム
第11回	対テロ戦略	(1) 軍事的アプローチ (2) 法的アプローチ (3) 対テロ戦略の効果測定と実証分析
第12回	国際規範	(1) 人権規定 (2) 国家による人権の蹂躪 (3) 人権をめぐる国際合意国際規範の生成と伝播 (4) 非国家主体の影響
第13回	貧困と開発	(1) 資源の呪い（統計資料でみる天然資源）(2) 国連の持続可能な開発
第14回	復習と試験	講義全体を概観した後、試験を行う

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講学生は、講義ごとに授業で用いたスライド・資料に基づき復習することが望ましいです。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

多湖淳（2020）『戦争とは何か 国際政治学の挑戦』中央公論新社。定価 880 円（本体 800 円）ISBN978-4-12-102574-6

#### 【参考書】

東大作（2020）『内戦と和平 現代戦争をどう終わらせるか』中央公論新社。定価 968 円（本体 880 円）ISBN978-4-12-102576-0

Kydd, Andrew H. (2015). *International Relations Theory: the Game-Theoretic Approach*. Cambridge: Cambridge University Press.

山本吉宣・河野勝（2005）『アクセス安全保障論』日本経済評論社。定価 3,024 円（本体 2,800）ISBN 978-4-8188-1720-3

#### 【成績評価の方法と基準】

本授業の評価は、二回のレポート試験で行う。授業期間中に複数のレポートテーマが提示され、学生はそのうちの二つのテーマを選択する。詳細は初回授業で説明する。二回のレポートを提出した学生のみが成績評価の対象となる。なお、提出されたレポートはすべて剽窃チェックソフトにかけ、他受講生のレポートとの類似性、オンライン情報などの盗用がないかチェックする。適切な引用を用いない引用など剽窃行為が確認された場合には、該当のレポートだけではなく、提出されたすべてのレポートの点数が0となる。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

#### 【学生が準備すべき機器他】

本講義はオンデマンド授業で行うため、動画、講義資料を視聴・確認できるデバイス（携帯、タブレット、PCなど）、オンライン環境が必要となる。

#### 【その他の重要事項】

オフィスアワーの時間は適宜学習支援システムで連絡する。

#### 【Outline and objectives】

This course introduces the other topics of international relations that are not covered in the Spring semester. While the International Relations A covers the theories particularly focusing on war and peace between sovereign states, so-called, traditional security issues, this course largely focuses on "non-traditional security issues". Topics, particularly, include civil wars, terrorism, and transnational organized crimes. In common with the Spring semester, the course pays particular attention to the causal mechanism and we illustrate those theories through the actual cases in history as many as possible. At the completion of this course, students will have: (1) the understanding of not just basic nature of international politics but also varieties of theory explaining interactions between states and non-state actors, (2) the analytical thinking skills to not just apply relevant theories to the actual cases and generate plausible policy implication to deal with its problem, but also find out the pitfalls of the existing theories.

CUA200CA

## 経済人類学 A

河野 正治

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界各地のローカルな社会において人々がいかにか財やサービスをやり取りしているのかを紹介しながら、「経済とは何か」という大きな問いを人類学的な視点から考察する。経済人類学 A では、生業経済における人の暮らしや生き方、ならびに経済人類学の基礎概念を実例の中で解説する授業を行う。

#### 【到達目標】

1) 経済人類学の基礎知識を身につける。2) 経済人類学の視点とアプローチを自分で説明できる。3) 私たちにはあまり馴染みのない経済のあり方を学ぶことを通して、人の暮らしや生き方の多様性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

講義形式。各回のレジュメを授業支援システムに事前掲載するので、必ずダウンロードやプリントアウトをして授業に臨むこと。授業当日にはパワーポイントを用いて講義を行う。毎回の授業の最後にリアクションペーパーを課し、翌週の授業時にフィードバックを行う。また、講義形式による教員の解説を基本としつつ、思考力を伸ばしてもらうためにディスカッションの場を設けることもある。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	人類学者の仕事	フィールドワークを通じた差異の発見
第2回	贈与と再分配の世界①	経済人類学の入り口を垣間見る
第3回	贈与と再分配の世界②	ミクロネシアの儀礼経済
第4回	贈与から考える所有と循環①	贈与の3つの義務
第5回	贈与から考える所有と循環②	身近な贈与を考える
第6回	贈与から考える所有と循環③	互酬性の類型学
第7回	贈与から考える人とモノ	譲渡不可能性という概念について
第8回	贈与を通じた理論の再考①	ニューギニア高地のモカ儀礼
第9回	贈与を通じた理論の再考②	普遍と特殊の関係性
第10回	交換の類型学①	互酬、再分配、市場
第11回	交換の類型学②	負債という概念について
第12回	贈与と再分配のもつれあい①	ミクロネシアにおける名誉と威信のエコノミー
第13回	贈与と再分配のもつれあい②	ミクロネシアにみる祭宴と共同性
第14回	社会に埋め込まれた経済	経済人類学の視点と可能性

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義や配布資料のなかで取り上げられる専門用語や個別社会について自らの手で調べることで理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、毎回の講義でオリジナルなレジュメを用意する。

#### 【参考書】

授業内で文献を紹介するので、一冊でも多くの書籍を手にとってほしい。

#### 【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70%）に加え、毎回の授業で取り組んでもらう小課題（30%）をもとに評価する。担当教員の講義内容を表面的になぞったレポートではなく、自分自身の頭で思考した形跡のあるレポートを高く評価したいと考えている

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

#### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを多用するので、授業開始時には仮登録を行うこと。学習支援システムで配布する授業資料を毎回ダウンロードやプリントアウトをしておくこと。

## 【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to consider the question "what is economy" from an anthropological perspective, examining how people produce and exchange goods and services in various local societies. In Economic Anthropology A, students will learn the way of life in subsistent societies and the basic terms and concepts.

CUA200CA
<b>経済人類学 B</b>
<b>河野 正治</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界各地のローカルな社会において人々がいかに財やサービスをやり取りしているのかを紹介しながら、「経済とは何か」という大きな問いを人類学的な視点から考察する。経済人類学 B では、前半は経済事象の歴史的な展開を考察する授業を行い、後半には現代の事象に経済人類学の視角の応用を図る。

## 【到達目標】

1) 経済人類学のやや難度の高い知識を身につける。2) 経済人類学の視点とアプローチを自分で説明できる。3) 経済人類学の概念を用いて過去の社会事象や現代の社会事象を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

## 【授業の進め方と方法】

講義形式。各回のレジュメを授業支援システムに事前掲載するので、必ずダウンロードやプリントアウトをして授業に臨むこと。授業当日にはパワーポイントを用いて講義を行う。毎回の授業の最後にリアクションペーパーを課し、翌週の授業時にフィードバックを行う。また、講義形式による教員の解説を基本としつつ、思考力を伸ばしてもらうためにディスカッションの場を設けることもある。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	経済人類学の新たな展開	市場と非市場の二分法を超えて
第 2 回	贈与の歴史学①	中世日本の贈答儀礼と非ポトラッチ社会
第 3 回	贈与の歴史学②	中世日本にみる贈与と商業
第 4 回	負債の人類学①	負債と貨幣の起源
第 5 回	負債の人類学②	負債をめぐるモラルの転倒過程
第 6 回	貨幣と贈与交換①	経済取引の短期秩序と長期秩序
第 7 回	貨幣と贈与交換②	貨幣の意味を変える方法
第 8 回	貨幣と贈与交換③	贈与としての現金集め
第 9 回	国境を越える贈与①	海外送金を読み替える人々
第 10 回	国境を越える贈与②	トランスナショナルなコミュニティと互酬性
第 11 回	経済人類学からみる善意①	臓器移植と「愛の経済」
第 12 回	経済人類学からみる善意②	純粋贈与としてのボランティア
第 13 回	経済人類学からみる善意③	今日的な歓待の想像力と実践知
第 14 回	経済人類学の応用	経済人類学の視角と現代社会

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義や配布資料のなかで取り上げられる専門用語や個別社会について自らの手で調べること、当該主題についてさらなる理解を獲得する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、毎回の講義でオリジナルなレジュメを用意する。

## 【参考書】

授業内で文献を紹介するので、一冊でも多くの書籍を手にとってほしい。

## 【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70%）に加え、毎回の授業で取り組んでもらうリアクションペーパー（30%）をもとに評価する。担当教員の講義内容を表面的になぞったレポートではなく、自分自身の頭で思考した形跡のあるレポートを高く評価したいと考えている。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを多用するので、必要な場合は仮登録を行うこと。学習支援システムを通じて配布する授業資料については、毎回ダウンロードやプリントアウトしておくこと。

## 【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to consider the question "what is economy" from an anthropological perspective, examining how people produce and exchange goods and services in various local societies. In Economic Anthropology B, economic phenomena of pre-modern societies will be analyzed, while modern economy will be analyzed in the perspective of Economic Anthropology.

LANe200CA

## Academic Research Seminar A

飯野 厚

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

量的または質的リサーチ型英語論文を書くためのノウハウを学び実践する。先行研究の探索と研究計画の立案、実施、結果の集約と考察から成る本格的な論文執筆を行う。今学期は、文献研究、研究課題の設定・リサーチプロポーザルの執筆、Introduction, Literature review, Method までを執筆する。

## 【到達目標】

The students will be able to write a research paper in English principally in the field of English language teaching (learning) or cross-cultural communication, learning how to write a paper.

受講者は、英語論文の書き方を学びながら、英語教育（学習）、異文化間コミュニケーションなどをテーマとした研究論文を英語で執筆できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

This course is based on explanations and practices of writing a research paper with individual consultation. Individual feedback will be provided.

(1) Choose a research theme, search the related literature and create research questions.

(2) Learn the organization of a research paper and write a research proposal

(3) Collect data, and summarize them for analysis

\* The instructor will give feedback face to face or through documents in each of the steps above.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	What is research?	Overview of the works done by former students
2	How to write comprehensible English 1	IMRAD construction, Start searching the topic of your research
3	Briefing of research proposal and finding previous research	Hosei Library Guidance, Making review sheet in Excel as a review format
4	How to write comprehensible English 2+Create research questions	Compile the previous research: list up the findings of studies and categorize them
5	How to write comprehensible English 3+ Write a research proposal in Japanese	Background, What is to be known, Expected results and tentative conclusion
6	How to write comprehensible English 4 +Make a title and write an abstract	Make sure if the proposed plan works
7	How to write a paragraph+ Write Introduction	Explanation of topical issue and your motivation

8	Write Introduction	Definition of the terminology and brief introduction of previous research
9	Write Introduction	Research issue and the goal of your research
10	Write Literature review	Introducing primary literature and critique
11	Write Research Question(s) and hypotheses	Squeeze the questions and hypotheses based on literature review
12	Write Method	Participants, materials, and procedure
13	Write hypothetical Results	How to summarize the collected information How to make tables and figures, appendices
14	Write hypothetical Discussion	How to write discussion part, referring the previous research

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

**Keep on reading and writing:** 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

『経済学・経営学のための英語論文の書き方』中央経済社（2020）

**【参考書】**

『英語科学論文の書き方— IMRaD でわかる科学論文の構造』中山書店

『英語研究論文の書き方』ミネルヴァ書房（2012）

『APA 論文作成マニュアル 第2版』医学書院（2011）[邦訳版]

**【成績評価の方法と基準】**

40% In-class participation in activities

60% Documents submitted

**【学生の意見等からの気づき】**

Pay special attention to students' needs and maintain frequent enough communication with individuals during the courses.

**【その他の重要事項】**

Students should know what is "paragraph writing" and have experience in practicing paragraph writing.

**【Outline and objectives】**

This course aims to understand organization of a research paper and procedure to put research into practice. The students will create a research proposal including a plan of data collection, compilation of results and analyses of them. They will actually write the parts of Introduction, Literature review, and Method.

LANe200CA
Academic Research Seminar B
飯野 厚
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

春学期中に作成した研究提案と収集したデータにもとづいて、本格的に英語論文を執筆する。Introduction, Literature review, Method に続けて Results (Analysis), Discussion, Conclusion, References までを執筆し完成する。

**【到達目標】**

Through the course, the students will be able to write a research paper based on the collected data in the previous semester.

本コースを通して受講者は春学期に分析したデータに基づいて、考察や結論を加え研究論文を英語で執筆する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

(1) Briefing the organization of a paper

(2) Write each section of a paper particularly Results and Discussion parts

(3) Give feedback individually and share common mistakes in class

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Orientation	Organization of a research paper: IMRAD
2	Introduction	Specification of study field, backgrounds and issues, definition of terms
3	Revising Introduction	Briefing previous research, significance of the study and its purpose
4	Revising Review of literature	How to cite previous studies
5	Revising Organized review of literature	How to connect with research questions
6	Revising Method 1	Participants, materials, and procedure to collect data
7	Revising Method 2	Description of data analysis
8	Results 1:	Quantitative data summary: How to make Tables and Figures, Utilizing simple statistics
9	Results 2:	Qualitative data summary: categorization, excerpts, appendices
10	Discussion:	Restatement of the purpose and contrasting with previous studies
11	Implication and Conclusion	Summarizing the study and the results, limitation, further research
12	References	How to write in APA style
13	Appendix, Notes	Materials and data tables
14	Oral presentation of finalized work	Feedback provided to individual students

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Keep on writing：本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

『経済学・経営学のための英語論文の書き方』中央経済社

**【参考書】**

『英語科学論文の書き方— IMRaD でわかる科学論文の構造』中山書店

『英語研究論文の書き方』ミネルヴァ書房 (2012)

『APA 論文作成マニュアル 第 2 版』医学書院 (2011)[邦訳版]

**【成績評価の方法と基準】**

20% In-class activities

80% Documents submitted

**【学生の意見等からの気づき】**

Pay special attention to students' needs and maintain frequent enough communication with individuals during the courses

**【その他の重要事項】**

秋学期から履修する人は、日本語による完成に近い研究論文（分野、課題自由）または前期シラバスの最終段階（Method まで）に匹敵する英語論文のを 2 週目までに準備できることが条件です。

**【Outline and objectives】**

This course aims to write a paper in English based on the research proposal created in the spring semester. Following the previous semester, the students will revise Introduction, Literature review, and Method. They then complete their paper by writing Results, Discussion, Conclusion and References.

LANe200CA
Academic Research Seminar A
山崎 達朗
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

時事的な話題を通して英語の実用的総合力を高める（英検 2 級以上の能力で、課題を定期的にこなせる学生に適する）。英語を聴き、読み、考えを表現する力も養う。

**【到達目標】**

時事的なテキストで聴解力を中心に行うがニュース内容の包括的把握ができ、メディア英語の構成を理解し語彙力を養うことができる。また、新聞記事やビジネス文書の読解も行い、短時間にポイントを理解する力が養える。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

毎週の課題を要求する。必ず聴解を行い理解度チェックの設問に答える。その解答解説をし、更に書き取りや英作文も行う。Discussion Qs では、自分の考えを英語でまとめる。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	授業概説	*授業内容・評価方法の概略説明, 問題演習
2	問題演習 1	*U1 MAKING WAVES ("Before You Watch"- "Understand the News")
3	問題演習 2	*U1 ("Review & Discussion Questions") *資格試験演習 (TOEIC 等)
4	問題演習 3	*U2 BACKSTAGE TOUR "Watch the News" *新聞記事読解
5	問題演習 4	*U2 ("Review & DQs") *資格試験
6	問題演習 5	*U3 DRINKING TO EAT("Watch the News") *新聞記事
7	問題演習 6	*U3("Review & DQs") *資格試験
8	問題演習 7	*U4 NEXT GENERATION ("Watch the News") *新聞記事
9	問題演習 8	*U4("Review & DQs") *資格試験
10	問題演習 9	*U5 ECO-FRIENDLY FASHION ("Watch the News") *新聞記事
11	問題演習 10	*U5 ("Review & DQs") *資格試験
12	問題演習 11	*U6 BUILDING A BRIDGE ("Watch the News") *新聞記事
13	問題演習 12	*U6 ("Review & DQs") *資格試験
14	問題演習 13	*試験 (応用問題) と解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

テキストの課題・予習・復習（毎週計 4 時間）

**【テキスト（教科書）】**

NHK NEWSLINE 4 (金星堂), 2021 年発行。類似名教科書に注意。

**【参考書】**

VOA, ELLLO のウェブサイト, NHK 英語講座。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（課題実践・小テスト）70%。定期テスト 30%。

**【学生の意見等からの気づき】**

毎週課題提出を要求し、講評の上各自に返却する。場合によっては再提出。

**【Outline and objectives】**

Students applying for this English course are required to be at the high intermediate to advanced level of English. Students will enhance their English listening comprehension abilities through watching news reports. Students will also be required to submit short English essays on current topics related to Japanese society, culture and events.

LANe200CA
Academic Research Seminar B
山崎 達朗
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

時事的な話題を通して、英語の実用的総合力を高める（英検 2 級以上の能力で課題を定期的にこなせる学生に適する）。英語で聴き、読み、考えを表現する力も養う。

#### 【到達目標】

時事的なテキストで聴解力を中心に行うが、ニュース内容の包括的把握ができ、メディア英語の構成を理解し語彙力を養うことができる。また、新聞記事やビジネス文書の読解も行い、短時間にポイントを理解する力が養える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

毎週課題提出を要求する。必ず聴解を行い、理解度チェックの設問に答える。その解答解説をし、更に書き取りや英作文も行う。Discussion Qs では自分の考えを英語で記述する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業概説	*授業内容の説明 *U7 TAKING AIM ("Before You Watch")
2	問題演習 1	*U7("Review & Discussion Questions") *資格試験 (TOEIC 等)
3	問題演習 2	*U8 BOCCIA BOOM ("Watch the News") *新聞記事読解
4	問題演習 3	*U8("Review & DQs") *資格試験
5	問題演習 4	*U9 RISING PROFILE ("Watch the News") *新聞記事
6	問題演習 5	*U9 ("Review & DQs") *資格試験
7	問題演習 6	*U10 ALL BLACKS ("Watch the News") *新聞記事
8	問題演習 7	*U10 ("Review & DQs") *資格試験
9	問題演習 8	*U11 MAN-MADE THREAT ("Watch the News") *新聞記事
10	問題演習 9	*U11 ("Review & DQs") *資格試験
11	問題演習 10	*U12 HOME APPLIANCE ("Watch the News") *新聞記事
12	問題演習 11	*U12 ("Review & DQs") *資格試験
13	問題演習 12	*U13 HOSPITALS ("Watch the News") *新聞記事
14	問題演習 13	*試験 (応用問題) と解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの課題・予習・復習（毎週計 4 時間）

#### 【テキスト（教科書）】

NHK NEWSLINE 4（金星堂）、2021 年発行。類似名教科書に注意。

#### 【参考書】

VOA, ELLLO のウェブサイト、NHK 英語講座。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点（課題実践・小テスト）70 %。定期テスト 30 %。

#### 【学生の意見等からの気づき】

毎週の課題提出を要求し、講評の上各自に返却する。場合によっては再提出。

#### 【Outline and objectives】

Students applying for this English course are required to be at the high intermediate to advanced level of English. Students will enhance their English listening comprehension abilities through watching news reports. Students will also be required to submit English essays on current topics related to Japanese society, culture and events.

LANe200CA
Academic Research Seminar A
寺内 正典
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第 2 言語習得 (SLA) としての英語学習に関する洋書の専門書を活用して、発展的な英語リーディング能力（読解力、分析力、メタ認知力）と英語コミュニケーション能力（特に英語プレゼンテーション能力）を中心とする総合的英語力の育成を目指す。

#### 【到達目標】

(1) 英語論説文のパラグラフの構成型・パラグラフの展開型の基礎に習熟するとともに英語の論説文や論文などの概要を捉え、内容を批判的に検討する能力を習得する。

(2) 様々なトピックに関して自分の意見を説得力を持って英語で論理的にプレゼンできる能力を段階的に習得する。

(3) 自分で課題を設定し、解決すべき問題を探求し、客観的な分析に基づき、主観的な批判ではなく、持続可能性のある代案を提案する力を習得する。

(4) 2 年生は TOEIC700 点、3 年生は TOEIC800 点を到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

(1) 参加者は担当箇所を予習し、特にパラグラフ構成型・展開型を正確に捉え、パラグラフ構成に基づき英文の要約を作成する。

(2) 参加者はグループあるいはペアごとに自分たちの発表課題を選択し、課題を要約し、関連する先行研究を調べた情報を加え、レジュメを作成し、英語で発表する。

(3) 発表内容に関する問題を参加者が全員で英語で議論する。

(4) 教員が発表内容、及び関連する議論を踏まえ、補足事項を解説し、改善点に関するコメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	授業方法の説明・自己紹介	(1) 授業の目的、授業の方法、評価方法、研究課題、テストなどの説明を行う。
2	英会話上達法のビデオ視聴と議論	第 2 言語習得の視点から「英会話上達法」のビデオの内容を検討する。
3	認知から見た言語習得	第 2 言語習得に関する認知的なアプローチを検討する。
4	脳と言語習得	第 2 言語習得に関する脳科学的なアプローチの成果を検討する。
5	社会言語学的視点による第二言語習得	第 2 言語習得に関する社会言語学的アプローチの研究結果を検討する。
6	バイリンガルの言語習得	第 2 言語習得におけるバイリンガリズムの抱える諸問題を検討する。
7	教室第二言語習得研究	第 2 言語習得研究と外国語教育の関連性を検討する。
8	外国語教育	語彙の習得の諸問題と研究成果を考察する。
9	リスニング	リスニングの習得の諸問題と研究成果を考察する。
10	スピーキング	スピーキングの習得の諸問題と研究成果を考察する。

11	リーディング	リーディングの習得の諸問題と研究成果を考察する。
12	ライティング	ライティングの習得に関する諸問題と研究成果を考察する。
13	早期英語教育と小学校英語教育	早期英語教育に関して諸外国の運用状況や制度の差異を比較・検討する。
14	言語テストと評価	言語テストと評価に関して望ましいテスト作成のあり方を考察し、実際にテストを作成する。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

- (1) テキストの予習は必須である。
- (2) 発表者が発表のハンドアウトを準備し、発表し、参加者と問題点に関して議論する。
- (3) 研究課題に関して研究レポートを完成させる。
- (4) 本授業の1コマあたりの準備学習・復習時間は、各2時間、計4時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

- (1) Second Language Acquisition (1998)(OUP) Rod Ellis
- (2) Phoenix from the Flames(2015) (National Geographic Learning) Masanori Terauchi, et al.
- (3) 『英文法難問 500』寺内正典 編 (2016) (秀和システム)

**【参考書】**

- (1) 『言語科学の百科事典』(2006) (丸善) 鈴木良次, 島山雄二, 岡ノ谷一夫, 萩野綱男, 金子敬一, 寺内正典, 藤巻則夫, 森山卓郎編著
- (2) 『第二言語習得研究の現在』(2004) (大修館書店) 小池生夫, 寺内正典, 木下耕児, 成田真澄 編著

**【成績評価の方法と基準】**

- (1) 「研究発表」[40 %]
- (2) 「レポート A4 版」：40 行×40 字×3 枚×最低3回 [30 %]
- (3) 「テスト」[30 %]

**【学生の意見等からの気づき】**

受講者個々の英語力の差異とニーズを十分に考慮しながら、授業内容に関する RPDCA 的な考察を踏まえ、授業内容を常に改善していく視点が重要であることを再認識した。

**【学生が準備すべき機器他】**

発表を行う場合や実証的研究に関する統計的手法を学ぶ際に貸与パソコンの持参などが必要になる。  
貸与パソコン, 貸与タブレット「学習支援システム」などの活用が必要な状況が生じた場合は、その旨お知らせいたします。また、使用上の留意点なども合わせてお知らせします。

**【その他の重要事項】**

発表の担当ではない場合も、最低限の授業準備をきちんとすることが望まれる。  
春学期、秋学期を合わせての履修を推奨します。

**【Outline and objectives】**

In this course, the students will acquire higher cognitive level of reading abilities and communicative language abilities mainly based on integrative learning of four skills by using the English books regarding Second Language Acquisition.

LANe200CA
Academic Research Seminar B
寺内 正典
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

学習者自身の英語の習得を効率的に高めるに役立つ第2言語習得論に関する知識を習得し、それらの理解や方法論に基づき、より高度で発展的な英語コミュニケーション能力を育成する。

**【到達目標】**

学習者個々人が各自、英語の到達目標を決め、それらの目標の達成を目指して課題解決学習を行う。英語の専門書から得た知識を踏まえ、英語学習や第2言語習得に関する諸問題を批判的に検討し、発展的に英語で議論する能力を育成する。各自が選択した課題に関して最適な統計的処理に基づく実証的研究法の基礎を習得する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

- (1) 参加者は、グループごとに自分たちの発表課題を選択し、課題を理解、要約し、自分たちで調べた関連情報を加え、レジュメを作成し、英語でグループ発表を行う。次に発表内容や発表方法の是非、及び妥当性に関して参加者全員で議論し、改善策を考察する。
- (2) 参加者は担当箇所を予習し、発表する。担当箇所に関してパラグラフ構成型・展開型を正確に捉え、英文を作成し、発表する。
- (3) 発表内容、及び関連する議論を踏まえ、教員が補足事項を解説し、改善に関するコメントを行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

あり / Yes

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	授業方法の説明・自己紹介	授業方法、予習方法、発表方法、課題、学習法などの説明を行う。
2	異文化理解に関するビデオ視聴と議論	異文化間コミュニケーションに関するビデオを視聴して問題点を議論する。
3	第2言語習得に関する実証的研究の方法 (1)	第2言語習得研究の主要な研究方法の概要を理解する。
4	第2言語習得に関する実証的研究の方法 (2)	アンケート調査方法の基礎を理解する。
5	第2言語習得に関する実証的研究の方法 (3)	データ収集の方法の基礎を理解する。
6	第2言語習得に関する実証的研究の方法 (4)	統計処理の方法 (t 検定, 分散分析) の基礎を理解する。
7	文処理研究 (a)	文処理研究の基礎を理解する。
8	文処理研究 (b)	文処理研究に関する諸問題を検討する。
9	談話処理研究 (a)	談話処理研究の基礎を理解する。
10	談話処理研究 (b)	文処理研究と談話処理研究の関連性を検討する。
11	心理言語学 (a)	心理言語学における第2言語処理のメカニズムを検討する。
12	心理言語学 (b)	言語処理研究のプロセスとストラテジーを検討する。
13	早期英語教育 (a)	諸外国の早期英語教育の運用の実態、及び成果を検討する。
14	早期英語教育 (b)	日本における早期英語教育の諸問題を検討する。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

- (1) 研究論文や専門書の該当の章を読み、ハンドアウトにまとめる。
- (2) 参加者は原書の該当箇所を毎回予習する。
- (3) 課題に関して個人あるいはグループごとにハンドアウトとプレゼン資料を作成する。
- (4) 『英文法難問 500』を課題学習し、習得する。
- (5) 『Advanced1100』を課題自習し、習得する。
- (6) 本授業の1コマあたりの準備のための予習・復習時間は各2時間、計4時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

- (1) Second Language Acquisition. (1998)(OUP) Ellis, Rod
- (2) Phoenix from the Flames. (2015)(National Geographical Learning) Masanori, Terauchi, et al.
- (3) 『英文法難問 500』寺内正典 (2016 (秀和システム))
- (4) 『速読・速聴 Advanced1100』松本茂監修 (z会)

**【参考書】**

- (1) 『第二言語習得研究の現在』(2004)(大修館書店) 小池生夫、寺内正典、木下耕児、成田真澄 編著
- (2) 『言語科学の百著科事典』(2006)(丸善) 鈴木良次、畠山雄二、岡ノ谷一夫、萩野綱男、金子敬一、寺内正典、藤巻則夫、森山卓郎 編著
- (3) 『英語教育学の実証的研究入門』(2013) 寺内正典、中谷安男編著 (研究社)

**【成績評価の方法と基準】**

- (1) 「研究発表」[40%] (2) 「レポート A4 版」：40行×40字×3枚×3回 [30%] (3) 「テスト」[30%]

**【学生の意見等からの気づき】**

学習者個々の学習者要因に応じて英語力を向上させていくためには、学習者個々の英語力、適性、ニーズを的確に理解するとともに授業における発問形式の種類を適宜変えていくことの重要性を再認識している。

**【学生が準備すべき機器他】**

研究発表を行う場合や実証的研究に関する統計的手法を学ぶ際に貸与パソコンの持参が必要になる。貸与パソコン、貸与タブレット「学習支援システム」などの活用が必要な状況が生じた場合は、その旨お知らせいたします。また、使用上の留意点なども合わせてお知らせします。

**【その他の重要事項】**

発表の担当ではない場合も、最低限の授業準備をきちんとすることが望まれる。

春学期、秋学期合わせての履修を奨励します。

**【Outline and objectives】**

In this course, the students will study and acquire research findings of second language acquisition theories which have a great contribution to effective and efficient acquisition of the students' advanced English language abilities.

LANd200CA

**ドイツ語セミナー A**

新田 誠吾

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業では、ドイツ語が使われている地域の暮らし、文化、人々の考え方を学びます。ドイツ語が少し苦手な人、文法が難しいと感じている人でも履修できます。ドイツ語を学んだ経験のある人なら、誰でも履修できます。

この授業から、ドイツ語圏の派遣留学生が多数出ています。

**【到達目標】**

1. ドイツ語圏の文化について、理解している。
2. 簡単なドイツ語を聞いて理解できる。
3. 簡単なドイツ語を読んで、内容がだまかに理解できる。
4. ドイツ語で簡単な用件を表現できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

Zoom によるオンライン授業をします。場合によっては、教室での対面授業に切り替えます。提出された課題やリアクションペーパー（授業の感想等）については、次の授業でフィードバックを行います。また復習テストを数回行い、間違えた問題を一緒に考えることも行って、理解を深めます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方と勉強方法について
第2回	旅行 (1)	「～へ」にあたる前置詞の使い分け
第3回	旅行 (2)	宿泊施設の表現
第4回	旅行 (3)	ドイツの労働と休暇
第5回	都市 (1)	現在完了で表現する
第6回	都市 (2)	道を探る
第7回	都市 (3)	交通手段
第8回	田舎暮らし (1)	都会の良い所、田舎の良い所
第9回	田舎暮らし (2)	ドイツと日本の「地方」の違い
第10回	ドイツの大学	進学率
第11回	スポーツと健康 (1)	スポーツ大国ドイツ
第12回	スポーツと健康 (2)	フィットネスと健康
第13回	天気	脱炭素社会のフロントランナーを突き進むドイツ
第14回	授業内試験と解説	筆記試験

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

藤原三枝子ほか (2019). スタート！2-コミュニケーション活動で学ぶドイツ語-。三修社

**【参考書】**

参考書は特に必要ありません。辞書は必要です。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（授業参加度、授業の課題、授業内テスト等）が40%、学期末試験が60%で、合計60%以上で単位を認定します。欠席が4分の1を超えた場合は、原則単位を認定しません。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生から高い満足の評価をいただきました。さらに改善を重ねていきます。

**【学生が準備すべき機器他】**

オンラインで資料や授業を受けることのできる PC などの機器、インターネットの通信環境が必要です。

**【その他の重要事項】**

ドイツ語を 1 年間以上履修した人が履修できます。他学部公開科目です。

**【Outline and objectives】**

In this class, you will learn about life, culture, and the way people think in the regions where German is spoken. The course is open to anyone who has some difficulty with German or with grammar. It is open to anyone who has studied German before.

Many students have been sent to German-speaking countries from this class.

LANd200CA
<b>ドイツ語セミナー B</b>
<b>新田 誠吾</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業では、ドイツ語が使われている地域の暮らし、文化、人々の考え方を学びます。ドイツ語が少し苦手な人、文法が難しいと感じている人でも履修できます。ドイツ語を学んだ経験のある人なら、誰でも履修できます。

この授業から、ドイツ語圏の派遣留学生が多数出ています。

**【到達目標】**

1. ドイツ語圏の文化について、理解している。
2. 簡単なドイツ語を聞いて理解できる。
3. 簡単なドイツ語を読んで、内容がだまかに理解できる。
4. ドイツ語で簡単な用件を表現できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

基本的に Zoom によるオンライン授業です。提出された課題やリアクションペーパー（授業の感想等）については、次の授業でフィードバックを行います。また復習テストを数回行い、間違えた問題を一緒に考えることも行って、理解を深めます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方と勉強方法について
第 2 回	学校と就職 (1)	職業選択
第 3 回	学校と就職 (2)	ドイツの教育制度
第 4 回	学校と就職 (3)	副文
第 5 回	サービス業 (1)	再帰動詞
第 6 回	サービス業 (2)	トラブル解決
第 7 回	サービス業 (3)	学生のバイト事情
第 8 回	お祝いをする (1)	お祭り
第 9 回	お祝いをする (2)	形容詞の活用
第 10 回	お祝いをする (3)	クリスマス
第 11 回	お祝いをする (4)	誕生日を祝う
第 12 回	ドイツの冬の行事	新年・カーニバル
第 13 回	総復習	秋学期のまとめ
第 14 回	試験と解説	筆記試験

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

藤原三枝子ほか (2019). スタート！ 2-コミュニケーション活動で学ぶドイツ語-. 三修社

**【参考書】**

参考書は特に必要ありません。ドイツ語 (a) の教科書と辞書は必要です。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（授業参加度、授業の課題、授業内テスト等）が 40%、学期末試験が 60%で、合計 60%以上で単位を認定します。欠席が 4 分の 1 を超えた場合は、原則単位を認定しません。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生から高い評価をいただきました。さらに改善を重ねていきます。

**【学生が準備すべき機器他】**

オンラインで資料や授業を受けることのできる PC などの機器、インターネットの通信環境が必要です。

## 【その他の重要事項】

ドイツ語を1年間以上履修した人が履修できます。他学部公開科目です。

## 【Outline and objectives】

In this class, you will learn about life, culture, and the way people think in the regions where German is spoken. The course is open to anyone who has some difficulty with German or with grammar. It is open to anyone who has studied German before.

Many students have been sent to German-speaking countries from this class.

LANf200CA
フランス語セミナー A
橋本 到
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語圏で生活を送る中で、フランス語で交わされる日常的な会話のやりとりはどのようなものか知り、また、その背景となる日常的な習慣・文化的背景への理解を深めながら、自ら発信する能力を向上させる。

## 【到達目標】

フランスの日常生活の多くの場面で、交わされる一般的な会話のかたちを知り、自らそれに対応して発信できるよう、場の判断や会話で即応する力、語彙・表現を運用する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

日常的な場面のやりとりを聴く、説明を加える、その上で、聴いて理解する、語彙を確認し、発音する、自ら発信する練習を行なう。以上を一サイクルとして一課につき、5 から 6 回繰り返す（対面授業を想定しているが、新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、計画を変更を余儀なくされることがある。その場合、学習支援システムを通じて連絡する）。授業中に習熟度の確認のため、家庭学習で取り組むよう指示した課題については翌週に、解説するとともに正答を示す。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
第 1 回	レストランでの会話-1	郷土料理、関連する文法の整理（複合過去の否定、目的補語人称代名詞）オーダー、味の説明、料理名
第 2 回	レストランでの会話-2	前回の復習、テーブルでの会話（衣服、プレゼントの選択、その理由）
第 3 回	レストランでの会話-3	前回の復習、テーブルでの会話（招待）、支払いと若干の表現。
第 4 回	交通機関と旅行-1	小テスト、若干の地理、関連する文法の整理（中性代名詞）乗車券の購入、旅程、所要時間の説明
第 5 回	交通機関と旅行-2	前回の復習、掲示板（乗車券、発着ホームなど）、聴解練習
第 6 回	交通機関と旅行-3	前回の復習、ホテルの予約、読解（自動改札機について）
第 7 回	体と健康-1	小テスト、語彙（体の部位、症状、医療関係）、関連する文法の整理（代名動詞の複合過去、単純未来）、健康に関する表現
第 8 回	体と健康-2	前回の復習、薬局での会話、体の不調を訴える。
第 9 回	体と健康-3	前回の復習、体の不調（聴解）、体の部位（語彙・復習）
第 10 回	ヴァカンス-1	小テスト、語彙（遠出、スポーツ）、関連する文法の整理（半過去、大過去）、過去の継続中の行為
第 11 回	ヴァカンス-2	前回の復習、自分のヴァカンスの説明、過去の習慣の言い方。
第 12 回	ヴァカンス-3	前回の復習、事前の情報取得。

- 第13回 全体のまとめ、進度の調整 小テスト、ここまでの学習内容の確認、全体のまとめ
- 第14回 映像資料視聴 まとめ講評とフランスの社会(移民系住民関連)について

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外で本授業にける準備・復習の時間は合計2時間を標準とする。

テキストの会話部分は前もって目を通しておく。授業でやった練習問題は後でもう一度見直すこと。不明な点があれば次週授業で質問するように。

そのほかに、インターネットを利用してフランスのニュース番組を見るなどしてフランスに関する情報や知識を得るようにする。

## 【テキスト（教科書）】

高橋百代他、『場面で学ぶフランス語2（改訂版）』、三修社

## 【参考書】

初級で使用したフランス語の教科書。

森本英夫ほか『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社

東京外語大 フランス語モジュール <http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/fr>

## 【成績評価の方法と基準】

三回の小テストの合計65%、レポート5%、平常点30%

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【その他の重要事項】

本授業の履修と並行して、語学検定資格の取得を奨める。受験の目安は、春期（6月）、秋期（11月）、4級以上。

## 【Outline and objectives】

This course aims to help students understand the daily expression of French more realistically. In addition, this course aims to give them an understanding of French daily habits and customs and cultural background, as well as to establish grammatical knowledge.

LANf200CA

## フランス語セミナーB

橋本 到

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語圏で生活を送る中で、フランス語で交わされる日常的な会話のやりとりはどのようなものか知り、また、その背景となる日常的な習慣・文化的背景への理解を深めながら、自ら発信する能力を向上させる。

## 【到達目標】

フランスの日常生活の多くの場面で、交わされる一般的な会話のあたりを知り、自らそれに対応して発信できるよう、場の判断や会話で即応する力、語彙・表現を運用する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

日常的な場面のやりとりを聴く、説明を加える、その上で、聴いて理解する、語彙を確認し、発音する、自ら発信する練習を行なう。以上を一サイクルとして一課につき、5から6回繰り返す（対面授業を想定しているが、新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、計画を変更を余儀なくされることがある。その場合、学習支援システムを通じて連絡する）。授業中に習熟度の確認のため、家庭学習で取り組むよう指示した課題については翌週に、解説するとともに正答を示す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	郵便局の利用、道順-1	郵便に関する語彙、関連する文法の整理（ジェロンディフ）、～に立ち寄る、ロケーション。
第2回	郵便局の利用、道順-2	前回の復習、ジェロンディフの練習、切手を買う
第3回	郵便局の利用、道順-3	前回の復習、荷物を送る、手紙の書き方
第4回	生活と環境（ごみ捨てなど）-1	小テスト、ゴミの種類に小テスト、関する語彙、関連する文法の整理（比較級、受動態）、部屋の説明、アナウンス
第5回	生活と環境（ごみ捨てなど）-2	前回の復習、交通と環境問題、ヴェリブ・オートリブ
第6回	生活と環境（ごみ捨てなど）-3	前回の復習、原子力発電、ゴミの分別、受動態の練習
第7回	家族の形-1	小テスト、家族形態の語彙、関連する文法の整理（指示代名詞、関係代名詞、強調構文）
第8回	家族の形-2	前回の復習、家族の紹介、関係代名詞・強調構文の練習、出生率の変遷-1
第9回	家族の形-3	前回の復習、出生率の変遷-2、パックス
第10回	週末の過ごし方-1	小テスト、関連する文法の整理（疑問代名詞、関係代名詞 <i>où</i> , <i>dont</i> ）、靴の買い方
第11回	週末の過ごし方-2	前回の復習、服を買う、外出の相談
第12回	週末の過ごし方-3	前回の復習、聴解、読解、レジャーの提案（作文）

- 第13回 全体のまとめ、進度の調整  
小テスト、ここまでの学習内容の確認、全体のまとめ
- 第14回 映像資料視聴  
まとめの講評、フランスの文化（ジャポニスム）について

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外で本授業にかける準備・復習の時間は合計2時間を標準とする。

テキストの会話部分は前もって目を通しておく。授業でやった練習問題は後でもう一度見直すこと。不明な点があれば次週授業で質問するように。

そのほかに、インターネットを利用してフランスのニュース番組を見るなどしてフランスに関する情報や知識を得るようにする。

#### 【テキスト（教科書）】

高橋百代他、『場面で学ぶフランス語2（改訂版）』、三修社

#### 【参考書】

初級で使用したフランス語の教科書。

森本英夫ほか『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社

東京外語大 フランス語モジュール <http://www.coelang.tufts.ac.jp/mt/fr>

#### 【成績評価の方法と基準】

三回の小テストの合計65%、レポート5%、平常点30%

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【学生が準備すべき機器他】

本授業の履修と並行して、語学検定資格の取得を奨める。受験の目安は、春期（6月）、秋期（11月）、4級以上。

#### 【その他の重要事項】

本授業の履修と並行して、語学検定資格の取得を奨める。受験の目安は、春期（6月）、秋期（11月）、4級以上。

#### 【Outline and objectives】

This course aims to help students understand the daily expression of French more realistically. In addition, this course aims to give them an understanding of French daily habits and customs and cultural background, as well as to establish grammatical knowledge.

LANr200CB
ロシア語セミナー A
佐藤 裕子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
※経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級ロシア語を履修した学生のためのクラスです。ロシア語基礎文法の習得を完成し、辞書を引く様々なテキストを読解・和訳できる。資格として履歴書に書けるロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指す。リスニングやリーディング力を養い、実際に使える会話力を身につける。ロシアに関する映画など視聴覚教材を通じロシア語力とロシアに関する知識を深める。

#### 【到達目標】

基礎文法を習得し、確実に自身のものとする。その文法を用いて、様々なテキストを辞書を引く訳せるようになる。ロシア語のリスニング（検定3級試験過去問など）や、テキストを早く美しく音読できること、ロシア語の実践会話の習得、語彙を増やし和訳や露訳の力を向上させる。毎年5月と10月に実施されるロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指す。（資格として履歴書に書けます。ロシア語資格は珍しいため面接時などに武器となります。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

経済・社会学部の合同授業のため、履修登録期間に授業形態の希望（対面、オンライン）についてのアンケートをとる。それにとりま授業計画の変更については、学習支援システムでも提示する。春学期はロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指し、基礎文法の習得を完成させ、対策過去問などを解く。また、生きたロシア語を身近なものとするために、CDやDVDでロシア語をリスニングし、美しい発音でのリーディング練習を行う。課題等に対するフィードバックは、授業内あるいは学習支援システム上で行う。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	基礎文法の復習	既習の教科書での基礎文法の復習
第2回	ロシア語能力検定試験対策（4級）1	発音、アクセント、名詞の性別と人称代名詞
第3回	ロシア語能力検定試験対策（4級）2	名詞の複数形、アクセントのついた文章の朗読（検定過去問）
第4回	ロシア語能力検定試験対策（4級、3級）1	動詞の変化（現在人称変化、過去形、未来形）
第5回	ロシア語能力検定試験対策（4級、3級）2	時制の副詞、疑問詞と返答、日常会話の中の命令形
第6回	自己紹介文の作成と実践会話	自己紹介（テキスト読解、作文、実践会話、暗唱）
第7回	ロシア語能力検定試験対策（4級、3級）3	格変化習得（名詞、形容詞、所有代名詞、指示代名詞）
第8回	ロシア語能力検定試験対策（4級、3級）4	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）
第9回	テキスト読解	テキスト読解（ロシアの市民生活やロシア民話など）
第10回	リスニングの練習	リスニングの練習（検定過去問、アニメーションや映画などの映像資料から）
第11回	ロシア語能力検定試験対策（3級）1	関係代名詞

- 第12回 ロシア語能力検定試験 数詞（数詞と名詞の変化）  
対策（3級）2
- 第13回 テキスト読解と視聴覚 テキスト読解と映像資料でのリス  
教材でのリスニング練 ニングの練習  
習
- 第14回 テキスト読解 テキスト読解、検定試験対策  
検定試験対策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ロシア語能力検定試験に向けて、教科書で基礎文法を復習し、過去問題と対策問題に取り組む。授業での配布テキストの和訳を試みる。NHK ロシア語講座（テレビとラジオ）やインターネットなどでロシアのニュースを聴くなど、日頃からロシア語に触れる。予習・復習時間は、毎回2時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは、適時プリントを配布します。  
露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995年、¥6291）が望ましい）

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970年、¥1404  
『大学のロシア語1』沼野恭子著、東京外国語大学出版会、2013年、¥3520

【成績評価の方法と基準】

対面授業、オンライン授業どちらでも試験ではなく、平常点（授業への参加度、予習復習などの学習への取り組み）50パーセント、課題（課題・宿題等の提出）50%で評価します。課題は、練習問題、和訳、露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などの音声も提出してもらい、その評価も加味する予定です。詳細は今後、授業支援システムでご確認ください。

【学生の意見等からの気づき】

ロシア語能力検定試験合格のための勉強時間を増やす。

【その他の重要事項】

ロシア語既習者が対象です。  
春学期・秋学期合わせての通年で受講が学力向上に効果的であり望ましいです。  
ロシア語能力検定試験を10月から翌年5月に受験し、合格を目指してください。  
なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進捗は変更される可能性があります。

【Outline and objectives】

This course is for students who finished basic Russian course. The aims of this course are: 1) to acquire basic Russian grammar rules; 2) to develop your ability to read and interpret various texts using a dictionary; 3) to pass the Russian language proficiency test (of Japan) at least level 3 and 4; 4) to acquire listening and reading skills along with conversation skills for everyday use. For enhancing our knowledge of the Russian language, we plan to use audiovisual materials such as movies on Russia.

LANr200CB
ロシア語セミナー B
佐藤 裕子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

10月のロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指す。試験後は中級文法を学習し、さらに幅広いジャンルのテキストを読解し、ロシアの歴史や文化への理解を深める。「読む、聴く、話す、書く」の四方向から、ロシア語力を伸ばしていく。実践的な会話力を身につける。

【到達目標】

10月のロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指す。（資格として履歴書に書ける。ロシア語資格は珍しいため面接などに武器になります。）

中級文法（副動詞と形動詞）を学習し、ニュースや歴史、文学作品などを読み解いていく。同時に語彙数も増やし、和文露訳のレベルアップをはかる。映像資料（映画やニュース等）によるリスニングや、美しい発音での速いリーディング、ロシア語の実践会話の上達も目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

秋学期の初めは10月開催のロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指し、基礎文法の総復習、対策過去問題を解く。試験終了後はより高度な文章の読解と和訳のために中級文法（副動詞や形動詞など）を学ぶ。ロシアについてより深く知るために、ロシアの文化や歴史関連テキスト、雑誌や新聞の記事、ロシア文学作品の文章読解にも挑戦する。映画やニュースのリスニング、実践的な会話の練習も行う。課題等に対するフィードバックは、授業内あるいは学習支援システムで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	文法の復習 検定試験対策1	動詞の時制と命令形、格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、指示代名詞）
第2回	文法の復習 検定試験対策2	形容詞・副詞の比較級、数詞
第3回	文法の復習 検定試験対策3	露文和訳、和文露訳（検定試験過去問、想定問題等）
第4回	中級文法（副動詞） テキスト読解	中級文法の学習（副動詞）とテキスト読解、検定試験対策
第5回	中級文法（能動形動詞） テキスト読解	中級文法の学習（能動形動詞）とテキスト読解、
第6回	中級文法（被動形動詞1） テキスト読解	中級文法の学習とテキスト読解（被動形動詞1）、会話練習
第7回	中級文法（被動形動詞2） テキスト読解	中級文法の学習とテキスト読解（被動形動詞2）、会話練習
第8回	ニュースのリスニング と和訳	テキスト読解（ロシアの新聞や雑誌）、映像資料（ニュース）のリスニング
第9回	テキスト読解と和文露訳1	テキスト読解（ロシアでの生活と文化、旅行）とそのロシア語作文
第10回	テキスト読解と和文露訳2	テキスト読解と作文（日本の四季と習慣、手紙（ビジネスレターを含む））

第11回	テキスト読解とその映像資料のリスニング 1	テキスト読解（現代ロシアの文化など）、映像資料のリスニング
第12回	テキスト読解とその映像資料のリスニング 2	（ロシア文学作品；プーシキンやチェーホフ）、映像資料（映画）のリスニング
第13回	テキスト読解とその映像資料のリスニング 3	（ロシア文学作品；ドストエフスキーやトルストイ）、映像資料（映画）のリスニング
第14回	テキスト読解とその映像資料のリスニング 4	テキスト読解（学生の要望を反映）、映像資料のリスニング

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

5月と10月に開催されるロシア語能力検定試験に向けて、過去問題と対策問題に取り組む。・授業での配布テキストの和訳を試みる。ロシアに関して興味あるテーマを調べ掘り下げる。本授業の予習・復習時間は、毎回2時間を目安とします。

#### 【テキスト（教科書）】

『ロシア語能力検定試験合格への手引きー3級・4級対策問題集ー』北岡千夏、三浦由香里、横井幸子著、南雲堂フェニックス、2005年、¥1620（定額で入手できない場合はご相談ください。）  
露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995年、¥6291が望ましい））  
その他のテキストは、適時プリントを配布します。

#### 【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970年、¥1404  
『大学のロシア語1』沼野恭子著、東京外国語大学出版社、2013年、¥3520

#### 【成績評価の方法と基準】

対面授業、オンライン授業どちらも試験ではなく、平常点（授業への参加度、予習復習などの学習への取り組み）50パーセント、課題（課題・宿題等の提出）50％で評価します。課題は、練習問題、和訳、露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などの音声を出してもらい、その評価も加味する予定です。詳細は今後、授業支援システムでご確認ください。

#### 【学生の意見等からの気づき】

ロシア文化や生活に触れる機会をつくりたいと思います。

#### 【その他の重要事項】

ロシア語既習者が対象です。  
ロシア語能力検定試験を10月か翌年5月に受験してください。  
春学期・秋学期合わせての通年での受講が学力向上に効果的です。  
なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進捗は変更される可能性があります。

#### 【Outline and objectives】

First, we aim to pass the Russian Language Proficiency Test (of Japan) at Levels 3 and 4. After the examination, we plan to study intermediate grammar, read comprehensive genres of text, and gain in-depth understanding of Russian history and culture. We will expand our Russian language ability in all four skills of "reading, listening, speaking, and writing" and acquire practical conversational skills.

LANC200CA

## 中国語セミナー A

石 碩

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、これまでに学んだ基礎的な知識を活かし、中国語をブラッシュアップしていくことを目的とします。  
授業では中国の文化・時事問題を扱った文章を読解し、生きた中国語の表現を学んでいきます。  
中国の記事やブログなども適宜取り上げ、中国語と中国文化に対する理解を深めていきます。

#### 【到達目標】

中国の社会事情や文化に対する理解を深めながら、中級レベルの理解力、読解力、口頭表現力と文章力を身につけることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

教科書を精読し、内容を理解した上で日本語に訳します。  
また、関連する時事的な話題について、各自調査を行い、発表を行います。学生の発表内容・質問・感想については、授業内で適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介、授業の進め方
第2回	第1課	読解
第3回	第2課	読解
第4回	1、2課のまとめ、発表	発表
第5回	第3課	読解
第6回	第4課	読解
第7回	3、4課のまとめ、発表	発表
第8回	第5課	読解
第9回	第6課	読解
第10回	5、6課のまとめ、発表	発表
第11回	第7課	読解
第12回	第8課	読解
第13回	7、8課のまとめ、発表	発表
第14回	授業内試験	試験

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を精読し、記事にふさわしい日本語訳を準備してください。  
また、関連する時事的な事柄について、事前に本やインターネットを用いて調査してください。

#### 【テキスト（教科書）】

『時事中国語の教科書 2021年度版』朝日出版社、2021年。

#### 【参考書】

授業時に紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点 30％、試験 70％

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業を通して、語学のみならず、日本人学生と中国人留学生の文化交流を促進したい

#### 【その他の重要事項】

2年間中国語を学習した人を対象とします。  
ネイティブ・準ネイティブが履修する場合は、初回授業時に面談を行います。

#### 【Outline and objectives】

Improving Chinese language ability and cross-cultural understanding

LANC200CA
<b>中国語セミナー B</b>
<b>石 碩</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、これまでに学んだ基礎的な知識を活かし、中国語をブラッシュアップしていくことを目的とします。  
授業では中国の文化・時事問題を扱った文章を読解し、生きた中国語の表現を学んでいきます。  
中国の記事やブログなども適宜取り上げ、中国語と中国文化に対する理解を深めていきます。

#### 【到達目標】

中国の社会事情や文化に対する理解を深めながら、中級レベルの理解力、読解力、口頭表現力と文章力を身につけることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

教科書を精読し、内容を理解した上で日本語に訳します。  
また、関連する時事的な話題について、各自調査を行い、発表を行います。  
学生の発表内容・質問・感想については、授業内で適宜フィードバックを行います。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	前期のまとめ
第 2 回	第 9 課	読解
第 3 回	第 10 課	読解
第 4 回	9、10 課のまとめ、発表	発表
第 5 回	第 11 課	読解
第 6 回	第 12 課	読解
第 7 回	11、12 課のまとめ、発表	読解 発表
第 8 回	第 13 課	読解
第 9 回	第 14 課	読解
第 10 回	第 15 課	読解
第 11 回	13、14、15 課のまとめ、発表	発表
第 12 回	補助教材	読解、発表
第 13 回	補助教材	読解、発表
第 14 回	授業内試験	試験

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を精読し、記事にふさわしい日本語訳を準備してください。  
また、関連する時事的な事柄について、事前に本やインターネットを用いて調査してください。

#### 【テキスト（教科書）】

『時事中国語の教科書 2021 年度版』朝日出版社、2021 年。

#### 【参考書】

授業時に紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、試験 70 %

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業を通して、語学のみならず、日本人学生と中国人留学生の文化交流を促進したい

#### 【その他の重要事項】

2 年間中国語を学習した人を対象とします。  
ネイティブ・準ネイティブが履修する場合は、初回授業に面談を行います。

#### 【Outline and objectives】

Improving Chinese language ability and cross-cultural understanding

LANs200CA
スペイン語セミナー A
芝田 幸一郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

古代文明、天然資源、30 年前の政治・経済的混乱、今世紀の好景気と美食ブーム等で注目されてきた南米ペルーに関して、テーマを選び、調べ、（可能ならスペイン語で）発表する。歴史・文化・社会等を多角的に学ぶことになる。広大かつ多様なスペイン語圏ラテンアメリカを把握するための手がかりを得る。

**【到達目標】**

1) ペルーの諸特徴について、その背景も含めて説明できるようになる。  
2) スペイン語に関しては、各受講者の目的・レベルにそって「使える」文法や語彙の幅を広げる。通年で履修する場合、現地新聞 (El Comercio 紙等) のスペイン語記事を、辞書を片手に読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

必要に応じて対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業とし、学年暦・時間割通りに実施。発表グループは、①関心あるテーマのスペイン語文を選び和訳し、②同テーマについてリサーチしパワーポイント等で発表する。①②ともに講評という形で教員からのフィードバックがある。期末口頭試験も即時コメントによるフィードバックがある。毎週 Hoppii を確認すること。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業運営の説明。発表グループ分け。
第 2 回	復習①	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。発表グループ分け。
第 3 回	復習②と基礎的知識①	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。ラテンアメリカとペルーの概説講義①
第 4 回	基礎的知識②	ラテンアメリカとペルーの概説講義②
第 5 回	発表①	グループ発表と質疑応答①
第 6 回	発表②	グループ発表と質疑応答②
第 7 回	発表③	グループ発表と質疑応答③
第 8 回	発表④	グループ発表と質疑応答④
第 9 回	発表⑤	グループ発表と質疑応答⑤
第 10 回	発表⑥	グループ発表と質疑応答⑥
第 11 回	発表⑦	グループ発表と質疑応答⑦
第 12 回	発表⑧	グループ発表と質疑応答⑧
第 13 回	発表⑨	グループ発表と質疑応答⑨
第 14 回	期末試験とまとめ	口頭試験による学習到達度確認と総括

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

準備学習①担当スペイン語文の和訳（通常はグループで1～2頁）、②発表準備（リサーチ、資料作成等）。準備・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

発表テーマ選定や和訳に使う基本資料は配布する。

**【参考書】**

『ペルーを知るための66章』明石書店（2012）／『ラテンアメリカを知る事典』平凡社（2013）／『ラテンアメリカ文化事典』丸善出版（2021）／"Nueva Cronica del Peru Siglo XX" Fondo Editorial del Congreso del Peru(2000)／ペルー国家統計情報局 (<https://www.inei.gob.pe/>)

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（和訳・発表・質疑応答等）90%＋口頭試験10%で総合的に評価。

**【学生の意見等からの気づき】**

復習を兼ねたスペイン語自己紹介を実施。教員の概説的講義を増量。2019年試行のキャンパス探検会実習が好評だったため、状況次第で実施したい。

**【学生が準備すべき機器他】**

教員からの連絡や資料配布は Hoppii 上で行う。

**【その他の重要事項】**

少なくともスペイン語初級文法は既習のこと（例：法政大学1年次にスペイン語を履修）。様々なスペイン語レベルの学生に対応している（初級の学生が多いが、中上級の学生が混じることもある）。スペイン語辞書必携。

**【Outline and objectives】**

This course focuses on Peru and covers diverse themes from its cultural characteristics to socio-economic problems for the purpose of better understanding Latin America.

LANs200CA
スペイン語セミナー B
芝田 幸一郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

古代文明、天然資源、30 年前の政治・経済的混乱、今世紀の好景気と美食ブーム等で注目されてきた南米ペルーに関して、テーマを選び、調べ、（可能ならスペイン語で）発表する。歴史・文化・社会等を多角的に学ぶことになる。広大かつ多様なスペイン語圏ラテンアメリカを把握するための手がかりを得る。

**【到達目標】**

1) ペルーの諸特徴について、その背景も含めて説明できるようになる。  
2) スペイン語に関しては、各受講者の目的・レベルにそって「使える」文法や語彙の幅を広げる。通年で履修する場合、現地新聞 (El Comercio 紙等) のスペイン語記事を、辞書を片手に読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

必要に応じて対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業とし、学年暦・時間割通りに実施。発表グループは、①関心あるテーマのスペイン語文を選び和訳し、②同テーマについてリサーチしパワーポイント等で発表する。①②ともに講評という形で教員からのフィードバックがある。期末口頭試験も即時コメントによるフィードバックがある。毎週 Hoppii を確認すること。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業運営の説明。発表グループ分け。
第 2 回	復習①	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。発表グループ分け。
第 3 回	復習②と基礎的知識	自己紹介を兼ねたスペイン語基本復習。ラテンアメリカとペルーの概説講義
第 4 回	発表①	グループ発表と質疑応答①
第 5 回	発表②	グループ発表と質疑応答②
第 6 回	発表③	グループ発表と質疑応答③
第 7 回	発表④	グループ発表と質疑応答④
第 8 回	発表⑤	グループ発表と質疑応答⑤
第 9 回	発表⑥	グループ発表と質疑応答⑥
第 10 回	発表⑦	グループ発表と質疑応答⑦
第 11 回	発表⑧	グループ発表と質疑応答⑧
第 12 回	発表⑨	グループ発表と質疑応答⑨
第 13 回	復習③	口頭試験の準備
第 14 回	期末試験とまとめ	口頭試験による学習到達度確認と総括

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

①担当スペイン語文の和訳（通常はグループで1～2頁）、②発表準備（リサーチ、資料作成、スペイン語作文等）。準備・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

発表テーマ選定や和訳に使う基本資料は配布する。

**【参考書】**

『ペルーを知るための66章』明石書店（2012）／『ラテンアメリカを知る事典』平凡社（2013）／『ラテンアメリカ文化事典』丸善出版（2021）／"Nueva Cronica del Peru Siglo XX" Fondo Editorial del Congreso del Peru(2000)／ペルー国家統計情報局 (<https://www.inei.gob.pe/>)／エル・コメルシオ紙 (<http://elcomercio.pe/>)

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（和訳・発表・質疑応答等）90%＋口頭試験10%で総合的に評価。

**【学生の意見等からの気づき】**

復習を兼ねたスペイン語自己紹介を実施。教員の概説的講義を増量。

**【学生が準備すべき機器他】**

教員からの連絡や資料配布は Hoppii 上で行う。

**【その他の重要事項】**

少なくともスペイン語初級文法は既習のこと（例：法政大学1年次にスペイン語を履修）。様々なスペイン語レベルの学生に対応している（初級の学生が多いが、中上級の学生が混じることもある）。スペイン語辞書必携。

**【Outline and objectives】**

This course focuses on Peru and covers diverse themes from its cultural characteristics to socio-economic problems for the purpose of better understanding Latin America.

ECN200CA
<b>労働経済論 A</b>
酒井 正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ミクロ経済理論を応用することで、労働市場における諸現象を解釈すると同時に、労働市場に関する統計資料を読み解く。「人手不足」、「外国人労働力」、「教育費の無償化」といったトピックについても紹介する。

**【到達目標】**

この労働経済論 A では、まず基本的な労働供給・労働需要の理論をしっかりと理解する。更に、統計分析の考え方を学んだうえで、働き方を巡る様々な現象を実証的に分析する能力を身に付ける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

オンラインによる授業を中心としながら、練習問題の確認等のために対面（教室）での授業も 2～3 回程度おこなう。

小テストを学習支援システム（Hoppii）を通じておこない、その点数はシステムを通じてフィードバックする。また、正答率の低かった問題等については、適宜、授業内で解説する予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、労働経済学とは
2	労働市場の概観	統計で見る日本の労働市場
3	労働供給行動（1）	静学的労働供給モデル
4	労働供給行動（2）	静学的労働供給モデルの応用
5	労働需要行動（1）	短期・長期の労働需要
6	労働需要行動（2）	調整費用モデル等
7	市場均衡	競争均衡、買手独占
8	実証分析の方法（1）	回帰分析
9	実証分析の方法（2）	セレクション・バイアスの概念とその対処
10	補償賃金格差	ヘドニック・モデルとその応用（「同一労働同一賃金」等）
11	人的資本投資（1）	教育投資モデル、シグナリング・モデル
12	人的資本投資（2）	一般的訓練と企業特特殊訓練
13	賃金格差・所得格差	所得格差の概観、グループ間賃金格差
14	地域間労働移動	ロイ・モデル等

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

学生は、講義資料や授業内での練習問題を中心に復習をおこなう必要がある。本授業の準備・復習に必要な時間は 4 時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

特に使用しない。

**【参考書】**

Borjas, G 『Labor Economics 7th Edition』(McGraw Hill Higher Education, 2015 年)

清家篤・風神佐知子『労働経済』（東洋経済新報社、2020 年）

**【成績評価の方法と基準】**

2 回程度の小テスト（20%）+ 期末テスト（80%）で評価する。いずれも学習支援システムによっておこなう予定である。

**【学生の意見等からの気づき】**

本講義に関して、受講者が関心のあるトピックを把握するように心掛ける。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

特になし。

**【Outline and objectives】**

In this course, we study labor economics with an emphasis on applied microeconomic theory and empirical analysis. We also study the statistics related to the labor economics, such as Labor Force Survey and so on. Topics to be covered include: labor supply and demand, compensating wage differential, immigration, human capital investment, signaling model, and regression.

ECN200CA
<b>労働経済論 B</b>
酒井 正
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働経済論 A で学んだことを踏まえ、労働市場に関するより具体的なトピックを取り上げて解説する。特に、労働政策や社会保障等の各種施策が私たちの働き方にもたらす影響を検討する。（取り上げるトピックの例、「介護離職」、「長時間労働」、「待機児童」等）また、コロナ禍における労働市場のセーフティーネットについても議論する。

#### 【到達目標】

働き方を巡る「論点」を知り、それを経済学的に考えることを通じて、労働問題や公共政策の議論に参加できることを最終的な目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

オンラインによる授業を中心としながら、練習問題の確認等のために対面（教室）での授業も 2～3 回程度おこなう。

小テストを学習支援システム（Hoppii）を通じておこない、その点数はシステムを通じてフィードバックする。また、正答率の低かった問題等については、適宜、授業内で解説する予定である。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、労働経済学及び実証分析の基本概念的復習
2	人事の経済学（1）	固定給と出来高給
3	人事の経済学（2）	後払い賃金
4	労働市場における差別	差別の経済理論、男女間賃金格差
5	失業（1）	日本の失業の概観
6	失業（2）	失業を説明する理論
7	失業保険・労災保険	失業保険に関する実証分析、労働災害の現状
8	最低賃金	最低賃金の影響に関する実証分析
9	就業形態の多様化	非正規雇用の増加要因、仕事の二極化
10	若年就業	若年就業の現状と「世代効果」
11	高齢者就業	引退行動に影響を与える要因、介護離職問題
12	労働時間	労働時間の実態とワークライフバランス
13	両立支援制度	女性の就業と保育サービス
14	社会保険料事業主負担の帰着問題、その他	事業主負担の帰着に関する理論と実証

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、講義資料や授業内での練習問題をよく復習する必要がある。また、指示された文献（新聞記事や雑誌記事等）についても目を通すこと。本授業の準備・復習に必要な学習時間は、4 時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

#### 【参考書】

酒井正『日本のセーフティーネット格差 労働市場の変容と社会保険』（慶應義塾大学出版会、2020 年）

川口大司編『日本の労働市場 経済学者の視点』（有斐閣、2017 年）

#### 【成績評価の方法と基準】

2 回程度の小テスト（10%）+ 期末テスト（90%）で評価する。いずれも学習支援システムによって実施する予定である。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業で扱うトピックに関して受講者の考えを聞くように心がける。

#### 【学生が準備すべき機器他】

特になし。

#### 【その他の重要事項】

労働経済論 A の履修は必須ではないが、講義は労働経済論 A の内容を前提として進める。したがって、労働経済論 A を受講しておらず、講義内容を理解できない場合には、各自でその内容を学習する必要がある。

#### 【Outline and objectives】

Based on conceptual frameworks studied in the Labor Economics A, we study the link between those frameworks and public policies in the real world. Topics to be covered include: unemployment insurance, personnel economics, parental leave, child care, informal care and so on.

ECN300CA
<b>経済政策論 A</b>
<b>濱秋 純哉</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

政府は、ダムや道路の建設、教育サービスの提供、及び社会保障制度の整備などの「経済政策（公共政策）」を行っている。民間企業の自由な活動に任せる分野がある一方で、このように政府が直接・間接に財・サービスの提供に関与する分野があるのはなぜだろうか。このような疑問に対して、経済学の余剰分析の考え方に基づき考察を加える。

**【到達目標】**

この講義では、受講者各人が、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、経済学の余剰分析の考え方に基づき、外部性の問題や望ましい公共財の供給について主体的に考察できるようになることを目指す。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

**【授業の進め方と方法】**

直感的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や最後に復習問題を解く時間を設け、受講者が自分の頭で考える機会も作る。復習問題については、翌週の授業の冒頭で解答の説明と受講者の回答についての講評（多かった間違いや興味深い回答の紹介など）を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済学で経済政策を考える意味
2	市場の働き 1	完全競争市場とは何か
3	市場の働き 2	需要曲線と供給曲線
4	市場の働き 3	消費者余剰の図示
5	弾力性の概念	価格弾力性とは何か
6	企業行動と生産者余剰 1	様々な費用の概念
7	企業行動と生産者余剰 2	企業の利潤最大化行動と供給曲線
8	企業行動と生産者余剰 3	生産者余剰の図示
9	外部性 1	外部性の概念
10	外部性 2	外部性の存在と市場の効率性
11	外部性 3	規制、ビゲー税、及び排出権市場による外部性の問題の解決
12	公共財 1	排除可能性と消費の競合性
13	公共財 2	公共財の最適供給の条件、公共財の自発的供給
14	公共財 3	国家公共財と地方公共財

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

八田達夫、2008、『ミクロ経済学 I』東洋経済新報社  
N・グレゴリー・マンキュー、2013、『マンキュー経済学 I ミクロ編 [第 3 版]』東洋経済新報社

**【参考書】**

小川光・西森晃、2015、『公共経済学』中央経済社

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験（50%）、3 回の宿題（40%）、復習問題の回答の提出（10%）によって評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問に答えてもらったり、授業内容に即した復習問題を行ったりする。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

**【Outline and objectives】**

Governments conduct a wide range of economic and other public policies including, for example, the construction of dams and roads, the provision of education services, and the provision of a social security system. While of course there are a large number of areas that are left to the private sector, the question nevertheless is why there are areas in which governments directly and indirectly contribute to the provision of goods and services. This course considers this issue from a microeconomic perspective using welfare analysis.

ECN300CA
<b>経済政策論 B</b>
<b>濱秋 純哉</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

政府や中央銀行は、財政政策や金融政策などの「経済政策」を行っているが、どのような目的で、さらには、どのような根拠に基づいて政策を実行しているのだろうか。このような疑問に対して、マクロ経済学の IS-LM 分析の手法を用いて考察する。また、GDP、物価指数、失業率の各種マクロ統計の作成方法とその計測上の課題、及び近年の雇用問題についても検討を行う。

**【到達目標】**

この講義では、受講者各人が経済学の考え方に基づいて、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、各種マクロ統計の作成方法と統計の読み方を理解すること、及び財政政策と金融政策が経済に与える影響について主体的に考察できるようになることを目指す。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

**【授業の進め方と方法】**

直感的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や最後に復習問題を解く時間を設け、受講者が自分の頭で考える機会も作る。復習問題については、翌週の授業の冒頭で解答の説明と受講者の回答についての講評（多かった間違いや興味深い回答の紹介など）を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済と私たちの生活
2	データで見る日本経済 1	GDP の概念と作成方法
3	データで見る日本経済 2	物価指数の概念と作成方法
4	データで見る日本経済 3	失業率の概念と作成方法
5	雇用問題 1	摩擦的失業への政策的対処
6	雇用問題 2	最低賃金引き上げの影響
7	雇用問題 3	若年者の雇用問題、「世代効果」への政策的対処
8	IS-LM モデルの構築 1	ケインジアン の交差図、乗数効果
9	IS-LM モデルの構築 2	IS 曲線の導出
10	IS-LM モデルの構築 3	貨幣量の測定とコントロール
11	IS-LM モデルの構築 4	LM 曲線の導出
12	IS-LM モデルの応用 1	財政政策の効果とクラウディング・アウト
13	IS-LM モデルの応用 2	金融政策の効果
14	IS-LM モデルの応用 3	「流動性の罌」の下での財政政策と金融政策の効果

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本講義を履修するにあたり、経済政策論 A を履修済みのことが望ましい。また、授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

N・グレゴリー・マンキュー、2017、『マクロ経済学 I（第 4 版）』東洋経済新報社

**【参考書】**

福田慎一・照山博司、2016、『マクロ経済学・入門（第 5 版）』有斐閣

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験（50%）、3 回の宿題（40%）、復習問題の回答の提出（10%）によって評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問に答えてもらったり、授業内容に即した復習問題を行ったりする。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

**【Outline and objectives】**

Governments and central banks conduct economic policies such as fiscal policy and monetary policy, but for what purpose and on what basis do they implement such policies? This course considers these questions from a macroeconomic perspective using IS-LM analysis. The course also examines how various macroeconomic statistics such as GDP statistics, price indexes (consumer price indexes and GDP deflators), and unemployment rates are compiled as well as related measurement issues, and moreover, investigates employment issues in recent years.

ECN200CA
<b>公共経済論 A</b>
<b>篠原 隆介</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、完全競争理論を通して、市場経済がもたらす利点を学習する。まず、市場分析の基礎となる、消費者行動と企業行動の理論を学習する。消費者・企業行動の分析の基礎となる消費者の効用最大化問題と企業の利潤最大化問題を学習し、消費者と企業の行動の仕組みを理解する。次に、市場取引の帰結が市場均衡となり、市場均衡では経済厚生観点から望ましい取引を実現していることを学習する。最後に、より一般的な市場分析の枠組みである交換経済を学習し、厚生経済学の基本定理を理解した上で、市場メカニズムの利点について総括する。

#### 【到達目標】

本講義の目標は、ミクロ経済学に基づき、市場の利点と欠点を整理できるようにすること、そして、現代社会における、市場と政府の望まれるべき関係を客観的かつ公正に考察する力を身につけることが目標である。本講義では、特に市場経済の利点を中心に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP9」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

完全競争の理論に基づく、政府と市場の役割分担を、標準的なミクロ経済学を用いて、学習する。本講義では、理論分析を主に行うが、本講義の内容が現実世界とどのように関連するののかについて、意識しながら講義を受講して欲しい。

本講義はオンラインで開講する（オンデマンド型・リアルタイム型の併用）初回のガイダンスはオンデマンド型で行い、これ以降の講義は初回講義にて指示する。講義に関するお知らせ、資料配布、課題の出題は、すべて学習支援システムを通して行う。課題等のフィードバック（課題の解答解説等）は講義内で行う予定です。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	市場経済の利点と欠点	市場が持つ利点と欠点の概観、市場経済における政府の役割。
2	消費者行動 (1)	選好と効用関数、予算制約、限界代替率、効用最大化問題について。
3	消費者行動 (2)	所得効果、代替効果、スルツキー分解について。
4	消費者行動 (3)	消費者行動の理論を応用し、最適な税制について考察する。
5	企業行動 (1)	生産費用の概念（総費用、可変費用、限界費用、平均費用）について。
6	企業行動 (2)	利潤最大化行動における限界収入と限界費用の役割について。
7	企業行動 (3)	完全競争企業の利潤最大化と供給曲線について。
8	市場取引 (1)	消費者余剰、生産者余剰、総余剰。配分効率性について。
9	市場取引 (2)	市場均衡、市場均衡取引と配分効率性について。
10	市場取引 (3)	企業への参入促進政策が市場取引に与える影響について。
11	交換経済 (1)	複数財取引と市場均衡、ワルラス均衡について。
12	交換経済 (2)	複数財取引市場における経済厚生基準、効率性と公平性について。
13	交換経済 (3)	厚生経済学の基本定理、本定理を通じた市場と政府の望ましい関係性。
14	講義総括と問題演習	春学期の学習内容を総括し、問題演習を実施する。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間（計 4 時間）を標準とします。講義の準備として、ミクロ経済学 AB(2 年次配当)の復習をすること、授業支援システムで配布される講義資料に目を通すことは必ず行うこと。講義の復習として、練習問題演習を必ず行うこと。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。担当教員作成の資料を学習支援システムにて配布する。

#### 【参考書】

- ① 板谷淳一、佐野博之『コアテキスト公共経済学』新世社、2013 年
- ② 佐藤主光『公共経済学 15 講』新世社、2017 年
- ③ 寺井公子、肥前洋一『私たちと公共経済』有斐閣、2015 年
- ④ 土居丈朗『入門公共経済学』日本評論社、2002 年

#### 【成績評価の方法と基準】

課題レポート（100%）により評価を行う。詳細については、学習支援システムにて知らせる。

#### 【学生の意見等からの気づき】

練習問題や数値例を多用して、できるだけ分かりやすく講義することを心がける。

#### 【その他の重要事項】

①本講義を受ける上で、「ミクロ経済学 AB」で使うような数学の知識は必要です。「ミクロ経済学 AB」の復習は、各自で行うことを強く推奨します。

②本講義は、「財政学」、「経済政策論」と補完的な関係にあるため、同時に履修すると、理解は深まる。

③本講義で用いる数学は、「ビジネス数学入門」で習得可能であるため、履修を推奨したい。

④授業に関する連絡は、すべて学習支援システムを通して行う。

#### 【Outline and objectives】

This course deals with a public microeconomics based on the perfect competition theory. First, we review the utility maximization by consumers and the profit-maximization by firms. Then, we study the market interaction between consumers and firms through a partial equilibrium model (the demand and supply theory) and a general equilibrium model (in particular, the pure-exchange economy). Through the equilibrium theories of the markets, we learn the merit of the competition in the markets.

ECN200CA
<b>公共経済論 B</b>
<b>篠原 隆介</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義では、市場の欠点（失敗）を理解し、それを解消することを目的とした経済制度・政策の設計について学習する。まず、外部性の存在が引き起こす市場の失敗を学習し、外部性の内部化を通じた経済政策の実施が、問題解決の鍵となることを理解する。次に、公共財の存在による市場の失敗を学習し理解する。最後に、メカニズムデザイン理論を学習し、経済主体のインセンティブを考慮に入れた経済制度設計の重要性を理解する。本理論を応用した、分割不可能財の配分問題や公共財供給のただ乗り問題の解決方法を学習する。

**【到達目標】**

公共経済論 A に引き続き、ミクロ経済学に基づき、市場の利点と欠点を整理し、現代の社会における、望まれるべき市場と政府の関係は、客観的かつ公正に考察する力を身につけることが目標である。本講義では、市場経済の欠陥と政府の役割を考察することを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP9」に関連

**【授業の進め方と方法】**

担当教員作成の講義資料を、板書とスライドを使いながら解説する。本講義はオンラインで開講する（オンデマンド型・リアルタイム型の併用）初回のガイダンスはオンデマンド型で行い、これ以降の講義は初回講義にて指示する。講義に関するお知らせ、資料配布、課題の出題は、すべて学習支援システムを通して行う。課題等のフィードバック（課題の解答解説等）は講義内で行う予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	市場の失敗と経済政策設計	市場の失敗の概観、問題解決のために望まれる政策とは。
2	外部性 (1)	外部性とは、外部性が存在する経済での市場の失敗について。
3	外部性 (2)	政府の政策と経済政策を通じた外部性の内部化について。
4	外部性 (3)	コースの定理、外部性解消のために交渉が果たす役割について。
5	外部性 (応用)	環境問題における環境税と排出量取引の役割について。
6	公共財 (1)	公共財、準公共財、私的財の理解、公共財供給のモデル構築について。
7	公共財 (2)	公共財供給のパレート効率条件の導出、サミュエルソン条件について。
8	公共財 (3)	公共財供給ゲームの定式化と分析、市場の失敗とただ乗り問題について
9	公共財 (4)	公共財供給ゲームの定式化と分析、市場の失敗とただ乗り問題について
10	経済制度設計 (1)	市場の失敗の解消のためのメカニズムの設計について。
11	経済制度設計 (2)	公共財供給とメカニズム設計について、クラーク・メカニズム Part1。
12	経済制度設計 (3)	公共財供給とメカニズム設計について、クラーク・メカニズム Part2。
13	経済制度設計 (4)	その他のメカニズムについて。
14	講義総括と問題演習	秋学期の学習内容を総括し、問題演習を実施する。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間（計 4 時間）を標準とします。講義の準備として、ミクロ経済学 AB(2 年次配当)の復習をすること、授業支援システムで配布される講義資料に目を通すことは必ず行うこと。講義の復習として、練習問題演習を必ず行うこと。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は指定しない。担当教員作成の資料を学習支援システムにて配布する。

**【参考書】**

公共経済論 A シラバスで挙げた参考書①～④に加えて、次の文献は、本講義と関連する。

⑤アラン・M. フェルドマン, ロベルト・セラノ (2009)『厚生経済学と社会選択論; 第 2 版』(飯島大邦, 川島康男, 福住多一訳) シーエービー出版

**【成績評価の方法と基準】**

学習支援システムを利用した課題 (100%) により成績評価を行う。

**【学生の意見等からの気づき】**

単なる理論学習だけではなく、応用の仕方についても話をしながら、講義を進めます。

**【その他の重要事項】**

①本講義を受ける上で、「ミクロ経済学 AB」で使うような数学の知識が必要です。「ミクロ経済学 AB」の復習は、各自で行うことを強く推奨します。

②本講義は、「財政学」、「経済政策論」と補完的な関係にあるため、同時に履修すると、理解は深まる。

③本講義で用いる数学は、「ビジネス数学入門」で習得可能であるため、履修を推奨したい。

④講義に関するお知らせは、学習支援システムを通して行う。

**【Outline and objectives】**

This course deals with a public microeconomics for the market failures. First, we study why market fails in the presence of externalities and public goods. Then, we study how to solve the market failure through government interventions. In particular, in this class, we learn that the governmental policies with the internalization of externalities such as the Pigouvian tax (or subsidies) are effective solutions to the externality problem. In addition, we learn that the internalization is possible through bargaining between polluters and pollutees. For the public good provision, a mechanism design approach solves the free-rider problem.

ECN200CA
DemographyA
菅 幹雄
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

An introductory course in demographic methods, teaching how demographers measure population growth, mortality, fertility, marriage, and age structure.

#### 【到達目標】

- 1.Understand basic concepts and measures
- 2.Understand age-specific rates and probabilities
- 3.Understand and be able to compile life table

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP7」に関連。国際経済学科は「DP5」「DP6」「DP7」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

Worksheets will be delivered by using the Lecture Supporting System for better understanding and student should calculate and fill it in. After the submission deadline of worksheet, the correct answer will be feedbacked.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Basic Concepts and Measures(1)	Meaning of "Population", Population Statistics
2	Basic Concepts and Measures(2)	The Balancing Equation of Population Change
3	Basic Concepts and Measures(3)	The Structure of Demographic rates, Period Rates and Person-years, Principal Period Rates in Demography
4	Basic Concepts and Measures(4)	Instantaneous Growth Rate, Mean Annualized Growth Rate
5	Basic Concepts and Measures(5)	Estimating Period Person-years, The Concept of a Cohort, Probabilities of Occurrence of Events
6	Age-Specific Rates and Probabilities(1)	Period Age-specific Rates
7	Age-Specific Rates and Probabilities(2)	Age-standardization
8	Age-Specific Rates and Probabilities(3)	The Lexis Diagram
9	Age-Specific Rates and Probabilities(4)	Age-specific Probabilities
10	The Life Table and Single Decrement Processes(1)	The Life Table
11	The Life Table and Single Decrement Processes(2)	Period Life Tables
12	The Life Table and Single Decrement Processes(3)	Interpreting the Life Table
13	The Life Table and Single Decrement Processes(4)	The Life Table Conceived as a Stationary Population

#### 14 Summing Up Summing Up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Look at homepages of rekatd demographic statistics. Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Samuel Preston, Patrick Heuveline, Michel Guillot, Demography: Measuring and Modeling Population Processes, Wiley,4313 JPY

【参考書】

Nicolas Bacaër, A Short History of Mathematical Population Dynamics, Springer, 5176 JPY

【成績評価の方法と基準】

Worksheets in online 100%

【学生の意見等からの気づき】

Upload the answer of worksheets as soon as possible.

【学生が準備すべき機器他】

calculator

【Outline and objectives】

An introductory course in demographic methods, teaching how demographers measure population growth, mortality, fertility, marriage, and age structure.

ECN200CA
DemographyB
菅 幹雄
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

An introductory course in demographic methods, teaching how demographers measure population growth, mortality, fertility, marriage, and age structure.

#### 【到達目標】

- 1.Understand fertility rate
- 2.Understand and be able to conduct population projection
- 3.Understand stable population model

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP7」に関連。国際経済学科は「DP5」「DP6」「DP7」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

Lectures will be conducted on using Zoom. Worksheets are delivered in the lecture for better understanding and student should calculate and fill it in. After the submission deadline of worksheet, the correct answer will be feedbacked.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Review of a Basic Period Life Table	Review of a Basic Period Life Table
2	Multiple Decrement Processes(1)	Multiple Decrement Tables for a Periods
3	Multiple Decrement Processes(2)	Associated Single Decrement Life Tables from Period Data
4	Fertility Rates(1)	Period Fertility Rates
5	Fertility Rates(2)	Cohort Fertility, Reproduction Measures
6	Population Projection(1)	Population projection without immigration
7	Population Projection(2)	Projection and Forecasts, Population Projection Methodology, The Cohort Component Methods
8	Population Projection(3)	Cohort Component Methods
9	The Stable Population Model(1)	Review of Stationary Population Model
10	The Stable Population Model(2)	A Simplified Example of a Stable Population
11	The Stable Population Model(3)	Lotka's Demonstration of Conditions Producing a Stable Population
12	The Stable Population Model(4)	Intrinsic Growth Rate
13	The Stable Population Model(5)	Momentum of Population Growth
14	Summing Up	Summing Up

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Look at homepages related to demographic statistics  
Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

#### 【テキスト（教科書）】

Samuel Preston, Patrick Heuveline, Michel Guillot, Demography: Measuring and Modeling Population Processes, Wiley, 4313 JPY

#### 【参考書】

Nicolas Bacaër, A Short History of Mathematical Population Dynamics, Springer, 5176 JPY

#### 【成績評価の方法と基準】

Worksheets 100%

#### 【学生の意見等からの気づき】

Upload the answer of worksheets as soon as possible.

【学生が準備すべき機器他】  
calculator

#### 【Outline and objectives】

An introductory course in demographic methods, teaching how demographers measure population growth, mortality, fertility, marriage, and age structure.

ECN200CA
<b>開発経済論 A</b>
池上 宗信
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

途上国貧困家計の栄養、健康、教育、出産という人的資本に関する選択、リスクを学びます。さらに、その選択、リスクを理解するのに有用な時間的不整合、期待効用、状態空間などの理論モデル、ランダム化比較試験、差の差の分析、操作変数法などの実証分析手法を並行して学びます。

### 【到達目標】

なぜ、我が国を含む先進国では少子化が問題になっているのに、サブサハラアフリカの国々では急激な人口増加が問題になっているのでしょうか？

経済学の理論、手法、統計資料にもとづいて、このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を主体的に考察、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本講義は、2021年1月時点で教室を割られる予定の科目、対面授業の可能性がより大きい科目です。

各講義前の課題として、各自、リーディング・アサイメントを読みます。

各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づきます。授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問します。

授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをします。

対面授業の場合

- 受講生が、授業中の演習問題・答え合わせを紙に記入、提出し、担当教員が採点、スキャンし、学習支援システムを通して返却します。オンライン授業となってしまう場合

- 各講義後の課題として、学習支援システム上の小テストを解きます。

- 受講生は、小テストの各問の正解・不正解を自動フィードバックとして受け取ります。

- 受講生は、中間試験と期末試験の点数を自動フィードバックとして受け取ります。

- 授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ランダム化比較試験	内生性、自己選抜バイアス、第3の要因
第2回	栄養	貧困者の栄養に関する選択
第3回	健康	貧困者の健康に関する選択
第4回	時間不整合	時間不整合とあと押しの理論モデル
第5回	差の差の分析	並行トレンドの仮定
第6回	操作変数法	内生変数、外生変数
第7回	復習および中間試験	第1回から第6回までの内容を復習。中間試験。
第8回	教育	貧困者の就学に関する選択、条件付き補助金
第9回	出産	大家族の問題
第10回	リスク 1	期待値、期待効用
第11回	リスク 2	状態空間分析
第12回	リスク 3	独占的な保険会社

第13回 リスク 4 完全競争保険市場  
第14回 復習および期末試験 第8回から13回までの内容を復習。期末試験。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義スライドの基となっている20ページほどの文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読みます。オンライン授業となってしまう場合、各講義の後に、学習支援システム上の小テストを解きます。

授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

### 【参考書】

池田新介 (2012) 「第3章 不本意な選択のメカニズム」『自滅する選択』東洋経済新報社

大垣昌夫、田中沙織 (2018) 「第6章 時間を通じた行動」『行動経済学新版』有斐閣

デーモン・カーラン、ジェイコブ・アベル (2013) 『善意で貧困はなくせるのか? 貧乏人の行動経済学』みすず書房

神戸伸輔 (2004) 『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社

高野久紀 (2014,2015) 「実践 開発経済学 1-8」『経済セミナー』2014年6/7月号-2015年8/9号

アビジット・バナジー、エステル・デュフロ (2012) 『貧乏人の経済学』みすず書房

森田果 (2014) 「第18章 DD」『実証分析入門』日本評論社

### 【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%、期末試験 40%。平常点 20%。

教室内試験を実施できない場合は、学習支援システム上のオンライン試験で代替します。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業中に、各自が演習問題を解き、その後に、教員と答え合わせをする、という形式を今年度も継続します。

### 【Outline and objectives】

We will study human capital investment decision such as nutrition, health, schooling, birth decision and risk for poor households in developing countries.

We will also study theoretical models of time inconsistency, expected utility, state space, and empirical methods such as randomized controlled trial, difference in difference method, instrument variable methods, which are useful for studying the decision.

ECN200CA
<b>開発経済論 B</b>
池上 宗信
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

開発経済論 A では、開発途上国の貧困家計の人的資本に関する選択、リスクを学びました。

開発経済論 B では、リスクだけでなく不完全情報も加わった理論モデルをまず学びます。

そして、その理論モデルに基づいて、土地貸借市場、金融市場における家計の選択を学びます。

**【到達目標】**

なぜ、開発途上国では、定額地代ではなく分益小作、個人貸付ではなくグループ貸付が採用されるのでしょうか？

経済学の理論、手法、統計資料にもとづいて、このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を主体的に考察、議論できるようになることを目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本講義は、2021年1月時点で教室を割当られる予定の科目、対面授業の可能性がより大きい科目です。

各講義前の課題として、各自、リーディング・アサイメントを読みます。

各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づきます。授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問します。

授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをします。

対面授業の場合

- 受講生が、授業中の演習問題・答え合わせを紙に記入、提出し、担当教員が採点、スキャンし、学習支援システムを通して返却します。オンライン授業となってしまった場合

- 各講義後の課題として、学習支援システム上の小テストを解きます。

- 受講生は、小テストの各問の正解・不正解を自動フィードバックとして受け取ります。

- 受講生は、中間試験と期末試験の点数を自動フィードバックとして受け取ります。

- 授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	モラル・ハザード	リスク分担とインセンティブ
第2回	アドバース・セクション	完全情報のケース、不完全情報のケース、保険の例
第3回	スクリーニング	保険の例
第4回	分益小作 1	小作人の生産性とスクリーニング
第5回	分益小作 2	小作人の努力水準とモラル・ハザード
第6回	分益小作 3	自作農の努力水準と効用最大化
第7回	復習および中間試験	第1回から第6回までの内容を復習。中間試験。
第8回	分益小作 4	マーシャルの非効率性、リスク分散
第9回	分益小作 5	実証研究
第10回	信用 1	アドバース・セクション
第11回	信用 2	グループ貸付、投資選択
第12回	信用 3	努力選択、返済行動、実証研究

第13回 貯蓄

異時点間効用最大化、実証研究

第14回 復習および期末試験

第8回から第13回までの内容を復習。期末試験。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各講義スライドの基となっている20ページほどの文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読みます。

オンライン授業となってしまった場合、各講義の後に、学習支援システム上の小テストを解きます。

授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習します。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは使用しません。

**【参考書】**

ディーン・カーラン、ジェイコブ・アベル (2013) 『善意で貧困はなくせるのか? 貧乏人の行動経済学』 みすず書房

神取道宏 (2014) 『マイクロ経済学の力』 日本評論社

神戸伸輔 (2004) 『入門ゲーム理論と情報の経済学』 日本評論社

高野久紀 (2014,2015) 『実践 開発経済学 1-8』 『経済セミナー』 2014年6/7月号-2015年8/9号

アビジット・バナジー、エステル・デュフロ (2012) 『貧乏人の経済学』 みすず書房

**【成績評価の方法と基準】**

中間試験 40%、期末試験 40%。平常点 20%。

教室内試験を実施できない場合は、学習支援システム上のオンライン試験で代替します。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業中に、各自が演習問題を解き、その後に、教員と答え合わせをする、という形式を今年度も継続します。

**【Outline and objectives】**

In Development Economics A, we studied human capital investment decision and risk for poor households in developing countries.

In Development Economics B, we will study theoretical model of risk and asymmetric information first.

Then, based on the theoretical model, we will study land and financial markets.

ECN200CA
<b>開発経済入門A</b>
池上 宗信
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済成長の理論と実証分析、伝統的な農業から工業への経済発展のプロセスを学びます。また、これらの開発経済学のトピックを学ぶ準備として、かつ、経済学部1年生向けの経済学入門の補足として、労働需要、所得分配、回帰分析を学びます。

### 【到達目標】

なぜ我が国の経済は大きく、成長が緩やかなのに、サブサハラアフリカの国々の経済は小さく、成長が急激なのでしょう？ 経済学の理論、手法、統計資料にもとづいて、このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を主体的に考察、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

### 【授業の進め方と方法】

本講義は、2021年1月時点で教室を割当てられていない、対面授業よりもオンライン授業の可能性が高い科目です。

各講義前の課題として、各自、リーディング・アサイメントを読みます。

各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づきます。授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問します。

授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをします。

オンライン授業となってしまう場合

- 各講義後の課題として、学習支援システム上の小テストを解きます。  
- 受講生は、小テストの各問の正解・不正解を自動フィードバックとして受け取ります。

- 受講生は、中間試験と期末試験の点数を自動フィードバックとして受け取ります。

- 授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用します。

対面授業の場合

- 受講生が、授業中の演習問題・答え合わせを紙に記入、提出し、担当教員が採点、スキャンし、学習支援システムを通して返却します。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	高校地歴の教育における本授業の意味。労働需要1	生産関数、等利潤線
第2回	労働需要2	利順最大化
第3回	労働需要3、経済成長の指標	所得分配、国民総生産、購買力平価
第4回	経済成長の理論1	ソロー・モデル
第5回	経済成長の理論2	貯蓄率、労働成長率、技術水準の変化
第6回	経済成長の実証分析1	相関と因果、回帰分析、条件付き収束
第7回	まとめと解説、中間試験	第1回から6回までの内容を復習。中間試験。
第8回	経済成長の実証分析2	成長会計、発展会計
第9回	農業1	人口と食料
第10回	農業2	農業の近代化
第11回	二重構造、労働移動1	産業構造転換の記述統計
第12回	二重構造、労働移動2	ルイス・モデル

第13回 二重構造、労働移動3 ハリス＝トダロ・モデル

第14回 まとめと解説、期末試験 第8回から13回までの内容を復習。期末試験。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義スライドの基となっている20ページほどの文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読みます。オンライン授業となってしまった場合、各講義の後に、学習支援システム上の小テストを解きます。

授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習します。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

### 【参考書】

荏開津典生・鈴木宣弘（2020）『農業経済学』岩波書店

ジェトロ・アジア経済研究所他編（2015）『テキストブック開発経済学 第3版』有斐閣

戸堂康之（2015）『開発経済学入門』新世社

### 【成績評価の方法と基準】

中間試験40%、期末試験40%。平常点20%。

教室内試験を実施できない場合は、学習支援システム上のオンライン試験で代替します。

### 【学生の意見等からの気づき】

授業中に、各自が演習問題を解き、その後に、教員と答え合わせをする、という形式を今年度も継続します。この形式をふまえて履修した学生達の意見ですが、この形式に対する反対意見は過去3年間ありません。

### 【Outline and objectives】

We will study growth theory and its empirical studies and review economic development from traditional agriculture to industrialization. Before studying these topics in Development Economics, we will study labor demand, income allocation, and regression analysis, which are not covered by introductory Economics for 1st year undergraduate students.

ECN200CA
<b>開発経済入門B</b>
池上 宗信
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

開発経済入門 A では、経済成長、産業構造転換という経済発展の過程を学びました。開発経済入門 B では、経済発展の潜在的な要因として、貿易、金融を取り上げます。貿易、金融の利益を示す経済学の理論モデル、実証分析を学びます。

**【到達目標】**

なぜ我が国を含む東アジアの国々では、経済に占める貿易の比率が大きく、金融の深化も進んでいるのに、サブサハラアフリカの国々ではまだそれほど進んでいないのでしょうか？

経済学の理論、手法、統計資料にもとづいて、このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を主体的に考察、議論できるようになることを目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本講義は、2021年1月時点で教室を割当てられていない、対面授業よりもオンライン授業の可能性が高い科目です。

各講義前の課題として、各自、リーディング・アサイメントを読みます。

各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づきます。授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問します。

授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをします。

オンライン授業となった場合

- 各講義後の課題として、学習支援システム上の小テストを解きます。

- 受講生は、小テストの各問の正解・不正解を自動フィードバックとして受け取ります。

- 受講生は、中間試験と期末試験の点数を自動フィードバックとして受け取ります。

- 授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用します。

対面授業の場合

- 受講生が、授業中の演習問題・答え合わせを紙に記入、提出し、担当教員が採点、スキャンし、学習支援システムを通して返却します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	高校地歴の教育における本授業の意味。貿易	比較優位、絶対優位
第2回	貿易 2	2 財 1 時点モデル
第3回	貿易 3	国際価格比と比較優位
第4回	貿易 4	貿易政策下の予算制約線
第5回	貿易 5	輸入代替工業化、実証分析
第6回	金融 1	異時点間効用最大化
第7回	まとめと解説、中間試験	第1回から第6回までの内容を復習。中間試験。
第8回	金融 2	金融仲介の便益、1 財 2 時点モデル
第9回	金融 3	割引現在価値、異時点間の予算制約線
第10回	金融 4	貿易と国際資本移動の便益
第11回	金融 5	マクドゥーガル=ケンプ・モデル、実証分析

第12回	起業 1	一般均衡
第13回	起業 2	貧困の罭、実証研究
第14回	まとめと解説、期末試験	第8回から第13回までの内容を復習。期末試験。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各講義スライドの基となっている 20 ページほどの文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読みます。

オンライン授業となった場合、各講義の後に、学習支援システム上の小テストを解きます。

授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習します。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは使用しません。

**【参考書】**

澤田康幸（2003）『基礎コース 国際経済学』新世社

高橋橋樹、福井清一編（2008）『経済開発論：研究と実践のフロンティア』勁草書房

戸堂康之（2015）『開発経済学入門』新世社

ハナジマー、テュフロ（2012）『貧乏人の経済学』みすず書房

**【成績評価の方法と基準】**

中間試験 40%、期末試験 40%。平常点 20%。

教室内試験を実施できない場合は、学習支援システム上のオンライン試験で代替します。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業中に、各自が演習問題を解き、その後に、教員と答え合わせをする、という形式を今年度も継続します。この形式をふまえて履修した学生達の意見ですが、この形式に対する反対意見は過去 3 年間ありません。

**【Outline and objectives】**

In Introductory Development Economics A, we studied economic development as a process. In Introductory Development Economics B, we will study trade and finance as factors of economic development. We will review economics models showing benefits of trade and finance and empirical studies.

ECN200CA
<b>経済学史 A</b>
平瀬 友樹
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、経済理論の歴史について解説を行うものである。この経済学史Aにおいては、ケインズ以前の経済理論について講義を行う。なお、経済史ではなく、経済学＝理論分析の歴史を扱う科目であることに注意すること。

#### 【到達目標】

経済理論の形成過程が、市場原理について肯定的な思想とそれに否定的な思想との対立によって、生み出されてきたものであるということに力点を置きながら、社会経済学と新古典派経済学の成立過程について解説を行う。そもそも、『国富論』によって経済学が成立するはるか以前より、保護主義的思想と自由主義的思想の対立が続いてきた。したがって、価値論を中心に据えながら、社会経済学と現代経済学の対立および論点について学ぶことは、人間の思考や社会制度そのものを学ぶことと同義であると言えよう。なお、経済史ではなく、経済学＝理論分析の歴史を扱う科目であることに注意すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

動画配信形式で講義を行う。なお、課題に対するフィードバックが必要な場合には支援システムの登録アドレスへ直接送るので、PCからのメールを受け取れるように準備しておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	学説史研究の意義	大学での研究および社会教育における本講義の意義
第 2 回	アダム・スミス以前の経済理論について	重商主義と重農主義について
第 3 回	アダム・スミスの経済理論について	2つの価値論の誕生・現代経済学と社会経済学の違い
第 4 回	リカードの経済理論について	穀物法論争と差額地代論・現代にも通じる論争と政策決定
第 5 回	リカードの経済理論の成立	比較生産費説について・理論で考えるということ
第 6 回	J.S. ミルの経済理論について	古典派経済学の限界・資本主義をどうとらえるべきか
第 7 回	マルクスの短期的経済分析	搾取とは何か・貧富の格差と投下労働価値説
第 8 回	マルクスの長期的経済分析	利潤率低下の法則とは何か
第 9 回	マルクス経済学の評価について	転化問題を中心に・マルクスの現代的意義について
第 10 回	限界革命について	現代的な価値論の確立・科学革命とは何か
第 11 回	限界革命の立役者たち	ワルラスを中心に
第 12 回	新古典派経済学の成立	マーシャルの経済学・需給による価格決定分析の成立
第 13 回	新古典派経済学に対する挑戦	独占的競争市場の分析を中心に
第 14 回	総復習	授業内試験およびその解説・この講義で学んだことをどう活かすか

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本科目は経済史ではなく、経済学史＝理論の歴史である。そのため、『現代経済学入門』を履修しておくか、あるいはマイクロ経済学・マクロ経済学について同等の予備知識があることは望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

追って指示する。さらに授業支援システムより補足レジュメを各自でダウンロードすること。

#### 【参考書】

その他にも必要に応じてその都度指示する。

#### 【成績評価の方法と基準】

コロナ対応につき、教育支援システムより提出する 10 回のレポートで 100 % 評価とする。ただし、レポートについては、手書き（apple pencil などアプリは不可）等厳密な条件を課すので、講義内の指示に従うこと。

#### 【学生の意見等からの気づき】

音声ファイルよりも評判が良いので、動画配信形式で講義を行う予定である。

#### 【その他の重要事項】

すべてのアナウンスは教育支援システムのお知らせ欄で行うため、必ず確認をお願いします。また、支援システムの掲示板は使っていないので、連絡は hirase@hosei.ac.jp をお願いします。

#### 【Outline and objectives】

This course introduces the history of economic thought before the Keynesian revolution to students taking this course. In addition, the aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to understand economic theory, especially micro economics and Marxian economics.

ECN200CA
<b>経済学史 B</b>
平瀬 友樹
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、経済理論の歴史について解説を行うものである。この経済学史Bにおいては、主にケインズ以降の経済理論について講義を行う。なお、経済史ではなく、経済学=理論分析の歴史を扱う科目であることに注意すること。

#### 【到達目標】

経済理論の形成過程が、市場原理について肯定的な思想とそれに否定的な思想との対立によって、生み出されてきたものであるということに焦点を置きながら、IS-LM 分析を中心とする旧マクロ経済学とルーカス批判以降の新マクロ経済学の成立過程について解説を行う。旧マクロ経済学と新マクロ経済学の対立および論点について学ぶことは、経済学史 A と同様に、単なる理論的知識の習得にとどまらず、人間の思考や社会制度そのものを学ぶことと同義である。なお、経済史ではなく、経済学=理論分析の歴史を扱う科目であることに注意すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

動画配信形式で講義を行う。なお、課題に対するフィードバックが必要な場合には支援システムの登録アドレスへ直接送るので、PC からのメールを受け取れるように準備しておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	大学での研究および社会教育における本講義の意義
第 2 回	ケインズ革命以前のマクロ経済思想	貨幣数量説と市場に対する評価
第 3 回	ケインズ革命によって失われたマクロ経済分析	ヴィクセルによる累積過程の分析
第 4 回	ケインズ革命	ケインズ自身の理論について・科学革命の実際
第 5 回	ケインズ革命の普及	ヒックスによる IS - LM 分析・その功績と功罪について
第 6 回	ケインズ革命にみる理論と実際	消費関数および投資関数をめぐる論争、理論と現実の捉え方
第 7 回	戦後の経済理論の発展について	ケインジアンによる経済成長論
第 8 回	経済成長論の誕生	新古典派による経済成長論
第 9 回	新古典派総合の誕生	理論と政策の関係性について
第 10 回	新古典派総合の終焉	自然失業率仮説とスタグフレーション
第 11 回	新しいマクロ経済学の誕生	ルーカス批判とは何か 新自由主義との関連について
第 12 回	計量経済学の誕生	IS-LM 分析ベースの定量的分析の紹介
第 13 回	現代の経済学について	ルーカス批判を超えて・RBC を中心に
第 14 回	総復習	授業内試験およびその解説・この講義で学んだことをどう活かすか

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本科目は経済史ではなく、経済学史=理論の歴史である。そのため、『現代経済学入門』を履修しておくか、あるいはミクロ経済学・マクロ経済学について同等の予備知識があることは望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

追って指示する。

#### 【参考書】

井上義朗『コア・テキスト 経済学史』新世社  
その他にも必要に応じてその都度指示する。

#### 【成績評価の方法と基準】

コロナ対応につき、教育支援システムより提出する 10 回のレポートで 100 % 評価とする。ただし、レポートについては、手書き（apple pencil などアプリは不可）等厳密な条件を課すので、講義内の指示に従うこと。

#### 【学生の意見等からの気づき】

音声ファイルよりも評判が良いので、動画配信形式で講義を行う予定である。

#### 【その他の重要事項】

すべての連絡は授業支援システムのお知らせ欄に記載します。また、支援システムも掲示板は使用せず、連絡は hirase@hosei.ac.jp お願いします。

#### 【Outline and objectives】

This course introduces the history of economic thought after the Keynesian revolution to students taking this course. In addition, the aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to understand economic theory, especially macro economics.

ECN200CD
<b>経済地理 A</b>
<b>近藤 章夫</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、世界の国・地域、アジアと日本、日本国内の都市と地方などの地理的スケールを範囲とし、経済地理学的な思考方法や分析枠組を用いて、人口構造と経済成長、産業の立地論、経済の空間構造（都市経済）、国土政策と地域経済、の諸問題について多角的に論じる。

### 【到達目標】

日本を中心とした世界の国・地域における経済活動の地理的側面について共通したメカニズムと実態を経済学的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

本講義は教室での講義とオンデマンド形式（動画配信）の併用で進める。

経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の基礎理論やモデルをベースにして国内外の社会経済動向や研究事例を用いながら解説していく。講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。授業開始日（ガイダンス資料配付）は4月27日、動画配信は5月4日開始となる。動画視聴の期間は各回3週間なので、計画的に視聴して欲しい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要とスケジュール、学習のポイント
第2回	人口と地域格差①	人口構造と人口転換
オンデマンド		
①		
第3回	人口と地域格差②	人口動態と人口問題
オンデマンド		
②		
第4回	人口と地域格差③	人口と経済成長
第5回	産業の立地①	立地論の基礎
オンデマンド		
③		
第6回	産業の立地②	工業立地論と事例
オンデマンド		
④		
第7回	産業の立地③	組織論的立地論と事例
第8回	経済の空間構造①	都市化と都市構造
オンデマンド		
⑤		

第9回 経済の空間構造② 都市発展と都市システム

オンデマンド

⑥

第10回 経済の空間構造③ 都市の理論・モデルと実際

第11回 国土政策と地域経済① 日本の地域構造と地域間格差

回 オン

デマ

ンド

⑦

第12回 国土政策と地域経済② 国土政策と地域政策の系譜と現状

回 オン

デマ

ンド

⑧

第13回 まとめ・総括 経済活動と地理的スケールの重層性について

回 オン

デマ

ンド

⑨

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

### 【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

### 【参考書】

河野桐果（2000）『世界の人口（第2版）』東京大学出版会  
 デイヴィッド・N・ワイル（2010）『経済成長（第2版）』ピアソン  
 桐原  
 松原宏編著（2013）『現代の立地論』古今書院  
 山田浩之・徳岡一幸編（2018）『地域経済学入門（第3版）』有斐閣  
 竹内淳彦・小田宏信編著（2014）『日本経済地理読本（第9版）』東洋経済新報社

### 【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（60%）、通常授業時リアクションペーパーおよびオンデマンド授業の課題（40%）で評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

### 【その他の重要事項】

本講義は一部の授業回をオンデマンド形式（動画配信）で実施する。詳細は、第1回授業の際に説明する。学期中は学習支援システムを用いて、課題の提示等を行うので、定期的に確認すること。なお、履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

### 【Outline and objectives】

The aim of this lecture is to give participants a conceptual and empirical overview of modern economic geographical studies. These include economic growth and population, urban and regional problems, industrial location, spatial economic structure, and land policy.

ECN200CD
<b>経済地理 B</b>
<b>近藤 章夫</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、生産性と創造性に関わる経済活動の集積に注目し、産業集積や都市集積の盛衰メカニズムに関する具体的かつ実践的な思考力を身につけることを目的として、経済学における集積論の到達点とその含意を論じる。

#### 【到達目標】

日本を中心とした世界の都市・産業地域における経済活動の集積事象について共通したメカニズムを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

本講義は教室での講義とオンデマンド形式（動画配信）の併用で進める。

経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の一分野である集積論を扱い、古典的な集積論から新しい産業集積論までの系譜を理解するとともに、国内外の事例にもとづいて講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第 2 回	集積論の系譜①	A.Weber と A.Marshall の集積論
オンデマンド		
①		
第 3 回	集積論の系譜②	外部経済と集積の経済
オンデマンド		
②		
第 4 回	集積論の系譜③	現代経済における集積の意義
第 5 回	現代の集積論①	新しい集積論の潮流、サードイタリー
オンデマンド		
③		
第 6 回	現代の集積論②	クラスター論とネットワーク論
オンデマンド		
④		
第 7 回	現代の集積論③	空間経済学と集積
第 8 回	日本の都市・産業集積	産地と企業城下町
オンデマンド	①	
⑤		
第 9 回	日本の都市・産業集積	都市集積とネットワーク型集積
オンデマンド	②	
⑥		

第 10 回 産業集積のダイナミズム 産業のグローバル化

第 11 回 自動車産業の集積① 系列、近接性、JIT 生産システム  
オンデマンド⑦

第 12 回 自動車産業の集積② 日本的生産システムの海外展開  
オンデマンド⑧

第 13 回 講義の小括・まとめ 経済学における集積論の現在

第 14 回 ハイテク産業の集積 シリコンバレーモデルと産学連携  
オンデマンド⑨

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

#### 【参考書】

石倉洋子ほか編著（2003）『日本の産業クラスター戦略』有斐閣  
川端基夫（2013）『立地ウォーズ（改訂版）』新評論  
アナリー・サクセニアン（2009）『現代の二都物語』日経 BP 社  
藤田昌久・ジャック・F・ティス（2017）『集積の経済学』東洋経済新報社  
山本健児（2005）『産業集積の経済地理学』法政大学出版局

#### 【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（60%）、通常授業時リアクションペーパーおよびオンラインの小テスト（平常点 40%）で評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

#### 【その他の重要事項】

本講義は一部の授業回をオンデマンド形式（動画配信）で実施する。詳細は、第 1 回授業の際に説明する。学期中は学習支援システムを用いて、課題の提示等を行うので、定期的に確認すること。なお、履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

#### 【Outline and objectives】

The aim of this lecture is to give participants a conceptual and experimental overview of industrial agglomeration in economic geography. Key themes focus on innovation, technological and managerial change, productivity, creativity, globalization, and changing geographies of spatial convergence.

ECN200CA
<b>経済の数理 A</b>
佐柄 信純
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学やゲーム理論の分析を支える数学の題材を厳選して講義します。実数の公理、集合と位相、実数列と級数、実数列の極限を丁寧に解説します。計算力と同時に抽象的思考能力を養うのが本講義の目的です。また、数学の奥深さを知ってもらうために、難問に挑んだ数学者に関するテレビ番組（NHK スペシャル）や映画を数回視聴します。

#### 【到達目標】

受講者に求められるのは、自分の頭で考え、論理を粘り強く追って行く根気です。本講義を通して「(数学の) 本を読むとはどういうことなのか」を受講者に自覚的に認識してもらうとともに、「分かって嬉しい」という純真無垢な喜びも味わって欲しいと思います。経済分析への応用を常に念頭に置きますので、公務員・公認会計士試験、大学院受験の対策としても本講義を活用することができます。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

数学は「積み重ね」の学問です。それまでに導入した概念に基づき、新たな概念を構築する形で講義は進みます。動機付け → 定義 → 例 → 定理 → 証明 → 反例という流れに沿い、板書を中心に授業を進めます。随時、演習問題と宿題を課し、採点の上、返却します。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	実数 (1)	はじめに、四則演算
第 2 回	実数 (2)	順序
第 3 回	実数 (3)	連続の公理、実数体
第 4 回	複素数	複素数体
第 5 回	ユークリッド空間	内積、ノルム
第 6 回	位相の導入 (1)	有限集合、可算集合、非可算集合
第 7 回	位相の導入 (2)	距離空間
第 8 回	位相の導入 (3)	コンパクト集合
第 9 回	位相の導入 (4)	連結集合
第 10 回	実数列と級数 (1)	収束列、部分列
第 11 回	実数列と級数 (2)	コーシー列
第 12 回	実数列と級数 (3)	上極限、下極限
第 13 回	実数列と級数 (4)	級数、正項級数
第 14 回	実数列と級数 (5)	冪級数、絶対収束

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義ノートの該当箇所を事前に読んで上で授業に出席することが求められます。授業内での問題演習を重視し、必要に応じて、適宜、宿題を課します。毎回の講義につき、予習 1 時間、復習 2 時間、宿題 1 時間の学習が必要になります。

#### 【テキスト（教科書）】

使用しません。

#### 【参考書】

- [1] 内田伏一『集合と位相（増補新装版）』（裳華房、2020 年）
- [2] 杉浦光夫『解析入門 I』（東京大学出版会、1980 年）
- [3] 松坂和夫『集合・位相入門』（岩波書店、1968 年）
- [4] 丸山徹『経済数学』（知泉書館、2002 年）
- [5] C.D. Aliprantis and O. Burkinshaw, *Principles of Real Analysis*, 3rd ed., Academic Press, 1998

[6] W. Rudin, *Principles of Mathematical Analysis*, 3rd ed., McGraw-Hill, New York, 1976 [初版 (1964 年) の邦訳, W. ルディン『現代解析学』（近藤甚吉・柳原二郎 訳）, 共立出版, 1971 年] このうち、講義内容に最も近い教科書は [2], [6] です。

#### 【成績評価の方法と基準】

レポート提出 (80%) と平常授業時に行う問題演習 (20%) の総合評価。

#### 【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に合わせて授業の進行スピードを調整します。

#### 【Outline and objectives】

In this course the axioms of real numbers, basic topology, numerical sequences and series, and the limit of sequences are lectured.

ECN200CA
<b>経済の数理 B</b>
佐柄 信純
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ミクロ経済学やゲーム理論の分析を支える数学の題材を厳選して講義します。関数の連続性、集合の濃度、集合論の公理を丁寧に解説します。計算力と同時に抽象的思考能力を養うのが本講義の目的です。また、数学の奥深さを知ってもらうために、難問に挑んだ数学者に関するテレビ番組（NHK スペシャル）や映画を数回視聴します。

**【到達目標】**

受講者に求められるのは、自分の頭で考え、論理を粘り強く追って行く根気です。本講義を通して「(数学の) 本を読むとはどういうことなのか」を受講者に自覚的に認識してもらうとともに、「分かって嬉しい」という純真無垢な喜びも味わって欲しいと思います。経済分析への応用を常に念頭に置きますので、公務員・公認会計士試験、大学院受験の対策としても本講義を活用することができます。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

数学は「積み重ね」の学問です。それまでに導入した概念に基づき、新たな概念を構築する形で講義は進みます。動機付け → 定義 → 例 → 定理 → 証明 → 反例という流れに沿い、板書を中心に授業を進めます。随時、演習問題と宿題を課し、採点の上、返却します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	連続性 (1)	関数の極限
第 2 回	連続性 (2)	連続関数
第 3 回	連続性 (3)	連続性とコンパクト性
第 4 回	連続性 (4)	連続性と連結性
第 5 回	集合の濃度 (1)	全射, 単射
第 6 回	集合の濃度 (2)	濃度の大小
第 7 回	集合の濃度 (3)	二項関係
第 8 回	整列集合と選択公理 (1)	整列集合
第 9 回	整列集合と選択公理 (2)	選択公理
第 10 回	整列集合と選択公理 (3)	整列可能定理
第 11 回	集合論の公理 (1)	ラッセルのパラドックス
第 12 回	集合論の公理 (2)	外延性公理, 集合
第 13 回	集合論の公理 (3)	非順序対, 合併, 無限公理
第 14 回	集合論の公理 (4)	分出公理, 共通部分, 冪集合

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

講義ノートの該当箇所を事前に読んで上で授業に出席することが求められます。授業内での問題演習を重視し、必要に応じて、適宜、宿題を課します。毎回の講義につき、予習 1 時間、復習 2 時間、宿題 1 時間の学習が必要になります。

**【テキスト（教科書）】**

使用しません。

**【参考書】**

- [1] 内田伏一『集合と位相（増補新装版）』（裳華房，2020 年）
- [2] 杉浦光夫『解析入門 I』（東京大学出版会，1980 年）
- [3] 松坂和夫『集合・位相入門』（岩波書店，1968 年）
- [4] 丸山徹『経済数学』（知泉書館，2002 年）

[5] C.D. Aliprantis and O. Burkinshaw, *Principles of Real Analysis*, 3rd ed., Academic Press, 1998

[6] W. Rudin, *Principles of Mathematical Analysis*, 3rd ed., McGraw-Hill, New York, 1976[初版 (1964 年) の邦訳, W. ルーディン『現代解析学』(近藤甚吉・柳原二郎 訳), 共立出版, 1971 年] このうち、講義内容に最も近い教科書は [1], [3] です。

**【成績評価の方法と基準】**

レポート提出 (80%) と平常授業時に行う問題演習 (20%) の総合評価。

**【学生の意見等からの気づき】**

学生の理解度に合わせて授業の進行スピードを調整します。

**【Outline and objectives】**

In this course convex analysis, fixed point theorems, and optimization theory are lectured.

PRI200CA
データ解析入門A
宮脇 典彦
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計学の基本的な考え方に基づき、図やグラフを描き、基本統計量を計算し、2 つの変数の間の関係を確認するなどの、データ解析の基本的な手法を身につける。

#### 【到達目標】

数値データおよびカテゴリデータの基礎的な解析手法を学習し、実際にアンケート調査を実施することで応用力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

授業は実習形式で行います。Windows 上で「SPSS」という統計解析用のソフトウェアを用いてデータの集計・表や解析を行いますので、Windows の操作ができることが履修の前提となります。

実習として4～5人のグループを作り、ある団体から依頼されたというシナリオの下に、アンケート調査を企画します。秋学期の「データ解析入門B」でこのアンケート調査を実施し集計・分析するので、必ず同一年度に合わせて履修してください。（コロナ対策のためオンラインで授業を行う場合は、自宅等からネットワークを通じて SPSS に接続し、アンケート調査は LINE や Zoom を用いて学生間で協力して作業を進めていくことになります。）

課題やアンケート調査については、授業中もしくは授業支援システムを通じてフィードバックします。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	概説	データ解析と統計ソフトの概説
第2回	尺度構造と入力	変数の尺度構造・データの入力方法
第3回	データの加工	新しい変数の作成、ソーティング
第4回	数値データの解析 (1)	入力とグラフ化
第5回	数値データの解析 (2)	基本統計量とは
第6回	数値データの解析 (3)	基本統計量を求める
第7回	数値データの解析 (4)	2つの変数の関係
第8回	カテゴリデータの解析 (1)	入力と加工
第9回	カテゴリデータの解析 (2)	集計とグラフ化
第10回	カテゴリデータの解析 (3)	2つの変数の関係
第11回	カテゴリデータの解析 (4)	多重回答データの処理
第12回	アンケート調査 (1)	基本設計
第13回	アンケート調査 (2)	詳細設計
第14回	小テスト・アンケート調査 (3)	パイロットサンプルによる最終設計

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習・・・1時間

SPSS の復習・・・1時間

演習課題・・・2時間

#### 【テキスト（教科書）】

宮脇・和田・阪井著『SPSSによるデータ解析の基礎（改訂版）』培風館、2011年

#### 【参考書】

テキストに必要な参考書は指定してあります。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)

レポートとアンケート調査設計 (30%)

小テスト (40%)

※コロナ対策のためオンライン授業になる場合は、上記の小テストをレポート課題に変更します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

毎回新しい手法を学ぶので大変だという声が多いので、必ず前の週の復習を20分ほどかけて行っています。

#### 【学生が準備すべき機器他】

実習室に設置されたパソコンを使用します。自宅から作業を行う場合には、パソコンとネットワーク環境が必要です。

#### 【Outline and objectives】

We learn and acquire basic methods of data analysis such as creation of tables and graphs, calculation of basic statistics, and confirmation of relationship between two variables.

PRI200CA
データ解析入門B
宮脇 典彦
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

① アンケート調査の実施と解析を通じて、データ解析の基本的な知識とスキルを実践的に身につける。

② 回帰分析の基本的な理論を学び、実際のデータを用いて回帰モデルを作成することにより回帰分析のスキルを身につける。

#### 【到達目標】

アンケート調査の分析結果を報告書にまとめ履修者全員の前で発表することにより、データ解析の手法を経験的に体得するとともにプレゼンテーション能力をも身につける。後半では、回帰分析における最小二乗法の考え方、推定および検定、変数選択法などの基礎的な理論を学び、実際のデータを用いて回帰モデルを作成することにより、回帰分析における一連のスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP6」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP9」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

前半には、春学期に行ったアンケート調査を実施し、その解析を進め、グループ毎に結果を発表してもらいます。後半では「回帰分析」とよばれる手法を解説し、実際のデータを用いて各自がオリジナルな回帰モデルを構築します。

課題やアンケート調査については、授業中もしくは授業支援システムを通じてフィードバックします。（「データ解析入門A」をその年度に履修していることが、本科履修の前提となります。）

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	アンケート調査 (1)	データの入力
第2回	アンケート調査 (2)	単純集計
第3回	アンケート調査 (3)	クロス集計
第4回	アンケート調査 (4)	総合的な分析 1
第5回	アンケート調査 (5)	総合的な分析 2
第6回	アンケート調査発表 (1)	前半のグループのプレゼンテーション
第7回	アンケート調査発表 (2)	後半のグループのプレゼンテーション
第8回	回帰分析の基礎	相関と回帰・最小二乗法の考え方
第9回	単回帰分析 (1)	回帰係数の推定
第10回	単回帰分析 (2)	決定係数、回帰係数の検定
第11回	重回帰分析 (1)	回帰係数の推定、決定係数と F 検定
第12回	重回帰分析 (2)	各回帰係数の検定・変数選択法
第13回	回帰モデルの作成 (1)	回帰モデルの作成
第14回	回帰モデルの作成 (2)	作成した回帰モデルの評価

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習・・・1時間

SPSS の復習・・・1時間

演習課題・・・2時間

#### 【テキスト（教科書）】

宮脇・和田・阪井著『SPSSによるデータ解析の基礎（改訂版）』培風館、2011年

#### 【参考書】

教科書に必要な参考書は指定してあります。

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)

アンケート調査報告書・プレゼンテーション (30%)

回帰モデルレポート (40%)

#### 【学生の意見等からの気づき】

「回帰分析が難しい」というコメントが多いので、できる限り平易に説明するよう心がけています。

#### 【学生が準備すべき機器他】

実習室に設置されたパソコンを使用します。自宅から作業を行う場合には、パソコンとネットワーク環境が必要です。

#### 【Outline and objectives】

1. We acquire the basic knowledge and skills of data analysis through implementation and analysis of questionnaire survey created in "Introduction to Data Analysis A".

2. We learn and acquire the basic theory and skills of regression analysis by creating regression models using actual data.

ECN200CA
<b>アメリカ経済論 A</b>
下斗米 秀之
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

アメリカは戦後世界の経済秩序モデルを構築し、現在にいたるまで経済力や軍事力、文化や教育水準などで国際社会において最大級の影響力を持ち続けている。一方で環境問題や不法移民の流入、低所得者層の貧困問題など問題大国でもある。本講義では、経済大国として世界をリードするアメリカ経済の歴史と現状について、時代を画期する政策や出来事、事件を通じて解き明かし、グローバル経済におけるアメリカの役割について理解を深める。

**【到達目標】**

アメリカ経済史にあらわれた諸問題の原因と過程、その帰結を学ぶことを通じて、現代アメリカ経済を正しく理解し、激変するグローバル経済の行方を展望するための視座を獲得する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義は、Zoom を用いたオンデマンド型授業で実施する。事前に講義資料と動画を配信するので、受講生は動画を視聴し、指定された課題を提出する。質問やコメントがあれば翌週以降に動画の中で回答する。講義では参考文献や動画等を紹介するので、提出課題の作成には利用すること。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	アメリカ経済論を学ぶ意義。
第 2 回	アメリカ経済を見る視点	アメリカ経済の特色。
第 3 回	20 世紀転換期のアメリカ	産業構造の変化、農民・労働運動、貿易・国際収支構造の変化。
第 4 回	第一次世界大戦	参戦とその意義。
第 5 回	繁栄の 1920 年代の光と影	大量消費社会の形成。
第 6 回	大恐慌とニューディール	世界大恐慌とニューディール政策。
第 7 回	第二次世界大戦とアメリカの世紀	パクス・アメリカーナの形成。
第 8 回	米ソ冷戦と開発援助	東西冷戦の時代と開発援助競争。
第 9 回	保守の時代とレーガノミクス	パクス・アメリカーナの動揺と新自由主義政策。
第 10 回	ニューエコノミーと IT 革命	1990 年代のアメリカ経済と IT 革命。
第 11 回	バブルと世界金融危機	IT バブルと住宅バブル、リーマン・ショック。
第 12 回	多極化する世界	新興国の台頭とアメリカ経済。
第 13 回	「トランプ」現象	「トランプ現象」の背景と課題。
第 14 回	米中対立の行方	米中対立と 21 世紀の覇権国。まとめ。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

予習として、指定される参考文献をよく読み、単元について理解を深める。復習はレジュメや参考文献をもとに課題レポートに取り組む。それぞれ 2 時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

坂出健、秋元英一、加藤一誠編『入門アメリカ経済 Q & A100』中央経済社、2019 年。

**【参考書】**

河村哲二『現代アメリカ経済』有斐閣アルマ、2009 年。  
地主敏樹、村山裕三、加藤一誠『現代アメリカ経済論』ミネルヴァ書房、2012 年。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験を中心に評価するが、授業の中でリアクションペーパーの提出を求める。

授業態度、提出課題（30%）期末試験（70%）

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

**【学生が準備すべき機器他】**

とくになし。

**【その他の重要事項】**

秋学期のアメリカ経済論 B とあわせて履修すること。

**【担当教員の専門分野等】**

アメリカ経済史、国際経済史

**【Outline and objectives】**

The U.S. established the model for the post-war world economic order, and to this day it continues to be one of the most influential countries in the international community in all aspects, including economic power, military power, culture, and educational standards. On the other hand, the U.S. is also a country with major problems such as environmental issues, influx of illegal immigrants, and poverty among low-income people. In this lecture, we will examine the history and current state of the U.S. economy, which leads the world as an economic powerhouse, through the policies, events, and incidents that marked the era, and deepen our understanding of the role the U.S. has played in the global economy.

ECN200CA
<b>アメリカ経済論 B</b>
下斗米 秀之
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル資本主義経済を生きるわれわれにとって、経済大国として世界をリードするアメリカの動向を理解することは不可欠である。本講義では、春学期に学んだアメリカ経済の歴史を踏まえたうえで、現代アメリカ経済の理解に不可欠な移民や医療、格差や貧困など、特に重要だと思われるトピックを取り上げて、アメリカ経済の現状と課題について理解を深める。

#### 【到達目標】

現代アメリカ経済が抱える諸問題の内容やその歴史的な背景を正しく理解し、グローバル経済の行方を展望するための視座を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

講義は、Zoom を用いたオンデマンド型授業で実施する。事前に講義資料と動画を配信するので、受講生は動画を視聴し、指定された課題を提出する。質問やコメントがあれば翌週以降に動画の中で回答する。講義では参考文献や動画等を紹介するので、提出課題の作成の際には利用すること。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	アメリカ経済の特色	特殊アメリカの地理的、社会的、制度的要因。
第 2 回	アメリカ経済成長の源泉	巨大な市場と大量生産方式。
第 3 回	自由企業体制 1	アメリカ企業の経営システム、近代企業の生成と発展。
第 4 回	自由企業体制 2	アメリカ企業の戦略と組織、IT 産業の変化。
第 5 回	アメリカの移民問題 1	アメリカ経済史と移民労働者。
第 6 回	アメリカの移民問題 2	現在の不法移民問題。
第 7 回	アメリカの教育政策	アメリカ教育政策の歴史と課題。
第 8 回	技術政策と研究開発	産官学の研究開発体制の成立と変遷。
第 9 回	アメリカの医療制度	医療保険制度改革。
第 10 回	アメリカの財政	アメリカ財政の規模と構造、財政赤字問題。
第 11 回	アメリカの金融	金融危機と金融政策。
第 12 回	格差と貧困	所得格差の実態と格差社会。
第 13 回	アメリカの環境政策	地球温暖化政策とエネルギー問題。
第 14 回	アメリカ経済の展望と課題	講義のまとめと展望。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、指定される参考文献をよく読み、単元について理解を深める。復習はレジュメや参考文献をもとに課題レポートに取り組む。本授業の準備・復習時間として、それぞれ 2 時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

坂出健、秋元英一、加藤一誠編『入門アメリカ経済 Q & A100』中央経済社、2019 年。

#### 【参考書】

谷口明丈、須藤功編『現代アメリカ経済史—「問題大国」の出現』有斐閣、2017 年。

河村哲二『現代アメリカ経済』有斐閣アルマ、2009 年。

地主敏樹、村山裕三、加藤一誠『現代アメリカ経済論』ミネルヴァ書房、2012 年。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験を中心に評価するが、授業の中でリアクションペーパーの提出を求める。

授業態度、提出課題（30%）期末試験（70%）

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

#### 【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

#### 【その他の重要事項】

春期開講のアメリカ経済論 A とあわせて履修する。

#### 【Outline and objectives】

For those of us who live in a global capitalist economy, it is essential to understand the trends of the United States, which leads the world as an economic superpower. In this lecture, based on the history of the U.S. economy studied in the spring semester, we will deepen our understanding of the current status and challenges of the U.S. economy by focusing on topics that we consider particularly important for understanding the modern U.S. economy.

ECN200CA
<b>ヨーロッパ経済論 A</b>
<b>伊東 林蔵</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

産業革命期から第二次世界大戦終結までのヨーロッパ経済の歴史を、主にドイツを中心に考察していく。その中でも産業革命におけるイギリスの覇権、第二次産業革命におけるアメリカとドイツ自体の台頭、ソ連や日本の経済発展の中で、ドイツが覇権を追求し、挫折し、「ヨーロッパのドイツ」として協調し、欧州統合に向かう過程を考察する。

**【到達目標】**

ヨーロッパにおいてドイツとはどのような位置を占め、ヨーロッパの経済体制をどのように形成してきたか理解を深める。  
現代ヨーロッパの最も「大きな物語」である欧州経済統合は、戦前のどのような歴史的蓄積の上に築かれたか理解を深める。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

- ・春学期は学習支援システムを利用したオンライン講義が行われる。一講義ごと主要テーマを設定し、各回の講義をパワーポイント形式で学習支援システム教材欄に掲載し必要に応じて Zoom を通じた授業を行う。
- ・図表や画像の表示、映像資料などを用いつつ対象の理解を深める。
- ・春学期は学習支援システムを利用した学習が行われる。毎回の授業にあたり、その都度、学習支援システムに掲載される指示に従うこと。第一回目の授業は今期講義の導入説明を発信するので、授業時間にあわせシステム閲覧のこと。アクセスが集中して接続できないことを考慮し、本来の授業時間外での閲覧も可能とする。
- ・オンラインであることから、授業への理解度がわかりにくいので、小テストや質問時間を設け、学生の理解度を掴み、意見を聞き、後の授業の冒頭に答えを提示する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	何故、歴史から学ぶのか？ 「ヨーロッパのドイツ」 本講義の全体的テーマ 留意点等
第 2 回	イギリス産業革命	「産業革命」とは何か？ 技術革新 工場制の成立 資本主義 「悲観論」と「楽観論」等
第 3 回	ヨーロッパ大陸の産業革命	後発資本主義国 ドイツ関税同盟と産業革命 「大ドイツ」か「小ドイツ」か？ 1848 年の革命 フランスは停滞した農業国家か？ 等
第 4 回	「ボックス・ブリタニカ」	大英帝国の覇権と海軍力 自由貿易帝国主義 ジェントルマン資本主義 選挙法改正運動 工場法 社会主義の誕生等
第 5 回	第二次産業革命	ドイツ帝国成立 1873 年大不況 集中と大企業の出現 新産業の登場 金融資本の成立 アメリカの台頭 ドイツの社会政策等
第 6 回	世紀転換期における自由主義の変容	労働運動の隆盛 社会帝国主義 イギリス自由党の社会改革 新自由主義 (New Liberalism) 改革等
第 7 回	第一次世界大戦前夜	ヴィルヘルム二世の世界政策 独占体制の成立 コーポラティズムの形成 中小企業の発展 中東欧への進出 大陸ヨーロッパ統合構想等
第 8 回	第一次世界大戦	総力戦体制 国家介入の拡大 女性の社会進出 戦災 アメリカの参戦等
第 9 回	ヴェルサイユ条約とヴァイマル共和国の成立	領土割譲 賠償金 ヴァイマル憲法の成立 労使協調 賠償不履行政策 ハイパーインフレーション等
第 10 回	ヴェルサイユ・ヴァイマル体制	相対的安定期 賠償履行政策 産業合理化 カルテルとコンツェルン アメリカナイゼーション 中間層の危機意識 大衆消費社会の萌芽等
第 11 回	ヨーロッパ経済統合の起源？	中欧思想 汎ヨーロッパ運動 生存圏構想 国際租鋼共同体 IG オイローバ等

第 12 回 大恐慌

再建金本位制の崩壊 ブロック経済 新自由主義 (Neo-Liberalism) の起源等

第 13 回 ナチズム体制の成立

強制的均整化 第一次四ヶ年計画と景気回復 第二次四ヶ年計画と戦時経済体制 アウタルキー等

第 14 回 第二次世界大戦

電撃戦 軍需と重化学工業 強制労働 戦後構想等

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

・レポートの提出を求める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間の合計 4 時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は指定しない。テーマごとに必要な参考文献を講義で指示、講義レジュメを学習支援システム上に掲載する。

**【参考書】**

- ・原輝史/工藤章編『現代ヨーロッパ経済史』有斐閣 1996.
- ・小島健『欧州建設とベルギー』日本経済評論社 2007.
- ・古内博行『現代ドイツ経済の歴史』東京大学出版会 2007.
- ・馬場哲/山本通/廣田功/須藤功著『エレメンタル欧米経済史』見洋書房 2012.
- ・小野塚知二『経済史』有斐閣 2018.

**【成績評価の方法と基準】**

オンライン授業に対応し、学習支援システム上でレポート提出を行う。

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

**【Outline and objectives】**

In this course, We will consider the European economic history from the Industrial Revolution to the end of World War II, mainly in Germany. Among them, we will focus on the long process towards European integration in that Germany pursued supremacy, frustrated, and cooperated as "Germany in Europe".

ECN200CA
ヨーロッパ経済論 B
伊東 林蔵
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第二次世界大戦末期から現在までのヨーロッパ経済を、ドイツを軸として、欧州統合への収斂とその綻びの歴史として捉える。

#### 【到達目標】

諸々の反証を抱えながら、後知恵として見れば、「収斂」していくように欧州統合が成立した歴史的経緯を理解する。同時に現在 EU が抱える諸問題の背景にいかなる歴史的要因が存在するのかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

・秋学期は学習支援システムを利用したオンライン講義が行われる。一講義ごと主要テーマを設定し、各回の講義をパワーポイント形式で学習支援システム教材欄に掲載し必要に応じて Zoom を通じた授業を行う。

・図表や画像の表示、映像資料などを用いつつ対象の理解を深める。

・毎回の授業に当たり、その都度、学習支援システムに掲載される指示に従うこと。第一回目の授業として、今学期の導入説明を学習支援システム上に掲載。アクセスが集中して接続できないことを考慮し、本来の授業時間外での閲覧も可能とする。

・オンラインであることから、授業への理解度がわかりにくいので、小テストや質問時間を設け、学生の理解度を掴み、意見を聞き、後の授業の冒頭に答えを提示する。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	第二次世界大戦中の戦後構想	亡命社会民主党、保守反対派、連合国の戦後ヨーロッパ統合構想等
第 2 回	第二次世界大戦終結と連合国の対独占領政策	アメリカ・イギリスの占領政策 「弱いドイツ」か「強いドイツか」 ドル条項 フランスの妥協 ソ連の占領政策等
第 3 回	戦後復興	マーシャル・プラン アーベルスハウザー・テーゼ 通貨改革等
第 4 回	東西ドイツ分割	冷戦体制の成立等
第 5 回	ドイツの高度経済成長	社会的市場経済 ライン資本主義 「社会主義の優等生」 イギリスの停滞等
第 6 回	欧州経済統合	欧州石炭鉄鋼共同体 ベネルクスの関税同盟構想 イギリスの自由貿易圏構想 ドイツの EEC 加盟等
第 7 回	福祉国家論	福祉国家の諸類型 高度経済成長・グローバリズム・脱工業化との関係等
第 8 回	高度経済成長の終焉	1966/67 年不況 ニクソン・ショック オイル・ショック 「経済成長の弱さ」等
第 9 回	新自由主義 (Neo-Liberalism) の台頭	サッチャリズム レーガノミクス コール政権等
第 10 回	社会主義体制の動揺	東欧の諸改革
第 11 回	東欧革命	東西ドイツ統一 ソ連の解体等
第 12 回	統一ドイツの諸問題	「失われた 10 年」 東ドイツ地域の経済再建 ハルツ改革等
第 13 回	EU の成立	EU の機構
第 14 回	現在のドイツと EU	「新たな経済の奇跡」メルケル政権 移民問題 脱原発 イギリスの EU 離脱等

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・レポートの提出を求める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間の合計 4 時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。テーマごとに必要な参考文献を講義で指示、講義レジュメを学習支援システム上に掲載する。

#### 【参考書】

- ・原輝史/工藤章編『現代ヨーロッパ経済史』有斐閣 1996.
- ・小島健『欧州建設とベルギー』日本経済評論社 2007.
- ・古内博行『現代ドイツ経済の歴史』東京大学出版会 2007.
- ・遠藤乾編『ヨーロッパ統合史』名古屋大学出版会 2008.
- ・川越修/河合信晴編『歴史としての社会主義』ナカニシヤ出版 2016.

・田中素香/長部重康/久保広正/岩田健治著『現代ヨーロッパ経済』第 5 版、

有斐閣 2018

・工藤章/藤澤利治『ドイツ経済：EU 経済の基軸』ミネルヴァ書房 2019

#### 【成績評価の方法と基準】

オンライン授業に対応し、学習支援システム上でレポート提出を行う。

#### 【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

#### 【Outline and objectives】

We will consider the European economic history from the end of World War II to the present as the history of convergence to European integration and its crisis, mainly in Germany.

ECN200CA
<b>現代アジア経済論 A</b>
<b>馬場 敏幸</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

アジア NIEs（韓国、シンガポール、台湾、香港）の経済・地理・文化・歴史的内容の理解と第二次世界大戦後のアジアの発展の経緯と原動力を理解することが本授業のテーマである。単なる数字・経済情報だけでなく、それぞれの国・地域を生活・文化など地域的特色を含めて多層的に理解し、我々が国際社会に主体的に生き、どう向き合い、公正に判断し、対処するのか、その基礎知識を学ぶ。

**【到達目標】**

アジアで第二次世界大戦後に高度経済成長を果たしたアジア NIEs（韓国、シンガポール、台湾、香港）を軸に、第二次世界大戦後のアジアの発展を多層的に講義する。第一に各国・地域の置かれた地理・経済・政治・歴史的経緯などの諸条件を講義することで、それぞれの国・地域の基礎的理解を目指す。第二に、第二次世界大戦後から現在における各地域・国の経済・産業の発展経路について講義を行うことで、アジアの発展の大きな流れの俯瞰的把握を目指す。第三に、電気電子産業・自動車産業を軸とした工業化とその諸条件、輸出、投資について講義を行うことで、アジアの経済発展の原動力の理解を目指す。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

コロナの影響を鑑み、現状の所、基本的にオンデマンド開催の可能性はある。必要に応じ Zoom による講義も行う予定である。また、課題で提出されたレポートのうち幾つかを取り上げ、オンデマンド講義や Zoom 講義で紹介、説明、補足、ディスカッションなどを行うことを考えている。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の内容、対象国・地域の地理的位置、気候区分など（地図資料）
2	経済発展と諸産業 1	産業発展とその諸段階 概要 産業構造と情報化
3	経済発展と諸産業 2	電気電子産業、自動車産業
4	経済発展と諸産業 3	工業化戦略、WTO 貿易構造の変遷、貿易協定
5	経済発展と諸産業 4	サポーターティング産業
6	韓国 1	各経済統計による概観
7	韓国 2	韓国の近代史と今日まで
8	シンガポール 1	各経済統計による概観
9	シンガポール 2	シンガポールの成立と今日まで
10	台湾 1	各経済統計による概観
11	台湾 2	台湾の成立と今日まで
12	香港 1	各経済統計による概観
13	香港 2	香港の成立と今日まで
14	総括	試験・まとめ・解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

アジア経済に関連するニュースに興味を持つ。配布資料や教科書、参考データベースによる学習など。本授業の予習 1 時間半・復習時間 2 時間半を目安とする。

**【テキスト（教科書）】**

なし

**【参考書】**

馬場敏幸 (2013) 『アジアの経済発展と産業技術』ナカニシヤ出版。講義中に使用する主な各種統計資料と URL は URL 詳細は通年科目「世界の経済」を参照。

**【成績評価の方法と基準】**

コロナによりオンデマンド講義になった場合は、オンデマンドの中で課題を課し、その課題の提出状況、および課題の内容、ZOOM 授業時の出席状況や発言内容などに基づき成績評価（100%）を行うことを考えている。コロナがおさまらず、通学が基本となった場合は定期試験による評価もあり得る。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業内容や授業の進め方などについて質問・連絡方法に戸惑う学生がいた。教員・受講生双方向のコミュニケーション手段は学習支援システムによる授業掲示板でのやりとりを基本とする。教員は講義期間中、週一度は授業掲示板を確認し返信を行う。他方、個別メール対応や学期末の個別単位要望などについては公平性の観点より原則として受け付けられないものとし、返信も行わない。（本人のコロナ罹患の際の課題対応など、必要と思われる場合は対応します）

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムによるオンデマンド講義、および Zoom による遠隔授業を行う可能性が高いので、PC の使用を強く薦める。インターネット環境は必須である。スマホやタブレットなどでも受講や課題提出で問題が無い場合は PC 使用でなくともかまわない。

**【その他の重要事項】**

本講義とともに現代アジア経済論 B（秋学期）の履修により、より立体的にアジアをとらえることができるため、A・B 双方での履修を望む。

Zoom による授業参加の場合、自分の発言の際にはビデオオンにしての発言をお願いします。また Zoom 講義でのプライバシー保護のため、画像保存、録画などは一切禁止します。発覚した場合は、単位を出さない場合もありますので、ネチケットには十分気をつけてください。

**【Outline and objectives】**

In this class, you learn economics and geography of ASIAN NIEs; South Korea, Singapore, Taiwan and Hong Kong, since end of WWII to present time. You also learn cultures and histories of that area in order to understand more deep. I hope you learn those countries and area in many directions then you have good knowledge how to face, judge and deal with those countries and area.

ECN200CA
現代アジア経済論 B
馬場 敏幸
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ASEAN について ASEAN4（タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン）を中心に経済・地理・文化・歴史的内容を理解することが目標である。単なる数字・経済情報だけでなく、それぞれの国を生活・文化など地域的特色を含めて多層的に理解し、我々が国際社会に主体的に生き、どう向き合い、公正に判断し、対処するのか、その基礎知識を学ぶ。

#### 【到達目標】

アジアで第二次世界大戦後にアジア NIEs に次いで高度経済成長を果たした ASEAN 諸国について ASEAN4 を中心に各国の置かれた諸条件について多層的に理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

コロナの影響を鑑み、現状の所、基本的にオンデマンド開催の可能性がある。必要に応じ Zoom による講義も行う予定である。また、課題で提出されたレポートのうち幾つかを取り上げ、オンデマンド講義や Zoom 講義で紹介、説明、補足、ディスカッションなどを行うことを考えている。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の内容、地理的位置、気候区分など（地図資料）
2	ASEAN の成立	ASEAN の成立とその経緯、加盟国情報、歴史など
3	為替制度と国際経済	各政策と影響
4	世界に大きな影響を与えた出来事	ケーススタディ
5	タイ 1	各経済統計による概観
6	タイ 2	タイの近代史と今日まで
7	マレーシア 1	各経済統計による概観
8	マレーシア 2	マレーシアの成立と今日まで
9	インドネシア 1	各経済統計による概観
10	インドネシア 2	インドネシアの成立と今日まで
11	フィリピン 1	各経済統計による概観
12	フィリピン 2	フィリピンの成立と今日まで
13	まとめ	講義で行ったことを総括する
14	総括	試験・まとめ・解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習、アジア経済に関連するニュースに興味を持つ。アジアの発展と事例研究については教科書の該当部分に目を通しておくことにより、理解が深まる。本授業の予習 1 時間・復習時間 3 時間を目安とする。

#### 【テキスト（教科書）】

なし

#### 【参考書】

馬場敏幸 (2013) 『アジアの経済発展と産業技術』ナカニシヤ出版。講義中に使用する主な各種統計資料と URL 詳細は通年科目「世界の経済」を参照。

#### 【成績評価の方法と基準】

コロナによりオンデマンド講義になった場合は、オンデマンドの中で課題を課し、その課題の提出状況、および課題の内容、ZOOM 授業時の出席状況や発言内容などに基き成績評価（100%）を行うことを考えている。コロナがおさまらず、通学が基本となった場合は定期試験による評価もあり得る。

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業内容や授業の進め方などについて質問・連絡方法に戸惑う学生がいた。教員・受講生双方向のコミュニケーション手段は学習支援システムによる授業掲示板でのやりとりを基本とする。教員は講義期間中、週一度は授業掲示板を確認し返信を行う。他方、個別メール対応や学期末の個別単位要望などについては公平性の観点より原則として受け付けられないものとし、返信も行わない。（本人のコロナ罹患の際の課題対応など、必要と思われる場合は対応します）

#### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムによるオンデマンド講義、および Zoom による遠隔授業を行うので、PC の使用を強く進める。インターネット環境は必須である。スマホやタブレットなどでも受講や課題提出で問題が無い場合は PC 使用でなくともかまわない。

#### 【その他の重要事項】

本講義とともに現代アジア経済論 A の履修により、より立体的にアジアをとりえることができるため、A・B 双方での履修を望む。

Zoom による授業参加の場合、自分の発言の際にはビデオオンをお願いします。また Zoom 講義でのプライバシー保護のため、画像保存、録画などは一切禁止します。発覚した場合は、単位を出さない場合もありますので、ネットには十分気をつけてください。

#### 【Outline and objectives】

In this class, you learn economics and geography of ASEAN4; Thailand, Malaysia, Indonesia and Philippines, since end of WWII to present time. You also learn cultures and histories of that area in order to understand more deep. I hope you learn those countries in many directions then you have good knowledge how to face, judge and deal with those countries.

ECN200CA
<b>中国経済論 A</b>
<b>馬 欣欣</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義では歴史的・マクロ経済の視点から中国経済成長の軌跡、計画経済から社会主義市場経済への体制移行のパターン、そして高度成長した現代中国経済の実態及び問題点を紹介し、中国経済成長の要因を様々な側面（歴史、制度・政策、経済発展、体制移行）から、理解してもらう。また日本や欧米などの先進国と比較し、中国経済の位置づけおよび中国経済成長の特徴を明確にする。

**【到達目標】**

中国経済に関しては、ミクロレベルの視点から、経済成長の実態および問題点を把握したうえで、自らが経済学の諸理論やモデルを適用して、中国政府統計データおよび調査データを活用し、中国経済成長のミクロ要因および問題点を説明できる能力を身につけることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

パワーポイント資料にもとづいて講義形式で行う。なお、適宜 DVD・ビデオ等、テレビ・映画を含む媒体を利用する場合があります。1 回以上のリアルタイムオンライン実施。課題（レポート等）に対するフィードバックを行います。具体的には、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、また「学習支援システム」（Hoppii）を通じて行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと世界経済からみた中国経済	講義内容の概要を紹介し、講義の進め方などを説明する。また、世界経済の現状を紹介し、中国経済の位置づけを理解する
第 2 回	歴史的視点からみた経済の成長	科学技術発展史からみた経済発展の謎（ニーダム仮説）とマディソンの長期 GDP 推計データからみた経済成長の軌跡を理解する
第 3 回	社会主義時代の経済	旧ソ連計画経済モデルと中国社会主義モデルの比較、国営企業と農村人民公社の実態と問題点について理解する
第 4 回	経済改革：社会主義市場経済とは何か	社会主義市場経済の概念、2つの移行パターン、体制移行における政府の役割について理解する
第 5 回	国家資本主義と開発独裁モデル：中国における政府と市場の関係	国家資本主義、開発独裁モデルについて理解する
第 6 回	人口変動と労働力 (1)	経済発展と人口転換の国際比較、人口ボーナスと経済成長、一人っ子政策の背景と問題点について理解する
第 7 回	人口変動と労働力 (2)	都市労働市場の失業、農村過剰労働力、ルイスの二重構造モデルと経済転換点について理解する
第 8 回	対外貿易と外需依存型成長からの転換	輸出主導型経済成長、外資の役割、外資導入の国際比較について理解する

第 9 回	経済成長と格差問題 (1)	農村部と都市部の格差、東部・中部と西部の格差の実態および形成要因について理解する
第 10 回	経済成長と格差問題 (2)	所得格差、貧困の実態、貧困削減政策およびその効果について理解する
第 11 回	財政政策と経済成長	地方分権と財政政策、「分税制」の概要と評価、地方財政の実態について理解する
第 12 回	地域振興政策とその影響	地域開発・振興政策実施の背景、政策変遷、およびその効果について理解する
第 13 回	経済成長と環境問題	環境問題の実態、中国環境政策の変遷、地球温暖化問題と国際協定について理解する
第 14 回	マクロレベル：中国経済の展望と問題点	「中所得国の罫」と「体制移行の罫」、マクロ経済の視点からみた経済成長のメカニズムおよび問題点について理解する

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

中国経済に関連する他の科目（例えば、開発経済学、マクロ経済学、経済政策論など）を履修していない受講生は、それらの科目に関する教科書あるいは概説書を事前に読んでおくこと。授業で使用する資料を事前に学習支援システムを通じてダウンロードし、各回の授業の流れを理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定しないが、毎回パワーポイントで作成した資料を、学習支援システムを通じてダウンロードしておくこと。

**【参考書】**

1. 南亮進・牧野文夫編著（2016）『中国経済入門 第 4 版』日本評論社。
  2. 加藤弘之（2016）『中国経済学入門』名古屋大学出版会。
  3. 梶谷懐・藤井大輔編著（2018）『現代中国経済論』ミネルヴァ書房。
  4. 中兼和津次編著（2013）『中国経済はどう変わったか—改革開放以後の経済制度と政策を評価する』国際書院。
  5. 加藤弘之・渡邊真理子・大橋英夫（2013）『21 世紀の中国経済篇—国家資本主義の光と影』朝日新聞出版。
- その他適宜授業の中で指摘する

**【成績評価の方法と基準】**

レポートおよび定期試験の組み合わせ：100 %

**【学生の意見等からの気づき】**

パワーポイントの作成については工夫をしたい。また、適宜の質疑応答等、双方向的な講義の進行に努めたい。

**【Outline and objectives】**

The lecture introduces the trajectory of China's economic growth from a historical and macroeconomic perspectives, the pattern of the transition from a planned economy to a socialist market economy, and the facts and problems of the modern Chinese economy. We will understand the factors behind China's economic growth from different sides (e.g., history, institutions and policies, economic development, and transition) and clarify the position of the Chinese economy and the features of Chinese economic growth in comparison with developed countries such as Japan, the countries in Europe and the United States.

ECN200CA
<b>中国経済論 B</b>
<b>馬 欣欣</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はミクロ経済の視点から中国の経済成長の要因を検討し、労働者・家計、企業、産業などの具体的な課題について、さまざまなデータ（たとえば、中国政府公表の統計データ、実態調査データ）を活用し、国有企業改革、企業生産とイノベーション、産業集積と産業構造転換、農民・農村問題、雇用・格差問題などについて考察し、ミクロレベルで中国経済の実態と問題点を検討する。

### 【到達目標】

中国経済に関しては、ミクロレベルの視点から、経済成長の実態および問題点を把握したうえで、自らが経済学の諸理論やモデルを適用して、中国政府統計データおよび調査データを活用し、中国経済成長のミクロ要因および問題点を説明できる能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

### 【授業の進め方と方法】

パワーポイント資料にもとづいて講義形式で行う。なお、適宜、DVD・ビデオ等、テレビ・映画を含む媒体を利用する場合があります。1回以上のリアルタイムオンライン実施。課題（レポート等）に対するフィードバックを行います。具体的には、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、また「学習支援システム」(Hoppii)を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス：ミクロ視点からみた中国経済	ミクロ視点から見た中国経済の内容および研究方法を紹介する
第 2 回	国有企業改革 (1)	計画経済期の国営企業の特徴、国有企業の改革とその問題点について理解する
第 3 回	国有企業改革 (2)	国有企業の内部統治と企業業績、国有企業改革の結果とその問題点について理解する
第 4 回	世界の工場—中国	対中直接投資の原因と構造変化、FDI と中国経済発展について理解する
第 5 回	産業構造の転換	産業政策の改革、産業構造の転換と「中国製造 2025」、深センの産業発展を紹介し、産業構造の転換の原因について理解する
第 6 回	農村改革 (1)	農村の土地改革、「家庭生産請負制度」、土地流動化について理解する
第 7 回	農村改革 (2)	農村貧困実態と地域間の差異、農村貧困の原因、および農村貧困対策について理解する
第 8 回	出稼ぎ就業と農民工	経済発展と出稼ぎ就業、中国経済の謎—農民工不足現象、と農民工の就業と生活の実態について理解する

第 9 回	国有銀行と金融改革	金融改革の歴史、現代における金融システムと金融政策、株式市場と国有企業、国有銀行の改革について理解する
第 10 回	住宅市場と不動産	土地政策と住宅政策の変遷、住宅制度と住宅金融制度の改革、住宅と不動産市場の実態と問題点について理解する
第 11 回	経済発展と教育	教育制度と改革、人的資本理論と格差問題、「大学統一試験」（「高考」）の変遷、高等教育拡大政策、大学生就職難問題の原因について理解する
第 12 回	社会保障政策の改革	人口高齢化と社会保障制度の改革、都市部と農村部の社会保障の格差、社会保障と労働市場について理解する
第 13 回	社会保障政策の改革	計画経済期の雇用・賃金政策の特徴、市場経済期の雇用・賃金政策の変遷、賃金格差の実態について理解する
第 14 回	ミクロレベル：中国経済の展望と問題点	ミクロ経済の視点からみた経済成長のメカニズム及び問題点について理解する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国経済に関連する他の科目（例えば、開発経済学、ミクロ経済学、労働経済学、産業組織論、経済政策論など）を履修していない受講生は、それらの科目に関する教科書あるいは概説書を事前に読んでおくこと。授業で使用する資料を事前に学習支援システムを通じてダウンロードし、各回の授業の流れを理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、毎回パワーポイントで作成した資料を、学習支援システムを通じてダウンロードしておくこと。

### 【参考書】

1. 南亮進・牧野文夫編著（2016）『中国経済入門 第 4 版』日本評論社。
  2. 加藤弘之（2016）『中国経済学入門』名古屋大学出版会。
  3. 梶谷懐・藤井大輔編著（2018）『現代中国経済論』ミネルヴァ書房。
  4. 中兼和津次編著（2013）『中国経済はどう変わったか—改革開放以後の経済制度と政策を評価する』国際書院。
  5. 加藤弘之・渡邊真理子・大橋英夫（2013）『21 世紀の中国経済篇—国家資本主義の光と影』朝日新聞出版。
  6. 馬欣欣（2015）『中国の公的医療保険制度の改革』、京都大学学術出版会。
  7. 馬欣欣（2011）『中国女性の就業行動—「市場化」と都市労働市場の変容』、慶應義塾大学出版会。
- その他適宜授業の中で指摘する

### 【成績評価の方法と基準】

レポートおよび定期試験の組み合わせ：100 %

### 【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの作成については工夫をしたい。また、適宜の質疑応答等、双方向的な講義の進行に努めたい。

### 【Outline and objectives】

This lecture introduces the factors behind China's economic growth from a microeconomic perspective, using many kinds of data (i.e., official statistical data published by the Chinese government, survey data etc.). The topic targets focus on individuals, households, enterprises and industry sectors. We will discuss some special issues on state-owned enterprise reform, enterprise production and innovation, industrial concentration and industrial structural transformation, residents with rural hukou and problems in rural areas and income inequality, and understand the facts and problems of the Chinese economy at the microeconomic levels.

ARS200xCA

## 世界の文化と思想 A

新田 誠吾

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業テーマは異文化コミュニケーション入門です。私たちが常識だと思っていることでも、異文化圏では非常識になることがあります。異文化の人たちとコミュニケーションをとるときに何に注意すればよいのかについて、基本的な考え方を説明します。

## 【到達目標】

1. 文化、コミュニケーションについて説明ができる。
2. ステレオタイプとは何か、その弊害について説明できる。
3. 文化における「コンテクスト」について説明できる。
4. 日本人が持つ「時間感覚」「空間感覚」について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

毎回の授業は、オンデマンド方式です。法政大学の学習支援システム（Hoppii）に、授業資料と音声データをアップします。数回、授業に関連したテーマについて考える簡単な課題があります。提出された課題やリアクションペーパー（授業の感想等）については、次の授業でフィードバックを行います。また期末試験前に復習テストを行い、間違えた問題と一緒に考えて、理解を深めます。質問はメールのほか、Zoomでも対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の目標、進め方
第2回	文化とは何か（1）	人は文化の網の中で育つ。「日本的」とは？ 和食を考える
第3回	文化とは何か（2）	見える文化、見えない文化
第4回	言語コミュニケーション・非言語コミュニケーション	非言語コミュニケーションとは
第5回	コンテクスト（1）	ハイコンテクストとローコンテクスト
第6回	コンテクスト（2）	空気を読む
第7回	メラビアンの法則	人は見た目が9割？
第8回	ステレオタイプ	今の若者は〇〇だから
第9回	ターンテーク	欧米のコミュニケーションの基本
第10回	アイコンタクト	目は口ほどにものを言う
第11回	アイコンタクト	ニッポンの目
第12回	時間感覚	人の家に招かれて、いつ行けばいいの？
第13回	空間感覚	話すとき、相手が迫ってきたら？
第14回	復習とまとめ	春学期のまとめ

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業はオンデマンド方式なので、自分の好きな時間に受講できます。ただし、課題提出は期限内にお願いします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

## 【参考書】

矢代京子ほか(2001). 異文化コミュニケーション・ワークブック. 三修社.

E.T. ホール(1966). 沈黙のことは：文化・行動・思考. 南雲堂.

E.T. ホール(1970). かくれた次元. みすず書房.

マジョリー・F・ヴァーガス(1987). 非言語コミュニケーション. 新潮選書.

新田誠吾(2019). これならできる！ レポート・論文のまとめ方. すばる舎.

## 【成績評価の方法と基準】

課題および確認テスト（40％） 学期末筆記試験（60％）  
合計60％以上の得点で単位を認定します。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年度はコロナで急きょオンライン授業になり、授業方法について有益な意見をもらいました。今年度は、昨年度の経験を活かした授業を行います。受講した学生からは、「興味が持てる内容だった」「異文化について深く学ぶことができた」と好評でした。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアップされる資料、音声ファイルを受信するインターネット通信環境が必要です。

## 【Outline and objectives】

The theme of this course is Introduction to Intercultural Communication. What we think is common sense may be insane in different cultures. I will explain the basic concept of what we should pay attention to when communicating with people from different cultures.

ARS200xCA
<b>世界の文化と思想 B</b>
<b>新田 誠吾</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業テーマは、ビジネスにおける異文化間コミュニケーションです。国際的企業で働く場合、海外に会社の拠点を置く場合など、異文化圏の人たちと働くノウハウを講義します。

#### 【到達目標】

1. アサーティブ・コミュニケーションについて理解している。
2. 怒りをコントロールするアンガーマネジメントについて理解している。
3. 異文化圏での決定、リーダーの役割、ワークライフバランスについて理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

毎回の授業は、オンデマンド方式です。法政大学の学習支援システム（Hoppii）に、授業資料と音声データをアップします。数回、授業に関連したテーマについて考える簡単な課題があります。提出された課題やリアクションペーパー（授業の感想等）については、次の授業でフィードバックを行います。また期末試験前に復習テストを行い、間違えた問題と一緒に考えて、理解を深めます。質問はメールのほか、Zoomでも対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと異文化コミュニケーションの復習	春学期に取り上げた重要なトピックを再度確認します。
第2回	ジョハリの窓	自己開示
第3回	バーンランドによる自己開示	いかに自分を相手に伝えるか
第4回	コンテクスト	コンテクストの差をどう乗り越えるか
第5回	評価	悪い評価を直接言っている？ よくない？
第6回	論理の組み立て方	欧州と米国の違い
第7回	アサーティブコミュニケーション（1）	アサーティブコミュニケーションとは
第8回	アサーティブコミュニケーション（2）	怒りをコントロールする技術
第9回	決定	誰がどう決定を下すのか
第10回	リーダーと組織像	水平か階層的か
第11回	意見の違い	対立させるか回避するか
第12回	仕事と家庭	男女の役割はある？
第13回	信頼関係	どのように信頼関係を築くか
第14回	まとめ	総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外に平均して週に4時間の学習が必要です。

#### 【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。

#### 【参考書】

平木典子 (2012). アサーション入門：自分も相手も大切に自己表現法. 講談社現代新書.

主婦の友社（編著）(2013). よくわかるアサーション：自分の気持ちの伝え方：自分も相手も大切に、気持ちのよい自己表現. 主婦の友社.

安藤駿介 (2016). 誰にでもできるアンガーマネジメント. ベスト新書.

安藤駿介 (2018). 怒りが消える心のトレーニング：図解アンガーマネジメント超入門. デイスクヴァー・トゥエンティワン.

新田誠吾 (2019). これならできる！ レポート・論文のまとめ方. すばる舎.

#### 【成績評価の方法と基準】

課題および確認テスト（40％） 学期末筆記試験（60％）

合計 60％以上の得点で単位を認定します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、「とても面白く、社会に出てからも役に立つ内容」と学生から好評でした。さらに改善を重ねていきます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアップされる資料、音声ファイルを受信するインターネット通信環境が必要です。

#### 【Outline and objectives】

The theme will be Intercultural Communication in Business. The lecture will cover the know-how of working with people from different cultures when working for an international company or setting up a company base overseas.

SES200CA
<b>環境科学 A</b>
<b>岡部 雅史</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、環境とはなにか？ 私達と環境とのかかわりを受講生諸君が科学的視点から理解できるようになることを目的としています。

#### 【到達目標】

主として私たちの身の周りの様々な現象の環境学的理解ができるようになることを目標としています。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

講義開始は4月21日・ガイダンスからスタートします。  
講義概要としては、1-環境を構成する要因、2-環境の変動、3-テクノロジーの進歩と環境に対する影響、4-環境ビジネス（エコ・ビジネス）の展開と、その将来。以上の4つのサブテーマから構成され、前半では環境の概念の理解、後半では環境調査・保全・変更などの環境ビジネス（エコ・ビジネス）の最先端の紹介をもとに進めたいと思います。環境問題に興味のある方、環境ビジネスに興味のある方などの積極的参加を希望します。  
履修希望者は必ず初回の講義ガイダンスに出席すること。  
試験に対するフィードバックは授業支援システムにて行います。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
2	水と環境 1	地球科学と水資源の総量・水資源の特徴
3	水と環境 2	上水道と下水道
4	水と環境 3	浄水処理と汚水処理・BOD・COD
5	空気と環境	清浄な空気組成・有毒ガス・室内空気汚染・PM2.5
6	健康と空気環境	一酸化炭素中毒・酸欠事故・シックハウス・シックスクール
7	生活と騒音	振動・騒音性難聴・ディスコ難聴
8	光線・放射線と環境	紫外線や放射線と発ガン・やけど
9	恒常性	ホメオスタシスの概念と職業病
10	公害と疾病	水俣病・イタイイタイ病・四日市喘息
11	体内環境	対外環境に対する生物の環境応答
12	生活環境と健康	ライフスタイルと種々のストレス・生活習慣病
13	環境・エコビジネス 1	環境調査・コンサルタント・環境修復ビジネス
14	環境・エコビジネス 2	ESCO 事業・ISO ビジネス・環境報告・環境会計

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々の新聞・ニュース等 報道にて紹介される環境技術関連ニュース等に注意しておく事。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

支援システムにてテーマに沿った資料・映像ファイルを配布する。

#### 【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末に試験を行う（100点満点）及び、授業内にて小試験（10点満点）を複数回行う。総合計点の60%以上得点した学生に単位を認める。試験の配分が100%となります。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

#### 【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンまたはタブレット端末

#### 【その他の重要事項】

毎週講義時刻に支援システムにて その週の教材を配信します。小テストは講義時間中に配信し、講義時間中に答えを回収します。

シラバスの内容は今後の状況次第で変化することもありますので注意してください。

#### 【Outline and objectives】

This lecture features the theme of pushing forward understanding based on a current scientific finding about environmental science.

SES200CA
<b>環境科学 B</b>
<b>岡部 雅史</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、人間の活動がどのようにして自然環境と関わってきたのか？ そのメカニズムと、現在の環境汚染の現状、さらには環境に負荷をかけないシステムの紹介まで踏み込んだ内容を展開します。生物と環境とのかかわりを生態科学的視点からも理解できるようにすることを目的としています。

#### 【到達目標】

主として地球環境問題の理解ができるようになる事を目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

講義全体としては、1－自然環境を構成する因子、2－環境汚染の変遷、3－現在の環境汚染、4－環境負荷低減テクノロジーの展開と、その将来等 以上の4つのサブテーマから構成され、前半では今までの環境汚染（公害）の概念の理解、後半では地球規模にまで進んだ環境汚染・生態破壊のメカニズムを説明し、環境負荷低減のための技術の解説をおこないます。環境問題に興味のある方、環境ビジネスに興味のある方などの積極的参加を希望します。履修希望者は必ず初回の講義ガイダンスに出席すること。

試験に対するフィードバックは授業支援システムにて行う

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス：	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
第2回	環境に対する概念の変遷：	自然浄化・環境汚染・環境負荷・環境影響範囲
第3回	地球環境問題：	特徴・公害問題との違い・加害と被害
第4回	海洋汚染：	エコトキシコロジー・プラスチックペレット汚染・防止策
第5回	地球温暖化：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第6回	酸性雨：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第7回	砂漠化と都市気候：	発生メカニズム・ヒートアイランド現象・防止策
第8回	有害物質の越境移動：	一般・産業・医療廃棄物・ダイオキシン・土壌汚染
第9回	生物多様性の減少：	生物種の経済的価値と遺伝子資源・防止策
第10回	オゾン層の破壊：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第11回	環境・エコビジネス A	ESCO 事業 1（概念・経済規模）
第12回	環境・エコビジネス B	ESCO 事業 2（適用実例）
第13回	環境・エコビジネス C	エコファンド・土地関連ビジネス
第14回	海外の環境ビジネス：	米国のグリーンニューディール政策およびドイツの環境関連ビジネスの紹介

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々の新聞・ニュース等 報道にて紹介される環境技術関連ニュース等に注意しておく事。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

授業支援システムにてテーマに沿った資料を配布する。

#### 【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末に試験を行う（100 点満点）及び、授業内にて小試験（10 点満点）を複数回行う。 総合計点の 60%以上得点した学生に単位を認める。試験の配分が 100 %となります。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

#### 【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンまたはタブレット端末

#### 【Outline and objectives】

This lecture features the theme of pushing forward understanding based on a current scientific finding about environmental science.

ECN200CA
<b>現代ファイナンス入門A</b>
<b>湯前 祥二</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、ファイナンスに関する基本的な考え方を紹介します。ファイナンスでは、リターンとリスクという2つのキーワードを中心に据えて、資産運用にまつわる具体的な問題を扱います。

#### 【到達目標】

株式会社について理解し、株式の理論価格を計算することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

ファイナンスや金融工学は「『確実な未来を知ることはできない』という前提に立ち、賢い選択をする」ための道具です。日々の実際の場面で使える具体的な実用的な技術で、ポイントは無駄（無駄な手数料、無駄なリスク）を省くことです。

春学期は、株式の理論価格を題材にして、リターンを中心に学びます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ファイナンス	ファイナンスを学ぶ理由
第2回	株式の価格付けの流れ	配当割引モデルに至る流れ
第3回	事業循環	材料仕入れ、製造、販売、決算
第4回	財務諸表・事業計画	損益計算書、貸借対照表、改善ポイント
第5回	財務諸表分析	有価証券報告書
第6回	収益性の分析	資本利益率
第7回	安定性の分析	株主資本比率
第8回	デュボン・システム	株価と財務比率
第9回	株価の分解	EPSとPER
第10回	配当利回り	株価とDPS
第11回	キャッシュフロー	将来価値と現在価値
第12回	配当割引モデル	株式投資のキャッシュフロー
第13回	株主資本の増加と配当の成長	サステイナブル成長率
第14回	株価と配当政策	配当性向

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「学習支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいてください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見えておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

なし

#### 【参考書】

井手正介、高橋文郎（2001）、証券投資入門、日本経済新聞社。  
井手正介、高橋文郎（2005）、証券分析入門、日本経済新聞社。  
井出正介（2008）、株式投資入門、日本経済新聞出版社。

#### 【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。試験を行わない場合は、学習支援システムの活動で評価します（100%）。

#### 【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

#### 【Outline and objectives】

This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning asset management.

ECN200CA
<b>現代ファイナンス入門B</b>
<b>湯前 祥二</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、ファイナンスに関する基本的な考え方を紹介します。ファイナンスでは、リターンとリスクという2つのキーワードを中心に据えて、資産運用にまつわる具体的な問題を扱います。

### 【到達目標】

リターンとリスクについて理解し、両者を計算で求め、投資判断に用いることができる。

### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

### 【授業の進め方と方法】

ファイナンスや金融工学は「『確実な未来を知ることはできない』という前提に立ち、賢い選択をする」ための道具です。日々の実際の場面で使える具体的な実用的な技術で、ポイントは無駄（無駄な手数料、無駄なリスク）を省くことです。

秋学期はリスクを扱います。リスク管理に必要な、リスク指標の計算方法や、リスク分散を学びます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	投資信託の仕組み	投資信託の種類
第2回	インデックス運用	市場ポートフォリオ
第3回	アクティブ運用	成功の条件
第4回	複利	最初の数字の賭け、割り算距離
第5回	複利計算の頻度	半年複利、連続複利
第6回	確定利付証券	元本、クーポン
第7回	金利期間構造	期間構造仮説
第8回	リスク管理	金融工学の機能
第9回	分布	離散型と連続型
第10回	リスク指標	プロジェクト選択の基準
第11回	標準偏差と VaR	正規分布
第12回	リスク分散	プロジェクトの組み合わせ
第13回	ポートフォリオのリスク	株式投資のリスク分散
第14回	モンテカルロ法	金融派生商品

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「学習支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいてください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見えておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

なし

### 【参考書】

井手正介、高橋文郎（2001）、証券投資入門、日本経済新聞社  
井手正介、高橋文郎（2005）、証券分析入門、日本経済新聞社  
井出正介（2008）、株式投資入門、日本経済新聞出版社。

### 【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。試験を行わない場合は、学習支援システムの活動で評価します（100%）。

### 【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

### 【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

### 【Outline and objectives】

This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning asset management.

LANe200CA
Business Communication I A
GLENN FERN
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening; to a short pod cast, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. The teacher will ask students to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

#### 【到達目標】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

Lecture, individual tasks, pair work, group work, and listening exercises. Feedback for class assignments and tests will be given on Hoppii, FORUM.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Course introduction to learning methodology, topics and expectations of the kind of contribution students will be expected to make to this class. Students will be asked to buy the textbook and be familiar with it for the next class.
2	Career choices	Career versus salary man. The difference between these difficult choices will be explored in a class lecture and group discussions.
3	Job search techniques	What is the best way to find your dream job? A variety of different job search techniques will be explored in class.

4	Resume	The difference between a traditional Japanese resume and a Western style resume in English will be explored. Students will create their own resume in English.
5	Job interview styles	The different types of job interviews used by companies around the world will be examined in class. Students will be expected to participate in a group discussion.
6	Job interview questions and simulations	Common job interview questions will be given and discussed. Job interview simulations will be practiced in class.
7	Interview Test	All students will be required to under go a one on one job interview test with the instructor. Individual feedback to students will be provided by the instructor.
8	Trends in business	The importance of being aware of and following common trends in business and society will be discussed. Students will examine popular business publications, and search for important business trends.
9	Describe the business of a company	An over view of the textbook, Global Links 2 will be given. Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 1, Talking About Your Company. Students will learn how to describe the business of a company.
10	Developing a presentation	Group work: Students will work together to develop a presentation describing the business of a company of their own choice. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.
11	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
12	Student group presentations	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.

- 13 Student individual presentations Students will give a short individual presentation to the class, regarding an interesting trend they have discovered in a popular business publication. A Q&A will follow, along with a brief discussion of the trend.
- 14 Semester review and group discussions A review of the main points learned during the semester. Group discussions will follow regarding the application of the principles learned to the life of each individual student.

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Home preparation for student presentations is a minimum of 4 hours per week required.

## 【テキスト（教科書）】

Global Links 2, English for International Business, Angela Blackwell, Longman, ISBN 9780130883964

## 【参考書】

None

## 【成績評価の方法と基準】

Participation in class discussion and activities : 40%

Tests : 20%

Presentations : 40%

## 【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

## 【Outline and objectives】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening; to a short pod cast, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. The teacher will ask students to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

LANe200CA
Business Communication I B
GLENN FERN
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening; to a short pod cast, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. The teacher will ask students to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

## 【到達目標】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

## 【授業の進め方と方法】

Lecture, individual tasks, pair work, group work, and listening exercises. Feedback for class assignments and tests will be given on Hoppii, FORUM.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Course introduction to learning methodology, topics and expectations of the kind of contribution students will be expected to make to this class during the second semester. Students will be asked to familiarize themselves with Unit 6 in the textbook, Describing Processes.
2	Describing processes	Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 6, Describing Processes. Students will learn how to describe a variety of business processes.

3	Describing processes group work	Group work: Students will work together to develop a presentation describing a business process of their own choice. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.	10	Managing change in a corporation	Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 8, Managing Change. Students will learn about the importance of managing change at the personal and corporate level in a Darwinian world.
4	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.	11	Managing change group work	Group work: Students will work together to develop a presentation, describing a change(s) a company had to make in order to adapt and achieve its corporate goals. Students will select a company of their own choice to present as a case study. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.
5	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.	12	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
6	Corporate problem solving	Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 5, Turning a Company Around. Students will learn how to identify a problem and develop a plan to solve the problem.	13	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.
7	Corporate problem solving group work	Group work: Students will work together to develop a presentation describing a corporate problem and how a company solved that problem. Students will select a company of their own choice to present as a case study. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.	14	Course review and discussion	A review of the main points learned during the semester. Group discussions will follow regarding the application of the principles learned to the life of each individual student.
8	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.	<p>【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 Home preparation for student presentations is a minimum of 4 hours per week required.</p> <p>【テキスト（教科書）】 Global Links 2, English for International Business, Angela Blackwell, Longman, ISBN 9780130883964</p> <p>【参考書】 None</p> <p>【成績評価の方法と基準】 Participation in class discussion and activities : 40% Tests : 20% Presentations : 40%</p> <p>【学生の意見等からの気づき】 Not applicable</p>		
9	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.			

**【Outline and objectives】**

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening; to a short pod cast, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. The teacher will ask students to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

LANe200CA
<b>Business Communication I A</b>
GLENN FERN
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening; to a short pod cast, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. The teacher will ask students to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

**【到達目標】**

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

Lecture, individual tasks, pair work, group work, and listening exercises. Feedback for class assignments and tests will be given on Hoppii, FORUM.

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Course introduction to learning methodology, topics and expectations of the kind of contribution students will be expected to make to this class. Students will be asked to buy the textbook and be familiar with it for the next class.
2	Career choices	Career versus salary man. The difference between these difficult choices will be explored in a class lecture and group discussions
3	Job search techniques	What is the best way to find your dream job? A variety of different job search techniques will be explored in class.

4	Resume	The difference between a traditional Japanese resume and a Western style resume in English will be explored. Students will create their own resume in English.	13	Student individual presentations	Students will give a short individual presentation to the class, regarding an interesting trend they have discovered in a popular business publication. A Q&A will follow, along with a brief discussion of the trend.
5	Job interview styles	The different types of job interviews used by companies around the world will be examined in class. Students will be expected to participate in a group discussion	14	Semester review and group discussions	A review of the main points learned during the semester. Group discussions will follow regarding the application of the principles learned to the life of each individual student.
6	Job interview questions and simulations	Common job interview questions will be given and discussed. Job interview simulations will be practiced in class.			<b>【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】</b> Home preparation for student presentations is a minimum of 4 hours per week required.
7	Interview Test	All students will be required to under go a one on one job interview test with the instructor. Individual feedback to students will be provided by the instructor.			<b>【テキスト（教科書）】</b> Global Links 2, English for International Business, Angela Blackwell, Longman, ISBN 9780130883964 <b>【参考書】</b> None
8	Trends in business	The importance of being aware of and following common trends in business and society will be discussed. Students will examine popular business publications, and search for important business trends.			<b>【成績評価の方法と基準】</b> Participation in class discussion and activities : 40% Tests : 20% Presentations : 40% <b>【学生の意見等からの気づき】</b> Not applicable
9	Describe the business of a company	An over view of the textbook, Global Links 2 will be given. Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 1, Talking About Your Company. Students will learn how to describe the business of a company.			<b>【学生が準備すべき機器他】</b> None <b>【その他の重要事項】</b> None
10	Developing a presentation	Group work: Students will work together to develop a presentation describing the business of a company of their own choice. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required			<b>【Outline and objectives】</b> The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening; to a short pod cast, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. The teacher will ask students to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.
11	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.			
12	Student group presentations	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.			

LANe200CA
Business Communication I B
GLENN FERN
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening; to a short pod cast, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. The teacher will ask students to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

#### 【到達目標】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

Lecture, individual tasks, pair work, group work, and listening exercises. Feedback for class assignments and tests will be given on Hoppii, FORUM.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Course introduction to learning methodology, topics and expectations of the kind of contribution students will be expected to make to this class during the second semester. Students will be asked to familiarize themselves with Unit 6 in the textbook, Describing Processes. Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 6, Describing Processes. Students will learn how to describe a variety of business processes.
2	Describing processes	

3	Describing processes group work	Group work: Students will work together to develop a presentation describing a business process of their own choice. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.
4	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
5	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.
6	Corporate problem solving	Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 5, Turning a Company Around. Students will learn how to identify a problem and develop a plan to solve the problem.
7	Corporate problem solving group work	Group work: Students will work together to develop a presentation describing a corporate problem and how a company solved that problem. Students will select a company of their own choice to present as a case study. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.
8	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
9	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.

10	Managing change in a corporation	Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 8, Managing Change. Students will learn about the importance of managing change at the personal and corporate level in a Darwinian world.	<p><b>【Outline and objectives】</b>                  The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening; to a short pod cast, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. The teacher will ask students to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.</p>
11	Managing change group work	Group work: Students will work together to develop a presentation, describing a change(s) a company had to make in order to adapt and achieve its corporate goals. Students will select a company of their own choice to present as a case study. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.	
12	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.	
13	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.	
14	Course review and discussion	A review of the main points learned during the semester. Group discussions will follow regarding the application of the principles learned to the life of each individual student.	

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Home preparation for student presentations is a minimum of 4 hours per week required.

**【テキスト（教科書）】**

Global Links 2, English for International Business, Angela Blackwell, Longman, ISBN 9780130883964

**【参考書】**

None

**【成績評価の方法と基準】**

Participation in class discussion and activities : 40%

Tests : 20%

Presentations : 40%

**【学生の意見等からの気づき】**

Not Applicable

**【学生が準備すべき機器他】**

None

**【その他の重要事項】**

None

LANe200CA
<b>Business Communication IA</b>
リチャード エバノフ
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course students will learn about cross-cultural differences in international business.

#### 【到達目標】

The goal of this course is to help students improve their intercultural business communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

Students will be given a reading assignment and then be expected to write an essay about what they have read. Feedback on essays will be given on Hoppii immediately after assignments have been submitted.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Student introductions	Essay (1)
Week 2	Course introduction	Read assigned documents
Week 3	Coronavirus and business (1)	Newspaper article
Week 4	Coronavirus and business (2)	Essay (2)
Week 5	Globalization in business (1)	Chapter 1 in textbook
Week 6	Globalization in business (2)	Essay (3)
Week 7	Business manners (1)	Chapter 2 in textbook
Week 8	Business manners (2)	Essay (4)
Week 9	Names and titles (1)	Chapter 3 in textbook
Week 10	Names and titles (2)	Essay (5)
Week 11	Business etiquette (1)	Chapter 4 in textbook
Week 12	Business etiquette (2)	Essay (6)
Week 13	Review as necessary (1)	Review (1)
Week 14	Review as necessary (2)	Review (2)

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should prepare for each class by reading the appropriate chapter in advance and checking vocabulary (approximately two hours per week). Following the lesson students should review both the chapter and what was discussed in class (approximately two hours per week). Additional home preparation for student presentations is required (approximately four hours at the student's discretion).

#### 【テキスト（教科書）】

Shishido, Makoto and Bruce Allen (2003). Global Understanding: Success in International Business. Tokyo: Seibido. ISBN 9784791940660 (¥ 1,700)

#### 【参考書】

None

#### 【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on the basis of the assignments they return to me (100%). It is important that you submit all assignments by the deadline so that I have enough time to read and mark them. Grades will be reduced if you submit the assignments late.

#### 【学生の意見等からの気づき】

Since the comments did not recommend any changes, no changes will be made unless specific changes are requested.

#### 【学生が準備すべき機器他】

None

#### 【その他の重要事項】

None

#### 【Outline and objectives】

This course is intended to help prepare students to effectively engage in international business after they begin working.

LANe200CA
<b>Business Communication IB</b>
リチャード エバノフ
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course students will learn the basics of international business communication from an intercultural perspective. The course will compare the business customs of Japan with those other countries, while considering how people from different cultures can work together effectively despite having different ways of thinking and different communication styles.

#### 【到達目標】

This course is intended to prepare students to use English in international business situations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

Both the teacher and students will present chapters from the textbook, with selected exercises for students. Supplementary lectures will be given by the teacher on topics not covered by the textbook. Feedback will be given on Hoppii immediately after assignments have been submitted.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
Week 1	Course introduction	Explanation by teacher
Week 2	US and Japanese Business: A Case Study	Lesson 11 in textbook
Week 3	Marketing, Advertising, and Distribution	Lesson 12 in textbook
Week 4	Communication in the "Thumb Generation"	Lesson 13 in textbook
Week 5	Women in the International Workplace	Lesson 14 in textbook
Week 6	Changes in Employment Systems	Lesson 15 in textbook
Week 7	Establishing Trust in International Business	Lesson 16 in textbook
Week 8	International Business and the Internet	Lesson 17 in textbook
Week 9	Business and the Law: Foreign Lawsuits	Lesson 18 in textbook
Week 10	Questions about Globalization and Free Trade	Lesson 19 in textbook
Week 11	What is Success in the Global Business World?	Lesson 20 in textbook
Week 12	Advertising and Public Relations	Supplementary lecture (1)

Week 13 Intercultural Communication and Globalization Supplementary lecture (2)

Week 14 Final summary Review

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should prepare for each class by reading the appropriate chapter in advance and checking vocabulary (approximately two hours per week). Following the lesson students should review both the chapter and what was discussed in class (approximately two hours per week). Additional home preparation for student presentations is required (approximately four hours at the student's discretion).

#### 【テキスト（教科書）】

Shishido, Makoto and Bruce Allen (2003). Global Understanding: Success in International Business. Tokyo: Seibido. ISBN 9784791940660 (¥ 1,700)

#### 【参考書】

None

#### 【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated by class participation (50%) and by their presentations in class (50%). There will be no final examination.

#### 【学生の意見等からの気づき】

Since the comments did not recommend any changes, no changes will be made unless specific changes are requested.

#### 【学生が準備すべき機器他】

None

#### 【その他の重要事項】

None

#### 【Outline and objectives】

In this course students will learn the basics of international business communication from an intercultural perspective. The course will compare the business customs of Japan with those other countries, while considering how people from different cultures can work together effectively despite having different ways of thinking and different communication styles. This course focuses on the following activities: preparing and giving presentations of chapters from the textbook, listening to lectures given the teacher, and discussing material presenting both in the textbook and by the teacher

ECN200CA
<b>経済データ分析 A</b>
明城 聡
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計学・計量経済学を応用した経済データの分析方法を学ぶ。また、EXCEL による基本的なデータ処理の方法も学ぶ。

※本年度は情報処理室での対面授業を前提に講義を行います。Zoom によるオンライン受講も認めますが、その場合は PC 環境を自身で用意してもらいます。詳しくは学習支援システムのお知らせをご覧ください。

#### 【到達目標】

統計学や計量経済学の基本的な考え方を学習するとともに、パソコン上で EXCEL を使った経済データを分析します。また分析結果をグラフや表にまとめることで、調査レポートを作成する技術の習得も目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP6」「DP8」「DP9」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

授業の前半では当日扱う分析手法やデータに関して解説をします。残りの時間を使って Excel を用いた演習を行います。演習では与えられた課題を各自で解いて宿題やレポートとして提出するものとします。レポートの採点で理解が不十分であるところがあれば授業で補足するなどフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・Excel と統計データ分析
2	時系列データの記述	・時系列データの表・グラフ作成 ・成長率、寄与度、寄与率
3	度数分布表とヒストグラム	・度数分布表 ・分布の形状（尖度、歪度）
4	データ集計と基本統計量	・平均、分散、中央値、メディアアン、モード ・ボックスプロット
5	ローレンツ曲線とジニ係数	・格差の定量化 ・ローレンツ曲線
6	相関関係と因果関係	・散布図 ・相関、偏相関、時差相関、自己相関 ・ランダム化比較試験、自然実験
7	移動平均と季節調整	・移動平均 ・循環的な特性と季節調整 ・異常値
8	統計的推測	・確率、確率変数、確率分布 ・正規分布と標本平均による母平均の推測
9	母集団に関する検定と推定 (1)	・仮説検定と有意水準 ・1 つの母集団の母平均・母分散に関する検定・推定
10	母集団に関する検定と推定 (2)	・2 つの母集団の母平均・母分散に関する検定・推定
11	平均に関する群間比較 (1)	・分散分析 ・1 元配置法
12	平均に関する群間比較 (2)	・2 元配置法 ・相互効果

13	単回帰分析	・単回帰分析 ・系列相関とダービーワトソン統計量
14	重回帰分析	・重回帰分析 ・ダミー変数 ・その他の回帰分析

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

PC を使った演習を行うので基本的な操作を習得しておいて下さい。講義で扱ったトピックについての宿題があります。（標準 4 時間）

#### 【テキスト（教科書）】

必要に応じてレジュメを配布します。

#### 【参考書】

計量経済学の参考書として以下をオススメします。

・田中隆一、「計量経済学の第一歩－実証分析のススメ」、有斐閣、2015

統計学の参考書には以下をあげます。

・東京大学教養学部統計学教室、「統計学入門」、東京大学出版会、1991

・東京大学教養学部統計学教室、「人文・社会科学の統計学」、東京大学出版会、1994

#### 【成績評価の方法と基準】

宿題 (30%) と課題レポート (70%)

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし

#### 【学生が準備すべき機器他】

パソコンを利用します。

#### 【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合があります。

#### 【Outline and objectives】

This course provides a guideline to study basic statistical techniques to analyze economic data. Applied statistics and econometrics are also covered in the exercise using PC and statistical software (MS EXCEL).

ECN200CA
<b>経済データ分析 B</b>
明城 聡
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

統計パッケージを利用したより高度な経済データ分析手法を学ぶ。  
 ※本年度は情報処理室での対面授業を前提に講義を行います。Zoom  
 によるオンライン受講も認めますが、その場合は PC 環境 (統計パ  
 ッケージのインストール含む) を自身で用意してもらいます。  
 詳しくは学習支援システムのお知らせをご覧ください。

**【到達目標】**

秋学期の授業では、統計パッケージ R を用いた演習を行います。R  
 の特徴は Excel よりも高度な統計手法がデフォルトで利用できる点  
 や柔軟なプログラミングができる点です。演習では具体的なクロス  
 セクション・データやパネルデータを用いて計量経済学の手法を学  
 習します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された  
 どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針  
 に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP6」「DP9」  
 に関連。現代ビジネス学科は「DP6」「DP8」「DP9」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

授業の前半ではデータ分析に必要な計量経済学と R の操作方法につ  
 いて解説します。その後で実際に端末を利用して演習を行います。  
 春学期と同様に練習問題を解いてレポートとして提出するものと  
 します。レポートの採点で理解が不十分であるところがあれば授業で  
 補足するなどフィードバックします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
 あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・その他連絡事項
2	R の設定 (1)	・R について ・基本的な設定
3	R の設定 (2)	・基本コマンド ・統計量の計算
4	R の操作とデータ管 理 (1)	・ファイル操作 ・オブジェクト操作
5	R の操作とデータ管 理 (2)	・基本統計量
6	R の操作とデータ管 理 (3)	・行列の操作
7	R の操作とデータ管 理 (4)	・行列演算
8	線形回帰分析 (クロス セクション・データ 1)	・クロスセクション・データ ・K 変数線形回帰モデル ・一般化古典的仮定
9	線形回帰分析 (クロス セクション・データ 2)	・R での回帰分析 ・散布図と回帰直線の作図
10	線形回帰分析 (クロス セクション・データ 3)	・不均一分散の検定 ・不均一分散調整済み標準誤差
11	線形回帰分析 (パネル データ 1)	・パネルデータ ・Pooled OLS
12	線形回帰分析 (パネル データ 2)	・固定効果モデル ・変量効果モデル
13	線形回帰分析 (パネル データ 3)	・Hausman 検定
14	まとめ	・授業のまとめと復習 ・課題レポートについて

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

春学期の経済データ分析 A に加えて、統計学と計量経済学を復習し  
 ておいて下さい。

毎回の講義内容を復習しておいてください（標準 4 時間）

**【テキスト（教科書）】**

必要に応じてレジュメを配布します。

**【参考書】**

R の操作やデータ分析については

- ・「R による統計データ分析入門」小暮厚之、朝倉書店、2009
  - ・「R による計量経済分析」福地純一郎、伊藤有希、朝倉書店、2011
- 計量経済学については
- ・山本拓「計量経済学」新世社、1995
  - ・田中隆一、「計量経済学の第一歩－実証分析のススメ」、有斐閣、2015
- 統計学の参考書には以下をあげます。
- ・東京大学教養学部統計学教室、「統計学入門」、東京大学出版会、1991
  - ・東京大学教養学部統計学教室、「人文・社会科学の統計学」、東京大学出版会、1994

**【成績評価の方法と基準】**

課題レポート (100%)

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし

**【学生が準備すべき機器他】**

統計パッケージ R をインストールできる Windows、Mac、もしくは  
 Linux の PC を用意して下さい。

**【その他の重要事項】**

受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合があります。

**【Outline and objectives】**

Primary objective of this course is to master advanced econometric techniques to analyze economic data using PC. Students are required to learn basic statistics and programing skills to utilize statistical software R.

ECN200CD
<b>経済地理</b>
<b>近藤 章夫</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、世界の国・地域、アジアと日本、日本国内の都市と地方などの地理的スケールを範囲とし、経済地理学的な思考方法や分析枠組を用いて、経済成長と人口構造、都市・地域経済の基礎と応用、産業の立地論、経済の空間構造、国土計画と地域政策、の諸問題について多角的に論じる。

#### 【到達目標】

日本を中心とした世界の国・地域における経済活動の地理的側面について共通したメカニズムと実態を経済学的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の基礎理論やモデルをベースにして国内外の社会経済動向や研究事例を用いながら解説していく。講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第2回	人口と経済成長①	人口構造と人口転換
第3回	人口と経済成長②	経済成長と発展格差
第4回	都市経済の基礎①	都市化と都市発展
第5回	都市経済の基礎②	都市内部構造と都市システム
第6回	産業の立地①	立地論の系譜とアプローチ
第7回	産業の立地②	工業立地論の枠組と応用
第8回	経済の空間構造①	日本の地域構造
第9回	経済の空間構造②	地域構造の比較制度分析
第10回	都市・地域経済の応用①	地域成長と地域間交易
第11回	都市・地域経済の応用②	地域間格差と人口移動
第12回	国土計画と地域政策①	戦後の国土・地域政策と地域間格差
第13回	国土計画と地域政策②	都市・地域問題の現状と新たな政策
第14回	まとめ・総括	経済活動と地理的スケールの重層性について

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

#### 【参考書】

河野稠果（2000）『世界の人口（第2版）』東京大学出版会

デイヴィッド・N・ワイル（2010）『経済成長（第2版）』ピアソン桐原

松原宏編著（2013）『現代の立地論』古今書院

山田浩之・徳岡一幸編（2018）『地域経済学入門（第3版）』有斐閣

竹内淳彦・小田宏信編著（2014）『日本経済地理読本（第9版）』東洋経済新報社

#### 【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポートの評価（60%）が中心となる。授業時リアクションペーパーまたはオンライン小テスト（平常点40%）なども最終評価に加味する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

#### 【その他の重要事項】

履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

#### 【Outline and objectives】

The aim of this lecture is to give participants a conceptual and empirical overview of modern economic geographical studies. These include economic growth and population, urban and regional problems, industrial location, spatial economic structure, and land policy.

ECN200CD
<b>産業集積論</b>
<b>近藤 章夫</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、産業の歴史と地理に焦点をあて、産業地域や産業集積の盛衰メカニズムに関する具体的かつ実践的な思考力を身につけることを目的として、現代産業における地域経済への影響や集積の実態を概説する。

#### 【到達目標】

現代経済における産業構造に焦点をあてながら、さまざまな産業の姿について集積論（地域論）の視点から多角的に論ずる。産業のみならず、産業構造にかかわるさまざまな社会経済的側面について考察し、広範な現代経済の文脈と集積論への理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。本講義では、経済地理学の一分野である集積論をベースにして、主要産業の発展について、国・地域のスケールでみた立地や企業行動を概観し、市場変化や技術革新のもたらした地理的影響に焦点を当てる。その際、現代経済や現代ビジネスの潮流に触れ、世界の日本の日本、アジアの中の日本を意識したトピックを各回で取りあげて、上記の目的を達したい。授業は配布資料をもとに行い、課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第2回	産業研究と集積論①	産業化と経済発展
第3回	産業研究と集積論②	産業構造と地域経済
第4回	鉄は国家なり	近代製鉄業から現代の鉄鋼業へ
第5回	石油時代の来し方行く末	石油化学産業とその周辺
第6回	繊維産業の歴史と地理	近代製糸業と日本の工業化
第7回	織物からユニクロまで	繊維産業からみる現代経済の変化
第8回	工業から「ものづく り」へ	加工組立型製造業とものづくり基 盤技術
第9回	自動車大国日本の行方 ①	製品アーキテクチャーと集積
第10回	自動車大国日本の行方 ②	日本的生産システムとグローバル 戦略
第11回	電子立国興亡史①	日の丸家電・半導体の栄枯盛衰
第12回	電子立国興亡史②	産学連携とシリコンバレーモデル
第13回	知識経済化とグローカ ル・マーケティング時 代	商品連鎖、クラスター、ネット ワーク、イノベーション
第14回	まとめ	集積論の温故知新

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

#### 【参考書】

伊丹敬之ほか編（1998）『産業集積の本質』有斐閣  
伊藤正昭（2011）『新地域産業論』学文社  
橋川武郎ほか編（2014）『日本の産業と企業』有斐閣  
アナリー・サクセニアン（2009）『現代の二都物語』日経 BP 社  
松原宏編（2018）『産業集積地域の構造変化と立地政策』東京大学出版会

#### 【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（60%）、オンデマンド授業の課題（40%）となる。

#### 【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

#### 【その他の重要事項】

履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

#### 【Outline and objectives】

The aim of this lecture is to give participants a comprehensive survey of geographical agglomeration in industrial geography. Key themes focus on historical and geographical change, localization and globalization, and changing geographies of industries.

MAN200CA
<b>会計学入門A</b>
石田 惣平
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計は事業の言語であり、企業活動を映し出す鏡ともいわれます。そのため、企業活動を分析・評価するためには会計の知識は欠かせません。本講義では、こうした企業活動を分析・評価する立場から必要となる会計の基礎知識を習得することを狙いとしています。

#### 【到達目標】

本講義では、終了時に学生が以下の能力を身に付けることを目標としています。

1. 財務諸表を作成するプロセスを理解する。
2. 企業の戦略や行動が財務諸表にどのように表れるかを理解する。
3. 会計数値を用いて企業を分析・評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

リアルタイムオンラインの形式で講義を行います。具体的には、Zoomを用いて、講義時間内に講義を行います。なお、ZoomのURL、ID、パスワードはHoppiiに掲載します。また、講義に関して質問がある場合は講義中にチャット欄に記入してもらうか、講義後にGoogleフォームからリアクションペーパーを提出して下さい。講義中の質問については適宜、講義後の質問については次回講義の冒頭で回答するようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	会計学の目的	会計学の目的
2	財務会計のシステム	財務会計のシステム
3	複式簿記の構造	複式簿記の構造
4	財務会計の基本原則	財務会計の基本原則
5	企業の設立と資金調達	企業の設立と資金調達
6	仕入・生産活動	仕入・生産活動
7	販売活動①	売上の認識と測定／売上原価の計算
8	販売活動②	売上代金の回収／棚卸資産の期末評価／販売活動と財務諸表
9	設備投資と研究開発	設備投資と研究開発
10	資金の管理と運用	資金の管理と運用
11	国際活動	国際活動
12	税金と配当	税金と配当
13	企業集団の財務報告	企業集団の財務報告
14	期末試験と解説	期末試験と解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を読み、講義に参加してください。また、講義中に演習を実施するので、間違えた問題は事後的にしっかり復習しておくようにしてください。本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

講義資料を授業前にアップロードします。各自で印刷するようにお願いします。

#### 【参考書】

特にありません。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）で成績を評価します。なお、出席は単位取得の前提条件なので、出席が一定の割合を充たさない場合は成績評価の対象としません。

#### 【学生の意見等からの気づき】

真剣に学びたい学生のサポートをできるよう努めます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

電卓あるいは関数電卓が必須となります。

#### 【その他の重要事項】

会計学入門Bも合わせて受講することを推奨します。

#### 【Outline and objectives】

Corporate accounting is said to be the language of business, and the mirror that reflects business activity. For this reason, corporate accounting is essential in order to analyze and evaluate firms. The aim of this class is to help students to acquire the basic knowledge of accounting from the standpoints of analysis and evaluation of business activity.

MAN200CA
<b>会計学入門B</b>
石田 惣平
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

企業会計は事業の言語であり、企業活動を映し出す鏡ともいわれます。そのため、企業活動を分析・評価するためには会計の知識は欠かせません。本講義では、こうした企業活動を分析・評価する立場から必要となる会計の基礎知識を習得することを狙いとしています。

**【到達目標】**

本講義では、終了時に学生が以下の能力を身に付けることを目標としています。

1. 財務諸表を作成するプロセスを理解する。
2. 企業の戦略や行動が財務諸表にどのように表れるかを理解する。
3. 会計数値を用いて企業を分析・評価する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

リアルタイムオンラインの形式で講義を行います。具体的には、Zoomを用いて、講義時間内に講義を行います。なお、ZoomのURL、ID、パスワードはHoppiiに掲載します。また、講義に関して質問がある場合は講義中にチャット欄に記入してもらうか、講義後にGoogleフォームからリアクションペーパーを提出して下さい。講義中の質問については適宜、講義後の質問については次回講義の冒頭で回答するようにします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	財務諸表分析の目的	財務諸表分析の目的
2	財務諸表のシステム	財務諸表のシステム
3	連結貸借対照表の見方	連結貸借対照表の見方
4	連結損益計算書の見方	連結損益計算書の見方
5	貸借対照表データによる安全性分析	貸借対照表データによる安全性分析
6	損益計算書データによる収益性分析	損益計算書データによる収益性分析
7	相互関係比による収益性分析①	相互関係比と収益性分析／投下資本率の算定
8	相互関係比による収益性分析②	ROAの2分解とROEの3分解／財務レバレッジの効果
9	効率性分析	効率性分析
10	キャッシュフロー・データによる分析	キャッシュフロー・データによる分析
11	損益分岐点分析	損益分岐点分析
12	成長性分析	成長性分析
13	利益マネジメントと財務諸表分析	利益マネジメントと財務諸表分析
14	期末試験と解説	期末試験と解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

事前に講義資料を読み、講義に参加してください。また、講義中に演習を実施するので、間違えた問題は事後的にしっかり復習しておくようにしてください。本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

講義資料を授業前にアップロードします。各自で印刷するようにお願いします。

**【参考書】**

特にありません。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験（100%）で成績を評価します。なお、出席は単位取得の前提条件なので、出席が一定の割合を充たさない場合は成績評価の対象としません。

**【学生の意見等からの気づき】**

真剣に学びたい学生のサポートをできるよう努めます。

**【学生が準備すべき機器他】**

電卓あるいは関数電卓が必須となります。

**【その他の重要事項】**

会計学入門Aも合わせて受講することを推奨します。

**【Outline and objectives】**

Corporate accounting is said to be the language of business, and the mirror that reflects business activity. For this reason, corporate accounting is essential in order to analyze and evaluate firms. The aim of this class is to help students to acquire the basic knowledge of accounting from the standpoints of analysis and evaluation of business activity.

MAN200CA
<b>原価計算 A</b>
<b>梅津 亮子</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算は、製品またはサービスの製造販売のために消費された経済的価値を物量および貨幣という単位で測定、集計、分析、伝達する会計システムです。今日の企業経営にとって原価情報は不可欠の要素であり、原価計算の意義は非常に高いものとなっています。講義では、演習問題を取り入れながら原価計算を支える理論的基礎について理解し、さらに進んで原価計算の今日的課題や、原価情報の使われ方についても知識を広めていきます。

#### 【到達目標】

1. 原価の諸概念を理解する、2. 原価計算システムの理論構造を理解する、3. 各種原価計算を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	コストと会計情報	原価とコスト、原価計算の対象、サービス業と製造業の原価計算
第 2 回	原価計算の基礎	原価とは、原価計算基準、原価計算の目的
第 3 回	原価計算手続き	費目別計算、部門別計算、製品別計算
第 4 回	原価の諸概念	形態別分類、機能別分類、製品との関連による分類、操業度との関連による分類
第 5 回	材料費の計算①	材料費の分類、消費数量の計算、実際価格法
第 6 回	材料費の計算②	予定価格法、期末棚卸高の計算、棚卸減耗費の処理
第 7 回	労務費の計算①	労務費の分類、支払賃金の計算と記帳
第 8 回	労務費の計算②	消費賃金の計算と記帳、予定賃率、賃金以外の労務費
第 9 回	経費の計算	経費の分類、支払経費、月割経費、測定経費、発生経費
第 10 回	部門費計算①	部門別計算の意義、原価部門の設定
第 11 回	部門費計算②	直接配賦法、相互配賦法、階梯式配賦法
第 12 回	部門費計算③	製造間接費の予定配賦、予定配賦率の計算
第 13 回	製造間接費の配賦①	活動基準原価計算の計算構造、活動原価、活動ドライバー
第 14 回	製造間接費の配賦②	伝統的原価計算と活動基準原価計算の比較

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は 4 時間を目安とします。

#### 【テキスト（教科書）】

初回講義で指示します。

#### 【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

小テスト 10 %、期末試験 90 %（オンライン授業の場合は、適宜、学習支援システムで成績評価方法を掲示する）

#### 【学生の意見等からの気づき】

原価計算の手続きをより深く理解するために、計算構造の理論的背景についても説明する時間をもちたい。

#### 【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

#### 【Outline and objectives】

The focus of the course is on understanding the fundamental framework of cost accounting. Students learn the basic cost accounting systems and techniques, including an in-depth knowledge of cost concepts and behavior.

MAN200CA
<b>原価計算 B</b>
<b>梅津 亮子</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算は、製品またはサービスの製造販売のために消費された経済的価値を物量および貨幣という単位で測定、集計、分析、伝達する会計システムです。今日の企業経営にとって原価情報は不可欠の要素であって、原価計算の仕組みを考察する意義は非常に高いものとなっています。講義では、演習問題を取り入れながら原価計算を支える理論的基礎について理解し、さらに進んで原価計算の今日的課題や、原価情報の使われ方についても知識を広めていきます。

#### 【到達目標】

1. 原価の諸概念を理解する、2. 原価計算システムの理論構造を理解する、3. 各種原価計算を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	個別原価計算①	個別原価計算の特徴、特定製造指図書、原価計算表
第 2 回	個別原価計算②	原価元帳と製造勘定、製造間接費の予定配賦
第 3 回	個別原価計算③	個別原価計算における仕損品の処理、作業層の評価
第 4 回	単純総合原価計算①	総合原価計算の特徴、仕掛品の進捗度と完成品換算量
第 5 回	単純総合原価計算②	月末仕掛品の評価、単純総合原価計算の計算例
第 6 回	単純総合原価計算③	総合原価計算における仕損品・減損の処理
第 7 回	工程別総合原価計算①	工程別総合原価計算の概要、全原価要素工程別総合原価計算
第 8 回	工程別総合原価計算②	加工費工程別総合原価計算の特徴と計算例
第 9 回	その他の総合原価計算	組別総合原価計算、等級別総合原価計算
第 10 回	連産品と副産物	連産品の原価計算方法、副産物の評価
第 11 回	標準原価計算①	標準原価計算の目的、標準原価の種類
第 12 回	標準原価計算②	原価標準の設定、標準原価の記帳法、原価差異
第 13 回	直接原価計算①	直接原価計算の目的、利益計画、直接標準原価計算
第 14 回	直接原価計算②	直接原価計算と全部原価計算による営業利益の比較、固定費調整

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は 4 時間を目安とします。

#### 【テキスト（教科書）】

初回講義で指示します。

#### 【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

#### 【成績評価の方法と基準】

小テスト 10 %、期末試験 90 %（オンライン授業の場合は、適宜、学習支援システムで成績評価方法を掲示する）

#### 【学生の意見等からの気づき】

原価計算の手続きをより深く理解するために、計算構造の理論的背景についても説明する時間をもちたい。

#### 【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

#### 【Outline and objectives】

The focus of the course is on understanding the fundamental framework of cost accounting. Students learn the basic cost accounting systems and techniques, including an in-depth knowledge of cost concepts and behavior.

MAN200CA
<b>コーポレートガバナンス論 A</b>
<b>胥 鵬</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コーポレート・ガバナンス論 A のテーマは、株主総会、議決権行使、スチュワードシップ・コード、機関投資家の議決権行使の個別開示などの制度を学び、データから議決権行使とコーポレート・ガバナンスの関連を理解する。

### 【到達目標】

コーポレート・ガバナンス論 A の学習目標は、株主総会、議決権行使、スチュワードシップ・コード、機関投資家の議決権行使の個別開示などの制度を学び、データから議決権行使とコーポレート・ガバナンスの関連を理解することである。

感染状況に応じて適宜オンラインと対面授業を実施する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

### 【授業の進め方と方法】

インターネット、ビジュアル資料を通じて、豊富なデータベースを利用して、コーポレート・ガバナンスにかかわる株主総会制度や敵対的買収についてわかりやすく説明し、グループ課題を通じてレポートを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	長期的に利益を生み出すためにコーポレート・ガバナンスは重要	コーポレート・ガバナンスの基礎概念と用語を解説する
第 2 回	所有と経営の分離	コーポレート・ガバナンスの原点
第 3 回	株主の権限	ビジュアル資料を用いてわかりやすく説明する
第 4 回	株主総会	ビジュアル教材で使って解説する
第 5 回	議決権行使	法律と実務を交えながら解説する
第 6 回	日本版スチュワードシップ・コード	英国との比較で日本の制度の変遷を説明する
第 7 回	機関投資家の議決権行使の個別開示	公表されたデータに基づいて機関投資家の議決権行使の実態を把握する
第 8 回	取締役選任議案	賛成比率の低い議案を中心に、所有構造と議決権行使の関連を理解する
第 9 回	監査役選任議案	賛成比率の低い議案を中心に、所有構造と議決権行使の関連を理解する
第 10 回	敵対的買収対策	事例を交えながら説明する
第 11 回	敵対的買収防衛策導入議案	なぜ海外機関投資家が反対票を投じるかを理解する
第 12 回	ウォールストリート・ルール	保有株式を売却して反対意思を表明するメカニズムを解説する
第 13 回	株式持合	企業同士が株式を保有し合う日本特有な所有構造と議決権行使によるガバナンスの限界について説明する

### 第 14 回 課題

今までのことをどれくらい理解したかを確かめるために、各自に収集した資料やデータに基づいて課題を試みる

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データダウンロードやエクセルによるデータ加工は、必ず自分の手で試してください。各自に収集した定時株主総会臨時報告書、機関投資家の議決権行使の個別開示等の資料やデータに基づいてグループ課題を試みたい。

### 【テキスト（教科書）】

テキストを特に使わないが、アップロードした講義ノートを学生がダウンロードする。

### 【参考書】

宮島英昭 [2007] (編著) 『日本の M&A』、東洋経済新報社  
宮島英昭編 [2011] 『日本の企業統治：システムの進化と危機後の再設計』、東洋経済新報社  
『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020 年

### 【成績評価の方法と基準】

中間課題と期末課題レポートで評価する。全体評価＝中間課題(40%)＋期末(グループ)課題レポート(60%)で評価。なお、成績評価には、期末課題レポートが必須、かつ中間課題未提出の場合に必ず期末課題と一緒に提出が必須。なお、期末課題をグループ課題として割り当てることがある。

### 【学生の意見等からの気づき】

早口ですが、できるだけゆっくり講義したいです。

### 【学生が準備すべき機器他】

オンラインはもちろんパソコン使用、対面授業もノートパソコン持参

### 【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を諸君に届ける。

### 【担当教員の専門分野等】

MB O、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析  
『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020 年  
Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

### 【Outline and objectives】

The theme of Corporate Governance Theory A is to learn systems such as general shareholders' meeting, exercise of voting rights, stewardship code, individual disclosure of the exercise of voting rights by institutional investors, understand the relationship between exercise of voting rights and corporate governance using data.

MAN200CA
<b>コーポレートガバナンス論 B</b>
胥 鵬
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コーポレート・ガバナンス論 B のテーマは、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプション、コーポレート・ガバナンスコードである。

### 【到達目標】

コーポレート・ガバナンス論 B の学習目標は、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプションと日本版コーポレート・ガバナンス・コードなどを理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

### 【授業の進め方と方法】

インターネットや豊富なデータベースを利用して、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプションと日本版コーポレート・ガバナンス・コードについてわかりやすく説明する。

感染状況に応じて適宜 Zoom や Webex などのリアルタイムオンラインと対面授業を実施する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	取締役の義務	取締役は会社のしもべ
第 2 回	取締役会	規模、構成と独立性
第 3 回	監査役	監査役は目付役
第 4 回	監査役会設置会社	なぜ監査役は閑散役と揶揄される
第 5 回	指名委員会等設置会社	監督と執行の分離、独立社外取締役：米国の影響
第 6 回	取締役会の規模と執行役員制度	スマート＝効率？
第 7 回	監査等委員会設置会社	監査役会設置会社と指名委員会等設置会社の中間的性格を帯びた第三の会社形態
第 8 回	監査等委員である取締役	監査等委員である取締役とその他の取締役の相違
第 9 回	代表取締役の選任と解任	誰が社長のくびをとるのか：監査役と取締役の違い
第 10 回	取締役の多様性	女性取締役と女性の活躍推進
第 11 回	業績連動報酬	ストックオプション、譲渡制限株式などの株価などの企業経営業績と連動する役員報酬
第 12 回	1 億円以上役員報酬の開示	1 億円（ミリオン）プレイヤーは誰かを探してその是非を考える
第 13 回	日本版コーポレート・ガバナンス・コード	コンプライ・オア・エクスプレイン
第 14 回	グループ課題	今までの勉強の理解を確かめるために、収集した資料やデータに基づいてグループ課題を試みる

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データダウンロードやエクセルによるデータ加工は、必ず自分の手で試してください。各自に収集したコーポレートガバナンス報告書等の資料やデータに基づいてグループ課題を試みる。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使わないが、アップロードした講義ノートはネットから各自でダウンロードする。

### 【参考書】

宮島英昭 [2007] (編著)『日本の M&A』、東洋経済新報社  
 宮島英昭編 [2011]『日本の企業統治：システムの進化と危機後の再設計』、東洋経済新報社  
 『日本のコーポレートファイナンス—サーベイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020 年  
 参考資料はネットから各自にダウンロードする。

### 【成績評価の方法と基準】

中間課題と期末課題レポートで評価する。全体評価＝中間課題（40%）＋期末（グループ）課題レポート（60%）で評価。なお、成績評価には、期末課題レポートが必須、かつ中間課題未提出の場合に必ず期末課題と一緒に提出が必須。なお、期末課題をグループ課題として割り当てることがある。

オンラインはもちろんパソコン使用、対面授業もノートパソコン持参

### 【学生の意見等からの気づき】

早口ですが、できるだけゆっくり講義したいです。

### 【学生が準備すべき機器他】

オンラインはもちろんパソコン使用、対面もノートパソコン持参

### 【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を諸君に届ける。

### 【担当教員の専門分野等】

MB O、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析、来日観光客の決定要因等々  
 『日本のコーポレートファイナンス—サーベイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020 年

Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

### 【Outline and objectives】

The theme of Corporate Governance Theory B is choice of a Board of Corporate Auditors, or a committee such as audit etc., or a nominating committee etc., the board of directors, outside directors, executive compensation, stock options, corporate governance code.

CAR200CA
<b>企業実務研究 A</b>
<b>武田 浩一</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界のさまざまな地域の国際ビジネス事情を、豊富なビジネス経験を有する方々にオムニバス形式で語ってもらう。講師は、アメリカやヨーロッパなどの先進国に加え、中国、インド、ブラジルなどの新興経済国に長期駐在経験をもつ 8 人の商社マン等を予定している。各講師がそれぞれのビジネス体験に基づいてビジネスの現場の話を交えながら講義していく。

本講義では、臨場感をもった話を通じて、日本企業が海外で直面する問題とは何か、日本だけでなく海外でも通用する技能や資質とは何か、さらにはグローバル時代における仕事の意味とは何かを考えていくのが目的である。

そのほか、サマーインターンシップに臨むにあたっての準備として、キャリアデザインに関する講義も予定している。

### 【到達目標】

本講義では、実務現場での実践に関する臨場感をもった話を通じて、日本企業が海外で直面する問題とは何か、日本だけでなく海外を含む文化・社会的多様性を伴う環境の下でも通用する技能や資質とは何か、さらにはグローバル時代における仕事の意味とは何かを自分なりにイメージできるようになり、受講者がそれぞれの卒業後の実社会での自己の将来像を具体化してその実現に向けて主体的に取り組むべき目標や課題を自覚するための手がかりを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

### 【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、新型コロナウイルス感染症対策の特別対応として、オンライン講義形式で開講するが、状況によっては、講義の一部において教室で対面講義形式の講義を実施する可能性がある。各回の講義の講義形式の見通しについては、講義ガイダンスにおいてその時点の見通しを説明するが、その後の感染状況の変化によって、学期の途中でやむをえず予定が変更となる可能性があることには留意されたい。

第 1 回講義は、オンライン講義の講義ガイダンスの回となる。Zoom によるリアルタイムのオンライン講義形式の予定である。学習支援システム上でオンライン講義の方法を「お知らせ」で通知する他、ガイダンス資料を教材として配布する。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録して「お知らせ」で講義の方法を確認した上でオンライン講義に参加し、配布されるガイダンス資料をよく読み、履修するかどうかを検討されたい。

第 2 回以降の講義は、学期当初はオンライン講義となる見通しである。オンライン講義の形式は、学習支援システムで教材を配布して課題を提示する形式や、受講者が動画コンテンツを視聴する形式、Zoom 等でのリアルタイムのオンライン講義形式などを含む予定である。受講者は国際ビジネスに関する各回の講義の際に学習支援システム上で課題として提示されるレポート課題に従って提出期限までにレポートを学習支援システムの各課題のページでアップロードすることによって提出することを求められる。

状況が許せば、講義の一部は教室での対面講義形式で実施する可能性がある。教室での講義では、毎回、講師と受講生によるクロストークの時間を設け、リアルタイムで教員がフィードバックを行うので、積極的に発言することが求められる。

実務研究という科目の性格上、ビジネスの現場を意識して能動的・積極的に講義にのぞむことを求めたい。また、実社会への接点ともなる講義でもあるため、ディスカッションやグループワーク等では設定された状況をメタ認知して達成すべき課題をよく理解するよう努め、教員や他の受講者と協働して課題に取り組む責任感のある姿勢が求められる。

講義内容に関する質問の回答や各課題のフィードバックは、リアルタイム形式の講義の回には毎回の授業の中で行い、オンデマンド形式の講義の回には授業内掲示板を通じて行うほか、個別のやりとりについては必要に応じてメールを併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	企業実務研究 A・B の概要とサマーインターンシップ実習について
第 2 回	ブラジルのビジネス事情	ブラジルの物流ビジネス事情
第 3 回	インドのビジネス事情	インドの経済社会とビジネス事業
第 4 回	ヨーロッパのビジネス事情	欧州通貨統合と金融市場
第 5 回	アメリカのビジネス事情	アメリカ航空宇宙産業のビジネス事情
第 6 回	中東のビジネス事情	中東ビジネスの特異性
第 7 回	ロシアのビジネス事情	ロシアの経済とビジネス事情
第 8 回	中国のビジネス事情	中国の経済発展とビジネス事情
第 9 回	アセアンのビジネス事情	アセアンにおける事業投資
第 10 回	その他のビジネス事情	中央省庁の仕事（例）
第 11 回	学部派遣のサマーインターンシップに関するガイダンス（出席必須）	学部派遣のサマーインターンシップに関するガイダンス
第 12 回	キャリア形成に関する外部講師による指導（1）	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ
第 13 回	キャリア形成に関する外部講師による指導（2）	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ
第 14 回	キャリア形成に関する外部講師による指導（3）	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講師が用意した資料を「学習支援システム」上でアップロードするので、各自学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

各講師が用意するレジюме

### 【参考書】

各講師のレジюмеが講義の中心になるので、特に指定しない。

### 【成績評価の方法と基準】

毎回、講演者が提示した課題に対する小レポートの提出を求める（80%）ほか、教室授業では、授業内評価（20%）を加味する。教室授業における授業内評価では、講義への参加姿勢の積極性を評価し、毎回の発言回数とその内容の充実度が評価の重要な要素となる。私語厳禁。授業態度の悪い学生も不可となる。

※企業実務研究 A、B は必ず同年度に登録すること。2 単位だけの登録は認めない。さらに、インターンシップに参加した者のみが「企業実務研究 B」を履修できる。

### 【学生の意見等からの気づき】

昨年度、授業評価アンケートで、インターンシップに関してのガイダンスが分かりにくかったという指摘を受けたので、インターンシップのガイダンスをわかりやすく、丁寧にすることを心がける。

### 【その他の重要事項】

履修上の細かな条件とインターンシップに関して詳細な説明が必要なので、第 1 回のガイダンスおよびサマーインターンシップに関するガイダンスに必ず出席すること。本講義と併せて「キャリアデザイン論」の履修を推奨する。講義スケジュールは変更になる場合がある。

## 【Outline and objectives】

This course provides opportunities for students to investigate knowledge and theories learned in the classroom in connection with the international business.

CAR200CA
<b>企業実務研究 B</b>
<b>武田 浩一</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夏休み期間中に企業（官公庁、NPO 等を含む）でインターンシップ実習に参加し、現実のビジネス事情や仕事の意義を学ぶ。また、実習報告会を通じて、自らの経験や感想をプレゼンし、議論を行っていく。

## 【到達目標】

インターンシップの経験をより具体的によりわかり易くプレゼン出来るようになることと、他の受講者の実習報告を聞き討議することを通じてビジネスの事情や仕事の意義について幅広い視点から理解を深めることを目標にする。

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

## 【授業の進め方と方法】

この講義は実習形式で行われ、原則として、本年度の経済学部のサマーインターンシップに参加した者しか単位を修得できないので、履修を検討する際には注意されたい。

今年度の講義では、新型コロナウイルス感染症対策の特別対応として、秋学期開始後、当分の間、オンライン講義を行う予定である。講義では、Zoom(<https://zoom.us/>)のウェブ会議システムを利用した教員による解説と履修者による報告・討議をベースとして、学習支援システムを通じて配布されるオンライン教材を学生が学習する形式も併用したオンライン講義を実施する予定である。各講義の実施方法に関する連絡は、学習支援システム上で本科目の履修登録者（仮登録者を含む）に対する「お知らせ」を通じて行う。

第1回講義は、オンライン講義の講義ガイダンスの回となる。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムで本科目に仮登録して、学習支援システム上で通知される講義方法に関するお知らせを講義前に確認し、第1回講義に出席した上で、履修するかどうかを検討されたい。第1回講義では、履修予定者の希望をきいて各履修者の実習報告の日程などを調整するので、履修者は第1回講義に必ず出席すること。

第2回以降の講義では、サマーインターンシップでの体験をまとめたレポートをもとに、報告会を通じて議論を行っていく。

参加者は自分の実習について報告（プレゼン）を行うだけでなく、他の報告者の発表を聞いてコメントを行い討議する。

講義内容に関する質問の回答や各課題のフィードバックは、毎回の授業の中で行うほか、個別のやりとりについては必要に応じてメールを併用する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要説明・報告スケジュールの確認
第2回	受講者による報告、討議①	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答①
第3回	受講者による報告、討議②	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答②
第4回	受講者による報告、討議③	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答③

第5回	受講者による報告、討論④	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答④
第6回	受講者による報告、討論⑤	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑤
第7回	受講者による報告、討論⑥	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑥
第8回	受講者による報告、討論⑦	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑦
第9回	受講者による報告、討論⑧	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑧
第10回	受講者による報告、討論⑨	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑨
第11回	受講者による報告、討論⑩	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑩
第12回	受講者による報告、討論⑪	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑪
第13回	受講者による報告、討論⑫	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑫
第14回	グループ・ディスカッションと講義の総括	サマーインターンシップを踏まえた仕事に関するグループ・ディスカッション

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

サマーインターンシップに参加する事が条件となる。インターンシップ終了後、各自の報告に備え、資料や文献収集も含め準備しておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

特になし

#### 【参考書】

『理論と実践で自己決定力を伸ばす キャリアデザイン講座』第3版、日経BP社、2019年

#### 【成績評価の方法と基準】

- ①派遣先企業による評価表（研修日誌）（25%）
- ②「実習で何を学んだか」のレポート（4,000字、A4）（25%）
- ③実習報告会での報告内容と討議内容（25%）
- ④授業中の発言・態度などの参加度（報告会への無断欠席は認めない）（25%）

派遣前に事務課に登録（報告）するなど、一定の手続きをしなければならない。

未手続き者は不可となる。

また、サマーインターンシップに参加しなかった学生は不可となる。  
※企業実務研究A、Bは必ず同年度に登録すること。2単位だけの登録は認めない。

#### 【学生の意見等からの気づき】

同一企業のインターンシップ参加者が多数の場合のプレゼンの仕方を工夫したい。

#### 【その他の重要事項】

履修上の詳細な条件があり、その説明のため、1回目の講義に必ず出席すること。

#### 【Outline and objectives】

This course provides opportunities for students to investigate knowledge and theories learned in the classroom in connection with the international business. Students should officially register for the summer internship in which they are completing the internship requirements.

ECN300CA
現代経済学応用A
八木橋 毅司
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではマクロ経済学の基礎講座で学んだ知見を足がかりに、中級向けのマクロ経済学の理論を学習します。また、マクロ経済データの基礎知識を身につけ、最近の新聞記事などで取り上げられた経済関連のトピックスを理論、データの両面から分析する視点を身につけます。

#### 【到達目標】

- ・身近な問題を経済学的視点で捉えることができる
- ・短期と長期における経済問題の性質の違いについてグラフを用いて説明できる
- ・初歩的なマクロ経済モデルを使った金融・財政政策効果についての分析ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

講義は基本的にパワーポイントの講義資料を学習支援システムからダウンロードし、課題を定期的に提出する形式で行います。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。また講義資料を補完するものとして、演習問題の解説動画、タブレットを用いた手書きファイルも随時配布します。教材は指定された教科書以外では官公庁・シンクタンク等の統計データ、報告資料、並びに新聞・雑誌・その他オンラインメディアも活用する予定です。各回の講義ではトピック毎の鍵となる専門知識を習得することに集中し、直後の復習では教科書の精読を通じ講義で学んだ知識の体系化を図ります。さらには適宜、宿題または小テストを通じ理解度のチェックを行います。

講義内容等に関する質問は随時メール・オフィスアワーにて幅広く受け付けます。定期オフィスアワーのスケジュールは第1回の講義前後にアナウンスします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	科学としてのマクロ経済学	オリエンテーション、マクロ経済学概説
第2回	マクロ経済学のデータ	国内総生産、消費者物価指数、失業率
第3回	国民所得：どこから来てどこへ行くのか	生産
第4回	国民所得：どこから来てどこへ行くのか	所得分配
第5回	国民所得：どこから来てどこへ行くのか	支出
第6回	国民所得：どこから来てどこへ行くのか	財市場の均衡
第7回	国民所得：どこから来てどこへ行くのか	金融市場の均衡
第8回	開放経済	開放経済（小国）モデル
第9回	開放経済	為替レート：名目対実質
第10回	開放経済	為替レートの決定要因
第11回	景気変動へのイントロダクション	景気変動に関するデータ

- 第12回 総需要1：IS-LM 財市場とIS曲線  
モデルの構築
- 第13回 総需要1：IS-LM 貨幣市場とLM曲線  
モデルの構築
- 第14回 総需要2：IS-LM 財政、金融政策  
モデルの応用

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本講義の学習時間は、1回につき4時間程度を標準とします。それ以外でも日々の経済ニュースを各種メディアを通じて吸収するよう心がけてください。

**【テキスト（教科書）】**

G. マンキュー（著）『マクロ経済学1：入門編』東洋経済新報社、2017年、4,180円（税込）

**【参考書】**

特になし

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験 50%、宿題・小テスト 50%

**【学生の意見等からの気づき】**

初年度のため特になし

**【Outline and objectives】**

This course is designed to provide an introduction to the intermediate level macroeconomic theory. These theories provide results that, at times, contrast to the results you were exposed to in day-to-day decisions. We mainly use basic diagrams as the tool for generating predictions about aggregate prices, market interest rates, and exchange rates. Methods on how to interpret data on national income and other relevant macroeconomic variables are also studied.

ECN300CA

**現代経済学応用 B**

八木橋 毅司

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業ではマクロ経済学の基礎講座で学んだ知見を足がかりに、中級向けのマクロ経済学の理論を学習します。また、マクロ経済データの基礎知識を身につけ、最近の新聞記事などで取り上げられた経済関連のトピックスを理論、データの両面から分析する視点を身につけます。

**【到達目標】**

- ・身近な問題を経済学的視点で捉えることができる
- ・短期と長期における経済問題の性質の違いについてグラフを用いて説明できる
- ・初歩的なマクロ経済モデルを使った金融・財政政策効果についての分析ができる

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

講義は基本的に教科書をベースとしたパワーポイントの講義資料を学習支援システムからダウンロードし、課題を定期的に提出する形式で行います。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。また講義資料を補完するものとして、演習問題の解説動画、タブレットを用いた手書きファイルも随時配布します。教材は指定された教科書以外では官公庁・シンクタンク等の統計データ、報告資料、並びに新聞・雑誌・その他オンラインメディアも活用する予定です。

各回の講義ではトピック毎の鍵となる専門知識を習得することに集中し、直後の復習では教科書の精読を通じ講義で学んだ知識の体系化を図ります。さらには適宜、宿題または小テストを通じ理解度のチェックを行います。

講義内容等に関する質問は随時メール・オフィスアワーにて幅広く受け付けます。定期オフィスアワーのスケジュールは第1回の講義前後にアナウンスします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	総需要2：IS-LM モデルの応用	総需要・総供給モデルの短長期分析
第2回	失業と労働市場	失業率に関するデータ、長期均衡
第3回	失業と労働市場	労働市場と賃金決定メカニズム
第4回	経済成長	経済成長に関するデータ
第5回	経済成長	ソローモデル
第6回	貨幣システム：どのようなものでどのように機能するか	信用創造と銀行システム
第7回	インフレーション：原因と影響と社会的コスト	インフレの仕組み
第8回	総供給およびインフレーションと失業の短期的トレードオフ	総供給曲線
第9回	総供給およびインフレーションと失業の短期的トレードオフ	フィリップス曲線と自然失業率

第10回	経済変動の動学モデル	動学モデルにおける総需要・総供給
第11回	経済変動の動学モデル	動学モデルを使った政策分析
第12回	消費	消費者行動の理論
第13回	投資	投資の理論
第14回	政府負債と財政赤字	財政の持続可能性

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義の学習時間は、1回につき4時間程度を標準とします。それ以外でも日々の経済ニュースを各種メディアを通じて吸収するよう心がけてください。

## 【テキスト（教科書）】

G. マンキュー（著）『マクロ経済学Ⅰ：入門編』東洋経済新報社、2017年、4,180円（税込）

G. マンキュー（著）『マクロ経済学Ⅱ：応用編』東洋経済新報社、2018年、4,180円（税込）

## 【参考書】

特になし

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%、宿題・小テスト 50%

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし

## 【Outline and objectives】

This course is designed to provide an introduction to the intermediate level macroeconomic theory. These theories provide results that, at times, contrast to the results you were exposed to in day-to-day decisions. We mainly use basic diagrams as the tool for generating predictions about aggregate prices, market interest rates, and exchange rates. Methods on how to interpret data on national income and other relevant macroeconomic variables are also studied. This course is designed to provide an introduction to the intermediate level macroeconomic theory. These theories provide results that, at times, contrast to the results you were exposed to in day-to-day decisions. We mainly use basic diagrams as the tool for generating predictions about aggregate prices, market interest rates, and exchange rates. Methods on how to interpret data on national income and other relevant macroeconomic variables are also studied.

ECN300CA
日本経済史 A
長原 豊
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(1) 明治維新（1868年）から第一次世界大戦にかけての日本資本主義の「形成-成立」過程を「史実」として現れる歴史具体的な過程として理解すること。

(2) 単なる「史実」の羅列、ではなく、これらの「史実」が日本における産業資本の確立を構成する3つの「商品」——資本・労働・土地——とその蓄積の維持を担保する国家・制度の社会的確立の帰結として、しかも経済理論的に、理解できるようになること。

## 【到達目標】

到達目標は以下の2点である。

(1) 日本における「歴史的近代」が成立していく過程を「資本」形成の視点から大掴みにできるようになること。

(2) その際、具体的「史実」とその「理論-論理」的理解を説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

## 【授業の進め方と方法】

(1) 教員が作成した図表および資料等の「基本データ」（教員だけが加工可能）および講義の基本的行程を示した「基本ノート」（受講者も加工可能）を講義の進捗に合わせて「学習支援システム」の「教材」欄から順次配置し（講義の前日に更新される）、それを Zoom の「画面共有」で教員と受講生の共通の議論の「素材」として使用する、リアルタイム講義を行う。

(2) 「基本データ」は教員だけが加工可能（色つけ・ハイライトなどによる視覚化）であり、「基本ノート」は受講生が自分のノートとして加工利用できる。

(3) 教員が講義中に書き込みした「基本データ」および「基本ノート」は、講義終了後に「学習支援システム」にアップロードされ、受講生はそれを自分が書き込んだ「ノート」と統合して、蓄積することができる。

(4) 教員による書き込みがなされた「基本資料」および「基本ノート」は、学期中「学習支援システム」に残され、受講生はいつでも繰り返しアクセスできる。

(5) 講義の最後に10分ほどの「ディスカッション・タイム」を設けるだけでなく、受講生には、「学習支援システム」を通じてリアクション・ペーパーの提出を求め、有益なコメントについては、次回の講義冒頭で紹介的に受講生全体にフィードバックする。

(6) 最終授業では、(5)で蓄積されたさまざまな論点を講評的に紹介し、学期末試験として出題される「課題=レポート」作成のための一助とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	資本主義と「日本」資本主義	「日本」という資本主義的地勢と国民経済形成：資料「資本の原型 Ver.1」配布。 ※ 以下配布される資料はすべて受講生も書き込み可能な資料です。
第2回	明治維新の「政治」的意義を経済学からみる	明治維新政府の経済的特徴：王政復古・版籍奉還・廃藩置県 → 「学習ガイド A-1」を配布

第3回	明治維新の「通知」政治	封建的規制の廃止の経済的意味：資料「資本の原型 Ver.1」と「学習ガイド A-1」による明治初期の資本主義的制度化形成を整理
第4回	地租改正の経済的意味(1)	財政(短期)的視点から地租改正を整理する：資料「明治初期財政」の配布を歳入的視点を軸に
第5回	地租改正の経済的意味(2)	資本形成(長期)的視点から地租改正を整理する：私的所有権の視点
第6回	秩禄処分(1)	財政(短期)的視点から地租改正を整理する：資料「明治初期財政」の配布を歳入的視点を軸に
第7回	秩禄処分(2)	資本形成(長期)的視点から地租改正を整理する：資料「資本の原型 Ver.2」配布
第8回	通貨金融制度の形成	地租改正・秩禄処分の「意味」を踏まえて、明治初期を貨幣的側面から整理する：「学習ガイド A-2」配布
第9回	大隈財政と松方財政	「財政」政策の資本制形成能力：「学習ガイド A-3」配布
第10回	日本の「産業」革命	技術導入の「日本」的特殊性：「学習ガイド A-4」配布
第11回	明治期の産業構造の整理	工業の近代化の「日本」的あり方：「学習ガイド A-5」の配布
第12回	転換期としての二つの「戦争」	日清戦争と日露戦争の経済史的意味を整理する：「学習ガイド A-6」配布
第13回	いわゆる「農工商資金循環」論の紹介	農業セクターから工業セクターへの資金移動をこれまでの講義の総括として提示する：「資本の原型 Final」配布
第14回	「農工商資金循環」論と二重構造論を整理し、秋学期の講義を展望する。	前回配布した「資本の原型 Final」とレポート作成のための手引き「見取り図」を配布し、春学期を振り返る。またこれまでのレアクション・ペーパーの総括的講評を行う。

『われら瑕疵ある者たち』青土社、2008年

『ヤサグレたちの街頭』航思社、2015年

『敗北と憶想』航思社、2019年

## 【Outline and objectives】

(1) Our class aims at understanding the specific period from the Meiji Restoration (1868) to the WWI as the "formation-establishment" process of Japanese Capitalism.

(2) (1) is, however, composed not simply of chronologically "sorting out" the historical facts but rather of theoretico-historical grasping of the productive factors of capitalism such as capital, labour, and land in relation to the establishment of the modern social institutions of course including the State called "Nippon".

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指示するテキストの該当箇所や参考文献を読み、理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

## 【注意事項】

さきに【授業の進め方と方法】Method(s)で示した方法で講義が進められることから、講義のなかで受講生とのインタラクションも含めて、学期末での課題提出のための「資料集的なガイドブック」を共同で作成するという形態をとっている。

## 【参考書】

中西聡編『日本経済の歴史：列島経済史入門』名古屋大学出版会、初版、第2刷、2015年、2800円+税

## 【成績評価の方法と基準】

学期末試験(記述式の課題=レポート)によって成績評価する(100%)。

## 【学生の意見等からの気づき】

講義冒頭で前回講義の単なるサマリーを行うだけでなく、理解深度が浅いと感じられた場合は、重複的に講義を反復する必要があることに気づかされた。

## 【学生が準備すべき機器他】

## 【重要】

例えば、MSWord・PowerPoint・Excelなどのような機能をマウントしたPCが必須です。

## 【専門分野】

日本経済史・経済理論

## 【研究テーマ】

経済史方法論・経済理論

## 【主要業績】

『天皇制国家と農民』日本経済評論社、1989年

ECN300CA
<b>日本経済史 B</b>
<b>長原 豊</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

- (1) 「戦間期」日本資本主義の展開を「史実」に基づいて跡づけ、世界史的なフォーディズム体制からポスト・フォーディズム体制への移行の日本における準備段階を理解すること。
- (2) 単なる「史実」の羅列、ではなく、これらの「史実」が日本における金融資本の確立・再変質とその維持を担保する国家・制度の社会的確立の帰結として、しかも経済理論的に、理解すること。
- (3) 戦後経済の日本経済論としての理解のための俯瞰図を獲得すること。

**【到達目標】**

到達目標は以下の2点である。

- (1) 日本の「歴史的近代」が「戦間期」にたどる過程を世界史的観点から捉えること。
- (2) またそのさい、「史実」とその「理論-論理」的理解を説明できるようにすること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

**【授業の進め方と方法】**

- (1) 教員が作成した図表および資料等の「基本データ」（教員だけが加工可能）および講義の基本的行程を示した「基本ノート」（受講者も加工可能）を講義の進捗に合わせて「学習支援システム」の「教材」欄から順次配置し（講義の前日に更新される）、それを Zoom の「画面共有」で教員と受講生の共通の議論の「素材」として使用する、リアルタイム講義を行う。
- (2) 「基本データ」は教員だけが加工可能（色つけ・ハイライトなどによる視覚化）であり、「基本ノート」は受講生が自分のノートとして加工利用できる。
- (3) 教員が講義中に書き込みした「基本データ」および「基本ノート」は、講義終了後に「学習支援システム」にアップロードされ、受講生はそれを自分が書き込んだ「ノート」と統合して、蓄積することができる。
- (4) 教員による書き込みがなされた「基本資料」および「基本ノート」は、学期中「学習支援システム」に残され、受講生はいつでも繰り返しアクセスできる。
- (5) 講義の最後に10分ほどの「ディスカッション・タイム」を設けるだけでなく、受講生には、「学習支援システム」を通じてリアクション・ペーパーの提出を求め、有益なコメントについては、次の講義冒頭で紹介的に受講生全体にフィードバックする。
- (6) 最終授業では、(5)で蓄積されたさまざまな論点を講評的に紹介し、学期末試験として出題される「課題=レポート」作成のための一助とする。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	1890年恐慌の意義と戦間期の恐慌を位置づける	戦間期の恐慌を「予め」まとめる：資料「景気循環」および秋学期全体で用いる統計資料の配布を開始する。 ※ 以下配布される資料はすべて受講生も書き込み可能な資料です。

第2回	「戦間期」の俯瞰的な局面区分	第一次世界大戦から第二次世界大戦を日本における具体的な経済的出来事を示しながら局面区分する：資料「時期区分」を配布する。
第3回	一度「恐慌論」に戻ってみて——景気循環の仕組み	資料「恐慌」を配布し、戦間期における恐慌の反復の経済的意味を整理する。
第4回	「戦間期」における景気循環	戦間期における「景気循環」の特徴を一括的に整理する。また資料「1_ [1910年代初期]」と「2_ [大戦ブーム]」を配布する。
第5回	「戦間期」日本経済の世界的背景	第一次大戦後の世界構造を整理する：資料「3_1 [世界経済の新局面]」を配布する。
第6回	「戦間期」日本経済の新局面 (1)	第一次大戦後の日本経済の新局面を整理する：資料「3_2 [日本経済の新局面]」を配布する。
第7回	戦間期における日本経済の新局面 (2)	産業構造の変化（重化学工業化と都市化）：資料「3_2 [日本経済の新局面]」と当該期の経済統計の集中的理解を深める。
第8回	戦間期における日本経済の新局面 (3)	戦間期における政策体系を金融的側面（1920年恐慌 → 関東大震災 → 救済政策）から整理する (1)：資料「4_1_1 [金融再編]」を配布する
第9回	戦間期における日本経済の新局面 (4)	戦間期における政策体系を金融再編から整理する（1927年恐慌と金融機関の系列化とメガバンク）：資料「4_1_2 [金融再編]」および資料「4_1_3 [金融再編]」を配布する。
第10回	井上財政と「昭和恐慌」	20年代を通じた再建金本位制への復帰努力とその失敗：資料「4_1_3 [金融再編]」の配布
第11回	「高橋財政」の政策体系 (1)	「高橋財政」の政策体系をその現代的意味から理解する。資料「5_1 [高橋財政]」の配布
第12回	「高橋財政」の政策体系 (2)	「高橋財政」の政策体系をその現代的意味から理解する。資料「5_2 [高橋財政]」の配布
第13回	戦後日本経済を理解するために	「高橋財政」と「戦時統制経済」、そして戦後経済成長との連続性と非連続性
第14回	日本経済史 B の総括と質問と講評	レポート作成のための手引き「見取り図」を配布し、春学期を振り返る。またこれまでのレアクション・ペーパーの総括的講評を行う。そのために資料「傾向と対策」を配付する。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業中に指示するテキストの該当箇所や参考文献を読み、理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用しない。

**【注意事項】**

さきに【授業の進め方と方法】Method(s)で示した方法で講義が進められることから、講義のなかで受講生とのインタラクションも含めて、学期末での課題提出のための「資料集的なガイドブック」を作成するという形態をとっている。

**【参考書】**

中西聡編『日本経済の歴史：列島経済史入門』名古屋大学出版会、初版、第2刷、2015年、2800円＋税

**【成績評価の方法と基準】**

記述式の学期末試験（レポート）によって成績を評価する（100%）。

**【学生の意見等からの気づき】**

講義冒頭で前回講義の単なるサマリーを行うだけでなく、理解深度が浅いと感じられた場合は、重複的に講義を反復する必要があることに気づかされた。

## 【学生が準備すべき機器他】

## 【重要】

例えば、MSWord・PowerPoint・Excel などのような機能をマウストした PC が必須です。

## 【専門分野】

日本経済史・経済理論

## 【研究テーマ】

経済史・経済史方法論・経済理論

## 【主要業績】

『天皇制国家と農民』日本経済評論社、1989 年

『われら瑕疵ある者たち』青土社、2008 年

『ヤサグレたちの街頭』航思社、2015 年

## 【Outline and objectives】

(1) Our class aims at historically trace the development of Japanese Capitalism and and the necessary changes associated with it in the inter-war phase based and then to define the former as the part of the preliminary stage for the world-wide transformation from the fordism to the post-fordism.

(2) (1) is, however, composed not simply of hronologically “sorting out” the historicals facts but rather of theoretico-historical grasping of the establihsment of Japanese Finance Capitalism and the social institutions closely associated with it.

(3) (1) and (2) also aim at having a bird’s-eyes view of the Japanese Economy after the WWII.

ECN200CA

## 社会経済思想史 A

後藤 浩子

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ヨーロッパにおける重商主義の形成」

本講義では、まず諸理論家の背景となる歴史的状况を押さえ、そこからどのような思想が生み出されたのかを見ていきます。17 世紀にイングランドは、ステュアート朝三王国体制、ピューリタン革命と共和政、王政復古、そして名誉革命といったように内政の激動を経験し、他方フランスは、マザランやコルベールの財政政策に支えられたルイ 14 世の絶対王政を築いていました。両国は、商業的覇権を求めて経済的・軍事的な競争を展開することになります。このような時代背景の下、「国力とは何か」「商業的繁栄をもたらす国家体制はどのようなものか」といった問いが探究され、政治経済学の諸言説が生み出されることになりました。

## 【到達目標】

学生が、この講義を通して、17 世紀イングランドとフランスの政治・経済状況の中から、どのようにして経済学的なものの見方が生成してきたのか、その過程を理解し、ヨーロッパの地域的特色と認識を深め、国際社会で主体的に生きるための歴史的思考力を培うことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業形態は Zoom によるオンライン講義を基本とし、必要に応じて対面での講義を行うハイブリッド形式になります。

毎回の授業で 1200～1400 字の講義の内容をまとめたリアクション・ペーパーを提出してもらい、これに対する受講者全体へのフィードバックは次回の授業開始時に教員からのコメントとして提示します、またリアクション・ペーパーの内容から見て授業内容の理解が不十分と思われる学生に対しては、個別に「学習支援システム」を通じて添削指導を行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	資本主義の誕生とヨーロッパ (1)	ヨーロッパはどのように原初の資本を蓄積したか。資本蓄積システムのプロトタイプと第 1 サイクル。以降 14 回までの本学期的講義内容は、高校世界史 A / B における「ヨーロッパの拡大と大西洋世界：16 世紀から 18 世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係」を教授する際に役立つ専門的知識を提供します。
第 2 回	資本主義の誕生とヨーロッパ (2)	重商主義の実相
第 3 回	資本蓄積システムの第 2 サイクル	重商主義システムの雛形としてのオランダ
第 4 回	ポスト・オランダをめぐる競争：フランス対イングランド (1)	フランスとの比較でのイングランド発展の要因分析 ①フランスの税制・国家収入・軍備
第 5 回	ポスト・オランダをめぐる競争：フランス対イングランド (2)	フランスとの比較でのイングランド発展の要因分析 ②イングランドの税制・国家収入・軍備
第 6 回	政治算術の登場	フランシス・ベーコンの思想とベティへの影響
第 7 回	W・ベティ (1)	経歴とアイルランド測量
第 8 回	W・ベティ (2)	『租税貢納論』
第 9 回	W・ベティ (3)	『政治算術』
第 10 回	J・ロック	『政府二論』における労働と所有、植民地論
第 11 回	J・チャイルド	『新交易論』におけるオランダの国力の分析
第 12 回	C・ダヴナント	英国ウィッグ党の経済政策批判
第 13 回	D・デフォー	分業の密度と国力、『ロビンソン・クルーソー漂流記』の経済思想
第 14 回	資本蓄積システムの第 3 サイクル	大ブリテンを中核として形成された資本蓄積システムの特徴

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

学生は、毎回の講義の後に、A4サイズのリアクション・ペーパー（オンライン授業の場合はMSワード・ファイル）に1200～1400字で講義の内容をまとめたレポートを作成し、次回の授業の際にそれを提出します。これに必要な学習時間は1～2時間です。講義の内容のどの点についてまとめるかは、授業中にお知らせします。毎回教員が目を通し、合格すればレポート評価分の点数として10点加算され、合格水準に満たないものは必要箇所を修正して再提出して頂きます。

**【テキスト（教科書）】**

とくにテキストは指定せず、私の講義ノートにそって授業を進めます。毎回、授業でレジュメと資料を学習支援システムを通じて配布します。

**【参考書】**

イシュトヴァン・ホント『貿易の嫉妬』（昭和堂、2009年）  
 ラース・マグヌソン著、熊谷次郎・大倉正雄訳『重商主義：近世ヨーロッパと経済的言語の形成』（知泉書館、2009年）  
 米田昇平『欲求と秩序：18世紀フランス経済学の展開』（昭和堂、2005年）  
 ※さらに詳しく学びたい人のための文献ですので、事前に購入する必要はありません。

**【成績評価の方法と基準】**

毎回の講義内容をまとめたレポート（40%）と春学期末の定期試験の成績（60%）で評価します。授業でとりあげる各思想家が置かれていた歴史的状况と彼らの思想的な重要性についての理解度を基準として評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

歴史状況の具体的な認識を促進するため、写真や地図、動画などを教材として有効に利用します。

**【Outline and objectives】**

"The formation of mercantilism in Europe"

To begin with, this lecture gives students basic knowledge about the economic development of sixteenth-and seventeenth-century Europe as historical context. Then, it provides an introduction to major theorists of social and economic thought of that time.

In the seventeenth century England underwent internal and external upheavals such as the Union of the Crowns, the Wars of the Three Kingdoms (the Puritan Revolution), the Restoration and the Glorious Revolution. On the other hand, France established an absolute monarchy under the reign of Louis XIV with the help of Mazarin and Colbert. These two kingdoms were to get into economic and military contest for commercial supremacy. Against this backdrop, questions such as "what is the strength of nation?" and "what regime brings economic prosperity?" were discussed among intellectuals, which was to form mercantilism.

ECN200CA

**社会経済思想史 B**

後藤 浩子

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「重商主義批判の流れと経済学の形成」

戦費調達のために迫られ、17世紀末イングランドでは公信用の制度的革新が生じました。しかし、フランスでは、17世紀末の Colbert 的工業重視政策と戦費増大で国家債務が膨らみ、絶対王政は自己破産の危機に瀕します。これに対処すべく、18世紀初頭には、フランス王立銀行が設立され、銀行券が発行されましたが、このいわゆる「ローのシステム」は1720年に破綻します。同時期にブリテンもまた「南海泡沬事件」で投資ブームとその破綻を経験します。このような歴史的状况の中で、まずはフランスで、そしてブリテンで、様々な処方箋が提出され、スミスによるそれらの批判的検討は『国富論』に結実します。

**【到達目標】**

学生が、この講義を通して、17世紀末「イングランド財政・金融革命」による公信用制度の普及と膨張する国家財政を背景に、18世紀に続々登場する重商主義政策批判の言説を介して、法学を補完する「立法者の科学」として経済学が誕生する過程を理解し、国際社会で主体的に生きるための歴史的思考力を培うことを目指します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

授業形態は Zoom によるオンライン講義を基本とし、必要に応じて対面での講義を行うハイブリッド形式になります。

毎回の授業で1200～1400字の講義の内容をまとめたリアクション・ペーパーを提出してもらい、これに対する受講者全体へのフィードバックは次回の授業開始時に教員からのコメントとして提示します。またリアクション・ペーパーの内容から見て授業内容の理解が不十分と思われる学生に対しては、個別に「学習支援システム」を通じて添削指導を行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	重商主義批判の流れ	フランスとスコットランドにおける脱オランダ・モデルの探究。以降14回までの本学期の講義内容は、高校世界史A/Bにおける「産業社会と国民国家の形成：フランス革命と18世紀後半から19世紀までのヨーロッパ・アメリカの経済的・政治的変革」を教授する際に役立つ専門的知識を提供します。
第2回	ジョン・ロー	国家債務処理システムのプランとその破綻
第3回	ボワギルベール(1)	欲求と富
第4回	ボワギルベール(2)	自然的自由の体制の希求
第5回	J・F・ムロン(1)	商業のための立法原理の探究：貿易と産業の連関
第6回	J・F・ムロン(2)	貨幣と信用
第7回	R・カンティロン(1)	商業の一般法則の分析
第8回	R・カンティロン(2)	市場価格と貨幣流通
第9回	F・ケネー(1)	「経済表」：国富の循環の分析
第10回	F・ケネー(2)	フィジオクラシーと合法的専制主義
第11回	A・スミス(1)	スミスによる基本概念の整理：資本・分業・交換
第12回	A・スミス(2)	「重商主義体系」批判
第13回	A・スミス(3)	経済発達の自然的過程と制度の影響
第14回	A・スミス(4)	公債批判と国家財政論

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

学生は、毎回の講義の後に、A4サイズのリアクション・ペーパー（オンライン授業の場合はMSワード・ファイル）に1200～1400字で講義の内容をまとめたレポートを作成し、次回の授業の際にそれを提出します。これに必要な学習時間は1～2時間です。講義の内容のどの点についてまとめるかは、授業中にお知らせします。毎回教員が目を通し、合格すればレポート評価分の点数として10点加算され、合格水準に満たないものは必要箇所を修正して再提出して頂きます。

**【テキスト（教科書）】**

とくにテキストは指定せず、私の講義ノートにそって授業を進めます。毎回、授業でレジュメと資料を学習支援システムを通じて配布します。

## 【参考書】

イシエトヴァン・ホント『貿易の嫉妬』（昭和堂、2009年）  
 ラース・マグヌソン著、熊谷次郎・大倉正雄訳『重商主義：近世ヨーロッパと経済的言語の形成』（知泉書館、2009年）  
 米田昇平『欲求と秩序：18世紀フランス経済学の展開』（昭和堂、2005年）  
 ジャン＝フランソワ・ムロン著、米田昇平・後藤浩子訳『商業についての政治的試論』（京都大学学術出版会、2015年）

## 【成績評価の方法と基準】

毎回の講義内容をまとめたレポート（40％）と秋学期末の定期試験の成績（60％）で評価します。授業でとりあげる各思想家が置かれていた歴史的状况と彼らの思想的な重要性についての理解度を基準として評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

歴史状況の具体的な認識を促進するため、写真や地図、動画などを教材として有効に利用します。

## 【Outline and objectives】

"Criticism of mercantilism and formation of political economy"

In need of procurement of war expenditure, institutional innovation of public credit occurred in England in the end of the seventeenth century. However, in France, the national debt had expanded due to Colbert's manufacture-oriented policy and increase of financial burden of war since the seventeenth century and absolute monarchy was on the verge of self-bankruptcy. To cope with this quagmire, the Banque royale was established in the beginning of the 18th century, and bank notes were issued, but this so-called "Law system" failed in 1720. At the same time, Britain also experienced the investment boom and its collapse, namely the South Sea Bubble. Amid such historical circumstances, various prescriptions for the ailing economies are made up first in France and then in Britain. Adam Smith examined thoroughly those critical reviews of mercantile policy and gave birth to The Wealth of Nations.

ECN300CA
農業経済論 A
西澤 栄一郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の農業は、農家の減少や耕作放棄地の増加、農産物の市場開放などのさまざまな課題に直面している。こうした農業の問題は、私たちの生活や経済全体に密接に関係している。この授業では、経済学的手法を用いつつ、日本の農業の分析と考察を行う。

## 【到達目標】

- ①日本農業の現状を理解する。
- ②食料・農業問題の経済学的な分析手法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

## 【授業の進め方と方法】

毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。可能であれば対面授業とオンライン授業を併用する。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。経済学入門と現代経済学基礎を履修済みであることを想定して授業を進める。経済政策論 A または公共経済論 A を履修済みか、同時履修が望ましい。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業ガイダンスと日本農業の現在
第2回	食生活の変遷	エンゲルの法則、食の外部位化
第3回	食料の需要・供給	フードシステム、弾力性
第4回	食の安全	GAP、HACCP
第5回	日本農業の展開過程①	江戸時代から農地改革まで
第6回	日本農業の展開過程②	農地改革以降
第7回	食料自給率からみる日本農業	食料自給率と食料自給力
第8回	農業の生産組織と土地	農業経営体、法人化、集落営農
第9回	農業生産の技術	BC技術とM技術
第10回	コメの生産と流通	食糧管理制度、経営所得安定対策
第11回	世界の食料問題	フード・セキュリティ
第12回	価格政策と貿易政策	価格支持政策、GATT、WTO
第13回	アメリカ・ヨーロッパの農業と農業政策	アメリカ農業法、EUの共通農業政策
第14回	まとめ	春学期のおさらい

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書と各回で示す参考文献を読む。配布資料を見直す。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

荻開津典生・鈴木宣弘（2020）『農業経済学 第5版』岩波書店

## 【参考書】

生源寺眞一（2013）『農業と人間』岩波書店

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験が行えない場合、課題の提出を評価の基本とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students conduct an economic analysis of Japanese agriculture.

ECN300CA
<b>農業経済論 B</b>
西澤 栄一郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業では、農業・農村を資源・環境および社会との関連でとらえ、現在の課題を把握する。これに関連して、森林・林業および水産業の現状を、経済学的手法を用いて理解する。

**【到達目標】**

- ①日本の農山村に関わる問題について理解する。
- ②日本の森林・林業と水産業の現状を理解する。
- ③資源の管理に関わる経済学的手法を身につける。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

**【授業の進め方と方法】**

毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。可能であれば対面授業とオンライン授業を併用する。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	日本農業の展開過程①	江戸時代から農地改革まで
第2回	日本農業の展開過程②	農地改革以降
第3回	農業と環境	多面的機能、野生鳥獣害
第4回	農山村の変遷と現状	中山間地域、地方創生
第5回	農村資源とエネルギー	再生可能エネルギー
第6回	農村における地域づくり	都市農村交流、グリーンツーリズム
第7回	日本の森林と林業	生産、価格、経営体などの動向
第8回	森林整備と多面的機能	持続可能な森林経営
第9回	森林と林政の展開	江戸時代から現在まで
第10回	森林管理の課題	間伐や販売のありかた
第11回	日本の水産業の現状	生産、価格、経営体などの動向
第12回	水産業の展開過程	各種の漁法、明治から現在まで
第13回	日本の水産政策	漁業権、量的規制
第14回	水産資源の管理	新たな資源管理システム

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

参考書と各回で示す参考文献を読む。課題に取り組む。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは指定しない。資料を配布する。

**【参考書】**

『食料・農業・農村白書』『森林・林業白書』『水産白書』の各年版  
その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験が行えない場合、課題の提出を評価の基本とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

**【Outline and objectives】**

The aim of this course is to help students acquire an understanding of rural areas as well as forestry and fisheries in Japan.

ECN300CA
<b>社会政策論 A</b>
菅原 琢磨
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義では、わが国が直面する社会政策上の課題（労働・雇用、医療・年金・介護、生活保護や高齢者・児童福祉など）とその背景を概説し、制度の概要、政策動向について基礎的知識を習得し、課題への制度的対応への理解を深めることを目的とする。

**【到達目標】**

- ・社会保障政策で扱われる対象を理解し、その歴史的経緯の概要を説明できる。
- ・わが国の医療・介護・年金制度（政策）の現状と課題の概要を理解し説明できる。
- ・わが国の労働政策、雇用政策の現状と課題の概要を理解し説明できる。
- ・わが国の社会福祉制度、生活保護制度の現状と課題の概要を理解し説明できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

**【授業の進め方と方法】**

【本講義はオンデマンドシステムで配信する講義コンテンツ並びに学習支援システムにおける情報提供、確認テストを通じて基本的に実施する。学習支援システムを通じて、適宜、講義内容に関する指示が出されるので確認を怠らないこと。同様に、質問や課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。】

社会政策が包摂し対象とする領域は非常に広範である。人々の「しごと」と「くらし」を取り巻く環境や福祉全般の改善とともに、リスクに備え、暮らしの安寧と生活水準全般の向上を図っていくことを目的とした諸政策の総体が社会政策である。本講義では、社会政策の領域と現代の経済社会において果たすべき基本的な役割について概説した後、各分野の個別の政策・制度を概観する。また同時にそれらが対象としている問題、課題について、それらが生じた社会的背景、原因についても概説する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	社会保障とは何かー定義と歴史的展開ー	社会保障の目的と機能
2	わが国の社会保障の歴史的展開	社会保障政策の歴史的経過と今後の社会変化
3	少子高齢化社会の動向と社会保障	
4	公的年金制度の仕組み	年金制度の負担と給付
5	老齢年金制度の概要	様々なリスクに対する年金の概要と年金にかかる問題
6	障害年金・遺族年金の概要	
7	公的年金制度の沿革と改正過程	公的年金制度の歴史的経過と年金改革の概要
8	わが国の医療保険制度	保険診療と診療報酬制度
9	診療報酬制度とその課題	診療報酬制度の課題
10	わが国の医療提供体制	医療提供体制の概要
11	これからの医療と地域政策の展開	地域の変貌とこれからの医療
12	雇用保険制度の概要と役割	雇用保険制度の意義と体系
13	雇用保険事業の沿革・課題	雇用保険二事業の概要
14	労働者災害補償保険の概要と課題	労働者災害補償保険の意義と体系
15	介護保険制度の概要	介護保険制度の概要と役割
16	介護保険の沿革と制度改正	制度発足の歴史的経緯と理念、制度改正による課題対応
17	生活保護の現状と課題	生活保護制度の適用状況と課題
18	社会福祉の現状と課題	高齢者・障害者・児童福祉政策の動向と改革

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

講義内でも様々な社会（保障）政策、制度の目的や沿革、背景などを解説するが、日頃から新聞・雑誌などで触れられる社会保障をめぐる時事的トピックスについて自発的に関心をもって目を通すことが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは特に使用しない。独自の講義スライドを利用する。

## 【参考書】

棕野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障（第17版）』有斐閣、2020年

## 【成績評価の方法と基準】

評価は平常点（コンテンツ教材の視聴状況や毎回実施される確認テストの受験状況）と学期末試験によって実施する。各々の評価の割合は50%ずつとする。

## 【学生の意見等からの気づき】

昨年度のアンケートの意見では時事的政策課題の解説を望む声が強かった。本年度も出来るだけその要望を反映したコンテンツを提供する。

## 【その他の重要事項】

医療・介護・福祉政策の立案ならびに行政担当者への研修実務を経験し、現在も国の審議会委員等で社会保障政策の論議に深く関わる担当者が、理論と合わせ当該分野の現状や課題について解説する。  
授業計画の細部については、適宜変更を加えることがある。

## 【Outline and objectives】

The purpose of this lecture is to acquire basic knowledge of the issues of social security policy in the field of employment, health care, pension, long-term care and welfare for the poor, elderly or children.

ECN300CA
<b>社会政策論B</b>
<b>菅原 琢磨</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「社会政策論A」の概説的内容を踏まえ、現実の政策動向、社会問題のなかから注目すべきテーマを採り上げて、より深い検討、解説をおこなう。現実の社会保障上の問題を「材料」として受講者自身で検討、思考する能力の涵養を促す講義としたい。

Covid-19（新型コロナウイルス）の世界的感染拡大という歴史的事態が発生した状況下であることも鑑み、特に医療制度やその政策対応に焦点を当てた講義内容とする。

## 【到達目標】

わが国が直面する主要な社会保障政策上の課題について、その問題の背景、経過、現状を踏まえた上で、今後のあるべき姿とそれを実現するための適切な政策、施策について、自らの見解を述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

## 【授業の進め方と方法】

【本講義はオンデマンドシステムで配信する講義コンテンツ並びに学習支援システムにおける情報提供、確認テストを通じて基本的に実施する。学習支援システムを通じて、適宜、講義内容に関する指示が出されるので確認を怠らないこと。同様に、質問や課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。】

厳しい財政事情、急速に進展する少子高齢化のなかで、わが国には深刻な社会保障政策上の問題が山積している。深刻な人手不足やワークライフバランスの実現、生活保護受給者の増加、医療・介護・年金の財源問題、医療・介護・福祉サービスの提供体制整備といった諸問題は、今後のわれわれの社会生活に直結するものとして、国民一人ひとりがその当事者として問題を捉え考えるべきものである。本講義ではCovid-19（新型コロナウイルス）の世界的感染拡大という歴史的事態が発生した状況下であることも鑑み、特に医療制度やその政策対応にも触れつつ、進行中の実際の政策論議や最新の学術的成果を織り交ぜつつ解説、検討する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	社会保障とは何か 社会保障を巡る今日的状況	社会保障の定義、我が国の現状と将来
2	With コロナ (COVID-19)を見据えた政策対応と今後の展開	Covid-19に対する政策対応と今後の課題
3	医療財政と医療政策 「医療保険制度の課題と将来」	給付と負担の見直しに向けた今後の展望
4	高額薬剤など新たなイノベーションに対する対応	高額薬剤の現状と画期的イノベーションを創発する制度設計
5	地域医療連携政策とその理論（Ⅰ）	地域医療連携を進める意義とその理論的背景
6	地域医療連携政策とその理論（Ⅱ）	地域医療連携を進めるうえでの政策的な留意点
7	社会保障政策の政策評価（Ⅰ）	行政評価制度の概要
8	社会保障政策の政策評価（Ⅱ）	政策評価手法：費用便益分析の概要
9	社会保障政策の政策評価（Ⅲ）	政策評価（費用・便益分析）の実際の適用例
10	保健医療福祉政策の視座と国際比較	保健医療福祉政策の目標と各国のアプローチ
11	医療費の増加要因 欧米先進国の医療制度	医療費増加要因、欧州、米国等の医療制度
12	アジア・環太平洋地域の医療制度 主要国における医療制度改革の潮流	オーストラリア、シンガポールの医療制度 各国のこれまでの医療制度改革の鳥瞰
13	国際比較を通じた日本医療の特徴	OECD Health Statistics にもとづく、我が国の医療の特徴
14	社会保障制度に対する対応の世界的潮流	これからの社会保障制度と課題対応の考え方

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

日頃から新聞・雑誌などで触れられる社会保障政策をめぐる時事的トピックスについては自発的に関心をもって目を通しておくこと。各回の講義項目の関連学習時間については、講義前に参考図書を用いて2時間、講義後に講義資料を参考に2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

テキストは使用しない。独自の講義スライドを利用する。  
講義に必要な資料がある場合は、適宜、学習支援システム上で配布する。

**【参考書】**

島崎謙治『日本の医療－制度と政策』東京大学出版会、2011年  
小黒一正・菅原琢磨『業価の経済学』日本経済新聞出版社、2018年

**【成績評価の方法と基準】**

評価は平常点により実施する。  
原則、コンテンツ教材の視聴状況と毎回実施される確認テストの受験状況（50%）と確認テストの点数（50%）とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

昨年度のアンケートの意見では時事的政策課題の解説を望む声が強かった。本年度も出来るだけその要望を反映したコンテンツを提供する。

**【その他の重要事項】**

医療・介護・福祉政策の立案ならびに行政担当者への研修実務を経験し、現在も国の審議会委員などを兼務する担当者が、理論と合わせ、当該分野の現状や課題について解説する。  
授業計画の細部については、適宜変更を加えることがある。

**【Outline and objectives】**

Based on the basic knowledge of Social Security Policy A, this lecture addresses real policy issues we are now facing and fosters the ability to think about the political solution.

ECN300CA

**社会保障論A**

小黒 一正

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

少子高齢化が進む中、日本の社会保障は大きな転換点に直面している。社会保障制度の役割を再考しつつ、諸外国の社会保障制度との比較を通じて、日本の社会保障制度の現状や課題を講義する。

**【到達目標】**

社会保障論を学ぶことで、日本の社会保障を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。社会保障の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

**【授業の進め方と方法】**

現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

**【留意事項】**

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	人口の分析	人口ピラミッド、人口に関する公的統計、日本の人口の歴史
第3回	日本の社会保障制度と社会保障給付費	定義、GDPと社会保障給付費、財源
第4回	年金制度1	年金制度の仕組み
第5回	年金制度2	年金制度の問題点
第6回	年金制度3	今後の年金制度の方向性と諸外国の年金制度
第7回	医療保険制度1	医療保険制度の仕組み
第8回	医療保険制度2	医療保険制度の問題点と諸外国の医療保険制度
第9回	介護保険制度	介護保険制度の仕組み、問題点と諸外国の介護保険制度
第10回	生活保護制度1	生活保護制度の仕組みと問題点
第11回	生活保護制度2	諸外国の公的扶助制度
第12回	雇用保険制度	雇用保険制度の仕組み
第13回	子育て支援	児童手当・保育サービス、育児休業制度
第14回	期末試験と総括	試験等

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

**【テキスト（教科書）】**

小塩 隆士『社会保障の経済学（第4版）』日本評論社

**【参考書】**

厚生労働省『厚生労働白書』各年版  
鈴木亘『だまされないための年金・医療・介護入門』東洋経済新報社  
西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞出版社  
西沢和彦『税と社会保障の抜本改革』日本経済新聞出版社

小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社  
 麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学 15 講』新世社  
 山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学的アプローチへの招待』日本評論社

#### 【成績評価の方法と基準】

現在のところ、期末試験 100%で評価することを予定。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

#### 【Outline and objectives】

The primary goal of this course is to help you understand the features and the issues of Japanese social security system, compared with the one of other developed countries.

This will also help you to predict the future direction of Japanese economy at a much deeper level.

ECN300CA
<b>社会保障論 B</b>
小黒 一正
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会保障論 A（日本の社会保障制度）の理解を深めるため、社会保障論 B では、社会保障制度を支える財政制度や、社会保障の経済分析などについて、経済学の視点から講義する。受講者は、ミクロ経済学・公共経済学の基礎を学んでいることが望ましい。

#### 【到達目標】

日本の社会保障の現状と課題を理解し、経済学の視点から社会保障の将来展望について考察するための基礎知識の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

#### 【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	財政と社会保障	社会保障制度の現状と財源
第 3 回	課税の経済分析 1	租税の経済への影響
第 4 回	課税の経済分析 2	望ましい租税政策のあり方
第 5 回	公債発行の経済分析	公債発行による経済への影響
第 6 回	所得再分配	所得格差の指標
第 7 回	社会保障の経済分析 1	望ましい生活保護制度のあり方
第 8 回	社会保障の経済分析 2	モラルハザード、逆選択
第 9 回	社会保障の経済分析 3	積立方式と賦課方式、マクロ経済への影響
第 10 回	少子化対策	少子高齢社会における少子化政策
第 11 回	世代間格差	世代会計
第 12 回	近年の社会保障改革 1	年金改革
第 13 回	近年の社会保障改革 2	医療・介護改革、地域包括ケア
第 14 回	期末試験と総括	試験等

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

#### 【テキスト（教科書）】

小塩隆士『コア・テキスト 財政学』新世社  
 麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学 15 講』新世社  
 林正義・小川光・別所俊一郎『公共経済学』有斐閣

#### 【参考書】

阿部彩・國枝繁樹・鈴木亘・林正義『生活保護の経済分析』東京大学出版会  
 小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社  
 小塩隆士『社会保障の経済学（第 4 版）』日本評論社  
 川口洋行『医療の経済学（第 2 版）』日本評論社  
 畑農鏡矢・林正義・吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣  
 『図説 日本の財政』各年度版 東洋経済新報社

『図説 日本の税制』各年度版 財経詳報社

## 【成績評価の方法と基準】

現在のところ、期末試験 100%で評価することを予定。

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

## 【Outline and objectives】

The primary goal of this course is to help you develop a consistent way of thinking about the issues of Japanese social security system, by using the approaches of macroeconomics and public economics.

This will also help you to predict the future direction of Japanese social security system at a much deeper level.

ECN300CA

## 金融各論 I A

高橋 秀朋

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、金融もしくはファイナンスの基本的な知識であるマネー（貨幣）の時間価値の概念、一物一価の法則と裁定、リスクに関する知識を解説し、その知識を応用して、債権の価格評価、債券のポートフォリオ管理、リスク分散化など実際の資産運用で実践されている知識を解説する。また、銀行のアセット・ライアビリティ・マネジメントや投資信託の資産運用でそれらがどのように利用されているかも事例やデータを交えて詳しく解説していく。

## 【到達目標】

本講義の目標は、資産運用方法および投資戦略の意義を理解し、銀行や保険会社が預金者から預かったお金が実際にどのように運用されているのか、それらの行動が経済に対してどのようなインパクトを与えるかを考察できる力を身につけることにある。また、株価データをはじめとした統計データを分析し、客観的な証拠を提示できるような力も身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

## 【授業の進め方と方法】

本講義はオンライン講義とセミナー方式を組み合わせで行う。受講者はシステムにアップロードされた講義資料を各自で学習したのち、キャンパス（もしくはライブ形式）で行われるセミナー形式の講義に参加することが求められる。本講義では、数学や統計的な知識を利用して、ファンドがどのような方法で資産を運用しているのかを示すのはもちろんであるが、できる限り事例を多く導入し、わかりやすく解説していく。そのため、講義は Excel を多用する。講義はオンラインなどの演習（Excel）、質疑応答で構成される。セミナー形式で行われる講義ではアサインメント（クイズを計算した Excel ファイルの提出）が課されるが、それは講義が開かれた日のうちに提出してもらう。次回の最初に要点を解説し、フィードバックする。その解説を聞いても不明瞭な点がある場合は講義終了後、もしくは、オフィスアワーに教員に直接し質問すること。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	マネーの時間価値	将来価値、現在価値、IRR
2	債券価格と裁定理論	債券価格の計算
3	債券のデュレーション	イミュニゼーション
4	リスク資産評価 1	2 項 1 期間モデル
5	リスク資産評価 2	複数期間モデル
6	株式収益率の分析	株式収益率の基本統計量
7	株式収益率の分析	シミュレーション
8	分散化 1	ポートフォリオの構築
9	分散化 2	数値例を用いた分析
10	分離定理	無リスク資産の導入
11	資本市場モデル	資本市場モデルの理論的背景
12	資本市場モデルの実証	市場インデックスの分散化の検証
13	投資分析	投資信託のパフォーマンス評価
14	投資戦略	ポータブル・アルファ戦略

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

講義資料は事前にアップロードするので、受講者は当該資料に目を通した上で講義に参加することが望ましい。また、講義では EXCEL を利用し計算を行う練習問題を出題することがあるので、EXCEL を利用できる環境下にあることが望ましい。講義の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

S. Benninga 『Financial Modeling 3rd ed.』（The MIT Press, 2008）

**【参考書】**

齊藤誠『金融技術の考え方・使い方- リスクと流動性の経済分析』（有斐閣、2000 年）

手嶋宜之『ファイナンス入門』（ダイヤモンド社、2011 年）

ツヴィ・ボディー、ロバート・マートン（著）、大前恵一朗（翻訳）『現代ファイナンス論 第 2 版』（ピアソン・エドゥケーション、2011 年）  
Z. Bodie, A. Kane, A. Marcus 『Essentials of Investments 8th ed.』（McGraw-Hill, 2010）

**【成績評価の方法と基準】**

セミナー形式の講義後に課されるアサインメントと期末課題レポートで評価する。アサインメント 30%、期末課題レポート 70% で評価を行う。

**【学生の意見等からの気づき】**

講義内容理解のためのフィードバックを可能な限り行い、学生の内容理解に尽力する。

**【学生が準備すべき機器他】**

講義では Excel を利用した演習を中心に進めるので、受講生は MS Excel がインストールされている、自分の PC もしくは大学貸出の PC を講義前に準備しておくこと。

**【Outline and objectives】**

This course provides an introduction to the theories and the methods in investment analysis such as present value, yield to maturity, arbitrage, risk, and risk diversification. This course also introduces how the theories and methods in investment are utilized into the practical world. I introduce asset/liability management by banks and evaluation of investment performance. To explain practical uses of the theories and the methods in investment analysis more easily, data and simulation-based analyses are employed.

ECN300CA
<b>金融各論 I B</b>
<b>高橋 秀朋</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義は、ファイナンスのリスク資産評価に関する知識がある程度身につけている者を対象として、デリバティブを利用したリスクの移転方法およびその応用に関して学習していく。具体的には、2 項モデル・BS モデルによるオプション評価、ポートフォリオ・インシュアランス、リアル・オプションによる投資評価である。それらの概念は数式などを通じて学習していくだけでは理解が難しいので、シミュレーションの方法も同時に学習し、数値例を用いてより理解を深めていく。

**【到達目標】**

本講義の目標は、確率・統計に関する基本的な知識を前提として、オプションを利用したリスク・インシュアランスの方法、オプションの価格評価、オプションが企業の投資意思決定に与える影響を理解し、実際に存在する投資ファンドや企業がどのような基準で投資判断を行っているのか、企業に関連するニュース（特に、M&A）の背後にはどのような経済的事情が存在するのかを考察できる力を身につけることにある。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本講義はオンライン講義とセミナー方式を組み合わせで行う。受講者はシステムにアップロードされた講義資料を各自で学習したのち、キャンパス（もしくはライブ形式）で行われるセミナー形式の講義に参加することが求められる。本講義では、数学や統計的な知識を利用して、企業や投資ファンドがどのような方法で資産や企業を評価しているのかを示すのはもちろんであるが、できる限り事例を多く導入し、わかりやすく解説していく。そのため、講義は Excel を多用する。講義は授業形式、演習形式（Excel）、質疑応答で構成される。セミナー形式で行われる講義ではアサインメント（クイズを計算した Excel ファイルの提出）が課されるが、それは講義が開かれた日のうちに提出してもらおう。次回の最初に要点を解説し、フィードバックする。その解説を聞いても不明瞭な点がある場合は講義終了後、もしくは、オフィスアワーに教員に直接し質問すること。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	オプションの概説	オプションペイオフの構造
2	様々なオプション戦略	バタフライ・スプレッド等
3	オプション評価 1	2 項 1 期間モデル
4	オプション評価 2	2 項多期間モデル
5	オプション評価 3	ブラック・ショールズ・モデル
6	オプション評価 4	多期間 2 項モデルの BS モデル近似
7	オプション複製	デルタ・ヘッジング
8	シミュレーション	モンテカルロ法
9	シミュレーション応用	投資シミュレーション
10	オプションによる保険	ポートフォリオ・インシュアランス
11	転換社債評価	株式とオプションによる複製
12	企業の投資意思決定	NPV による投資意思決定
13	リアル・オプション 1	撤退オプション
14	リアル・オプション 2	拡張オプション

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

講義資料は事前にアップロードするので、受講者は当該資料に目を通した上で講義に参加することが望ましい。また、講義では EXCEL を利用し計算を行う練習問題を出題することがあるので、EXCEL を利用できる環境下にあることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

S. Benninga 『Financial Modeling 3rd ed.』（The MIT Press, 2008）

**【参考書】**

Z・ボディー、R・マートン（著）、大前恵一朗（翻訳）『現代ファイナンス論 第 2 版』（ピアソン・エドゥケーション、2011 年）

R・ブリーラー、S・マイヤーズ、F・アレン（著）、藤井 眞理子、国枝 繁樹（翻訳）『コーポレートファイナンス 第 8 版（上・下）』（日経 BP 社、2010 年）

**【成績評価の方法と基準】**

セミナー形式の講義後に課されるアサインメントと期末課題レポートで評価する。アサインメント 30%、期末課題レポート 70% で評価を行う。

**【学生の意見等からの気づき】**

講義内容理解のためのフィードバックを可能な限り行い、学生の内容理解に尽力する。

**【学生が準備すべき機器他】**

講義では Excel を利用した演習を中心に進めるので、受講生は MS Excel がインストールされている、自分の PC もしくは大学貸出の PC を講義前に準備しておくこと。

**【Outline and objectives】**

This course provides lectures to understand and value the basic derivatives and their applications in the financial risk management and investment. Concretely, we focus on the theories and the methods in option pricing (binomial and Black-Scholes model), portfolio insurance, and real option. To understand practical application of the theories and the methods in derivatives more easily, I introduce numerical examples and conduct simulation-based analyses.

POL300CA

**政治過程論**

岡崎 加奈子

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

私たちの暮らす現代社会において、政治の果たす役割は重要である。しかしながら、私たちは、政治的調整・決定の過程の実態についてどれほど理解し、思考しているだろうか。本講義では、政治過程論についての基礎的概念を身につけ、現代日本の政治過程についての幅広い知識と理解を深め、今日の政治課題について深く考察することを目的とする。

**【到達目標】**

本講義では以下の点を到達目標とする。

学生が現代社会の政治をめぐる制度や政治過程について、幅広い知識と理解を得られること。

学生が政治的な事象について自ら考察し、社会と自分との関係性について幅広く思考する力を身につけること。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本講義では、現代日本における政治制度・政治過程について講義をすすめていく。その際、国会、政党、市民などについて理解するとともに、これらが政治過程の中でどのような位置にあるかを考察していく。

学生は、毎授業後に質問・意見・感想等を提出する。次回授業において、質問にたいする回答や意見・感想の紹介などの共有をおこなう。また、小テストおよび課題レポートを複数回予定している。小テスト・課題については解説・講評をおこない、知識と理解の定着をはかる。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	政治過程論とは何か
第 2 回	現代社会と政治過程	現代社会の特徴と政策の果たす役割
第 3 回	権力とは何か	権力と政治について
第 4 回	代表制	民主主義と代表制について
第 5 回	国会審議制度	議会の発達と国会のしくみ
第 6 回	立法過程	閣法・議員立法の審議過程
第 7 回	官僚・利益団体	政治過程における官僚・利益団体
第 8 回	政党制	政党の発達と政党制
第 9 回	戦後政党政治	戦後日本の政党政治の変遷
第 10 回	自治体のしくみと政治過程	自治体の政治過程と地方分権改革過程
第 11 回	自治体の政策	自治体の政策と課題
第 12 回	世論・メディア	世論の形成とメディアの影響
第 13 回	市民とは何か	現代社会における市民の政治意識と政治参加
第 14 回	まとめ	これまでの振り返りと講義の総括

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

学生は、授業内容と毎回配布される資料をもとにノートを作成し復習すること。また本講義は、時事的な政治事象と関連つけた講義内容となることから、学生は、日ごろから新聞などをよく読むこと、さらに、講義の中で紹介する参考文献等について読むことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

指定なし

## 【参考書】

授業内で適宜、参考文献を紹介していく。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点により評価をおこなう。平常点は、毎回の授業への取り組みのほか、レポート、や小テストなどの課題の提出とその評価などにより構成される。

## 【学生の意見等からの気づき】

政治的な事象について、講義の内容を通じてより深く思考できる力を養うことを意識し、講義をおこなっていく。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of political process. This course deals with the basic concepts and principles of the party system, the bureaucracy and the Diet in Japan.

At the end of the course, participants are expected to understand the basic political science and key challenges related to the political process in the modern society.

POL300CA
<b>国際政治論</b>
<b>曹 海石</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際政治学の基礎知識を学ぶ。

## 【到達目標】

この講義では、国際政治をめぐる様々な概念と理論を紹介すると同時に、「国際政治を見る目」を養うトレーニングを行う。受講生には、毎回授業の最後に質問を出してもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

## 【授業の進め方と方法】

この講義では、社会科学という視点と歴史的な観点から、国際政治における主要な概念と理論を分析しながら、現代の世界を考えていく。また、中国・朝鮮半島及び東南アジア諸国の開発・近代化、政治体制とその移行、民主化とナショナリズムを、日本の戦後史と関連付けながら相互関係を考察する。なお、授業形態は、講義に加えて、授業内での課題発表や個別課題等に対するフィードバック方法などを取る。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

## 【授業計画】

## 秋学期

回	テーマ	内容
第1回	国際連合と国際政治とは何か	第二次世界大戦、国際連合、米ソ関係、多極化、イデオロギー
第2回	東西冷戦と朝鮮戦争	冷戦、国連軍、中国志願軍、サンフランシスコ講和会議、日米同盟
第3回	現代中国の政治と外交	毛沢東、文化大革命、鄧小平、一人っ子政策、改革開放政策
第4回	戦後の日中関係史	民間貿易協定、国交正常化、天皇陛下訪中、ODA、尖閣諸島問題
第5回	台湾問題と米中関係	金門砲撃、一国二制度、米国の台湾関係法、台湾ナショナリズム、三つのノー
第6回	中国の少数民族問題	民族政策、民族教育、チベット、新疆ウイグル自治区、ダライラマ
第7回	韓国の政治と外交	李承晩ライン、軍事独裁、民主化運動、保守と革新、太陽政策
第8回	日韓関係	日韓基本条約、金大中事件、日本文化の開放、韓流ブーム、知られざる条約内容秘話
第9回	北朝鮮の政治と外交	金日成、先軍政治、核戦略、世襲体制、同距離外交
第10回	南北朝鮮関係	離散家族、経済支援、首脳会談、開城工業団地
第11回	日朝関係	朝鮮人帰国事業、拉致問題、万景峰号旅客船、日朝平壤宣言
第12回	知られざる中朝関係	相互援助協力条約、古朝鮮と領土問題、東北歴史工程、高句麗問題
第13回	日本と東南アジア諸国	ODA、アセアン・プラス3、FTA、南シナ海問題、RCEP
第14回	復習と試験	今までのことをどれくらい理解したかを復習し、それを試験

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

日本の三大新聞紙以外に、中国の人民日報海外日本語版や韓国の朝鮮日報海外日本語版などを読むことを勧める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は特に指定しない。

**【参考書】**

- 1、河辺一郎『国連と日本』岩波新書、1996年。
- 2、下斗米編『アジア冷戦史』中央公論新社、2004年。
- 3、天兒慧編『膨張する中国の対外関係』勁草書房、2010年。
- 4、鐸木昌之『北朝鮮』東京大学出版会、1992年。
- 5、鈴木佑司『東南アジアの危機の構造』勁草書房、1988年。

**【成績評価の方法と基準】**

授業への参加度30%、レポート課題20%、期末テスト50%

**【学生の意見等からの気づき】**

日本のテレビや新聞では報道されていない内容、裏話などをもっと追加すること。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし

**【Outline and objectives】**

Learn the basic knowledge of international politics

ECN300CA
<b>経済統計論A</b>
<b>菅 幹雄</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

経済統計論Aでは産業統計を取り上げる。事業者についての行政記録情報から出発して、ビジネスレジスター、経済センサス、各種産業統計を経て産業連関表に至るまでの流れを説明する。

**【到達目標】**

経済・社会を記述する統計がどのような体系に基づいて作成されているかを理解することによって、経済・社会に関する統計を表面的ではなく、深く読み取る能力を身に付けることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

パワーポイントを用いた講義形式であり、Zoomを用いて実施する。毎回、学習支援システムでテストを実施する。テスト提出メ切り後、正解を提示し、テスト結果について講評を行うことでフィードバックする。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	経済統計のしくみ、事業所・企業についての行政記録情報	経済統計のしくみ、産業統計の流れ、商業・法人登記、労働保険情報、EDINET
2	産業統計の基礎知識	統計単位、産業分類（JSIC,ISIC,NAICS,NACE）、生産物分類（CPC,NAPCS,CPA）
3	経済センサス-基礎調査	事業所統計調査、経済のサービス化、調査方法、ローリング調査
4	ビジネスレジスター	母集団名簿、統計調査のインフラストラクチャー、レジスター統計
5	経済センサス-活動調査（1）調査方法	調査方法、企業と事業所、個人企業と法人企業、単独事業所企業と複数事業所企業
6	経済センサス-活動調査（2）経営指標と特化係数	調査結果の分析事例の紹介、経営指標を用いた産業間比較、特化係数を用いた地域分析
7	工業統計調査	工業の年次統計調査、工場法、重工業化、高度成長、軽薄短小、空洞化
8	経済構造実態調査（商業、サービス業）	商業の年次統計調査、流通革命、流通経路、業種と業態、大店法、規制の強化と緩和、立地環境特性、サービス産業の年次統計調査、情報化社会（情報通信業、専門・技術サービス業）、高齢化社会（医療・介護業）、観光立国（交通業、宿泊・飲食業）
9	月次産業統計調査と指数	経済産業省生産動態統計調査、鉱工業生産指数、商業動態統計調査、第三次産業活動指数、季節調整
10	産業連関表（1）レオンチェフ	ワシリー・レオンチェフ、DVD『13プラス』視聴
11	産業連関表（2）産業連関表のしくみ	産業連関表のしくみ、ケネーの経済表、相互依存関係、産業連関表の作成方法、接続表、地域間表

- 12 産業連関表（3）産業 産業連関分析（輸入外生きモデル）  
連関分析（輸入外生モデル）
- 13 産業連関表（4）産業 産業連関分析（輸入内生生きモデル）  
連関分析（輸入内生モデル）
- 14 産業統計の未来、まとめ

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

清水雅彦・菅幹雄『経済統計』培風館 3630 円

**【参考書】**

福井武弘『標本調査の理論と実際』日本統計協会 1650 円

**【成績評価の方法と基準】**

毎回のテスト 100 %

**【学生の意見等からの気づき】**

小テストの正解はなるべく早く授業支援システムにアップする。

**【学生が準備すべき機器他】**

電卓

**【Outline and objectives】**

In Economic Statistics A, students learn industry statistics. Start from the administrative record of businesses, I will explain the flow of producing industry statistics; business register, economic census, annual industry statistics to the input-output table.

ECN300CA
<b>経済統計論 B</b>
<b>菅 幹雄</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

経済統計論Bでは世帯統計を取り上げる。個人・世帯の行政記録情報から出発して、国勢調査、家計調査、消費者物価指数という流れを説明する。

**【到達目標】**

経済・社会を記述する統計がどのような体系に基づいて作成されているかを理解することによって、経済・社会に関する統計を表面的ではなく、深く読み取る能力を身に付けることを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

パワーポイントを用いた講義形式であり、Zoomを用いて実施する。毎回、小テストを実施する。家計簿アプリを用いた結果についてレポートを実施する。テスト提出後、正解を提示し、テスト結果について講評を行うことでフィードバックする。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	個人・世帯についての行政記録情報	世帯統計の流れ、住民基本台帳、戸籍法による届出、出入国管理記録
2	国勢調査（1）民主主義の基盤、調査方法	国勢調査の必要性、選挙区の区割り、標本調査のサンプリングフレーム、調査方法、調査員調査
3	国勢調査（2）年齢・時間・コーホート	人口の基本的属性、人口ピラミッド、団塊の世代、人口の高齢化、標準世帯、単身世帯の増加、首都圏への人口集中
4	国勢調査（3）ベティ＝クラークの法則	人口の経済的属性、就業状態、産業と職業、ベティ＝クラークの法則
5	人口推計と人口予測	人口学的方程式、中間年人口の推計、人口の将来予測、出生率、死亡率、純移動率、コーホート変化率
6	標本抽出法	単純無作為抽出、層化抽出、多段抽出、層化多段抽出、標本誤差、
7	家計調査（1）家計簿、調査方法	家計簿、調査方法
8	家計調査（2）エンゲルの法則	エンゲル係数、エンゲルの法則、需要の所得弾力性
9	家計調査（3）不平等度を測る	ローレンツ曲線、ジニ係数、相対的貧困率、全国消費実態調査
10	家計簿アプリを用いた学生の消費支出調査の分析結果	家計簿アプリ、学生の消費支出調査
11	消費者物価指数（1）	指数算式、フィッシャーのテスト、速報性
12	消費者物価指数（2）	理論的生計費指数、パーシェ・チェック、基準改定、CPI ショック、連鎖指数
13	消費者物価指数（3）	実質化、要因分解

- 14 消費動向指数、まとめ 実質化、1か月の日数の影響、世帯人員の影響、世帯主の年齢の影響、高額消費、家計消費状況調査、単身モニター調査、傾向スコア

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

清水雅彦・菅幹雄『経済統計』培風館 3630円

**【参考書】**

福井武弘『標本調査の理論と実際』日本統計協会 1650円

**【成績評価の方法と基準】**

毎回のテスト及びレポート 100%

**【学生の意見等からの気づき】**

小テストの正解をなるべく早く授業支援システムにアップする。

**【学生が準備すべき機器他】**

電卓

**【Outline and objectives】**

In Economic Statistics B, students learn household statistics. Start from the administrative record of individuals and households, I will explain the flow of producing household statistics; population census, household expenditure survey and consumer price index.

ECN300CA
<b>情報経済論 A</b>
<b>鈴木 豊</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「ゲーム理論」は、経済学の多くの分野で強力な分析ツールとして使われているほか、企業組織や多くのビジネスシーンでも基礎理論として用いられている。本講義では、「ゲーム理論とその応用」について、基礎からやや高度な内容まで体系的に理解し、その応用の仕方も学ぶ。

**【到達目標】**

経済学の多くの分野で強力な分析ツールとして使われている「ゲーム理論・契約理論」の方法論（考え方や分析の仕方）を体系的に学ぶことを通じて、現代社会を主体的に考察し、問題解決に向けて公正な判断を下す能力を修得する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論』に沿って授業を進める。この講義はフルオンデマンド授業となるが、昨年度、「Zoomによる動画配信」の方式が好評だったことから、今学期もその方式で進める予定である。授業では、リアクションペーパー（レポート含む）と課題提出の積み重ねが重要となる。授業の詳細の指示や課題等へのフィードバックは、適宜「学習支援システム」上で行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	ゲーム理論とは	ゲーム理論の導入の説明およびゲーム理論で使う数学について
第2回	静学ゲーム①	ゲームの基礎と同時手番ゲーム。支配戦略均衡とナッシュ均衡。
第3回	静学ゲーム②	ナッシュ均衡の解釈。色々なゲームの例。クールノー競争。
第4回	静学ゲーム③	混合戦略均衡とその解釈
第5回	時間を通じたゲーム①	基礎理論：後ろ向き帰納法と部分ゲーム完全均衡
第6回	時間を通じたゲーム②	応用例①「参入阻止」と「意味のある脅し」
第7回	時間を通じたゲーム③	応用例② 経済政策ゲーム：ルールか裁量か
第8回	くり返しゲーム①	基礎理論 協調均衡達成のメカニズム
第9回	くり返しゲーム②	応用例① 共有資源の管理における協調行動
第10回	くり返しゲーム③	応用例② グローバルガバナンスと国際協調
第11回	交渉理論①	最後通牒ゲーム：理論予測と実験結果 公正さの考慮
第12回	交渉理論②	最後通牒ゲームと行動ゲーム理論
第13回	オークション①	ゲームの解概念：弱支配戦略、劣位戦略、劣位戦略のくりかえし削除
第14回	オークション②	ファーストプライスおよびセカンドプライス・オークションの比較

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

教科書『完全理解 ゲーム理論・契約理論』勁草書房 2016 および 授業の配布資料、授業ノートを基に、予習、復習をする。課題（レポート 2 回）も提示される。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論』勁草書房 2016

**【参考書】**

- ① 岡田章『ゲーム理論・入門』有斐閣 2014
- ② 中山幹夫、武藤滋夫、船木由喜彦編『ゲーム理論で解く』有斐閣 2000
- ③ マクミラン『経営戦略のゲーム理論』（伊藤・林田訳）（有斐閣）
- ④ 鈴木豊（編）『ガバナンスの比較セクター分析：ゲーム理論・契約理論を用いた学際的アプローチ』法政大学出版局 2010

**【成績評価の方法と基準】**

学習支援システム上で課された課題提出（毎回の課題、複数回のレポート、リアクションペーパーの内容等）の積み重ねで評価する。評価のウェイトは、課題提出の合計点（70%）、レポートの合計点（25%）、リアクションペーパーの合計点（5%）とする。

**【学生の意見等からの気づき】**

具体例を用いた、分かり易く丁寧な説明を心がける。レポート課題提出後の解説（フィードバック）も必ず行う。「教科書」の内容に沿った授業を行うよう留意し、特に「教科書」を超える数学的な手法は、極力用いないようにする。

**【Outline and objectives】**

This course deals with Game Theory and its Applications. Games theory provides a set of analytical tools that can be used to model the strategic interactions between “players” (decision-makers). Ideas such as Nash equilibrium, backward induction, commitment, credibility, bargaining, and repeated interaction and cooperation are introduced. A variety of applications will also be discussed.

ECN300CA
<b>情報経済論 B</b>
<b>鈴木 豊</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

「契約理論（Contract Theory）」について体系的に学ぶ。  
 (I) 不確実性と情報の経済学：「情報の経済学」の基礎  
 (II) プリンシパル=エージェントの理論:モラルハザード  
 (III) プリンシパル=エージェントの理論:アドバース・セレクション  
 (IV) 不完備契約の理論

**【到達目標】**

春学期の「ゲーム理論」に続き、その応用分野と位置付けられる「契約理論」の方法論を系統的・体系的に学ぶことによって、現代社会を主体的に考察し、課題解決に向けて公正な判断を下す能力をさらに向上させる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論』に沿って授業を進める。本講義はフルオンデマンド授業となるが、昨年度、「Zoom」による動画配信」方式が好評だったことから、今学期もその方式で進める予定である。リアクションペーパーと課題提出（レポートを含む）の積み重ねが重要となる。授業の詳細の指示や課題等へのフィードバックは、適宜「学習支援システム」上で行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	不確実性と情報の経済学①	不確実性とくじ、期待効用最大化仮説、リスク態度
第 2 回	不確実性と情報の経済学②	期待効用最大化とその使い方、リスクプレミアム
第 3 回	プリンシパル・エージェントの理論：モラルハザード①	固定給とモラルハザード
第 4 回	モラルハザード②	歩合給とインセンティブ効果、簡単なエージェンシーモデルの解
第 5 回	モラルハザード③	インセンティブ契約の数学モデル（リスク回避的エージェンツ）
第 6 回	モラルハザード④：複数エージェンツの理論	チーム生産におけるフリーライダー問題とその解決（ペナルティースキーム）
第 7 回	プリンシパル・エージェントの理論：アドバース・セレクション①	逆選択の例
第 8 回	アドバース・セレクション②	逆選択を解決する仕組みとしての自己選択メカニズム
第 9 回	アドバース・セレクション③	自己選択メカニズムの最適解の導出、図解、含意
第 10 回	不完備契約①	関係特殊的投資とホールドアップ問題：概念と基本モデル
第 11 回	不完備契約②	関係特殊的投資とホールドアップ問題：一般化と外部機会の存在
第 12 回	不完備契約③	「資産所有（財産権）」アプローチ ①基本モデル 残余コントロール権

- 第13回 不完備契約④ 「資産所有（財産権）」アプローチ  
②企業の境界の決定
- 第14回 不完備契約⑤ 組織における権限配分、権限委譲について

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書『完全理解 ゲーム理論・契約理論』勁草書房 2016 および 授業の配布資料、授業ノートを基に、予習、復習をする。課題（レポート2回）も提示される。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論』勁草書房 2016

## 【参考書】

- ① 岡田章『ゲーム理論・入門』有斐閣 2014
- ② 中山幹夫、武藤滋夫、船木由喜彦編『ゲーム理論で解く』有斐閣 2000
- ③ オリバー・ハート『企業 契約 金融構造』（鳥居訳）慶応大学出版会 2010
- ④ 鈴木豊（編）『ガバナンスの比較セクター分析：ゲーム理論・契約理論を用いた学際的アプローチ』法政大学出版局 2010

## 【成績評価の方法と基準】

学習支援システム上で課された課題提出（毎回の課題、複数回のレポート、リアクションペーパーの内容等）の積み重ねで評価する。評価のウェイトは、課題提出の合計点（70%）、レポートの合計点（25%）、リアクションペーパーの合計点（5%）とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

具体例を用いた、分かり易く丁寧な説明を心がける。レポート課題提出後の解説（フィードバック）も必ず行う。「教科書」の内容に沿った授業を行うよう留意し、特に「教科書」を超える数学的な手法は、極力用いないようにする。

## 【Outline and objectives】

This course deals with the main topics in Contract Theory and Information Economics. Building up on the game theoretical concepts studied in the spring semester, we cover the tools and techniques used in models of Moral Hazard, Adverse Selection, and Incomplete Contracts. A variety of applications will also be discussed.

ECN300CA

## 世界経済史 A

杉浦 未樹

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21世紀の世界経済は、広がる所得格差、人口成長と環境破壊の問題を抱え、資源の効率的な活用を促す新たな革新を必要としている。これらの課題が歴史的にどのように生じてきたかを、グローバルな視点から検証する。

1 世界経済史の前半となるこの授業は、一八〇〇年以前を中心に扱う。現代につながる諸問題である、人口爆発、世界的不平等、地球破壊、交易がもたらす地域格差、危機の時代の対処法、農業の効率化、消費活性化と女子の労働参加、人の移動、奴隷と強制労働のテーマを、世界史の視点からとらえる。

## 【到達目標】

- ・経済事象の根幹にある所得格差や人口増加について、長期的展開を述べ、地域間の比較ができるようにする。
- ・経済活動を支えている組織や制度を多面的に理解する。
- ・基幹産業の成り立ちと長期的な展開を把握する。
- ・歴史分析を組みこんだ長文論述ができる

## 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP8」に関連。

## 【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講となります。各回、講義内容がテキストで配布され、並行してオンラインレクチャーが行われます。テキストのみで受講するか、オンラインレクチャーに参加するか選べます。毎回授業内課題がテキストに表示され、授業支援システムに提出します。オンラインレクチャーでは、チャットを使ったクイズや討論を行います。課題のフィードバックは、テキストとオンラインレクチャー内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	この授業のテーマ	授業の三つのテーマを理解し、長文論述に向けた基礎スキルを身に着ける
第2回	世界の人口、所得、格差の歴史（1）	人口、一人当たりの所得、所得格差の長期的推移をグローバルな視野から検証する
第3回	世界の人口、所得、格差の歴史（2）	所得格差の長期的推移の分析を紹介し、不平等が拡大・縮小を論じる
第4回	前工業化時代の環境史—集住と移動のインパクトと人新世2（1）	地球環境の破壊の歴史的な位置づけを、環境史・人新世の概念を紹介しながら論じる
第5回	前工業化時代の環境史—集住と移動のインパクトと人新世2（2）	地球環境の破壊の歴史的な位置づけを、環境史・人新世の概念を紹介しながら論じる
第6回	近代世界システム—交換メカニズムにひそむ不均等発展（1）	交換システムに地域間格差を生み出すメカニズムが埋め込まれているのか、近代世界システム論から、一六世紀の第一次グローバル化の時期を検証する。

第7回	近代世界システム—交換メカニズムにひそむ不均等発展(2)	交換システムに地域間格差を生み出すメカニズムが埋め込まれているのか、近代世界システム論から、一六世紀の第一次グローバル化の時期を検証する。
第8回	17世紀—危機の時代のとらえ方(1)	17世紀を共通して危機の時代となく、近代化論と世界システム論、グローバルヒストリーの見方を比較する。
第9回	17世紀—危機の時代のとらえ方(2)	グローバルヒストリーからみた17世紀として、ユーラシアを視点に論じる。
第10回	農業革命・消費革命—先行した二つの革命	産業革命に先行した農業革命と消費革命と勤勉革命を論じ、現代に残した意義をさぐる
第11回	農業革命・消費革命—先行した二つの革命	産業革命に先行した農業革命と消費革命と勤勉革命を論じ、現代に残した意義をさぐる
第12回	大西洋をわたった人々(1)—植民地とは何か	植民地を人の移動の視点から説明する。植民地の奴隷、植民者、年季奉公人がどのような移動をしどのような立場にかれたのかを、北米植民地、カリブ海を中心に具体的にたどる。
第13回	大西洋をわたった人々(2)—奴隷制と資本主義の形成	奴隷制度の発達をグローバルな視野から概観したあと、奴隷制をめぐるE・ウィリアムズのテーゼ、フォーゲルとエンガマンのテーゼおよび最近の「資本主義の新しい歴史」研究の展開を述べる。第二次産業革命の展開と、交通・通信制度の発達を運河・鉄道・郵便制度からみる。
第14回	講義の総括と最終評価に向けたフィードバック	事前公開した最終評価(レポート・テスト)の対策を行う

#### 【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業外では、指示された参考文献を読み、そこからさらに関連文献にあたって経済史への理解を深めることを推奨する。週に4～7時間程度補習し、課題作成にも時間をかける。

#### 【テキスト(教科書)】

授業支援システムにアップする

#### 【参考書】

小野塚知二 『経済史—今を知り、未来を生きるために』有斐閣、二〇一八年  
 ブランコ・ミラノヴィッチ 『不平等について—経済学と統計が語る26の話』二〇一二年  
 馬場哲・山本通・廣田功・須藤功 『エレメンタル欧米経済史』晃洋書房 二〇一二年

#### 【成績評価の方法と基準】

試験の評価が70%、各回の授業内課題点30%で評価します。授業に積極的に参加した場合はボーナス点を追加します。試験は長文論述で、問題を事前公開します。

#### 【学生の意見等からの気づき】

問題設定に関心が高かったので、さらに議論を充実させていきたいと考えている。

#### 【Outline and objectives】

21st century global economy is facing the problems of spreading inequality, poverty, population expansion and environmental destruction. Innovations that allows more efficient allocations of resources and distributions of wealth are sought after. This lecture outlines the historical processes these problems of global economy was formed and surveys the essential analytical frameworks in economic history.

ECN300CA
世界経済史 B
杉浦 未樹
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

資本・人・モノの国際移動・取引システムの編成、基幹産業の発展、戦争と経済、地域統合を主要な柱として、19世紀から21世紀の経済発展を概観する。

#### 【到達目標】

- ・19世紀と20世紀の資本主義と産業の展開が、現在の経済状況を生み出したことを理解する
- ・基幹産業の成り立ちと長期的な展開を把握する。
- ・レポート作成を通じて、論述力、文献調査能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP8」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講となります。各回、講義内容がテキストで配布され、並行してオンラインレクチャーが行われます。テキストのみで受講するか、オンラインレクチャーに参加するか選べます。毎回授業内課題がテキストに表示され、授業支援システムに提出します。オンラインレクチャーでは、チャットを使ったクイズや討論を行います。

課題のフィードバックは、テキストとオンラインレクチャー内と、授業支援システムの評価を併用して行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	グローバリゼーションと19、20世紀	19、20世紀の特徴を整理したあと、グローバリゼーションからみるとどのような位置づけとなるかを論じる。とくに1815～1880年がグローバリゼーションの加速期、1880～1945年が減速期、1945年以降が第二の加速期であることを理解する
第2回	19～20世紀 グローバル化するモノの流れ	貿易の長期動向と、世界商品とそのコモディティチェーン、ヴァリューチェーンの史的分析
第3回	マシンメイドに到る道—イギリス綿織物業の機械化導入と技術革新	19～21世紀の移民史を経済側面から議論する。
第4回	19～21世紀の人の流れ—移民とグローバリゼーション	移民(主に国際移民)と経済発展との関係を歴史的に位置づける。移民の定義、現状を概観した後、グローバル化する移民の第一波(1840年～1913年)と、第二波(1950年～2000年)を比較する。最後に移民が引き起こす格差の拡大と収束を論じる
第5回	金本位制と国際信用取引システムの成立	国際通貨(信用)システムの展開を、金本位制から扱う。本位制の定義、金本位制の導入、グローバリゼーションとの関係、停止と崩壊を述べる。

第 6 回	産業で辿る 19～21 世紀 (1)、工業化を支えた条件と製鉄+鉄道、	1840 年以前の、工業国アメリカを生み出し、支えた土壌を整理したあと、製鉄+鉄道がタグを組んだ大規模な工業化と経営革新を述べる。
第 7 回	産業で辿る 19～21 世紀 (2)、石油業	産油業の展開を軸に、垂直統合・独占/寡占とそれらの規制・多国籍企業の発展、エネルギーの転換を理解する。
第 8 回	産業で辿る 19～21 世紀 (3) 自動車産業	自動車産業の展開を軸に、フォーダイズムからリーン生産方式までの歴史的な流れを理解する。
第 9 回	産業で辿る 19～21 世紀 (4) 繊維・アパレル・ファッション産業	これらの産業の展開を概観し、消費主義、大量生産、ライフスタイル消費やクリエイティブ産業の勃興を理解する。
第 10 回	1950、60 年代の世界	1950、60 年代の世界経済情勢を概観する
第 11 回	1970 年代の世界	ドル危機とオイルショックを前後に、1970 年代の経済情勢をみる
第 12 回	1980 年代の世界	1980 年代の世界経済の動向を概観する。
第 13 回	1990 年代に提示された、危機を乗り越える経済モデル	1990 年代に構造改革を行った国家をモデルとして紹介する。イギリス、北欧、オランダ、シンガポールを取り上げる。
第 14 回	試験準備とレポート事前評価	試験の論述対策をするともに、前週までに提出したレポートに対し改善点を述べる

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業中に示唆した経済史の文献を読み、歴史への理解を深めていくことが望ましい。高校時に世界史を履修していない者は、高校教科書ないし、戦後経済史の平易な新書を読みあわせることをすすめる。平均して週に 4～7 時間程度授業外学習し、レポート作成にむけた準備をする。

**【テキスト（教科書）】**

毎回授業時にテキストを配る。さらに参考図書を指示する

**【参考書】**

北川勝彦、概説世界経済史、昭和堂、2017 年  
 キャメロン、ニール『概説世界経済史 2 工業化の展開から現代まで』東洋経済新報社、2013 年。  
 ロバート・C・アレン『なぜ豊かな国と貧しい国が生まれたのか』NTT 出版、2012 年馬場哲・山本通・廣田功・須藤功著『エレメンタル欧米経済史』、晃洋書房、2016 年  
 ウォーマック、『リーン生産方式が、世界の自動車産業をこう変える』（経済界、1990 年）  
 他は講義ごとに指示します。

**【成績評価の方法と基準】**

授業内課題 20%、授業の流れを理解する論述テスト 40%、レポート 40%で評価する。  
 論述テストの試験問題は事前公開する。  
 レポートは合格点がとれるように希望者には事前フィードバックを行う。

**【学生の意見等からの気づき】**

テーマへの関心は高かったので、さらに伝達方法などを工夫していきたい。

**【Outline and objectives】**

21st century global economy is facing fundamental issues of spreading inequality, poverty, population expansion and environmental destruction. Innovations that allows more efficient allocations of resources and distributions of wealth are sought after. This lecture outlines the historical processes these problems of global economy was formed and surveys the essential analytical frameworks in economic history. Following Part A, Part B will deal with 19-21th centuries.

ECN300CA
<b>地方財政論 A</b>
小林 克也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この講義では、日本の地方財政制度とその問題について解説します。日本では、財政赤字により、多額の政府債務が積み上がっています。国から補助金をもらっている地方自治体も財政の効率化が必須です。学生のみなさんはこうした問題を経済学からどうとらえたら良いかについて学びます。

**【到達目標】**

この講義では、地方財政の問題を論理的に考えるられるようになることが目標です。そのために、財政や地方財政のいくつかの理論を理解すること、地方財政データの入手のしかたとその見方を身につけます。現在起きている問題は何か、それをどのように捉えたら良いかをできるようにすることを目指します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

**【授業の進め方と方法】**

Hoppii 上で講義ノートと資料を配信しますので、それを学習して下さい。あわせて zoom を用いて 1 時間ほどポイント解説をします。Hoppii 上で課題を出して、私が採点してコメントを返しますので、復習して下さい。質問や意見は Hoppii の掲示板や zoom でのポイント解説中にして下さい。掲示板やその場で私がお答えします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	政府と市場 (1)	市場の失敗、パレート効率。
第 2 回	政府と市場 (2)	政府の抱える問題。自治体と分権化。
第 3 回	公共財	公共財、準公共財、クラブ財、私的財。公共財の最適供給。
第 4 回	財政データ (1)	歳入と歳出の分類。財政指標の見方。
第 5 回	財政データ (2)	決算カードの見方。
第 6 回	財政データ (3)	自治体の破綻と財指標のデータとの関係。
第 7 回	財政の役割	国と地方の役割分担。
第 8 回	所得再分配機能	所得再分配機能は国と地方でどちらが担うべきか。
第 9 回	経済安定化機能	経済安定化機能は国と地方とでどちらが担うべきか。
第 10 回	資源配分機能	資源配分機能は国と地方とでどちらが担うべきか。
第 11 回	分権化定理 (1)	オーツの地方分権化定理。
第 12 回	分権化定理 (2)	分権化定理と地方公共財の便益のスピルオーバー。
第 13 回	コースの定理	便益のスピルオーバーとコースの定理。
第 14 回	投票の理論	中位投票者の定理。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

経済学の基本的な考え方を使うので、1 年次必修の経済学の授業を理解しているとの授業もわかりやすいです。加えて財政学の履修を勧めます。日経新聞を使いながら財政の現状も扱うので、日頃新聞を見ることを勧めます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。

## 【参考書】

理論面では、ミクロ経済学や公共経済学の本が参考になります。地方財政の考え方を学びたい場合、

林宏昭・橋本恭之(2014)『入門地方財政』第3版中央経済社  
佐藤主光(2009)『地方財政論入門』新世社

が適当です。また、地方財政の統計を見たい場合は

総務省編『地方財政白書』各年度版

が適当です。統計資料などを配布しながら講義します。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回、授業の内容に関する課題を Hoppii 上で出します。その課題で 100% の評価をします。

## 【学生の意見等からの気づき】

自分の住んでいる市町村や都道府県に興味をもってもらえるようにお話するよう心がけます。また、公務員（都道府県・市町村などの職員）を希望している方もいると思いますので、仕事をしながら役立つかもとお話したいと思います。

## 【学生が準備すべき機器他】

PC とインターネット環境。とりわけ、Hoppii を利用できる環境は必須です。毎回のポイント解説を zoom を用いていますので、zoom を利用できるようにして下さい。

## 【その他の重要事項】

Hoppii を通じて、講義ノートと資料の配付、課題の出題と提出をします。学生のみなさんは、自分がきちんと学習支援システム上に登録されているか確認して下さい。特に、履修変更をした方は、自分で Hoppii にこの授業を登録して下さい。変更や追加の情報は Hoppii 上で掲示しますので、お知らせに注意して下さい。

## 【Outline and objectives】

In this lecture, I explain Japanese local governments system and its issues. In Japan, we have a vast amount of governments debt due to their deficits. We have to get our governments expenditures efficient. Students learn how to consider those issues on the basis of economics.

ECN300CA
地方財政論 B
小林 克也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、地方財政 A での講義をもとに、日本の地方財政制度を中心に解説します。地方税や地方債、国から地方自治体へ配付される補助金のしくみと、それらを経済学からとらえた場合、どのように評価できるのかについて、学生のみなさんは学びます。

## 【到達目標】

地方財政 A で学んだ考え方を元に、地方税が日常生活の中でどのように課税されているのかを理解することが目標です。さらに統計を見ながら、地方債、国から自治体への補助金について、経済学の立場から考えられるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

## 【授業の進め方と方法】

Hoppii 上で講義ノートと資料を配信しますので、それを学習して下さい。あわせて zoom を用いて 1 時間ほどポイント解説をします。Hoppii 上で課題を出して、私が採点してコメントを返しますので、復習して下さい。質問や意見は Hoppii の掲示板や zoom でのポイント解説中にして下さい。掲示板やその場で私がお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	望ましい税と地方税固有の原則	税と地方税の満たすべき原則。
第 2 回	消費税と地方消費税	消費税と地方消費税のしくみ。従価税が市場に与える影響。
第 3 回	住民税 (1)	住民税の均等割と所得割。
第 4 回	住民税 (2)	給与所得控除と所得控除、税率、法人住民税。
第 5 回	法人事業税 (1)	法人事業税の仕組み。都道府県間のばらつきの程度。
第 6 回	法人事業税 (2)	法人課税の経済学での考え方。外形標準課税、税率。
第 7 回	固定資産税 (1)	固定資産税と都市計画税。
第 8 回	固定資産税 (2)	公示地価、路線価、固定資産税評価額、市場価格。
第 9 回	地方債 (1)	地方債のしくみ。経済学上の意義と問題点。
第 10 回	地方債 (2)	実質公債費比率、起債充当率。臨時財政対策債に潜む問題。
第 11 回	国庫支出金	国庫支出金のしくみ。国庫支出金と便益のスピルオーバーの関係。
第 12 回	地方交付税交付金	地方交付税のしくみ。財源調整と財源保障、ソフトな予算制約。
第 13 回	市町村合併	最適財政規模に関する研究と平成の大合併。道州制。
第 14 回	再考：公共財	公共財の費用負担の問題とリンダール均衡。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基本的な考え方を使うので、1 年次必修の経済学の授業を理解しているとこの授業もわかりやすいです。加えて財政学 AB と地方財政論 A の履修を勧めます。日経新聞を使いながら財政の現状も扱うので、日頃新聞を見ることを勧めます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。

## 【参考書】

理論面では、ミクロ経済学や公共経済学の本が参考になります。地方財政の考え方を学びたい場合、

林宏昭・橋本恭之(2014)『入門地方財政』第3版中央経済社  
佐藤主光(2009)『地方財政論入門』新世社

が適当です。また、地方財政の統計を見たい場合は

総務省編『地方財政白書』各年度版

が適当です。統計資料などを配布しながら講義します。

## 【成績評価の方法と基準】

毎回、授業の内容に関する課題を Hoppii 上で出します。その課題で 100% の評価をします。

## 【学生の意見等からの気づき】

自分の住んでいる市町村や都道府県に興味をもってもらえるようにお話するよう心がけます。また、公務員(都道府県・市町村などの職員)を希望している方もいると思いますので、仕事をしながら役立つかもとお話したいと思います。

## 【学生が準備すべき機器他】

PC とインターネット環境。とりわけ、Hoppii を利用できる環境は必須です。毎回のポイント解説を zoom を用いていますので、zoom を利用できるようにして下さい。

## 【その他の重要事項】

Hoppii を通じて、講義ノートと資料の配付、課題の出題と提出をします。学生のみなさんは、自分がきちんと学習支援システム上に登録されているか確認して下さい。特に、履修変更をした方は、自分で Hoppii にこの授業を登録して下さい。変更や追加の情報は Hoppii 上で掲示しますので、お知らせに注意して下さい。

## 【Outline and objectives】

In this lecture, I explain Japanese local finance system based on the lecture of the local public finance A. Students learn the local government taxes and bonds, and subsidies and grants from the central to local governments. Students also learn how to evaluate them from the standpoint of economics.

ECN300CA

## 産業組織論 A

河村 真

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業組織論は、ミクロ経済学の応用分野として位置付けられる。本講義で受講生諸君には、完全競争モデルの理解を深めてもらうことを目的とする。産業組織論 B も併せて履修していただければなおよい。

## 【到達目標】

完全競争下での企業の生産量の決定、供給曲線の導出および均衡価格、数量の決定までの説明の流れを理解できるようにする。同時に、この説明を具体的な市場に当てはめ、解釈できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

## 【授業の進め方と方法】

授業支援システムに各回のレジュメをアップするので、それに目を通してほしい。その上で、春学期に 1 回練習問題集をアップし、練習問題の解答を授業支援システムを通じて提出してもらう。練習問題の正解は、締め切り直後の zoom による講義で解説する。第 1 回はガイダンスとして zoom による授業を行いたい。春学期中にさらに、授業内容の質疑応答のため、1、2 回 zoom による授業を考えている。zoom による授業は、1 週間前までに授業支援システムのお知らせを使い周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	産業組織論の枠組み	完全競争の条件と不完全競争
第 2 回	産業組織論の現実への応用例	産業組織論のトピックとしての不完全競争の具体例の例示
第 3 回	企業の生産技術	生産関数の説明
第 4 回	企業の生産技術	生産関数から費用関数の導出
第 5 回	企業の生産技術	費用関数から限界費用関数と平均費用関数の導出
第 6 回	企業の生産技術	生産関数、費用関数、平均・限界費用関数の対応関係
第 7 回	完全競争下の企業の生産量の決定	収入関数と費用関数を用いた利潤最大化生産量の図解
第 8 回	完全競争下の企業の生産量の決定	限界収入関数と限界費用関数を用いた生産量決定の図解
第 9 回	個別供給曲線の導出	財の市場価格の変化が企業が選ぶ利潤最大化生産量をどう変化させるかを知るための個別供給曲線
第 10 回	個別供給曲線のシフトの要因	個別供給曲線が完全競争モデルの下で、どのような要因によりシフトするかの説明
第 11 回	企業の個別供給曲線から市場供給曲線の導出	各企業の個別供給曲線を足し合わせることで求められる企業全体の生産量の合計と市場価格との関係
第 12 回	市場需要曲線の説明（簡単な消費者理論の説明を含む）	消費者の理論にある予算制約化の効用最大化行動の結果として導かれる市場需要曲線（簡単に復習）
第 13 回	完全競争モデルでの市場均衡	市場需要曲線と市場供給曲線の交点における均衡価格と均衡数量の決定（ワルラス的調整過程を用いて説明）

第14回 比較静学による完全競争モデルの現実への応用例	完全競争が想定しやすい具体的な産業をイメージし、技術革新が生じた場合、完全競争モデルを用いて、価格、数量の変化の結果を予測する過程を解説
-----------------------------	----------------------------------------------------------------------

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に、レジュメによる図解で完全競争モデルの成り立ちを理解できるよう準備しているつもりであるので、予習の必要はない。しかし、多くの図を系統だてて説明するので、レジュメによる図解を講義後、何度か自分で再現し、説明の順序に従い並べてみて、図による完全競争モデルの理解を深めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

基本的に指定しない。

#### 【参考書】

学生諸君から要請があれば、講義冒頭に紹介。

#### 【成績評価の方法と基準】

完全競争モデルの理解の程度を基準に評価する。評価方法は、定期試験期間中において行う試験の点数が9割、1回の練習問題解答の提出状況に1割のウェイトで評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

レジュメにおいて図解に書き込みの多いものについてはなるべく大きく目に示すことで対応したい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

なし

#### 【Outline and objectives】

The aim of the course is to get the view on competitive market equilibrium and comparative statics. To get the competitive equilibrium, understanding production function, cost function, average and marginal cost function, and supply function is required. Deriving the functions and the equilibrium should be explained by using related graphs.

ECN300CA
<b>産業組織論 B</b>
河村 真
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

独占モデルおよびクールノ複占モデルの解説、さらに、完全競争均衡、独占均衡およびクールノ複占均衡を比較し、それぞれの均衡の評価についても説明を加える。

#### 【到達目標】

産業組織論は、ミクロ経済学の応用分野として位置付けられる。本講義で受講生諸君には、独占モデルおよびクールノ複占モデルの理解を深めてもらうことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

完全競争モデル、独占モデルおよびクールノ複占モデルの図による解説を行う。その解説をレジュメにして、授業支援システムの教材に毎週水曜日アップする。秋学期に1回、第7回講義の終了後（予定）、それまでの内容に関する練習問題集をアップするので、それらの解答を授業支援システムの課題にアップしてほしい。解答提出締め切り直後のzoomによる講義で、練習問題の解説を行う。数回程度、質疑応答のため、zoomによる授業を行う。zoomによる授業、質疑応答を行う場合は、1週間前までに授業支援システムのお知らせよりメール通知にて知らせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	独占モデル	独占下の企業と完全競争下の企業の想定の違い
第2回	独占モデル	独占企業が直面する収入関数の説明
第3回	独占モデル	限界収入関数の説明
第4回	独占モデル	独占企業の生産量と独占下の均衡価格決定の図解（収入関数と費用関数を用いて）
第5回	独占モデル	独占企業の生産量と独占下の均衡価格決定の図解（限界収入と限界費用関数を用いて）
第6回	独占モデルの応用例	自然独占下における公益事業の価格規制に関する議論
第7回	完全競争モデル及び均衡の導出（修正版）	独占モデルで用いたのと同じな費用関数および需要関数の想定の下での完全競争均衡の導出
第8回	クールノ複占モデル	企業2社からなる複占モデルにおける想定の違いとクールノ均衡の特徴
第9回	クールノ複占モデル	残余需要曲線の導出と各企業の利潤最大化生産量の導出
第10回	クールノ複占モデル	各企業の反応関数の導出と各社生産量と均衡価格の決定
第11回	独占、寡占および完全競争均衡の比較および独占の死荷重	独占、クールノ複占および完全競争下で予想される均衡数量、均衡価格の比較とその評価
第12回	クールノ複占モデル（応用例Ⅰ）	ネットワーク外部性を許した規格（技術仕様）の標準化（一規格への収斂）の評価（クールノ複占モデルを用いた）

- 第13回 クールノ複占モデル 垂直統合の合理性の根拠をクール  
(応用例Ⅱ) の複占モデルを用いて明らかにす  
る。
- 第14回 産業組織論Bの復習 産業組織論Bの復習および質疑  
応答

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回ではないが、1か月半またはそれより超の期間で、レジュメに関して、課題をアップするので、1週間以内にレジュメの内容を理解し、解答作成し、授業支援システムにアップしてほしい。レジュメの理解には、レジュメの図解は読んでいただければ理解できると思う。しかし、理解しづらいようであれば、ミクロ経済学や経済学入門用の教科書を参照してもらえばよいかと思う。

## 【テキスト（教科書）】

特に教科書は指定しない。

## 【参考書】

学生から要請があれば、本講義冒頭で紹介する。

## 【成績評価の方法と基準】

完全競争モデル、独占モデルおよびクールノモデルおよびそれらの応用例の理解の程度を基準に評価する。評価方法は、定期試験期間中にアップする期末課題を解答して授業支援システムにアップしてもらい採点する。この採点結果が主な評価基準となる。(この課題の解答に90%、授業期間内に出す練習問題の解答(1回)の提出状況に10%のウェイトを付け評価する。)

## 【学生の意見等からの気づき】

レジュメの図解で、書き入れる箇所が多くなると見づらくなる恐れがある。そうした図解は、なるべく大きく表示するように努める。

## 【学生が準備すべき機器他】

なし。

## 【Outline and objectives】

The first aim of the course is to get the view on monopoly and cournot duopoly market equilibrium. Secondly, comparing competitive, monopoly, and cournot duopoly market equilibria, competitive market equilibrium is showed to be best performed in the sense of maximizing social welfare. This could be the reason why the competitive market equilibrium would be used as benchmark in evaluating specific competition policy.

ECN300CA

## 金融各論Ⅱ A

武田 浩一

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、経済の中で金融システムがどのように機能して、どのように変化していくのかということ、経済学的によりよく理解し考察するために必要となる基本的な思考の枠組みを提示することです。

## 【到達目標】

この講義の最終的な目標は、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を学び、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

## 【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、新型コロナウイルス感染症対策の特別対応として、オンライン講義を行います。

第1回講義は、Zoomによるリアルタイムのオンライン形式の講義ガイダンスとなります。学習支援システム上でZoomでの講義への参加方法をお知らせしてオンライン講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録してオンライン講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

第2回以降の講義では、学習支援システムで配布する教材を受講登録者が学習する形式のオンライン講義となる予定です。受講者は数回の講義毎に学習支援システム上で課題として提示される小テストまたはレポートの設題に期限までに答えてください。

将来に関する契約としての側面が重要である金融取引は、不確実性下での経済取引に伴うさまざまな問題をうまく取り扱うために工夫された特徴的な仕組みの上に成り立っているため、金融市場には他の経済部門にはあまり見られない独特の取引慣行やルールが多くなっています。そのために、たとえ基本的な経済理論をある程度学んだ人でも、その知識だけでは金融問題をうまく取り扱うことができず、経済学の知識と金融の知識を結び付けることなく頭の中でばらばらに位置付けてしまいがちなのではないのでしょうか。この講義では、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を取り上げ、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について解説することを重視します。

講義の全般的な方針として、金融の果たす基本的な機能に立ち返って経済学的な視点から金融問題について議論を展開しますが、難解で無味乾燥なだけの講義となることを避けるため、理論的な厳密性よりもむしろその直感的な意味や現実問題との関連性を、日本の最近の金融問題を例に挙げるなどして具体的に説明することに力を入れます。

この講義では膨大な金融経済理論の氷山の一角しかご紹介できませんが、この講義をきっかけにして、金融の本当の面白さに触れ、それぞれの興味に応じて、講義で紹介する参考文献などを使ってより本格的な金融の議論に学生の皆さんが自ら取り組んでいただきたいと思えます。

講義のフィードバックは、リアルタイム形式の講義の回には授業の中で行い、オンデマンド形式の講義の回には、学習支援システムの「お知らせ」での通知と授業内掲示板での質疑応答を通じて行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行います。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の内容と方法の説明
第2回	金融取引とリスク①	金融におけるリスクの概念について
第3回	金融取引とリスク②	リスクの測定手法について
第4回	金融取引とリスク③	リスクとして把握できない不確実性について
第5回	金融取引とリスク④	不確実性下での意思決定方法について
第6回	投資と資金調達①	新古典派投資理論と企業の設備資金需要について
第7回	投資と資金調達②	企業の有限責任とリスクについて
第8回	投資と資金調達③	日本の企業グループと企業の株式保有について
第9回	投資と資金調達④	中小企業金融について
第10回	過剰債務と不良債権の処理①	過剰債務問題と事業再生について
第11回	過剰債務と不良債権の処理②	過剰債務への対応と追い貸し問題について
第12回	過剰債務と不良債権の処理③	追い貸しのメカニズムについて
第13回	金融技術革新と金融サービスの新潮流①	ブロックチェーンを使った決済について
第14回	金融技術革新と金融サービスの新潮流②	フィンテックとプラットフォームについて

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや参考書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

金融論で学ぶ金融の基礎知識があれば、この講義の理解はより深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

なし

**【参考書】**

講義に必要な資料は講義のときに適宜配布します。教科書ではありませんが、講義全般にわたる参考書として、内田浩史『金融』（有斐閣、2016年刊）を挙げておきます。その他の参考文献については、講義の中で紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

オンライン授業では、数回の講義毎に学習支援システム上で提示する「課題」（形式はレポートまたは小テスト）で評価します（100％）。

**【学生の意見等からの気づき】**

時事的なテーマを始めとした現実の経済、ビジネスの理解の助けになる実践的な金融理論の使い方、考え方に対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を重視して講義を進める方針です。

**【Outline and objectives】**

This is a course on the microeconomics of money, banking and financial markets. The course aims to show the way to understand the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy. The students will learn modern microeconomic theory of financial intermediation.

ECN300CD
<b>金融ビジネス論A</b>
<b>武田 浩一</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この講義の目的は、経済の中で金融システムがどのように機能している、どのように変化していくのかということ、経済学的によりよく理解し考察するために必要となる基本的な思考の枠組みを提示することです。

**【到達目標】**

この講義の最終的な目標は、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を学び、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について理解することです。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

今年度の講義では、新型コロナウイルス感染症対策の特別対応として、オンライン講義を行います。

第1回講義は、Zoomによるリアルタイムのオンライン形式の講義ガイダンスとなります。学習支援システム上でZoomでの講義への参加方法をお知らせしてオンライン講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録してオンライン講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

第2回以降の講義では、学習支援システムで配布する教材を受講登録者が学習する形式のオンライン講義となる予定です。受講者は数回の講義毎に学習支援システム上で課題として提示される小テストまたはレポートの設題に期限までに答えてください。

将来に関する契約としての側面が重要である金融取引は、不確実性下での経済取引に伴うさまざまな問題をうまく取り扱うために工夫された特徴的な仕組みの上に成り立っているため、金融市場には他の経済部門にはあまり見られない独特の取引慣行やルールが多くなっています。そのために、たとえ基本的な経済理論をある程度学んだ人でも、その知識だけでは金融問題をうまく取り扱うことができず、経済学の知識と金融の知識を結び付けることなく頭の中でばらばらに位置付けてしまいがちなのではないのでしょうか。この講義では、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を取り上げ、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について解説することを重視します。

講義の全般的な方針として、金融の果たす基本的な機能に立ち返って経済学的な視点から金融問題について議論を展開しますが、難解で無味乾燥なだけの講義となることを避けるため、理論的な厳密性よりもむしろその直感的な意味や現実問題との関連性を、日本の最近の金融問題を例に挙げるなどして具体的に説明することに力を入れます。

この講義では膨大な金融経済理論の氷山の一角しかご紹介できませんが、この講義をきっかけにして、金融の本当の面白さに触れ、それぞれの興味に応じて、講義で紹介する参考文献などを使ってより本格的な金融の議論に学生の皆さんが自ら取り組んでいただきたいと思えます。

講義のフィードバックは、リアルタイム形式の講義の回には授業の中で行い、オンデマンド形式の講義の回には、学習支援システムの「お知らせ」での通知と授業内掲示板での質疑応答を通じて行うほか、個別な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の内容と方法の説明
第2回	金融取引とリスク①	金融におけるリスクの概念について
第3回	金融取引とリスク②	リスクの測定手法について
第4回	金融取引とリスク③	リスクとして把握できない不確実性について
第5回	金融取引とリスク④	不確実性下での意思決定方法について
第6回	投資と資金調達①	新古典派投資理論と企業の設備資金需要について
第7回	投資と資金調達②	企業の有限責任とリスクについて
第8回	投資と資金調達③	日本の企業グループと企業の株式保有について
第9回	投資と資金調達④	中小企業金融について
第10回	過剰債務と不良債権の処理①	過剰債務問題と事業再生について
第11回	過剰債務と不良債権の処理②	過剰債務への対応と追い貸し問題について
第12回	過剰債務と不良債権の処理③	追い貸しのメカニズムについて
第13回	金融技術革新と金融サービスの新潮流①	ブロックチェーンを使った決済について
第14回	金融技術革新と金融サービスの新潮流②	フィンテックとプラットフォームについて

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや参考書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

金融論で学ぶ金融の基礎知識があれば、この講義の理解はより深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

なし

**【参考書】**

講義に必要な資料は講義のときに適宜配布します。教科書ではありませんが、講義全般にわたる参考書として、内田浩史『金融』（有斐閣、2016年刊）を挙げておきます。その他の参考文献については、講義の中で紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

オンライン授業では、数回の講義毎に学習支援システム上で課題として提示される課題レポートまたは小テストで評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

時事的なテーマを始めとした現実の経済、ビジネスの理解の助けになる実践的な金融理論の使い方、考え方に対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を重視して講義を進める方針です。

**【Outline and objectives】**

This is a course on the microeconomics of money, banking and financial markets. The course aims to show the way to understand the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy. The students will learn modern microeconomic theory of financial intermediation.

ECN300CA

**金融各論Ⅱ B**

武田 浩一

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この講義の目的は、経済の中で金融システムがどのように機能している、どのように変化していくのかということ、経済学的によりよく理解し考察するために必要となる基本的な思考の枠組みを提示することです。

**【到達目標】**

この講義の最終的な目標は、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を学び、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について理解することです。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

**【授業の進め方と方法】**

今年度の講義では、新型コロナウイルス感染症対策の特別対応として、オンライン講義を行います。

第1回講義は、Zoomによるリアルタイムのオンライン形式の講義ガイダンスとなります。学習支援システム上でZoomでの講義への参加方法をお知らせしてオンライン講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録してオンライン講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

第2回以降の講義では、学習支援システムで配布する教材を受講登録者が学習する形式のオンライン講義となる予定です。受講者は数回の講義毎に学習支援システム上で課題として提示される小テストまたはレポートの設題に期限までに答えてください。

将来に関する契約としての側面が重要である金融取引は、不確実性下での経済取引に伴うさまざまな問題をうまく取り扱うために工夫された特徴的な仕組みの上に成り立っているため、金融市場には他の経済部門にはあまり見られない独特の取引慣行やルールが多くなっています。そのために、たとえ基本的な経済理論をある程度学んだ人でも、その知識だけでは金融問題をうまく取り扱うことができず、経済学の知識と金融の知識を結び付けることなく頭の中でばらばらに位置付けてしまいがちなのではないのでしょうか。この講義では、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を取り上げ、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について解説することを重視します。

講義の全般的な方針として、金融の果たす基本的な機能に立ち返って経済学的な視点から金融問題について議論を展開しますが、難解で無味乾燥なだけの講義となることを避けるため、理論的な厳密性よりもむしろその直感的な意味や現実問題との関連性を、日本の最近の金融問題を例に挙げるなどして具体的に説明することに力を入れます。

この講義では膨大な金融経済理論の氷山の一角しかご紹介できませんが、この講義をきっかけにして、金融の本当の面白さに触れ、それぞれの興味に応じて、講義で紹介する参考文献などを使ってより本格的な金融の議論に学生の皆さんが自ら取り組んでいただきたいと思えます。

講義のフィードバックは、リアルタイム形式の講義の回には授業の中で行い、オンデマンド形式の講義の回には、学習支援システムの「お知らせ」での通知と授業内掲示板での質疑応答を通じて行うほか、個別な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の内容と方法の説明
第2回	資産価格と金融危機①	資産価格の決定理論の基本的枠組みの説明
第3回	資産価格と金融危機②	資産価格の合理的バブルについて
第4回	資産価格と金融危機③	資産価格の急落とそのメカニズムについて
第5回	資産価格と金融危機④	金融危機の発生要因と経済的影響について
第6回	資産価格と金融危機⑤	金融危機の波及メカニズムについて
第7回	金融市場と投資家行動①	期待効用理論について
第8回	金融市場と投資家行動②	投資家心理について
第9回	金融市場と投資家行動③	記述的意思決定理論について
第10回	金融市場と投資家行動④	プロスペクト理論について
第11回	資産価値評価①	基本的な資産価値の評価手法について
第12回	資産価値評価②	さまざまな資産価値の評価手法について
第13回	金融と人的資本投資①	人的資本投資と人材育成の経済的機能について
第14回	金融と人的資本投資②	金融リテラシーについて

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや参考書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

金融論で学ぶ金融の基礎知識があれば、この講義の理解はより深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

なし

## 【参考書】

講義に必要な資料は講義のときに配布します。教科書ではありませんが、講義全般にわたる参考書として、内田浩史『金融』（有斐閣、2016年刊）を挙げておきます。その他の参考文献については、講義の中で紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

オンライン授業では、数回の講義毎に学習支援システム上で提示する「課題」（形式はレポートまたは小テスト）で評価します（100％）。

## 【学生の意見等からの気づき】

時事的なテーマを始めとした現実の経済、ビジネスの理解の助けになる実践的な金融理論の使い方、考え方に対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を重視して講義を進める方針です。

## 【Outline and objectives】

This is a course on the microeconomics of money, banking and financial markets. The course aims to show the way to understand the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy. The students will learn modern microeconomic theory of financial intermediation.

ECN300CD

## 金融ビジネス論B

武田 浩一

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、経済の中で金融システムがどのように機能している、どのように変化していくのかということ、経済学的によりよく理解し考察するために必要となる基本的な思考の枠組みを提示することです。

## 【到達目標】

この講義の最終的な目標は、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を学び、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

## 【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、新型コロナウイルス感染症対策の特別対応として、オンライン講義を行います。

第1回講義は、Zoomによるリアルタイムのオンライン形式の講義ガイダンスとなります。学習支援システム上でZoomでの講義への参加方法をお知らせしてオンライン講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録してオンライン講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

第2回以降の講義では、学習支援システムで配布する教材を受講登録者が学習する形式のオンライン講義となる予定です。受講者は数回の講義毎に学習支援システム上で課題として提示される小テストまたはレポートの設題に期限までに答えてください。

将来に関する契約としての側面が重要である金融取引は、不確実性下での経済取引に伴うさまざまな問題をうまく取り扱うために工夫された特徴的な仕組みの上に成り立っているため、金融市場には他の経済部門にはあまり見られない独特の取引慣行やルールが多くなっています。そのために、たとえ基本的な経済理論をある程度学んだ人でも、その知識だけでは金融問題をうまく取り扱うことができず、経済学の知識と金融の知識を結び付けることなく頭の中でばらばらに位置付けてしまいがちなのではないのでしょうか。この講義では、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を取り上げ、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について解説することを重視します。

講義の全般的な方針として、金融の果たす基本的な機能に立ち返って経済学的な視点から金融問題について議論を展開しますが、難解で無味乾燥なだけの講義となることを避けるため、理論的な厳密性よりもむしろその直感的な意味や現実問題との関連性を、日本の最近の金融問題を例に挙げるなどして具体的に説明することに力を入れます。

この講義では膨大な金融経済理論の氷山の一角しかご紹介できませんが、この講義をきっかけにして、金融の本当の面白さに触れ、それぞれの興味に応じて、講義で紹介する参考文献などを使ってより本格的な金融の議論に学生の皆さんが自ら取り組んでいただきたいと思えます。

講義のフィードバックは、リアルタイム形式の講義の回には授業の中で、オンデマンド形式の講義の回には、学習支援システムの「お知らせ」での通知と授業内掲示板での質疑応答を通じて行うほか、個別な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の内容と方法の説明
第2回	資産価格と金融危機①	資産価格の決定理論の基本的枠組みの説明
第3回	資産価格と金融危機②	資産価格の合理的バブルについて
第4回	資産価格と金融危機③	資産価格の急落とそのメカニズムについて
第5回	資産価格と金融危機④	金融危機の発生要因と経済的影響について
第6回	資産価格と金融危機⑤	金融危機の波及メカニズムについて
第7回	金融市場と投資家行動①	期待効用理論について
第8回	金融市場と投資家行動②	投資家心理について
第9回	金融市場と投資家行動③	記述的意思決定理論について
第10回	金融市場と投資家行動④	プロスペクト理論について
第11回	資産価値評価①	基本的な資産価値の評価手法について
第12回	資産価値評価②	さまざまな資産価値の評価手法について
第13回	金融と人的資本投資①	人的資本投資と人材育成の経済的機能について
第14回	金融と人的資本投資②	金融リテラシーについて

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや参考書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

金融論で学ぶ金融の基礎知識があれば、この講義の理解はより深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

なし

## 【参考書】

講義に必要な資料は講義のときに配布します。教科書ではありませんが、講義全般にわたる参考書として、内田浩史『金融』（有斐閣、2016年刊）を挙げておきます。その他の参考文献については、講義の中で紹介します。

## 【成績評価の方法と基準】

オンライン授業では、数回の講義毎に学習支援システム上で課題として提示される課題レポートまたは小テストで評価します。

## 【学生の意見等からの気づき】

時事的なテーマを始めとした現実の経済、ビジネスの理解の助けになる実践的な金融理論の使い方、考え方に対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を重視して講義を進める方針です。

## 【Outline and objectives】

This is a course on the microeconomics of money, banking and financial markets. The course aims to show the way to understand the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy. The students will learn modern microeconomic theory of financial intermediation.

ECN300CA

## 企業金融論 A

胥 鵬

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、キャッシュ・フローと現在価値を中心に、国内海外の負債による資金調達制度と実務および、デット・ファイナンスに関連する基礎理論のうち重要なものを学ぶ。日本では、80年代後半以降の社債市場の規制緩和により、デット・ファイナンスが大きく変化してきた。また、90年代末にゼロ金利政策などの非伝統的金融政策が日本、米国と欧州で実施されてきた。この講義では、こうした金融政策の変遷も理解する。

## 【到達目標】

この講義では、内外の研究蓄積を踏まえ、銀行借入や社債などの負債による資金調達の企業金融問題を客観的かつ論理的に考える力を身につけることが目標である。負債に関連する割引現在価値、金利と債券の価格、金利リスクおよび債券の信用リスク（格付）の諸概念を理解し、上場企業の財務諸表などの統計資料を見ながら、主体的に考察し、公正に判断できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

## 【授業の進め方と方法】

エクセルで財務関数を中心に割引現在価値を応用して銀行借入と社債の返済償還、金利と債券の価格、金利リスクおよび債券の信用リスクの関係をわかりやすく説明する。

感染状況に応じて適宜 Zoom や Webex などのリアルタイムオンラインと対面授業を実施する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	企業金融とは	企業の財務諸表からみた負債と資金調達について
第2回	将来価値	定期預金の満期残高と将来価値について
第3回	時は金なり	金利、現在価値と将来価値の計算について
第4回	銀行借入の返済方法	一括返済、元金均等返済、元利均等返済について
第5回	金利と銀行借入	金利と銀行借入の返済額
第6回	銀行と流動性	コミットメントラインなどについて説明する
第7回	利付債券	債券の基本概念を学ぶ
第8回	金利と債券価格	金利変化によって債券価額が変動する仕組み
第9回	銀行借入と社債	直接金融と金融仲介の相違
第10回	金利リスク	金利に対する債券価格の感応度と債券のリスク
第11回	格付と信用リスク	格付と社債のプレミアム
第12回	負債の資本コスト	銀行借入、社債などの資本コストについて勉強する
第13回	銀行借入と社債の選択	倒産費用、エージェンシーコストと資産選択について勉強する

## 第14回 課題作成

今までの内容を確かめるために、課題としてデータをダウンロードしてレポートを作成する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

割り当てられた課題を完成するため、エクセルの演算・財務関数などの使い方をマスターするように。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは使わないが、講義ノートはネットから各自でダウンロードする。

## 【参考書】

中央経済社『資本調達・ペイアウト政策』（花枝英樹・榊原茂樹 編著）

『日本のコーポレートファイナンス—サーベイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020年

## 【成績評価の方法と基準】

中間課題と期末課題レポートで評価する。全体評価＝中間課題（40%）＋期末（グループ）課題レポート（60%）で評価。なお、成績評価には、期末課題レポートが必須、かつ中間課題未提出の場合に必ず期末課題と一緒に提出が必須。なお、期末課題をグループ課題として割り当てることがある。

## 【学生の意見等からの気づき】

できるだけゆくゆくり話そうように。

## 【学生が準備すべき機器他】

オンラインはもちろんパソコン使用、対面授業もノートパソコン持参

## 【その他の重要事項】

教職、FPなどの資格を目指す学生諸君の必修科目である。

## 【担当教員の専門分野等】

MB O、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析、来日観光客の決定要因等々

『日本のコーポレートファイナンス—サーベイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記（6,7章）白桃書房 2020年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shioimi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020年

Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

## 【Outline and objectives】

In this lecture, we learn important points out of basic theory related to domestic and international debt financing systems and practices, mainly focusing on cash flow and present value. Debt finance has changed greatly in Japan due to deregulation of corporate bond markets since the late 1980s. Also, non-conventional monetary policy such as zero interest rate policy was implemented in Japan, the United States and Europe since the end of the 1990s. In this lecture, we also learn the transition of such monetary policy.

ECN300CA
<b>企業金融論 B</b>
<b>胥鵬</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

B では、期待株式投資収益率、株式投資収益率の標準偏差、二つの銘柄の株式投資収益率の相関などを中心に学ぶ。続いて、分散投資の基本的な考え方を理解する。その上で、危険資産からなる有効ポートフォリオと安全資産の投資組み合わせを勉強し、資本市場線と証券市場線の考え方をういて株式のリスクとリターンの関係を。理論だけでなく、株価等の統計資料を用いて株式のリスクの計測方法もマスターする。

## 【到達目標】

B では、A の中で扱った負債による資金調達に続いて、株式と資金調達について理解することが目標である。特に株式のリスクに関する理論（capital asset pricing model, CAPM）を把握することが目標である。さらに統計や資料などを自分で収集して、簡単な統計手法を用いて配当異動、新株発行と自己株式取得等の株価に及ぼす効果を CAPM に基づいて計測し、結果を主体的に考察し、公正に判断できるようになることが目標の2つ目である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

## 【授業の進め方と方法】

エクセルで期待株式投資収益率、株式投資収益率の標準偏差、二つの銘柄の株式投資収益率の相関、 $\beta$  および異常収益率などをわかりやすく説明する。

感染状況に応じて適宜 Zoom や Webex などのリアルタイムオンラインと対面授業を実施する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	配当割引モデル	成熟企業 v s 成長企業
第2回	株式投資のリターン	期待投資収益率を計算する
第3回	株式投資のリスク	投資収益率の偏差、分散と標準偏差を計算する
第4回	株式同士の相性	共分散、相関とポートフォリオのリスクについて
第5回	分散投資	すべての卵を同じかごに入れるな
第6回	有効ポートフォリオ	リスクとリターンのトレードオフ
第7回	C A P M	資本市場線、証券市場線とベータ
第8回	異常収益率	個別株式投資収益率と市場収益率を用いてベータと異常収益率を計測する
第9回	エクイティファイナンス	公募増資、株主割当及び第三者割当のエクイティファイナンスの事例について学ぶ
第10回	新規上場	新規上場とエクイティファイナンスの仕組みについて学ぶ
第11回	配当政策の統計資料	増減配と株価
第12回	自己株式取得	みなし配当とする自社株買いの仕組みと効果について学ぶ
第13回	ペイアウト	上場株式を取得して非上場への仕組みについて学ぶ

## 第14回 課題

データをダウンロードし、  
効果を計測する

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

割り当てられた課題を完成するために、エクセルの統計関数などをマスターすること。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは使わないが、講義ノートはネットから各自でダウンロードする。

## 【参考書】

中央経済社『資本調達・ペイアウト政策』（花枝英樹・榊原茂樹編著）

『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020年

## 【成績評価の方法と基準】

中間課題と期末課題レポートで評価する。全体評価＝中間課題（40%）＋期末（グループ）課題レポート（60%）で評価。なお、成績評価には、期末課題レポートが必須、かつ中間課題未提出の場合に必ず期末課題と一緒に提出が必須。なお、期末課題をグループ課題として割り当てることがある。

## 【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり話すこと。

## 【学生が準備すべき機器他】

オンラインはもちろんパソコン使用、対面授業もノートパソコン持参

## 【その他の重要事項】

教職、FPなどの資格を目指す学生諸君の必修科目である。

## 【担当教員の専門分野等】

MB O、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析、来日観光客の決定要因等々

『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記（6,7章）白桃書房 2020年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index,Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020年

Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

## 【Outline and objectives】

In course B, we first learn about the expected rate of return on stock investment, the standard deviation of rate of return, and the correlation of rate of return between two stocks. Next, we learn the basic idea of diversified investment. Then we study efficient portfolio, the capital market line, the security market line and the risk measures of stock investment. In addition to theory, we also use statistical data such as stock price to master the method of measuring the risk of stocks.

ECN300CA
<b>国際金融論 A</b>
ブー トウン カイ
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の世界では、対外取引は各国の経済にとってますます重要になっている。対外取引は多くの場合異なった通貨を媒介とする実物や金融資産の取引である。本講義ではこうした一国経済の対外取引、特に通貨がかかわっているその金融的側面について学ぶ。

## 【到達目標】

対外取引の意義や内容、為替市場の仕組みと為替取引、為替レート決定、為替レートと金利や物価、実体経済との関係、開放経済におけるマクロ経済政策の仕組みや効果を理解でき、さらに為替介入や通貨危機、共通通貨としてのユーロ、発展途上国の国際金融、世界的な経常収支不均衡といった国際金融分野の現実における様々な問題を知り、関心をもつことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

## 【授業の進め方と方法】

パワーポイントの講義ノートを教室前方の画面に映し、随時に黒板書きも併用しながら講義を行う。授業支援システムに講義ノートのファイルやその他の関連資料を掲載する。講義中に教員から受講生に質問をして返答を求めることがある。課題等のフィードバックは「学習支援システム」や授業用ウェブサイトを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際金融論という分野、経済学の基本的な考え方
2	国際金融の基本的視点の設定	金融取引の意義、国際的視点の設定
3	統計でマクロ経済をみる	国民所得勘定
4	統計で対外取引をみる	国際収支勘定
5	貨幣とは	貨幣、貨幣需要、貨幣供給
6	貨幣と物価	貨幣市場の均衡、短期と長期における貨幣と物価との関係
7	前半のまとめ	前半で学んだことを振り返り、その後中間試験を行い、理解度を確認する。
8	為替レートとは	名目為替レート、実質為替レート、実効為替レート
9	外国為替市場	外国為替市場、直物・先物レート、通貨デリバティブ
10	金利と為替レート	金利裁定、カバー付金利平価、カバーなし金利平価、均衡為替レート
11	為替レート決定の理論(1)	貨幣市場と外国為替市場、リスク・プレミアム
12	物価と為替レート、及び為替レート決定の理論(2)	生産物裁定と購買力平価、マネタリーモデル
13	現実における購買力平価	購買力平価からの乖離、労働生産性とバラッサ・サミュエルソン効果
14	為替レート決定の実証分析	為替レート決定の理論を整理し、データを用いて検証する

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各自で事前に授業支援システムからダウンロード・印刷して授業に持参すること。また、毎回の授業までにその前回は学んだ内容を復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

『コア・テキスト国際金融論』第2版、藤井英次（著）、新世社 2014年。

**【参考書】**

- 1.『国際金融論をつかむ』（新版）、橋本優子・小川英治・熊本方雄（著）、有斐閣 2019年。
- 2.『入門国際金融』第4版、高木信二（著）、日本評論社 2011年。
- 3.“International Finance: Theory and Policy,” Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 第11版（2018）（英語）ペーパーバック。

**【成績評価の方法と基準】**

以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。  
小テスト・宿題：30%、中間試験：30%、学期末試験：40%

**【学生の意見等からの気づき】**

アンケートや毎回の授業に対する学生の反応や意見、あるいは課題の解答から見える受講者の理解度に基づき、授業の内容や進行を適切に変更することがある。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

教員と他の学生に大変迷惑になるので、授業中の私語、携帯電話の使用や遅刻などはしないこと。授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。大学の勉強ではコンスタントにテキストや参考書などの本を読むことは自分の知識や思考能力の形成に非常に大切で、「塵も積もれば山となる」という諺のごとく日々の積み重ねがやがて大きな成果につながる。

**【Outline and objectives】**

International transactions have become increasingly important to every country in the world today. These international transactions are mainly transactions in goods&services and financial assets that require currencies as the medium of exchange. In this course we will learn about these international transactions, with a special focus on financial assets and currencies.

ECN300CA
<b>国際金融論 B</b>
ブー トウン カイ
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

今日の世界では、対外取引は各国の経済にとってますます重要になっている。対外取引は多くの場合異なった通貨を媒介とする実物や金融資産の取引である。本講義ではこうした一国経済の対外取引、特に通貨がかかわっているその金融的側面について学ぶ。

**【到達目標】**

対外取引の意義や内容、為替市場の仕組みと為替取引、為替レート決定、為替レートと金利や物価、実体経済との関係、開放経済におけるマクロ経済政策の仕組みや効果を理解でき、さらに為替介入や通貨危機、共通通貨としてのユーロ、発展途上国の国際金融、世界的な経常収支不均衡といった国際金融分野の現実における様々な問題を知り、関心をもつことを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

パワーポイントの講義ノートを教室前方の画面に映し、随時に黒板書きも併用しながら講義を行う。授業支援システムに講義ノートのファイルやその他の関連資料を掲載する。講義中に教員から受講生に質問をして返答を求めることがある。課題等のフィードバックは「学習支援システム」や授業用ウェブサイトを通じて行う予定である。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	為替レートと実体経済 (1)	総需要と総供給、内需と外需、生産物市場の短期均衡
2	為替レートと実体経済 (2)	為替レートと経常収支
3	マクロ経済分析の理論的枠組み	IS-LM モデルの復習
4	開放経済分析の理論的枠組み	マンデル・フレミングモデル
5	開放マクロ経済政策	変動相場制・固定相場制における金融・財政政策の仕組みと効果
6	為替介入	介入の仕組み、胎化と不胎化、リスク・プレミアムとポートフォリオ・バランス効果
7	前半のまとめ	前半で学んだことを振り返り、その後中間試験を行い、理解度を確認する。
8	トリレンマと為替制度の選択	開放経済におけるトリレンマ、及び為替制度の選択
9	通貨危機 (1)	通貨危機の歴史
10	通貨危機 (2)	通貨危機に関する理論
11	発展途上国の国際金融	発展途上国の国際金融の現実の諸問題と政策
12	共通通貨	ユーロという共通通貨と最適通貨圏の理論
13	東アジアの経済統合と地域的通貨協力	東アジアにおける貿易や投資の面での経済統合やアジア通貨危機、そして地域的通貨協力について学ぶ。
14	グローバルインバランス	世界的な経常収支不均衡問題の現状、要因、政策的対応を学ぶ。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各自で事前に授業支援システムからダウンロード・印刷して授業に持参すること。また、毎回の授業までにその前回は学んだ内容を復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

『コア・テキスト国際金融論』第2版、藤井英次、新世社2014年。

**【参考書】**

- 1.『国際金融論をつかむ』（新版）、橋本優子・小川英治・熊本方雄（著）、有斐閣2019年。
- 2.『入門国際金融』第4版、高木信二（著）、日本評論社2011年。
- 3.“International Finance: Theory and Policy,” Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 第11版(2018)(英語)ペーパーバック。

**【成績評価の方法と基準】**

以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。  
小テスト・宿題：30%、中間試験：30%、学期末試験：40%

**【学生の意見等からの気づき】**

アンケートや毎回の授業に対する学生の反応や意見、あるいは課題の解答から見える受講者の理解度に基づき、授業の内容や進行を適切に変更することがある。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

教員と他の学生に大変迷惑になるので、授業中の私語、携帯電話の使用や遅刻などはしないこと。授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。大学の勉強ではコンスタントにテキストや参考書などの本を読むことは自分の知識や思考能力の形成に非常に大切で、「塵も積もれば山となる」という諺のごとく日々の積み重ねがやがて大きな成果につながる。

**【Outline and objectives】**

International transactions have become increasingly important to every country in the world today. These international transactions are mainly transactions in goods&services and financial assets that require currencies as the medium of exchange. In this course we will learn about these international transactions, with a special focus on financial assets and currencies.

ECN200CA

**計量経済学A**

宮崎 憲治

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業を受講することによって、古典的な回帰分析の理論を説明することができ、一部の実証論文の内容を理解することができ、EXCELをもちいて実証分析ができるようになり、現代の社会について主体的に考察できるようになる。

**【到達目標】**

誤差項が正規分布にしたがうときの古典的な回帰分析を、テキストにしたがって講義する。データの扱い方、確率論の復習、統計学の復習、単回帰モデルおよび重回帰モデルの基本を講義する。適宜宿題を課し、授業の最後に期末試験もしくは授業内試験もしくは実証レポートを課す。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

テキストにしたがって、講義をする。適宜宿題を課し、「学習支援システム」を通じて採点する。授業の最後に期末試験もしくは実証レポートを課す。

原則、対面授業を想定しているが、オンライン授業でも不利にならないように配慮する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	はじめに	なぜ計量経済学を学ぶ必要があるのか
2	データの扱い方	データを整理して情報を読み取る 観測されたデータから全体の傾向を知るには
3	データの扱い方	2つの事柄の関係を調べる
4	計量経済学のための確率論	物事の起こりやすさを表すツールとしての「確率」
5	計量経済学のための確率論	確率の性質を表す確率分布
6	計量経済学のための確率論	2つ以上の事柄の確率変数 連続確率分布 計量経済学で使う代表的な確率分布
7	統計学による推論	統計的推論とは？ 標本平均の性質
8	統計学による推論	標本分散と効率性 仮説検定
9	単回帰分析	単回帰モデル 最小二乗法
10	単回帰分析	傾きパラメーターをどう解釈するか？ 最小二乗法の別解法
11	単回帰分析	最小二乗推定量はよい推定方法か？
12	重回帰分析の基本	外的条件を制御する重回帰モデル
13	重回帰分析の基本	欠落変数によるバイアス 最小二乗推定量の分散
14	重回帰分析の基本	回帰分析後の検定 大標本理論

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている。またレポート課題がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

田中隆一(2015)「計量経済学の第一歩」有斐閣

**【参考書】**

山本拓・竹内明香(2013)「入門計量経済学—Excelによる実証分析へのガイド(経済学叢書 Introductory)」新生社

中室牧子・津川友介(2017)「「原因と結果」の経済学」ダイヤモンド社

伊藤公一朗(2017)「データ分析の力: 因果関係に迫る思考法」光文社新書

**【成績評価の方法と基準】**

平常点(10%)・宿題(30%)・試験もしくは実証レポート(60%)

**【学生の意見等からの気づき】**

数式をなるべく使わないように心がけたい。

**【学生が準備すべき機器他】**

大学のパソコンにも導入されている EXCEL を用いますが、自分のパソコンにもインストールしておくことが望ましい。

**【その他の重要事項】**

受講生の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります。

**【Outline and objectives】**

When you take thi course, you can explain a classical regression theory, read an empirical paper, conduct an empirical analysis with EXCEL, and consider our society with an independent perspective.

ECN200CA
<b>計量経済学B</b>
宮崎 憲治
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業を受講することによって、現代的な回帰分析の理論を説明することができ、一部の実証論文の内容を理解することができ、Rをもちいて実証分析ができるようになり、現代の社会について主体的に考察できるようになる。

**【到達目標】**

誤差項が正規分布にしたがうときの古典的な回帰分析を、テキストにしたがって講義する。データの扱い方、確率論の復習、統計学の復習、単回帰モデルおよび重回帰モデルの基本を講義する。適宜宿題を課し、授業の最後に期末試験もしくは授業内試験もしくは実証レポートを課す。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

テキストにしたがって、講義をする。適宜宿題を課し、「学習支援システム」を通じて採点する。授業の最後に期末試験もしくは授業内試験もしくは実証レポートを課す。

原則、対面授業を想定しているが、オンライン授業でも不利にならないように配慮する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	はじめに	なぜ計量経済学が必要なのか データの扱い方
2	計量経済学のための確率論	不確かなことについて語る
3	統計学による推論	観察されたデータの背後にあるメカニズムを探る
4	単回帰分析	2つの事柄の関係をシンプルなモデルに当てはめる
5	重回帰分析の基本	外的条件を制御して本質に迫る
6	重回帰分析の応用	変数の単位と傾きパラメータの解釈 より複雑な政策効果をモデル化する
7	重回帰分析の応用	ダミー変数を使った分析
8	重回帰分析の応用	分散が不均一な時の頑健な標準誤差 誤差項が均一かどうか調べる
9	操作変数法	内生性の問題と対応 操作変数のモデル
10	操作変数法	誤った操作変数法を用いたら? 二段階最小二乗法
11	パネルデータ分析	複数時点の観測されたデータの差の差の推定量
12	パネルデータ分析	二期間パネルデータ 変量効果モデル
13	マッチング法	実験的手法の導入 傾向スコアマッチング
14	回帰不連続デザイン	「制度」の特徴を利用する

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている。またレポート課題がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

田中隆一 (2015)「計量経済学の第一歩」有斐閣

**【参考書】**

星野匡郎, 田中久稔 (2016)「R による実証分析 一回帰分析から因果分析へ」オーム社

中室牧子・津川友介 (2017)「「原因と結果」の経済学」ダイヤモンド社

伊藤公一朗 (2017)「データ分析の力: 因果関係に迫る思考法」光文社新書

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験もしくは実証レポート (60%)

**【学生の意見等からの気づき】**

数式をなるべく使わないように心がけたい。

**【学生が準備すべき機器他】**

大学のパソコンにも導入されている R を用いますが、自分のパソコンにもインストールしておくことが望ましい。

**【その他の重要事項】**

受講生の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります。

**【Outline and objectives】**

When you take this course, you can explain a modern regression theory, read an empirical paper, conduct an empirical analysis with R, and consider our society with an independent perspective.

ECN300CA
<b>数理統計学 A</b>
<b>宮脇 典彦</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この講義の目的は、データを解析していく上で不可欠な統計学の基本的な考え方を理解し、実際に Excel を用いてそれを使いこなす能力を身につけてもらうことにあります。そのためにさまざまな分野の例をあげながら、身近にある問題を通してできる限り平易に解説していきます。

「数理統計学 A」では、統計学の基礎となる確率論を学びます。

（既に 1 年次配当の「統計学」を履修して興味をもった学生はもちろん、将来実証的な分析を行いたいと考えている皆さんは、是非履修してください。）

**【到達目標】**

確率論の基礎的な考え方を、Excel の実習を通じて理解することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】  
ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

確率を基礎から勉強し、Excel を用いた実習を通じて理解を深めていきます。Excel がインストールされたパソコンを使用します（多摩情報センターの貸出し用パソコンで対応できます）。実習等のフィードバックは、授業内で行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	概説	確率と統計の考え方
第 2 回	記述統計	データの代表値と視覚化
第 3 回	Excel による解析 (1)	基本操作と分析ツールによる計算
第 4 回	Excel による解析 (2)	度数分布表、2 変数の関係
第 5 回	確率 (1)	標本空間と確率
第 6 回	確率 (2)	条件つき確率と独立性
第 7 回	確率 (3)	ベイズの公式
第 8 回	確率変数と分布 (1)	離散型確率変数
第 9 回	確率変数と分布 (2)	同時確率関数
第 10 回	確率変数と分布 (3)	連続型確率変数
第 11 回	分布の代表値	期待値と分散、標準偏差 (Excel による実習)
第 12 回	基本的な分布 (1)	主な離散分布 (Excel による実習)
第 13 回	基本的な分布 (2)	主な連続分布 (Excel による実習)
第 14 回	基本的な分布 (3)	正規分布 (Excel による実習)

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

テキストの予習・・・1 時間

Excel を含む実習・・・2 時間

授業の復習・・・1 時間

**【テキスト（教科書）】**

森棟公男他著「統計学（改訂版）」、有斐閣（2015 年）

**【参考書】**

大屋幸輔著「コアテキスト 統計学（第 2 版）」、新世社（2011 年）

加納・浅子著「入門 経済のための統計学 [第 3 版]」、日本評論社（2011 年）

篠崎信雄・竹内秀一著「統計解析 [第 3 版]」、サイエンス社（2020 年）

田中勝人著「基礎コース 統計学 [第 2 版]」、新世社（2010 年）

豊田利久他著「基本統計学 [第 3 版]」、東洋経済（2015 年）

石村貞夫著「Excel でやさしく学ぶ統計解析 2013」、東京図書（2013 年）

藤本彦著「Excel でできるらくらく統計解析」、自由国民社（2014 年）

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 (50 %)・・・就職活動のため授業に参加できない学生には別途配慮します

レポート (50 %)

**【学生の意見等からの気づき】**

Excel での実習を交えながら、数学が苦手な学生にも配慮し内容が難解にならないよう、確率の基本的な考え方を丁寧に解説します。

**【学生が準備すべき機器他】**

Excel がインストールされたパソコン

**【Outline and objectives】**

We learn and acquire probability theory which is the basis of statistics.

ECN300CA
<b>数理統計学 B</b>
<b>宮脇 典彦</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この講義の目的は、データを解析していく上で不可欠な統計学の基本的な考え方を理解し、実際に Excel を用いてそれを使いこなす能力を身につけてもらうことにあります。そのためにさまざまな分野の例をあげながら、身近にある問題を通してできる限り平易に解説していきます。

「数理統計学 B」では、「数理統計学 A」の知識を前提として統計的推測（推定・検定）の基礎的な手法を学びます。

**【到達目標】**

統計学の基礎的な考え方を、Excel の実習を通じて理解することを到達目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

標本分布や推定と検定の基礎的な考え方を講義し、Excel を用いた実習を通じて理解を深めていきます。実習等のフィードバックは、授業中に行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】****春学期**

回	テーマ	内容
第 1 回	標本分布 (1)	標本と標本平均
第 2 回	標本分布 (2)	チェビシェフの不等式と大数の法則
第 3 回	標本分布 (3)	中心極限定理と正規分布による近似
第 4 回	標本分布 (4)	中心極限定理と正規分布による近似
第 5 回	正規分布から派生する分布 (1)	カイ 2 乗分布, t 分布
第 6 回	正規分布から派生する分布 (2)	F 分布
第 7 回	正規分布から派生する分布 (3)	カイ 2 乗分布, t 分布, F 分布
第 8 回	推定 (1)	推定の考え方 (点推定と区間推定)
第 9 回	推定 (2)	正規母集団と二項母集団の推定
第 10 回	推定 (3)	点推定の規範
第 11 回	検定 (1)	検定の考え方
第 12 回	検定 (2)	検定における検出力
第 13 回	検定 (3)	正規母集団に関する検定
第 14 回	検定 (4)	二項母集団に関する検定

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

テキストの予習・・・1時間

Excel を含む実習・・・2時間

授業の復習・・・1時間

**【テキスト（教科書）】**

森棟公男他著「統計学（改訂版）」、有斐閣（2015 年）

**【参考書】**

大屋幸輔著「コアテキスト 統計学（第 2 版）」、新世社（2011 年）

加納・浅子著「入門 経済のための統計学 [第 3 版]」、日本評論社（2011 年）

篠崎信雄・竹内秀一著「統計解析 [第 3 版]」、サイエンス社（2020 年）

田中勝人著「基礎コース 統計学 [第 2 版]」、新世社（2010 年）

豊田利久他著「基本統計学 [第 3 版]」、東洋経済（2015 年）

石村貞夫著「Excel でやさしく学ぶ統計解析 2013」、東京図書（2013 年）

藤本彦著「Excel でできるらくらく統計解析」、自由国民社（2014 年）

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 (50%)

レポート (50%)

※コロナ対策によるオンライン授業への変更に伴う

【成績評価の方法と基準】に、変更はありません。

**【学生の意見等からの気づき】**

Excel での実習を交えながら、数学が苦手な学生にも配慮し内容が難解にならないよう、統計学の基本的な考え方を丁寧に解説します。

**【学生が準備すべき機器他】**

Excel がインストールされたパソコン

**【Outline and objectives】**

We learn and acquire methods of statistical inference such as estimation and hypothesis testing.

COT300CA
<b>コンピューター科学 A</b>
<b>小沢 和浩</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

コンピューターとネットワークの発展の歴史を背景に、デジタル演算や信号処理の仕組みを理解することを目標とする。さらにコンピューターによるデータの処理からネットワーク上でのデータの通信法などその基本原理を学ぶ。

**【到達目標】**

コンピューターとネットワークの発展の歴史を理解する。さらに、デジタル演算や信号処理の仕組みの理解を目標とする。さらに、コンピューターによるデータの処理からネットワークでの情報通信の仕組みを理解することを目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP9」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、教員の指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること（大学からの指示です）。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターの歴史	計算機の原理を簡単に説明し、コンピューターの発展の歴史を分かりやすく紹介する。
第 2 回	情報量とコンピューターによる情報の表現	情報量の定義と二値論理を紹介し、コンピューターによる情報の表現を実例を通して理解する。
第 3 回	情報のコード化と補数による演算	コンピューター上で用いられる情報のコード化と補数による減算の方法を演習を通して習得する。
第 4 回	論理演算とデジタル回路	データの入出力関係を記述するブール代数を簡単に説明する。
第 5 回	デジタル回路の基礎	コンピューターを構成する基本素子について解説し論理演算を実現する回路の構成法について学習する。
第 6 回	コンピューターの種類と構成要素	コンピューターの種類についての解説を行う。さらに、コンピュータシステムの基本構成要素について解説を加える。
第 7 回	アルゴリズムとソフトウェア開発	プログラムの実例をいくつか挙げてアルゴリズムの解説を行う。また、簡単なプログラミング実習をする。
第 8 回	プログラミング	簡単なプログラミング実習をする。
第 9 回	ネットワークの基本技術	簡単なプログラミング実習をする。
第 10 回	インターネットの最近の動向	インターネットの歴史と現在のネットワーク機器。
第 11 回	ネットワークの構成	代表的なコマンドを利用してネットワーク構成を確認する。

- 第 12 回 ネットワークセキュリティ 暗号と認証の仕組みや様々な脅威  
 ティキー について。  
 第 13 回 システム構築とデータ コンピューターシステムの構築法  
 ベース とデータベース。  
 第 14 回 復習 今までの講義の総復習を行う。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

講義の内容を理解するために十分な復習が必要。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

講義の始め（ガイダンス時）に指示する。

**【参考書】**

必要に応じて講義の途中で指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

毎回課される課題の合計点を 100% として評価する。  
 課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

**【学生の意見等からの気づき】**

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

**【学生が準備すべき機器他】**

Windows8 以上の OS を搭載し、Office2013 以降のものがインストールされている PC を用意してください。この講義は Mac には対応していません。

**【Outline and objectives】**

This course aims at 1) learning the background history of computers and their network development ; 2) understanding the mechanism of digital arithmetic operations and signal processing; and 3) acquiring the basic knowledge of data analyses and data communications methods by computers.

COT300CA
コンピューター科学 B
小沢 和浩
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

インターネット上で配布されているオープンソースのソフトウェアを利用して、少し高度で実践的なコンピューターの利用法を習得する。また、コンピューターでの処理手続きのアルゴリズムを理解するために、データ解析や数値計算のアルゴリズムを例にして、外部手続きとしてそのプログラム化を試みる。

**【到達目標】**

少し高度で実践的なコンピューターの利用法を習得することを目標とする。データ解析や数値計算のアルゴリズムを例にして、アプリケーションソフトの外部手続きとしてプログラム化を試み、コンピューターで処理される手続きのアルゴリズムを理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP9」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本年度は事情により当面の間オンライン（リアルタイムではない）方式で講義を進める。大学で用意している「学習支援システムシステム」を用いて、教員の指示に基づき学習を進めることになる。各自ネットワーク環境と PC 環境を用意すること（大学からの指示です）。PC は Windows が稼働するもので Office が搭載されていること（ともに Ver. は問わない）。更に、本講義では幾つかのフリーソフトを用いるため、利用する PC への管理者権限を持っていることが望ましい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
 なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
 なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	インターネット上にある基本ソフトウェアの紹介	代表的なインターネット上で配布されているオープンソースの基本ソフトウェアの紹介。
第 2 回	代表的なアプリケーションのインストールと利用	代表的な Office 系ソフトなどのインストールと利用法を演習を通して理解する。
第 3 回	数式処理ソフトの利用法	代数計算なども可能な数式処理ソフトを利用法を理解する。
第 4 回	統計処理ソフトの利用法	統計処理ソフトの利用法を理解する。
第 5 回	地理情報システムの利用法	フリーソフトの GIS ソフトの使い方を学ぶ。
第 6 回	地理情報システムの利用とその応用	フリーソフトの GIS ソフトを用いて簡単な地理情報の分析を行う。
第 7 回	マクロプログラムとユーザ定義関数の理解	簡単なマクロプログラムの作成法を理解する。
第 8 回	関数の作成	マクロプログラムによるユーザ定義関数を作成法を理解する。
第 9 回	様々なツールによる回帰分析	回帰分析の計算手順を例として、内部関数やアドインプログラムの利用法を理解する。
第 10 回	反復計算のアルゴリズム	循環参照による反復計算やソルバーによる最適解の探索を行う。
第 11 回	コンピューターの処理アルゴリズムを用いた数値計算やシミュレーション	確率分布に従う乱数の発生とシミュレーション（モンテカルロシミュレーション入門）。

第12回	線形計画法による最適化問題	簡単な線形計画法による最適化問題を解く。
第13回	自動制御のアルゴリズム	PID 制御について理解する。
第14回	最終課題	最終課題が課される。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では実習も取り入れて行う。各自でできることは予習復習を行うことを推奨する。また、演習の課題も期日までに必ず提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

#### 【参考書】

必要であれば講義の中で紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

毎回課される課題の合計点を100%として評価する。課題の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

#### 【学生の意見等からの気づき】

内容が理解できるように演習を多く取り入れる。

#### 【学生が準備すべき機器他】

Windows8以上のOSを搭載し、Office2013以降のものがインストールされているPCを用意してください。この講義はMacには対応していません。

#### 【Outline and objectives】

This course will help students acquiring skills of practical applications of computers for advanced analysis using public-domain software. For better understanding of the algorithms of computer data processing, simple programming for external procedures of data analyses and numerical computation are introduced by examples.

ECN300CA
現代社会と情報A
坂本 憲昭
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報システム・ITは社会の隅々まで深く浸透し、どのようなビジネスにおいても、それらを活用することが必須であり、ITと経営全般に関する総合的知識が不可欠です。そのために経営戦略、マーケティング、情報セキュリティ、知的財産権などの基礎（またはツール）を学びます。具体的には、これらの職業人としての知識を集約した「情報処理の促進に関する法律」に基づく国家試験ITパスポート（および知的財産管理技能検定）の内容を活用します。

#### 【到達目標】

職業人として社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力の取得、現代社会の基盤を構成している情報にかかわる知識や技術を習得し、情報が現代社会に及ぼす影響を理解します。具体的に、(1) 情報システムを業務に活用し、情報システムの投資対効果などを理解します。(2) 企業における問題発見・問題解決のために、業務の把握、データ収集・分析・解析、解決策の策定などに寄与するITツールの知識を習得します。(3) 情報システムを安全に利用するためのセキュリティなどの知識、情報倫理などを習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP6」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

授業内容は3本柱になります。それぞれにおいて「講義と演習問題>試験」のサイクルで授業を進めます。下記の授業計画は概要で流れを示したものです。課題はありません。各試験結果のフィードバックは「学習支援システム」で公開します。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび現代社会における情報システム	情報化社会において求められる職業人としての知識について
第2回	ストラテジ系（企業活動）	企業活動、企業の組織、最高情報責任者CIO、コンプライアンス、ORやIEなど
第3回	ストラテジ系（業務把握ツール）	問題発見のための業務把握のためのICTツール、情報ツール
第4回	ストラテジ系（業務分析ツール）	問題解決のための業務解析、業務分析のためのツールと活用事例
第5回	ストラテジ系試験	ストラテジ系の確認となる中間試験、振り返りと問題解説
第6回	ストラテジ系（経営戦略策定ツール）	経営戦略策定のためのデータ収集手法など
第7回	ストラテジ系（分析手法）	ビジネス戦略策定のためのデータ分析手法など
第8回	ストラテジ系（情報システム）	情報システム戦略の策定と事例紹介、アローダイアグラムなど
第9回	ストラテジ系（ビジネスインダストリ技術）	規格、標準化、電子商取引社会などの情報システム、ビジネスインダストリ
第10回	ビジネスインダストリ事例	情報社会におけるビジネスインダストリに関する事例紹介
第11回	マネジメント系試験	マネジメント系の確認となる中間試験、振り返りと問題解説
第12回	情報倫理（ネットワーク倫理、情報化社会）	情報セキュリティ、情報社会における法と企業または個人の責任、情報倫理
第13回	情報倫理（知的財産権）	知的財産権について
第14回	情報倫理試験	情報倫理および情報産業に関する試験、振り返りと問題解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料の予習と問題の復習をしてください。本授業の準備・復習時間は各4時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、教員による解説資料および演習問題を学習支援システムに掲載します。

#### 【参考書】

情報処理技術者試験「ITパスポート」、知的財産管理技能検定の参考書および問題集が参考になります。

#### 【成績評価の方法と基準】

3回学習支援システムで試験をします。試験結果点数の換算方法についてガイダンスファイルを参照してください。成績評価は100点満点に換算し、60点以上が合格となります。

## 【学生の意見等からの気づき】

特にありませんでした。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

## 【その他の重要事項】

・授業支援システムにある配布資料「ガイダンス」を必ず参照してください。  
成績や公欠についての質問は、まず「ガイダンス」を参照してください。  
・「実務経験のある教員による授業」に該当し、システム部での業務経験に基づく事例紹介をします。  
・受講する場合は、ガイダンスファイルに記載した内容を「理解・納得・了承」してから本登録してください。それが受講および成績評価についての前提条件になります。

## 【Outline and objectives】

Information systems and technology are now used in every aspect of society, and therefore, it is essential to utilize them in any kind of business. Comprehensive knowledge of information technology and management, in general, is required. As preparation for this society, students learn management strategy, marketing, legal affairs and information security in this course. We will utilize the contents of a national exam called IT Passport, which is based on 'Act on Facilitation of Information Processing,' collective knowledge for professionals.

ECN300CA
現代社会と情報B
菅 幹雄
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報通信技術の発展は、情報・知識の自由な創造・流通・共有化を可能にし、それは経済・社会に大きな変革をもたらした。一方、個人に関する大量の情報が集積・利用されたことに伴い、個人情報保護についての不安も顕在化した。個人情報を保護しつつ、マイクロデータ（個人情報が記録されたデータ）をいかに社会全体の利益のために活用すべきかを論じる。

## 【到達目標】

個人情報保護の重要性を十分に認識した上で、マイクロデータ活用の有効性を理解できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP6」に関連

## 【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いた講義形式であり、Zoom を用いて実施する。毎回、テストを実施する。テスト提出後、正解を提示し、テスト結果について講評を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	情報化社会を予測した人々	梅棹忠夫『情報産業論』、林雄二郎『情報化社会』、ダニエル・ベル『脱工業社会の到来』、ドオロネ、ギャドレ『サービス産業学説史』
2	メインフレームによる支配	マクナマラ、DVD『フォッグ・オブ・ウォー』 視聴、デビッド・ハルバースタム『ベスト&ブライテスト』
3	シリコン・バレーのベンチャー企業によるマイクロプロセッサの開発	DVD『シリコン・バレーの百年』 視聴
4	米国対抗文化とパーソナルコンピュータの登場	アップル、DVD『ステイーブ・ジョブズ：ラスト・メッセージ』 視聴
5	ネット社会の到来	村井純『インターネットの基礎』、西垣通『IT革命—ネット社会のゆくえ』、西垣通『ウェブ社会をどう生きるか』
6	検索エンジンとターゲット広告	佐々木俊尚『グーグル Google 既存のビジネスを破壊する』、エリック・シュミット、ジャレット・コーエン『第五の権力』、DVD『グーグル革命』 視聴
7	ビッグデータと人工知能	ビクター・マイヤー＝ショーンベルガー、ケネス・クキエ『ビッグデータの正体』、西垣通『ビッグデータと人工知能』、涌井良幸、涌井貞美『Excelでわかるディープラーニング超入門』、レイ・カーツワイル『シンギュラリティは近い』、新井紀子『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』

8	デジタルエコノミー	ソロー・パラドクス、デジタル経済の計測、エレファント・カーブ、デジタル・サテライト勘定
9	ジョージ・オーウェルの『1984』と監視社会	DVD『1984』視聴、ディヴィッド・ライアン『監視社会』
10	個人情報の保護（1）	住民基本台帳ネットワーク、個人情報保護法、堀部政男『プライバシーと高度情報化社会』
11	個人情報の保護（2）	年金記録問題、マイナンバー
12	公的マイクロデータの利活用（1）	統計法、匿名データ、特異値
13	公的マイクロデータの利活用（2）	一般用マイクロデータ、相関
14	まとめ	まとめ

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

PowerPoint ファイルの Pdf ファイルに変換したものを授業支援システムにアップする。

#### 【参考書】

各回の内容の欄に参照する文献を示した。

#### 【成績評価の方法と基準】

毎回のテスト 100 %

#### 【学生の意見等からの気づき】

小テストの正解はなるべく早く授業支援システムにアップする。

#### 【Outline and objectives】

The development of information and communication technology has enabled the free creation, distribution and sharing of information and knowledge, which brought about major reforms in the economy and society. On the other hand, concern about personal information protection became obvious as a large amount of information about individuals was accumulated and used. While protecting personal information, discuss how to utilize micro data (data on which individual information is recorded) for the benefit of society as a whole.

LANe200CA
Business Research Seminar A
中谷 安男
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Participants learn current English through authentic business cases in Japan contexts. They also learn English presentation skills.

#### 【到達目標】

This course is designed to give students a comprehensive view of business presentation and discussion skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP3」「DP5」に関連。国際経済学科は「DP3」「DP5」「DP9」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

Students learn the important skills for effective presentations in English. They can have opportunities to improve their pronunciation and performance skills. This course also develops an awareness of the importance of coherence and cohesion in speech discourse to attract audience.

We share the feedback participants and discuss the issues to enhance lessons.

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Intel Japan Marketing 1	Good Speakers
2	Elements of introduction Intel Japan Marketing 2	Preparation
3	Data Coca-cola 1	Describe Details
4	Coca-cola 2	Brainstorming & Clustering
5	Chanel	Transitions & Connectors
6	Christian Dior	Audience Analysis
7	Sapporo Beer 1	Selecting Details
8	Sapporo Beer 2	Explaining Causes
9	MUJI 1	Explaining Reasons
10	MUJI 2	Case 1
11	Negotiating with Headquarters 1	Case 2
12	Negotiating with Headquarters 2	Case 3
13	JR Kyushu 1	Case 4
14	JR Kyushu 2	Demonstration

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Lessons preparation and review exercises  
Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

#### 【テキスト（教科書）】

1. M. Hood. Dynamic Presentations, Kinseido  
2. Global Leadership; Case Studies of Business Leaders in Japan  
Yasuo NAKATANI & Ryan Smithers. Kinseido

## 【参考書】

Yoshio Sugita & Richard R. Caraker. Writing for Presentation in English. Nan'un-do

## 【成績評価の方法と基準】

Class participation and contribution 30%

Class presentations 40%

Final presentation 30%

## 【学生の意見等からの気づき】

Improving writing skills as well

## 【学生が準備すべき機器他】

PC, DVD, Internet connection

## 【Outline and objectives】

Participants learn current English through authentic business cases in Japan contexts. They also learn English presentation skills.

LANe200CA

## Business Research Seminar B

中谷 安男

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Participants learn current English through authentic business cases in Japan contexts. They also learn English presentation skills.

## 【到達目標】

This course is designed to give students a comprehensive view of business presentation and discussion skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP3」「DP5」に関連。国際経済学科は「DP3」「DP5」「DP9」に関連。

## 【授業の進め方と方法】

Students learn the important skills for effective presentations in English. They can have opportunities to improve their pronunciation and performance skills. This course also develops an awareness of the importance of coherence and cohesion in speech discourse to attract audience.

We share the feedback participants and discuss the issues to enhance lessons.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction Shiseido China 1	Good Speakers
2	Shiseido China 2	Preparation
3	Toshiba Vietnam 1	Describe Details
4	Toshiba Vietnam 2	Brainstorming & Clustering
5	Intel Japan Communication Strategy 1	Transitions & Connectors
6	Intel Japan Communication Strategy 2	Audience Analysis
7	Meigetsudo 1	Selecting Details
8	Meigetsudo 2	Explaining Causes
9	Global MUJI 1	Explaining Reasons
10	Global MUJI 2	Case 1
11	Shiseido Italy	Case 2
12	Shiseido France	Case 3
13	Toshiba HR	Case 4
14	Konica Minolta	Demonstration

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Lesson preparation and review exercises

Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

## 【テキスト（教科書）】

1. M. Hood. Dynamic Presentations, Kinseido

2. Global Leadership; Case Studies of Business Leaders in Japan

Yasuo NAKATANI & Ryan Smithers. Kinseido

## 【参考書】

Yoshio Sugita & Richard R. Caraker. Writing for Presentation in English. Nan'un-do

## 【成績評価の方法と基準】

Class participation and contribution 30%

Class presentations 40%

Final presentation 30%

## 【学生の意見等からの気づき】

Improving writing skills as well

## 【学生が準備すべき機器他】

PC, DVD, Internet connection

## 【Outline and objectives】

Participants learn current English through authentic business cases in Japan contexts. They also learn English presentation skills.

PHL300CA
<b>日本思想史</b>
古澤 直人
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本思想の基層にある伝統思想を検討する。次に国際的な背景といえる中華思想、貴族思想としての小中華思想、宗教思想としての神仏習合思想など、重要なトピックを説明する。武士の思想としての忠誠と反逆は重点をおいて詳細に検討する。さらに政治思想としての公権授受思想、合議の思想、徳治主義などを考察する。思想史にかんするいくつかのテーマを論述する活動を通じて、事実（史料）にもとづき筋道を立てて事物をとらえる歴史的認識方法を訓練する。

## 【到達目標】

現代に影響を及ぼしている日本における基層の倫理・宗教・政治思想を学ぶ。各時代の国際環境の中で影響をもった外来思想の意味を考える。日本思想史の伝統的なテーマである武士の思想としての忠誠と反逆について理解を深める。関連史料を読み解きつつ、解釈の多様性や因果関係の考察など歴史的思考力の獲得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

事前に目を通した教材（パワーポ pdf、ワード、動画等）を参照しつつ、パワーポイントにそって講義を進める。史料を読み、史料から思想を読み取る。課題（1200 字程度）を毎回提出してもらう。課題は毎回採点の上、改善点などがある場合はコメントを付しフィードバックする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	国際環境としての中華思想	礼、天下、王道理論、徳治主義、東アジアの国際秩序、日本史の教育における本授業の意味
2	小中華思想	中国文化と国粹主義、辺土小国思想、罪と穢れと災い、ケガレ意識
3	神仏習合思想	日本の宗教思想、神と仏の関係、神宮寺建立、本地垂迹説、御霊信仰
4	歴史思想	『源氏物語』と『平家物語』、読者層の違い、歴史観への影響
5	武士の思想①：平清盛前半生を通じて	清盛をめぐる伝承、海洋国家構想、平家一門の繁栄、清盛の変貌
6	武士の思想②：平清盛後半生を通じて	忠と孝、忠誠と反逆、天皇の信義、海洋国家思想
7	武士の思想③：源頼朝を通じて	冷酷と温情、頼朝の政治思想、京都派と東国派
8	武士の思想④：木曾義仲を通じて	京都の義仲、異質な存在としての武士
9	武士の思想⑤：源義経を通じて	判官最良、伝説、合戦のルール、反逆と没落
10	幕府成立をめぐる思想的対立	公権授受思想、朝廷権威か第2の主権か、形式と実体
11	執権政治と合議制の思想	將軍専制、権力と権威、日本的政治システム
12	承久の乱と徳治思想	朝廷の権威、政子の演説、天皇権威の失墜
13	御成敗式目の思想	強きものと弱きもの、北条泰時の思想、道理の思想

## 14 蒙古襲来と神国思想 内政と外交、防衛体制と権力集中、神国思想

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義プリント、パワーポイント pdf を読んで内容を把握し、興味に応じて参考文献に目を通す。授業での宿題や課題を復習としてノートにまとめておく。課題回答文に対する教員のコメントに目を通す。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。教材を学習支援システムから各自ダウンロードする。

## 【参考書】

家永三郎『日本道徳思想史』（岩波書店、1977年改版）

## 【成績評価の方法と基準】

課題 80%、平常点（授業への積極的な貢献度）20%として総合評価。

## 【学生の意見等からの気づき】

回によって内容が多すぎるという指摘があるので厳選したい。なお授業中のおしゃべりについては、即刻減点して静粛を保ちたい。私語をおさえる自信のない学生は受講を控えてほしい。

## 【その他の重要事項】

高校日本史教科書程度の基礎知識を要するので、高校時代に日本史を履修しなかった学生は各自で自習しておいてほしい。

## 【Outline and objectives】

Learn the ethics, religion and political thought of the underlying strata in Japan that is affecting the present age. Think about the meaning of foreign ideas with influence in the international environment of each era. Understand loyalty and rebellion as samurai thought.

HIS300CA

## 日本文化史

古澤 直人

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本生活文化の形成について理解を深める。応仁の乱後の分裂の時代を経て、地域ごとの小国家ともいえる戦国大名領国が作られ、生活・文化の地域的特色が形成される。さらに織豊統一政権によって日本は再統合され、統一した文化が形成される。以上の過程について知見を得る。関連史料を読み解きつつ史料に対する批判的な見方を養い、解釈の多様性を学ぶなど歴史的思考力の獲得をめざす。

## 【到達目標】

今日「日本的」とされる生活文化の多くは室町時代に成立している。また郷土の英雄や県民意識（お国ぶり）の源流も室町時代後期を起点とする。北山文化・東山文化が生まれた後、郷土に根ざした生活文化が形成される室町時代中期から、統一した文化が形成される織豊期・近世初頭の時期に焦点をあてて学ぶ。文化史にかんするいくつかのテーマを論述する活動を通じて、事実（史料）にもとづき筋道を立てて事物をとらえる歴史的認識方法を訓練する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業支援システムからダウンロードした教材（パワポ pdf、ワード、動画等）を事前に読み、基本的にはパワーポイントにそって講義を進める。リアクションペーパー（1200字程度）を毎回提出してもらう。課題は毎回採点の上、改善点などがある場合はコメントを付しフィードバックする。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	武家統一政権の形成	日本史の教育における本授業の意味、室町邸の造営、将軍絶対化、守護勢力削減
2	武家統一政権形成と北山文化	北山邸造営の意義、対明貿易の開始、義満の「法皇」化
3	東国下剋上の開始	鎌倉公方と関東管領、上杉禅秀の乱、永享の乱、幕府と鎌倉公方
4	西国下剋上の開始と将軍専制	守護連合、足利義教の恐怖政治、将軍専制、嘉吉の乱
5	日本文化史上の応仁の乱	内藤湖南の指摘、父の意向と家臣の支持、京都焼亡
6	応仁の乱と山城国一揆	足輕の活躍、東西幕府、山城国一揆、日野富子、東山文化
7	東国の戦国開始――太田道灌と北条早雲――	小田原城奪取、相模支配、早雲寺殿 21 箇条の思想
8	西国の戦国開始と文化	大内と尼子、国人から戦国大名へ、大内氏の文化
9	戦国大名毛利氏の領国支配と文化	石見銀山をめぐる、中国制覇、元就の思想
10	戦国大名武田氏とその文化	甲斐国の特徴、法典と家訓、治水、甲州金、信玄堤
11	戦国大名上杉謙信とその思想	北信と関東、謙信の 2 面作戦、謙信の筋目
12	織田氏の領国支配と新政策	信秀の活動、岐阜での新政策、加納楽市令
13	信長の統一事業と文化	都市の直轄、叡山焼討、安土城と文化、天下人

14 信長と南蛮文化 宗教勢力との対決、木綿と鉄砲、中世文化の否定、南蛮寺、神格化

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に教材（パワポイント pdf、ワード、動画等）を読み、内容のあらましを把握し、興味に応じて参考文献に目を通す。授業の課題を提出する。課題回答文に対する教員のコメントに目を通す。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業プリントを学習支援システムから各自ダウンロードする。

#### 【参考書】

永原慶二『戦国時代』上・下（小学館ライブラリー）。このほか授業で逐次提示する。

#### 【成績評価の方法と基準】

提出課題の評価が中心（80％）で、平常点（授業への積極的な貢献度）を従（20％）として総合評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

内容が多すぎる回があるという指摘があり厳選したい。なお授業中のおしゃべりについては、即刻減点して静粛を保つようにしたい。私語をおさえる自信のない学生は受講を控えてほしい。

#### 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、PC またはタブレット

#### 【その他の重要事項】

高校日本史教科書程度の基礎知識を要するので、高校時代に日本史を学ばなかった学生は各自で自習しておいてほしい。

#### 【Outline and objectives】

Understand the formation of Japanese life culture. After the era of split after Onin's disturbance, the Sengoku Daimyo Domain, which can be regarded as a small country by region, is created, and regional features of living and culture are formed. Furthermore, Japan is reunited by the Unified Oda - Toyotomi regime, and a unified culture is formed. Obtain knowledge about the above process.

PHL300CA
日本文化論
池田 雄一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

##### ■神話としての現代カルチャー■

神話は、物語の普遍的なパターンであると同時に、世界の説明原理でもある。形式面から見ると、神話は、現実の模倣という側面を排除した、抽象的な物語進行の組み合わせである。内容面から見ると、神話は人類の起源、正当化された暴力、誕生や死といった非日常的な出来事などを、物語へと加工したものだと考えることができる。

その一方で、今日の日本においても神話はつねに発生しつづけている。神話とは現在進行形の出来事なのである。

そのような観点から、日本の文化を神話として読み解いていくのが、この授業の目的である。映画、漫画、アニメーションなどのエンターテインメント作品を中心にあつかう予定である。

参加者には、毎回の授業における課題の提出、グループワークの参加、グループごとのプレゼン、都合3回のレポート提出、そして最終課題が課せられる。また授業での議論への積極的な参加がうまく求められる。

#### 【到達目標】

一見すると、ただの娯楽のような作品でも、見る角度を変え、違った意味やメッセージを持つことがある。

そのような見方は、メディア・リテラシーと共通するものである。本授業では、神話学の理論を習得することによって、こうしたものの見方を獲得することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

講義ならびにグループワークで構成する予定である。グループにおける積極的な発現、ならびにレポートを授業で紹介されても動じない構えが要求される

- 1) 神話のテーマにかんしての講義
- 2) グループワーク：テーマに関係する作品をグループ内で紹介しあう
- 3) レポートの執筆
- 4) レポートの検証：グループで発表する作品をひとつ決める

以上のローテーションで授業をすすめる予定であるが、学生からのフィードバック（出欠がわりに提出してもらう）にもとづいて、修正を入れていくつもりである

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、成績評価等の説明。文化を考えるにあたっての基本的な考え方の説明。
第2回	講義「ノア方舟／洪水神話と世界のおわり」	『キングコング』『ゴジラ』その他
第3回	グループワーク	前回講義のテーマにあった作品を、グループ内で紹介しあう
第4回	レポートの執筆	文章執筆の基本事項を確認しながら、実際にやや長めのレポートを書いてみる
第5回	レポート検証	グループごとに各人の書いたレポートを読んだうえで、代表者をひとり決定し、発表する
第6回	講義「英雄神話／フィクションとしての暴力組織」	キャンベル『千の顔を持つ英雄』『戦国自衛隊』『スーパーマン』その他戦隊もの等前回講義のテーマにあった作品を、グループ内で紹介しあう

第7回	グループワーク	前回講義のテーマにあった作品を、グループ内で紹介しあう
第8回	レポートの執筆	文章執筆の基本事項を確認しながら、実際にやや長めのレポートを書いてみる
第9回	レポート検証	グループごとに各人の書いたレポートを読んだうえで、代表者をひとり決定し、発表する
第10回	講義「人類の起源／人造人間、および性にまつわる神話」	『メトロポリス』『鉄腕アトム』『ブレードランナー』など
第11回	グループワーク	グループごとに各人の書いたレポートを読んだうえで、代表者をひとり決定し、発表する
第12回	レポートの執筆	文章執筆の基本事項を確認しながら、実際にやや長めのレポートを書いてみる
第13回	レポート検証	グループごとに各人の書いたレポートを読んだうえで、代表者をひとり決定し、発表する
第14回	まとめ	総復習、質疑応答など

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義のテーマに即したコンテンツを、事前に読み、または鑑賞してもらおう。授業外において必要な学習時間は、週によって異なるのでなんとも言えないが、平均すると、だいたい1時間半くらいである。レポートの執筆は都合3回。提出しないと単位がだせないなので、参加者はそのつもりで望むこと  
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。】

#### 【テキスト（教科書）】

とくになし

#### 【参考書】

キャンベル『千の顔を持つ英雄』

#### 【成績評価の方法と基準】

##### 【単位取得に必要なノルマ】

- ・出席（5回休むとアウト）
- ・都合3回のレポート提出（1回でも出さないとアウト）
- ・最終課題の提出（4つのレポートをまとめて、イントロをつけたもの）

##### 【成績評価の判断材料】

- ・最終課題（100%）

#### 【学生の意見等からの気づき】

オンラインの授業では、チャット機能を使うと質問することのハードルがさがるので、ぜひ活用ください。

#### 【学生が準備すべき機器他】

対面授業の場合でも、パソコンを持参することが望ましいが、スマートフォンでも可とする。ただし道具にかんする言い訳は認めない。

#### 【Outline and objectives】

##### 【Japanese culture as a myth】

Myths are the universal pattern of a story, but also the principle of explanation of the world. From a formal point of view, myth is a combination of abstract narrative progressions that eliminates the aspect of imitation of reality. From a content standpoint, myth can be thought of as a story of human origin, justified violence, and extraordinary events such as birth and death.

On the other hand, myths are constantly occurring in Japan today. Myth is an ongoing event.

From this perspective, the purpose of this class is to interpret Japanese culture as a myth. He plans to focus on entertainment works such as movies, comics and animations.

Participants are required to submit assignments for each lesson, participate in group work, make presentations for each group, submit reports four times, and final assignments. Active participation in class discussions is also often required.

SES300CA

## 地球環境論 A

山崎 友紀

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球環境の多様性・法則性・相互関連性を理解し、人間活動と自然環境との相互関係について理解を深める。そのために地球の成り立ち、自然環境の仕組みを総括的に学習する。

#### 【到達目標】

諸資料を活用し、地理的条件とも関連づけながら、地球規模で生じている諸現象を考察し、広い視野で解決策を見出そうとする見識と判断力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を主体とするが、VTR 鑑賞や演習（クイズ）も適宜取り入れ、授業内容の理解を促す。毎回の授業に復習課題を課し、授業や課題に関する質問にはメールおよびオフィスアワーで対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	概要説明と希望アンケート。環境の定義、環境学の全体像を紹介
2	自然科学の基礎	環境学を学ぶために最低限必要な項目
3	太陽系と地球システム	地球システムを天文学的に考察する。宇宙、地球の歴史、太陽からの影響
4	地球環境を“みる”	地球環境の計測・探査方法
5	地球内部のしくみ	地球の形成や地下深部の構造
6	地球の大気と水	地球大気の大循環と、それによる気象変化
7	地球の水循環	地球規模の水循環
8	これまでの復習のための演習	参考となるビデオ観察、グラフや計算を用いた演習
9	地球の物質循環	地球規模で起きている、炭素循環、窒素循環、リンの循環
10	生物と生態系	地球における生物の役割と生態系
11	生物の歴史	生物の進化と歴史の物質循環における役割
12	生命、遺伝子に関する学習	VTR などによる遺伝子の役割紹介
13	生物多様性	環境における生物多様性の重要性和意義
14	総復習	これまでの学習の理解度をチェックする

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料や課題は学習支援システムで配布する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

1 『地球環境学入門 第3版』山崎友紀（講談社サイエンティフィク）2800円

#### 【参考書】

1 『環境・エネルギー・健康 20 講』今中利信・廣瀬良樹（化学同人）  
2 『Essential Environment: The Science Behind the Stories(6th Edition)』Jay H. Withgott & Matthew Laposata, Pearson, 2018

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %、授業への取組み（平常点と課題）を 40 %として 100 点中の 60 点を合格とする。（学部の評価基準のとおり）

## 【学生の意見等からの気づき】

理系科目を多く学んでこなかった学生さんにも親しめる内容とする。

## 【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに登録してください。

## 【その他の重要事項】

学生は授業中にスマートフォンやタブレットを使用しないこと。  
「実務経験のある教員による授業」として、教員は SRI International にて米国環境省に関わるプロジェクトに関わった経験を活かし国際的な視野で授業を展開する。

本授業については、今後のオンデマンド授業化を踏まえ、授業を撮影する場合があります。撮影は教室後方等からとし、受講生の顔が映り込まないように配慮します。

## 【Outline and objectives】

In order to understand the mechanisms of the global environment, you will learn diversity, interrelationships and rules of the environment on our planet. Based on the natural history of the formation of the Earth, you will learn how human activities work for the environment.

SES300CA
地球環境論 B
山崎 友紀
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模での環境保全の概念と基礎事項、環境問題の現状と対策などについて理解を深める。

## 【到達目標】

自然環境と人間の調和を支える良識ある公民の資質として、地球規模の広い視野で解決策を見出そうとする見識と総合的な判断力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

## 【授業の進め方と方法】

授業は講義形式を主体とするが、VTR 鑑賞や演習も適宜取り入れ、授業内容の理解を促す。毎回の授業に授業内課題および復習課題を課す。授業や課題に関する質問にはメールおよびオフィスアワーで対応する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・地球の人口	講義内容、計画、評価方法の紹介。環境とは何か、エコとは何か。地球が直面する課題を知る。
2	地球上の資源	化石燃料、非化石燃料、鉱物資源などの特徴を知る
3	資源とエネルギー	発電技術、資源・エネルギーに関する諸問題を議論する
4	原子力の利用と問題点	核エネルギーと発電のしくみ、原発問題
5	放射線の性質と利用	放射線の性質、生体への影響、利用方法について
6	再生可能エネルギー	太陽光、風力、水力、バイオマスなどのエネルギー
7	地球大気の変異	温室効果、温暖化を正しく学ぶ。大気汚染、オゾン層破壊、異常気象のメカニズム
8	地球規模の水問題	河川、湖沼、海域の水質問題と、異常気象の関係
9	水質汚濁と土壌汚染	地球規模の飲料水確保、下水処理、水質と土壌の関係
10	食品と環境	食品汚染、食品ロス、農業問題、毒とは何か
11	化学物質と環境	化学物質の影響。環境アセスメントと環境分析
12	廃棄物・廃プラスチックと環境	地球規模での廃棄物問題、海洋プラスチック問題
13	環境と経済	経済活動と環境のかかわり、ビジネスと環境。
14	総復習	演習を交えた総復習

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報道ニュースなどの環境関連事項に注意し、目を通しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

1) 『地球環境学入門 第3版』 山崎友紀（講談社サイエンティフィク）2800 円

## 【参考書】

- 『環境・エネルギー・健康 20 講』今中利信・廣瀬良樹（化学同人）
- 『Essential Environment: The Science Behind the Stories(6th Edition)』Jay H. Withgott & Matthew Laposata, Pearson, 2018

## 【成績評価の方法と基準】

授業内の課題提出（60%）、小試験またはレポート（20%）、授業への出席（20%）とし、合計の 60 % 以上得点できた場合に単位を認める。ただし授業欠席回数が 50% を上回る者には単位を与えない。

## 【学生の意見等からの気づき】

理科系科目の苦手な学生も理解できるように努める。

## 【学生が準備すべき機器他】

授業の予習復習の際に学習支援システムが使える環境。

## 【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」として、教員は SRI International にて米国環境省に関わるプロジェクトに関わった経験を活かし国際的な視野で授業を展開する。

本授業については、Zoom 授業を撮影する場合がありますが、受講生の顔が映らないよう配慮します。

## 【Outline and objectives】

The current situation of environmental problems are already very complicated. You will learn the relationship between human activities and environmental problems. The main theme of this semester is to discuss how we can conquer problems, such as climate change, disasters, exhaustion of resources, and so on.

ECN300CA

## 環境政策論 A

西澤 栄一郎

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、環境政策を主に経済学的視点から理論的に考察する。なぜ環境政策が必要なのか、どのような政策が効率的か、という問いを中心に据える。

## 【到達目標】

- ①環境問題の経済学的な分析手法を身につける。
- ②環境政策のさまざまな手法について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

## 【授業の進め方と方法】

毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。可能であれば対面授業とオンライン授業を併用する。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

なお、経済学入門と現代経済学基礎を履修済みであることを想定して授業を進める。また、経済政策論 A または公共経済論 A・B を履修済みであるか、同時に履修することを強く希望する。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンス&環境問題を考える
第 2 回	日本の環境問題の歴史	江戸時代から 20 世紀末まで
第 3 回	地球温暖化問題	気候変動枠組条約、パリ協定
第 4 回	地球温暖化対策①	エネルギー需給、エネルギー政策
第 5 回	地球温暖化対策②	省エネ対策、再生可能エネルギー
第 6 回	環境問題の経済分析①	余剰分析、厚生経済学の基本定理
第 7 回	環境問題の経済分析②	市場の失敗、公共財、外部性
第 8 回	環境政策の目標	費用便益分析、費用効果分析、リスク便益分析
第 9 回	環境政策の手段	政策手段の分類、経済的手法
第 10 回	環境税	ピグー税、汚染者負担原則
第 11 回	排出取引	税との比較、EU の制度
第 12 回	補助金・デポジット	長期効率性、税と補助金の組合せ
第 13 回	環境経済統合勘定	環境指標、SEEA、NAMEA
第 14 回	国際的取り組み	リオ・サミット、持続可能な発展

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書と各回で示す参考文献を読む。配布資料を見直す。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

## 【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。資料を配布する。

## 【参考書】

- 栗山・馬奈木 (2020) 『環境経済学をつかむ 第 4 版』有斐閣  
一方井誠治 (2018) 『コア・テキスト環境経済学』新世社

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験が行えない場合、課題の提出を評価の基本とする。

## 【学生の意見等からの気づき】

課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students consider environmental policies from the viewpoint of economic theory.

ECN300CA
<b>環境政策論 B</b>
西澤 栄一郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、環境政策論 A につづき、主に法学または政治学の視点から、環境に関する政策・制度の実態について学ぶ。

### 【到達目標】

- ①日本の環境政策の実態について理解する。
- ②環境政策の形成過程を理解する。
- ③環境政策の今後のあり方について議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

### 【授業の進め方と方法】

毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。可能であれば対面授業とオンライン授業を併用する。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	環境政策の諸原則	6つの原則
第2回	日本の環境政策の枠組	基本法、基本計画、環境影響評価
第3回	大気保全政策	大気汚染防止法、アスベスト問題
第4回	交通と環境	自動車 NOx・PM 法
第5回	水質保全政策	水質汚濁防止法、閉鎖性水域
第6回	土壌汚染対策	土壌汚染対策法
第7回	有害化学物質対策	化学物質審査法、PRTR
第8回	自然環境保全	種の保存法、鳥獣保護管理法、外来生物法
第9回	自然環境保全	自然公園法、自然環境保全法、自然再生推進法
第10回	廃棄物対策	循環型社会形成推進基本法
第11回	環境政策の政策過程①	温暖化対策の政策過程の各段階
第12回	環境政策の政策過程②	政策ネットワーク
第13回	企業と環境問題①	環境会計、環境マネジメント
第14回	企業と環境問題②	環境金融、ESG 投資

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書と各回で示す参考文献を読む。課題に取り組む。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。資料を配付する。

### 【参考書】

竹本和彦編 (2020) 『環境政策論講義』 東京大学出版会  
西尾哲茂 (2019) 『わか～る 環境法 増補改訂版』 信山社  
神山智美 (2018) 『自然環境法を学ぶ』 文真堂

### 【成績評価の方法と基準】

期末試験が行えない場合、課題の提出状況で評価する。

### 【学生の意見等からの気づき】

課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

### 【Outline and objectives】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of current environmental law, politics, and policy in Japan.

HSS300CA
<b>スポーツ経済論</b>
杉本 龍男
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会におけるスポーツの多様な意義、役割などを踏まえ、スポーツの経済効果に関する基礎知識を理解する。

### 【到達目標】

スポーツを社会的側面、経済的側面から理解することを目指す。具体的には、「スポーツの社会的役割」「スポーツの経済的役割」「スポーツビジネスの構造」について、基本的な概要を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

### 【授業の進め方と方法】

具体的な参考事例を取り上げ、スポーツの社会的、経済的な側面について多面的に説明をする。特に、様々なスポーツの経済効果に対する今後の可能性を踏まえながら、経済学や経営学の基礎と照らし合わせて講義を進めていく。レポートやリアクションペーパーによって学習成果を確認する予定。これについては学習支援システムを使用し提出ならびにフィードバックをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	現代社会とスポーツの関わり	スポーツの社会的役割について（経済的視点から）
第2回	スポーツの政策	日本のスポーツ政策について
第3回	高齢化社会とスポーツ	高齢化社会におけるスポーツの経済的役割について
第4回	子供とスポーツ	現在の子供に対するスポーツの経済的役割について
第5回	スポーツの経済的発展	スポーツのビジネス化のプロセスと今後の予測について
第6回	スポーツの経済効果	スポーツによる経済効果の概要とマクロ経済との関わりについて
第7回	スポーツイベントの経済効果	オリンピックを中心に、スポーツイベントによって派生する経済効果について
第8回	スポーツ産業の構造	スポーツ産業全般の仕組みについて
第9回	スポーツのマーケティングの基礎	スポーツに関するマーケティング戦略の基本概念について
第10回	スポーツ産業の特徴とマーケティング戦略	スポーツ産業の各分野における特徴を踏まえたマーケティングについて
第11回	スポーツの需要(1)	スポーツの需要（消費者行動）に関する時間配分や費用の影響について
第12回	スポーツの需要(2)	スポーツの需要（消費者行動）と他の財との関連について
第13回	スポーツのマーケティング（応用）	スポーツビジネスにおけるブランディングについて
第14回	まとめ	これまでの講義内容を総括する

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スポーツ関連の時事問題をテレビ、雑誌、新聞、Web などを使って調べる。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

特になし

**【参考書】**

「Sports Economics theory, evidence and policy」 Paul Downward, Alistair Dawson, Trudo Dejonghe 著 Routledge  
 「The Economics of Sport」 Robert Sandy, Peter J.Sloane, Mark S.Rosentraub 著 Palgrave macmillan  
 「スポーツ経済学」 里麻克彦著 北海道大学出版会  
 「スポーツの経済学」 マイケル・A・リーズ、ペーター・フォン・アルメン著 大坪正則監訳 佐々木勉訳 中央経済社  
 「スポーツマーケティング交換課程の経営」  
 スポーツマネジメント研究会 編訳

**【成績評価の方法と基準】**

**【教室における対面授業が可能な場合】**

平常点：50%

試験（論述）：50%

**【オンライン授業のみで開講する場合】**

平常点ならびにレポート提出：50%

試験（オンライン形式）：50%

注意点：

授業状況によって、試験を中止し、レポートのみの評価に変更することもあり得る。その場合は、学習支援システムに情報をアップするので、必ず確認すること。

**【学生の意見等からの気づき】**

スライドの作成において工夫をし、講義内容の聴講とノート作成のバランスが適切になるように努める。また、イメージがしやすい具体例を挙げるようにする。  
 またオンラインでの授業形式の場合、講義時間の最中に簡単なレポート作成を行うなどして、講義内容の理解度を向上させるような工夫を行う。

**【学生が準備すべき機器他】**

教室における対面授業が可能な場合、プロジェクターを使って講義を行う。また講義で使用する資料は学習支援システムを用いて配布する。講義前にプリントアウトして持参すること。  
 オンライン授業のケースでは、オンラインミーティングアプリを使用し、ライブによる講義を実施する予定。毎講義については録画をし、試験前にオンデマンドとして配信する予定。

**【その他の重要事項】**

資料だけでなく、講義内容をノートに書き留めることを薦める。  
 学習支援システムを使用し、授業に関する情報、資料を定期的にチェックすること。  
 またオンライン講義の前には、メールや学習支援システムによってミーティングに関する情報を通知するので、確認すること。

**【Outline and objectives】**

The purpose is to acquire basic knowledge about economic impact of sports. For the purpose, it is based on understanding about social significance and influence of sports.

MAN300CA

**国際投資論 A**

**経済未決定**

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

国際投資には直接投資と証券投資がありますが、この講義では企業の直接投資について勉強します。企業はどのような目的でどのような直接投資を行うのかについて、企業の異質性を考慮した新々貿易理論などに基づいた理論分析を行うとともに、世界の直接投資データを使って検証します。

**【到達目標】**

企業が行う直接投資の目的を、現地販売、生産プロセスの一部移転、輸出拠点などに分けて説明できる。生産性の高い企業や大規模な企業が直接投資を選択する理由を、新々貿易理論などを使って説明できる。世界の直接投資データを使って、その実態を検証できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP9」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

授業の開始日（4月22日）に、オンライン授業の方法や授業内容について、学習支援システム（教材）から、パワーポイント資料で掲示します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要
第2回	直接投資とは何か①	直接投資の分類
第3回	直接投資とは何か②	直接投資の基礎知識
第4回	データで見る直接投資①	国別・産業別の直接投資の動向
第5回	データで見る直接投資②	対日直接投資の実態
第6回	日本企業の直接投資の拡大①	海外進出する企業の特徴
第7回	日本企業の直接投資の拡大②	海外進出の要因
第8回	日本企業の直接投資の拡大③	魅力的な投資国とは
第9回	直接投資と産業空洞化①	雇用は失われているか
第10回	直接投資と産業空洞化②	生産・技術基盤は失われているか
第11回	直接投資と産業空洞化	輸出は減少するか
第12回	講義のまとめ	授業内試験
第13回	講義のまとめと質問	講義全体への質問を受ける
第14回	講義のまとめと質問	講義全体への質問を受ける

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

テキストや参考文献を読んで準備学習をする。授業で提出した小レポート（またはアクションペーパー）や配付資料で復習をする。準備は1時間、復習は3時間を目安とします。

**【テキスト（教科書）】**

清田耕造著『拡大する直接投資と日本企業』NTT出版、2015年  
 （授業の配布資料を授業支援システムにおきます）

**【参考書】**

ヘルプマン著（本多他訳）『グローバル貿易の針路をよむ』文真堂、2012年  
 富浦英一著『アウトソーシングの国際経済学』、日本評論社、2014  
 その他の参考文献・論文は授業支援システムで配布します。

**【成績評価の方法と基準】**

授業後に学習支援システムから出す確認テスト（またはアクションペーパー）30%+期末試験70%

**【学生の意見等からの気づき】**

新規担当科目のためなし

**【学生が準備すべき機器他】**

パワーポイント、学習支援システムを利用します。

**【Outline and objectives】**

Students study the foreign direct investment by multinational firms. Students study firm's purpose of foreign direct investment and how they implement the investment applying the theoretical analysis of the new-new trade theory with firm's heterogeneity. Students also examine international data of foreign direct investment

MAN300CA
<b>国際投資論 B</b>
<b>経済未決定</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際投資には直接投資と証券投資がありますが、この講義では企業の直接投資について勉強します。「国際投資論 A」で学んだ直接投資の決定要因などに基つき、「国際投資論 B」では、直接投資の利点や経済成長への影響を考察します。特に、企業の R&D 活動、技術移転、技術貿易などについて学びます。

#### 【到達目標】

直接投資による生産性の向上や技術移転など、直接投資の利点を理解できる。直接投資に関連した企業の R&D 活動や技術移転、企業の直接投資が経済成長にもたらす効果を説明できる。日本への直接投資が日本経済へ与える影響と課題を考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP9」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

当面の間は ZOOM で授業を行います。パワーポイントを用いて講義します。毎回の講義で勉強すべき課題を整理し、小レポートまたはリアクションペーパーなどにまとめます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	直接投資の基礎知識の復習
第 2 回	直接投資の利点①	直接投資と生産性の改善
第 3 回	直接投資の利点②	海外子会社の利益
第 4 回	対内直接投資の影響①	経済成長への影響
第 5 回	対内直接投資の影響②	外資系企業の特徴
第 6 回	直接投資から見た日本の課題	清田 [2015] のまとめ
第 7 回	企業の海外 R&D 活動	企業の海外 R&D 活動の趨勢
第 8 回	技術移転と知的財産の保護	知的財産保護の国際比較
第 9 回	研究開発拠点のグローバル化	海外 R&D 活動の決定要因
第 10 回	技術移転と技術輸出	技術輸出の要因
第 11 回	多国籍企業の技術移転	企業内の技術移転
第 12 回	海外 R&D と生産性	生産性への影響
第 13 回	グローバル・イノベーションの課題	若杉・伊藤 [2011] まとめ
第 14 回	講義のまとめと質問	講義全体への質問を受ける

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。授業で提出した小レポート（またはリアクションペーパー）や配付資料で復習をする。準備は 1 時間、復習は 3 時間を目安とします。

#### 【テキスト（教科書）】

なし（授業の配布資料を授業支援システムにおきます）

#### 【参考書】

清田耕造著『拡大する直接投資と日本企業』NTT 出版、2015 年  
若杉隆平、伊藤萬里著『グローバル・イノベーション』慶應義塾大学出版会、2011 年  
その他の参考文献・論文は授業支援システムで配布します。

#### 【成績評価の方法と基準】

毎回の授業で提出する小レポート（またはリアクションペーパー）30% + 期末試験 70%

#### 【学生の意見等からの気づき】

新規担当科目のためなし。

#### 【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、授業支援システムを利用します。

#### 【Outline and objectives】

Students study the foreign direct investment by multinational firms. Based on the study of "International Investment Theory A", students study the benefit of foreign direct investment and effect on economic growth. Especially students learn multinational firm's R&D activity, technology spillover, and global innovation.

ECN300CA
<b>国際貿易論 A</b>
<b>武智 一貴</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、国際貿易ルールをつかさどる国際機関である世界貿易機関 (World Trade Organization, WTO) の歴史、役割について紹介します。

#### 【到達目標】

世界の貿易ルールをつかさどる国際機関である WTO。その歴史と、様々な貿易紛争を例に WTO の機能と役割について理解することを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

板書・スライドを用いて WTO の下での貿易紛争を経済学的な観点から分析します。紛争の中心となる論点については講義において出席者によるディスカッション・意見を求めることがあります。課題等の提出やフィードバックは「学習支援システム」により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1)	イントロダクション	GATT, WTO とは何か
2)	WTO 成立の理論的背景	国際機関の設立の理念
3)	WTO 成立の歴史	GATT から WTO へ
4)	WTO の基本理念	最恵国待遇、内国民待遇、数量規制の禁止など
5)	内国民待遇に関する紛争	内国民待遇に関する紛争例
6)	内国民待遇と日本の酒税	焼酎の税率
7)	日本の酒税に関する紛争の帰結	同種の産品、代替の弾力性とは何か
8)	セーフガードとは何か	WTO 下における数量制限
9)	日本による野菜セーフガード	中国からの野菜輸入に対するセーフガードの分析
10)	アンチダンピング	アンチダンピングとは何か
11)	日本によるアンチダンピング税の分析	アンチダンピング税の影響
12)	補助金相殺関税	補助金相殺関税とは何か
13)	日本による補助金相殺関税の分析	補助金の認定と補助金の影響の分析
14)	WTO の問題	紛争処理システムと安全保障の例外

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料を事前にダウンロードし読んでおくこと。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を目安とします。

#### 【テキスト（教科書）】

特になし。学習支援システムを通じて資料を配布します。

#### 【参考書】

ジョン・マクラレン著、柳瀬明彦訳、国際貿易・グローバル化と政策の経済分析、文真堂

**【成績評価の方法と基準】**

課題（40%）および期末試験もしくはレポートの結果等（60%）により成績の評価をします。

**【学生の意見等からの気づき】**

進捗は出席学生に応じて変化させる予定です。

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムを使用します。

**【Outline and objectives】**

In this course, we will learn the role of the international organization (World Trade Organization (WTO)), which governs the rule of international trade.

ECN300CA

**国際貿易論 B**

武智 一貴

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義では、国際取引に関係する様々なコストの源泉と影響を分析します。特に、国際貿易と知的財産権保護の関係に焦点を当て、各国国内制度の違いの重要性と国際取引に及ぼす影響を講義します。

**【到達目標】**

知的財産権と国際的な取引に関して理解する事を目標とする。特に国際貿易にとって重要な、知的所有権の貿易関連の側面に関する協定の内容と影響について議論できることが目的です。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

板書を主に用いて、知的財産法（著作権法、特許法）と国際取引との関係について講義を行います。また、貿易コストに関して、関税・輸送費・情報コストなどの影響を分析します。主に英文学術雑誌に公開された論文を用いて、国際取引と制度を分析するための基本となる考え方とそれに関連した国際貿易論を講義します。国際経済学の基本と統計分析の基礎を習得済みであることが前提です。また、授業支援システムから論文をプリントアウトし学習しておくことが必要であり、トピックに応じて、ディスカッションを要求する事があります。・課題等の提出やフィードバックは「学習支援システム」により行います。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1)	イントロダクション	国際取引と所有権、制度
2)	各国の制度の違いと国際取引	日本・アメリカの比較、統計分析の考え方
3)	知的財産取引と制度	各国の制度の概要
4)	特許法の概要	日本、アメリカの特許制度に関する解説
5)	特許法の国際取引に与える影響 I	理論分析
6)	特許法の国際取引に与える影響 II	実証分析
7)	累積的イノベーションと特許保護	イノベーションのタイプと特性
8)	保護強化の帰結	コモنزとアンチコモنزの悲劇
9)	国際的な知的財産権保護	知的所有権の貿易関連の側面に関する協定の歴史
10)	知的所有権の貿易関連の側面に関する協定	知的所有権の貿易関連の側面に関する協定の特徴
11)	貿易コスト	知的所有権の貿易関連の側面に関する協定の影響
12)	貿易コストの測定とその問題	データの欠損と分析
13)	貿易コストの影響 I	国境効果
14)	貿易コストの影響 II	インフラの影響

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

授業支援システムの資料を事前に読んでおくこと。本授業の準備・復習時間は、各4時間を目安とします。

**【テキスト（教科書）】**

特になし。

**【参考書】**

授業支援システムにより文献を配布します。

**【成績評価の方法と基準】**

課題（40%）及び期末試験もしくはレポート等（60%）により評価します。

**【学生の意見等からの気づき】**

学習支援システムの資料をより活用し解説を行う予定です。

**【学生が準備すべき機器他】**

授業支援システムを使用します。

**【Outline and objectives】**

This course is intended to analyze the source and consequences of trade costs. In particular, we focus on the relationship between international trade and intellectual property rights protection.

ECN300CA
<b>企業経済論 A</b>
<b>砂田 充</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本講義では、ミクロ経済学の応用分野のひとつである「企業経済学」を学ぶ。特に、ミクロ経済学分析の基礎概念、独占企業の行動及びマーケティング戦略としての様々な価格差別の態様について学習する。また、企業行動と政府規制の関係についても学習し、資本主義経済における企業と政府の役割や企業の経営戦略が消費者に与える影響を学ぶ。

**【到達目標】**

企業経済学がさまざまな企業戦略のインセンティブとそのパフォーマンスへの影響を分析する学問分野であることを理解する。また、企業が日々の活動で行っている様々なマーケティング戦略の仕組みと効果、独占企業と政府規制の関係について経済学的に理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	オリエンテーション
2	企業経済学の課題と歴史	SCP パラダイム
3	経済学のための数学基礎	関数・連立方程式・微分・最適化
4	ミクロ経済学の基礎概念①	消費者行動と需要の価格弾力性
5	ミクロ経済学の基礎概念②	企業の費用構造
6	ミクロ経済学の基礎概念③	機会費用とサンクコスト
7	ミクロ経済学の基礎概念④	市場均衡と経済厚生
8	独占	独占企業の価格設定と非効率性
9	価格差別①	価格差別の手段と効果
10	価格差別②	市場分割
11	価格差別③	バンドル
12	価格差別④	二部料金
13	価格差別⑤	抱き合わせ
14	授業の総括	これまでの内容のおさらい

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

学生は各講義前に講義資料を授業支援システムより DL して予習（2 時間程度）、講義後には「学習支援システム」を使って復習（2 時間程度）することが必要である。加えて、講義の中で簡単に説明をするが、ミクロ経済学の基礎および経済数学の基礎について復習しておくことが望まれる。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定しない。授業の進行に従ってレジュメを配布する。

**【参考書】**

泉田成美・柳川隆『プラクティカル産業組織論』（有斐閣、2008 年）。  
小田切宏之『企業経済学（第 2 版）』（東洋経済新報社、2010 年）。

長岡貞夫・平尾由紀子『産業組織の経済学（第2版）』（日本評論社、2013年）。

丸山雅祥『経営の経済学〔第3版〕』（有斐閣、2017）。

Belleflamme, P., and M., Pelitz. *Industrial Organization: Markets and Strategies*, 2nd Ed., Cambridge Univ. Press, 2015.

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）とホームワーク（50%）による。

#### 【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を示しながら分かりやすく講義することに努めたい。

#### 【その他の重要事項】

受講者の理解度等を踏まえて内容を変更する場合がある。場合によっては、レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。

#### 【Outline and objectives】

We study the concepts and methodologies in managerial economics, which provides practical toolkits for managerial decision making. This course applies microeconomics, game theory, and industrial organization, to understand the interactions of firm behavior and its effect on welfare. This course will focus on, but not limited to, the following topics: demand and supply, monopoly, price discrimination. In the course, we also discuss real-world examples, that make it easy for students to understand each concept. Students are required comprehension of introductory microeconomics and game theory, while we will briefly review them in the course.

ECN300CA
<b>企業経済論 B</b>
<b>砂田 充</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ミクロ経済学の応用分野のひとつである「企業経済学」を学ぶ。特に、ゲーム理論の基礎、寡占市場、市場構造指標と市場支配力、カルテル、合併及び垂直的取引関係について学習し、わが国の様々な産業・市場で典型的な寡占市場における企業間競争の仕組みと社会・経済への影響を学習し、政府規制の役割についても学ぶ。

#### 【到達目標】

企業経済学がさまざまな企業戦略のインセンティブとそのパフォーマンスへの影響を分析する学問分野であることを理解する。また、企業間競争と様々な経営戦略（協調行為・垂直的取引制限等）の仕組みと効果を経済学的に理解し、企業と政府規制の関係について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	オリエンテーション
2	ゲーム理論の基礎	企業行動とゲーム理論
3	寡占市場①	クールノー競争とバルトラン競争
4	寡占市場②	寡占の市場行動
5	製品差別化①	垂直的差別化
6	製品差別化②	水平的差別化
7	カルテル①	カルテルの経済分析
8	カルテル②	カルテル規制
9	市場構造分析①	市場支配力
10	市場構造分析②	市場画定
11	垂直的取引①	垂直的取引と企業間関係
12	垂直的取引②	垂直的統合による効率性と排除
13	垂直的取引③	垂直的取引制限の競争効果
14	授業の総括	これまでの内容のおさらい

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各講義前に講義資料を授業支援システムより DL して予習（2 時間程度）、講義後には「学習支援システム」を使って復習（2 時間程度）することが必要である。加えて、講義の中で簡単に説明をするが、ミクロ経済学の基礎および経済数学の基礎について復習しておくことが望まれる。

#### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業の進行に従ってレジュメを配布する。

#### 【参考書】

泉田成美・柳川隆『プラクティカル産業組織論』（有斐閣、2008年）。  
小田切宏之『企業経済学（第2版）』（東洋経済新報社、2010年）。  
長岡貞夫・平尾由紀子『産業組織の経済学（第2版）』（日本評論社、2013年）。

丸山雅祥『経営の経済学〔第3版〕』（有斐閣、2017）。

Belleflamme, P., and M., Pelitz. *Industrial Organization: Markets and Strategies*, 2nd Ed., Cambridge Univ. Press, 2015.

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験（50%）とホームワーク（50%）による。

**【学生の意見等からの気づき】**

具体的な事例を示しながら分かりやすく講義することに努めたい。

**【その他の重要事項】**

受講者の理解度等を踏まえて内容を変更する場合がある。場合によっては、レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。

**【Outline and objectives】**

We study the concepts and methodologies in managerial economics, which provides practical toolkits for managerial decision making. This course applies microeconomics, game theory, and industrial organization, to understand the interactions of firm behavior and its effect on welfare. This course will focus on, but not limited to, the topics as follows: oligopoly, vertical and horizontal product differentiation, cartel, market power, vertical integration and restraint. In the course, we also discuss real-world examples, that make it easy for students to understand each concept. Students are required comprehension of introductory microeconomics and game theory, while we will briefly review them in the course.

ECN200CA
Principles of Economics A
JESS DIAMO N D
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson の Chapter13, Chapter14, Chapter19, Chapter20, Chapter21 を取り上げます。講義は英語で行われる。

**【到達目標】**

経済学に関する基本的な知識を応用し、ゲーム理論や競争が現実経済に与える影響とマクロ経済学の基本を理解できるようになる。

The goal of this course is to introduce students to the topics of game theory, competition and macroeconomics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。コロナウイルスの発生が治るまで授業の動画をネット上オンデマンドで配信する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded. For the duration of the coronavirus outbreak, classes will be recorded and made available online for students to view on demand. Regular homework assignments will be followed by feedback on students' performance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Game Theory and Strategic Play	Simultaneous Move Games
2	Game Theory and Strategic Play	Nash Equilibrium
3	Game Theory and Strategic Play	Extensive-Form Games
4	Oligopoly and Monopolistic Competition	Oligopoly
5	Oligopoly and Monopolistic Competition	Monopolistic Competition
6	Oligopoly and Monopolistic Competition	The "Broken Invisible Hand"
7	The Wealth of Nations: Defining and Measuring Macroeconomic Aggregates	National Income Accounts: Production = Expenditure = Income
8	The Wealth of Nations: Defining and Measuring Macroeconomic Aggregates	What Isn't Measured by GDP?
9	The Wealth of Nations: Defining and Measuring Macroeconomic Aggregates	Real vs. Nominal

10	Aggregate Incomes	Inequality Around The World
11	Aggregate Incomes	Productivity and the Aggregate Production Function
12	Aggregate Incomes	The Role and Determinants of Technology
13	Economic Growth	How Does a Nation's Economy Grow?
14	Economic Growth	The History of Growth and Technology

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework assignment will be assigned regularly. Students are required to review the work covered in lecture and read the corresponding section of the textbook in addition to completing homework assignments. Preparation time of 2 hours, review time of 2 hours for a total of 4 hours.

## 【テキスト（教科書）】

Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

## 【参考書】

特になし。

None.

## 【成績評価の方法と基準】

宿題：30%

期末試験：70%

Homework: 30%

Final Exam: 70%

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

None.

## 【Outline and objectives】

In this course, we continue to study of economic principles by studying chapters 13, 14, 19, 20 and 21 from Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson

ECN200CA

## Principles of Economics B

JESS DIAMO N D

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Pearson の Chapter21、Chapter23、Chapter24、Chapter25 を取り上げます。講義を英語で行われる。

## 【到達目標】

経済学に関する基本的な知識を応用し、経済成長や金融制度、財政政策と金融政策が現実経済に与える影響を理解できるようになる。The goal of this course is to continue our of macroeconomics, focusing on the topics of growth, the monetary system, fiscal policy and monetary policy.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

## 【授業の進め方と方法】

スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。コロナウイルスの発生が治るまで授業の動画をネット上オンデマンドで配信する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded. For the duration of the coronavirus outbreak, classes will be recorded and made available online for students to view on demand. Regular homework assignments will be followed by feedback on students' performance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Orientation	Class introduction and explanation.
2	Economic Growth	How does a nation's economy grow?
3	Economic Growth	The history of growth and technology
4	Economic Growth	Growth, inequality and poverty
5	Employment and Unemployment	Measuring Employment and Unemployment
6	Employment and Unemployment	Why Is There Unemployment?
7	Employment and Unemployment	Wage Rigidity and Structural Unemployment
8	Credit Markets	What Is the Credit Market?
9	Credit Markets	Banks and Financial Intermediation
10	Credit Markets	What Banks Do
11	The Monetary System	Money
12	The Monetary System	Inflation
13	The Monetary System	The Central Bank
14	Review and Final Exam	Review the class material and take the final exam.

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Homework assignment will be assigned regularly. Students are required to review the work covered in lecture and read the corresponding section of the textbook in addition to completing homework assignments. Preparation 2 hours, review 2 hours, for a total of 4 hours.

**【テキスト（教科書）】**

Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Pearson.

**【参考書】**

特になし。

None.

**【成績評価の方法と基準】**

宿題：30%

期末試験：70%

Homework: 30%

Final Exam: 70%

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

None.

**【Outline and objectives】**

In this course, we continue to study macroeconomics by studying chapters 21-26 from Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Pearson

ECN300CA
International Economics A
倪 彬
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

We will discuss the globalization of economics from mainly two important perspectives: international trade and foreign direct investment (FDI). In the first half, we will investigate why countries trade, types of trade, and study some of the benefits and costs of trade. In the second half, we will study why firms choose the form of FDI, the determinants of FDI, the spillover impact of FDI on the host countries. Various policies that different governments implement to promote globalization will also be studied.

**【到達目標】**

The purpose of this course is twofold: to arouse the students' interest towards the happenings that are related to international economics; and to equip students with the basic knowledge to reasonably question the phenomenon during the process of globalization, from the standpoint of economics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

Teaching materials will be uploaded in advance via Hosei's website ('lecture supporting system'). Lectures are given in line with the teaching materials. Quizzes will be combined with feedback papers, take-home tests and a final exam.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1 回目	Introduction	What's international economics?
2 回目	The basics of international trade	Some basic terms and what should be learned in international trade
3 回目	The analytical framework	Partial equilibrium and surplus analysis
4 回目	Ricardo model	Comparative advantage and Ricardian model
5 回目	HO model	Factor endowment and HO model
6 回目	Scale of economy	Types of trade and the theory of scale of economy
7 回目	Trade policy (1)	Tariff
8 回目	Trade policy (2)	Export subsidy, quota
9 回目	Trade policy (3)	FTA and NTM
10 回目	Multinational firms and FDI	The basics of FDI
11 回目	Inward FDI	The determinants of inward FDI and the case of China
12 回目	Outward FDI	Japanese firms' oversea expansion and the hollowing out
13 回目	Offshoring	The economic integration and offshoring
14 回目	Sharing economy	The mechanism of sharing economy and its prospect

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule. It is important that students raise their own questions and actively participate in the discussion. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, "International Economics: Theory and Policy," Global Edition, Pearson Education Limited; 10th Revised 版, 2014.

**【参考書】**

石川城太・棕寛・菊地徹『国際経済学をつかむ』（テキストブックつかむシリーズ）第2版、有斐閣、2013年、ISBN=9784641177192  
阿部顕三・遠藤正寛『国際経済学』（有斐閣アルマ）、有斐閣、2012年、ISBN=9784641124806

**【成績評価の方法と基準】**

We will have a final exam for this course. But different from the regular written exam, it will be online and take the form of multiple choice question, using Hoppii (the same format as the homework). I will give you enough time, meanwhile you will be allowed to make reference to all the resources. As for the evaluation:

- (1)Homework: 50%  
(2)Final exam: 50%

**【学生の意見等からの気づき】**

Nothing particular

**【Outline and objectives】**

The objective is to help the students form a general idea of international trade in the context of globalization.

ECN300CA

**International Economics B**

倪 彬

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

This course introduces undergraduate students to the theory of International Finance and its application to the real world.

**【到達目標】**

Upon completion of this course students will be able to achieve, but are not limited to the following:

- \* To understand the balance of payment;
- \* To understand how a foreign exchange market operates
- \* To compare the exchange rate regimes and international monetary standards
- \* To explain financial crises in emerging economies, their causes and solutions

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

Teaching materials will be uploaded via Hosei's website ('Hoppii'). Due to Covid-19, we will not hold face-to-face classes. Instead, the self-learning pattern will be adopted, as in the spring semester. However, one difference is that I will hold Zoom lectures from time to time. I will make announcement in advance and please make sure you check the notifications from Hoppii regularly. Response papers will still be used for Q&A.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1 回目	Introduction	What is international finance?
2 回目	The basics of international finance	The Balance of Payment, capital flow
3 回目	The foreign exchange market	The basics of foreign exchange market
4 回目	National accounts	The system of national accounts
5 回目	Exchange rate (1)	The concept of PPP
6 回目	Exchange rate (2)	Interest rate parity
7 回目	Exchange rate (3)	The foreign exchange rate
8 回目	Intervention in the foreign exchange market	Why is the intervention necessary?
9 回目	Fiscal policy	Governmental spending
10 回目	Monetary policy	Interest rate and investment
11 回目	Financial crisis	The history of financial crisis and the reasons
12 回目	International monetary system	The US dollar and the globalization of RMB
13 回目	Monetary union	The birth of euro, and other possibility
14 回目	Review	To review the contents of the whole semester

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule. It is important that students raise their own questions and actively participate in the discussion. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, "International Economics: Theory and Policy," Global Edition, Pearson Education Limited; 10th Revised 版, 2014.

**【参考書】**

高木信二 著、『入門国際金融』第 4 版、日本評論社 2011 年。

**【成績評価の方法と基準】**

We will have a final exam for this course. But different from the regular written exam, it will be online and take the form of multiple choice question, using Hoppii (the same format as the homework). I will give you enough time, meanwhile you will be allowed to make reference to all the resources. As for the evaluation:

(1)Homework: 50%

(2)Final exam: 50%

**【学生の意見等からの気づき】**

Nothing particular

**【Outline and objectives】**

The objective is to help the students form a general idea of international finance in the context of globalization.

ECN300CA
Area Studies A
馬 欣欣
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

AREA STUDIES: Economic Growth and Sustainable Development: A Case of China

This course introduces the features of Chinese economy transition pattern compared with the other transition countries and developing countries, and offers an economic framework to understand the realities and problems of economic growth and economic development under the transition period from a macroeconomic perspective. We will discuss some special issues such as the determinants of Chinese economy, regional disparity, and international comparison of economic growth and income inequality.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

**【到達目標】**

1.Understand the different features of economic transition pattern between China and other countries

2.Understand the determinants of economic growth in China

3.Explain the facts and problems of economic growth and sustainable development in China from a macroeconomic perspective

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

The course consists the lecture by lecturer and the presentation by student based on Power Point materials. The active discussion is held in the class. At least one real-time online lecture.

The class is designed to be:

1.Interactive: With a strong emphasis on student participation.

2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.

3. Critical and Analytical: Understanding the mechanism and performance of economy institution transition and economic growth

4. Accessible: Develop the ability to understand the differences between countries and regions within a country from macroeconomic perspective

5.Feedback on assignments (reports, etc.) will be given at the beginning of the class, covering some of the reaction papers submitted in the previous class, and feedback will be given to the whole class and through the "Learning Support System" (Hoppii).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Chinese Economy and World Economy	The contents and method of area studies; the current state of the global economy; the position of the Chinese economy in the world
2	Economy in the Socialist Era	Comparison of the planned economy model between the former Soviet Union and China; the states and problems of state-owned enterprises (SOEs) and rural people's communes in China
3	Economic Reform: What is a Socialist Market Economy	The concept of a socialist market economy; two kinds of transition patterns; the role of government in transition countries
4	State Capitalism and the Development Dictatorship Model	The functions of government and market mechanism in transition countries
5.	Active Discussion	Issue1: What is a Socialist Market Economy? Issue2: What should a government do under the economic transition or economic development period?
6	Economic Growth and Population: An International Comparison (1)	International comparisons of economic development and population transformation; the background and problems of the One-Child policy in China

7	Economic Growth and Population: An International Comparison (2)	The Lewis' Dualism Model and the economic turning point; unemployment and surplus labor in China and Japan
8	International Trade and Transformation from Export-Driven Economic Growth Pattern	Export-driven economic growth pattern; the role of foreign capital; international comparisons of FDI
9	Active Discussion	Issue1: Economic significance and policy implications of economy turning point for China and other developing countries? Issue2: The influences of FDI on economic growth for China and other developing countries
10	Economic Growth and Inequality (1)	Kuznets' curve; the states of inequality between rural areas and urban areas; the reasons of regional disparities in China
11	Economic Growth and Inequality (2)	Income inequality; the poverty in China; poverty reduction policies and their effects in China and developing countries
12	Fiscal Policy and Economic Growth	The process of the decentralization and fiscal policy; the tax institution reform and its influence on Chinese economy
13	Regional Development Policies and Sustainable Economy Development	The background of regional development and promotion policy implementation and their effects on economic growth in China
14	Active Discussion	Issue1: Two patterns of economic transition and its effects in area studies Issue2: The functions of government policies on economic growth and sustainable economic development

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students who have not taken other related courses (e.g., Development Economics, Macroeconomics etc.) are expected to read the textbooks or overviews of those courses in advance. Students are expected to review class material, complete assignments, and download the materials used in the course through the learning support system.

#### 【テキスト（教科書）】

No textbook. Students are expected to download a PowerPoint material through the learning support system and review them.

#### 【参考書】

1. Guo, R. (2017) How the Chinese Economy Works. Switzerland: Palgrave Macmillan. ISBN 978-3-319-32305-3
2. Cai, F. (2020) China's Economic New Normal Growth, Structure, and Momentum. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-15-3226-9
3. Pen, C., Yang, C., and Yang, X. (2020) The Basic Economic System of China. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-13-6894-3
4. Yao, S., and Jiang, C. (2017) Chinese Banking Reform from the Pre-WTO Period to the Financial Crisis and Beyond. Switzerland: Springer Nature. ISBN 978-3-319-63924-6
5. Brandt, L., and Rawski, T. G. (2008) China's Great Economic Transformation. Cambridge U.S.: Cambridge University Press. ISBN 9780511754234

#### 【成績評価の方法と基準】

Presentations or reports in active discussions 50%  
Final report 50% (An essay. Details TBA)

#### 【学生の意見等からの気づき】

I would like to try to create better PowerPoints document with consideration of the students' levels. In addition, I would like to make the lecture more interactive, to answer the questions and to take more discussions with students.

#### 【Outline and objectives】

AREA STUDIES: Economic Growth and Sustainable Development: A Case of China

This course introduces the features of Chinese economy transition pattern compared with the other transition countries and developing countries, and offers an economic framework to understand the realities and problems of economic growth and economic development under the transition period from a macroeconomic perspective. We will discuss some special issues such as the determinants of Chinese economy, regional disparity, and international comparison of economic growth and income inequality.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

ECN300CA
Area Studies B
馬 欣欣
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces the factors and mechanisms behind economic growth and economic development from a microeconomic perspective. As case studies, we will discuss some special issues on state-owned enterprise reform, innovation, industrial structural transformation, social security, segmentation problems in market by institutions and understand the facts and problems of Chinese economy in individual, household and firm levels.

#### 【到達目標】

1. Understand and explain the problems of economic transition and economic development in China from microeconomic perspective
2. Understand the mechanism and factors which influence the behaviors of individuals and firms in China under economic transition period
3. Understand the differences of facts and problems of these issues between China and other countries

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」「DP8」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

The course consists the lecture by lecturer and the presentation by student based on Power Point materials. The active discussion is held in the class. At least one real-time online lecture.

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the mechanism and performance of economy institution transition and economic growth
4. Accessible: Develop the ability to understand the differences between countries and regions within a country from macroeconomic perspective
5. Feedback on assignments (reports, etc.) will be given at the beginning of the class, covering some of the reaction papers submitted in the previous class, and feedback will be given to the whole class and through the "Learning Support System" (Hoppii).

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Area Studies from Microeconomic Perspective	Introduction of the contents and analyze methods of area studies from microeconomic perspective
2	State-Owned Enterprises Reform in China (1)	The features of state-owned enterprises during the planned economy; the reforms of state-owned enterprises and their problems
3	State-Owned Enterprises Reform in China (2)	Corporate governance and performance of state-owned enterprises; problems of state-owned enterprise reform in China
4	Active Discussion	Issue1: What are the determinants of the development of non-state sector in China? Issue2: What are the main problems of state-owned enterprises?
5	Transformation of Industrial Structure	The industry upgrade policy reform; "China Manufacturing 2025" and innovation; a case study of industrial upgrade in Shenzhen city of Guangdong province in China
6	Reforms in Rural China (1)	The land reform and collapse of the people's commune; Household Production Responsibility System and land right transfer in China
7	Reforms in Rural China (2)	The states of poverty and the causes of poverty in rural China; the regional disparities of poverty and the reduce poverty policies in rural China

8	Migration within China	The mechanism of migration from the rural areas to urban areas within China; the mystery in Chinese Economy-the migrant shortage phenomenon; the migrants' living and work in urban China
9	Active Discussion	Issue1: Please evaluate the implementation of Household Production Responsibility system in rural China Issue2: Why there existed a migrant shortage phenomenon in China?
10	Bank Reform in China	The reform of state-owned bank; the establishment of stork market; the problem in financial market in China
11	Economic Development and Education in China	Education system and reform in China; changes in the "National College Entrance Examination" ("Gaokao"); Higher Education Expansion Policy; causes of the problem of unemployment of college graduates in China
12	Social Security Policy in China	The social security policy reform with economic transition; the inequality of social security between rural areas and urban areas in China
13	Labor Market Reform in China	The transformation of employment and wage determinate institutions; the determinate mechanism of employment and wage based on neoclassic economics
14	Active Discussion	Issue1: Ownership reform and its effects on Chinese economy Issue2: Policy reform and its influences on behaviors of individuals and firms

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students who have not taken other related courses (e.g., Development Economics, Microeconomics, Labor Economics etc.) are expected to read the textbooks or overviews of those courses in advance.

Students are expected to review class material, complete assignments, and download the materials used in the course through the learning support system. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

## 【テキスト（教科書）】

No textbook. Students are expected to download a PowerPoint document through the learning support system and review them.

## 【参考書】

- 1.Guo, R. (2017) How the Chinese Economy Works. Switzerland: Palgrave Macmillan. ISBN 978-3-319-32305-3
- 2.Cai, F. (2020) China's Economic New Normal Growth, Structure, and Momentum. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-15-3226-9
- 3.Pen, C., Yang, C., and Yang, X. (2020) The Basic Economic System of China. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-13-6894-3
- 4.Ma, X. (2018) Economic Transition and Labor Market Reform in China, Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN 978-981-13-1986-0
- 5.Yao, S., and Jiang, C. (2017) Chinese Banking Reform from the Pre-WTO Period to the Financial Crisis and Beyond. Switzerland: Springer Nature. ISBN 978-3-319-63924-6
- 6.Brandt, L., and Rawski, T. G. (2008) China's Great Economic Transformation. Cambridge U.S.: Cambridge University Press. ISBN 9780511754234

## 【成績評価の方法と基準】

Presentations or reports in active discussions 50%  
Final report 50% (An essay. Details TBA)

## 【学生の意見等からの気づき】

I would like to try to create better PowerPoints document with consideration the students' levels. In addition, I would like to make the lecture more interactive, to answer the questions and to take more discussions with students.

## 【Outline and objectives】

This course introduces the factors and mechanisms behind economic growth and economic development from a microeconomic perspective. As case studies, we will discuss some special issues on state-owned enterprise reform, innovation, industrial structural transformation, social security, segmentation problems in market by institutions and understand the facts and problems of Chinese economy in individual, household and firm levels.

ECN300CA
地域経済論 A
川邊 安彦
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バイデン政権に代わりましたが、トランプ政権時の PPT の枠組みが変化し、世界経済に変化も兆しが見え始めています。欧州では、英国が EU から離脱することになり、中国ではめざましい経済上昇が鈍化し始め、中南米ではブラジル政権の変化の後にメキシコ政権が変化しました。アセアンにおいても国々がまとまる兆しが視えています。この講義では、前期にタイを中心としたアセアンと後期については、メキシコを中心とした中南米の現状までの変化から今後の変化を読み取る講義を行います。

## 【到達目標】

経済学の上では、海外の他の地域経済を理解することが現在必要な要素になってきています。この講義では、日本と関係が近いアセアンの中心のタイや中南米の中で日本と深い関係にあるメキシコを知ることによりアセアン・中南米の経済の動きを理解し、グローバルな観点からの経済学を学ぶ力を養うものとします。また、チーム毎の意見交換による傾聴、まとめる力を個々の学生が実践で学べる機会を常に維持することで他人に意見を聞きながら、意見をまとめ方向性を見出す力をつけられる形式を講義内で試みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

## 【授業の進め方と方法】

- ①シラバスの内容を事前に確認し指示事項に沿って予習を行ってください。
- ②毎回講義の中で学生が質疑を行い回答しますので理解を深めてください。
- ③教員側からコメントや資料の意味について説明を行います。
- ④講義の理解確認の為、ミニ試験と最終確認試験を行います。
- ⑤前回の授業内容への理解確認や課題等に対するフィードバックの為に次の講義の最初に確認時間を設定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の狙い、進め方の確認	講義手法の目的の説明、学生のグループ編成、講義の進め方の説明、講義内レポート実施説明
第 2 回	現在のタイ経済の状況	アセアンの多地域との差の認識。アセアン以外の類似国との差異確認。
第 3 回	タイの強みと弱みの分析 (1)	産業構造から見た強みと弱み
第 4 回	タイの強みと弱みの分析 (2)	人口や教育・衛生・医療から見た強みと弱み
第 5 回	タイのバンコクと地方都市との差異	距離からの構造的な課題、地域特性からの課題
第 6 回	タイの交通網について	アセアンの他の地域との比較、平均年収との差からの分析
第 7 回	確認討議①	前回までの講義内容の理解確認し、討議を行う
第 8 回	前回のレポートのフィードバック	理解度の内容説明、書き方のポイント説明
第 9 回	サンプル 1：クラビ県の魅力と将来性	世界を代表するピビ島の悩みや現状から見える将来性
第 10 回	サンプル 2：プーケットの魅力と将来性	何故、発展したのか？ データ整理と分析

- 第11回 サンプル3：ラノーン 今後、発展するための施策とは？  
県の魅力と将来性
- 第12回 クラビ県、ブーケット、ラノーン県の比較  
分析から見出せるものは何か？
- 第13回 確認討議② 前回までの講義内容の理解確認  
し、討議を行う
- 第14回 最終試験 春学期の確認試験実施

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス第14回の中でタイのアセアンの位置付けを理解します。自動車産業、電気産業、観光など視点は自由設定とします。講義内で終了するように事前にシラバスを確認し、事前情報の整理が必要と考えます。本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

特に、教科書はありません。

理由：日本においてタイの産業と他国との分析した書籍は発行されていません。

## 【参考書】

興味のある学生は、タイ政府公式HPを参考にすること。

## 【成績評価の方法と基準】

確認試験を毎回行います。

この試験と最終回の試験で評価を行います。

## 【学生の意見等からの気づき】

学生側の講義に対する意見は、個別にメールで送付ください。

次回以降の講義に反映する前提です。

## 【学生が準備すべき機器他】

スマホまたは、パソコンによる講義内の情報入手のための機器を必要とします。

## 【Outline and objectives】

A structure of PPT changes after political power of Trump in USA was concluded, and a change has also begun to see a sign as global economy. The United Kingdom left from the EU in Europe, and remarkable financial rise up began from China, and new Mexican political opinion changed after a change in Brazilian political opinion in Latin America. Thailand political opinion is also going to change in ASEAN. The lecture form which reads future's change from a change to the current state of Asean where Thailand was made the center is performed about the A, ASEAN which think the class in this lecture.

ECN300CA
地域経済論 B
川邊 安彦
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バイデン政権に代わりましたが、トランプ政権時のPPTの枠組みが変化し、世界経済に変化も兆しが見え始めています。欧州では、英国がEUから離脱することになり、中国ではめざましい経済上昇が鈍化し始め、中南米ではブラジル政権の変化の後にメキシコ政権が変化しました。アセアンにおいても国々がまとまる兆しが視えています。この講義では、前期にタイを中心としたアセアンと後期については、メキシコを中心とした中南米の現状までの変化から今後の変化を読み取る講義形式を行ないます。

## 【到達目標】

経済学の上では、海外の他の地域経済を理解することが現在必要な要素になってきています。この講義では、日本と関係が近いアセアンの中心のタイや中南米の中で日本と深い関係があるメキシコを知ることによりアセアン・中南米の経済の動きを理解し、グローバルな観点からの経済学を学ぶ力を養うものとします。また、チーム毎の意見交換による傾聴、まとめる力を個々の学生が実践で学べる機会を常に維持することで他人に意見を聴きながら、意見をまとめる方向性を見出す力をつけられる形式を講義内で試みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

## 【授業の進め方と方法】

- ①シラバスの内容を事前に確認し指示事項に沿って予習を行ってください。
- ②毎回講義の中で学生が質疑を行い回答しますので理解を深めてください。
- ③教員側からコメントや資料の意味について説明を行います。
- ④講義の理解確認の為、ミニ試験と最終確認試験を行います。
- ⑤前回の授業内容への理解確認や課題等に対するフィードバックの為に次回の講義の最初に確認時間を設定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	講義の狙い、進め方の確認	講義手法の目的の説明、学生のグループ編成、講義の進め方の説明、講義内レポート実施説明
第2回	現在のメキシコ経済の状況	中南米の多地域との差の認識。中南米以外の類似国との差異確認。
第3回	メキシコの強みと弱みの分析(1)	産業構造から見た強みと弱み
第4回	メキシコの強みと弱みの分析(2)	人口や教育・衛生・医療から見た強みと弱み
第5回	首都メキシコシティと地方都市との差異	距離からの構造的な課題、地域特性からの課題
第6回	メキシコの交通網について	中南米の他の地域との比較、平均年収との差からの分析
第7回	確認討議①	前回までの講義内容の理解確認し、討議を行う
第8回	前回のレポートのフィードバック	理解度の内容説明、書き方のポイント説明
第9回	サンプル1：首都メキシコ DF の魅力と将来性	世界を代表するビジネス構造の悩みや現状から見える将来性

第10回	サンプル2：ゴールド ントライアングルの魅 力と将来性	何故、発展したのか？ データ整 理と分析
第11回	サンプル3：他の地域 との産業構造の差と将 来性	今後、発展するための施策とは？
第12回	メキシコとブラジルや 他の中南米諸国との比 較	分析から見出せるものは何か？
第13回	確認討議②	前回までの講義内容の理解確認 し、討議を行う
第14回	最終試験	秋学期の確認試験実施

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス第14回の中でメキシコの中南米での位置付けを理解します。自動車産業、電気産業、観光、農業など視点は自由設定とします。全てが講義内で終了するように事前にシラバスを確認し、事前情報の整理が必要と考えます。本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

特に、教科書はありません。

理由：日本語での正確なメキシコの産業と他国との分析した書籍は発行されていません。

#### 【参考書】

興味のある学生は、メキシコ政府公式 HP を参考にすること。

#### 【成績評価の方法と基準】

確認試験を毎回行います。

この試験と最終回の試験で評価を行います。

#### 【学生の意見等からの気づき】

学生側の講義に対する意見は、個別にメールで送付ください。

次回以降の講義に反映する前提です。

#### 【学生が準備すべき機器他】

スマホまたは、パソコンによる講義内の情報入手のための機器を必要とします。

#### 【Outline and objectives】

A structure of PPT changes after political power of Trump in USA was concluded, and a change has also begun to see a sign as global economy. The United Kingdom left from the EU in Europe, and remarkable financial rise up began from China, and new Mexican political opinion changed after a change in Brazilian political opinion in Latin America. Thailand political opinion is also going to change in ASEAN. The lecture form which reads future's change from a change to the current state of Latin America where Mexico was made the center is performed about the B, Latin America which think the class in this lecture.

MAN200CA
簿記ⅡA
岸 牧人
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記ⅠA,Bの内容の理解を前提として、中級程度の経済取引の会計処理について学習します。

#### 【到達目標】

この講義では以下の諸点を到達目標とします。

- (1) 非製造業における諸取引の記帳方法を理解します。
- (2) 株式会社（非製造業）の基本的な会計処理について学習します。
- (3) 上記の(1), (2)を前提とした決算書の作成について学習します。
- (4) 全体を通じて日商2級商業簿記の合格水準の技能を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

講義ごとに書き込み式のプリントを配付します。テキストにそって講義した後、プリントによって補足説明を行い、演習問題に取り組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	商品売買取引	分記法、売上原価対立法、三分法による会計処理と決算整理、値引・返品・割戻・割引の会計処理
第2回	商品の期末評価	棚卸減耗損と商品評価損の会計処理方法および損益計算書における表示方法
第3回	現金預金取引	簿記上の現金の範囲と処理方法、銀行勘定調整表の作成方法
第4回	債権・債務	手形の不渡りと更改、クレジット売掛金、電子記録債権債務、債務の保証
第5回	有価証券取引（1）	有価証券の種類、購入時の会計処理
第6回	有価証券取引（2）	有価証券の売却時の会計処理、期末評価
第7回	中間試験	第1回～第6回までの内容に関する中間試験
第8回	有形固定資産取引（1）	有形固定資産の取得、減価償却、売却に関する会計処理
第9回	有形固定資産取引（2）	有形固定資産の割賦購入、建設仮勘定、改良と修繕、除却と廃棄、買い換えに関する会計処理
第10回	リース取引	ファイナンス・リース取引、オペレーティング・リース取引の会計処理
第11回	無形固定資産取引と研究開発費	特許権、商標権、研究開発費の会計処理
第12回	引当金	貸倒引当金、修繕引当金、退職給付引当金、商品保証引当金、賞与引当金、役員賞与引当金、売上割戻引当金、返品調整引当金の会計処理
第13回	外貨換算会計	財務諸表項目の外貨換算、外貨建取引および為替予約の会計処理
第14回	株式会社の税金	株式会社の税金の種類、法人税の申告と納税、消費税の会計処理

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

テキストの「仕訳例」および「基本例題」を事前に学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

TAC 出版『合格テキスト日商簿記 2 級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

**【参考書】**

TAC 出版『合格トレーニング日商簿記 2 級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

**【成績評価の方法と基準】**

中間テスト（40%）および期末試験（60%）によって評価します。  
欠席 1 回につき 2 点を、試験の得点から減点します。  
欠席 3 回以上 5 回以下（中間試験を含む）の者は B 評価を最高評価とします。  
欠席 6 回以上、もしくは期末試験を受けなかった者は E 評価とします。

**【学生の意見等からの気づき】**

簿記 I（簿記入門）と比較して学習内容が質・量ともに多くなるので、ペース配分に留意して講義を進めます。

**【学生が準備すべき機器他】**

電卓（12 桁）、プリントを綴じるための 2 穴のファイル

**【Outline and objectives】**

The aim of this course is to understand intermediate level of bookkeeping. Students should have basic knowledge about journal entry and the process of preparing financial statements (statement of financial position and income statement).

MAN200CA

**簿記 II B**

岸 牧人

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

簿記 I A,B および簿記 II A の内容の理解を前提として、中級程度の経済取引の会計処理および決算書の作成過程、作成方法について学習します。

**【到達目標】**

この講義では以下の諸点を到達目標とします。

- (1) 非製造業における諸取引の記帳方法を理解します。
- (2) 株式会社（非製造業）の基本的な会計処理について学習します。
- (3) 上記の (1), (2) を前提とした決算書の作成について学習します。
- (4) 全体を通じて日商 2 級商業簿記の合格水準の技能を習得します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義ごとに書き込み式のプリントを配付します。テキストにそって講義した後、プリントによって補足説明を行い、演習問題に取り組みます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	株式の発行	株式会社における純資産の構成、株式の発行時における会計処理
第 2 回	剰余金の配当と処分	株式会社の決算手続、利益準備金の積立、株主資本等変動計算書の作成
第 3 回	収益・費用の認識基準	発生主義・実現主義にもとづく収益・費用の計上、サービス業における役務収益と役務原価の計上
第 4 回	税効果会計（1）	課税所得の算定方法、一時差異と永久差異、税効果会計の基礎
第 5 回	税効果会計（2）	繰延税金資産と繰延税金負債の認識と計上、法人税等調整額の計上方法
第 6 回	合併と事業譲渡	吸収合併と新設合併、パーチェス法による合併の会計処理、事業譲渡の会計処理
第 7 回	中間試験	第 1 回～第 6 回までの内容に関する中間試験および解答・解説
第 8 回	本支店会計（1）	本支店会計の意義、本支店間取引、支店間取引に関する会計処理
第 9 回	本支店会計（2）	本支店会計における決算手続、本支店合併財務諸表の作成方法
第 10 回	連結会計（1）	連結財務諸表の意義と特徴、連結会計における連結修正仕訳の意義、支配獲得日の連結（資本連結）
第 11 回	連結会計（2）	資本と投資の相殺消去、部分所有の会計処理、連結精算表の作成方法
第 12 回	連結会計（3）	支配獲得後の連結修正仕訳、開始仕訳と期中仕訳の意義と方法
第 13 回	連結会計（4）	成果連結と連結修正仕訳、内部取引と債権債務の相殺消去、未実現利益の消去（ダウンストリーム、アップストリーム）

## 第 14 回 期末試験

第 13 回までの内容に関する期末  
試験および解答・解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの「仕訳例」および「基本例題」を事前に学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

TAC 出版『合格テキスト日商簿記 2 級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

## 【参考書】

TAC 出版『合格トレーニング日商簿記 2 級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

## 【成績評価の方法と基準】

中間テスト（40%）および期末試験（60%）によって評価する。  
欠席 1 回につき 2 点を、試験の得点から減点します。  
欠席 3 回以上 5 回以下（中間試験を含む）の者は B 評価を最高評価とします。  
欠席 6 回以上、もしくは期末試験を受けなかった者は E 評価とします。

## 【学生の意見等からの気づき】

検定試験の出題範囲の拡大により本講義の内容も増加したため、ペース配分に留意して講義を進めます。

## 【学生が準備すべき機器他】

電卓（12 桁）、プリントを閉じるための 2 穴のファイル

## 【Outline and objectives】

The aim of this course is to understand intermediate level of bookkeeping. Students should have basic knowledge about journal entry of corporate economic activities and events, and the process of preparing financial statements (statement of financial position and income statement).

ECN200CA
Japan and ASEAN Economy A
MANISH SHARMA
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

After the second world war, Japan has followed a very distinct development path with unique economic policy choices and pragmatic state-led industrialization. This course intends to cover the influence of the Japanese economic model on remarkable patterns of development in South East Asia. Specifically, the course analyses the recent history of economic collaboration between Japan and ASEAN countries. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

## 【到達目標】

1. Introduce the historical economic perspective about Japan and ASEAN
2. Impart macro-economic tools to understand and analyze economic development in the region

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」「DP8」に関連

## 【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
  2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
  3. Critical and Analytical: Understanding the whys and hows of the global economy.
  4. Accessible: Breaking down the complex jargon in simple terms.
- Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

## Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via an online forum and/or in the weekly session.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview and significance of the course
2	FLYING GEESE PARADIGM	East Asian Miracle; Critique of Akamatsu paradigm
3	STATE CAPITALISM	Definition; Theoretical framework; Historical precedents
4	THEORIES OF GOVERNANCE	Authoritarian developmentalism (Watanabe)
5	ASEAN PLUS 3	Mechanism, Economic cooperation; Trade and investment patterns
6	MODERNIZING JAPAN 1	Pre and post war economic policies; Zaibatsu to Keiretsu
7	MODERNIZING JAPAN 2	Role of MITI and other institutions; The Main Bank System
8	BRIEF HISTORY OF ASEAN	Colonial and cultural legacy
9	ECONOMIC POLICIES IN ASEAN	Monetary and fiscal policy
10	FINANCIAL SYSTEMS IN ASEAN	Institutional perspective
11	JAPAN IN ASEAN	Investment, trade and aid
12	ECONOMIC INTEGRATION	Prospects of convergence
13	ECONOMIC DEVELOPMENT IN ASEAN	Economic and social indicators
14	JAPAN-ASEAN ECONOMIC TIES	Future bound perspective; Impact of trade war

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

## 【テキスト（教科書）】

No textbook

## 【参考書】

A detailed reading list will be available on the course website.

## 【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion, surveys, and micro-presentations - 40% (In-class participation)
2. Weekly forum posts and discussions - 40% (Peer interactions on Hoppii)
3. Final Assignment - 20% (An essay. Details TBA)

## 【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

## 【その他の重要事項】

1. The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite
2. The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

## 【Outline and objectives】

After the second world war, Japan has followed a very distinct development path with unique economic policy choices and pragmatic state-led industrialization. This course intends to cover the influence of the Japanese economic model on remarkable patterns of development in South East Asia. Specifically, the course analyses the recent history of economic collaboration between Japan and ASEAN countries. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

ECN200CA

## Japan and ASEAN Economy B

MANISH SHARMA

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

After the second world war, Japan has followed a very distinct development path with unique economic policy choices and pragmatic state-led industrialization. This course intends to cover the influence of the Japanese economic model on remarkable patterns of development in South East Asia. Specifically, the course analyses the recent history of economic collaboration between Japan and ASEAN countries. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

## 【到達目標】

1. Introduce the historical economic perspective about Japan and ASEAN
2. Impart macro-economic tools to understand and analyze economic development in the region

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」「DP8」に関連

## 【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
  2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
  3. Critical and Analytical: Understanding the whys and hows of the global economy.
  4. Accessible: Breaking down the complex jargon in simple terms.
- Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

## Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via an online forum and/or in the weekly session.

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview and significance of the course
2	FLYING GEESE PARADIGM	East Asian Miracle; Critique of Akamatsu paradigm
3	STATE CAPITALISM	Theoretical framework; Historical precedents
4	THEORIES OF GOVERNANCE	Authoritarian developmentalism (Watanabe)
5	ASEAN PLUS 3	Mechanism, Economic cooperation; Trade and investment patterns
6	MODERNIZING JAPAN 1	Pre and post war economic policies; Zaibatsu to Keiretsu
7	MODERNIZING JAPAN 2	Role of MITI and other institutions; The Main Bank System
8	BRIEF HISTORY OF ASEAN	Colonial and cultural legacy
9	ECONOMIC POLICIES IN ASEAN	Monetary and fiscal policy
10	FINANCIAL SYSTEMS IN ASEAN	Institutional perspective
11	JAPAN IN ASEAN	Investment, trade and aid
12	ECONOMIC INTEGRATION	Prospects of convergence
13	ECONOMIC DEVELOPMENT IN ASEAN	Economic and social indicators
14	JAPAN-ASEAN ECONOMIC TIES	Future bound perspective; Impact of trade war

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

## 【テキスト（教科書）】

No textbook

## 【参考書】

A detailed reading list to be available on the course website.

## 【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion, surveys, and micro-presentations - 40% (In-class participation)
2. Weekly forum posts and discussions - 40% (Peer interactions on Hoppii)
3. Final Assignment - 20% (An essay. Details TBA)

## 【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

## 【その他の重要事項】

1. The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite.
2. The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

## 【Outline and objectives】

After the second world war, Japan has followed a very distinct development path with unique economic policy choices and pragmatic state-led industrialization. This course intends to cover the influence of the Japanese economic model on remarkable patterns of development in South East Asia. Specifically, the course analyses the recent history of economic collaboration between Japan and ASEAN countries.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

ECN200CA

## Japanese Business and Economy A

MANISH SHARMA

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The focus of this course is on providing introductory knowledge of the Japanese economy and the business. The participants learn the implications of the policy decisions and their impact on the state of the economy. The course seeks to provide an understanding of the historical and institutional background of the contemporary Japanese economy.

We use a wide range of sources, covering academic literature, business case studies, and topical news items as well as op-ed pieces to understand the various aspects of Japanese business. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' exercises. In the second half of each lecture, students are expected to participate in various exercises. Exercises are followed by short class-discussion to develop the take-aways. Students are also required to take short quizzes.

## 【到達目標】

The course intends to cover:

1. The brief economic history of Japan
2. The institutional basis of the contemporary Japanese economy
3. The characteristics of Japanese business practices

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

## 【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the Japanese Economy and Business
4. Accessible: Breaking down the complex jargon in simple terms.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via an online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview & significance of the course; Political economy of Japan
2	JAPANESE ECONOMIC MIRACLE	Characteristics and attributes; Flying Geese Model; Impact on other countries
3	ECONOMIC HISTORY OF JAPAN	Japan in the early 20th century; Allied occupation; Zaibatsu to Keiretsu

4	CRISES MANAGEMENT	Plaza Accord; Bubble economy; East Asian financial crisis; Lost decades
5	STATE CAPITALISM	Characteristics; Theoretical framework; Role of MITI and other institutions
6	FINANCIAL SYSTEM	The Main bank system; Evolution of Japanese capital market; Convergence debate
7	ECONOMIC POLICY	Key elements; Future challenges
8	STRUCTURAL REFORMS	Productivity slowdown; Big-Bang
9	JAPAN INC.	Keiretsu and cross-ownership; Management system and corporate governance
10	LABOR MARKET	The employment system; Continuity and change
11	ABENOMICS	Performance indicators; Critique; Course correction
12	JAPAN INC. 2.0	Cool Japan; Brand Japan; Startup scene
13	DEMOGRAPHIC DEBATE	Low-fertility and aging; Major policy reforms; Immigration policy
14	ADVANCED TOPICS	Business of/by/for elderly; Inequality debate; Reimagining innovation

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. Preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

**【テキスト（教科書）】**

No Textbook

**【参考書】**

Hayashi, Fumio and Edward C. Prescott (2002), The 1990s in Japan: A Lost Decade, *Review of Economic Dynamics*, 206-235.  
Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2011): Why Did Japan Stop Growing?

Hoshi and Kashyap (2013): Will the U.S and Europe Avoid a Lost Decade? Lessons from Japan's Post Crisis Experience

Iwai, Katsuhito (2002), The Nature of the Business Corporation: Its Legal Structure and Economic Functions, *Japanese Economic Review* 53(3), 243-273.

Clark and Ishii (2012) Social Mobility in Japan, 1868-2012: The Surprising Persistence of the Samurai, University of California, Davis

Hiroshi Yoshikawa (2001), The Aging of Society and Fiscal Policy, in Japan's Lost Decade, International House of Japan.

Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2004) Costs and Benefits of Keiretsu Financing, in *Corporate Financing and Governance in Japan*, Cambridge MA: MIT Press

Allen, F. and M. Zhao (2007) The Corporate Governance Model of Japan: Shareholders are not Rulers.

Ito, Takatoshi (2004) Exchange rate regimes and monetary policy cooperation: Lessons from East Asia and Latin America, *Japanese Economic Review*, 55(3), 240-266,

McKinnon, Ronald, and Kenichi Ohno (1997), *Dollar and Yen*, MIT Press.

The Becker-Posner Blog (2008, Nov. 16) Bail Out the Big Three Auto Producers? Not a Good Idea.

Hashimoto, Masanori and Yoshio Higuchi (2005), Issues Facing the Japanese Labor Market, in *Reviving Japan's Economy*, MIT Press.

Raymo, James M. and Miho Iwasawa (2005), Marriage Market Mismatches in Japan: An Alternative View of the Relationship between Women's Education and Marriage, *American Sociological Review*, 70, October, 801-822.

S Shirahase (2007) The Political Economy of Japan's Low Fertility

Toshimitsu Shinkawa (2006) The politics of pension reform in Japan: Institutional legacies, credit-claiming and blame avoidance, in *Ageing and Pension Reform around the World*.

**【成績評価の方法と基準】**

1. Contribution to the class discussion, surveys, and micro-presentations - 40% (In-class participation)
2. Weekly forum posts and discussions - 40% (Peer interactions on Hoppii)
3. Final Assignment - 20% (An essay. Details TBA)

**【学生の意見等からの気づき】**

Not Applicable

**【その他の重要事項】**

Class materials:

Lecture Notes | Class Slides | Weekly Handouts & Reading Lists | Updated Syllabus are available on the course website  
Course website: [jecon.school.blog](http://jecon.school.blog)

**【Notes】**

1. The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite
2. The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

**【Outline and objectives】**

The focus of this course is on providing introductory knowledge of the Japanese economy and the business. The participants learn the implications of the policy decisions and their impact on the state of the economy. The course seeks to provide an understanding of the historical and institutional background of the contemporary Japanese economy.

We use a wide range of sources, covering academic literature, business case studies, and topical news items as well as op-ed pieces to understand the various aspects of Japanese business. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' exercises. In the second half of each lecture, students are expected to participate in various exercises. Exercises are followed by short class-discussion to develop the take-aways. Students are also required to take short quizzes.

ECN200CA
Japanese Business and Economy B
MANISH SHARMA
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The focus of this course is on providing introductory knowledge of the Japanese economy and the business. The participants learn the implications of the policy decisions and their impact on the state of the economy. The course seeks to provide an understanding of the historical and institutional background of the contemporary Japanese economy.

We use a wide range of sources, covering academic literature, business case studies, and topical news items as well as op-ed pieces to understand the various aspects of Japanese business. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' exercises. In the second half of each lecture, students are expected to participate in various exercises. Exercises are followed by short class-discussion to develop the take-aways. Students are also required to take short quizzes.

#### 【到達目標】

The course intends to cover:

1. The brief economic history of Japan
2. The institutional basis of the contemporary Japanese economy
3. The characteristics of Japanese business practices

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the Japanese Economy and Business
4. Accessible: Breaking down the complex jargon in simple terms.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via an online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview & significance of the course; Political economy of Japan
2	JAPANESE ECONOMIC MIRACLE	Characteristics and attributes; Flying Geese Model; Impact on other countries
3	ECONOMIC HISTORY OF JAPAN	Japan in the early 20th century; Allied occupation; Zaibatsu to Keiretsu

4	CRISES MANAGEMENT	Plaza Accord; Bubble economy; East Asian financial crisis; Lost decades
5	STATE CAPITALISM	Characteristics; Theoretical framework; Role of MITI and other institutions
6	FINANCIAL SYSTEM	The Main bank system; Evolution of Japanese capital market; Convergence debate
7	ECONOMIC POLICY	Key elements; Future challenges
8	STRUCTURAL REFORMS	Productivity slowdown; Big-Bang
9	JAPAN INC.	Keiretsu and cross-ownership; Management system and corporate governance
10	LABOR MARKET	The employment system; Continuity and change
11	ABENOMICS	Performance indicators; Critique; Course correction
12	JAPAN INC. 2.0	Cool Japan; Brand Japan; Startup scene
13	DEMOGRAPHIC DEBATE	Low-fertility and aging; Major policy reforms; Immigration policy
14	ADVANCED TOPICS	Business of/by/for elderly; Inequality debate; Reimagining innovation

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

#### 【テキスト（教科書）】

No Textbook

#### 【参考書】

Hayashi, Fumio and Edward C. Prescott (2002), The 1990s in Japan: A Lost Decade, *Review of Economic Dynamics*, 206-235.  
Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2011): Why Did Japan Stop Growing?

Hoshi and Kashyap (2013): Will the U.S and Europe Avoid a Lost Decade? Lessons from Japan's Post Crisis Experience  
Iwai, Katsuhito (2002), The Nature of the Business Corporation: Its Legal Structure and Economic Functions, *Japanese Economic Review* 53(3), 243-273.

Clark and Ishii (2012) *Social Mobility in Japan, 1868-2012: The Surprising Persistence of the Samurai*, University of California, Davis

Hiroshi Yoshikawa (2001), The Aging of Society and Fiscal Policy, in *Japan's Lost Decade*, International House of Japan.

Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2004) Costs and Benefits of Keiretsu Financing, in *Corporate Financing and Governance in Japan*, Cambridge MA: MIT Press

Allen, F. and M. Zhao (2007) *The Corporate Governance Model of Japan: Shareholders are not Rulers.*

Ito, Takatoshi (2004) Exchange rate regimes and monetary policy cooperation: Lessons from East Asia and Latin America, *Japanese Economic Review*, 55(3), 240-266,

McKinnon, Ronald, and Kenichi Ohno (1997), *Dollar and Yen*, MIT Press.

The Becker-Posner Blog (2008, Nov. 16) *Bail Out the Big Three Auto Producers? Not a Good Idea.*

Hashimoto, Masanori and Yoshio Higuchi (2005), *Issues Facing the Japanese Labor Market*, in *Reviving Japan's Economy*, MIT Press.

Raymo, James M. and Miho Iwasawa (2005), *Marriage Market Mismatches in Japan: An Alternative View of the Relationship between Women's Education and Marriage*, *American Sociological Review*, 70, October, 801-822.

S Shirahase (2007) *The Political Economy of Japan's Low Fertility*

Toshimitsu Shinkawa (2006) The politics of pension reform in Japan: Institutional legacies, credit-claiming and blame avoidance, in Ageing and Pension Reform around the World.

#### 【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion, surveys, and micro-presentations - 40% (In-class participation)
2. Weekly forum posts and discussions - 40% (Peer interactions on Hoppii)
3. Final Assignment - 20% (An essay. Details TBA)

#### 【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

#### 【その他の重要事項】

Class materials:

Lecture Notes | Class Slides | Weekly Handouts & Reading Lists | Updated Syllabus are available on the course website  
Course website:jecon.school.blog

#### 【Notes】

- 1.The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite
- 2.The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

#### 【Outline and objectives】

The focus of this course is on providing introductory knowledge of the Japanese economy and the business. The participants learn the implications of the policy decisions and their impact on the state of the economy. The course seeks to provide an understanding of the historical and institutional background of the contemporary Japanese economy.

We use a wide range of sources, covering academic literature, business case studies, and topical news items as well as op-ed pieces to understand the various aspects of Japanese business. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' exercises. In the second half of each lecture, students are expected to participate in various exercises. Exercises are followed by short class-discussion to develop the take-aways. Students are also required to take short quizzes.

MAN300CA

## 財務諸表論 A

石田 惣平

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計は事業の言語であり、企業活動を映し出す鏡ともいわれま。そのため、企業活動を分析・評価するためには会計の知識は欠かせません。本講義では、こうした企業活動を分析・評価する立場から必要となる会計の応用的な知識を習得することを狙いとしています。

#### 【到達目標】

本講義では、終了時に学生が以下の能力を身に付けることを目標としています。

1. 財務諸表を作成するプロセスを理解する。
2. 企業の戦略や行動が財務諸表にどのように表れるかを理解する。
3. 会計数値を用いて企業を分析・評価する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

リアルタイムオンラインの形式で講義を行います。具体的には、Zoomを用いて、講義時間内に講義を行います。なお、ZoomのURL、ID、パスワードはHoppiiに掲載します。また、講義に関して質問がある場合は講義中にチャット欄に記入してもらうか、講義後にGoogleフォームからリアクションペーパーを提出して下さい。講義中の質問については適宜、講義後の質問については次回講義の冒頭で回答するようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	財務諸表分析の目的	財務諸表分析の目的
2	財務諸表のシステム	財務諸表のシステム
3	連結貸借対照表の見方	連結貸借対照表の見方
4	連結損益計算書の見方	連結損益計算書の見方
5	貸借対照表データによる安全性分析	貸借対照表データによる安全性分析
6	損益計算書データによる収益性分析	損益計算書データによる収益性分析
7	相互関係比による収益性分析①	相互関係比と収益性分析／投下資本率の算定
8	相互関係比による収益性分析②	ROAの2分解とROEの3分解／財務レバレッジの効果
9	効率性分析	効率性分析
10	キャッシュフロー・データによる分析	キャッシュフロー・データによる分析
11	成長性分析	成長性分析
12	キャッシュフロー・データによる分析	キャッシュフロー・データによる分析
13	損益分岐点分析	損益分岐点分析
14	期末試験と解説	期末試験と解説

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を読み、講義に参加してください。また、講義中に演習を実施するので、間違えた問題は事後的にしっかり復習しておくようにしてください。本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

講義資料を授業前にアップロードします。各自で印刷するようにお願いします。

## 【参考書】

特にありません。

## 【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）で成績を評価します。なお、出席は単位取得の前提条件なので、出席が一定の割合を充たさない場合は成績評価の対象としません。

## 【学生の意見等からの気づき】

真剣に学びたい学生のサポートをできるよう努めます。

## 【学生が準備すべき機器他】

電卓あるいは関数電卓が必須となります。

## 【その他の重要事項】

会計学応用 I（財務会計）B も合わせて受講することを推奨します。

## 【Outline and objectives】

Corporate accounting is said to be the language of business, and the mirror that reflects business activity. For this reason, corporate accounting is essential in order to analyze and evaluate firms. The aim of this class is to help students to acquire the applied knowledge of accounting from the standpoints of analysis and evaluation of business activity.

MAN300CA
財務諸表論 B
石田 惣平
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計は事業の言語であり、企業活動を映し出す鏡ともいわれます。そのため、企業活動を分析・評価するためには会計の知識は欠かせません。本講義では、こうした企業活動を分析・評価する立場から必要となる会計の応用的な知識を習得することを狙いとしています。

## 【到達目標】

本講義では、終了時に学生が以下の能力を身に着けることを目標としています。

1. 企業価値について理解する。
2. 資本コストについて理解する。
3. 財務データや株価データを用いて企業価値と資本コストを算出する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

## 【授業の進め方と方法】

リアルタイムオンラインの形式で講義を行います。具体的には、Zoomを用いて、講義時間内に講義を行います。なお、ZoomのURL、ID、パスワードはHoppiiに掲載します。また、講義に関して質問がある場合は講義中にチャット欄に記入してもらうか、講義後にGoogleフォームからリアクションペーパーを提出して下さい。講義中の質問については適宜、講義後の質問については次回講義の冒頭で回答するようにします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	企業価値と現在価値の関係	授業の概要説明
2	現在価値と割引率の関係	企業の価値創造プロセスと企業価値評価の全体像
3	ファイナンス理論におけるリスク	「企業活動を映し出す鏡」としての会計
4	ポートフォリオのリスクとリスク分散の限界	企業のディスクロージャー制度と会計情報の限界
5	資本資産評価モデル	資本資産評価モデル
6	資本政策と資本コスト	完全資本市場での理論
7	資本政策と資本コスト	完全資本市場の前提の緩和
8	負債の存在と加重平均資本コスト	負債の存在と加重平均資本コスト
9	エンタプライズ DCF 法の理論的背景	エンタプライズ DCF 法の理論的背景
10	エンタプライズ DCF 法の実務①	過去の業績分析
11	エンタプライズ DCF 法の実務②	将来の業績とフリー・キャッシュフローの予測
12	エンタプライズ DCF 法の実務③	継続価値と企業価値の算定
13	マルチプル法の実務	マルチプル法の実務
14	期末試験と解説	期末試験と解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

事前に講義資料を読み、講義に参加してください。また、講義中に演習を実施するので、間違えた問題は事後的にしっかり復習しておくようにしてください。本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

講義資料を授業前にアップロードします。各自で印刷するようにお願いします。

**【参考書】**

特にありません。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験（100%）で成績を評価します。なお、出席は単位取得の前提条件なので、出席が一定の割合を充たさない場合は成績評価の対象としません。

**【学生の意見等からの気づき】**

真剣に学びたい学生のサポートをできるよう努めます。

**【学生が準備すべき機器他】**

電卓あるいは関数電卓が必須となります。

**【その他の重要事項】**

会計学応用 I（財務会計）A も合わせて受講することを推奨します。

**【Outline and objectives】**

Corporate accounting is said to be the language of business, and the mirror that reflects business activity. For this reason, corporate accounting is essential in order to analyze and evaluate firms. The aim of this class is to help students to acquire the applied knowledge of accounting from the standpoints of analysis and evaluation of business activity.

MAN300CA
<b>管理会計 A</b>
<b>梅津 亮子</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

企業経営の場面では、経営者及び管理者は、戦略的な課題あるいは業務上の問題に対して様々な意思決定を行います。管理会計の役割は、経営者及び管理者が行うこれらの意思決定に対して有用な情報を提供することにあります。本講義は、管理会計の基礎的な知識を習得することを目的とし、まず、伝統的な管理会計の理論と技法について学習します。その上で、急速に変化する経済環境のもとでは管理会計情報に対するニーズも変化することを踏まえ、新しいテーマについても理解を深めていきたい。

**【到達目標】**

1. 管理会計の基礎理論を理解する、2. 管理会計の具体的手法を習得する、3. 様々な経営課題について、管理会計情報を利用して解決する方法を考察する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義形式で基本的な理論構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	経営活動と会計情報	経営管理と会計情報、経営管理プロセス、経営者の役割
第 2 回	管理会計の基礎①	財務会計情報と管理会計情報の相違
第 3 回	管理会計の基礎②	管理会計の体系、業績管理会計と意思決定会計
第 4 回	管理会計の基礎③	制度的原価概念、管理会計上の原価概念
第 5 回	短期利益計画	利益管理、コスト・ベヘイビア、大綱的利益計画
第 6 回	CVP分析①	損益分岐点図表、利益図表、損益分岐点の算出
第 7 回	CVP分析②	経営リスク、経営レバレッジ、安全余裕率
第 8 回	感度分析	損益分岐点の引き下げ、利益改善のためのアプローチ
第 9 回	多品種製品のCVP分析	線形計画法、制約条件、セールス・ミックス
第 10 回	原価分解	実績データ基準法と工学的方法
第 11 回	全部原価計算方式によるCVP分析	CVP分析の仮定、全部原価計算による損益分岐点の算定
第 12 回	ABC/A BM①	原価構造の変化、ABCの計算構造
第 13 回	ABC/A BM②	ABCとA BMの関係、アクティビティ分析
第 14 回	品質コストマネジメント	予防コスト、評価コスト、内部失敗コスト、学部失敗コスト

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は4時間を目安とします。

**【テキスト（教科書）】**

武協誠ほか『管理会計』新世社。

**【参考書】**

必要に応じてそのつど紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

小テスト10%、期末試験90%（オンライン授業の場合は、適宜、学習支援システムで成績評価方法を掲示する）

**【学生の意見等からの気づき】**

管理会計に特有の原価概念について丁寧に説明をしていきたい。

**【その他の重要事項】**

電卓を用意しておくこと。

**【Outline and objectives】**

Managerial accounting emphasizes the use of accounting information to support management in better decision-making in a variety of business contexts. The aim of this course is to help students acquire knowledge and understanding of management accounting techniques for planning and control, monitoring performance and decision making.

MAN300CA
<b>管理会計 B</b>
<b>梅津 亮子</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

企業経営の場面では、経営者及び管理者は、戦略的な課題あるいは業務上の問題に対して様々な意思決定を行います。管理会計の役割は、経営者及び管理者が行うこれらの意思決定に対して有用な情報を提供することにあります。本講義は、管理会計の基礎的な知識を習得することを目的とし、まず、伝統的な管理会計の理論と技法について学習します。その上で、急速に変化する経済環境のもとでは管理会計情報に対するニーズも変化することを踏まえ、新しいテーマについても理解を深めていきたい。

**【到達目標】**

1. 管理会計の基礎理論を理解する、2. 管理会計の具体的方法を習得する、3. 様々な経営課題について、管理会計情報を利用して解決する方法を考察する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義形式で基本的な理論構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	予算管理①	予算管理の機能、予算編成方針、予算の体系
第 2 回	予算管理②	予算編成プロセス、予算スラック、予算ゲーム
第 3 回	予算管理③	変動予算・固定予算、予算統制、ゼロベース予算
第 4 回	事業部制会計①	職能別組織と事業部制組織、責任会計、責任中心点
第 5 回	事業部制会計②	事業部長と事業部自体の業績評価
第 6 回	事業部制会計③	ROI と残余利益、社内資本金制度、振替価格
第 7 回	意思決定会計	経営意思決定の種類、意思決定プロセス
第 8 回	業務的意思決定①	特別注文、追加加工か販売か
第 9 回	業務的意思決定②	自製か購入か、既存製品の生産と販売
第 10 回	設備投資意思決定①	キャッシュ・フローの予測、貨幣の時間価値、資本コスト
第 11 回	設備投資意思決定②	会計的利益率法、回収期間法、正味現在価値法、内部利益率法
第 12 回	設備投資意思決定③	NPV 法とIRR法の比較、再投資の仮定
第 13 回	原価企画	原価企画・原価維持・原価改善
第 14 回	BSC	戦略マップ、バランス・スコアカード

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は 4 時間を目安とします。

**【テキスト（教科書）】**

武協誠ほか『管理会計』新世社。

**【参考書】**

必要に応じてそのつど紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

小テスト 10 %、期末試験 90 %（オンライン授業の場合は、適宜、学習支援システムで成績評価方法を揭示する）

**【学生の意見等からの気づき】**

管理会計に特有の原価概念について丁寧に説明をしていきたい。

**【その他の重要事項】**

電卓を用意しておくこと。

**【Outline and objectives】**

Managerial accounting emphasizes the use of accounting information to support management in better decision-making in a variety of business contexts. The aim of this course is to help students acquire knowledge and understanding of management accounting techniques for planning and control, monitoring performance and decision making.

LANe300CA
<b>Business Communication II A</b>
<b>YONGUE JULIA SALLE</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

The purpose of this course is to prepare students for the increasingly global corporate environment that awaits them after graduation. They will not only improve their business communication skills. They will also become more "business literate" and "global minded" by examining and discussing current issues in business.

**【到達目標】**

The goals of the course are: (1)improving communication skills; (2) increasing knowledge of current business trends, and (3) thinking critically about businesses and their impact on society.

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

By discussing articles and exchanging ideas in small groups, students will become familiar with basic business concepts, trends, and terminology as well as improve their workplace communication skills.

\*Feedback on assignments/tests will be given during office hours and/or during class.

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	Introduction	Class expectations; explanation of the goals of the class, self-introductions, etc.
2	Business and Fashion	Lecture/discussion: The fast fashion industry's business model and its impact.
3	Employment strategies at UNIQLO Japan	Reading/discussion: Uniqlo's pricing strategy, Nikkei interview with Tadashi Yanai
4	Global supply chains and ethical business practices in the fast fashion industry (1)	Lecture/discussion: Ethical Issues in the Global Fast Fashion Industry (1)
5	Global supply chains and ethical business practices in the fast fashion industry (2)	Reading/discussion: Ethical Issues in the Global Fast Fashion Industry (2)
6	Slow fashion and Japan's brand image	Reading/discussion: Japanese brands; in-class writing assignment
7	The Fashion Industry and sustainability (1)	Lecture/discussion: Ways to improve the fashion industry's environmental record
8	The Fashion Industry and sustainability (2)	Reading/discussion: Alternative fabrics and recycling in the global fashion industry

9	Changes in the fashion industry (1)	Lecture/discussion: COVID19's impact on the fashion industry
10	Changes in the fashion industry (2)	Reading/discussion: COVID19's impact on the fashion industry; case study of Gucci
11	Considering the impact of the fashion business in various context	Student-led presentations and discussion
12	Considering the impact of the fashion business in various context	Student-led presentations and discussion
13	Considering the impact of the fashion business in various context	Student-led presentations and discussion; Writing assignment
14	Wrap up and review	Feedback on writing assignment and final review

**【Outline and objectives】**

The purpose of this course is to prepare students for the increasingly global corporate environment that awaits them after graduation. They will not only improve their business communication skills. They will also become more "business literate" and "global minded" by examining and discussing current issues in business.

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

- (1) Taking business courses offered at Hosei
  - (2) Reading and learning about recent business news
  - (3) Preparing for quizzes, presentations, and other activities
- Since the theme of the spring semester is the fashion industry and its impact on the environment and society, having an interest in this topic is preferable.

Regular (daily) study is key to academic success. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

There is no textbook. The articles (mainly from the English version of the Nikkei Newspaper) are available via the university's database.

**【参考書】**

In this class, articles from the following publications are used:  
The Nikkei Newspaper  
The Economist  
The Atlantic  
New York Times  
The Japan Times

**【成績評価の方法と基準】**

- (1) Participation (40%). Students MUST attend all of the classes and express their opinions in discussions in order to receive a high grade. Attitude, punctuality, and overall effort are also important factors for evaluating student performance.
- (2) Evaluation (60%): Students must score at least 60% on their evaluation in order to pass the course. Due to the pandemic, the evaluation method (presentation/video or test) is subject to change.

The participation policy for this class is strict, and students should consider it very carefully before registering. Students are expected to attend all of the classes and to be on time.

**【学生の意見等からの気づき】**

None. Students are welcome to make requests and voice complaints/concerns at any time during the semester.

**【学生が準備すべき機器他】**

Get the Merriam Webster (free) app for your cell phone!

**【その他の重要事項】**

THIS CLASS IS LIMITED TO 20 STUDENTS. THOSE WHO WISH TO REGISTER MUST ATTEND THE FIRST CLASS (OF EACH SEMESTER) TO APPLY.

Students are strongly encouraged to complete Business Communication IA/B before enrolling in this course.

\*This course is designed for intermediate-level language learners, who wish to improve their communication skills and gain some basic knowledge of business.

**【none】**

Students are strongly encouraged to complete Business Communication IA/B before enrolling in this course.

LANe300CA
Business Communication II B
YONGUE JULIA SALLE
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The purpose of this course is to prepare students for the increasingly global corporate environment that awaits them after graduation. They will not only improve their business communication skills. They will also become more "business literate" and "global minded" by examining and discussing current issues in business.

#### 【到達目標】

By discussing articles and exchanging ideas in small groups, students will become familiar with basic business concepts, trends, and terminology as well as improve their workplace communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

By reading and discussing articles on Japanese business mainly from the Nikkei Newspaper, students will become more familiar with basic business concepts as well as terminology that they can use in any workplace environment.

\*Feedback on assignments/tests will be given during office hours and/or during class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	Introduction	Class expectations; explanation of class goals, self-introductions, and short reading
2	Working in Japan	Discussion: What is 'work-style reform' (働き方改革)?
3	Japan's Work-style Reform	Reading/discussion: Work-style reforms: Is it working?
4	Japanese business practices (1)	Discussion: Work-style reform; overtime work during COVID-19
5	Japanese business practices (2)	Reading/discussion: International comparisons of working styles
6	Japanese business practices (3)	Discussion: Japan's working culture; work-life balance
7	Women and the workplace (1)	Reading/discussion: Case study of a Japanese company that is empowering women in the workforce
8	Women and the workplace (2)	Discussion: Stereotypes; international comparisons
9	Issues facing Japan's employment system (1)	Preparing for a debate on overtime work
10	Issues facing Japan's employment system (2)	Debate and reflection paper

11	Considering issues relating to working in Japan (1)	Student-led presentations and discussion
12	Considering issues relating to working in Japan (2)	Student-led presentations and discussion
13	Considering issues relating to working in Japan (3)	Student-led presentations and discussion
14	Wrap up and review	Feedback on reflection paper and final review

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) Taking business courses offered at Hosei  
 (2) Reading and learning about recent business news  
 (3) Preparing for quizzes, presentations, and other activities  
 Since the theme of the fall semester is "working in Japan," students who are interested in working for a Japanese company after graduation would benefit from taking this course.

Regular (daily) study is key to academic success. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

There is no textbook. The articles (mainly from the English version of the Nikkei Newspaper) are available via the university's database.

#### 【参考書】

In this class, articles from the following publications are used:  
 The Nikkei Newspaper  
 The Economist  
 The Atlantic  
 New York Times  
 The Japan Times

#### 【成績評価の方法と基準】

(1) Participation (40%). Students MUST attend all of the classes and express their opinions in discussions in order to receive a high grade. Attitude, punctuality, and overall effort are also important factors for evaluating student performance.  
 (2) Evaluation (60%): Students must score at least 60% on their evaluation in order to pass the course. Due to the pandemic, the evaluation method (presentation/video, or test) is subject to change.

The participation policy for this class is strict, and students should consider it very carefully before registering. Students are expected to attend all of the classes and to be on time.

#### 【学生の意見等からの気づき】

None. Students are welcome to make requests or voice complaints at any time during the semester.

#### 【学生が準備すべき機器他】

Get the (free) Merriam Webster app for your cell phone!

#### 【その他の重要事項】

THIS CLASS IS LIMITED TO 20 STUDENTS. THOSE WHO WISH TO REGISTER MUST ATTEND THE FIRST CLASS (OF EACH SEMESTER) TO APPLY.

Students are strongly encouraged to complete Business Communication IA/B before enrolling in this course.

\*This course is designed for intermediate-level language learners, who wish to improve their communication skills and gain some basic knowledge of business.

#### 【None】

Students are strongly encouraged to complete Business Communication IA/B before enrolling in this course.

#### 【Outline and objectives】

The purpose of this course is to prepare students for the increasingly global corporate environment that awaits them after graduation. They will not only improve their business communication skills. They will also become more "business literate" and "global minded" by examining and discussing current issues in business.

MAN300CA
<b>監査論 A</b>
<b>岸 牧人</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

監査の基本的な枠組みと、金融商品取引法に基づく公認会計士監査及び会社法に基づく監査役等による監査制度について講義する。監査とは何を目的とするものか、またいかなる行為であるのかについて理解するとともに、監査制度と経済社会とのかかわりについて理解することを目的とする。

**【到達目標】**

皆さんは「監査」ということばを聞くとどのようなものをイメージしますか。たとえば、公認会計士や企業の監査役など、職業のひとつとして聞いたことがあるかも知れません。また、部活やサークルなどで監事を設けていたり、実際に経験した人もいるかも知れません。この講義では、こうしたイメージの中の監査から一歩踏み出して、経済社会で行われている監査の仕組みを理解し、どのような役割を果たしているのかについて知見を得ることを到達目標とします。具体的には、監査という行為の本質と、法制度によって行われている監査の社会的意義について理解し、どのような問題点があるのか、またどのような改善策がありえるのかについて考察する能力を得ることを目標とします。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義ごとに当日の講義内容をまとめたレジュメを配付する。毎回の講義の最後に、翌講義に関する「予習シート」を配付する。また、講義ごとに「講義内レポート」の提出を求める。予習シートと講義内レポートは添削・採点した上で返却する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	監査の基本的な考え方と二つの系列の監査	監査に対する一般的なイメージと、経済社会において展開される監査との異同点について学習する。
第 2 回	企業不正と監査	企業不正の具体的なケースと監査とのかかわりについて学習し、二つの系列の監査との関係について理解する。
第 3 回	監査の種類	会計監査と業務監査、外部監査と内部監査、法定監査と任意監査のそれぞれの特質について学習する。
第 4 回	監査の史的展開	経済社会の時代的変遷と監査の変容過程について、特に 19 世紀以降の監査形態の変化について理解する。
第 5 回	商法監査の成立	旧商法における監査役監査の意義と役割について学習する。特に、監査役の権限と機能について学習する。
第 6 回	会社法監査の成立	商法特例法、委員会等設置会社の導入を経て、現在の会社法監査に至る過程と時代的背景について学習する。

第 7 回	証券取引法監査の成立	証券取引法に基づく公認会計士監査制度の成立過程について学習する。
第 8 回	金融商品取引法監査の成立	現在の金融商品取引法の意義を理解した上で、財務諸表監査の役割について学習する。
第 9 回	公認会計士法における公認会計士の業務と責任	公認会計士法の概要と、公認会計士の業務について学習する。特に、「1 項業務」と「2 項業務」の関係について理解する。
第 10 回	監査法人制度	監査法人制度の意義と概要について、特に社員の権限と責任、指定社員、特定社員、ネットワーク・ファームの現状について学習する。
第 11 回	監査基準の設定過程	監査基準の必要性および設定過程について学習する。
第 12 回	監査基準一般基準の内容と意義	監査人の資格要件である適格性、独立性、および正当な注意のそれぞれの意義について理解する。
第 13 回	四半期レビューの意義と役割	四半期報告制度の意義と四半期レビューの特質について学習する。
第 14 回	内部統制監査の意義と役割	内部統制報告制度の一環としての内部統制監査の意義と特質について学習する。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

翌回の講義に関する基礎知識（専門用語や時事問題など）について、「予習シート」の作成と提出を求める。予習シートは成績評価の 40% とする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

長吉真一、岸牧人ほか著『監査論入門』（開講時の最新版）、中央経済社、2,800 円（税抜）

**【参考書】**

石田三郎、林隆敏、岸牧人編著『監査論の基礎』（第 3 版）、東京経済情報出版、2012 年

**【成績評価の方法と基準】**

予習シート 40%、講義内レポート 60%によって評価する。試験は実施しない。

**【学生の意見等からの気づき】**

監査論は用語が難しいという意見が多く見られた。講義では、専門用語の定義や解説を丁寧に行うことを心がける。

**【その他の重要事項】**

初回の講義で、単位の認定方法に関する詳細について説明するので必ず出席すること。

**【Outline and objectives】**

This course introduces the nature and the foundation of auditing. Basically, Japanese institution of auditing made pursuant to Securities Exchange Law and Companies Law of Japan.

MAN300CA
<b>監査論 B</b>
<b>岸 牧人</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務諸表監査の基礎理論とプロセスについて理解するとともに、証券市場経済において財務諸表監査がどのような役割を果たしているか、また果たすべきかについて考察するための知見を得る。

### 【到達目標】

「期末商品（原価 1,000）の時価が 800 であったので評価替えを行う」、「期末売掛金残高に対して 2% の貸倒引当金を設定する」－簿記の問題でよく見るこれらの取引は、簿記の基本を理解している人であれば瞬時に仕訳することができるであろう。これは「会計アタマ」である。対して、「期末商品の評価額は本当に 800 なのか?」、「貸倒引当金の設定率は 2% でいいのか?」－こうした考え方は「監査アタマ」でないとできない。この講義では、「監査アタマ」で企業会計上の取引を考えることによって、財務諸表の信頼性（適正性）を確かめるためには何が必要で、その結果をどのように利用者に伝達するのかを考える。その上で、実際の証券市場経済において財務諸表監査がどのような役割を果たしているか、また果たすべきかについて、論理立てて考察するための知見を得ることを本講義の到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義ごとに当日の講義内容をまとめたレジュメを配付する。毎回の講義の最後に、翌講義に関する「予習シート」を配付する。また、講義ごとに「講義内レポート」の提出を求める。予習シートと講義内レポートは添削・採点した上で返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし / No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	「会計アタマ」から「監査アタマ」へ	監査の基礎理論を学習するために必要な理論的枠組みを提示する。
第 2 回	財務諸表監査の基本的プロセス	財務諸表監査のプロセスにおけるアサーションと監査要点、及び監査手続と監査証拠の基本的関係について学習する。
第 3 回	企業の内部統制の評価と財務諸表監査	内部統制概念の変遷について学習し、内部統制の評価が財務諸表監査においてどのように位置づけられるかについて学習する。
第 4 回	監査手続と監査証拠	監査手続の種類と監査証拠の属性について学習する。
第 5 回	リスク・アプローチの基本的な考え方	リスク・アプローチの必要性和意義について、監査の有効性と効率性の観点から学習する。
第 6 回	事業上のリスク等を重視したリスク・アプローチの基本構造	リスク評価手続及び運用評価手続の具体的な内容と意義について学習する。
第 7 回	監査上の重要性	監査上の重要性概念と監査のコスト・ベネフィット、および重要な虚偽の表示の認識について学習する。
第 8 回	実証手続の意義と効用	分析の実証手続と詳細テストに関して、その具体的な内容と意義について、特に監査証拠との関係から学習する。

- 第 9 回 監査報告書の意義と課題 監査報告書の意見表明機能と情報提供機能について学習する。
- 第 10 回 除外事項の意義と特質 除外事項の種類と発生原因、及び除外事項付意見との関係について、実例を用いて学習する。
- 第 11 回 追記情報の意義と種類 強調事項とその他の記載事項の意義について、実例を用いて学習する。
- 第 12 回 監査報告書の改革 国際会計士連盟（IFAC）による監査報告書の改革プロジェクトの概要と日本の監査実務への影響について学習します。
- 第 13 回 財務諸表監査における継続企業の前提に関する検討 いわゆる「ゴーイング・コンサーン注記」の意義と財務諸表監査における位置づけについて、実例を用いて学習する。
- 第 14 回 財務諸表監査の品質管理 財務諸表監査の品質とは何か、またこれを管理するためには何が必要か、といった観点から監査の品質について学習する。

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翌回の講義内容に関する基礎知識（専門用語や時事問題など）について、「予習シート」の作成と提出を求める。予習シートは成績評価の 40% とする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

長吉眞一、岸牧人ほか著『監査論入門』（開講時の最新版）、中央経済社、2,800 円（税抜）

### 【参考書】

石田三郎、林隆敏、岸牧人『監査論の基礎』（第 3 版）、東京経済情報出版、2012 年

### 【成績評価の方法と基準】

予習シート 40%、講義内レポート 60% によって評価する。試験は実施しない。

### 【学生の意見等からの気づき】

監査論は用語が難しいという意見が多く見られた。講義では、専門用語の定義や解説を丁寧に行うことを心がける。

### 【その他の重要事項】

初回の講義で、単位の認定方法に関する詳細について説明するので必ず出席すること。

### 【Outline and objectives】

This course introduces the nature and the foundation of auditing. Basically, Japanese institution of auditing made pursuant to Securities Exchange Law and Companies Law of Japan.

ECN300CA
リスク・マネジメントA
湯前 祥二
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この講義では、リスク管理の考え方と手法を身につけ、実際に活用できることを目標とします。

**【到達目標】**

リスク測度について理解し、値を計算で求めることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

家計でもビジネスでも、リスクを全く取らなければリターンも低いままです。一方、過剰なリスクは破綻につながります。リスク管理は、負担可能なリスクの限度を見極めて、要求される利回りを実現することに役立ちます。

現代ファイナンス入門の講義で、現在価値計算の方法や金融商品について学んだことを前提に、講義します。

春学期は、現在価値、リスクを中心に扱います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	ファイナンスとは何か	ファイナンスを学ぶ理由
第2回	将来価値	複利計算の頻度と実効金利
第3回	現在価値	単利の発想と複利の発想
第4回	採択ルール	正味現在価値
第5回	アニュイティ	複数回のキャッシュフロー
第6回	資産価値評価	一物一価の法則と裁定
第7回	三角裁定	為替とクロスレート
第8回	リスク	リスク回避とリスク測度
第9回	リスク管理	リスク管理の基本テクニック
第10回	リスク移転	ヘッジと保険と分散
第11回	動機付け問題	モラル・ハザードと逆選択
第12回	確率分布	正規分布
第13回	リスク測度	期待収益率とボラティリティ
第14回	まとめ	ファイナンスの役割

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「学習支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見えておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

なし

**【参考書】**

ボディ、マートン、クリートン（2011）、『現代ファイナンス論 原著第2版 意思決定のための理論と実践』、ピアソン桐原。  
ルーエンバーガー（2015）、『金融工学入門第2版』、日本経済新聞出版社。

**【成績評価の方法と基準】**

試験によって評価します（100%）。試験を行わない場合は、学習支援システムの活動で評価します（100%）。

**【学生の意見等からの気づき】**

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

**【学生が準備すべき機器他】**

関数電卓を使用します。

**【Outline and objectives】**

This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning risk management.

ECN300CA
リスク・マネジメント B
湯前 祥二
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、リスク管理の考え方や手法を身につけ、実際に活用できることを目標とします。

#### 【到達目標】

金融派生商品について理解し、理論価格を計算で求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

家計でもビジネスでも、リスクを全く取らなければリターンも低いままです。一方、過剰なリスクは破綻につながります。リスク管理は、負担可能なリスクの限度を見極めて、要求される利回りを実現することに役立ちます。

現代ファイナンス入門の講義で、現在価値計算の方法や金融商品について学んだことを前提に、講義します。

秋学期は、ポートフォリオ理論、金融派生商品を扱います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ポートフォリオ選択	原則と戦略
第 2 回	前提条件	ホライズンとリスク許容度
第 3 回	トレードオフ	危険資産と無リスク資産
第 4 回	目標期待リターンの達成	ポートフォリオの効率性
第 5 回	リスク分散	二つの危険資産
第 6 回	ポートフォリオのリスク	最小分散ポートフォリオ
第 7 回	先渡し契約、先物契約	先渡し価格、債務不履行の防止
第 8 回	パリティ	裁定取引と先渡しの理論価格
第 9 回	金融先物	複製とインプライド配当
第 10 回	オプション	条件付き請求権
第 11 回	ペイオフ	本源的価値と時間的価値
第 12 回	オプション・プレミアム	株価モデル
第 13 回	動的複製戦略	ブラック・ショールズ式
第 14 回	まとめ	金融派生商品の利用

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「学習支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいてください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見えておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

#### 【テキスト（教科書）】

なし。

#### 【参考書】

ボデイ、マートン、クリートン（2011）、『現代ファイナンス論 原著第 2 版 意思決定のための理論と実践』、ピアソン桐原。  
ルーエンバーガー（2015）、『金融工学入門第 2 版』、日本経済新聞出版社。

#### 【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。試験を行わない場合は、学習支援システムの活動で評価します（100%）。

#### 【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

#### 【Outline and objectives】

This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning risk management.

ECN300CA
<b>企業経営史 A</b>
<b>飯塚 陽介</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この講義の目的は、ビジネスのあり方における時代・地域に応じた多様性をそれを生み出した背景とともに知ること、各地域のビジネスのあり方について、広い視野から比較し関連づけて考察する力を身につけることにあります。具体的には、19世紀以降の欧米諸国及び日本におけるビジネスのあり方を概論します。Aでは、日米欧における「現代企業」の出現にいたる時期までを対象とします。企業は現代の経済社会において大きな部分を構成しています。企業活動について歴史的背景にまで遡って深く理解することは、現代の社会について主体的に考察する上での助けとなるでしょう。なお、講義の中では、適宜、グラフや図表といった統計資料も活用します。

**【到達目標】**

- (1) 現代企業が出現した経緯を説明できる。
- (2) 日米欧の現代企業の相違を知り、それを歴史的な背景から説明できる。
- (3) 歴史的な視座から企業・産業のあり方に対して関心を持つ。
- (4) 企業・産業の歴史についての文献を収集できる。
- (5) 収集した文献を用いて、企業・産業の歴史を論じることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

オンライン形式での授業となります。毎回、Hopiiに講義資料と音声ファイルをアップロードします。履修者はそれらを通じて学習をした上で、毎回課される確認小テストに取り組んでください。履修者には任意の企業・産業の歴史を調査・研究することが求められます。個人での調査・研究に関連して研究計画書と期末レポートの提出が義務付けられます。なお、研究計画書と期末レポートについて希望があった学生に限り個別にコメントします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	規模の経済の発見	産業革命期の英国において「規模の経済」はいかに発見されたのか？
2	市場経済の中の企業	産業革命期の企業活動はあくまで「市場」による調整を前提としていた。
3	産業革命期の在来産業	在来産業において生じた革新とは？
4	産業革命と金融ビジネス	産業革命を支えた金融ビジネス。
5	大量生産体制への途	アメリカでの大量生産への模索
6	期末レポート作成指導（研究計画の調整など）	研究計画書のテーマの調整と調査法についての簡単なレクチャー。
7	市場的調整から管理的調整へ 及び 中間テスト	19世紀アメリカにおいて市場的調整を代替する大企業はなぜ出現したのか？
8	専門経営者と経営階層組織	19世紀アメリカにおいて経営階層組織はなぜ発達したのか？
9	経営者企業の成立と経営階層組織の発達	さらに発達を遂げるアメリカ大企業の経営階層組織。
10	ヨーロッパにおける現代企業の登場	19世紀末、ヨーロッパにおいても「大企業」が出現した。
11	ヨーロッパ大企業の諸特徴	ただし、ヨーロッパ大企業はその組織においてアメリカの大企業とは異なる特徴を備えていた。
12	日本における大企業の登場	欧米に対して後発国である日本に大企業が出現した理由は？
13	日本の企業と財閥	日本の大企業の特徴とは？
14	講義の総括 及び 期末テスト	半期の講義を総括します。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

学期末の期末レポートに向けての調査・研究を各自で実施していただきます。その他、毎回の講義後に確認小テストに取り組んでいただき講義内容について復習をしてもらいます。

**【テキスト（教科書）】**

必ず使用する書籍はありません。関連文献は毎回の講義資料に記載されています。

**【参考書】**

鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004年。

**【成績評価の方法と基準】**

- (1) 授業後の確認小テスト (30%) (到達目標 (1)・(2)・(3) と関連します)
- (2) 期末テスト (60%) (到達目標 (4)・(5) と関連します)
- (3) 研究計画書 (10%) (到達目標 (4)・(5) と関連します)

**【学生の意見等からの気づき】**

Hopiiの運用に不慣れな為、学生たちに混乱をもたらしてしまった。今後は気を付けたい。

**【その他の重要事項】**

企業経営に関する基礎的な知識があることが望ましい。

**【Outline and objectives】**

The aim of this course is to gain the ability to understand the regional and historical diversity of business which are affected by economic, social, and cultural context.

In first semester, We focus on the period from the end of the 19th century to the beginning of the 20th century. We will consider the following issues. Who and How was the economy of scale discovered during the British Industrial Revolution? What role did the financial industry play in the industrial revolution in Britain and other European countries? Why did the mass production system and managerial enterprises emerge in in the United States? What are the differences between large companies in Japan, the US and Europe?

Through examining these issues, you will gain the ability to understand business diversity from a historical perspective. This ability will help you to understand autonomously about today's companies.

In this lecture, students will be asked to collect literature on the history of individual companies and prepare long-term reports based on them. So, You will be able to master how to read historical materials.

ECN300CA
<b>企業経営史 B</b>
<b>飯塚 陽介</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この講義の目的は、ビジネスのあり方における時代・地域に応じた多様性をそれを生み出した背景とともに知ることで、各地域のビジネスのあり方について、広い視野から比較し関連づけて考察する力を身につけることにあります。B では、日米欧における大企業体制の形成以降の時期を対象とします。企業は現代の経済社会において大きな部分を構成しています。企業活動について歴史的背景にまで遡って深く理解することは、現代の社会について主体的に考察する上での助けとなるでしょう。なお、講義の中では、適宜、グラフや図表といった統計資料も活用します。

**【到達目標】**

- (1) 現代企業が出現した経緯を説明できる。
- (2) 日米欧の現代企業の相違を知り、それを歴史的な背景から説明できる。
- (3) 歴史的な視座から企業・産業のあり方に対して関心を持つ。
- (4) 企業・産業の歴史についての文献を収集できる。
- (5) 収集した文献を用いて、企業・産業の歴史を論じることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

オンライン形式での授業となります。毎回、Hopii に講義資料と音声ファイルをアップロードします。履修者はそれらを通じて学習をした上で、毎回課される確認小テストに取り組んでください。履修者には任意の企業・産業の歴史を調査・研究することが求められます。個人での調査・研究に関連して研究計画書と期末レポートの提出が義務付けられます。なお、研究計画書と期末レポートについて希望があった学生に限り個別にコメントします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**  
なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	アメリカの大企業体制	戦後アメリカの豊かな社会。
2	戦後アメリカと新産業の誕生：豊かな社会と政府	豊かな社会と政府の関与を背景として、新産業が誕生した。
3	戦後ヨーロッパ大企業	戦後には、ヨーロッパでも大企業が出現した。その要因と特徴とは？
4	日本の大企業（1）：戦後改革とその影響	アメリカ主導の戦後改革は日本企業の「アメリカ化」をもたらしたのか？
5	日本の大企業（2）：ジャパニズム・アズ・ナンバワンの源流及び中間テスト	戦後日本企業の競争力の源泉たる「日本的経営」と「日本的生産システム」の源流を論じます。
6	期末レポート作成指導（研究計画の調整など）	研究計画書のテーマの調整と研究指導。
7	日本株式会社論を越えて	日本の政府・民間関係は異質なのか？
8	消費の大衆化と企業：松下・ダイエー・吉野家	消費の大衆化は新しい経営手法の導入を企業に求めた。
9	日本の大企業の戦略と組織	日本の大企業の戦略と組織における特徴と課題とは？

- |    |                       |                                  |
|----|-----------------------|----------------------------------|
| 10 | 金融センターの興亡             | 興亡を繰り返す金融センターの姿。                 |
| 11 | マーシャルの産業地域論と地域の興亡     | 産業地域のメリットは永続的なのか？                |
| 12 | ポスト大企業体制の時代           | 1970年代以降のアメリカを題材として、大企業体制の動揺を描く。 |
| 13 | アジア企業の勃興と経営者資本主義論の相対化 | 経営者企業へと至る「企業経営の進化」は必然なのか？        |
| 14 | 講義総括及び期末テスト           | 半期の講義を総括します。                     |

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

学期末の期末レポートに向けての調査・研究を各自で実施していただきます。その他、毎回の講義後に確認小テストに取り組んでいたいただき、講義内容について復習をしてもらいます。

**【テキスト（教科書）】**

必ず使用する書籍はありません。関連文献は毎回の講義資料に記載されています。

**【参考書】**

鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004年。

**【成績評価の方法と基準】**

- (1) 授業後の確認小テスト（30%）（到達目標（1）・（2）・（3）と関連します。）
- (2) 期末テスト（60%）（到達目標（4）・（5）と関連します）
- (3) 研究計画書（10%）（到達目標（4）・（5）と関連します）

**【学生の意見等からの気づき】**

Hopii の運用に不慣れな為、学生たちに混乱をもたらしてしまった。今後は気を付けたい。

**【その他の重要事項】**

春学期の「企業経営史 A」も履修することを推奨する。

**【Outline and objectives】**

The aim of this course is to gain the ability to understand the regional and historical diversity of business which are affected by economic, social, and cultural context.

In second semester, We focus on the period from the end of World War I to the present. We will consider the following issues. How was established the Large Company Centered System in United States, Europe, and Japan? What is the difference between systems in these areas?

Through examining these issues, you will gain the ability to understand business diversity from a historical perspective. This ability will help you to understand autonomously about today's companies.

In this lecture, students will be asked to collect literature on the history of individual companies and prepare long-term reports based on them. So, You will be able to master how to read historical materials.

MAN300CA
<b>国際会計制度 A</b>
<b>田中 優希</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、各国の会計基準の比較と、海外企業・日本企業の財務分析を行う。

会計情報は企業を知るうえで最も有用な情報の1つであり、それゆえに「事業の言語」と呼ばれる。企業が国境を越えて活動する昨今、会計制度も国家の枠を越えて変容を遂げている。

まず①会計制度間の差異と②①が会計情報に与える影響を理解し、③企業の財務分析を行う。

英文も登場するが、基礎から積み重ねればそれほど難しくはない。積極的に履修してほしい。

### 【到達目標】

国際的な会計制度間の差異を学び、その差異が会計情報の作成に与える影響を理解し、差異を踏まえた上で国内外の企業分析ができることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

### 【授業の進め方と方法】

講義前半は財務諸表の基礎について解説する。こうした解説は講義の後半でも適宜実施する。講義後半では、基準間の差異に留意しながら、国内外企業の財務分析を行う。分析対象企業は自身で選び、関心の近い者同士でグループを組む（1人でも可）。

講義後は、翌週までに学習支援システムを通じて質問や感想を送ることができ、内容に応じて加点がある。詳細は下記「成績評価の方法と基準」参照。

多くの受講生の理解の助けになる質問やコメントについては、学習支援システムの資料配布等を通じてフィードバックする。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の目的と計画説明。受講生の関心の確認。
2	会計のフレームワーク	会計制度の論理と体系、企業会計の機能など。
3	損益計算書	損益計算書の構造と役割を確認。
4	貸借対照表（資産の部）	貸借対照表の構造と役割を確認。
5	貸借対照表（負債・純資産の部）	貸借対照表の構造と役割を確認。
6	財務分析の概要	会計情報を用いた分析手法（ファンダメンタル分析）の概要。
7	実践・財務分析①	自身が選んだ企業について財務分析を行う
8	実践・財務分析②	フィードバックをもとに分析を改善する（中間レポート）
9	IFRSの基礎概念①	原則主義、経済的実質優先主義。
10	IFRSの基礎概念②	資産負債観、公正価値、親会社概念とエンティティ概念。
11	収益認識基準	収益、工事契約、外貨為替レート変動の影響。
12	包括利益の表示	その他包括利益計算書項目。
13	実践・財務分析③	9～12回を踏まえて、財務分析を改善する
14	授業のまとめ	授業のまとめ

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から経済ニュースへの関心を持ち、日本経済新聞、日経ビジネス、エコノミスト、東洋経済といった各種メディアの購読を推奨する。講義の進捗と共に皆さんの理解が深まれば嬉しい。事前の予習・復習時間は、毎週各2時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、レジュメを配布する。

### 【参考書】

『新・現代会計入門 第2版』伊藤邦雄 日本経済新聞出版社 2016年  
『IFRS 国際会計基準の基礎 第4版』平松一夫 中央経済社 2015年  
『エッセンシャル IFRS（第5版）』秋葉賢一 中央経済社 2016年  
『国際会計論』森川八洲男 白桃書房 2015年 ほか

### 【成績評価の方法と基準】

講義後に実施する学習支援システム上の「テスト／アンケート」(20%)  
中間レポート (30%)  
期末テスト (50%)

### 【学生の意見等からの気づき】

講義の冒頭に前回の復習を実施するため、理解の助けとして欲しい。

### 【その他の重要事項】

国際会計制度 B と合わせて受講すること。

### 【Outline and objectives】

Student will be introduced to the differences of international accounting standards and financial analysis of domestic and foreign companies.

Accounting information is one of the most useful information for knowing companies, hence it is called "business language". As well as companies are crossing over borders, accounting systems are also changing beyond national boundaries.

Upon completion of the course, the student is expected to be able to:

- (1) Understand to international accounting systems
- (2) Understand how they affect on accounting information
- (3) Analyze corporate accounting data

MAN300CA
<b>国際会計制度 B</b>
<b>田中 優希</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際会計制度 A に引き続き、各国の会計基準の比較と、海外企業・日本企業の財務分析を行う。

まず①会計制度間の差異と②①が会計情報に与える影響を理解し、③企業の財務分析を行う。

英文も登場するが、基礎から積み重ねればそれほど難しくはない。積極的に履修してほしい。

### 【到達目標】

国際的な会計制度間の差異を学び、その差異が会計情報の作成に与える影響を理解し、差異を踏まえた上で国内外の企業分析ができることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

### 【授業の進め方と方法】

春学期の内容を踏まえ、国際会計制度が会計数値の作成に与える影響と、それらを踏まえた分析手法を学ぶ。国際会計制度 A と合わせた履修を強く推奨する。

有形固定資産、金融商品、引当金、リース会計、退職給付会計、株式報酬取引、外貨換算会計、企業結合、連結会計、セグメント情報、農業会計などを取り上げる。

春学期同様、国内外の企業の分析も行う。

講義後は、翌週までに学習支援システムを通じて質問や感想を送ることができ、内容に応じて加点がある。詳細は下記「成績評価の方法と基準」参照。

多くの受講生の理解の助けになる質問やコメントについては、学習支援システムの資料配布等を通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の目的、受講生の関心の確認。
2	引当金会計	引当金の認識・測定、偶発債権・偶発債務の認識・測定、環境修復引当金と資産除去債務。
3	リース会計	オペレーティング・リース、ファイナンシャル・リースの認識と測定、航空会社の分析例。
4	従業員給付に関する会計	退職給付会計、株式報酬取引。
5	外貨換算会計	財務諸表の換算方法。
6	無形資産の会計	のれんの会計処理、研究開発費の会計処理。
7	連結会計	持分法、共同契約、他の事業体に対する持分の表示。
8	セグメント情報、継続事業と非継続事業の表示	セグメント情報の開示基準、売却目的で保有する固定資産および廃止事業の開示。
9	IFRS 財務諸表分析のポイント	営業利益と当期純利益の数値変化ポイント
10	IFRS 財務諸表分析 (1)	自身が選んだ企業について財務分析。グループワーク。
11	IFRS 財務諸表分析 (2)	第 9 回の続き

11	IFRS 財務諸表分析 (3)	第 10 回の続き
12	IFRS 財務諸表分析 (4)	第 11 回の続き（プレゼン資料提出）
13	各国の会計制度 (1)	欧州圏の会計制度 期末レポート課題提示
14	各国の会計制度 (2)	アジア圏の会計制度 最新トピック紹介

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から経済ニュースへの関心を持ち、日本経済新聞、日経ビジネス、エコノミスト、東洋経済といった各種メディアの購読を推奨する。講義の進捗と共に皆さんの理解が深まれば嬉しい。事前の予習・復習時間は、毎週各 2 時間を標準とする。

### 【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、レジュメを配布する。

### 【参考書】

国際会計制度 A を参照

### 【成績評価の方法と基準】

講義後に実施する学習支援システム上の「テスト／アンケート」(20%)  
中間レポート (30%)  
期末テスト (50%)

### 【学生の意見等からの気づき】

講義の冒頭に前回の復習を行う。

### 【その他の重要事項】

国際会計制度 A と合わせて受講すること。

### 【Outline and objectives】

Student will be introduced to the differences of international accounting standards and financial analysis of domestic and foreign companies.

Accounting information is one of the most useful information for knowing companies, hence it is called "business language". As well as companies are crossing over borders, accounting systems are also changing beyond national boundaries.

Upon completion of the course, the student is expected to be able to:

- (1) Understand to international accounting systems.
- (2) Understand how they affect on accounting information.
- (3) Analyze corporate accounting data.

MAN300CA
<b>企業経営論 A</b>
川邊 安彦
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要は情報化が社会に及ぼす影響・効果を学び、情報倫理などを理解を深めます。

情報と企業経営についての関わりを通して経営（マネジメント）の本質を学びます。

企業経営論 A の目的は、新規企業のスタートの具体的な手法、戦略について重点を置きます。

過去の論文などの文献や具体的な事例を各自事前調査することで企業経営をテーマ毎に仮想体験しながら具体的な内容を議論し何を行うことで何が得られるのか？を認識できる場面設定を行ないます。企業経営の推論を立て実際に起こった事象から検証します。

### 【到達目標】

新規企業における検討項目を具体的な企業設立（仮設）を前提として各種の経営活動に必要な定量的なツールを使い具体的に検討を行えるスキルを身につけることを到達目標とします。企業経営論という観点から単純なデータ整理ではなく参加型のクロスファンクショナルという視点の講義を実施し情報を得るだけでなく教員・学生との対話、学生間のコミュニケーションを行う形式から本格的な模擬検討会で自分自身で解を導くプロセスを経験します。

また、教員免許状取得のための選択科目という視点で情報と職業の観点から情報分析手法の理解を深めることを求めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

### 【授業の進め方と方法】

①シラバスの内容を事前に確認し指示事項に沿って予習を行ってください。

②毎回講義の中で学生が質疑を行い回答しますので理解を深めてください。

③教員側からコメントや資料の意味についての説明を行ないます。

④講義の理解確認の為、ミニ試験と最終確認試験を行います。

⑤前回の授業内容への理解確認や課題等に対するフィードバックの為に次回の講義の最初に確認時間を設定します。

### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

### 【授業計画】

回	テーマ	内容
①	ガイダンス・企業組織論<組織論> 「企業経営とは？」内容の2項についてネットで事前調査を行い参加の事	実例説明を学生視点でディスカッション後、具体的な説明：① IBM ラップトップ事業 ②日産自動車の商用車事業
②	基盤技術の重要性 <技術進化と原価> 事前課題：日本の電機業界の辿った道、具体的には事例日本のスーパーコンピューター実績調査	学生による説明及びディスカッション後、現状の未来予想を説明

- |   |                                                             |                                                |
|---|-------------------------------------------------------------|------------------------------------------------|
| ③ | 創造性・ダイレクション<br><企画立案手法><br>事前課題：アップルの優位性、過去の実績の確認           | 実績からの推測・課題顕在化手法と未来への考察                         |
| ④ | 事業運営の考え方<br><技術・実績からの危険予知手法><br>事前課題：リチウム電池メーカーの変遷、過去の実績の確認 | 過去の実績から未来を予測する手法、技術と実績からのリスクマネジメント             |
| ⑤ | 確認討議①、講義時間内での実施                                             | 第①～④回目までの講義理解度確認                               |
| ⑥ | マーケティング手法の説明<br><情報処理能力の最大化を図る><br>事前課題：今後の乗り物の在り方          | 情報（ネットや他の手法で）収集を行い推論を構築                        |
| ⑦ | マーケット創出<br><全く新しい考え方等の検討①><br>事前課題：個人所有の物の在り方、例：自動車など       | 自分の構想・推論を作成し、展開する                              |
| ⑧ | マーケット創出<br><全く新しい考え方等の検討②><br>事前課題：社会が求める物の在り方、例：乗り物など      | 独自の意見をデータに基づき説明                                |
| ⑨ | 確認討議②、講義時間内での実施                                             | 第⑥～⑧回目までの講義理解度確認                               |
| ⑩ | 目標値の設定<br><企業経営における目標値の理解><br>事前課題：あなたが企業する会社像とは？           | 具体的に箇条書きで3項目を準備し、グループ・ディスカッション時に狙いと訴求力について議論する |
| ⑪ | 企業経営における脅威①<br><安全リスクマネジメントの理解><br>事前課題：過去の広義な事故事例の調査       | 安全リスクマネジメントから何を思い浮かべるのか？                       |
| ⑫ | 企業経営における脅威②<br><安全リスクマネジメントの理解><br>事前課題：企業に与える影響の調査         | 不測の事態、出来事という曖昧な表現が許されない事実の理解                   |
| ⑬ | 確認討議③、講義時間内での実施                                             | 第⑩～⑫回目までの講義理解度確認                               |
| ⑭ | 講義内での試験④                                                    | <注意事項：リスクとオポチュニティの明確化>                         |

### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①必ず講義に参加してください。  
本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

### 【テキスト（教科書）】

特になし。  
必要時には、当日配布しますので活用ください。

### 【参考書】

必要時に指示します。  
教職課程の情報という観点から情報科教育法（改訂3版）久野靖、辰巳丈夫著を参考書と設定しておきます。

### 【成績評価の方法と基準】

確認試験を毎回行います。  
この試験と最終回の試験で評価を行います。

**【学生の意見等からの気づき】**

過去の他の講義経験から具体的な内容説明からの構成を求められました。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。事前準備をしっかりとしてください。スマホ持参は可。

**【その他の重要事項】**

講義内のグループディスカッションの論議の時間は、しっかりと議論してください。

**【Outline and objectives】**

The outline of target the learning points based on information of society effect and ethics.

Learn the essence of management : Start up method and strategy of new biz. based on IBM & Apple etc., Nissan's Business unit and STAMP/STPA of MIT.

Must be team building and free discussion in class all of them.

Language : Japanese, English and Spanish.

MAN300CA
<b>企業経営論 B</b>
川邊 安彦
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

企業経営 B の目的は、海外事業に視点を置き講義を進めます。授業の概要は、現在の日本においては新規事業の成立が困難な中で海外における事業展開手法を学び、新たな事業拡大の方法を学びます。特に、マネジメントは、人の活用及び組織の目標達成が不可欠です。

具体的には、海外における人的な活用及び組織目標の設定・達成手法について学ぶことに主眼を置きます。

**【到達目標】**

新規企業のスタートにおける検討項目を具体的な企業設立（仮説）前提として本質的な課題から新規事業設立の可能性及び手順を身につけることを目標とします。

企業経営論という観点から単純なデータ整理ではなく参加型のクロスファンクションという視点の講義を実施し情報を得るだけでなく教員・学生との対話、学生間のコミュニケーションを行う形式で海外における新規企業のスタートの具体的な方法、手法、戦略について重点を置きます。過去の事例及び進捗中案件を講義内で説明しながら、実際の課題及び対策案をディベート形式で討議を進め内容の理解を疑似的に経験し深めます。

また、教員免許状取得のための選択科目という視点で情報と職業の観点から情報分析手法の理解を深めることを求めます。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

**【授業の進め方と方法】**

①シラバスの内容を事前に確認し指示事項に沿って予習を行ってください。

②毎回講義の中で学生が質疑を行い回答しますので理解を深めてください。

③教員側からコメントや資料の意味についての説明を行いません。

④講義の理解確認の為、ミニ試験と最終確認試験を行います。

⑤前回の授業内容への理解確認や課題等に対するフィードバックの為に次回の講義の最初に確認時間を設定します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
①	ガイダンス、タイの Koqoon mobilities co., ltd. をネットで検索し内容を事前に確認。	事業の事業計画と将来の説明。課題、将来の問題の討議を行う。
②	海外の起業経営とは？ 事前課題：どのように事業案件を見出したのか？ 顕在化。	グループディスカッション形式で検討。 各グループ発表。 必要に応じて日産の中国大連工場設立の話。
③	事前課題：過去の事業案件との差は何か？ 例：自分で情報収集を行い、過去と未来の差が見出せる海外事業の事例から論じる。	グループディスカッション形式で検討。 各グループ発表。 必要に応じて日産単独時代とルノー・日産との差

- ④ 事前課題：政府の考え方・民間の考え方・大学の考え方の差（産学官の温度差） 困難な目標設定の手法とは？ 必要に応じて GRANT とは？
- ⑤ 確認討議①、講義時間内での実施 第①～④回目までの講義理解度確認
- ⑥ 事前課題：ビジネスの成立に欠かせない両方向からの必要性とは？ 例：MOU、関税障壁 あなたが社長ならば、どの国で何を作りどこへ売りますか？ 何故？
- ⑦ 事前課題：海外事業の本質的な課題とは？ ヒント：言語、習慣、時差、国、宗教、通貨など切り口を探すこと グループでどうして？ 何故？ を繰り返すこと。
- ⑧ 事前課題：仮に目標値が設定できた場合の資金調達の方法とは？ 考えられる全ての長所・短所を議論すること。
- ⑨ 確認討議②、講義時間内での実施 第⑥～⑧回目までの講義理解度確認
- ⑩ 事前課題：試作品の構成手法について 考えられる全ての項目・費目を議論すること。具体的には、何（製品、金型）をどのように買うのか？、何がリスクか？
- ⑪ 事前課題：試作品から量産品への展開について、何がリスクか？ 考えられる全ての項目について調査ください。関連論文があれば提示ください。ヒント：日程管理
- ⑫ 事前課題：将来の展開性によるビジネスの安定性について ビジネスの安定性、死の谷とは？ 事前に調べること。
- ⑬ 確認討議③、講義時間内での実施 第⑩～⑫回目までの講義理解度確認
- ⑭ 講義内での試験④ <注意事項：リスクとオポチュニティの明確化>

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

①必ず講義に参加してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

特になし。

**【参考書】**

必要時に指示します。教職課程の情報という観点から情報科教育法（改訂3版）久野靖、辰巳丈夫著を参考書と設定しておきます。

**【成績評価の方法と基準】**

確認試験を毎回行ないます。この試験と最終回の試験で評価を行います。

**【学生の意見等からの気づき】**

過去の他の講義経験から具体的な内容説明からの構成を求められました。

**【学生が準備すべき機器他】**

特になし。事前準備をしっかりとってください。スマホ持参は可。

**【その他の重要事項】**

講義内のグループディスカッションの論議の時間は、しっかりと討議してください。

**【Outline and objectives】**

Outline of learning the method of business expansion in overseas, how do we start up the business development in overseas. Now, the new business is difficult to establish in Japan.

The aim of B is to focus on learning about overseas human usage and setting and achieving organizational objectives. Language : Japanese, English and Spanish.

MAN300CA
経営学 A
砂田 充
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

企業活動のグローバル化に伴い、企業を取り巻く経営環境が複雑化し、企業経営の現場においても自社及びライバルの経営戦略とその影響をより正しく理解することの必要性が高まっている。本講義では経営学、特に経営戦略の基礎的な内容について、経済学的な考え方をベースに学習する。

**【到達目標】**

事業戦略の基礎（外部要因・内部要因の分析）及び競争優位の基本戦略（コスト優位・差別化優位）について、経済学的な考え方をベースとしたロジックを理解する。また、そのための基礎知識となるミクロ経済分析のツールについても復習する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

**【授業の進め方と方法】**

パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「経営学」と「経済学」
2	経営戦略とは	経営戦略とゼネラル・マネジメント
3	経営戦略の成立ちと種類	事業戦略と企業戦略
4	経営学のための経済学基礎	需要の特性と費用構造
5	事業戦略の考え方	価値創造と SWOT の分析
6	外部要因の分析①	業界構造分析
7	外部要因の分析②	業界構造分析の事例研究
8	外部要因の分析③	価値相関図
9	内部要因の分析	企業活動と経営資源
10	競争優位と基本戦略	競争優位のタイプと基本戦略
11	コスト優位	コスト・ドライバー
12	差別化優位	差別化ドライバー
13	競争優位の持続可能性	隔離メカニズム
14	授業の総括	これまでの内容のおさらい

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

学生は各講義前に講義資料を授業支援システムより DL して予習（2 時間程度）、講義後には「学習支援システム」を使って復習（2 時間程度）することが必要である。加えて、講義の中で簡単に説明をするが、ミクロ経済学の基礎について復習しておくことが望まれる。

**【テキスト（教科書）】**

特に指定しない。授業の進行に従ってレジュメを配布する。

**【参考書】**

浅羽茂『経営戦略の経済学』（日本評論社、2004 年）、  
浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』（有斐閣、2010 年）、  
網倉久永・新宅純二郎『マネジメント・テキスト経営戦略入門』（日本経済新聞社、2011 年）  
小田切宏之『企業経済学（第 2 版）』（東洋経済新報社、2010 年）、  
丸山雅祥『経営の経済学 [第 3 版]』（有斐閣、2017 年）、  
Besanko, D., D. Dranove, M. Shanley, and S. Schaefer. Economics of Strategy, 6th edition, John Wiley & Sons, 2013.

他適宜紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）とホームワーク（50%）による。

#### 【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を示しながら分かりやすく講義することに努めたい。

#### 【その他の重要事項】

受講者の理解度等を踏まえて内容を変更する場合がある。場合によっては、レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。

#### 【Outline and objectives】

This course introduces students to the basic concepts of strategic management from economics perspectives. The rigorous framework of economics helps students to understand the interactions among firms in the increasingly complex business environment alongside globalization. This course will focus on, but not limited to, the topics as follows: cost structure of the firm, value creation, competitor and competition, industry analysis: five-force analysis, competitive advantage, cost and benefit advantage, sustaining competitive advantage. The course also introduces real-world examples for students' easy understanding of each topic. Students are expected to have comprehension of introductory microeconomics and game theory, while we will briefly review them within the course.

MAN300CA
経営学 B
砂田 充
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業活動のグローバル化に伴い、企業を取り巻く経営環境が複雑化し、企業経営の現場においても自社及びライバルの経営戦略とその影響をより正しく理解することの必要性が高まっている。本講義では経営学、特に経営戦略の発展的な内容について、経済学的な考え方をベースに学習する。

#### 【到達目標】

企業戦略の基礎（垂直統合・多角化）に加えて経営戦略のゲーム理論的アプローチについて、経済学的な考え方をベースとしたロジックを理解する。また、そのための基礎知識となるマイクロ経済分析のツールについても復習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	企業戦略と戦略的行動
2	企業戦略の考え方	企業優位とシナジー
3	垂直統合	取引費用と「Make or Buy」の意思決定
4	多角化①	多角化の内的・外的要因
5	多角化②	製品ポートフォリオ・マネジメント
6	国際化	国際企業戦略と OLI フレームワーク
7	参入	内部成長、M&A、提携
8	経営学のためのゲーム理論	戦略型ゲームと展開型ゲーム理論
9	寡占の企業間競争①	同質財市場
10	寡占の企業間競争②	製品差別化
11	戦略的行動①	相互依存関係と戦略的行動
12	戦略的行動②	略奪価格と柔道エコノミクス
13	その他のトピック	より進んだテーマ
14	授業の総括	これまでの内容のおさらい

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各講義前に講義資料を授業支援システムより DL して予習（2 時間程度）、講義後には「学習支援システム」を使って復習（2 時間程度）することが必要である。加えて、講義の中で簡単に説明をするが、マイクロ経済学の基礎について復習しておくことが望まれる。

#### 【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業の進行に従ってレジュメを配布する。

#### 【参考書】

浅羽茂『経営戦略の経済学』（日本評論社、2004 年）。  
浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』（有斐閣、2010 年）。  
網倉久永・新宅純二郎『マネジメント・テキスト経営戦略入門』（日本経済新聞社、2011 年）。  
小田切宏之『企業経済学（第 2 版）』（東洋経済新報社、2010 年）。  
丸山雅祥『経営の経済学 [第 3 版]』（有斐閣、2017 年）。

Besanko, D., D. Dranove, M. Shanley, and S. Schaefer. *Economics of Strategy*, 6th edition, John Wiley & Sons, 2013. 他適宜紹介する。

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）とホームワーク（50%）による。

#### 【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を示しながら分かりやすく講義することに努めたい。

#### 【その他の重要事項】

受講者の理解度等を踏まえて内容を変更する場合がある。場合によっては、レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。

#### 【Outline and objectives】

This course introduces students to the basic concepts of strategic management from economics perspectives. The rigorous framework of economics helps students to understand the interactions among firms in the increasingly complex business environment alongside globalization. This course will focus on, but not limited to, the topics as follows: vertical integration: vertical boundaries of the firm, horizontal boundaries of the firm: diversification, globalization, entry and exit, competitive strategy. The course also introduces real-world examples for students' easy understanding of each topic. Students are expected to have comprehension of introductory microeconomics and game theory, while we will briefly review them within the course.

ECN200CA
寄付講座 わが国金融の現状と課題
寄付講座担当教員
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

金融をとりまく環境は、経済社会の構造変化（少子高齢化等）だけでなくデジタル化によって、加速的に変化しています。本講義では、経済・企業の持続的成長や家計の安定的資産形成のために、これからの金融はどうあるべきなのか、といった政策的なテーマについて考察していきます。実際に政策を担当する金融庁職員による講義を通じ、政策形成の現実やダイナミズムについても学びます。

#### 【到達目標】

- ①社会に出るにあたって不可欠となる金融リテラシー（お金との賢い付き合い方）を身につけることができる。
- ②金融の世界で何が起きているのか、金融はこれからどう変わっていくのかというトピカルなテーマについて、現実的な視点から理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP9」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

スライドの資料を用いてオンラインで実施します。フィードバックについては最終授業で13回までの講義内容について説明いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】  
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】  
なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、 お金の賢い付き合い方①	本講義のねらい、金融リテラシーの必要性、お金を「使う」
2	お金の賢い付き合い方②	人生100年時代の資産形成：お金を「ためる」、「借りる」「増やす」
3	お金の賢い付き合い方③	共助と公助：お金を「備える」（社会保障や税財政の役割）
4	銀行の役割	銀行業をめぐる現状と課題
5	金融 × 地方創生	地域金融機関に期待される役割
6	金融 × デジタル	フィンテックのインパクト
7	証券市場	証券市場をめぐる現状と課題
8	市場の番人	証券取引等監視委員会の役割
9	金融 × 企業	企業会計・コーポレートガバナンス
10	保険	保険をめぐる現状と課題
11	金融 × 環境	SDGs
12	金融 × 外交	金融をめぐる国際的な協力
13	金融の将来像	デジタルイゼーション
14	金融行政当局	金融庁で働くということ

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。講義内容の大半は現下の政策課題に関するものになりますので、理解を深めるためには、新聞等のメディアのニュースについて、日頃からアンテナを高く張って自分なりに咀嚼することが求められます。

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。毎回の講義資料を学習支援システムでアップロードします。

#### 【参考書】

特にありません。

**【成績評価の方法と基準】**

期末レポート（100 %）

**【学生の意見等からの気づき】**

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

**【学生が準備すべき機器他】**

学習支援システムを使用します。

**【その他の重要事項】**

講義のテーマとなる政策課題を金融庁で実際に担当している現役職員（含む本学OB O G）によるオムニバス形式の授業となります。

**【Outline and objectives】**

The course is designed to help students understand the issues of Japanese financial system. Each lecture is given by an FSA (Financial Services Agency) official who is in charge of corresponding policy issues, so that students will be able to grasp priorities and challenges ahead.

LANj300CA

**特別講義（ビジネス日本語 A）**

李 址遠

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業では、留学生在が日本で就職活動を行う上で必要になる知識と日本語能力を身につけることを目的とする。日本における就職活動の仕組みや、就職活動の様々なプロセスにおいて必要になる「書く」「話す」能力に関する理解を深め、将来の就職活動に備える。

**【到達目標】**

- ①日本における就職活動の仕組みとプロセスを理解し、計画的に準備できる。
- ②自分をアピールするための効果的な内容と方法を理解し、適切な形式を用いて表現できる。
- ③コミュニケーションの場面に応じて言葉を適切に使分けすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

授業は講義と実践的演習からなる。実践的演習にはエントリーシートの作成、Eメールの作成、模擬面接などが含まれる。必要に応じてリアクションペーパーの提出が求められる。課題等の提出とフィードバックは Google Classroom を通じて行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり / Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/ 日本での就職活動	授業運営に関する説明/ 日本における就職活動の特徴とそのプロセス
2	自己分析	自己分析の意味と方法
3	業界・企業研究	業界・企業研究の方法と実践
4	学生時代に力を入れたこと	効果的な書き方と内容の検討
5	自己 PR	効果的な書き方と内容の検討
6	志望動機	効果的な書き方と内容の検討
7	エントリーシート	エントリーシートの作成と相互検討
8	履歴書	履歴書の作成と相互検討
9	敬語	敬語の種類と性質
10	Eメール	Eメールの書き方
11	面接	面接選考の種類と仕組み
12	模擬面接	模擬面接の実施・相互評価
13	模擬面接	模擬面接の実施・相互評価
14	まとめと解説	提出物の再検討

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

・準備：事前課題

・復習：講義内容や活動の振り返り、課題・提出物の作成

**【テキスト（教科書）】**

なし。必要な資料はその都度配布する。

**【参考書】**

『外国人留学生のための就活ガイド 2022』日本学生支援機構  
([https://www.jasso.go.jp/ryugaku/study\\_j/job/\\_icsFiles/afiedfile/2020/12/17/guide2022\\_all.pdf](https://www.jasso.go.jp/ryugaku/study_j/job/_icsFiles/afiedfile/2020/12/17/guide2022_all.pdf))

**【成績評価の方法と基準】**

授業参加度： 30 %

課題： 50 %（ワークシート、振り返りシート、エントリーシートの作成など）

模擬面接： 20%

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし（アンケート未実施）

**【その他の重要事項】**

この授業は、日本語学位留学生（3 年次以降）および、IGESS 生（2 年次以降、日本語を得意とする者）を対象とするものである。

**【Outline and objectives】**

The purpose of this course is to help students acquire the knowledge and basic communication skills necessary for getting a job in Japan. This course aims to help students enhance their understanding and competence of job hunting in Japan through lectures and various practical activities.

LANj300CA
<b>特別講義（ビジネス日本語 B）</b>
<b>李 址遠</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この授業では、留学生が日本の企業で働く上で必要となる日本語の知識と、基礎的なコミュニケーション・スキルを身につけることを目的とする。敬語に関する講義や、仕事場を想定した実践的な演習を通して、職場での様々な課題に適切に対応できる力を養うことを目指す。

**【到達目標】**

- ①敬語の性質と使い方を的確に理解し、場と状況に応じて適切に使い分けられることができる。
- ②人の紹介、電話対応、メール作成などの日本語コミュニケーションを適切に行うことができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

**【授業の進め方と方法】**

各回の授業は、講師による講義、課題やテーマをめぐる学生同士の話し合い、クラス全体での共有という流れで進める。課題等の提出とフィードバックは Google Classroom を通じて行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

あり/Yes

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／ 尊敬語	授業運営に関する説明／ 尊敬語の性質と使い方
2	謙譲語	謙譲語の性質と使い方
3	その他の敬語	丁寧語・美化語、ウチソトと敬語の使い分け
4	言語表現の丁寧さ	「丁寧さの原理」と表現の使い分け
5	敬語のまとめ	復習、使い分けの練習
6	敬語テスト／ あいさつと紹介	復習テストの実施／ 表現の検討、ロールプレイ
7	電話を受ける	表現の検討、ロールプレイ
8	電話をかける	表現の検討、ロールプレイ
9	訪問	表現の検討、ロールプレイ
10	ビジネスメール	表現の検討、Eメールの作成
11	職場でのコミュニケーションのまとめ	ロールプレイテスト&フィードバック
12	プレゼンテーションの準備	資料・スクリプトの作成
13	プレゼンテーション	プレゼンテーションの実施
14	まとめ	授業全体の振り返りとフィードバック

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

準備学習：次回の活動のためのワークシートの作成など

復習：課題の作成、クイズおよびテストの準備など

**【テキスト（教科書）】**

なし（必要な資料は授業の中で配布する）

**【参考書】**

『伸ばす！ 就職能力・ビジネス日本語力：日本で働くための「4つの能力」養成ワークブック』植木香・木下由紀子・小島美智子著、国書刊行会、2018年、1,980円（税込）（<https://www.kokusho.co.jp/np/isbn/9784336062222/>）

**【成績評価の方法と基準】**

テスト：20%、プレゼンテーション：10%、課題：50%、授業参加度：20%

**【学生の意見等からの気づき】**

敬語及び職場でのコミュニケーションに関する内容の拡充

**【その他の重要事項】**

この授業は、日本語学位留学生（3年次以降）および、IGESS生（2年次以降、日本語を得意とする者）を対象とするものである。

**【Outline and objectives】**

The purpose of this course is to help students enhance their Japanese language knowledge and basic communication skills necessary for working in Japan. Through lectures on honorifics and various practical activities, this course aims to enhance students' ability to deal with various tasks at workplaces adequately.

ECN300CA
<b>特別講義（寄付講座 証券市場論）</b>
<b>大和証券（株）</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：○

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

この講義は、金融商品一般に関する入門編である。以下の3点を踏まえ、金融商品市場の今後の役割を考察していく。

- ①金融商品市場の機能と役割を理解する。
  - ②金融商品市場での主な商品（株式・債券・投資信託）を学ぶ。
  - ③M & Aなど、最近の市場動向や新しい潮流を知る。
- 講師には実務家を配し、金融市場に対する基本的な理解をベースに、理論に留まらずなるべく現実に直面しているテーマに触れる。

**【到達目標】**

株式・債券等、有価証券を活用した直接金融の社会的意義を述べることが出来、また、様々な経済環境下において、それら有価証券の値動きの特徴やリスクの所在を説明することが出来る。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP9」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

進め方としては、資料を熟読し、15～20分程度の小テストをして頂く予定です。フィードバックについては、小テストの結果概要を次週講義時に公表し、理解度の低いところを認識してもらい再度重点的に勉強してもらえよう指導いたします。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	なぜ証券市場を学ぶのか
第2回	金融市場の役割	直接金融と間接金融
第3回	経済情報の見方	経済の基礎知識
第4回	資産運用とリスク	資産運用のポイント
第5回	株式市場①	株式の種類
第6回	株式市場②	株価の形成要因
第7回	債券市場①	債券のキーワード
第8回	債券市場②	債券の利回り
第9回	投資信託	投資信託の特徴
第10回	金融商品ポートフォリオ	資産運用の組み合わせ
第11回	ファイナンシャルプランニング	資金キャッシュフロー・マネジメント
第12回	M & A	最近の事例紹介
第13回	証券関連規制と証券会社	証券関連規制の枠組み
	総括	
第14回	試験・まとめ	試験・まとめと解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

事前の準備学習については特になし。復習時間として4時間程度。

**【テキスト（教科書）】**

各回講義用のレジュメを配布する。

**【参考書】**

必要に応じて参考文献を指示する。

**【成績評価の方法と基準】**

毎回講義終了後に講義内容の理解度をはかる小テストの実施（50%）  
期末試験（50%）

**【学生の意見等からの気づき】**

アンケート実施なし

## 【その他の重要事項】

現役の証券会社員が金融市場の機能と役割、市場動向、金融商品等を解説する。

## 【Outline and objectives】

This lecture is the basic course on financial products. Taking the following three points into consideration, we will analyze the upcoming role of the financial products on the market.

- 1.To understand the function and role of the financial products on the market.
- 2.To learn about main products such as equity, bond, and investment trust.
- 3.To understand the current trend of the market such as M&A. We will invite experts who have understanding of financial market as instructors. The lecture will not only cover the key logics of financial market, but also deal with the realistic topics that you face every day.

LAW200CA
日本国憲法 A
川鍋 健
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本国憲法の総論（一部人権総論を含む）、及び統治に関わる制度と運用について学びます。

## 【到達目標】

日本国憲法の総論（一部人権総論を含む）、及び統治に関わる制度と運用について知り、その良し悪しについて批判的に考察するための基礎となる知見を獲得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

## 【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行います。授業の質問を受け付け、適宜授業中に答えます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業の概要と目的についてお話しします。
第 2 回	なぜ憲法か	日本を含め、多くの国は憲法を持っています。それはなぜか、について学びます。
第 3 回	なぜ人権か	人権という言葉は、日本古来のものではなく、西洋由来のものです。この言葉はどのようにして生まれ、日本に到来したのでしょうか。そしてなぜ、今なおその言葉が使われているのでしょうか。ここではそれらのことについて考えます。
第 4 回	なぜ国民主権か	日本国憲法は国民主権を定めています。その意味内容と、そのような規定が入った歴史について学びます。
第 5 回	憲法改正について	日本国憲法には改正規定がありますが、その規定ぶりは他国と比べて独特です。ここでは、日本国憲法の改正規定の性格と憲法改正に関する理論について学びます。
第 6 回	憲法尊重擁護義務	日本国憲法には憲法尊重擁護義務が定められていますが、その制度、運用は国によって異なっています。ここでは憲法尊重擁護義務に関する論点を学びます。
第 7 回	天皇制について	日本国憲法 1 条は、国民主権に基づく象徴天皇制を定めています。ここでは象徴天皇制に関する論点を学びます。
第 8 回	国会について	日本国憲法は議院内閣制を定めています。それ自体の制度、運用が異なるだけでなく、議院内閣制を採用しない国もあります。ここでは、議院内閣制を構成する国会に着目し、特に立法権についての論点を学びます。
第 9 回	内閣について	ここでは、議院内閣制を構成する内閣に着目し、特に行政権についての論点を学びます。
第 10 回	地方自治について	日本国憲法は地方自治について定めています。ここでは、地方自治の制度、運用に関する論点を学びます。
第 11 回	裁判所について	日本国憲法は裁判所及び裁判の進め方に関する規定を置いています。ここではそれらに関する論点を学びます。
第 12 回	違憲審査制について	日本国憲法は裁判所による違憲審査制を採用しています。この論点については、しばしば、民主主義との矛盾ということが語られています。それを含め、ここでは違憲審査制に関する論点を考察します。
第 13 回	平和主義について	日本国憲法 9 条は平和主義について定めています。ここではそれに関する論点を学びます。

第14回 これまでの授業のまとめ これまでの授業内容について、総合的な視点から各論点について改めて振り返ります。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

教科書や配布スライドを予習・復習し、また自分で関連する資料を調べてください。準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

樋口陽一『六訂憲法入門』、勁草書房、2017年。

**【参考書】**

岡田順太、淡路智典、今井健太郎編『判例キーワード憲法』、成文堂、2020年。

**【成績評価の方法と基準】**

・試験によります。試験は第1問語句説明（授業で扱った語句のリストを試験当日提示し、その中からいくつか選んで、授業での内容を踏まえた上で論じてください）、第2問論述問題（事前に3つ、ある論点について自らの学んだ知識を踏まえた上で自らの見解を理由をつけて述べるよう求める問題を提示し、当日1問を教員が選んで出題します）です。

・第1問を40%、第2問を60%計100%で評価します。  
 ・また、授業中質問を受け付けます。方法の詳細は授業でお話ししますが、授業1回の質問に対して、0～2点で評価し、試験の素点に付加して最終的な成績評価とします。必ずしも質問のクオリティばかりでなく、質問してもらって皆さんの関心を知ることができたことも積極的に評価しますので、躊躇せずに質問してください。

**【学生の意見等からの気づき】**

今年が1年目になります。よろしくおねがいします。

**【学生が準備すべき機器他】**

資料の配布、質問の受付に授業支援システムを利用する予定です。

**【その他の重要事項】**

なし

**【なし】**

なし

**【なし】**

なし

**【なし】**

なし

**【なし】**

なし

**【なし】**

なし

**【Outline and objectives】**

We will learn the general theory (including the general theory of the human rights and civil liberties) and the form of government of the Constitution of Japan.

LAW200CA
日本国憲法 B
川鍋 健
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

日本国憲法の人権に関する制度と運用を学びます。

**【到達目標】**

日本国憲法の人権に関する制度と運用を理解し、その良し悪しについて批判的考察ができる基礎となる知見を獲得します。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

**【授業の進め方と方法】**

この授業は講義形式で行います。授業の質問を受け付け、適宜授業中に答えます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・人権とその保障	この授業の概要と目的についてお話しします。また、ここでは、人権とはなにか、そしてそれはいかに保障されるかについて学びます。
第2回	人権の享有主体	ここでは、憲法で保障されている人権の主体とは誰か、について学びます。
第3回	幸福追求権	日本国憲法 13 条は幸福追求権を定めています。ここでは、これに関する論点を学びます。
第4回	法の下での平等	日本国憲法 14 条は法の下での平等について定めています。ここでは、これに関する論点を学びます。
第5回	思想・良心の自由	日本国憲法 19 条は思想・良心の自由について定めています。ここでは、これに関する論点を学びます。
第6回	信教の自由と政教分離	日本国憲法 20 条と 89 条は信教の自由と政教分離について定めています。ここでは、これに関する論点を学びます。
第7回	表現の自由	日本国憲法 21 条は表現の自由について定めています。ここでは、これに関する論点を学びます。
第8回	職業選択の自由	日本国憲法 22 条は職業選択の自由について定めています。ここでは、これに関する論点を学びます。
第9回	学問の自由と教育を受ける権利	日本国憲法 23 条は学問の自由、26 条は教育を受ける権利について定めています。ここでは、これに関する論点を学びます。
第10回	生存権	日本国憲法 25 条は生存権について定めています。ここでは、これに関する論点を学びます。
第11回	労働権	日本国憲法 27 条は労働権について定めています。ここでは、これに関する論点を学びます。
第12回	財産権	日本国憲法 29 条は財産権について定めています。ここでは、これに関する論点を学びます。
第13回	裁判手続に関する権利	日本国憲法 31 条以下は裁判手続に関する権利について定めています。ここでは、これに関する論点を学びます。
第14回	選挙権	日本国憲法 15 条は選挙権について定めています。ここでは、これに関する論点を学びます。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

教科書や配布スライドを予習・復習し、また自分で関連する資料を調べてください。準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

・宍戸常寿編『18歳から考える人権』、第2版、法律文化社、2020年。

**【参考書】**

・岡田順太、淡路智典、今井健太郎編『判例キーワード憲法』、成文堂、2020年。

**【成績評価の方法と基準】**

・試験によります。試験は第1問語句説明（授業で扱った語句のリストを試験当日提示し、その中からいくつか選んで、授業での内容を踏まえた上で論じてください）、第2問論述問題（事前に3つ、ある論点について自らの学んだ知識を踏まえた上で自らの見解を理由をつけて述べるよう求める問題を提示し、当日1問を教員が選んで出題します）です。

・第1問を40%、第2問を60%計100%で評価します。

・また、授業中質問を受け付けます。方法の詳細は授業でお話ししますが、授業1回の質問に対して、0～2点で評価し、試験の素点に付加して最終的な成績評価とします。必ずしも質問のクオリティばかりでなく、質問してもらって皆さんの関心を知ることができたことも積極的に評価しますので、躊躇せずに質問してください。

**【学生の意見等からの気づき】**

今年が1年目になります。よろしくおねがいします。

**【学生が準備すべき機器他】**

資料の配布、質問の受付に授業支援システムを利用する予定です。

**【その他の重要事項】**

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

**【Outline and objectives】**

We will learn the system and practice of the human rights and civil liberties of the Constitution of Japan.

LAW200CA

**民法一部 A**

菅 富美枝

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

民法の中でも、特に、総則を中心に学ぶ。契約法との連動性を意識しながら、授業が進められる。

**【到達目標】**

民法総則（民法典第1編）について、基本的な知識と理解を修得する。さらに広く、民法横断的な思考力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

**【授業の進め方と方法】**

民法総則について、レジュメに従って授業が進められる。レジュメは穴埋め形式であり、また、適宜、復習用に練習問題が用意されるため、受講者は解答を行いながら知識の定着を図る。復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説が Hoppii 上で公表されるため、各自フィードバックに役立てることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	民法概論	民法とは何か
第2回	総則①	契約の成立
第3回	総則②	意思表示（1）心裡留保、虚偽表示
第4回	総則③	意思表示（2）錯誤
第5回	総則④	意思表示（3）詐欺、強迫
第6回	総則⑤	権利の主体：権利能力、意思能力、行為能力
第7回	総則⑥	代理（1）代理権、代理行為、代理の効果
第8回	総則⑦	代理（2）無権代理
第9回	総則⑧	代理（3）表見代理
第10回	総則⑨	法人制度概論
第11回	総則⑩	法人
第12回	総則⑪	契約の一般的有効要件
第13回	総合①	練習問題と解説
第14回	総合②	最終課題の提示、講評

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

レジュメは、授業支援システムにアップロードする。受講者は、事前にダウンロードして、講義の予習に役立てること。さらに、随時、練習問題を配布するため、定期的に復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

**【参考書】**

道垣内弘人『リーガルベシス民法入門』（日本経済新聞社）  
池田真朗『スタートライン民法総論【第2版】』（日本評論社）  
山野目章夫・野澤正充『ケースではじめる民法【第2版】』（弘文堂）

**【成績評価の方法と基準】**

授業の進行に合わせて毎週課される復習課題（平常点）（15%）と学期末に課される「春学期最終課題」による評価（85%）

**【学生の意見等からの気づき】**

黒板の活用に関心がある。

**【Outline and objectives】**

This course aims to introduce you to the general principles of the Japanese Civil Code, paying close attention to their functions in Contract Law.

LAW200CA
民法一部 B
菅 富美枝
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

民法の中でも、特に、物権法（担保物権を除く）を中心に学ぶ。契約法との連動性を意識しながら、授業が進められる。

**【到達目標】**

物権（第2編第1，2，3章）について、基本的な知識と理解を修得する。さらに広く、民法横断的な思考力を修得する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

**【授業の進め方と方法】**

物権法について、あらかじめ配信されたレジュメの流れに従い、授業が進められる。レジュメは穴埋め形式であり、また、適宜、復習用に練習問題が用意されるため、受講者は解答を行いながら知識の定着を図る。復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説が Hoppii 上で公表されるため、各自フィードバックに役立てることができる。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	総則⑫	契約の効力発生時期
第2回	総則⑬	時効（1）時効制度概論
第3回	総則⑭⑮	時効（2）効果、援用権者、法律行為論
第4回	物権①	物権制度概論
第5回	物権②	所有権の内容、所有権の効力（1）
第6回	物権③	所有権の効力（2）物権的請求権
第7回	物権④	所有権の取得
第8回	物権⑤	共同所有関係
第9回	物権⑥	占有権（1）
第10回	物権⑦	占有権（2）
第11回	物権⑧	物権変動（1）契約による不動産の物権変動
第12回	物権⑨	物権変動（2）対抗要件主義
第13回	物権⑩	物権変動（3）動産物権変動
第14回	物権⑪	物権変動（4）公信の原則

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

レジュメは、毎回、学習支援システムにアップロードする。受講者は、事前にダウンロードして、講義の予習に役立てること。さらに、随時、練習問題を配布するため、定期的に復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

**【テキスト（教科書）】**

六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

**【参考書】**

道垣内弘人『リーガルベシス民法入門』（日本経済新聞社）  
池田真朗『スタートライン民法総論【第2版】』（日本評論社）  
山野目章夫・野澤正充『ケースではじめる民法【第2版】』（弘文堂）

**【成績評価の方法と基準】**

授業の進行に合わせて適宜行われる練習問題（平常点）（15%）と学期末論述試験による評価（85%）

**【学生の意見等からの気づき】**

黒板の活用に関心がある。

## 【Outline and objectives】

This course aims to introduce you to property law. During the course, interrelationship with contract law should be always kept in mind.

LAW300CA
民法二部 A
菅 富美枝
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法の中でも、特に、取引に直接関係する債権法（①契約法総論、②契約法各論）と、契約関係にないにもかかわらず義務を負う場合として不当利得法、不法行為法について学ぶ。

## 【到達目標】

①取引を行うにあたって、トラブル発生に備えて、また、トラブルが発生した場合の解決方法として、契約法を修得する。  
②契約関係にない場合であっても義務を負う例外として、不当利得法や不法行為法について、基本的な知識を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

## 【授業の進め方と方法】

授業は、フルオンデマンド形式で行われる。曜日や時間指定がないため、受講生は期限内であれば比較的ゆとりをもって自分のスケジュールに合わせて視聴ができるが、毎回の復習課題には厳格な提出期限が設定されていることから、自己管理が強く求められる。復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説が Hoppii 上で公表されるため、各自フィードバックに役立てることができる。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	契約法総論①	契約法とは何か
第 2 回	契約法総論②	契約法序説、契約の成立
第 3 回	契約法総論③	契約の効力
第 4 回	契約法総論④	契約の解除
第 5 回	契約法各論①	贈与・売買
第 6 回	契約法各論②	売主の契約不適合責任
第 7 回	契約法各論③	買戻し、交換、消費貸借
第 8 回	契約法各論④	使用貸借、質貸借
第 9 回	契約法各論⑤	質貸人と質借人の権利義務関係
第 10 回	契約法各論⑥	雇用、請負、委任、寄託その他
第 11 回	法定債権①	事務管理、不当利得
第 12 回	法定債権②	特殊不当利得、不法原因給付
第 13 回	法定債権③	不法行為の意義、成立要件
第 14 回	法定債権④	不法行為の効果、特殊な不法行為

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教材やお知らせは、「授業支援システム Hoppii」や「Google クラウドスルーム」を用いて配信される。各自ダウンロードして視聴に臨み、また、毎回、復習課題を確実にこなすこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

## 【参考書】

道垣内弘人『リーガルベシス民法入門』（日本経済新聞社）  
池田真朗『スタートライン債権法』（日本評論社）  
内田貴『民法Ⅱ』、『民法Ⅲ』（東京大学出版会）

## 【成績評価の方法と基準】

春学期最後に出される課題の成績（70%）と、毎回の復習課題の提出状況及び内容（30%）による。

## 【学生の意見等からの気づき】

復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説が Hoppii 上で公表される。

**【学生が準備すべき機器他】**

音声付きの PDF ファイルやパワーポイントファイルをダウンロードの上、視聴できるパソコンやスマートホンなど。さらに、Zoom が視聴できる通信環境。

**【その他の重要事項】**

「法学 A」または「民法 1 部」を履修済みか、履修中であることが望ましい。

**【Outline and objectives】**

This course focuses on obligation law which is directly relevant to commercial tradings, and also learn about tort law, unjust enrichment which are placed outside of the contractual relationships. In the end of this course students will acquire the most recent knowledge of the ammended Civil Code which has been implemented since 1st April in 2020, and then have a good understanding of the newest contract law.

LAW300CA
民法二部 B
菅 富美枝
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

債権総論、保証制度、担保物権制度など、民法の中でも、資金調達や金融に関わる分野について広く学ぶ。

**【到達目標】**

事業拡大のための融資・借入れの仕組み、そのための担保制度の仕組みを学ぶ。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

**【授業の進め方と方法】**

授業は、フルオンデマンド形式で行われる。曜日や時間指定がないため、受講生は期限内であれば比較的ゆとりをもって自分のスケジュールに合わせて視聴ができるが、毎回の復習課題には厳格な提出期限が設定されていることから、自己管理が強く求められる。復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説が Hoppii 上で公表されるため、各自フィードバックに役立てることができる。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	債権総論①	債権総論序説、債権の目的
第 2 回	債権総論②	債権の効力（1）強制履行・債務不履行
第 3 回	債権総論③	債権の効力（2）損害賠償
第 4 回	債権総論④	受領遅滞、弁済
第 5 回	債権総論⑤	責任財産の保全（1）債権者代位権
第 6 回	債権総論⑥	責任財産の保全（2）詐害行為取消権
第 7 回	債権総論⑦	多数当事者の債権関係（1）分割債務・不可分債務
第 8 回	債権総論⑧	多数当事者の債権関係（2）連帯債務
第 9 回	債権総論⑨	多数当事者の債権関係（3）保証債務・連帯保証債務
第 10 回	債権総論⑩	債権譲渡
第 11 回	債権総論⑪	債務の移転、契約譲渡、相殺
第 12 回	担保物権①	抵当権
第 13 回	担保物権②	法定地上権
第 14 回	担保物権③	譲渡担保、留置権、先取特権

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

教材やお知らせは、「授業支援システム Hoppii」や「Google クラウドスルーム」を用いて配信される。各自ダウンロードして視聴に臨み、また、毎回、復習課題を確実にこなすこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

**【参考書】**

道垣内弘人『リーガルベイス民法入門』（日本経済新聞社）  
池田真朗『スタートライン債権法』（日本評論社）  
内田貴『民法Ⅱ』、『民法Ⅲ』（東京大学出版会）

**【成績評価の方法と基準】**

秋学期の最後に出される課題の成績（70%）と、毎回の復習課題の提出状況及び内容（30%）による。

**【学生の意見等からの気づき】**

復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説が Hoppii 上で公表される。

**【学生が準備すべき機器他】**

音声付きの PDF ファイルやパワーポイントファイルをダウンロードの上、視聴できるパソコンやスマートフォンなど。さらに、Zoom が視聴できる通信環境。

**【Outline and objectives】**

Through this course students will acquire the basic knowledge about the legal system which is relevant to providing and using financial services.

LAW200CA
商法一部 A
笹久保 徹
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業は商法の会社法に関する講義である。受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。

**【到達目標】**

- ・会社法上の諸制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
- ・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気付き、会社法による解決策を考えられるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本授業は講義形式である。会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、図等を使用して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、総論	ガイダンス、用語の解説
第 2 回	株式会社の機関 総論	機関の概要に関する解説
第 3 回	株主総会 1	株主総会の権限等の解説
第 4 回	株主総会 2	株主総会の議事等の解説
第 5 回	株主総会 3	株主総会の決議等の解説
第 6 回	取締役 1	取締役の権限等の解説
第 7 回	取締役 2	取締役会の決議等の解説
第 8 回	取締役 3	代表取締役の解説
第 9 回	取締役 4	取締役の義務の解説
第 10 回	取締役 5	取締役の会社に対する責任の解説
第 11 回	取締役 6	責任追及の方法の解説
第 12 回	取締役 7	取締役の第三者に対する責任に関する解説
第 13 回	監査役・会計監査人	監査役等の解説
第 14 回	指名委員会等設置会社等	指名委員会等設置会社等に関する解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業 1 回につき、学生の予習時間は 1 時間、復習時間は 3 時間を目安とする。予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第 2 版〕』）を読むこと。復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキストを熟読すること。

**【テキスト（教科書）】**

柴田和史『会社法詳解〔第 3 版〕』（商事法務、2021）。教科書は、初回の講義において講師の説明をきいてから購入すること。

**【参考書】**

- ・柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第 2 版〕』（日本経済新聞出版社、2021）
- ・岩原紳作ほか編『会社法判例百選〔第 3 版〕』別冊ジュリスト No.229（有斐閣、2016）

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験（筆記）の成績による（試験 100 %）。到達目標との関係上、試験内容は会社法の基礎的な理解を問うものとする。

**【学生の意見等からの気づき】**

資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

**【その他の重要事項】**

受講生は最新の六法を使用すること。テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

**【Outline and objectives】**

This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society.

LAW200CA
<b>商法一部 B</b>
<b>笹久保 徹</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業は商法の会社法に関する講義である。受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。

**【到達目標】**

・会社法上の諸制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。  
・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気づき、会社法による解決策を考えられるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本授業は講義形式である。会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、図等を使用して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 会社法 総論	ガイダンス、前提知識・用語等の解説、春学期の復習
第 2 回	株式会社の設立 1	設立の概要に関する解説
第 3 回	株式会社の設立 2	設立手続きの解説
第 4 回	株式会社の設立 3	設立の瑕疵に関する解説
第 5 回	株式会社の設立 4	設立の論点等に関する解説
第 6 回	株式 1	株式の概要、株主の権利等に関する解説
第 7 回	株式 2	株式の内容・種類の解説
第 8 回	株式 3	株主名簿・株券の解説
第 9 回	株式 4	株式譲渡の解説
第 10 回	株式 5	株式併合・分割等の解説
第 11 回	募集株式 1	募集株式の概要の解説
第 12 回	募集株式 2	発行等の手続きに関する解説
第 13 回	募集株式 3	発行等の瑕疵等の解説
第 14 回	新株予約権	新株予約権の解説

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業 1 回に付き、学生の予習時間は 1 時間、復習時間は 3 時間を目安とする。予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第 2 版〕』）を読むこと。復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキストを熟読すること。

**【テキスト（教科書）】**

柴田和史『会社法詳解〔第 3 版〕』（商事法務、2021）。教科書は、初回の講義において講師の説明をきいてから購入すること。

**【参考書】**

・柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第 2 版〕』（日本経済新聞出版社、2014）  
・岩原紳作ほか編『会社法判例百選〔第 3 版〕』別冊ジュリスト No.229（有斐閣、2016）

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験（筆記）の成績による（試験 100 %）。到達目標との関係上、試験内容は会社法の基礎的な理解を問うものとする。

**【学生の意見等からの気づき】**

資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

**【その他の重要事項】**

受講生は最新の六法を使用すること。テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

**【Outline and objectives】**

This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society.

LAW300CA
<b>商法二部 A</b>
<b>笹久保 徹</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業は商法総則及び商行為法を解説するものである。商法総則・商行為法は企業法の総論的な部分であり、受講生が企業に関連する他の科目（会社法等）を学ぶ上でも役立つものである。受講生には、本授業を通じて商法に慣れ親しみ、会社法、手形法・小切手法、保険法等にも興味を持ってもらう。

**【到達目標】**

・商法を学ぶために必要な基礎的概念や法理念を理解する。  
・商法総則及び商行為法の条文から制度を説明できるようにする。  
・商法に関心を持ち、社会に生じる問題を商法の視点から分析できるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本授業は講義形式である。初めて商法を学ぶ受講生がほとんどであろうから、基礎的な事項をできる限り丁寧に、わかりやすく解説する。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと概要	ガイダンス、法律学一般の解説。
第 2 回	商法の意義と法源	商法の意義と法源を解説する。
第 3 回	商人と商行為 1	商人について解説する。
第 4 回	商人と商行為 2	商行為を解説する。
第 5 回	商号 1	商号の意義を解説する。
第 6 回	商号 2	商号を解説する。
第 7 回	商業登記	商業登記を解説する。
第 8 回	商業使用人 1	支配人を解説する。
第 9 回	商業使用人 2	支配人以外の商業使用人を解説する。
第 10 回	代理商	代理商を解説する。
第 11 回	営業 1	営業の概要を解説する。
第 12 回	営業 2	営業譲渡を解説する。
第 13 回	商業帳簿	商業帳簿を解説する。
第 14 回	商法総則 事例研究	重要判例を解説する。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業 1 回に付き、学生の予習時間は 1 時間、復習時間は 3 時間を目安とする。予習は各自ができる範囲でやること。復習の際には、授業内での配布物及びテキストを熟読すること。必ず条文を参照しつつ、復習すること。

**【テキスト（教科書）】**

近藤光男『商法総則・商行為法〔第 8 版〕』（有斐閣法律学叢書）（有斐閣、2019）本体価格 2800 円

**【参考書】**

神作裕之＝藤田友敬編「商法判例百選」（別冊ジュリスト No.243）（有斐閣、2019 年）本体価格 2500 円

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験（筆記）の成績による（試験 100 %）。到達目標との関係上、試験内容は基礎的な理解を問うものとする。

**【学生の意見等からの気づき】**

資料と図解を用いた説明が好評のため、引き続き行う。

**【その他の重要事項】**

受講生は最新の六法を使用すること。テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

なお、本授業は「商法一部（会社法）」の履修済みを前提としていないため、両授業を並行して履修してもかまわない。

**【Outline and objectives】**

This course introduces general rules and transactions of the commercial law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the commercial law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the commercial law, (2) able to explain clauses and systems of the commercial law, (3) able to understand the relationship between the commercial law and our society.

LAW300CA
<b>商法二部 B</b>
<b>笹久保 徹</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

本授業は商法総則及び商行為法を解説するものである。商法総則・商行為法は企業法の総論的な部分であり、受講生が企業に関連する他の科目（会社法等）を学ぶ上でも役立つものである。受講生には、本授業を通じて商法に慣れ親しみ、会社法、手形法・小切手法、保険法等にも興味を持ってもらう。

**【到達目標】**

・商法を学ぶために必要な基礎的な概念や法理念を理解する。  
 ・商法総則及び商行為法の条文から制度を説明できるようにする。  
 ・商法に関心を持ち、社会に生じる問題を商法の視点から分析できるようにする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本授業は講義形式である。初めて商法を学ぶ受講生がほとんどであろうから、基礎的な事項をできる限り丁寧に、わかりやすく解説する。本授業の受講生は、春学期の「商法二部A」を受講していることが望ましいが、本授業から受講してもかまわない。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、春学期の復習	ガイダンスおよび春学期の復習。
第2回	商行為法 総則 1	商行為法の概論の解説。
第3回	商行為法 総則 2	商行為の代理等の解説。
第4回	商事売買 1	商事売買の概論の解説。
第5回	商事売買 2	買主の義務等の解説。
第6回	匿名組合	匿名組合の解説。
第7回	仲介営業	仲立営業等の解説。
第8回	運送営業 1	物品運送の解説。
第9回	運送営業 2	旅客運送の解説。
第10回	運送取扱営業	運送取扱営業の解説。
第11回	寄託	寄託の解説。
第12回	倉庫営業	倉庫営業の解説。
第13回	交互計算	交互計算の解説。
第14回	商行為法 事例研究	重要判例の解説。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業1回につき、学生の予習時間は1時間、復習時間は3時間を目安とする。予習は各自ができる範囲でやること。復習の際には、授業内での配布物及びテキストを熟読すること。必ず条文を参照しつつ、復習すること。

**【テキスト（教科書）】**

近藤光男「商法総則・商行為法〔第8版〕」（有斐閣法律学叢書）（有斐閣、2019）本体価格 2800 円

**【参考書】**

神作裕之＝藤田友敬編「商法判例百選」（別冊ジュリスト No.243）（有斐閣、2019年）本体価格 2500 円

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験の成績で評価する（試験 100 %）。到達目標との関係上、試験内容は基礎的な理解を問うものとする。

**【学生の意見等からの気づき】**

資料と図解を用いた説明が好評のため、引き続き行う。

**【その他の重要事項】**

受講生は、最新の六法を持参すること。六法、テキスト、及び、参考書は、新しい版が出版される可能性もあるため、講師の説明を受けてから購入した方がよい。

本授業は「商法一部（会社法）」の履修済みを前提としていないため、両授業を並行して履修してもかまわない。

**【Outline and objectives】**

This course introduces general rules and transactions of the commercial law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the commercial law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the commercial law, (2) able to explain clauses and systems of the commercial law, (3) able to understand the relationship between the commercial law and our society.

LAW300CA
<b>経済法 A</b>
<b>山田 務</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

独占禁止法は、消費者の利益と経済の民主的発達を確保するための事業活動の基本的ルールを定めたもので、経済憲法とも呼ばれている。また、競争政策を実施するための基本的法律である。このような独占禁止法について、基礎となる経済学の考え方、禁止行為の内容、日本経済における役割と最近の課題について、他の法律との関係も踏まえて講義を行う。

学生が、今後の企業活動や消費生活において身近に接することとなる独占禁止法について理解し、経済理論と実際の経済政策（競争政策）との関係について理解することを目的とする。

**【到達目標】**

①目的、禁止行為、措置の内容等、独占禁止法の基本的内容について知識を得る。②独占禁止法・競争政策の視点を通じ、経済の仕組み、最近の課題について理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

レジュメ、関連資料を配布し、それを基に講義を行う。また、授業時間内等において、学生の理解度の確認や意見表明・質問事項の自由な記載を目的として、確切的な小テストを適宜行う。提出された小テストの内容及び質問事項については、次回授業時又は学習支援システムを通じてフィードバックを行う。その他、授業中又は授業終了後における学生からの質問、意見の表明を歓迎する。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1)	ガイダンス	講義の内容、独占禁止法を学ぶ意義
2)	独占禁止法の概要 (1)	独占禁止法の目的、日本経済における役割、歴史、課題
3)	独占禁止法の概要 (2)	禁止行為、違反行為に対する措置等の全体像
4)	独占禁止法の基礎となる経済理論	独占禁止法を理解する上で参考となるミクロ経済学の考え方
5)	独占禁止法の基本概念	規制の基本的枠組み、「事業者」「市場支配力」等の基本的用語
6)	カルテル、入札談合規制 (1)	カルテル等の目的・種類、カルテルの経済分析
7)	カルテル、入札談合規制 (2)	禁止行為の内容、最近の事件
8)	カルテル、入札談合規制 (3)	カルテル等の発見・抑止のための施策（課徴金制度、官製談合防止制度等）
9)	事業者団体に対する規制	事業者団体の活動、禁止行為の内容、最近の事件
10)	私的独占規制	大企業の市場支配的行為の規制内容、最近の事件
11)	合併・株式保有等の規制 (1)	合併・株式保有の目的、合併等の経済分析、禁止される合併等の内容
12)	合併・株式保有等の規制 (2)	合併等の審査手続き、最近の事例
13)	不公正な取引方法規制	不公正な取引方法規制の概要

- 14) 公正取引委員会の法運 違反事件の調査、違反に対する措置

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

・書籍、雑誌、新聞、ネット等で、独占禁止法・競争政策に関する記事、文章を読み、関心を持つとともに、不明な内容については、講義資料、参考書等により解明に努める。  
 ・講義で配布した資料を熟読するとともに、参考書の関連部分、小テストに係るフィードバック内容を読み、講義内容についての理解を確かなものとする。また、疑問点を整理し、次回講義で確認を行う。  
 ・以上の授業時間外の学習時間は、毎回4時間程度

**【テキスト（教科書）】**

特に使用しない。

**【参考書】**

菅久修一他「はじめて学ぶ独占禁止法」商事法務  
 川濱昇他「ベーシック経済法(独占禁止法入門)」有斐閣  
 土田和博他「条文から学ぶ独占禁止法」有斐閣  
 公正取引委員会広報資料「知ってなっとく独占禁止法」公取委ホームページ

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（授業への参加状況、小テストの回答状況等）（60点）及び期末試験（40点）により、評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

配布資料を補う説明及び小テストや質問事項に対するフィードバックをより丁寧に行い、学生の理解度、問題意識の向上に努める。

**【その他の重要事項】**

公正取引委員会に勤務した行政経験を踏まえながら、独占禁止法及び関連する法律の内容、課題等について講義を行う。

**【Outline and objectives】**

Under the market economy regime, the Antimonopoly Act establishes basic rules of business activities to secure consumer interests and democratic development of the economy and is also called the economic constitution. It is also a basic law for implementing competition policy.

Regarding such antitrust law, we lecture on purpose, basic thinking of economics which is the basis, contents of major prohibited acts, roles in the Japanese economy and recent issues with other related laws.

Students acquire a basic understanding of the Antimonopoly Act which will come close to them in future business activities and consumption life and understand the relationship between economic theory and actual economic policy (competition policy) through the Antimonopoly Act

LAW300CA
経済法 B
山田 務
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

独占禁止法は、消費者の利益と経済の民主的発展を確保するための事業活動の基本的ルールを定めたもので、経済憲法とも呼ばれている。また、競争政策を実施するための基本的法律である。このような独占禁止法について、基礎となる経済学の考え方、禁止行為の内容、日本経済における役割と最近の課題について、他の法律との関係も踏まえて講義を行う。

学生が、今後の企業活動や消費生活において身近に接することとなる独占禁止法について理解し、経済理論と実際の経済政策（競争政策）との関係について理解することを目的とする。

**【到達目標】**

①目的、禁止行為、措置の内容等、独占禁止法の基本的内容について知識を得る。②独占禁止法・競争政策の視点を通じ、経済の仕組み、最近の課題について理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

**【授業の進め方と方法】**

レジュメ、関連資料を配布し、それを基に講義を行う。また、授業時間内等において、学生の理解度の確認や意見表明・質問事項の自由な記載を目的として、確認的な小テストを適宜実施する。提出された小テストの内容及び質問事項については、次回の授業時又は学習支援支援システムを通じてフィードバックを行う。その他、授業中又は授業終了後における学生からの質問、意見表明を歓迎する。

14回講義のうち、1回は公正取引委員会の職員による講義を予定している。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1)	ガイダンス等	講義の内容説明、春学期の復習
2)	不公正な取引方法規制（総論）	不公正な取引方法の内容とは
3)	不公正な取引方法規制（各論1）	垂直的取引制限に係る行為（小売業者の販売価格の拘束、競争者との取引制限制限行為等）
4)	不公正な取引方法規制（各論2）	価格設定に関する行為（コスト割れ販売、差別価格等）
5)	不公正な取引方法規制（各論3）	大規模事業者による中小事業者等に対する優越的な地位の濫用行為
6)	不公正な取引方法規制（各論4）	大規模事業者による中小事業者等に対する優越的な地位の濫用行為
7)	不公正な取引方法規制（各論5）	不公正な競争手段を用いる行為（欺瞞的な取引、競争者の取引の妨害行為）
8)	公正取引委員会職員による講義	独占禁止法の運用状況、競争政策の課題
9)	日本経済と競争政策・経済法（1）	政府による直接的な事業規制
10)	日本経済と競争政策・経済法（2）	政府による直接的な事業規制・電気通信事業法等の各種事業法の概要

- 11) 日本経済と競争政策・消費者取引の適正化のための法  
経済法（3）  
規制  
・消費者契約法  
・特定商取引法
- 12) 日本経済と競争政策・消費者取引の適正化のための法  
経済法（4）  
規制  
・景品表示法
- 13) 日本経済と競争政策・グローバル化と経済法  
経済法（5）  
・通商問題の現状  
・WTOによる国際貿易のルール
- 14) 日本経済と競争政策・グローバル化と経済法  
経済法（6）  
・各国間の経済連携協定  
・国際的な競争制限行為に対する  
独占禁止法の規制

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・書籍、新聞、雑誌、ネット等で、独占禁止法・競争政策等に関する記事、文章を読み、関心を持つとともに、不明な内容については、講義資料、参考書等により解明に努める。
- ・講義で配布した資料を熟読するとともに、参考書の関連部分、小テストに係るフィードバック内容を読み、講義内容についての理解を確かなものとする。また、疑問点を整理し、次回講義で確認を行う。
- ・上記の授業時間外の学習時間は、毎回4時間程度

#### 【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

#### 【参考書】

- 菅久修一他「はじめて学ぶ独占禁止法」商事法務  
川濱昇他「ベーシック経済法（独占禁止法入門）」有斐閣  
土田和博他「条文から学ぶ独占禁止法」有斐閣  
公正取引委員会広報資料「知ってなっとく独占禁止法」公取委ホームページ

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加状況、小テストとの回答状況等）（60点）及び期末試験（40点）により、評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

配布資料を補う説明及び小テストや質問事項に対するフィードバックをより丁寧に行い、学生の理解度、問題意識の向上に努める。

#### 【その他の重要事項】

公正取引委員会に勤務した行政経験を踏まながら、独占禁止法及び関連する法律の内容、課題等について講義を行う。

#### 【Outline and objectives】

Under the market economy regime, the Antimonopoly Act establishes basic rules of business activities to secure consumer interests and democratic development of the economy and is also called the economic constitution. It is also a basic law for implementing competition policy.

Regarding such antitrust law, we lecture on purpose, basic thinking of economics which is the basis, contents of major prohibited acts, roles in the Japanese economy and recent issues with other related laws.

Students acquire a basic understanding of the Antimonopoly Act which will come close to them in future business activities and consumption life and understand the relationship between economic theory and actual economic policy (competition policy) through the Antimonopoly Act

LAW300CA <b>労働法 A</b>
<b>藤木 貴史</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

〈注意〉この授業はオンデマンド型で実施します。

私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、労働者は使用者よりも力が弱いため、適切な法規制がなされないと、さまざまな困難に直面することになります。労働法は、こうした困難を防ぎ、人間が人間らしく生きられるようにさまざまな規制を行う法分野です。

労働法Aでは、個別的労働法（①総論、②労働関係の成立と終了、そして③賃金・労働時間等の労働条件）の基礎的部分を扱います。労働法Aと労働法Bは連続性が強いので、できるだけ両方履修するようにしてください。

#### 【到達目標】

- ・個別的労働法の基礎的な知識を習得する
- ・労働法を知らない人に対して、労働法の仕組みを説明し、職場の問題解決の指針を示すことができる。
- ・将来、社会人となって経験するであろう労働問題について法的に考える眼を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

- ・教科書は購入必須です。
- ・事前に、教科書の関係箇所を熟読いただきます。
- ・事前に、プリント・パワーポイント（板書代わり）も配布します。
- ・オンデマンド講義を授業支援システム等を通じて配信します。講義受講後、小テストに解答することで1回分を終了とします。授業後の小テストには自動でコメントが返されます。
- ・また、授業中の疑問点については、掲示板上で質問することができます（約1週間をめぐりに教員がフィードバックします）。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・労働法の意義と体系 ・労働法と憲法 ・紛争解決制度
第2回	労働者の自由と権利	・労働憲章 ・足止め防止規定
第3回	労働者と労働契約（1）	・労働者性 ・労働契約の権利義務
第4回	労働者と労働契約（2）	・労働契約上の付随義務 ・労働基準法の規制
第5回	労働関係の開始	・労働契約の成立 ・内定（内々定） ・試用期間
第6回	労働関係の終了（1）	・合意解約と辞職 ・定年 ・解雇制限
第7回	労働関係の終了（2）	・解雇権濫用法理 ・整理解雇法理
第8回	労働条件の決定（1）	・労働条件を決める仕組み ・労使慣行と労働契約 ・就業規則とは何か
第9回	労働条件の決定（2）	・就業規則と労働契約法 ・労働条件の不利変更

第10回 賃金（1）	・労基法と賃金 ・最低賃金法
第11回 賃金（2）	・休業手当 ・成果主義 ・賞与 ・退職金
第12回 労働時間（1）	・労働時間の定義 ・休憩・休日 ・時間外労働、休日労働
第13回 労働時間（2）	・割増賃金 ・弾力的な労働時間制度
第14回 労働時間（3）・休暇	・労働時間規制の適用除外 ・年次有給休暇

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義前：2時間程度を目安に、レジュメを参照して教科書の当該箇所を読む。講義において重点的に聞かすべき問題点を理解できるようにしましょう。

講義後：2時間程度を目安に、テキスト・レジュメの復習、小テストの解答・復習。友達・家族に、その日聞いた労働法のおおまかな仕組みを説明できる程度まで復習しましょう。

#### 【テキスト（教科書）】

藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良編著『ファーストステップ労働法』エイデル研究所 2020

#### 【参考書】

◆法律学の授業なので、六法による条文チェック・判例資料は必須です。

◆村中孝史・荒木尚志編『労働判例百選（第9版）』有斐閣 2016年

◆六法（以下は代表的なものです）

・労働政策研究・研修機構『労働関係法規集 2021年版』

・旬報社『労働六法 2021年版』

#### 【成績評価の方法と基準】

- 平常点：5割（100点満点を50点に圧縮）
- 最終テスト：1割（ウェブ上で実施。小テストをランダムに10問程度出題）
- 期末レポート：4割（具体的な事例問題を出题します。解答は、Word/PDF ファイルで作成しウェブ上で提出）

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業資料については、昨年度一定の満足度がありましたので、今年度もさらなる改善を図ります。

#### 【学生が準備すべき機器他】

以下の用途で授業支援システムを用います。

- ・プリント・スライド・講義音声を配布します。
- ・期末レポート課題を掲示します。
- ・小テスト・最終テストを課します。
- ・質疑応答に対応します。

#### 【その他の重要事項】

・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。

・オンデマンド講義ですので、自分のペースで受講しても構いません。しかし、期末試験前に14回受講するのは非現実的ですので、約1か月ごとに設定する締切を1つのペースメーカーとして、計画的に履修することを強く勧めます。

・六法/法令集は授業に持ってくる。また、自分で必要な条文を探せるようにしておくこと。

#### 【Outline and objectives】

In our society, many people work and make their living through employment. In employment relationships, however, employees potentially face myriad troubles without proper regulations because of their dependency on employers. "Labor & Employment Law" provides regulations in order to remedy any such trouble and to enable workers to live with dignity. Labor & Employment law in Japan is double-folded: 1) Employment law concerns labor contracts and protection of employees; 2) Labor law regulates the relationship between trade unions and employers. This lecture will focus on employment law and provide elementary knowledge concerning a) the whole system of employment law, b) the beginning and the end of labor contracts, and c) employment conditions.

LAW300CA
<b>労働法 B</b>
<b>藤本 貴史</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

〈注意〉オンデマンド型で実施します。

私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、労働者は使用者よりも力が弱いため、適切な法規制がなされないと、さまざまな困難に直面することになります。労働法は、こうした困難を防ぎ、人間が人間らしく生きられるようにさまざまな規制を行う法分野です。

労働法Bでは、労働法Aを前提として、個別的労働法のうち社会的影響を受けやすい問題と、集団的労働法を講義します。労働法Aと労働法Bは連続性が強いので、できるだけ両方履修するようにしてください。

#### 【到達目標】

- ・個別的労働法・集団的労働法の基礎的な知識を習得する
- ・労働法を知らない人に対して、労働法の仕組みを説明し、職場の問題解決の指針を示すことができる。
- ・将来、社会人となって経験するであろう労働関係に対して自分なりに論点を把握でき法的に検討できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

〈注意〉オンデマンド型で実施します。

- ・教科書は購入必須です。
- ・事前に、教科書の関係箇所を熟読いただきます。
- ・事前に、プリント・パワーポイント（板書代わり）も配布します。
- ・オンデマンド講義を授業支援システム等を通じて配信します。講義受講後、小テストに解答することで1回分を終了とします。授業後の小テストには自動でコメントが返されます。
- ・また、授業中の疑問点については、掲示板上で質問することができます（約1週間をめぐりに教員がフィードバックします）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	日本の社会と労働法	日本の雇用慣行 紛争の実態
第2回	人事制度（1）	配転／出向／転籍
第3回	人事制度（2）	昇・降格／企業再編
第4回	懲戒制度	企業秩序論 懲戒処分の根拠と限界
第5回	労災補償	労災保険制度 労災民訴
第6回	雇用平等（1）	母性保護規定 育児・介護休業法 賃金格差
第7回	雇用平等（2）	雇用機会均等法 セクハラ、マタハラの防止
第8回	非正規労働（1）	総論的説明 有期労働者の保護
第9回	非正規労働（2）	有期・パート労働者の保護と均等待遇
第10回	非正規労働（3）	派遣労働者の保護と均等待遇
第11回	集団的労働法総論	労働基本権 労働者／労働組合 使用者

第12回 不当労働行為	労働委員会 不当労働行為の四類型
第13回 団体行動	争議行為の正当性 組合活動の正当性
第14回 団体交渉・労働協約	団体交渉の仕組み 労働協約の規範的効力 一般的拘束力制度

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義前：希望者は30分程度かけて、教科書の関連個所の概要を読む。  
講義後：2時間程度を目安に、授業音声聞き直しつつ教科書の関連個所を精読し、何がポイントになるのかを把握する。1時間程度を目安に小テストの復習。最後に1時間程度を目安に、友達・家族に対し、その日聞いた労働法のおおまかな仕組みを説明できるか確認する。

#### 【テキスト（教科書）】

藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良編著『ファーストステップ労働法』エイデル研究所 2020

#### 【参考書】

- ◆法律学の授業なので、六法による条文チェック・判例資料は必須です。
- ◆村中孝史・荒木尚志編『労働判例百選（第9版）』有斐閣 2016年
- ◆六法（以下は代表的なものです）  
・労働政策研究・研修機構『労働関係法規集 2021年版』  
・旬報社『労働六法 2021年版』

#### 【成績評価の方法と基準】

- (1) 平常点：5割（100点満点を50点に圧縮）
- (2) 最終テスト：1割（ウェブ上で実施。小テストをランダムに10問程度出題）
- (3) 期末レポート：4割（具体的な事例問題を出題します。解答は、Word/PDFファイルで作成しウェブ上で提出）

#### 【学生の意見等からの気づき】

授業資料については、昨年度一定の満足度がありましたので、今年度もさらなる改善を図ります。

#### 【学生が準備すべき機器他】

- 以下の用途で授業支援システムを用います。
- ・プリント・スライド・講義音声配布します。
  - ・期末レポート課題を掲示します。
  - ・小テスト・最終テストを課します。
  - ・質疑応答に対応します。

#### 【その他の重要事項】

- ・労働法Aを履修していることを前提に進めますので注意してください。
- ・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。
- ・オンデマンド講義ですので、自分のペースで受講しても構いません。しかし、期末試験前に14回受講するのは非現実的ですので、約1か月ごとに設定する締切を1つのペースメーカーとして、計画的に履修することを強く勧めます。
- ・六法/法令集は授業に持ってくる。また、自分で必要な条文を探せるようにしておくこと。

#### 【Outline and objectives】

In our society, many people work and make their living through employment. In employment relationships, however, employees potentially face myriad troubles without proper regulations because of their dependency on employers. "Labor & Employment Law" provides regulations in order to remedy any such trouble and to enable workers to live with dignity. Labor & Employment law in Japan is double-folded: 1) Employment law concerns labor contracts and protection of employees; 2) Labor law regulates the relationship between trade unions and employers. This lecture will focus on both of them.

ECN200CA
財政学A (市ヶ谷開講)
島澤 諭
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③金融システムの安定化、といった多くの課題を抱えている。本講義では、政府や金融機関の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、現実の日本財政や金融についてデータを参照しながら学習する。

#### 【到達目標】

市場主義経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解する。また、日本の財政や金融を取り巻く問題を把握する。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかまた今後どうあるべきかについて、自分なりの意見を持てるようになるための論理的思考力、分析能力を身につける。

#### 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

#### 【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には講義資料に沿って講義を進めることを予定している。参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	財政の役割（1）	経済活動と政府、財政の役割、大きな政府と小さな政府
第3回	財政制度（1）	財政と法律、予算制度
第4回	財政制度（2）	財政投融资、地方財政制度
第5回	通貨金融についての基礎知識（1）	金融の概念、金融機関の役割
第6回	通貨金融についての基礎知識（2）	通貨の概念、通貨の供給、通貨の需要
第7回	金融・資本市場（1）	相対市場と公開市場、短期金融市場と長期金融市場
第8回	金融・資本市場（2）	金融派生商品市場、オンショア市場とオフショア市場
第9回	日本の財政問題（1）	財政赤字の累増、財政赤字の構造的要因
第10回	日本の財政問題（2）	財政赤字の問題点
第11回	政府支出の理論と実際（1）	政府支出の理論
第12回	政府支出の理論と実際（2）	政府支出の膨張要因、政府支出の構造
第13回	租税の原則と経済効果（1）	税の役割と租税原則
第14回	租税の原則と経済効果（2）	公平な税とは、課税と経済効率

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

#### 【テキスト（教科書）】

なし

**【参考書】**

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。

- (1) 井堀利宏『財政学（第4版）』新世社
- (2) 畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
- (3) 釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社
- (4) 小黒一正等『財政学 15 講』新世社
- (5) 林宜嗣等『財政学（第4版）』新世社

**【成績評価の方法と基準】**

現在のところ、中間課題（40%）と期末レポート（60%）で評価することを予定。

課題等の提出及びフィードバックとして課題・期末試験の解答の解説（や小テストを実施した場合の解説）を「学習支援システム」を通じて行う。

**【学生の意見等からの気づき】**

特になし。

**【その他の重要事項】**

初回授業に必ず出席すること。

なお、経済企画庁（現内閣府）の官庁エコノミストとして様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

**【Outline and objectives】**

Japan is currently facing a number of challenges, including (1) coping with the declining birthrate and aging population, (2) dealing with fiscal reconstruction, and (3) stabilizing the financial system. In this lecture, we will study the actual situation and basic theories on economic activities of the government and financial institutions, and then refer to data on the actual Japanese fiscal and financial situation.

ECN200CA

**財政学 B (市ヶ谷開講)**

島澤 諭

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

日本は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③金融システムの安定化、といった多くの課題を抱えている。本講義では、政府や金融機関の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、現実の日本財政や金融についてデータを参照しながら学習する。

**【到達目標】**

日本財政や金融、社会保障制度・財源の現状と課題を理解し、経済学の視点から財政・社会保障制度、金融政策の効果について考察するための基礎知識の習得を目標とする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

**【授業の進め方と方法】**

現在のところ、基本的には講義資料に沿って講義を進めることを予定している。参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**  
なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	社会保障の財政問題 I (1)	超高齢社会と社会保障
第3回	社会保障の財政問題 I (2)	最低生活の保障、年金問題
第4回	社会保障の財政問題 II (1)	医療と財政
第5回	社会保障の財政問題 II (2)	社会福祉の改革
第6回	景気変動と財政政策 (1)	国民所得の決定
第7回	景気変動と財政政策 (2)	乗数、ビルトインスタビライザー
第8回	景気変動と財政政策 (3)	財政政策の効果
第9回	景気変動と金融政策 (1)	通貨と実体経済のかかわり
第10回	景気変動と金融政策 (2)	インフレーションとデフレーション
第11回	公債の負担 (1)	公債とは、公債発行の問題点、クラウディングアウト
第12回	公債の負担 (2)	公債の将来世代に対する負担
第13回	公債の負担 (3)	中立命題
第14回	世代会計	世代会計

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

**【テキスト（教科書）】**

なし

**【参考書】**

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。

- (1) 井堀利宏『財政学（第4版）』新世社

- (2) 畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣  
 (3) 釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社  
 (4) 小黒一正等『財政学 15 講』新世社  
 (5) 小塩隆士『社会保障の経済学（第 4 版）』日本評論  
 (6) 鳥澤論『シルバー民主主義の政治経済学』日本経済新聞出版社

#### 【成績評価の方法と基準】

現在のところ、中間課題（40%）と期末レポート（60%）で評価することを予定。

課題等の提出及びフィードバックとして課題・期末試験の解答の解説（や小テストを実施した場合の解説）を「学習支援システム」を通じて行う。

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

なお、経済企画庁（現内閣府）の官庁エコノミストとして様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

#### 【Outline and objectives】

Japan is currently facing a number of challenges, including (1) coping with the declining birthrate and aging population, (2) dealing with fiscal reconstruction, and (3) stabilizing the financial system. In this lecture, we will study the actual situation and basic theories on economic activities of the government and financial institutions, and then refer to data on the actual Japanese fiscal and financial situation.

ECN200CA

### 経済政策論 A (市ヶ谷開講)

濱秋 純哉

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政府は、ダムや道路の建設、教育サービスの提供、及び社会保障制度の整備などの「経済政策（公共政策）」を行っている。民間企業の自由な活動に任せる分野がある一方で、このように政府が直接・間接に財・サービスの提供に関与する分野があるのはなぜだろうか。このような疑問に対して、経済学の余剰分析の考え方にに基づき考察を加える。

#### 【到達目標】

この講義では、受講者各人が、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、経済学の余剰分析の考え方にに基づき、外部性の問題や望ましい公共財の供給について主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

直感的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や最後に復習問題を解く時間を設け、受講者が自分の頭で考える機会も作る。復習問題については、翌週の授業の冒頭で解答の説明と受講者の回答についての講評（多かった間違いや興味深い回答の紹介など）を行う。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済学で経済政策を考える意味
2	市場の働き 1	完全競争市場とは何か
3	市場の働き 2	需要曲線と供給曲線
4	市場の働き 3	消費者余剰の図示
5	弾力性の概念	価格弾力性とは何か
6	企業行動と生産者余剰 1	様々な費用の概念
7	企業行動と生産者余剰 2	企業の利潤最大化行動と供給曲線
8	企業行動と生産者余剰 3	生産者余剰の図示
9	外部性 1	外部性の概念
10	外部性 2	外部性の存在と市場の効率性
11	外部性 3	規制、ピグー税、及び排出権市場による外部性の問題の解決
12	公共財 1	排除可能性と消費の競合性
13	公共財 2	公共財の最適供給の条件、公共財の自発的供給
14	公共財 3	国家公共財と地方公共財

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

#### 【テキスト（教科書）】

八田達夫、2008、『ミクロ経済学 I』東洋経済新報社  
 N・グレゴリー・マンキュー、2013、『マンキュー経済学 I ミクロ編【第 3 版】』東洋経済新報社

#### 【参考書】

小川光・西森晃、2015、『公共経済学』中央経済社

#### 【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）、3 回の宿題（40%）、復習問題の回答の提出（10%）によって評価する。

#### 【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問に答えてもらったり、授業内容に即した復習問題を行ったりする。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

#### 【Outline and objectives】

Governments conduct a wide range of economic and other public policies including, for example, the construction of dams and roads, the provision of education services, and the provision of a social security system. While of course there are a large number of areas that are left to the private sector, the question nevertheless is why there are areas in which governments directly and indirectly contribute to the provision of goods and services. This course considers this issue from a microeconomic perspective using welfare analysis.

ECN200CA
<b>経済政策論 B (市ヶ谷開講)</b>
<b>濱秋 純哉</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

政府や中央銀行は、財政政策や金融政策などの「経済政策」を行っているが、どのような目的で、さらには、どのような根拠に基づいて政策を実行しているのだろうか。このような疑問に対して、マクロ経済学の IS-LM 分析の手法を用いて考察する。また、GDP、物価指数、失業率の各種マクロ統計の作成方法とその計測上の課題、及び近年の雇用問題についても検討を行う。

**【到達目標】**

この講義では、受講者各人が経済学の考え方に基づいて、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、各種マクロ統計の作成方法と統計の読み方を理解すること、及び財政政策と金融政策が経済に与える影響についての主体的に考察できるようになることを目指す。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

**【授業の進め方と方法】**

直感的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や最後に復習問題を解く時間を設け、受講者が自分の頭で考える機会も作る。復習問題については、翌週の授業の冒頭で解答の説明と受講者の回答についての講評 (多かった間違いや興味深い回答の紹介など) を行う。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済と私たちの生活
2	データで見る日本経済 1	GDP の概念と作成方法
3	データで見る日本経済 2	物価指数の概念と作成方法
4	データで見る日本経済 3	失業率の概念と作成方法
5	雇用問題 1	摩擦的失業への政策的対応
6	雇用問題 2	最低賃金引き上げの影響
7	雇用問題 3	若年者の雇用問題、「世代効果」への政策的対応
8	IS-LM モデルの構築 1	ケインジアンの変差図、乗数効果
9	IS-LM モデルの構築 2	IS 曲線の導出
10	IS-LM モデルの構築 3	貨幣量の測定とコントロール
11	IS-LM モデルの構築 4	LM 曲線の導出
12	IS-LM モデルの応用 1	財政政策の効果とクラウディング・アウト
13	IS-LM モデルの応用 2	金融政策の効果
14	IS-LM モデルの応用 3	「流動性の罠」の下での財政政策と金融政策の効果

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

本講義を履修するにあたり、経済政策論 A を履修済みの方が望ましい。また、授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

**【テキスト (教科書)】**

N・グレゴリー・マンキュー、2017、『マクロ経済学 I (第 4 版)』東洋経済新報社

**【参考書】**

福田慎一・照山博司、2016、『マクロ経済学・入門 (第 5 版)』有斐閣

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験 (50%)、3 回の宿題 (40%)、復習問題の回答の提出 (10%) によって評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問に答えてもらったり、授業内容に即した復習問題を行ったりする。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

**【Outline and objectives】**

Governments and central banks conduct economic policies such as fiscal policy and monetary policy, but for what purpose and on what basis do they implement such policies? This course considers these questions from a macroeconomic perspective using IS-LM analysis. The course also examines how various macroeconomic statistics such as GDP statistics, price indexes (consumer price indexes and GDP deflators), and unemployment rates are compiled as well as related measurement issues, and moreover, investigates employment issues in recent years.

ECN200CA
<b>国際経済論 A (市ヶ谷開講)</b>
<b>田村 晶子</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】**

国際貿易の基礎理論を講義します。なぜ自由な貿易が望ましいのか、貿易がもたらす利益、関税などの貿易政策が社会全体におよぼす影響を理解し、F T A や E P A などが進む現在の国際貿易体制について考えます。

**【到達目標】**

貿易の基礎理論により、どのように貿易の利益が示せるかを説明できる。貿易政策が、各経済主体に与える影響を説明し、その是非を議論できる。地域貿易協定の是非について、理論に基づき議論できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

パワーポイントを用いて講義します。キーワードや数式、グラフなどを書き込む形の空白のある配布資料を配布します。毎回の授業内容を復習する練習問題を学習支援システムで解き、得点は自動採点でフィードバックされます。次回授業で解答について解説します。

**【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンスと世界貿易の概要
第 2 回	比較優位の理論①	リカードモデルの仮定
第 3 回	比較優位の理論②	貿易後の相対価格と世界供給
第 4 回	比較優位の理論③	貿易の利益と実証研究
第 5 回	資源と貿易①	ヘクシャー・オリーンモデルの仮定
第 6 回	資源と貿易②	貿易による利益と実証研究
第 7 回	グローバル経済の企業	輸出の判断と多国企業
第 8 回	貿易政策のツール①	輸入関税の効果、費用と便益
第 9 回	貿易政策のツール②	輸出補助金の効果
第 10 回	貿易政策のツール③	輸入割当と輸出自主規制の効果
第 11 回	貿易政策の政治経済	自由貿易の進展、WTO
第 12 回	地域貿易協定の効果	F T A が与える影響
第 13 回	貿易政策をめぐる論争	戦略的貿易政策
第 14 回	講義のまとめと質問	講義内容への質問

**【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】**

参考文献を読んで準備学習をする。毎回の授業終了後に練習問題を解き、配付資料で復習をする。準備は 1 時間、復習は 3 時間を目安とします。

**【テキスト (教科書)】**

なし。

**【参考書】**

クルグマン・オブズフェルド・メリッツ (山形浩生、守岡校訳)『クルグマン国際経済学 理論と政策 [原書第 10 版] 上:貿易編』丸善出版、2017 年  
石川城太・椋寛・菊地徹著『国際経済学をつかむ (第 2 版)』有斐閣、2013 年

**【成績評価の方法と基準】**

練習問題 (13 回を予定) (30 %) と、期末に行う定期試験 (70 %)

**【学生の意見等からの気づき】**

進度を気をつけて、学生が理解しているかを確認しながら授業を進めます。

**【学生が準備すべき機器他】**

パワーポイント、授業支援システムを利用します。

**【Outline and objectives】**

Students study the basics of International Trade. Students will comprehend why free trade is desirable, as well as they will learn the effect of trade policy such as tariffs. Then students consider the international trade framework with Free Trade Agreements.

ECN200CA
<b>国際経済論 B (市ヶ谷開講)</b>
<b>田村 晶子</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

国際金融論、国際マクロ経済学の基礎を勉強します。為替レートの決定理論を勉強した上で、為替介入の効果や現在の国際通貨体制の問題について考えます。国際収支表の見方や経常収支と国内経済との関係について理解します。

**【到達目標】**

国際収支表を理解し、経常収支、金融収支の内容を説明できる。為替レートの決定要因から、現在の為替レートの動きを説明できる。為替レートの適正水準を理解する。統一通貨や通貨危機など、国際通貨体制における問題を議論できる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

**【授業の進め方と方法】**

パワーポイントを用いて講義を行います。キーワードや数式グラフなどを自分で書き込む空白のある配布資料を配布します。毎回の授業の練習問題を学習支援システムから出し、自動採点で得点をフィードバックします。次回の授業で解き方を解説し、理解を深めます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	国際収支表の項目	日本の国際収支表の見方
第 2 回	国際収支の記入方法	国際収支表の記入例
第 3 回	開放経済における国民所得恒等式	貯蓄・投資バランス
第 4 回	外国為替市場	外国為替市場のしくみ
第 5 回	外国為替取引の種類	さまざまな外国為替取引
第 6 回	短期為替レート決定①	外国為替市場における需給の一致
第 7 回	短期為替レート決定②	金融政策と為替レート
第 8 回	短期為替レート決定③	先渡為替レートとリスク要因
第 9 回	長期為替レート決定①	絶対的、相対的購買力平価
第 10 回	長期為替レート決定②	実質為替レートと貿易
第 11 回	外国為替介入	外国為替市場介入の効果
第 12 回	最適通貨圏の理論	固定為替レートの範囲
第 13 回	国際金融体制	国際金融における課題
第 14 回	授業のまとめ	授業全体のまとめと質問

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

参考文献を読んで準備学習をする。授業終了後に練習問題を解き、配付資料で復習をする。準備は 1 時間、復習は 3 時間を目安とします。

**【テキスト（教科書）】**

なし

**【参考書】**

クルグマン・オブズフェルド（山形浩生、守岡桜訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策（原書第 10 版）下：金融編』丸善出版、2017 年  
清水順子・大野早苗・松原聖・川崎健太郎著『徹底解説 国際金融』日本評論社、2016 年  
高木信二著「入門国際金融（第 4 版）」日本評論社、2011 年

**【成績評価の方法と基準】**

毎回の授業の練習問題（30 %）と、期末に行う定期試験（70 %）

**【学生の意見等からの気づき】**

パワーポイントの進度に気をつけて、学生の理解度に気を配ります。

**【学生が準備すべき機器他】**

パワーポイントと授業支援システムを利用します。

**【Outline and objectives】**

Students study the basics of International finance and Open Economy Macroeconomics. For International Finance foundation, students study the determination of exchange rates, then consider the effects of the foreign exchange intervention and the problems of monetary systems. For Open Economy Macroeconomics foundation, students learn balance of payments and the relation between current account and domestic economy.

HIS100CA
<b>現代史 A</b>
<b>経済未決定</b>
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

今年は国際連盟発足から 100 年の年です。2020 年の現代史 I では、近代における諸戦争や革命・独立へと帰結する「世界史」と「東アジア史」はどのような特徴を帯びているのかを、「戦争」と「植民地主義」の歴史に焦点をあてて、学んでいきます。

**【到達目標】**

この講義の目標は、①日本社会において広く流布とされている近現代史像を疑う思考力を身につけ、②世界、東アジアと日本の関係史をより豊かに捉え、説明することができるようになることです。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義では最初に近代の諸戦争の特徴をおおまかに分析したうえで、これらの戦争を植民地主義との関わりを考察するアプローチ法とその歴史過程を学んでいきます。なお、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。本授業の開始日は 4 月 22 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の全体像と進め方/学問としての歴史学について学ぶ
第 2 回	概論① 歴史における「戦争」とは	世界史における「戦争」の変化を概観します。
第 3 回	概論② 近現代の「戦争」を規定する「植民地主義」	「戦争」と「植民地主義」との関わりについて考えます。
第 4 回	「植民地戦争」のはじまり	16～18 世紀におけるヨーロッパ諸国の植民地戦争について概観します
第 5 回	同時期の東アジア	文禄・慶長の役の性格について考察します
第 6 回	二重革命の時代の戦争と植民地主義	民主革命・産業革命の時代の植民地戦争（インド・東南アジア）について考察します
第 7 回	東アジアの戦争①	アヘン戦争とその衝撃について考察します
第 8 回	東アジアの戦争②	明治維新後の日本の対外膨張について概観します
第 9 回	帝国主義と東アジア①	日清戦争について三つの視座から考察します
第 10 回	帝国主義と東アジア②	中国の義和団戦争について考察します
第 11 回	帝国主義と東アジア③	日露戦争について三つの視座から考察します
第 12 回	第 1 次世界大戦のなかの「植民地主義」①	第 1 次世界大戦までの植民地主義の歴史を概観します
第 13 回	第 1 次世界大戦のなかの「植民地主義」②	日本の植民地支配と民族運動について考察します
第 14 回	現代史 I まとめ	近代の「戦争」を「植民地主義」との関わりで捉えなおします

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

現代の国際関係に関わる時事問題にも触れながら授業を進めるので、時事問題への関心を深めてほしい。講義では参考文献を必ず示すのでできれば読んでほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

講義時には講義レジュメと参考資料を配布します。

**【参考書】**

講義レジュメにおいて参考文献を適宜紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

春学期の少なくとも前半がオンラインでの開講となったことにもない、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

**【学生の意見等からの気づき】**

内容はやや難だが学びの充実感を重視する、

**【Outline and objectives】**

100 years have passed from the League of Nations start this year. It's learned what kind of feature "world history" and "East Asia history" in which you result to several wars in the modern times, a revolution and independence take on by contemporary history I.

HIS100CA

**現代史 B****経済未決定**

開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

現代史Ⅱは、現代史Ⅰの問題意識を継承して、二つの世界大戦と「戦後」の世界において、「植民地主義と戦争」はいかに形を変えて「継続」していくのかを、「日本と東アジア」を中心に学んでいきます。

**【到達目標】**

この講義の目標は、①日本社会において広く流布とされている近現代史像を疑う思考力を身につけ、②世界、東アジアと日本の関係史をより豊かに捉え、説明することができるようになることです。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

講義は現代史Ⅰにおける「戦争」と「植民地主義」の概念を確認した上で、両者が国際的にどのように展開していくのかを、東アジアのケースを中心に考えていきます。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の全体像・進め方の説明と前期の内容の確認
第2回	概論① 歴史修正主義と歴史学	現代の歴史認識の現状と歴史学について考える。
第3回	戦間期の戦争と植民地主義①	国際法体制の変化と1920年代について考える。
第4回	戦間期の戦争と植民地主義②	世界恐慌と全体主義の1930年代について考える。
第5回	15年戦争① 満州事変	満州事変を三つの視座から再検討します。
第6回	15年戦争② 日中戦争	日中戦争について検討します。
第7回	第2次世界大戦①	第2次世界大戦について概観します
第8回	第2次世界大戦②	アジア太平洋戦争について三つの視座から検討します
第9回	「戦争責任」の展開と「植民地問題」	極東国際軍事裁判の性格を考察します
第10回	複合戦争としての朝鮮戦争	朝鮮戦争について三つの視座から検討します。
第11回	「新植民地主義」と民族独立	戦後アジア・アフリカの民族独立について考察します
第12回	ベトナム戦争の世界史	ベトナム戦争の特徴について考察します。
第13回	現代の戦争へ	1980～90年代の「戦争」について考察します。
第14回	まとめ	現代における「戦争」と「植民地主義」の関わりを捉えなおします

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

現代の国際関係に関わる時事問題にも触れながら授業を進めるので、時事問題への関心を深めてほしい。講義では参考文献を必ず示すのでできれば読んでほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

講義時には講義レジュメと参考資料を配布します。

**【参考書】**

講義レジュメにおいて参考文献を適宜紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

期末試験（70％）+平常点（30％）で成績を判断します。

**【学生の意見等からの気づき】**

内容はやや難だが学びの充実感を重視する、

**【Outline and objectives】**

It's learned about the feature of "war" and "colonialism" in the 1st, the Second World War and the world of "the postwar".

IDN100CA
<b>多摩地域形成論</b>
<b>経済未決定</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

多摩キャンパスを取り巻く地域社会の歴史・文化・政治・経済・社会環境やそこで生きる人々から学び、この地で学生生活を送る固有の意義と、大学や学生の社会的役割について探求する。

**【到達目標】**

近隣地域社会が抱える課題や可能性から学ぶことを通して、法政大学多摩キャンパスの学生としての自分が立っている〈場所〉への理解と認識を深め、その後の主体的学習・活動への手がかりとする。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】**

ディプロマポリシーのうち、「DP9」「DP10」に関連

**【授業の進め方と方法】**

本授業は、2013 年度に開設した「法政大学多摩地域交流センター」が、多摩4学部の教員と協力して実施する、4学部共通の授業である。多様な専門領域の教員によるリレー形式で、近隣地域からのゲスト講師を多く招き、実践的かつ理論的に学ぶ。受け身な態度でなく、自らも当事者とともに地域の課題に向き合い、その解決に共に関わろうとする受講生を期待している。なお、ゲスト講師の都合や授業の展開によって、若干の変更があり得る。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし/No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第1回	導入	この科目をなぜ、どのように学ぶのか
第2回	多摩キャンパス版「法政学」	法政大学の歴史・建学の精神と多摩キャンパスの歴史
第3回	多摩キャンパスと近隣地域(1)	多摩キャンパスで学び近隣自治体で働く卒業生の視点から学ぶ
第4回	多摩キャンパスと近隣地域(2)	多摩キャンパスで学び近隣地域で働く卒業生の視点から学ぶ
第5回	多摩キャンパスと近隣地域(3)	多摩地域のエリアマネジメントを学ぶ
第6回	多摩地域の現代史(1)	多摩地域の住民運動の歴史
第7回	多摩地域の現代史(2)	団地開発とベッドタウンとしての多摩地域の形成
第8回	多摩地域の現代史(3)	多摩の平和運動・子育て・自治体づくり
第9回	これからの多摩地域の形成(1)	超高齢化によるコミュニティの持続可能性の危機
第10回	これからの多摩地域の形成(2)	新たなつながりを創り出すコミュニティビジネス
第11回	これからの多摩地域の形成(3)	地域の資源をエネルギーに
第12回	これからの多摩地域の形成(4)	コミュニティ文化とスポーツ
第13回	まとめ	支え合いの地域社会と居場所づくり
第14回	これからの多摩地域の形成(5)	ふりかえりのワークショップ：グループ・ディスカッション

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

必要に応じて次回の授業内容の関連資料を紹介し、事前学習を課すことがある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

必要に応じて適宜紹介する。

**【参考書】**

授業時に適宜紹介する。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点（30％程度）とレポート（70％程度）で評価する。

**【学生の意見等からの気づき】**

授業内でのアンケートから、「多摩地域を身近に感じられるようになった・地域での活動への関心が高まった」といった感想が寄せられており、今年度も更なる内容の充実を図っていく。

**【学生が準備すべき機器他】**

- ・授業支援システムを利用する。
- ・本授業の内容は、内部での記録作成のためビデオ録画を行う予定である。

## 【その他の重要事項】

○講義の目的・運営上の必要から 700 人までに受講を制限する科目とする。春学期の受講登録手続きより前にウェブ抽選を行い、当選したものだけが受講登録を行うことができる。

○本授業は先述のように、「多摩地域交流センター」と関連した科目であり、学生による自主活動に向けたきっかけづくり＝媒介的な学習の場となることを目指している。授業内容に刺激、触発を受けた受講生は、積極的に同センター（総合棟 2 階）を訪ね、フィールドワークや自主活動のきっかけづくり結び付けて欲しい。

## 【Outline and objectives】

The purpose of this class is to make students learn about the history, culture, politics, economy, social environment and people's life in the area surrounding the Tama Campus, and explore the peculiar significance of living as university students and their social role in this region.

CAR100CA
キャリアデザイン論
大八木 智一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、①大学での学び方や過ごし方、②社会人として活躍していくための在学中の準備、③働くことおよび適職を選択していくための基本的な考え方、④多摩地域で活躍している企業の視点、⑤社会で既に活躍している多摩キャンパスの OB・OG から各自のキャリア形成に関するヒントを学ぶ、という一連の学習を通じて、各自が自律的に自らのキャリアを切り開いていくための基礎的力を養うことです。

## 【到達目標】

- ①講義の聴講、多摩で活動する企業人や社会で活躍する OB・OG の話を聞きながら、自分自身の基本的なキャリア形成戦略を具体的にイメージできるようになる。
- ②自分自身の基本的なキャリア形成戦略をもとに、学生時代における具体的な行動計画を考え、必要に応じて自らの行動様式を自律的に変革できるようになる。
- ③各自が自律的に自らのキャリアを切り開いていくための基礎的な視点と力が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP9」「DP10」に関連

## 【授業の進め方と方法】

【本科目はオンデマンド型での授業実施です】

この科目は教室での対面授業ではありません。授業が予定されている日程から一定の期間内（1 週間程度）の内で、各自が自由に時間を確保して、大学の「学習支援システム」にアクセスして授業を受講するシステムによって行われます。学習支援システムの利用法については別途案内があるので、各自利用方法について学んでおいてください。また、各回の課題レポートについては、基本的に次々回の授業資料においてフィードバックしていきます。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

## 【授業計画】

## 春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本科目の構成とねらい、受講上の注意について解説するとともに、キャリアデザインとは何かについて学ぶ。
2	大学での学び方・大学時代の過ごし方	法政大学での学び方、大学の有効活用する方法、学生時代の有意義な過ごし方やぶつかるかもしれない課題について学ぶ。
3	社会人として成長するための準備①「インターンシップ」	大学に在学しながら企業活動の経験を積める貴重な機会であるインターンシップへの参加方法について学ぶ。（キャリアセンター）
4	社会人として成長するための準備②「就職への準備活動」	大学在学中に就職に向けた準備活動をどのように進めていったらよいかについて学ぶ。（キャリアセンター）
5	働くことについて考える ①「働くことの意味」	働くとはどういう意味があるのか？これまでの労働観にも触れながら、現代における働く意味を考えていく。
6	働くことについて考える ②「チャンスを広げる行動様式」	日常的な偶然のできごとを自分にとってチャンスとして生かしていくための行動様式の変革方法について学ぶ。
7	働くことについて考える ③「適職選択の戦略」	キャリア選択のための基礎理論を学んだうえで、これまでの研究や調査から好ましい適職探しの考え方について学ぶ。
8	社会で活躍する先輩に学ぶ①	社会で活躍する経済学部出身の先輩から大学での学びかた、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成について学ぶ。
9	社会で活躍する先輩に学ぶ②	社会で活躍する社会学部出身の先輩から大学での学びかた、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成について学ぶ。
10	社会で活躍する先輩に学ぶ③	社会で活躍する現代福祉学部出身の先輩から大学での学びかた、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成について学ぶ。

11	社会で活躍する先輩に学ぶ④	社会で活躍するスポーツ健康学部出身の先輩から大学での学びかた、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成について学ぶ。
12	多摩で活躍する企業人に聞く①	多摩地域で活躍する企業の方に、多摩地域での企業活動の特徴、法政大学多摩キャンパスの学生に対する期待を伺う。
13	多摩で活躍する企業人に聞く②	多摩地域で活躍する企業の方に、多摩地域での企業活動の特徴、法政大学多摩キャンパスの学生に対する期待を伺う。
14	多摩キャンパス OB・OG 座談会	先輩たちが其々辿ってきた生き方から自らのキャリアをデザインしていくためのヒントを学ぶ。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、各 2 時間を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

#### 【テキスト（教科書）】

ありません。

#### 【参考書】

授業の中で必要に応じて適宜提示します。

#### 【成績評価の方法と基準】

成績は毎回提出を求める課題レポート（300 字程度）の合計によって評価します（100 %）。各回の評価では「レポートの内容」によって評価を行います。課題は毎回の授業の中で指示します。授業 1 回あたりの課題レポートの作業期間（提出締め切りまでの期間）は 1 週間です。単位取得には 70 % 以上の授業参加（課題レポートの提出）が不可欠です。

#### 【学生の意見等からの気づき】

より分かりやすい授業資料の提供に努めます。

#### 【学生が準備すべき機器他】

各自、できるだけ学習がしやすい環境の確保に努めてください。スマートフォンではなく、できるだけ PC またはタブレットでの学習を推奨します。

#### 【その他の重要事項】

質問や連絡事項等があれば、教員直通のメールアドレスで受け付けます。連絡可能なアドレスは、第 1 回授業時に提示します。

#### 【受講上の注意】

月曜 1 限と月曜 3 限は同内容での授業実施になります。

#### 【Outline and objectives】

Under the theme of "designing" one's carrier, we will learn how to connect academic study at the university with working in the real world, within various backgrounds and situations (e.g. private firms, government agencies, and not-for-profit organizations). The course will focus, but not limited to, the following topics: legal knowledge related to working, how to study and understand about a company, communication skills in workplace, work-life balance, diversity, working within local communities, and so on. Each session will be given by lecturers with experience/expertise in the topics.

CAR100CA
キャリアデザイン論
大八木 智一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、①大学での学び方や過ごし方、②社会人として活躍していくための在学中の準備、③働くことおよび適職を選択していくための基本的な考え方、④多摩地域で活躍している企業の視点、⑤社会で既に活躍している多摩キャンパスの OB・OG から各自のキャリア形成に関するヒントを学ぶ、という一連の学習を通じて、各自が自立的に自らのキャリアを切り開いていくための基礎力を養うことです。

#### 【到達目標】

- ①講義の聴講、多摩で活動する企業人や社会で活躍する OB・OG の話を聞きながら、自分自身の基本的なキャリア形成戦略を具体的にイメージできるようになる。
- ②自分自身の基本的なキャリア形成戦略をもとに、学生時代における具体的な行動計画を考え、必要に応じて自らの行動様式を自立的に変革できるようになる。
- ③各自が自立的に自らのキャリアを切り開いていくための基礎的な視点と力 that 身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP9」「DP10」に関連

#### 【授業の進め方と方法】

【本科目はオンデマンド型での授業実施です】

この科目は教室での対面授業ではありません。授業が予定されている日程から一定の期間内（1 週間程度）の内で、各自が自由に時間を確保して、大学の「学習支援システム」にアクセスして授業を受講するシステムによって行われます。学習支援システムの利用法については別途案内があるので、各自利用方法について学んでおいてください。また、各回の課題レポートについては、基本的に次々回の授業資料においてフィードバックしていきます。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

##### 春学期

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本科目の構成とねらい、受講上の注意について解説するとともに、キャリアデザインとは何かについて学ぶ。
2	大学での学び方・大学時代の過ごし方	法政大学での学び方、大学の有効活用する方法、学生時代の有意義な過ごし方やぶつかるかもしれない課題について学ぶ。
3	社会人として成長するための準備①「インターンシップ」	大学に在学しながら企業活動の経験を積める貴重な機会であるインターンシップへの参加方法について学ぶ。（キャリアセンター）
4	社会人として成長するための準備②「就職への準備活動」	大学在学中に就職に向けた準備活動をどのように進めていったらよいかについて学ぶ。（キャリアセンター）
5	働くことについて考える ①「働くことの意味」	働くとはどういう意味があるのか？これまでの労働観にも触れながら、現代における働く意味を考えていく。
6	働くことについて考える ②「チャンスを広げる行動様式」	日常的な偶然のできごとを自分にとってチャンスとして生かしていくための行動様式の変革方法について学ぶ。
7	働くことについて考える ③「適職選択の戦略」	キャリア選択のための基礎理論を学んだうえで、これまでの研究や調査から好ましい適職探しの考え方について学ぶ。
8	社会で活躍する先輩に学ぶ①	社会で活躍する経済学部出身の先輩から大学での学びかた、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成について学ぶ。
9	社会で活躍する先輩に学ぶ②	社会で活躍する社会学部出身の先輩から大学での学びかた、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成について学ぶ。
10	社会で活躍する先輩に学ぶ③	社会で活躍する現代福祉学部出身の先輩から大学での学びかた、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成について学ぶ。

11	社会で活躍する先輩に学ぶ④	社会で活躍するスポーツ健康学部出身の先輩から大学での学びかた、過ごし方、就職に向けた準備、キャリア形成について学ぶ。
12	多摩で活躍する企業人に聞く①	多摩地域で活躍する企業の方に、多摩地域での企業活動の特徴、法政大学多摩キャンパスの学生に対する期待を伺う。
13	多摩で活躍する企業人に聞く②	多摩地域で活躍する企業の方に、多摩地域での企業活動の特徴、法政大学多摩キャンパスの学生に対する期待を伺う。
14	多摩キャンパス OB・OG 座談会	先輩たちが其々辿ってきた生き方から自らのキャリアをデザインしていくためのヒントを学ぶ。

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、各 2 時間を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

**【テキスト（教科書）】**

ありません。

**【参考書】**

授業の中で必要に応じて適宜提示します。

**【成績評価の方法と基準】**

成績は毎回提出を求める課題レポート（300 字程度）の合計によって評価します（100 %）。各回の評価では「レポートの内容」によって評価を行います。課題は毎回の授業の中で指示します。授業 1 回あたりの課題レポートの作業期間（提出締め切りまでの期間）は 1 週間です。単位取得には 70 % 以上の授業参加（課題レポートの提出）が不可欠です。

**【学生の意見等からの気づき】**

より分かりやすい授業資料の提供に努めます。

**【学生が準備すべき機器他】**

各自、できるだけ学習がしやすい環境の確保に努めてください。スマートフォンではなく、できるだけ PC またはタブレットでの学習を推奨します。

**【その他の重要事項】**

質問や連絡事項等があれば、教員直通のメールアドレスで受け付けます。連絡可能なアドレスは、第 1 回授業時に提示します。

**【受講上の注意】**

月曜 1 限と月曜 3 限は同内容での授業実施になります。

**【Outline and objectives】**

Under the theme of "designing" one's carrier, we will learn how to connect academic study at the university with working in the real world, within various backgrounds and situations (e.g. private firms, government agencies, and not-for-profit organizations). The course will focus, but not limited to, the following topics: legal knowledge related to working, how to study and understand about a company, communication skills in workplace, work-life balance, diversity, working within local communities, and so on. Each session will be given by lecturers with experience/expertise in the topics.

PHL100CA

**現代社会と宗教 A****経済未決定**

開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

普段、宗教とは無関係な生活をしているように思えても、実は私たちは多くの宗教的な意味とともに暮らしていることに気づく。宗教文化に関する基礎的な知識を習得した上で、宗教を見つめる視点を構築し、社会との関わりのなかに存在する宗教的現象を客観的に捉えなおそう。

**【到達目標】**

主要な宗教伝統に関して、それぞれの歴史的経緯や特徴などの基礎的な知識を身につけることができる。そして、それらの知識をもとに、社会にみられる多様な宗教現象に気づき、身のまわりの宗教現象を客観的に把握し、理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

**【授業の進め方と方法】**

教材資料を配信する形式でのオンライン授業を行います。本授業の開始日は 4 月 28 日です。①教材は学習支援システムにアップします。シラバスにある毎回の授業毎ではなく、大きなテーマでまとめた教材の場合もあります。②テーマ毎（内容によっては、テーマの項目毎）確認の課題または小テストを行います。③ネット通信に関して学生負担を減らす対策が取られた後に、受講状況を考慮しながら録音音声オンデマンド型でテーマ毎にアップしたいと考えています。この場合はその都度 Web 掲示板にて通知します。④中間レポートを学期半ばに提出します。課題図書は参考文献（Web シラバス）に掲げた『グローバル現代社会論』です。生協でも取り扱いがあります。

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「宗教」という言葉・宗教と社会との関わり
2	主要な宗教伝統 1	唯一神信仰の大きな流れ・はじまりとしてのユダヤ教
3	主要な宗教伝統 2	ユダヤ教における新宗教運動としてのキリスト教
4	主要な宗教伝統 3	イスラームにおける共同体の意味
5	主要な宗教伝統 4	現代におけるユダヤ教・キリスト教・イスラーム
6	アジアにおける仏教の展開と変容 1	インドにおける新宗教運動としての仏教
7	アジアにおける仏教の展開と変容 2	仏教の大きな二つの流れ
8	アジアにおける仏教の展開と変容 3	日本における仏教受容・神仏習合
9	近代以降の日本の宗教状況 1	近代宗教行政政策の余波
10	近代以降の日本の宗教状況 2	神道の「解体」とその後
11	近代以降の日本の宗教状況 3	儀礼の変容と消費社会・新宗教運動の社会的背景
12	社会のなかの宗教 1	宗教意識の国際比較
13	社会のなかの宗教 2	世俗化論と宗教復興
14	試験	授業内容理解の確認

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

取り扱う宗教の基礎知識に関しては、日本史や世界史、倫理社会の参考書等で確認しておくといよいでしょう。新聞の中から宗教に関する記事を取り上げて読むことでさらに理解が深められます。学習支援システムにアップされる教材資料には目を通し、紹介された参考文献も関心を持って読んでみてください。また、アップされた教材を読んで自分なりにまとめてノートに書き出してみるのもいいかもしれません。授業の内容に関する課題や小テストもありますので、学習支援システムをチェックして提出を逃すことのないようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

教科書は使用しません。

**【参考書】**

世界宗教百科事典編集委員会編『世界宗教百科事典』丸善出版 2012 年  
山田真茂留編『グローバル現代社会論』文真堂 2018 年  
各テーマに関係する参考文献は配布資料にて適宜紹介します。

**【成績評価の方法と基準】**

①学習支援システム上で出される課題や小テストの結果 40 %、②中間レポートの内容 30 %、③期末試験の成績を 30 %とする割合で総合的に判断・評価します。教室での期末試験が不可能な場合は学習支援システム上で行うことにします。なお、受講状態等により期末試験の形式に関しては変更する場合があります。その際には事前に学習支援システム上で通知します。

**【学生の意見等からの気づき】**

内容を検討し適宜改善に努めていきたいと思っております。

**【Outline and objectives】**

This course introduces the foundations of religious studies from a sociological point of view while showing various religious cultures around the world.

LANd200CA
ドイツ語中級 A
経済未決定
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

**【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**

ドイツ語の会話

**【到達目標】**

ドイツ語で日常生活に必要な簡単な会話ができることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

**【授業の進め方と方法】**

ドイツ語の会話、発音、リスニングなどの練習を通じて習得する

**【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】**

なし / No

**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

**【授業計画】**

回	テーマ	内容
第 1 回	Einführung	オリエンテーション
第 2 回	Die Zeitmaschine des Grossvaters	(2 格, 西暦の読み方, 序数)
第 3 回	Die Zeitmaschine des Grossvaters	(2 格, 西暦の読み方, 序数)
第 4 回	Mein Leben	(動詞の 3 基本形, 過去人称変化, 副文の構造)
第 5 回	Mein Leben	(動詞の 3 基本形, 過去人称変化, 副文の構造)
第 6 回	Ich habe meine Tasche verloren.	(形容詞の格変化, 身体と衣類の表現)
第 7 回	Ich habe meine Tasche verloren.	(形容詞の格変化, 身体と衣類の表現)
第 8 回	Die schoensten Staedte in Japan	(形容詞の比較変化, 比較級・最上級の用法, 2 格をとる前置詞)
第 9 回	Die schoensten Staedte in Japan	(形容詞の比較変化, 比較級・最上級の用法, 2 格をとる前置詞)
第 10 回	Goro ist krank.	(再帰代名詞, 再帰動詞 1, 非人称の表現, 体調・状態の表現 1, 体調・状態の表現 2)
第 11 回	Goro ist krank.	(再帰代名詞, 再帰動詞 1, 非人称の表現, 体調・状態の表現 1, 体調・状態の表現 2)
第 12 回	Hast du Lust mitzukommen?	(zu 不定句 1, 再帰動詞 2, 合意形成)
第 13 回	Hast du Lust mitzukommen?	(zu 不定句 1, 再帰動詞 2, 合意形成)
第 14 回	Pruefung	試験

**【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】**

宿題と毎回の授業で習う語彙の復習。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

**【テキスト（教科書）】**

Modelle 2 問題発見のドイツ語  
三修社

**【参考書】**

家での学習には独和辞典が必要である（授業時の持参は不要）。

**【成績評価の方法と基準】**

平常点 (30%)  
小テスト (30%)  
期末試験 (40%)

**【学生の意見等からの気づき】**

新規担当につき該当なし。

**【Outline and objectives】**

German conversation

LANd200CA
ドイツ語中級 B
経済未決定
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の会話

## 【到達目標】

ドイツ語で日常生活に必要な簡単な会話ができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

ドイツ語の会話、発音、リスニングなどの練習を通じて習得する授業。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Wiederholung	復習
第 2 回	Herr Wiesmann in Japan	(再帰動詞 3, zu 不定句 2)
第 3 回	Herr Wiesmann in Japan	(再帰動詞 3, zu 不定句 2)
第 4 回	Ein Bericht vom Campus	(受動文の基本構文, werden の用法, ……のひとり, ……のひとつ, Student 型の男性名詞)
第 5 回	Ein Bericht vom Campus	(受動文の基本構文, werden の用法, ……のひとり, ……のひとつ, Student 型の男性名詞)
第 6 回	Ich will eine Frau heiraten, die ich wirklich liebe.	(関係代名詞の原則, 形容詞の名詞化, es geht um …, Was fuer ein…?)
第 7 回	Ich will eine Frau heiraten, die ich wirklich liebe.	(関係代名詞の原則, 形容詞の名詞化, es geht um …, Was fuer ein…?)
第 8 回	Der Drucker ist kaputt.	(接続法 II 式, 外交的用法: 控えめで丁寧な表現, 仮主語の es, zu 不定句の入れお色な用法, 使役助動詞 lassen)
第 9 回	Der Drucker ist kaputt.	(接続法 II 式, 外交的用法: 控えめで丁寧な表現, 仮主語の es, zu 不定句の入れお色な用法, 使役助動詞 lassen)
第 10 回	Was wuerden Sie machen?	(接続法 II 式による非現実の表現, 過去を振り返っての非現実の話: 完了形, 「～だったらなあ」という願望を表す場合, 不定関係代名詞の was と wer)
第 11 回	Was wuerden Sie machen?	(接続法 II 式による非現実の表現, 過去を振り返っての非現実の話: 完了形, 「～だったらなあ」という願望を表す場合, 不定関係代名詞の was と wer)
第 12 回	Was haeltst du davon?	(意見を聞く・述べる, 副文を用いた表現)
第 13 回	Was haeltst du davon?	(意見を聞く・述べる, 副文を用いた表現)
第 14 回	Pruefung	試験

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題と毎回の授業で習う語彙の復習。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Modelle 2 問題発見のドイツ語三修社

## 【参考書】

家での学習には独和辞典が必要である（授業時の持参は不要）。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)  
小テスト (30%)  
期末試験 (40%)

## 【学生の意見等からの気づき】

新規担当につき該当なし。

## 【Outline and objectives】

German conversation

LANd300CA
ドイツ語上級 I A
経済未決定
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の会話・口語表現

## 【到達目標】

一般的な会話、簡単な説明、報告に関連した口頭による表現やその聞き取りの練習をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

上記の目標に応じた口頭による表現やリスニングの練習を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Einführung	オリエンテーション
第 2 回	Goro will nach Deutschland fahren	助動詞の復習 ほか
第 3 回	Goro will nach Deutschland fahren	助動詞の復習 ほか
第 4 回	Anmeldung zum Sprachkurs	空間の表現 ほか
第 5 回	Anmeldung zum Sprachkurs	空間の表現 ほか
第 6 回	Im Studentenwohnheim	複合名詞 ほか
第 7 回	Im Studentenwohnheim	複合名詞 ほか
第 8 回	Wie waere es, wenn du am Samstag zu uns kommst?	接続法 II 式 ほか
第 9 回	Wie waere es, wenn du am Samstag zu uns kommst?	接続法 II 式 ほか
第 10 回	Sind die Japaner Buddhisten?	状態受動 ほか
第 11 回	Sind die Japaner Buddhisten?	状態受動 ほか
第 12 回	Im Biergarten	接続法 II 式 ほか
第 13 回	Im Biergarten	接続法 II 式 ほか
第 14 回	Pruefung	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で習うドイツ語の語彙を復習する必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

平高史也, Andreas Riessland, 木村護郎クリストフ, 薬谷郁美 (執筆協力: 太田達也, Marco Raindl) (2006): 『Modelle 3 (問題発見のドイツ語 3)』三修社

## 【参考書】

家での学習には独和辞典が必要である（授業時の持参は不要）。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)  
小テスト (30%)  
期末試験 (40%)

## 【学生の意見等からの気づき】

新規担当につき該当なし。

## 【Outline and objectives】

German conversation

LANd300CA
ドイツ語上級 I B
経済未決定
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の会話・口語表現

## 【到達目標】

一般的な会話、簡単な説明、報告に関連した口頭による表現やその聞き取りの練習をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

上記の目標に応じた口頭による表現やリスニングの練習を行う。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Wiederholung	復習
第 2 回	Der oeffentliche Verkehr in Deutschland	動詞の名詞化 ほか
第 3 回	Der oeffentliche Verkehr in Deutschland	動詞の名詞化 ほか
第 4 回	Mein Rucksack ist gestohlen worden	受動の助動詞 werden の現在完了 ほか
第 5 回	Mein Rucksack ist gestohlen worden	受動の助動詞 werden の現在完了 ほか
第 6 回	Kennen Sie Bamberg?	好みや印象を伝える表現 ほか
第 7 回	Kennen Sie Bamberg?	好みや印象を伝える表現ほか
第 8 回	Der sechsjaehrige Autofahrer	接続法 I 式 ほか
第 9 回	Der sechsjaehrige Autofahrer	接続法 I 式 ほか
第 10 回	Schweigen ist Gold?	心態詞 ほか
第 11 回	Schweigen ist Gold?	心態詞 ほか
第 12 回	Windkraftwerke	話法の助動詞を使った受動文 ほか
第 13 回	Windkraftwerke	話法の助動詞を使った受動文 ほか
第 14 回	Pruefung	試験・まとめと解説

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で習うドイツ語の語彙を復習する必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

平高史也, Andreas Riessland, 木村護郎クリストフ, 藁谷郁美（執筆協力：太田達也, Marco Raindl）(2006)：『Modelle 3（問題発見のドイツ語 3）』三修社

## 【参考書】

家での学習には独和辞典が必要である（授業時の持参は不要）。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)  
小テスト (30%)  
期末試験 (40%)

## 【学生の意見等からの気づき】

新規担当につき該当なし。

## 【Outline and objectives】

German conversation

LANd300CA
ドイツ語上級 II A
経済未決定
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の読書と作文

## 【到達目標】

実際の文章にふれ、読む力と書く力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

この授業では言語学習における 2 つの重要なスキルである「読む」と「書く」を組み合わせて扱います。毎週、授業ではドイツのさまざまなアクチュアルなテーマに関するテキストを読みます。そして、自宅での学習でそれについての意見やコメントを書きます。教員はその作文を添削して、より良いドイツ語を書くにはどうしたらよいかについて、アドバイスをします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	Einführung	オリエンテーション
第 2 回	Familie und Freunde	Freunde und Kollegen
第 3 回	Menschen und Orte	König Ludwig II.
第 4 回	Menschen und Orte	Drei berühmte Kaffeehäuser
第 5 回	Kleidung und Aussehen	Mode von fünf Generationen
第 6 回	Kleidung und Aussehen	Schönheiten aus Deutschland
第 7 回	Gesundheit	MEDIZIN? Ja, aber NATÜRLICH!
第 8 回	Gesundheit	Lachen ist gesund
第 9 回	Essen und Trinken	Unser tägliches Brot
第 10 回	Essen und Trinken	Sund die Deutschen Bierweltmeister?
第 11 回	Schule und Ausbildung	Als Gast Schüler in Deutschland
第 12 回	Schule und Ausbildung	Das duale Ausbildungssystem
第 13 回	Arbeit und Beruf	Sonntag: Ruhe- oder Werktag
第 14 回	Arbeit und Beruf	Was am Arbeitsplatz wichtig ist

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の具体的な内容についての簡単な文章の執筆。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Zwischendurch mal ... Landeskunde, Hueber

## 【参考書】

和独辞書が必要である。常に授業へ持参すること。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)  
小テスト (30%)  
期末試験 (40%)

## 【学生の意見等からの気づき】

新規担当につき該当なし。

## 【Outline and objectives】

German reading and writing skills

LANd300CA
ドイツ語上級Ⅱ B
経済未決定
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の読書と作文

## 【到達目標】

実際の文章にふれ、読む力と書く力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

この授業では言語学習における2つの重要なスキルである「読む」と「書く」を組み合わせて扱います。毎週、授業ではドイツのさまざまなアクチュアルなテーマに関するテキストを読みます。そして、自宅での学習でそれについての意見やコメントを書きます。教員はその作文を添削して、より良いドイツ語を書くにはどうしたらよいかについて、アドバイスをします。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	Konsum	Die Deutschen und ihr Geld
第2回	Konsum	Geld im Alltag
第3回	Natur und Umwelt	Wind im Aufwind
第4回	Natur und Umwelt	Umweltpolitik in Deutschland
第5回	Reisen	Die Deutschen und ihr Urlaub
第6回	Reisen	Berlin
第7回	Verkehr	VW Golf
第8回	Verkehr	Frankfurt Airport
第9回	Freizeit und Sport	Wo engagieren sich Jugendliche in ihrer Freizeit
第10回	Freizeit und Sport	Eine Nation greift zum Schläger
第11回	Feste	Feste feiern - rund ums Jahr
第12回	Feste	Die fünfte Jahreszeit
第13回	Medien	Bravo, eine deutsche Jugendzeitschrift
第14回	Medien	Made in Germany

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業での具体的な内容についての簡単な文章の執筆。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

## 【テキスト（教科書）】

Zwischendurch mal ... Landeskunde, Hueber

## 【参考書】

和独辞書が必要である。常に授業へ持参すること。

## 【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)  
小テスト (30%)  
期末試験 (40%)

## 【学生の意見等からの気づき】

新規担当につき該当なし。

## 【Outline and objectives】

German reading and writing skills

LANj300CA
特別講義（ビジネス日本語）
村上 佳恵
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

## 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、日本語を使用して就職活動をしたり働いたりする際に必要な日本語を学ぶ。言語表現だけではなく、どのような場面で誰に何を言うのか、または言わないのかといった文化的背景も学び、異文化対応力を伸ばすことも目標とする。

## 【到達目標】

- ①場面と相手に応じて、待遇表現を適切に使いこなせる。
- ②履歴書等、就職活動の際に必要な書類を日本語で作成できる。
- ③メールや報告書等、仕事をする際に必要な書類を日本語で作成できる。
- ④異文化に適応することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

## 【授業の進め方と方法】

本科目は、ZOOMを使用しオンラインで行う。受講生は、文書作成や聴解問題等の事前課題に取り組んだうえで授業に参加する。授業では、受講生同士で課題を検討したり、会話の練習を行ったりする。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

## 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

## 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

## 【授業計画】

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション／報告書の書き方を学ぶ。
第2回	エントリーシートの作成(1)	履歴書を作成する。
第3回	エントリーシートの作成(2)	自己PR文を作成する。
第4回	面接(1)	志望動機を書く。
第5回	面接(2)	グループ面接の練習をする。
第6回	面接(3)	個人面接の練習をする。
第7回	電話応対	グループ討論の練習をする。
第8回	異文化摩擦のケース学習	電話応対の練習をする。
第9回	社内での会話	異文化摩擦の事例を読み解決策を考える。
第10回	社内のビジネスメール	確認・報告の仕方を学ぶ。
第11回	社外のビジネスメール	社内宛てのメールを書く。
第12回	会議(1)	社外宛てのメールを書く。
第13回	会議(2)	会議の内容を理解する。
第14回	会議(3)	分析結果を話す。
		プレゼンテーションをする。

## 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。受講生は、課題の文書作成に取り組む。

## 【テキスト（教科書）】

『課題達成のプロセスで学ぶビジネスコミュニケーション（改訂新版）』近藤彩・品田潤子・金孝卿・内海美也子（2018）ココ出版（2,400円税抜）

## 【参考書】

『日本語ビジネス文書マニュアル』奥村真希他（2007）アスク（1,500円税抜）

## 【成績評価の方法と基準】

平常点25%、課題等提出物60%、定期テスト15%

## 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

## 【Outline and objectives】

On this course you will learn the Japanese you need to job-hunt or work. We will discuss how to communicate with people who have different cultures.

LANj300CA
<b>特別講義（ビジネス日本語）</b>
<b>村上 佳恵</b>
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

#### 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、日本語を使用して就職活動をしたり働いたりする際に必要な日本語を学ぶ。言語表現だけでなく、どのような場面で誰に何を言うのか、または言わないのかといった文化的背景も学び、異文化対応力を伸ばすことも目標とする。

#### 【到達目標】

- ①場面と相手に応じて、待遇表現を適切に使いこなせる。
- ②履歴書等、就職活動の際に必要な書類を日本語で作成できる。
- ③メールや報告書等、仕事をする際に必要な書類を日本語で作成できる。
- ④異文化に適応することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

#### 【授業の進め方と方法】

本科目は、ZOOM を使用しオンラインで行う。受講生は、文書作成や聴解問題等の事前課題に取り組んだうえで授業に参加する。授業では、受講生同士で課題を検討したり、会話の練習を行ったりする。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

#### 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

#### 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

#### 【授業計画】

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーション／報告書の書き方を学ぶ。
第 2 回	エントリーシートの作成 (1)	履歴書を作成する。
第 3 回	エントリーシートの作成 (2)	自己 PR 文を作成する。 志望動機を書く。
第 4 回	面接 (1)	グループ面接の練習をする。
第 5 回	面接 (2)	個人面接の練習をする。
第 6 回	面接 (3)	グループ討論の練習をする。
第 7 回	電話応対	電話応対の練習をする。
第 8 回	異文化摩擦のケース学習	異文化摩擦の事例を読み解決策を考える。
第 9 回	社内での会話	確認・報告の仕方を学ぶ。
第 10 回	社内のビジネスメール	社内宛でのメールを書く。
第 11 回	社外のビジネスメール	社外宛でのメールを書く。
第 12 回	会議 (1)	会議の内容を理解する。
第 13 回	会議 (2)	分析結果を話す。
第 14 回	会議 (3)	プレゼンテーションをする。

#### 【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。受講生は、課題の文書作成に取り組む。

#### 【テキスト（教科書）】

『課題達成のプロセスで学ぶビジネスコミュニケーション〈改訂新版〉』近藤彩・品田潤子・金孝卿・内海美也子 (2018) ココ出版 (2,400 円 税抜)

#### 【参考書】

『日本語ビジネス文書マニュアル』奥村真希他 (2007) アスク (1,500 円 税抜)

#### 【成績評価の方法と基準】

平常点 25 %、課題等提出物 60 %、定期テスト 15 %

#### 【学生の意見等からの気づき】

特になし。

#### 【Outline and objectives】

On this course you will learn the Japanese you need to job-hunt or work. We will discuss how to communicate with people who have different cultures.